

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第326集

# 上 増 田 島 遺 跡 下 増 田 常 木 遺 跡

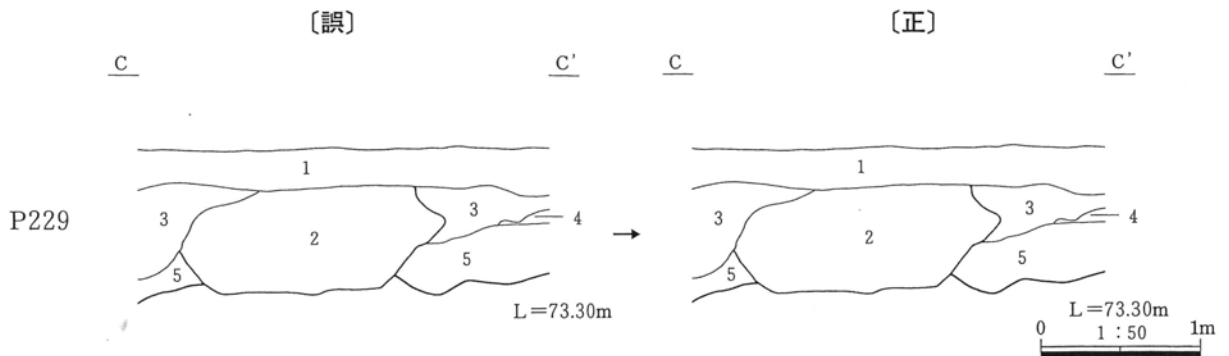
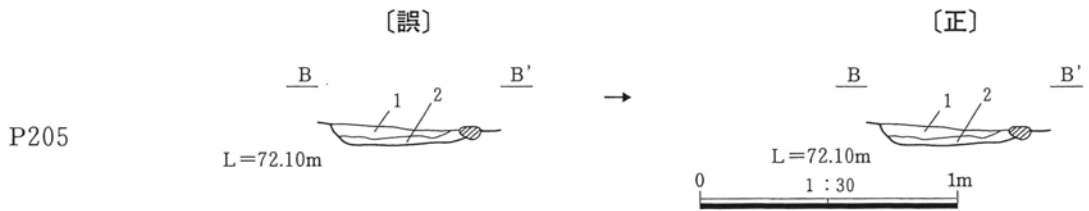
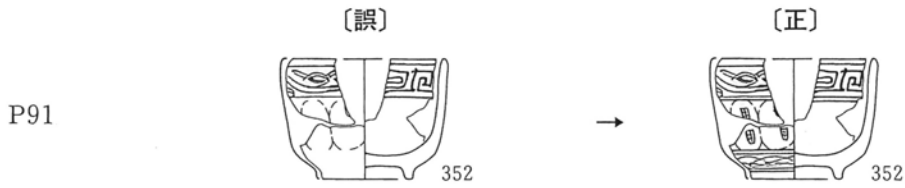
北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

2 0 0 4

日 本 道 路 公 団  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



正誤表



P278 L6

〔誤〕 まいまいず井戸と共通の特徴を持つ。「まいまいず

↓

〔正〕 まいまいず井戸と共通の特徴を持つ。  
まいまいず井戸は武蔵野台地とその周辺に多く見



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第326集

# 上 増 田 島 遺 跡 下 増 田 常 木 遺 跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

2 0 0 4

日 本 道 路 公 団  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団





下増田常木遺跡遠景(西から) 荒砥川を越えて下増田越渡遺跡へと続く



301



346

上増田島遺跡出土龍泉窯系青磁  
島遺跡ではこの他にも、土器・  
瓦・石塔など多くの中世遺物が  
出土している。



379



393



417

### 上増田島遺跡出土の陶磁器に記された文字



244



081



258



339



254



251



216



405

### 文字による焼継ぎ印

同じ筆跡で「増田」と読めるものが複数あり、同時に同じ焼継ぎ師に依頼したのであろう。他に数を記したものがあり、預かった個体番号を表していると考えられる。



347

磁器碗の見込みに釘書きで記した屋号



057

### すり鉢片口部に施された刻印

この堺産すり鉢は18世紀前半に位置づけられる。

刻印は類例より扇に「上長」か。



# 序

北関東自動車道は、本県高崎市上滝の関越自動車道から分岐し、茨城県ひたちなか市に至る延長約150kmの高速自動車道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されております。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立って、平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われましたが、当事業団ではそのうち、31の遺跡の発掘調査を担当しました。また、それらの遺跡の整理事業は平成10年度から実施しており、本書『上増田島遺跡 下増田常木遺跡』は、その発掘調査報告書第22集として刊行するものです。

本遺跡は、前橋市上増田・下増田両町内に所在し、弥生時代から近世にわたる遺構や遺物が発見されました。特に注目されるのは、上増田島遺跡において多量の中近世遺物、近世の屋敷に伴う溝や井戸が、下増田常木遺跡において弥生時代中期から古墳時代後期の住居及び遺物が発見された事です。今回の調査で明らかになった事実は、地域の歴史を明らかにする上で大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査担当者、作業員及び整理事務担当者、整理補助員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成16年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 小野 宇三郎



## 例 言

1. 本書は北関東自動車道(高崎～伊勢崎)に伴う、上増田島遺跡・下増田常木遺跡の発掘調査報告書である。
2. 上増田島遺跡は前橋市上増田町681・682・697・699・700・702・703番地、下増田町1455-1・1455-2・1463-1・1463-2・1474-1・1474-2番地に、下増田常木遺跡は前橋市下増田町1541・1542・1545・1546・1548・1525・1550番地に所在する。
3. 遺跡名は、遺跡が所在する主たる大字名にあたる上増田町・下増田町に、小字名である島・常木を組み合わせた。
4. 発掘調査及び整理事業は、日本道路公団から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受けて実施した。

5. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

### 6. 調査期間

#### 上増田島遺跡

平成10年10月1日～平成11年1月31日

平成11年7月1日～平成12年3月31日 平成11年11月と平成12年1・2月は中断。

#### 下増田常木遺跡

平成9年2月12日～平成9年3月6日

平成10年4月20日～平成10年11月6日

### 6. 調査組織

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

#### 事務担当

菅野 清 小野宇三郎 原田恒弘 赤山容造 神保侑史 蜂巢 実 渡辺 健 住谷 進

水田 稔 小淵 淳 坂本敏夫 中束耕志 西田健彦 笠原秀樹 小山建夫 須田朋子 吉田有光

柳岡良宏 岡島伸昌 宮崎忠司 片岡徳雄 大沢友治 吉田恵子 並木綾子 今井もと子 内山佳子

若田 誠 狩野真子 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 本地友美 松井美智子 菅原淑子

山口陽子 松下次男 浅見宜記 山本正司 吉田 茂

#### 調査担当

上増田島遺跡 飯田陽一 間庭 稔 蜂須賀里佳 勢藤暁美 齊藤幸男 前田和昭

下増田常木遺跡 飯田陽一 新倉明彦 蜂須賀里佳 須田貞崇 齊藤幸男

### 7. 整理主体

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

### 8. 整理期間

上増田島遺跡 平成14年4月1日～平成14年11月30日

下増田常木遺跡 平成14年12月1日～平成15年7月31日

### 9. 整理組織

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

事務担当

小野宇三郎 吉田 豊 住田永市 神保侑史 萩原利通 中 隆之 右島和夫 植原恒夫 西田健彦  
相京建史 国定 均 小山建夫 竹内 宏 高橋房夫 須田朋子 吉田有光 森下弘美  
阿久澤玄洋 田中賢一 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり  
狩野真子 松下次男 吉田 茂

整理担当

齊藤幸男 佐藤美代子 小野寺仁子 戸神晴美 萩原光枝 小淵トモ子 南雲繁子 廣津真希子  
嶋崎しづ子 小池 縁

10. 本報告書作成の担当者は次のとおりである。

編 集 齊藤幸男

執 筆 「調査に至る経緯と経過」 中東耕志  
まとめ「中世瓦について」 大江正行  
自然科学分析は本文中に執筆者を記載。  
上記以外 齊藤幸男

遺構・遺物図面整理、図版作成等

佐藤美代子 小野寺仁子 戸神晴美 萩原光枝 小淵トモ子 南雲繁子 廣津真希子  
嶋崎しづ子 小池 縁

遺構写真 飯田陽一 間庭 稔 新倉明彦 蜂須賀里佳 勢藤暁美 須田貞崇 齊藤幸男 前田和昭

遺物写真 佐藤元彦

遺物保存処理 関 邦一 土橋まり子 横倉知子 小材浩一 高橋初美 湯浅美枝子 大野容子

機械実測 田中富子 富沢スミ江 伊東博子 岸 弘子 田中精子 酒井史恵 廣津真希子

遺物観察指導

弥生土器 大木伸一郎 中世以降の土器・陶磁器 大西雅広 瓦 大江正行 板碑 新倉明彦

石鏃 麻生敏隆 古代墨書 高島英之(以上(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団)

近世以降墨書 小澤賢二(群馬県立文書館)

11. 分析・委託

空中写真撮影・測量 技研測量設計(株)

遺構図・遺物図トレース (株)測研

樹種同定 (株)パレオ・ラボ

テフラ分析・プラントオパール分析 (株)古環境研究所

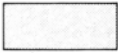


石材鑑定 飯島静男(群馬地質研究会会員)

12. 本遺跡出土遺物及び記録資料の一切は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管している。

13. 発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の諸氏並びに機関に有益な指導、助言、協力を賜った。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

赤熊浩一 石村崇史 植田弥生 生方英雄 木下裕雄 小林康幸 小峰 篤 近藤 薫 薩見和広  
角田清美 富岡照民 福田貫之 堀内秀樹 R.S.mona 青梅市教育委員会 東京大学埋蔵文化財調査室  
前橋市教育委員会 蓮華院

## 凡 例

1. 調査区には国家座標(日本平面直角座標系第Ⅸ系)に基づき5m間隔のグリッドを設定した。X=74.000km台、Y=-69.000~-70.000km台である。
2. 北方位は真北を示す。
3. 本書で使用した地図は以下のとおりである。  
「上増田島・下増田常木遺跡位置図」20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」  
「遺跡分布図」2万5千分の1地形図「大胡」「伊勢崎」
4. セクション図・エレベーション図中の石は斜線で示す。また、土器には「P」と記した。
5. 遺構図・遺物図の縮尺は原則として以下のとおりである。  
住居・掘立柱建物・土坑 1:60 炉・竈 1:30 畠・道 1:80~100 水田 1:200 溝 1:60~200  
焙烙・鉢・大甕・板碑・埴輪・礫石器・木器 1:4 石臼・石塔・大型土器・大型木器 1:6 金属製品 1:2  
銭 1:1 石鏃 4:5 その他の遺物 1:3
6. 遺構図・遺物図で使用したスクリーンパターンは以下のとおりである。  
焼土・土器の赤色塗彩・石製品磨面  煤付着部分  羽口の還元部分 
7. 遺構図中の「P」はピット、「●」は土器、「▲」は金属製品、「■」は石器・石製品、「△」は鉄滓、「土」は土坑、「井」は井戸、「住」は住居、「掘」は掘立柱建物、「柱」は柱列を表す。
8. 遺物写真の倍率は原則として遺物図の縮尺に近づけたが、この限りではない。
9. 本文の記載方法は以下のとおりである。  
「位置」はその遺構の含まれる全グリッドを記した。グリッド名は5mグリッド南東の国家座標下3桁をX-Yの順に記した。「重複」は重複する遺構の新旧関係を「旧→新」で示した。「→」の無いものは新旧関係が不明であることを示す。竪穴住居の「形状」は、方形・隅丸方形・長方形・隅丸長方形・台形に分類して記した。「規模」は遺構確認面上端で計測した。土坑等は長軸×短軸×深さ、または径×深さで表した。竪穴住居の「面積」は下端を1:30図上でプランメーターにより3回計測した平均値を記した。方位は炉付設竪穴住居・掘立柱建物・土坑は長軸の、竈付設竪穴住居は竈(東竈)が付設された壁の、それぞれ真北から右回りの角度を記した。
10. 土層注記の含有物の表現は、「微量」(<5%)「少量」(5<15%)「やや多量」(15<30%)「多量」(30<50%)「粒」(<2cm)「ブロック」(2cm<)を目安とする。
11. 遺物観察表の記載方法は以下の通りである。  
出土位置の数字は竪穴住居床面もしくは遺構底面からの高さを表し、単位は「cm」である。ピットからの出土は「P」と表記した。計測値の単位は「cm」「g」とし、残存のものは「+」を、推定のもは( )内に記した。胎土中の砂粒はその径により「細砂」(<0.5mm)「粗砂」(0.5<2.0mm)「細礫」(2.0<5.0mm)を目安とする。
12. 本文中で使用したテフラの記号は以下のとおりである。  
浅間C軽石 As-C (3世紀末~4世紀初) 榛名二ツ岳渋川テフラ FA (6世紀初頭)  
榛名二ツ岳伊香保テフラ FP (6世紀中葉) 浅間Bテフラ As-B (天仁元年・1108年)  
浅間粕川テフラ Kk (大治三年・1128年) 浅間A軽石 As-A (天明三年・1783年)

13. 本報告書の遺構名称は、発掘調査時に付したものを原則として使用しているため欠番がある。また、重複するものや遺構の種類を変更したもの等については、発掘調査時の名称を次の通り変更している。

上増田島遺跡

1号敷石→A区1号集石土坑 2号敷石→A区2号集石土坑 3号敷石→A区3号集石土坑  
灰掻き坑→A区A号土坑 A区138号土坑→A区3号井戸 A区59～62号土坑→A区2号掘立柱建物  
A区40・45・90号土坑→A区1号柱列 A区98・99・110号土坑→A区2号柱列  
A区27・30・34号土坑→A区3号柱列 B区2号溝→B区58号土坑 B区3号溝→B区59号土坑  
C区2号溝・D区10号溝→D区10号溝 D区168土→D区1号井戸 D区15号溝→D区399号土坑  
D区3号ピット→D区59号土坑 D区70号ピット→D区400号土坑

下増田常木遺跡

C区砂層→C区包含層 A区4号溝・B区道下溝A→2面A号溝 B区道下溝B→B区2面B号溝  
10号土坑・12号土坑→10号土坑

# 目 次

口 絵  
序  
例 言  
凡 例

## 発掘調査と遺跡の概要

1. 調査に至る経緯と経過…………… 1
2. 遺跡の地理的歴史的環境…………… 3
3. 基本層序……………10

## 上増田島遺跡

### I C・D区第1面の遺構と遺物

1. 掘立柱建物……………15
2. 溝……………16
3. 土坑……………18
4. 柱列……………21

### II A・B区の遺構と遺物

1. 掘立柱建物、柱列……………23
2. 溝……………26
3. 井戸……………43
4. 畠、道……………57
5. 土坑……………59
6. 遺構外出土遺物……………99

### III C・D区第2面の遺構と遺物

1. 掘立柱建物、柱列……………102
2. 溝……………109
3. 井戸……………118
4. 土坑……………126
5. ピット……………180
6. 遺構外出土遺物……………182

## 下増田常木遺跡

1. 住居……………192
2. 掘立柱建物……………222
3. 水田……………222
4. 畠……………227
5. 道、溝……………227
6. 土坑……………242
7. 包含層……………246
8. 遺構外出土遺物……………253

## 自然科学分析

1. 下増田常木遺跡の土層とテフラ ……257
2. 下増田常木遺跡のプラント・オパール  
分析……………264
3. 上増田島・下増田常木遺跡出土木製品  
の樹種同定……………272

まとめ……………277

## 写真図版

### 報告書抄録

## 付図

上増田島遺跡C・D区第1面全体図  
(1/300)

上増田島遺跡A・B区、C・D区第2面全体図  
(1/300)

下増田常木遺跡中近世遺構全体図  
(1/400)

下増田常木遺跡古代以前遺構全体図  
(1/400)





## 発掘調査と遺跡の概要

### 1. 調査に至る経緯と経過

#### 上増田島遺跡

本遺跡の発掘調査は、平成10年4月1日付け群馬県教育委員会と本事業団の間で締結された、「北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域埋蔵文化財発掘調査」についての委託契約に基づいて、高崎起点 STA78+80から STA80+40付近、約160mの間を調査対象地として実施することになった。また、本遺跡以西の地点については、試掘調査を実施したが遺構の存在は確認されなかった。

本遺跡の発掘調査対象表面積は8,250㎡であり、中世から近世の屋敷跡等、文化層1面が想定された。

発掘調査開始以前の平成10年9月の日本道路公団高崎工事事務所と群馬県教育委員会文化財保護課(現文化課)、本事業団の三者定例会議に於いて、同

年10月からの調査着手が計画された。なお、高崎起点 STA81前後の地点には遺構等の確認はできなかつたため、調査事務所用地及び排土置き場とした。平成10年10月1日から既に用地買収が終了していた STA79+60から STA80+40付近をA・B・C区として着手し、平成11年1月31日で他遺跡の調査との調整もあり、本遺跡の調査は中断した。

第Ⅱ期の発掘調査は平成11年7月から再開し、同年12月31日(11月は中断)まで継続し、家屋等のあった最も西側の地点をD区とし調査を実施した。さらに、側道等の付帯工事の関連もあり、第Ⅲ期調査として平成12年3月に最終調査をおこない、本遺跡の調査は平成11年度で全て終了した。

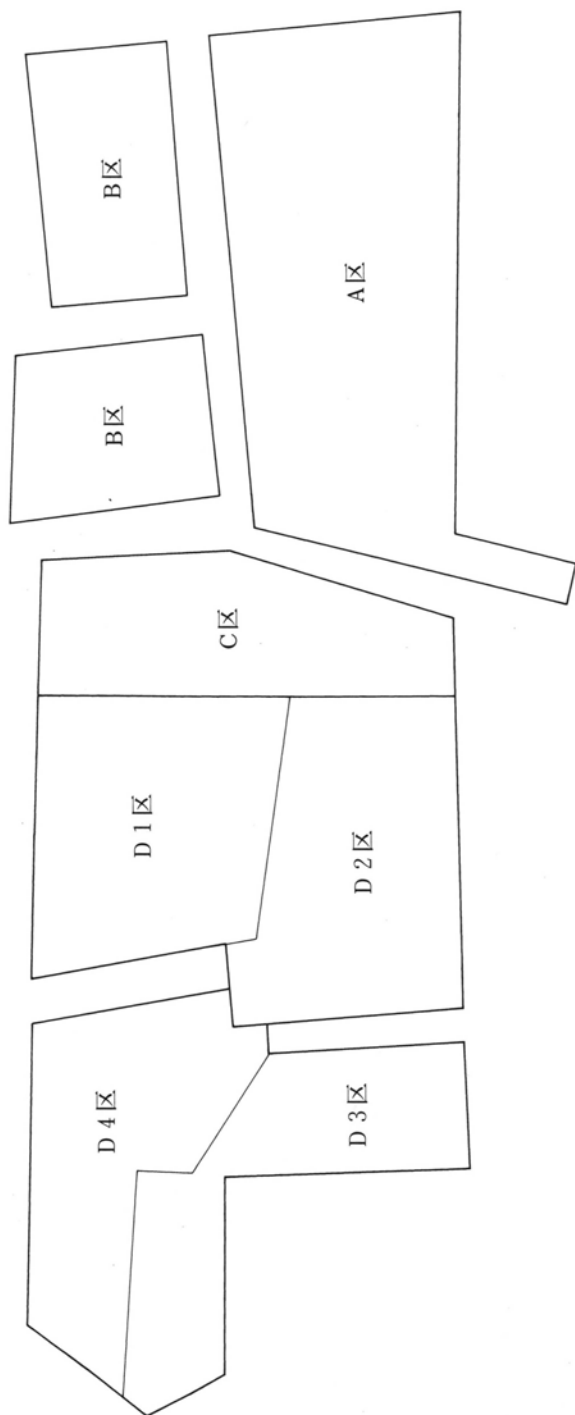
#### 下増田常木遺跡

群馬県教育委員会文化財保護課(現文化課)では、日本道路公団高崎工事事務所によって平成9年3月下旬から荒砥川右岸の橋梁工事及びボックスカルバートに係わる地域の工事が予定されたことにより、平成8年12月中旬に事前の確認調査を実施した。その結果、古代水田の存在が予測され、本範囲をA区として緊急先行調査が計画された。緊急調査範囲は高崎起点 STA88+15から STA88+55付近、約40mの間で、調査対象面積約1,200㎡であった。本遺跡全体の調査範囲は高崎起点 STA86+50から STA88+55付近の約200m間、調査対象面積8,974㎡であり、弥生時代から平安時代の集落、及び古墳時代と平安時代、近世の水田・畠等、3面から4面の文化層が推定さ

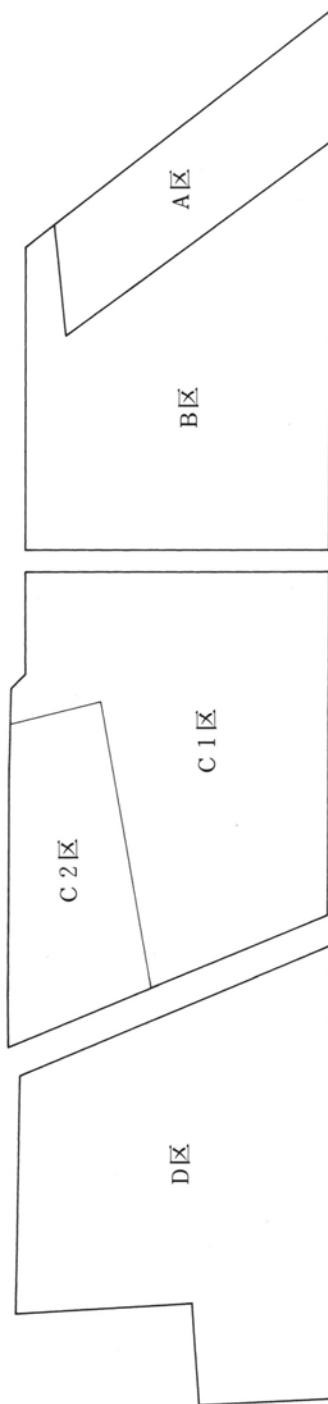
れ、延べ面積として約15,322㎡の事業量が想定された。

荒砥川右岸の橋梁工事及びボックスカルバートに係わる地域の緊急先行調査は、伊勢崎インターチェンジ建設予定地の舞台遺跡の調査を一部中断し、隣接地の畑地を借地し調査事務所とするとともに、表土除去及び遺構確認について、一部土木作業員を業務委託し、平成9年2月中旬から調査に着手した。本部分の調査は同年3月で終了した。

さらに、A区以外の地点については、用地解決状況の関係もあり平成10年4月から開始した。この第Ⅱ期調査は、B～D区に調査範囲を区分し、平成10年11月上旬に全て終了した。



上増田島遺跡調査区図



下増田常木遺跡調査区図

## 2. 遺跡の地理的歴史的環境

上増田島・下増田常木両遺跡は前橋市上増田町・下増田町に所在する。伊勢崎市との境に近い市域の南東部付近、市街地からおよそ10kmほどに位置し、東に赤城山から南流する荒砥川、西に桃ノ木川及び広瀬川が流れる。遺跡周辺の地形は、赤城山麓・広瀬川低地帯・前橋台地に区分される。赤城山麓は、成層火山である赤城山の南斜面で、主に火山砕屑物が堆積し、関東平野に接する平均勾配2°程の緩い傾斜面である。前橋台地は、利根川が赤城・榛名両山麓の間から関東平野に流れ出したところに広がる緩傾斜の台地である。赤城山麓と前橋台地の間には、前橋市関根町付近から佐波郡境町付近まで、幅約3km、長さ約30kmの細長い沖積低地がのびている。これが広瀬川低地帯で、旧利根川の流路と考えられる。現在は、低地帯内を先述の広瀬川・桃ノ木川・荒砥川その他、小河川が幾筋も流れており、かつては網状流を成していたと推定される。そのために低地帯内は旧河川及び現河川の自然堤防、後背湿地、旧河川の中州など複雑な微地形が発達している。本遺跡も、島遺跡及び常木遺跡集落は旧河川の中州に、常木遺跡As-B下面より検出の水田・近代の水田は後背湿地に立地している。ただし、弘仁9年(818年)の洪水層下面より検出された常木遺跡B区水田は集落と同じ旧中州に立地し、さらに微少な地形を利用していたと思われる。

広瀬川低地帯内の遺跡は、密に分布する赤城山麓と前橋台地に比べて多くなく、利根川が変流したとされる中世応永年間から天文年間以後に、人々の本格的な活動が始まると考えられた時期もあった。

しかし、1984年の『青柳寄居遺跡』の報告により、低地帯内における古代からの遺跡の存在は確実視されるようになる。その後、中原遺跡群、今井白山遺跡、笈井八日市遺跡、笈井中屋敷遺跡などの発掘調査が行われ、広瀬川低地帯は遅くとも縄文時代後期以降には人々の居住・生産の重要な場であったことが明らかになった。遺跡の分布を概観すると、

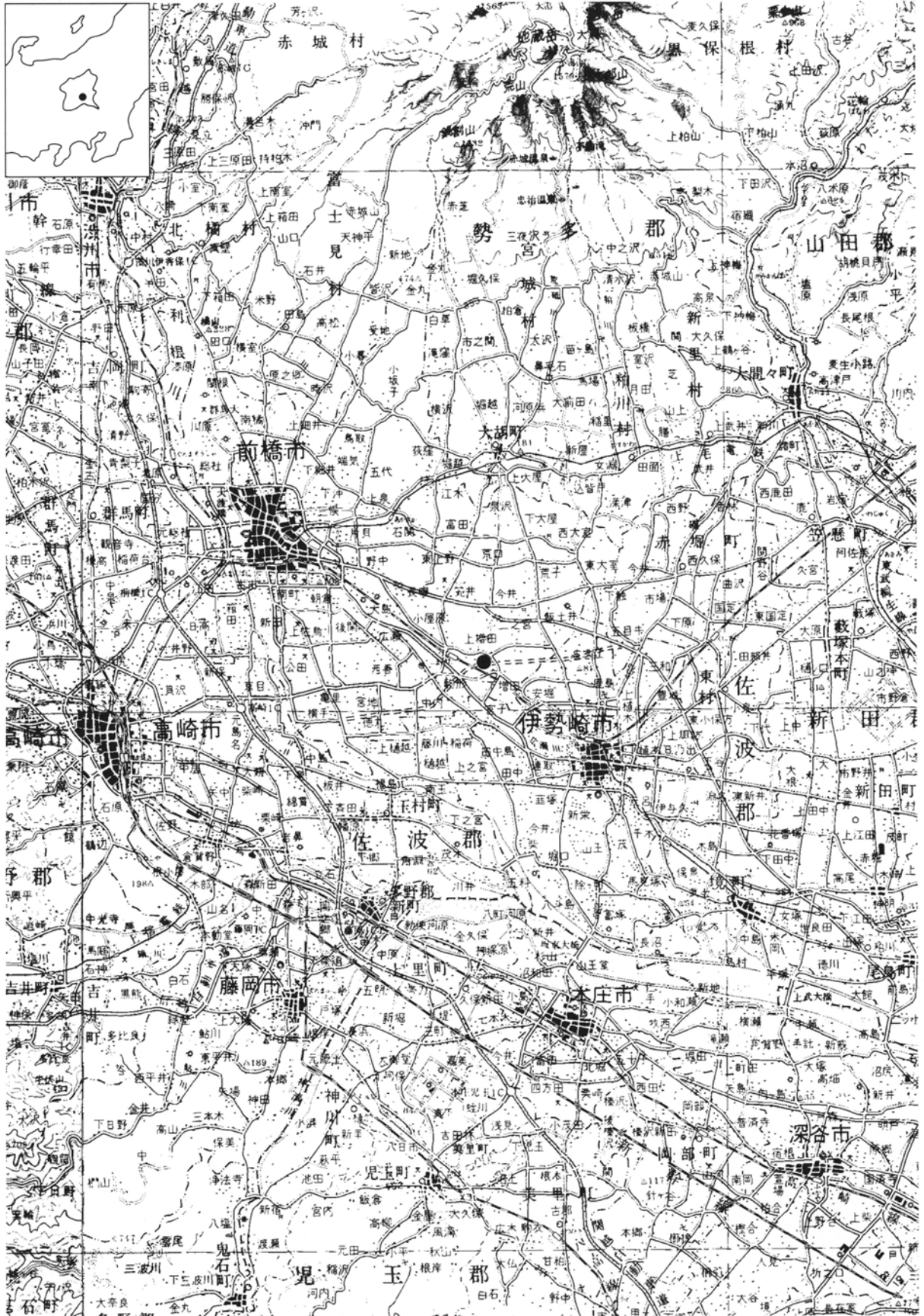
ほぼ全ての微高地上に遺跡が存在し、かつ前橋台地上の遺跡の動きと密接に関連していると考えられる。

周辺でもっとも古い人々の足跡は、荒砥北三木堂遺跡(Na9)出土の槍先形尖頭器で、旧石器時代1万2千年前のものである。これに続く縄文時代では、県央部で初めての発見となった笈井八日市遺跡(Na6)出土の微隆起線文土器がある。この遺跡は草創期から後期まで続く拠点集落であることが明らかとなった。小島田八日市遺跡(Na5)でも草創期の土器片が出土している。

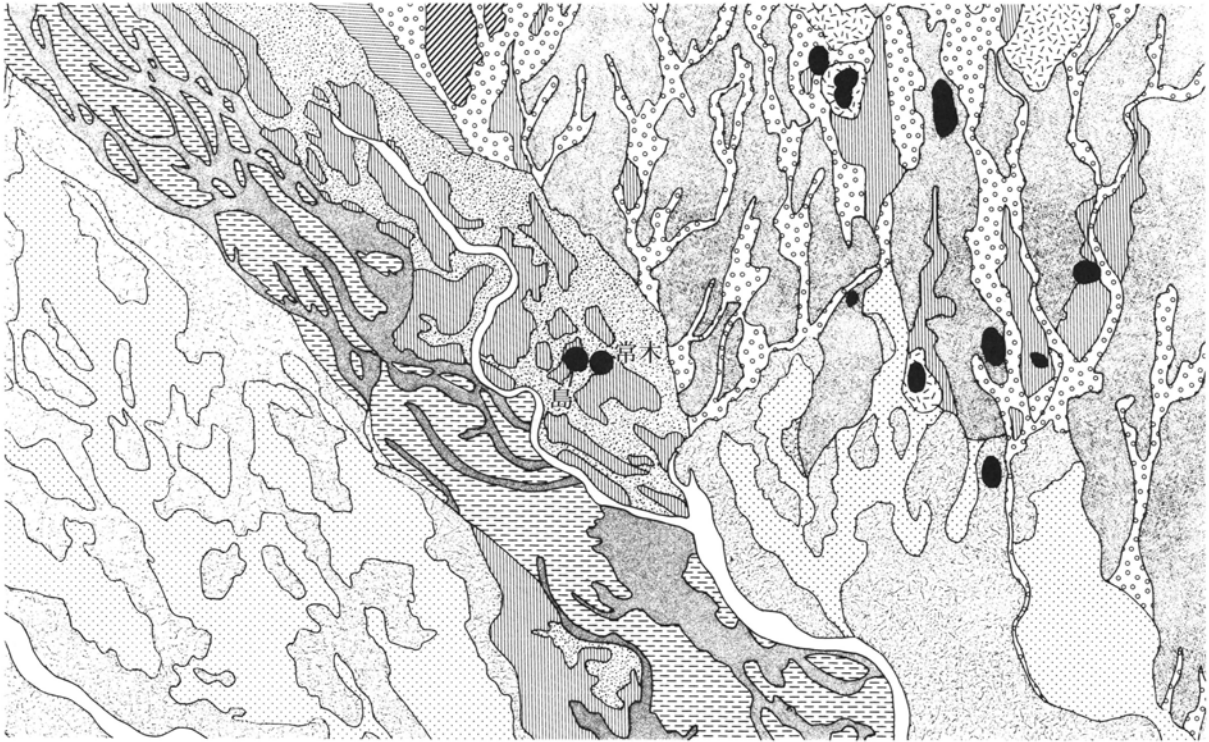
弥生時代に入ると活動が一旦途絶え、中期後半から徐々に集落が形成される。赤城山麓を南流する小河川沿いに分布する傾向が見られ、これら小河川が作る谷筋を水田化していったと考えられる。西太田遺跡(Na54)では低地帯に臨む台地上に中～後期の集落が形成され、中原遺跡群(Na32)や下増田越渡IV遺跡(Na42)でも後期樽式土器片が出土し、低地帯への進出を始めたことを窺わせる。


古墳時代も前期のうちは弥生時代同様の集落立地を見せる。今井白山(Na7)・荒砥島原(Na36)・中組・西太田・萩原II遺跡(Na45)などで数件の住居が検出されており、小規模ながら検出軒数は増加している。ただ、低地帯を西に越えた波志江中野面遺跡(Na50)や前橋台地上の徳丸仲田遺跡では10軒単位の検出であり、低地帯の集落はこれらに比べて明らかに弱い展開である。生産遺構では越渡III(Na43)・IV遺跡の水田が挙げられる。大型古墳は西5kmに位置する前橋台地東端の前橋八幡山古墳・前橋天神山古墳がある。周辺では下増田越渡(Na41)・中組・荒砥北原遺跡(Na3)などで方形周溝墓が発見されている。

中期以降になると、前期から続く中原遺跡群・中組遺跡・西太田遺跡などのほかに笈井中屋敷遺跡(Na8)などでも集落が形成され、低地帯内及びその周辺で強い集落展開が成されたことがわかる。常木遺跡の南東2kmに位置するお富士山古墳(Na55)と北

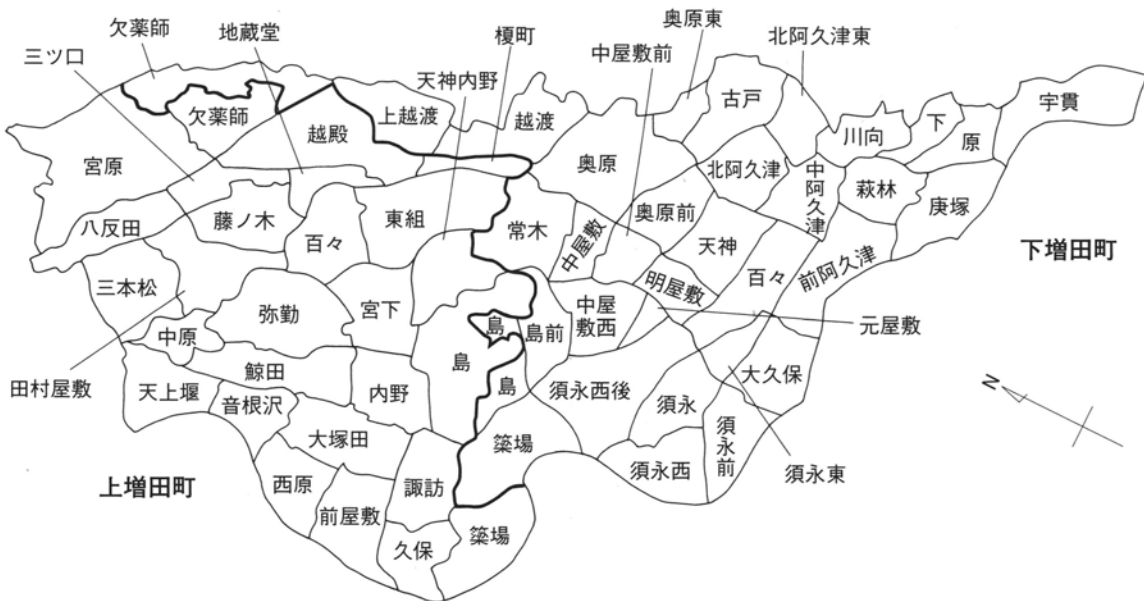


上増田島遺跡・下増田常木遺跡位置図



- |  |   |
|--|---|
|  火砕流堆積面 (大胡火砕流)          |  梨木泥流堆積面          |
|  谷底平野                   |  扇状地 (後期更新世後半)   |
|  扇状地 (後期更新世前半)          |  河成段丘 (旧中州：完新世)  |
|  広瀬川低地帯の旧中州 (A s-B降灰後)  |  河成段丘 (後背湿地：完新世) |
|  広瀬川低地帯の後背湿地 (A s-B降灰後) |  前橋・伊勢崎台地上の微高地   |
|  前橋・伊勢崎台地上の後背湿地         |  流れ山             |

遺跡周辺の地形分類図 (『群馬県史』通史編1より作成)



上増田町・下増田町小字図 (『木瀬村誌』より作成)

## 発掘調査と遺跡の概要

2 kmに位置する今井神社古墳(No22)は5世紀後半に築造された大型の前方後円墳であり、一帯の開発はこれら古墳の被葬者の活動に起因すると考えるのが自然である。筑井八日市遺跡で発見された5世紀後半の大きな溝は、いわゆる豪族居館の可能性が指摘されており、今井神社古墳と関連して低地帯周辺の開発拠点であったとの推測が立つ。また、低地帯内の微高地や周辺の台地上には荒砥宮川遺跡(No33)などのように小円墳が築造される。

奈良・平安時代の集落も引き続き安定している。当時、赤城山南麓一帯は勢多郡に属し、前橋市上西原遺跡が勢多郡衙であると推定されている。郡内には深田・田邑・芳賀・桂萱・真壁・深渠・時沢・藤沢の8郷が置かれていた。二之宮洗橋遺跡(No26)からは「芳郷」の墨書土器が出土し、この遺跡周辺が芳賀郷であったと考えられる。このことにより、増田町付近も芳賀郷であった可能性がある。

中原遺跡群では方形に区画された水田が1 km四方にわたって確認されたほか、多くの遺跡で主に平安時代の水田が検出されている。水田周辺の微高地には集落が立地し、低地帯一帯が穀倉地帯を形成していたことが窺える。

中世の遺跡はあまり多くなく、人々の暮らしぶりを遺跡から追うことはなかなか難しい。筑井中屋敷・二之宮宮下東(No29)などで屋敷に伴う溝や建物などが確認されている程度である。

文献では、『上杉氏上州所領目録』に増田村周辺に位置する大嶋村・小嶋田村・宇坪井村・小屋原村が、『長楽寺文書』に野中村が記述されており、これらの村は鎌倉若しくは南北朝まで遡れるものの、増田村の記述はない。ただ、町内には以下に挙げる石造物が残されており、

上増田町 宮原薬師堂 阿弥陀如来座像 南北朝

上増田町 厄除地藏尊 阿弥陀如来座像 室町

上増田町 近戸神社 輪廻塔 室町末期

下増田町 蓮花院 赤城塔 室町初期

下増田町 今宮八幡宮 輪廻塔 室町末期

これらを造り、祀った人々が生活していたことは確

実である。周辺には16世紀の新土塚城(No51)・今井城(No4)があり、増田村内にも堀と土塁が現存する16世紀の下増田屋敷がある。現在も大姓の北爪氏の屋敷であり、中屋敷・元屋敷・明屋敷の小字が残る。また、字中屋敷にはやはり現在も大姓である深沢一族の屋敷があったとも伝えられており、今宮八幡宮本殿裏の寛永元年建立石宮に深沢一族4名の名が刻まれている。

近世の増田村は、寛文八年(1668年)の『上野国郷帳』によれば石高1493.2石(田方806.6石 畑方686.6石)で、勢多郡内でも大村に属していた。元禄一四年(1702年)の『郷帳』では上増田村・下増田村と記載され、分村されている。石高もそれぞれ746.6石と正確に二分されている。この間になぜ分村が行われたか理由ははっきりしないが、字島や字欠薬師の複雑な境界をみると石高を二分することに腐心した様子が想像できる。なお、天明二年(1782年)の上増田村の人口は男379 女352 戸数176であった。

領主については織豊時代の資料はないが、

1580～1616年 大胡城主牧野氏

1616～1749年 前橋城主酒井氏

1749～1768年 前橋城主松平氏

1768～1867年 前橋陣屋 上増田村

1768～1867年 佐野城主堀田氏 下増田村

1868年 前橋城主松平氏 上・下増田村

と変遷した。分村後しばらくして、下増田村は飛び地となったことがわかる。この時期に当たる天保五年(1834年)の『郷帳』には上増田村 約1069石、下増田村 約1035石と、江戸時代後期における新田開発によって領主に関わりなく共に石高を順調に伸ばしていった。

しかし、地形的に洪水の被害に悩まされていたようで、享和三年(1803年)に下増田村から出された「定免願」には、広瀬川・桃木川・荒口川・宮川の合流点付近で水害によって川砂が流れ込んだり、作土が流されたりしたこと、天明六年の水害で川欠けが多いことなどを年貢の減免理由に挙げている。また、天明三年の浅間山噴火による砂降り以後、変地して

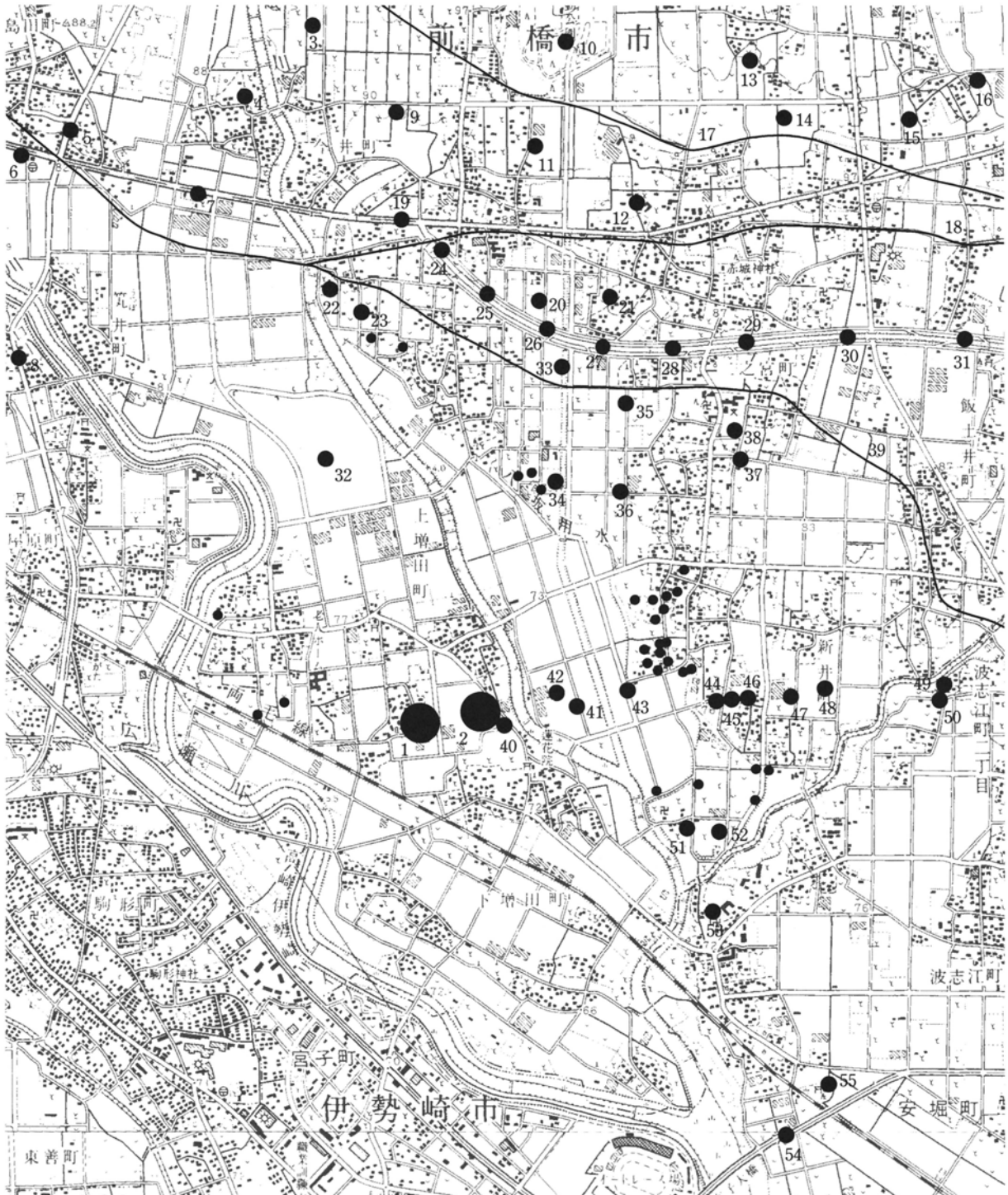
2. 遺跡の地理的歴史的環境

収穫が減ったことも挙げられている。これらは、鳥遺跡の土層が砂質であることや、As-A を密に含む遺構が存在することと符合する。

群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』1989年  
群馬県史編さん委員会『群馬県史』資料編8 1988年  
前橋市史編さん委員会『前橋市史』第一・三・五巻 1971  
・1975・1984年  
群馬県史編さん委員会『群馬県史』通史編1 1990年  
木瀬村誌編纂委員会『木瀬村誌』1995年

【引用文献】

勢多郡誌編纂委員会『勢多郡誌』1958年



遺跡分布図

周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	概 要	文 献
1	上増田島遺跡	本報告	本報告書
2	下増田常木遺跡	本報告	本報告書
3	荒砥北原遺跡	縄文前～中期住居6・土坑6、古墳前期方形周溝墓4、古墳中～後期住居2、古墳後期円墳1、奈良・平安住居3、時期不明住居1・土坑6・溝7・掘立柱建物1・掘立柱穴群	『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡』'86 群埋文
4	今井城	中世城館	『群馬県古城址の研究』上巻 '71 山崎一
5	小島田八日市遺跡	縄文土坑9、縄文草創～後期土器・石器、古墳溝1、古墳後期円墳1、中近世住居2・堅穴状遺構1・墓1・井戸44・溝57	『小島田八日市遺跡』'94 群埋文
6	筑井八日市遺跡	縄文土坑2、古墳中期住居6・古墳1・方形区画溝、平安水田 時期不明溝17・土坑34・井戸3・道路状遺構	『筑井八日市遺跡』'94 県埋文
7	今井白山遺跡	縄文加曾利E3住居1、縄文土坑2、弥生土坑2、古墳前期住居1、古墳中期住居4、古墳後期住居20、古墳土坑1、奈良住居15、平安住居7、時期不明住居5・土坑41・溝4	『今井白山遺跡』'93 群埋文
8	筑井中屋敷遺跡	弥生土器集中箇所1、古墳後期～平安住居43・溝4、中世土坑墓4・井戸1・溝1・堀、時期不明溝13・土坑60	『筑井中屋敷遺跡』'97 群埋文
9	荒砥北三木堂遺跡	旧石器、縄文諸磯a住居4・土坑1、諸磯c住居1、縄文住居2・土坑21・集石、弥生中期住居5、古墳前期円形周溝墓1、古墳中期住居61・土坑6、古墳後期住居1・円墳1、奈良・平安住居10、平安以前土坑8、時期不明掘立柱建物3・溝2・焼土1	『荒砥北三木堂遺跡』I・II'91・92 群埋文
10	鶴谷遺跡群	縄文ビット2、弥生住居2、古墳時代住居104、奈良・平安住居62・ビット2・井戸4・溝5、中世墓群・ビット1・集石4	『鶴谷遺跡群』'81 『鶴谷遺跡群』II'82 前橋市教委
11	荒砥大日塚遺跡A区	古墳後期住居7、奈良住居12、奈良以前土坑1、平安住居3・堅穴状遺構1・井戸1・水田、時期不明住居2・溝7・土坑12	『荒砥大日塚遺跡』'94 群埋文
12	荒砥大日塚遺跡B区	古墳後期住居2、奈良住居2・土坑1、平安水田、近世井戸2・溝6、時期不明土坑4・欄列3	『荒砥大日塚遺跡』'94 群埋文
13	新谷遺跡	古墳前期住居1	『前橋市城南地区の土師器使用遺跡』'68 荒砥史談会・前橋市教委
14	荒砥上ノ坊遺跡	縄文諸磯b住居3、弥生末～古墳初住居32・土坑3・方形周溝墓6・サク状遺構群4、古墳中～後期住居29・土坑1、奈良住居57、平安住居100・土坑4・井戸2、中近世掘立柱建物18・溝41・井戸31・土坑196・堅穴状遺構2・火葬墓4	『荒砥上ノ坊遺跡』I・II・III・IV '95・'96・'97・'98 群埋文
15	元屋敷遺跡	古墳～平安住居29、女堀	『舞台・西大室丸山』'91 県教委
16	霞沼遺跡	平安住居1・溝2	『下境I・天神』'90 県教委
17	女堀	中世用水路	『女堀』'84 群埋文
18	東道	中世道	『歴史の道調査報告書』16 '83 県教委
19	今井道上遺跡	古墳中～後期住居34、奈良・平安掘立柱建物1・方形区画溝2、中世堅穴状遺構6、時期不明掘立柱建物6・欄列1	『今井道上遺跡』'94 群埋文
20	荒砥洗橋遺跡	古墳後期住居24、奈良住居23・井戸1、平安住居29・水田、中近世井戸1、近世溝1、時期不明掘立柱建物5・柱穴列5・溝4・土坑18	『荒砥洗橋・荒砥宮西遺跡』'89 群埋文
21	荒砥宮西遺跡	古墳後期住居9、奈良住居7、平安住居4、時期不明井戸1・溝4・土坑10	『荒砥洗橋・荒砥宮西遺跡』'89 群埋文
22	今井神社古墳	古墳中期前方後円墳	『荒砥宮川遺跡・荒砥宮原遺跡』'93 群埋文
23	今井神社古墳群	古墳前期住居2、古墳後期円墳3、時期不明溝2	No.3に同じ
24	今井道上・道下遺跡	縄文前～後期土器・石器、古墳前期住居3・堅穴1、古墳後期住居45・掘立柱建物1・井戸2、奈良・平安住居15・小鍛冶1・方形区画溝2、古墳～平安掘立柱建物10・欄列2・粘土探掘坑8・井戸11、中近世掘立柱建物8・道7・井戸4・墓2、時期不明土坑195	『今井道上・道下遺跡』'95 群埋文
25	二之宮谷地遺跡	古墳後期住居9・土坑1、古墳後期～平安住居2・掘立柱建物2・水田?・溜井3・溝2、古墳～奈良住居1、奈良～平安住居1、奈良住居24、平安住居44・水田、時期不明住居4・溝28・井戸30・土坑85	『二之宮谷地遺跡』'94 群埋文
26	二之宮洗橋遺跡	縄文土器、奈良・平安住居12・掘立柱建物2・水田・墨書土器多数、中近世溝・土坑	『二之宮洗橋遺跡』'94 群埋文
27	二之宮千足遺跡	縄文埋甕1・陥穴3・土坑12・集石7、古墳水田5面・溜井1・水溜・水路・祭祀・木組遺構1・旧河道、奈良・平安住居27・小鍛冶1・堅穴遺構2、中世井戸1・墓、近世溜井2・溝	『二之宮千足遺跡』'92 群埋文
28	二之宮宮下西遺跡	旧石器土坑、縄文陥穴、古墳後期～平安住居65・水田、中近世館	『二之宮宮下西遺跡』'95 群埋文
29	二之宮宮下東遺跡	縄文茅山上層～加曾利E3土器・石器、陥穴1・焼石土坑1、弥生中期土器、古墳時代住居約20・木製品、奈良・平安住居約30・水田・墓1・井戸3、中世館・堀・溝19・堅穴状遺構12・墓4・井戸38・土坑約350・水田・畠	『二之宮宮下東遺跡』'94 群埋文
30	二之宮宮東遺跡	縄文早～前期土器・石器、古墳土器、奈良・平安住居23・小鍛冶2・水路33・水田2、中世堀4・礎石建物1・庭園2・井戸4、近世・近代掘立柱建物26・井戸54・畠・富士塚・池1・墓1	『二之宮宮東遺跡』'94 群埋文
31	飯土井上組遺跡	古墳前・中期住居4、平安住居2、中・近世畠、近世土坑墓1、時期不明縄文埋甕1	『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』'95 群埋文
32	中原遺跡群	古墳前期土器片、古墳前～中期住居2、古墳中期住居6、古墳中～後期住居7、古墳後期住居13・畑状遺構・溝1、古墳後期以降溝7・土坑1、奈良～平安住居4、平安以前畝状遺構、平安住居10・水田・畝状遺構2面・溝20・川1、平安以降溝2・井戸3・土坑496・集石1、中世以降掘立柱建物4・溝23、近世溝1・井戸4、近世以降溜池1	『中原遺跡群』I '93 『中原遺跡群』II '94 『中原遺跡群』IV '95 『中原遺跡群』III・V・VI '96 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
33	荒砥宮川遺跡	古墳前期住居15・畠・堅穴状遺構1、古墳中～後期住居9・円墳4、古墳後期掘立柱建物1、奈良住居1、平安住居1・水田、平安以前道路状遺構1、中世以降土坑26・井戸13・溝2	『荒砥宮川遺跡・荒砥宮原遺跡』'93 群埋文
34	荒砥宮原遺跡	古墳前期住居3、中期円墳2、時期不明溝4・土坑1	『荒砥宮川遺跡・荒砥宮原遺跡』'93 群埋文



## 2. 遺跡の地理的歴史的環境

35	荒砥天之宮遺跡	古墳中～後期住居73、奈良住居16、平安住居84・水田・溜井4、時期不明住居33・井戸4・溝3・土坑201	『荒砥天之宮遺跡』'88 群埋文
36	荒砥島原遺跡	弥生中期住居2、古墳前期住居8・方形周溝墓、古墳中期住居5、古墳後期住居6、奈良住居11、平安住居13・水田、時期不明住居1・掘立柱建物1・溝14・土坑13	『荒砥島原遺跡』'80 群埋文
37	荒砥青柳遺跡	奈良住居3・土坑2、平安住居1、時期不明竪穴状遺構2・土坑9・井戸4・溝状遺構7	No3に同じ
38	荒砥青柳Ⅱ遺跡	縄文土坑1、古墳後期住居12、奈良・平安住居3・竪穴状遺構1、中・近世溝1・井戸1	『荒砥青柳Ⅱ遺跡』'95 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
39	東山道	古代道	No18に同じ
40	下増田常木Ⅱ遺跡	平安水田、近世以前溝7・道1・土坑3	No42に同じ
41	下増田越渡遺跡	古墳時代方形周溝墓3・水田2面・溝、奈良・平安住居52・水田、中近世井戸・溝	『下増田越渡遺跡』'03 群埋文
42	下増田越渡Ⅳ遺跡	縄文石器、加曾利B2・安行3b～3c土器片、樽式土器片、古墳前期水田・溝2、古墳前～中期方形周溝墓1、古墳中期水田、9c前半以前掘立柱建物2・溝6・道路状遺構1、平安以前溝6、平安住居8・水田2面・畠・溝6・土坑9、9c～中世土坑20、中世井戸2、中世以降土坑15・小ビット15、近世以前溝7・道1・土坑3、時期不明住居1、埴輪片、中世中国銭	『徳丸高堰Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅲ遺跡・下増田常木Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅳ遺跡』'99 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
43	下増田越渡Ⅲ遺跡	古墳前期水田・溝3・溜井1、古墳中期水田・溝4、古墳後期水田・畠、平安住居18・掘立柱建物4・水田2面・溝2・土坑24、中世以降溝8	『横手湯田Ⅲ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅲ遺跡』'98 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
44	萩原遺跡	縄文石器、古墳～平安住居59・掘立柱建物2、平安水田・溝15、近世井戸4、近世以降の墓坑・土坑	『年報』16・17・18・19 '97・'98・'99・'00 群埋文
45	萩原Ⅱ遺跡	古墳前期住居1、古墳後期住居2、平安住居4・溝1・水田、時期不明住居1・土坑5	『萩原Ⅱ遺跡』'98 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
46	萩原Ⅲ遺跡	平安時代水田、時期不明遺物分布範囲2	『新井大田関Ⅱ遺跡・萩原Ⅲ遺跡』'98 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
47	新井大田関遺跡	古墳水田・溝、平安住居4	『年報』16 '97 群埋文
48	新井大田関Ⅱ遺跡	古墳溝1、平安溝1・水田、近世溝1	No45に同じ
49	中野屋敷	中世屋敷	No4に同じ
50	波志江中野面遺跡	古墳前期住居28・掘立柱建物2・前方後方形周溝墓1・方形周溝墓18・井戸2・溝10・土坑、奈良・平安住居52・掘立柱建物6・井戸4・溝10・水田・土坑、中世土坑墓1、近世井戸17・溝35・土坑	『波志江中野面遺跡』(1)(2) '01 群埋文
51	新土塚城	中世城館	No4に同じ
52	荒砥前原遺跡	縄文中期住居13(敷石2)・土坑1、弥生中期住居2・竪穴状遺構3、弥生後期住居3、古墳前期住居10、古墳円墳1、時期不明土坑4	『荒砥前原遺跡・赤石城址』'85 群埋文
53	八坂遺跡	縄文加曾利B1・B2配石1、縄文後・晩期土器・石器	『八坂遺跡調査概報』'73 東国文化研究所・前橋育英高校郷土部・伊勢崎市教委 『伊勢崎市史』'87 伊勢崎市
54	西太田遺跡	弥生中期住居3、弥生後期住居1、古墳住居約160、奈良・平安住居約40、奈良溝1・砂鉄集積遺構1、奈良?粘土集積遺構1、平安溝1、その他掘立柱建物9・井戸17・溝6・円形大型ビット10・土坑墓・土坑	『西太田遺跡』'83 伊勢崎市教委
55	お富士山古墳	5世紀中葉の大型前方後円墳	『お富士山古墳』'89 伊勢崎市教委

### 3. 基本層序

常木遺跡は基本的に微高地上に位置するA・B区と低地に位置するC・D区に分かれる。このため下層の礫層は共通するようだが、テフラなど基本層序に違いがみられる。島遺跡は微高地上に位置するが、確認した範囲では砂質土で構成されテフラは見られない点で大きく常木遺跡と異なる。なお、テフラについては「自然科学分析」を参照されたい。

#### 常木遺跡A区

- I. 暗褐色土。表土。
- II. 暗褐色砂質土。下層にB軽石を含む。
- III. As-Bの2次堆積層。
- IV. 暗褐色弱粘質土。上層にB軽石を含む。
- V. 明黄褐色細砂質土。
- VI. 暗灰黄色弱粘質土。
- VII. 灰褐色砂質土。
- VIII. 灰褐色砂質土。鈍い黄褐色砂質土・灰色砂質土が波状にラミナ堆積。
- IX. 礫。C・D区XV層に同一と推定。

#### 常木遺跡B区

- I. 暗灰色土。表土。
- II. 灰黄褐色砂質土。上面が第1面(近世面)確認面。
- III. As-B混土層。一部でAs-B2次堆積層を形成。  
畦畔検出部では確認できない。下面が第2面(平安時代以前面)確認面。
- IV. 灰黄褐色土。
- V. 黄灰色シルト。
- VI. 灰色粘質土。
- VII. 灰黄褐色砂。調査区南壁に沿って堆積。3層ほどに分層できる。上層は青灰色を呈し畦畔セクションの7層に相当。818年(弘仁九年)の洪水層と推定。下面より畦畔を検出。
- VIII. 暗灰色土。
- IX. 灰色砂。As-CとFAまたはFPを含み、FA降灰以後の堆積。

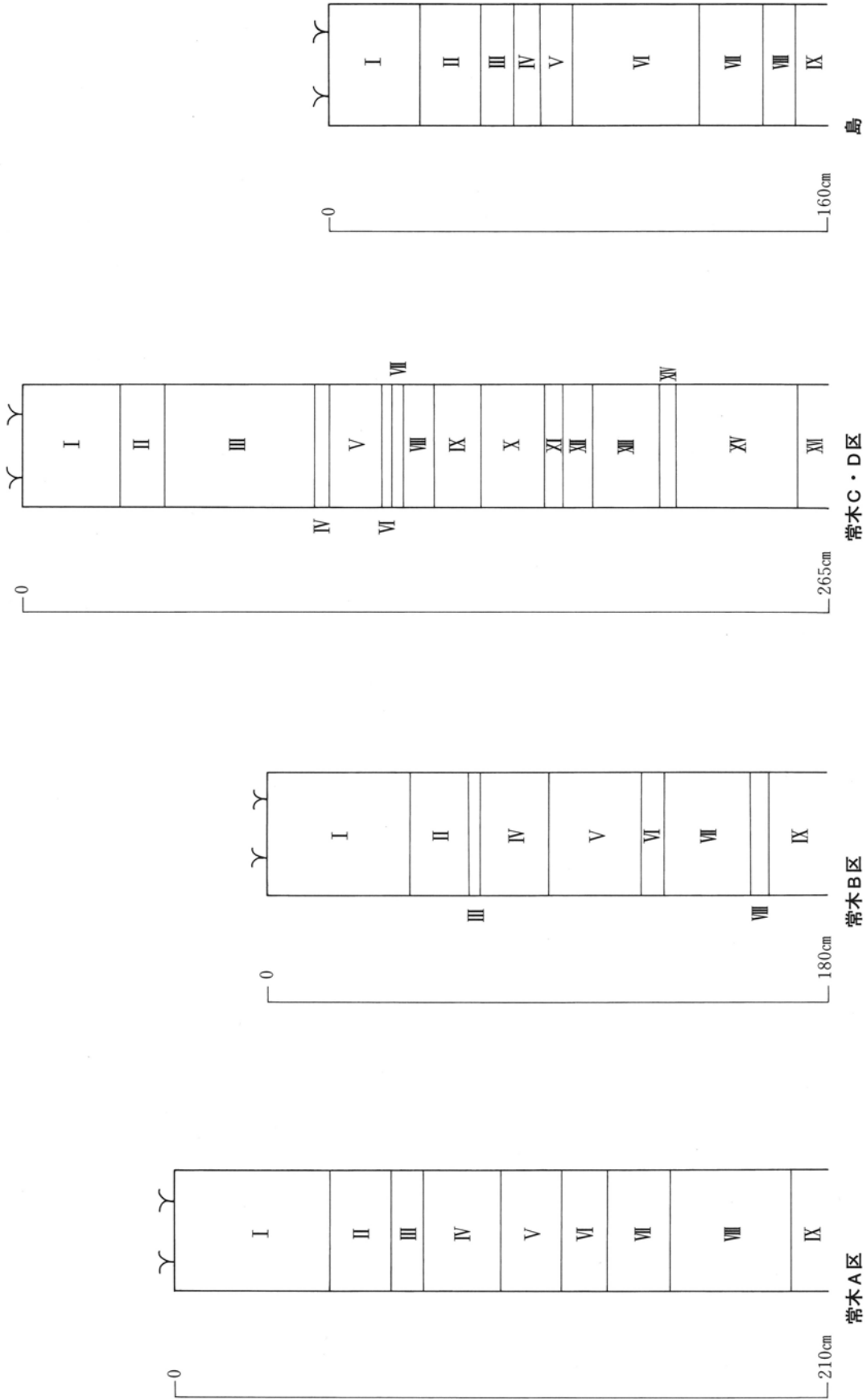
#### 常木遺跡C・D区

- I. 灰黄褐色砂質土。表土。
- II. 黄灰色砂質土。洪水による堆積。下面が第1面(近世面)確認面。低地を中心に堆積。
- III. 暗褐色土。
- IV. 青灰色火山灰層。1281年の浅間山噴火に起源の可能性。
- V. 黒褐色土。
- VI. Kkの2次堆積層。
- VII. 暗褐色土。IV～VII層は低地の一部で確認。
- VIII. As-Bの2次堆積層。1次堆積のユニットが一部で確認できる。下面が第2面(平安時代以前面)確認面。
- IX. 暗褐色土。低地はXV層に続く。XV層上面の高低により層厚に5～40cm程の幅がある。
- X. 灰色砂質土。
- XI. FP泥流堆積物。
- XII. 黒褐色土。
- XIII. 灰色砂質土。
- XIV. FAの二次堆積層。X～XV層は調査区東側微高地の一部で確認。
- XV. 灰色砂。包含層でのみ確認。
- XVI. 礫。A区IX層に同一と推定。

#### 島遺跡

- I. 黒褐色土。表土。
- II. 灰褐色土。上面がC・D区第1面確認面。下面がA・B区及びC・D区第2面確認面。
- III. 暗褐色砂質土。
- IV. 黄色砂。
- V. 暗褐色砂質土。
- VI. 褐灰色砂質土。
- VII. 黄色砂質土。
- VIII. 暗褐色砂質土。
- IX. 暗褐色砂。

3. 基本層序



基本層序図



# 上増田島遺跡





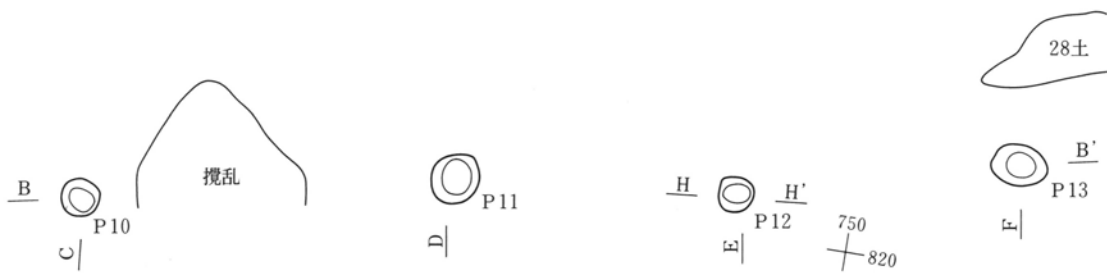
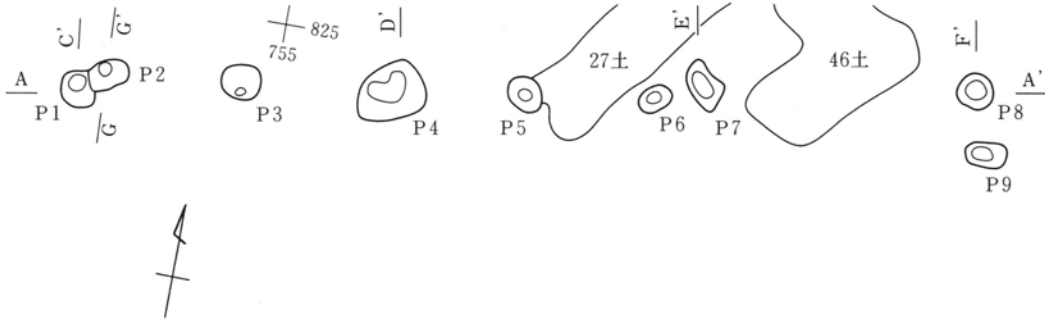
# I C・D区第1面の遺構と遺物

## 1. 掘立柱建物

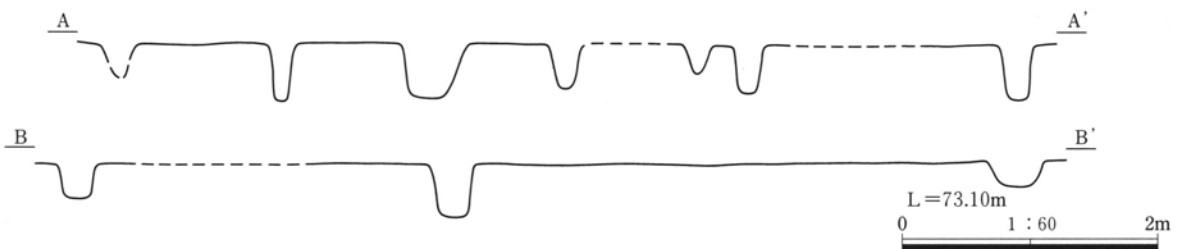
### D区1面1号掘立柱建物(PL.4)

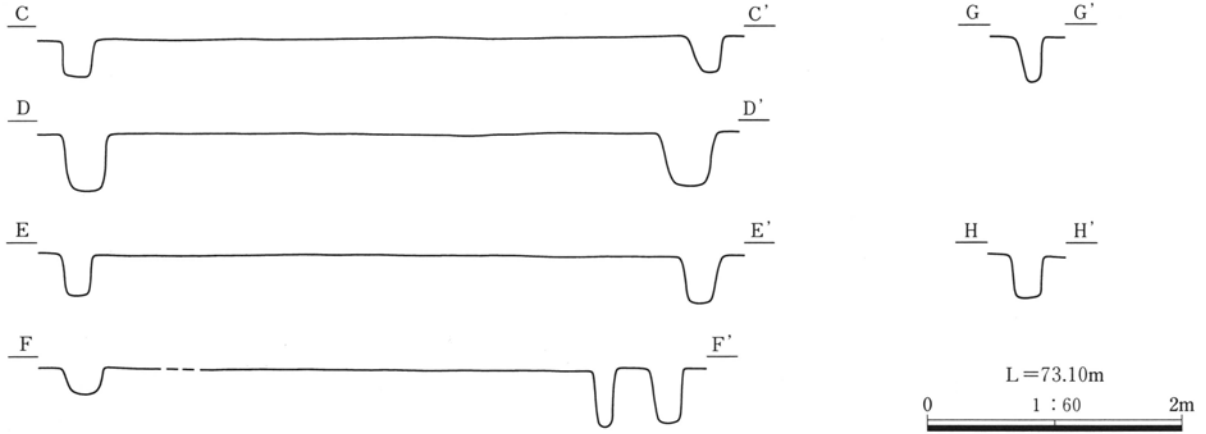
**位置** 815~825-745~755 **重複** 27号土坑、28号土坑、46号土坑 全て新旧関係は不明である。**形状** 3間×1間で、P10がやや南西に、P12がやや南に外れた位置にある。**規模** 7.33×4.92m P1 径31×深さ29cm P2 33×22×35cm P3 32×29×45cm P4 57×43×44cm P5 31×25×34cm P6 28×19×23cm P7 42×28×37cm P8 径29×深さ44cm P9 33×19×47cm P10 径30×深さ27cm P11 42×38×42cm P12 径29×深さ33cm P13

45×33×21cm **方位** 80° **埋没土** 堆積状況は不明であり、柱痕の有無は確認できない。**遺物** 出土しなかった。**所見** 遺構確認面より近世以降のものである。礎石や間仕切りのための施設は確認できなかったことから、小屋掛けのような建物を予想する。柱間に位置するP3・5・6・9は、遺構に伴うものか不明である。特にP5は、他の土坑の平面プランの例から27号土坑に伴う可能性がある。



D区1面1号掘立柱建物

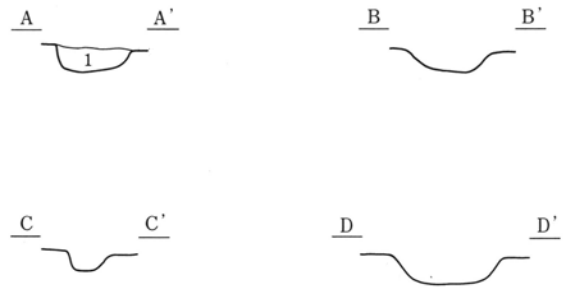
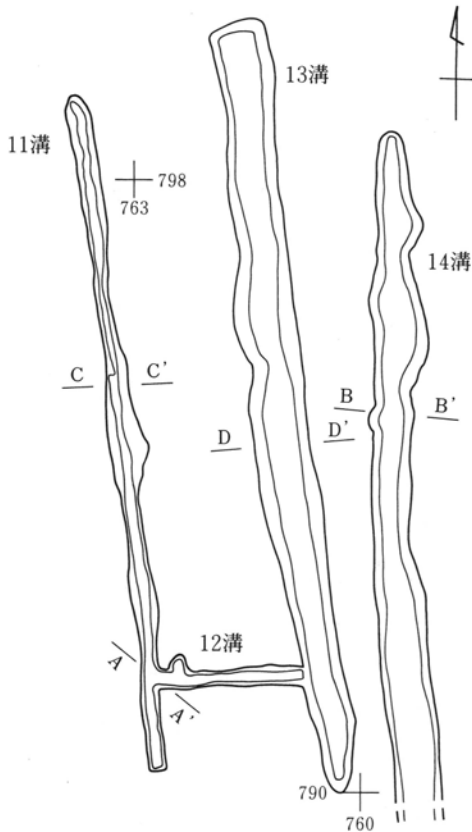




## 2. 溝

6条確認した。11～14号溝は調査区の南西に位置し、まとめて検出されている。13号溝は2面13号溝とほぼ同位置にあり、以前の地割りをトレースして掘削されたものであろう。11・14号溝はこれに併行し、12号溝は11・13号溝を連結するように直交している。35・36号溝はD区北東、1面1号掘立柱建物の南に位置し、主軸方向を同じくする。近接して併行するものの、12号溝のような連結する溝は検出

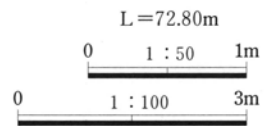
されなかった。全体に平坦な底面で、壁面は緩やかに立ち上がる。35号溝の東側には他の底面より10cmほど低い箇所と浅いピット状の落ち込みがあり、36号溝は西側に中段がある。遺物は少量の近現代陶磁器片のほか、14号溝より中世瓦が、35号溝より中世すり鉢が出土した。掘削時期は確認面より近世以降であるが、溝の用途は不明である。個別データは、P17の一覧表を参照されたい。



D区1面11・12溝

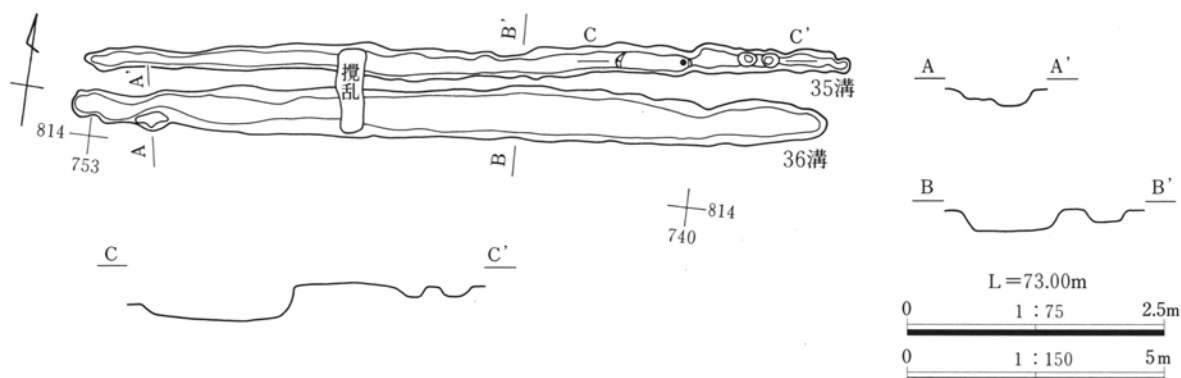
1. 黒褐色土。しまりがやや強い。灰黄褐色砂質土を少量含む。

D区1面11～14号溝





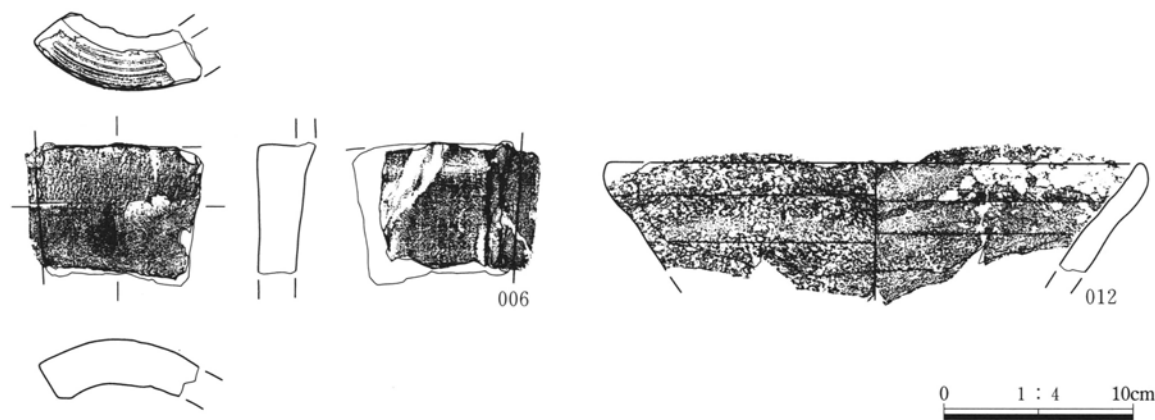
2. 溝



D区1面35・36号溝

D区1面溝一覧表

番号	位置	規模(長さ×幅×深さ)m	重複	遺構図	遺物図	PL. No
D区11	790・795-760	8.97×0.19~0.51×0.02~0.17	12号溝	P 16		
D区12	790-760	1.90×0.29~0.47×0.05~0.13	11・13号溝	P 16		
D区13	790~800-760	10.29×0.54~0.81×0.02~0.20	12号溝	P 16		
D区14	785~795-755	8.60×0.46~0.71×0.04~0.14	なし	P 16	P 17	47
D区35	815-735-750	10.04×0.20~0.40×0.11~0.36	なし	P 17	P 17	47
D区36	810・815-735-750	9.91×0.37~0.76×0.22~0.44	なし	P 17		



D区1面溝出土遺物

D区1面溝遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴		残存状態備考
012	軟質陶器すり鉢	D区35溝埋没土	口径 (28.0) 底径 - 器高 5.7+	口縁部下で器厚を減じた後、玉縁状とする。燻し焼成。器表が一部剥離する。残存部下位は使用により摩滅する。		体部上位以上1/4残。中世。
番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態備考
006	瓦丸	D区14溝埋没土	長さ 7.6+ 幅 8.8+ 厚さ 1.9~2.4	①透明~白色鈹物 ②灰 ③還元・硬質 ④並	有段。布目細かい。布の縷り合わせ痕なし。粘土板の接合面不明。粘土板の剥取条痕なし。回転条痕あり。側面取回数2。芯型2枚割。県外産。	段部周辺の破片。13世紀。

## 3. 土坑

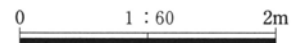
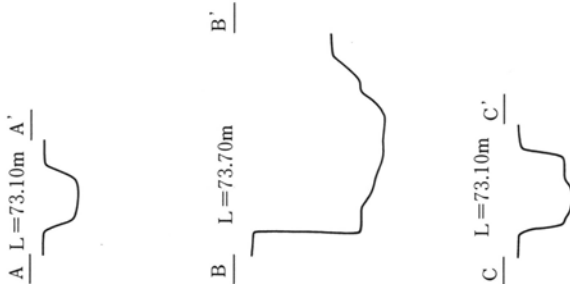
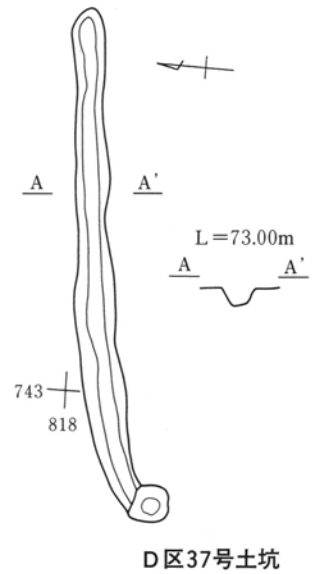
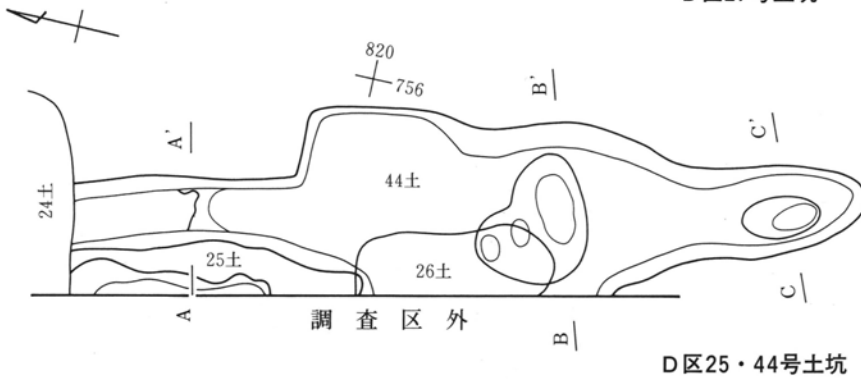
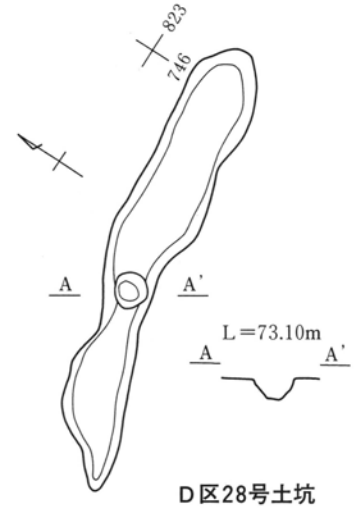
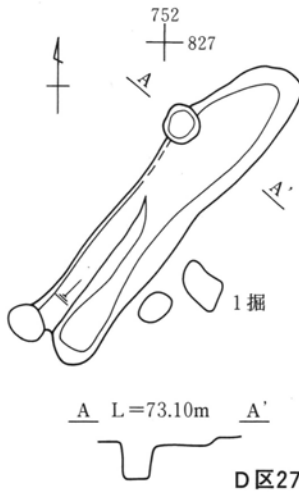
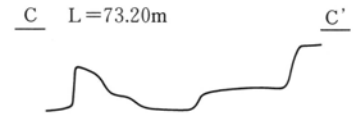
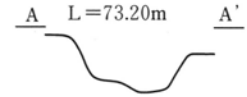
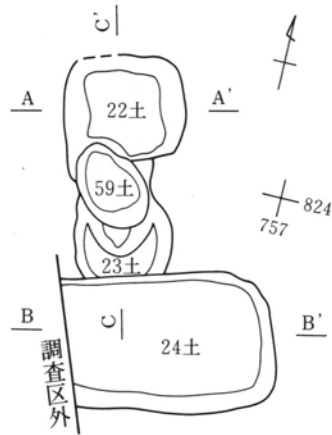
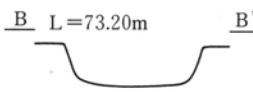
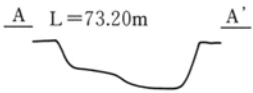
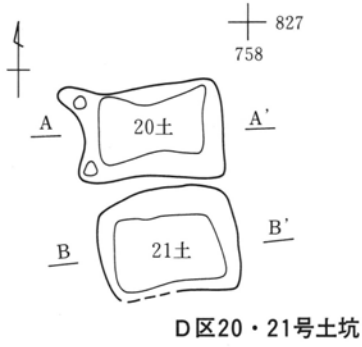
D区北東を中心に、21基の土坑を検出した。基本的に散在して分布するが、西側に隅丸方形の土坑が4基(20・21・22・24号土坑)南北に並ぶ。主な遺物は24号土坑肥前青磁皿、26号土坑中世軟質陶器鍋、

28号土坑瀬戸・美濃陶器水滴、37号土坑寛永通宝、56号土坑中世常滑甕?などである。遺構の時期は、確認面より近世以降と考えられる。個別データは土坑一覧表を参照されたい。

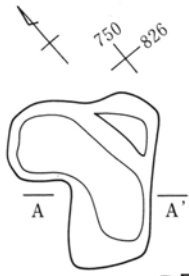
D区1面土坑一覧表

番号	位置	平面形	規模(m)	重複	遺構図	遺物図	PL. No	備考
D区20	825-755	隅丸方形	1.27×0.76×0.37	なし	P19			西隅部にピットをもつ
D区21	820・825-755	隅丸方形	1.11×0.83×0.33	なし	P19			
D区22	820-755	隅丸方形	0.98+×0.96×0.42	59号土坑	P19			近現代磁器碗、土器鉢
D区23	820-755	不整楕円形	0.89+×0.78+×0.34	22・24・59号土坑	P19			肥前青磁皿、陶器碗
D区24	820-755	隅丸長方形	1.64+×1.11×0.51	23・25・44号土坑	P19			平坦な底面、肥前青磁皿、腰錆碗、在地系焙烙
D区25	820-755	不明	1.59+×0.30+×?	24号土坑	P19			陶器急須、瀬戸・美濃磁器碗
D区26	815-755	不明	1.56×0.54+×?	44号土坑	P19	P20	47	中段をもつ、中世軟質陶器鍋、在地系土器皿
D区27	820・825-750	長楕円形	2.90×0.79×0.07	1面1号掘立柱建物	P19			西上端にピットをもつ、陶器碗
D区28	820-745	長楕円形	3.68×0.62×0.03	なし	P19	P20	47	中央にピットをもつ、瀬戸・美濃陶器水滴、陶器鉢、在地系焙烙、D区78号土坑と接合するすり鉢
D区37	815-740	長楕円形	4.09×0.31×0.16	なし	P19	P20	47	西端にピットをもつ、寛永通寶、腰錆碗、近現代小坏
D区44	815・820-755	不明	6.27+×1.51+×0.43	24・26号土坑	P19			
D区46	820・825-750	不整形	1.43×1.16×0.46	なし	P20			隅部に中端をもつ、3層の性格不明
D区47	810・815-750・755	不整形	1.62×1.56×0.40	なし	P20			複数の土坑からなるか、陶器壺、瀬戸・美濃磁器碗
D区49	805-750	隅丸長方形	1.85×0.76×0.21	なし	P20			平坦な底面
D区50	815-730	不整円形	1.33×1.12×0.35	なし	P20			
D区53	800-735	楕円形	1.17×0.87×0.23	なし	P20			平坦な底面
D区54	800・805-735	楕円形	1.27×0.75×0.15	なし	P20			
D区55	810-725	隅丸長方形	1.10×0.54×0.21	なし	P20			
D区56	805・810-720・725	不整形	2.86×1.53×0.41	なし	P20	P20	47	中世常滑甕?
D区58	805-720・725	楕円形?	1.06+×0.96×0.33	なし	P20			
D区59	820-755	楕円形	0.71+×0.49+×0.56+	22・23号土坑	P19			

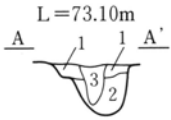
3. 土坑



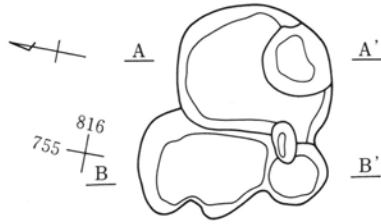
上増田島遺跡C・D区第1面



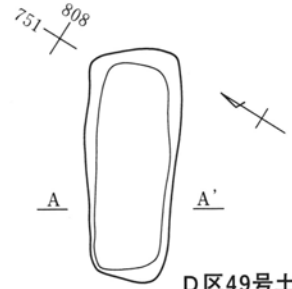
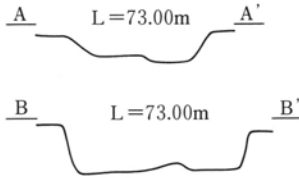
D区46号土坑



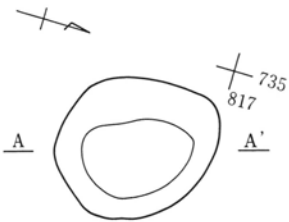
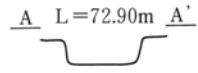
- D区46号土坑
1. 黒褐色土。しまりが強い。
  2. 暗褐色土。砂礫を含む。
  3. 黒褐色土。しまりが弱い。  
腐食した木片を含む。



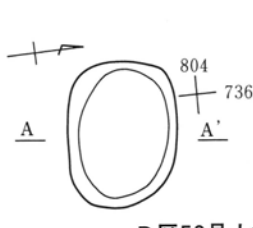
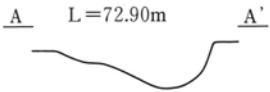
D区47号土坑



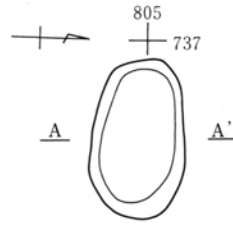
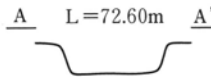
D区49号土坑



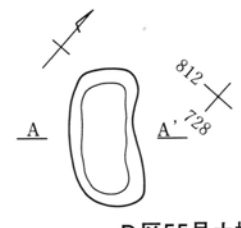
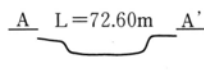
D区50号土坑



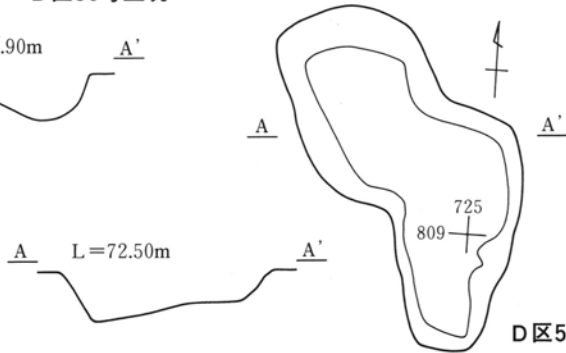
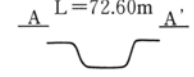
D区53号土坑



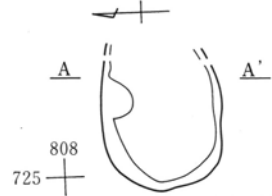
D区54号土坑



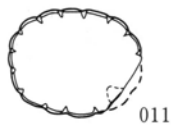
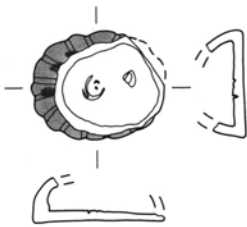
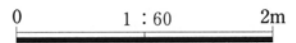
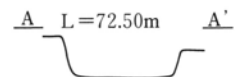
D区55号土坑



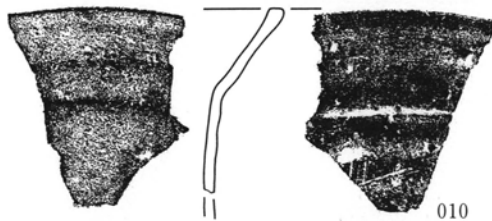
D区56号土坑



D区58号土坑



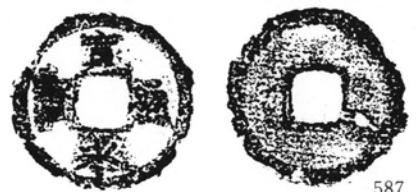
011



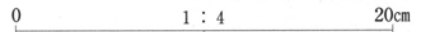
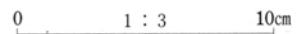
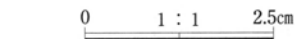
010



013



587



D区1面土坑出土遺物

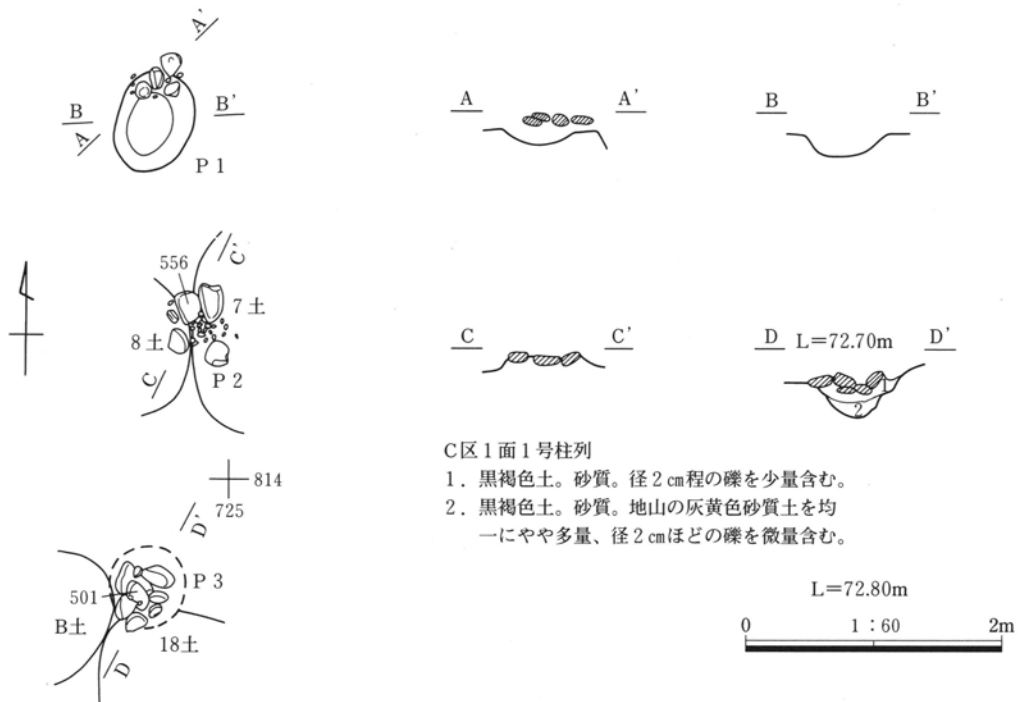
D区1面土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
010	軟質陶器 鍋	D区26土 埋没土	口径 (27.6) 底径 — 器高 9.8+	器壁が薄い。口縁部は大きく外形する。	口縁～体部上半破片。 中世。
011	陶器 水滴	D区28土 埋没土	長さ 5.2 幅 4.2 器高 1.5+	瀬戸・美濃。上部欠損の為、形状不明。平面形は花卉状を為す。染め付け文様が一部残る。内面と底部を除き灰釉を施す。	体部下半～底部破片。御深井。
013	陶器 甕?	D区56土 埋没土	口径 — 底径 — 器高 3.6+	常滑。酸化焰焼成の甕か壺。	体部破片。 中世。
587	銅銭 寛永通寶	D区37土 埋没土	銭径 2.46 孔径 0.66~0.67 厚さ 0.09 重量 1.8	無背。	ほぼ完形。小孔あり。歪む。

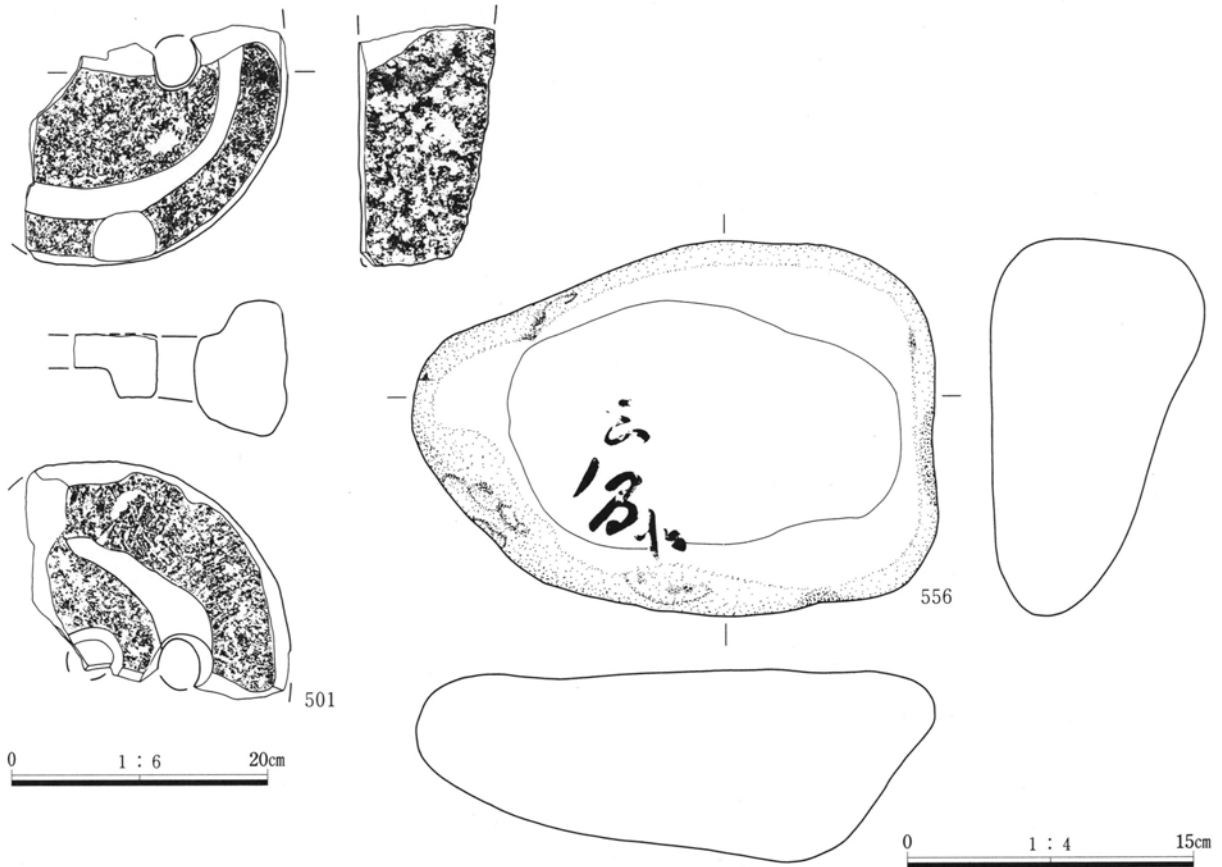
### 4. 柱列(PL.4・47)

725ライン付近で礫を伴うピットを3基検出した。P2には掘り込みが認められないものの、南北に沿ってほぼ等間隔に並ぶこと、礎石が出土していることから、建物の柱穴と判断した。礫は礎石や根巻き石として使用されたものであろう。P1～P3間は約3.8m、P1～P2間は約1.7m、P2～P3間は約2.2mである。P1は81×59×29cmで、平坦な底部からなだらかに立ち上がる。確認面が低い為に、礫はピットよりも高い位置で検出されたが、本来はこの高さまで遺構が存在したものと思われる。礫は扁平な河床礫で、ピットの中心よりも北東に外れた位置にまとまって出土した。P2はC区7・8号土坑の上層に位置する。

ピット状の掘り込みはもたず、径数cmの小石を大振りて扁平な河床礫が取り巻くように出土した。礫の出土レベルはP1とほぼ同一である。P3はC区18土・B土の上層に位置する。平面プランは記録されていないが、セクションより径67cm、深さ33cmを復元できる。湾曲した底面から、緩やかに立ち上がる壁面へ移行する。他の2基よりも30cmほど低いレベルから河床礫がまとまって検出された。遺物はP2出土の番付の記された礎石とP3出土の石臼の2点のみであり、明確な時期は判断できないが、番付の書体及び確認面から江戸時代以降のものと思われる。



C区1面1号柱列



C区1面1号柱列出土遺物

C区1面1号柱列遺物観察表

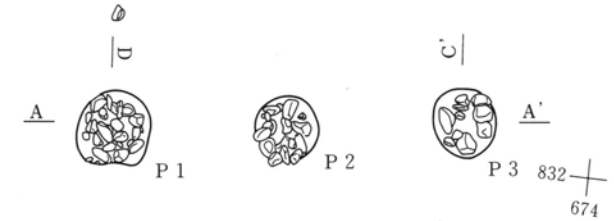
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴	残存状態 備考
501	石製品 粉ひき白 上白	3号ピット +46cm	上面径 約31 高さ 7.1~10.5 上縁幅 3.0 同高さ 2.6 含み 3.1 供給口径 4.5 芯穴径 約5.0 重量 3671 粗粒輝石安山岩	器表は雑な仕上げ。上縁及び上面内部は摩滅。底面すり合わせ部は摩滅し、目は僅かに残る。もの配りは浅く約1/4周する。	供給口・芯穴を含む1/4残。
556	石製品 礎石	2号ピット 72.54m	長さ 27.4 幅 19.8 厚さ 11.3 重量 7784 ひん岩	最大平面に薄く柱痕が残る。この面に墨で十字を切り、墨書「□ノ呂北」。	完形。墨書。

## II A・B区の遺構と遺物

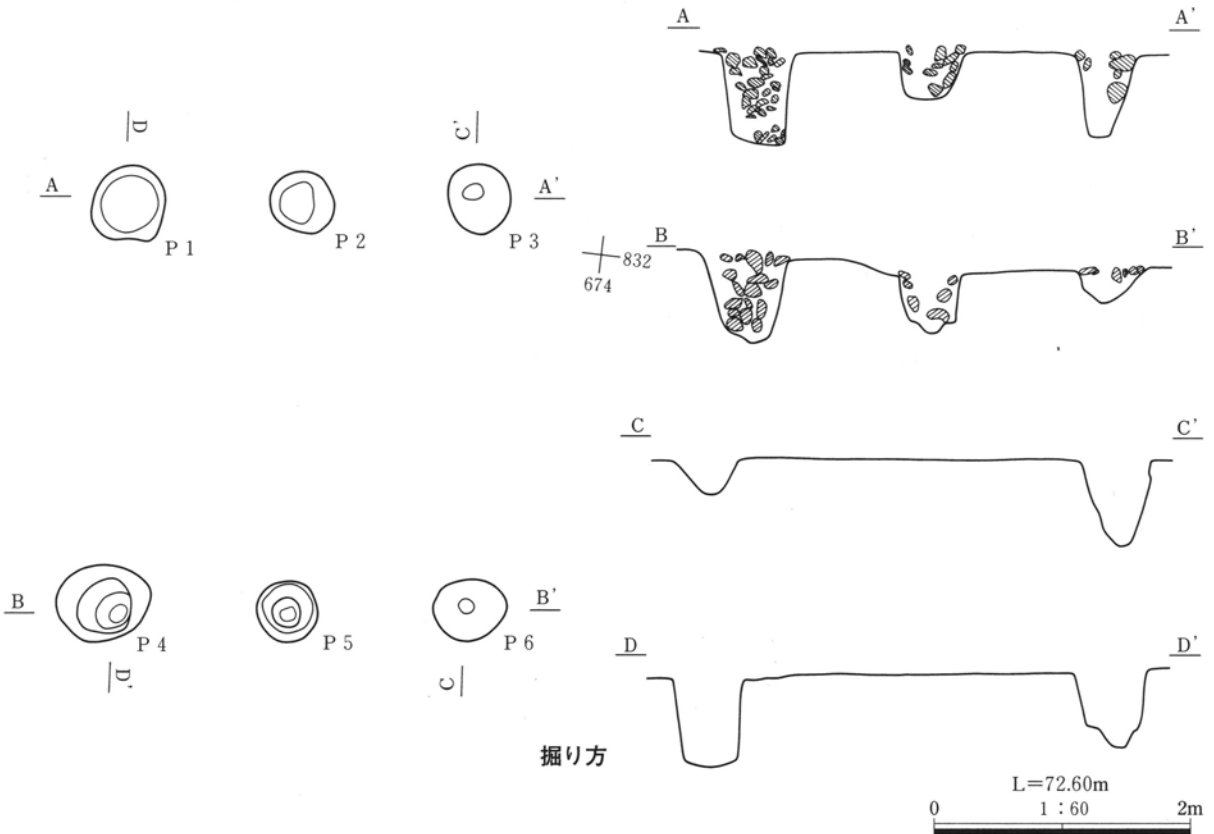
### 1. 掘立柱建物、柱列

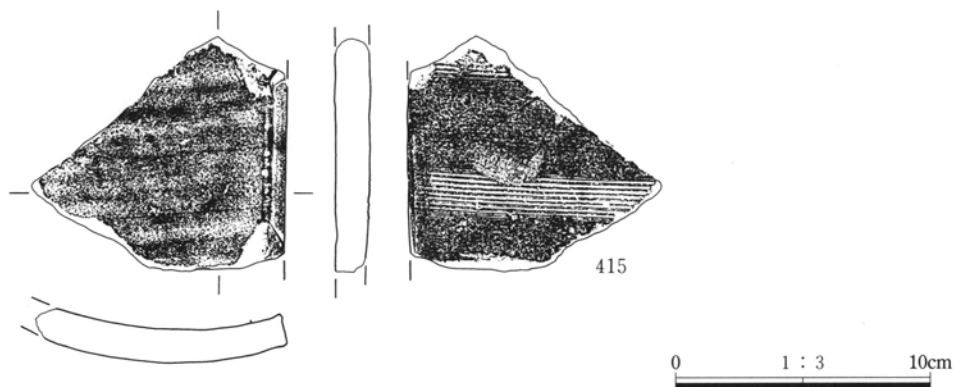
#### B区1号掘立柱建物(PL.5・6・47)

**位置** 825・830-670・675 **重複** なし。**形状・規模** 1間×2間の正方形。3.25×2.74m P1 径62×深さ73cm P2 51×47×38cm P3 55×48×70cm P4 74×61×77cm P5 径49×深さ46cm P6 58×49×27cm。隅部にあるP1・3・4はほぼ同じ深さだが、P6は浅い。柱間のP2・5は平面・断面とも同規模である。P4・5は底面付近で2段に掘り込まれ、柱を据え置くことを意識した造作であろう。**方位** -6° **埋没土** 堆積状況は不明だが、柱痕は観察できなかった。礎石はないものの、上層から下層にわたって根巻き石が検出された。**遺物** P4の周辺より土器竈が出土したほか、図示していないがP1・P4より在地系焙烙が出土した。**所見** 遺物より近世以降のものである。規模が小さいことや、礎石がないことから小屋掛けのような建物と思われる。



B区1号掘立柱建物





B区1号掘立柱建物出土遺物

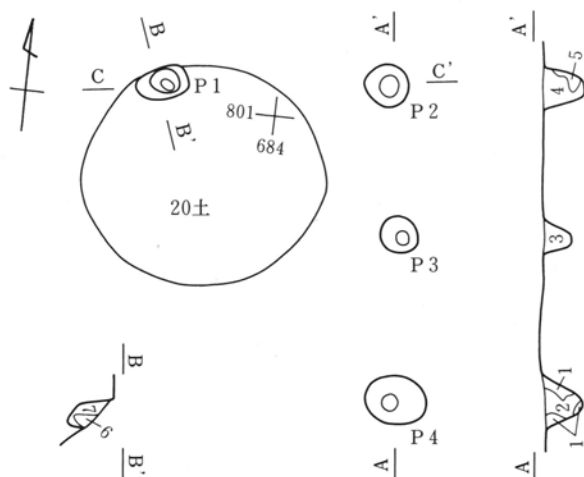
B区1号掘立柱建物遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
415	土器 竈	4号ピット 周辺+4cm	口径 - 底径 - 器高 9.3+	在地系。外面に掻き目を施す。	焚き口破片。

A区2号掘立柱建物

位置 795・800-680・685 重複 2号掘立柱建物  
→20号土坑 形状・規模 P3・4に対応するピットは  
検出できなかったが、2間×1間の整った長方形を  
予想する。2.48×1.72m P1 49×38×33cm P2  
31×28×22cm P3 径35×深さ32cm P4 41×24×

35cm。方位 -7° 埋没土 ピットごとに異なる  
様相である。P1・4には柱痕の可能性のある土層(2・  
6層)が確認でき、P2・3は粘質土が主体をなす。遺  
物 出土しなかった。所見 詳細な時期は不明だ  
が、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



A区2号掘立柱建物

A区2号掘立柱建物

1. 暗灰黄色土。粒子が細かい。砂質。黄色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。砂質。柱痕か。
3. 灰黄褐色土。粘質土と砂の混土。炭粒を微量含む。
4. 暗灰黄色土。粒子が細かい。粘質。黄色砂粒を少量、パミス・炭粒を少量含む。
5. オリーブ褐色土。4層と地山の黄色砂質土の混土。
6. 黒褐色土。しまりがやや弱い。柱痕か。
7. 黒褐色土。1層より黒味が強い。黄色土粒・鉄分凝集粒を少量含む。

L=72.40m  
0 1:60 2m

A区1号柱列(PL.6・7)

位置 795・800-690 重複 なし。形状・規模  
長さ 3.98m S1~P1間 1.48m P1~P2間 1.14m

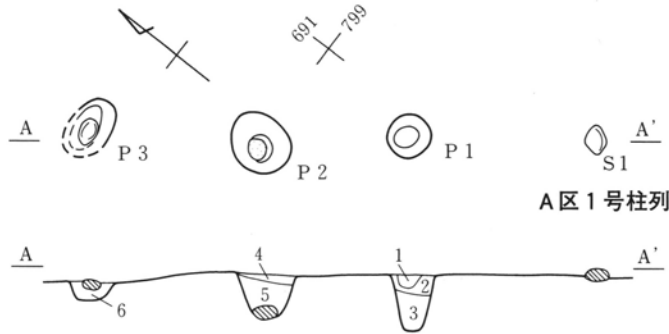
P2~P3間 1.36m P1 径35×深さ45cm P2 52×  
45×38cm P3 (52)×33×16cm。礎石と思われるS1  
にピット状の掘り込みは確認できなかった。確認面



1. 掘立柱建物、柱列

が低いために削られてしまったか、本来礫のみなのか不明である。方位  $-36^\circ$  埋没土 明確な柱痕は確認できなかった。P2底面の礫は礎石であろう。P3確認面レベルの礫も6層中に埋め込まれており、礎石の可能性が高い。遺物 図示していないが

P3より在地系焙烙が出土した。所見 直線的に配置されており、柵列または建物の一部であろう。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



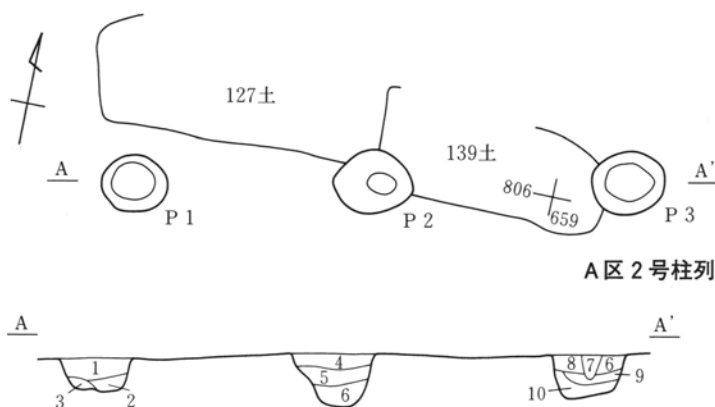
A区1号柱列

1. 黒褐色土。粒子が細かい。柱痕か。
2. 暗灰黄色土。砂質。黒褐色土ブロックを微量含む。
3. 暗灰黄色土。砂質。黒褐色土ブロックをやや多量含む。
4. 黄褐色土。粒子が細かい。パミス・砂を不均等に少量含む。
5. 灰黄褐色土。砂質。鉄分凝集粒をやや多量含む。
6. 暗褐色土。

A区2号柱列

位置 805-655・660 重複 プラン確認より127・139号土坑→2号柱列 形状・規模 長さ 3.89m P1~P2間 1.94m P1 52×44×27cm P2 64×52×42 P3 58×50×35cm 方位  $78^\circ$  埋没土 P1の底面に粘度のある土を用いる。P3に柱痕が観察できる。礎石・根固め石は検出されなかった。遺物 出土しなかった。所見 等間隔で直線的に配

置されていること、P3が柱痕をもつことから柵列または建物の一部と判断する。P1から西への延長線上、およそ柱間2間ごとに104号土坑、102・101号土坑が、P3から北への延長上、柱間2間の位置に125号土坑が位置する。104号土坑には柱痕と思われる土層が確認でき、同一の建物の可能性がある。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



A区2号柱列

1. 黄褐色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロックをやや多量、パミスを微量含む。
2. 暗オリーブ褐色土。やや粘質。パミスを微量含む。
3. 黒褐色土。やや粘質。黄褐色土ブロックをやや多量含む。
4. 黄灰色土。パミス・明黄褐色土粒を微量含む。
5. 黒褐色土。しまりが弱い。パミスを微粒含む。
6. 暗灰黄色土。パミスを微量含む。
7. 黄灰色土。柱痕。
8. 暗灰黄色土。
9. 黒褐色土。しまりが弱い。
10. 黒褐色土。

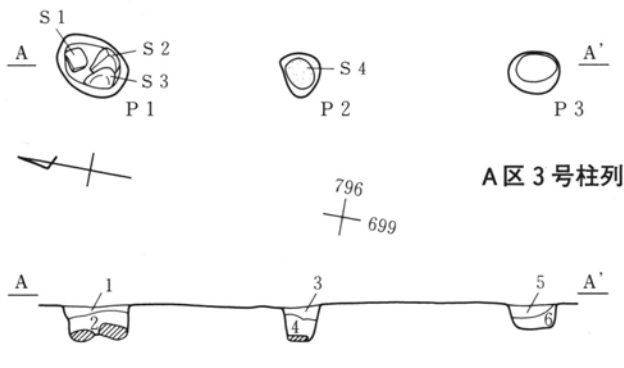
A区3号柱列(PL.7)

位置 790・795-695 重複 なし。形状・規模 長さ 3.48m P1~P2間 1.65m P1 60×45×29cm P2 35×33×28cm P3 40×32×19cm。P1・2底面よ

り扁平な河床礫を用いた礎石(S1・4)が検出された。重なって出土したS2・3は稜が強く、根固めに用いられたと思われる。方位  $-10^\circ$  埋没土 全て地山の黄色系砂質土を含まない黒褐色土を主体と

し、他の掘立柱建物・柱列と異なる様相である。  
遺物 出土しなかった。所見 等間隔で直線的に配置されていること、礎石をもつことから建物の一

部と判断する。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



A区3号柱列

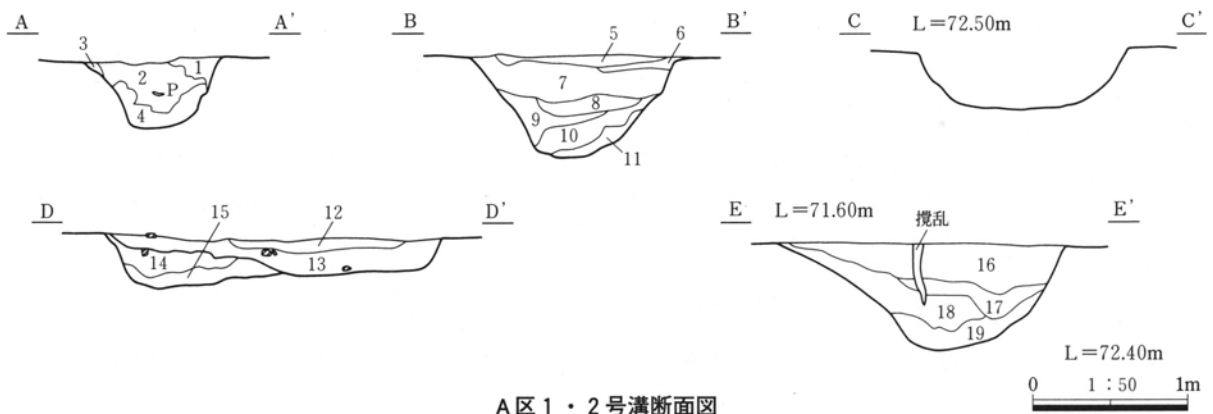
1. 黒褐色土。パミスを少量、径1cm程の礫を微量含む。
2. 黒褐色土。パミスを少量含む。
3. 黒褐色土。
4. 暗褐色土。しまりが弱い。
5. 黒褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫を微量含む。
6. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色細砂ブロックをやや多量含む。

## 2. 溝

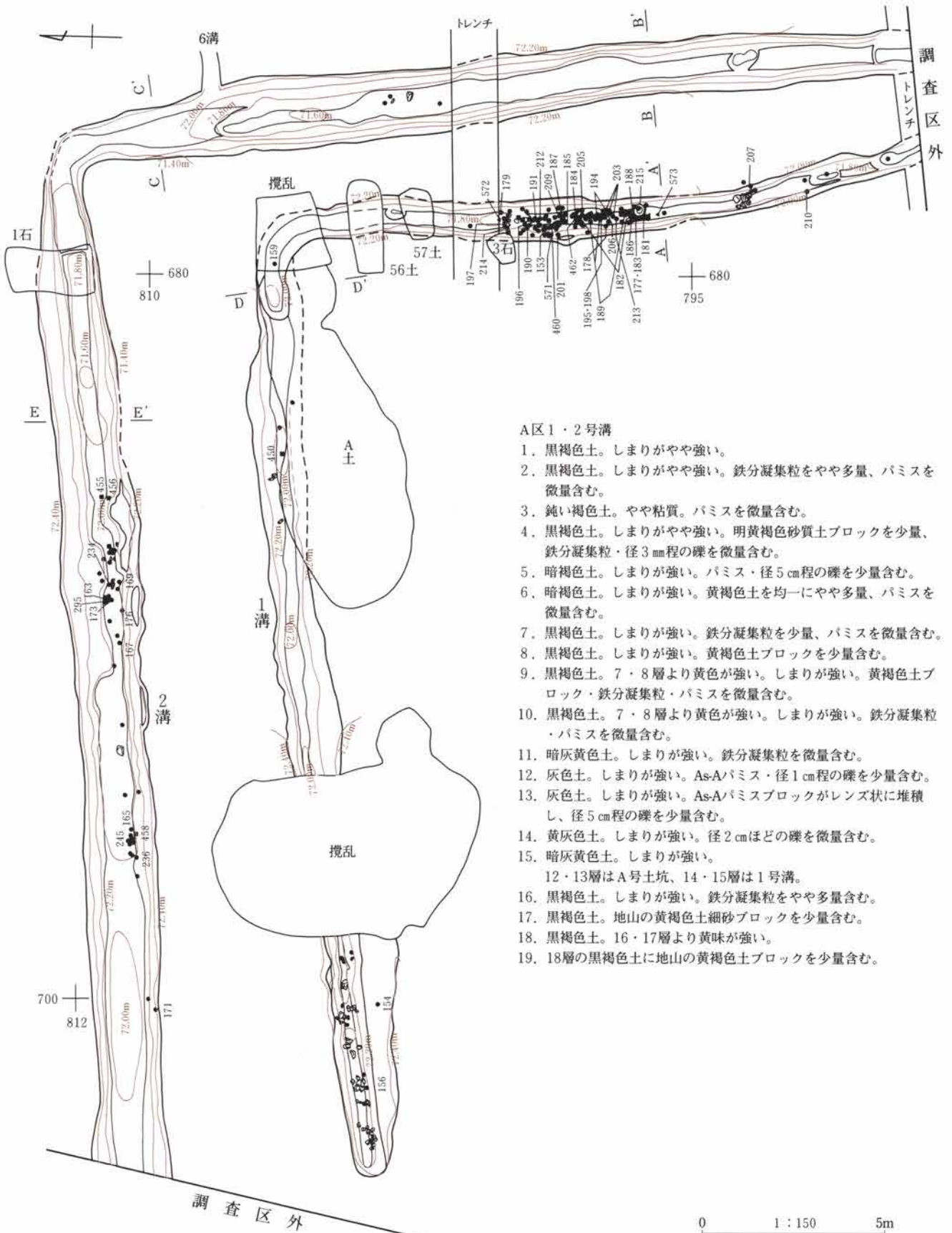
### A区1号溝(PL.7・8・47~49)

位置 785~805-675~700 2号溝に併行し、最短で東側1.65m、北側3.41mの距離にある。重複 1号溝→A号土坑、56・57号土坑、3号集石土坑 形状・規模 長さ約43.7m 幅0.6~2.10m 深さ0.5m 全体に2号溝より規模が小さい。806-679付近を隅部とし、東西及び南北方向にのびる。795ライン付近でやや東寄りに走向を変える。西は705ライン付近で止まり、調査区外へ続かない。延長上に溝状のC区4号土坑が位置するが、規模が異なる。やや湾曲した平底と丸底の部分があり、壁面はなだらかに立ち上がる。681ライン付近で15cmほどの段をもって東側の底面が低くなる。埋没土 Aラインでは黒褐色土、Dラインでは黄灰色土を主体とする。い

ずれも自然堆積と考えられる。遺物 東側中央に集中している。肥前磁器碗・皿、肥前陶器碗・皿・鉢、瀬戸・美濃陶器碗・皿・すり鉢・花瓶、在地系土器香炉・皿、砥沢砥石、煙管、刀子などが出土した。154・155は17世紀のものである。西端付近では10~30cmほどの河床礫がまとまって出土した。所見 外側を巡る2号溝と同様、屋敷の外周を巡る区画溝であろう。二重で用いる例は少ないことから、新旧関係をもつ可能性があるが、人為による埋め戻しは認められない。出土遺物は2号溝が18世紀末から19世紀を中心とするのに対し、1号溝は18世紀代が中心となり、若干古い傾向を示す。遺構の時期は17世紀以降と思われる。



A区1・2号溝断面図

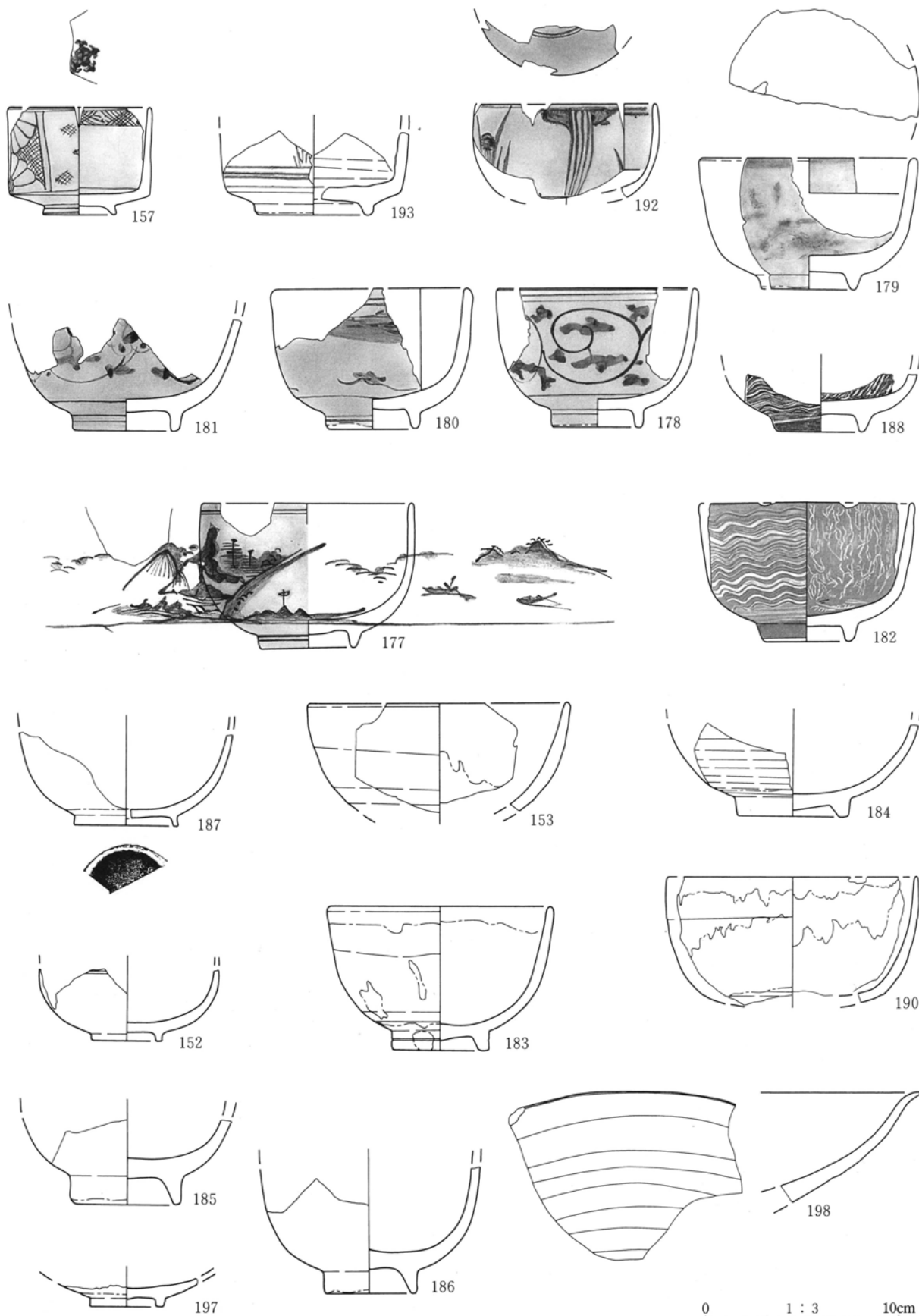


## A区1・2号溝

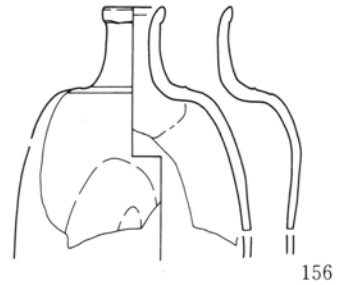
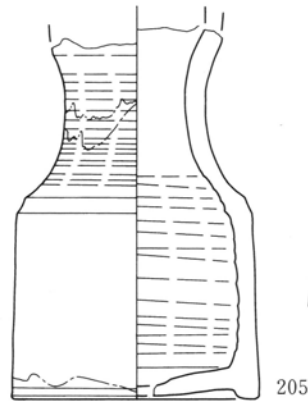
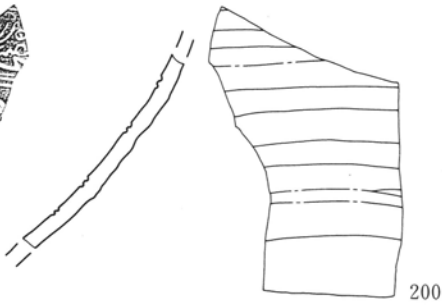
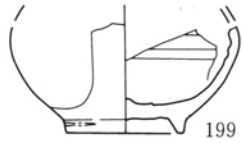
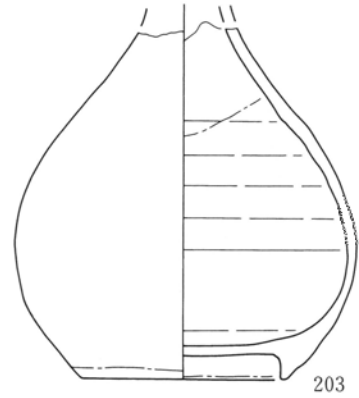
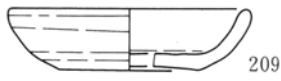
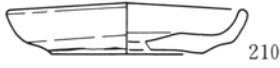
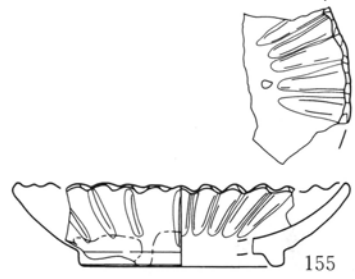
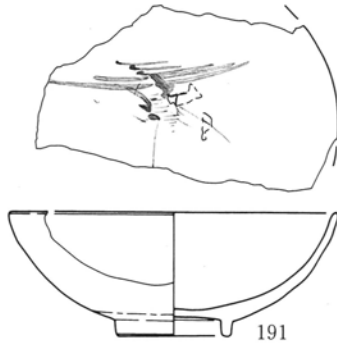
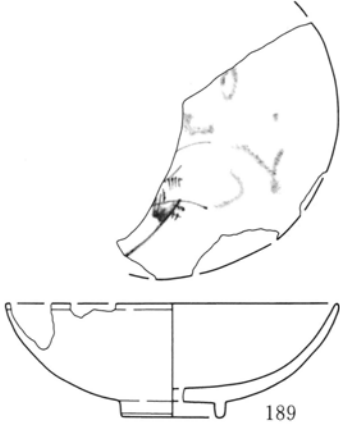
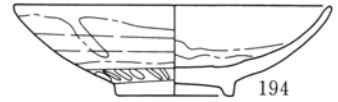
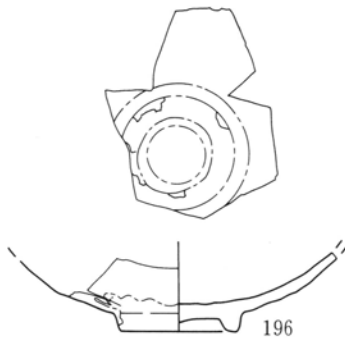
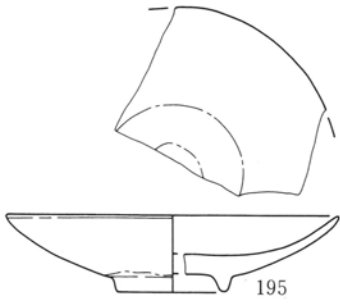
1. 黒褐色土。しまりがやや強い。
2. 黒褐色土。しまりがやや強い。鉄分凝集粒をやや多量、パミスを微量含む。
3. 鈍い褐色土。やや粘質。パミスを微量含む。
4. 黒褐色土。しまりがやや強い。明黄褐色砂質土ブロックを少量、鉄分凝集粒・径3mm程の礫を微量含む。
5. 暗褐色土。しまりが強い。パミス・径5cm程の礫を少量含む。
6. 暗褐色土。しまりが強い。黄褐色土を均一にやや多量、パミスを微量含む。
7. 黒褐色土。しまりが強い。鉄分凝集粒を少量、パミスを微量含む。
8. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを少量含む。
9. 黒褐色土。7・8層より黄色が強い。しまりが強い。黄褐色土ブロック・鉄分凝集粒・パミスを微量含む。
10. 黒褐色土。7・8層より黄色が強い。しまりが強い。鉄分凝集粒・パミスを微量含む。
11. 暗灰黄色土。しまりが強い。鉄分凝集粒を微量含む。
12. 灰色土。しまりが強い。As-Aパミス・径1cm程の礫を少量含む。
13. 灰色土。しまりが強い。As-Aパミスブロックがレンズ状に堆積し、径5cm程の礫を少量含む。
14. 黄灰色土。しまりが強い。径2cmほどの礫を微量含む。
15. 暗灰黄色土。しまりが強い。  
12・13層はA号土坑、14・15層は1号溝。
16. 黒褐色土。しまりが強い。鉄分凝集粒をやや多量含む。
17. 黒褐色土。地山の黄褐色土細砂ブロックを少量含む。
18. 黒褐色土。16・17層より黄味が強い。
19. 18層の黒褐色土に地山の黄褐色土ブロックを少量含む。

A区1・2号溝

0 1:150 5m

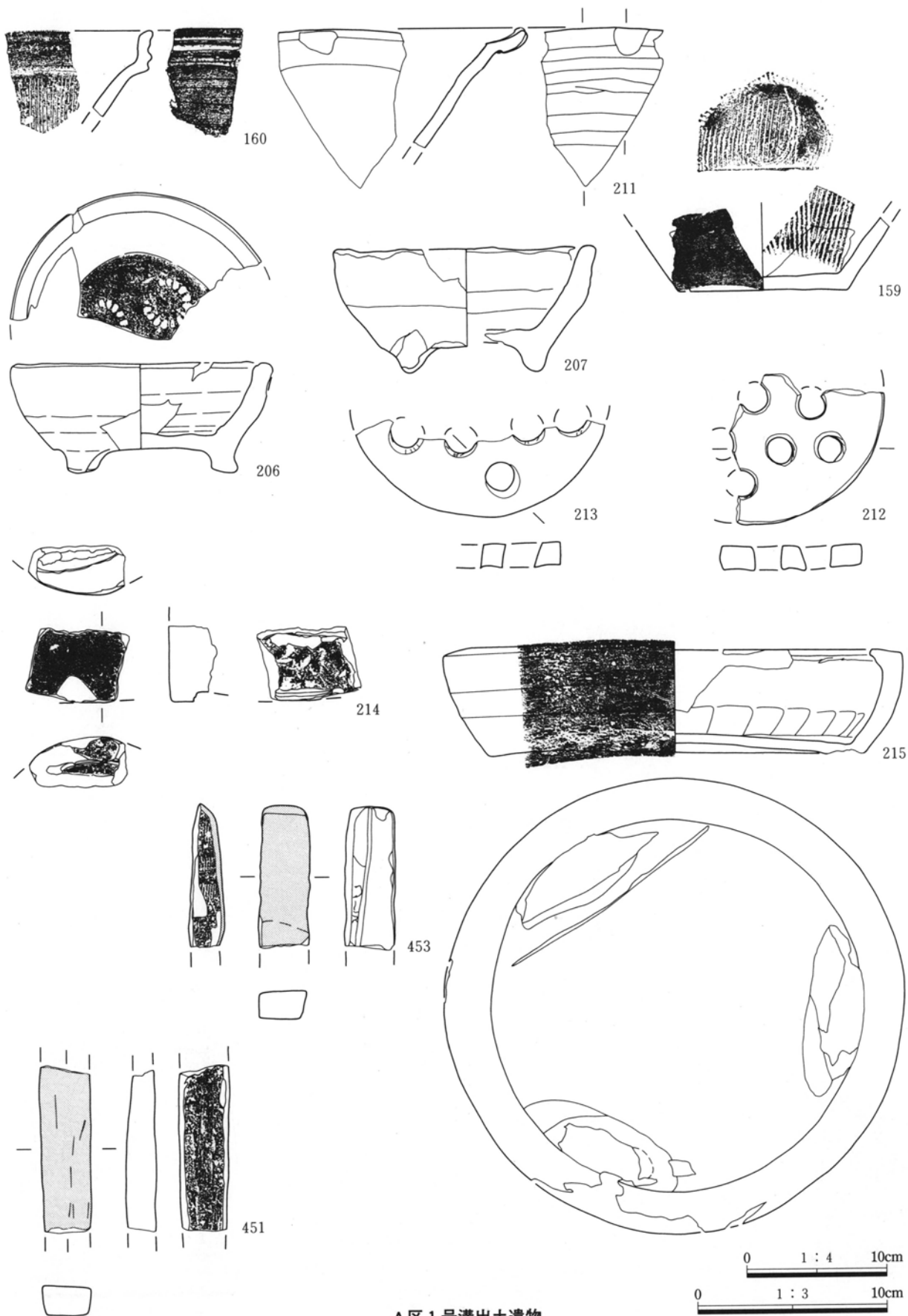


A区1号溝出土遺物



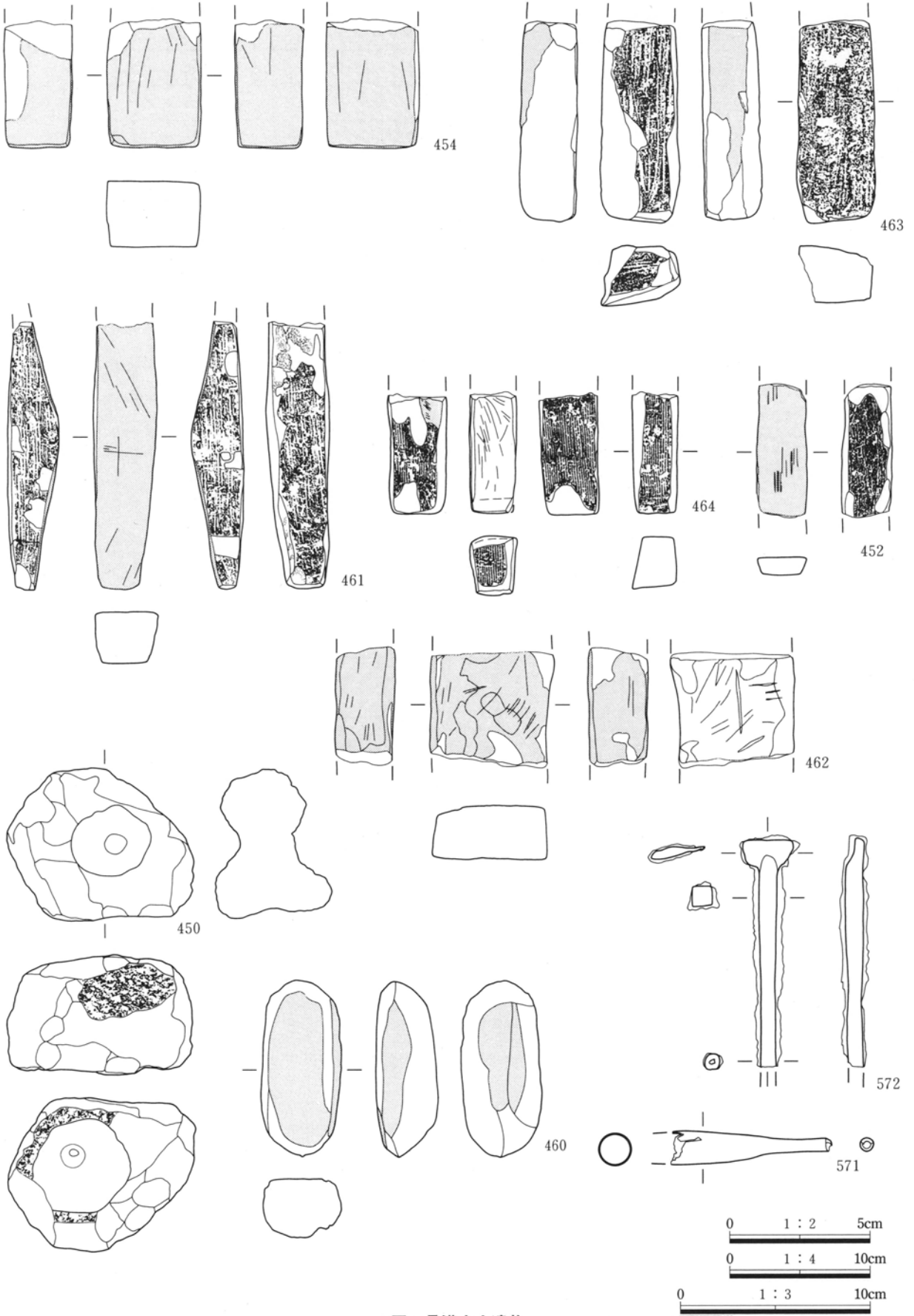
0 1 : 3 10cm

A区1号溝出土遺物

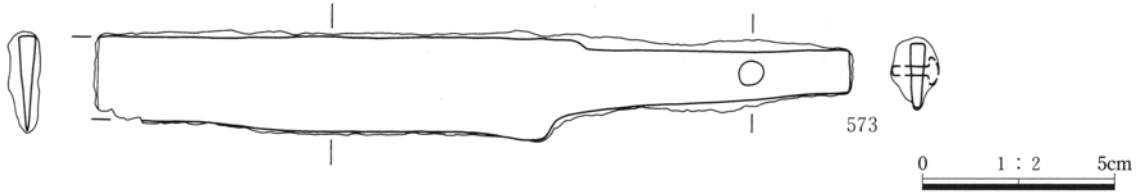


A区1号溝出土遺物

2. 溝



A区1号溝出土遺物



A区1号溝出土遺物

A区1号溝遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
152	陶器 腰鏝碗	埋没土	口径 — 底径 3.6 器高 3.7+	瀬戸・美濃。口縁部外面下位に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹線まで鉄釉を、内面から凹線まで灰釉を施す。鉄釉は錆色の発色。高台端部無釉。	口縁部～体部上半欠。 19世紀。
153	陶器 尾呂茶碗	+27	口径 (13.6) 底径 — 器高 5.6+	瀬戸・美濃。鉛釉の後口縁部内面を中心にウノフ釉を掛ける。	口縁～体部1/4。
154	陶器 皿	+2	口径 (11.6) 底径 6.6 器高 2.7	瀬戸・美濃。高台は断面三角形を呈する。全面に施釉するが、薄く白濁する。灰釉であろう。	口縁部5/6、体部～高台1/2欠。 17世紀。
155	陶器 菊皿	埋没土	口径 (13.2) 底径 (8.0) 器高 3.2	瀬戸・美濃。内面から高台脇灰釉。貫入する。見込み目痕1ヶ所。	底部を欠いて1/6残。 17世紀。
156	陶器 徳利	+18	口径 2.4 底径 — 器高 9.5+	瀬戸・美濃。体部外面窪ませる。外面施釉。	口縁～頸部、胴部上半の一部残。 19世紀。
157	磁器 筒形碗	埋没土	口径 (7.5) 底径 (3.8) 器高 5.6	肥前。外面菊花文。見込み五弁花コンニャク判。高台外に2条・脇に1条圈線を巡らす。	1/4残。 19世紀。
159	陶器 すり鉢	+30	口径 — 底径 (12.0) 器高 5.1+	瀬戸・美濃。底部回転糸切り無調整。錆釉を施し、底部外面の釉を拭う。	体部下位の一部、 底部1/4残。
160	陶器 すり鉢	埋没土	口径 — 底径 — 器高 6.1+	丹波。口縁部外反した後、上方に立ち上がる。外面に凹線2条巡らす。	口縁部破片。
177	陶器 碗	+24	口径 11.0 底径 5.0 器高 7.6	肥前。外面東屋山水文を丁寧に描く。陶胎染付。	口縁部1/4欠。
178	陶器 碗	+11	口径 (10.4) 底径 4.8 器高 7.2	肥前。外面唐草文。底部器壁薄い。陶胎染付。	口縁～体部上半1/4、以下1/2残。
179	陶器 碗	+43、埋没土	口径 (11.4) 底径 (4.9) 器高 6.8	肥前。外面の染め付けは滲みがひどく文様不明瞭。陶胎染付。	口縁～体部上半の一部、以下1/2残。
180	陶器 碗	埋没土	口径 (10.4) 底径 (4.6) 器高 7.3	肥前。外面染め付け。高台内は挟り込まれる。陶胎染付。	口縁部の一部、体部以下1/2残。
181	陶器 碗	+31	口径 — 底径 5.5 器高 5.8+	肥前。高台大きく外面の唐草文も丁寧に描く。呉須の発色も良。陶胎染付。	体部下半～底部残。
182	陶器 碗	+4～17	口径 (11.1) 底径 4.5 器高 7.3+	肥前。内面白土を皴状に、外面は波状に施す。高台端部を除き透明釉。	口縁～体部上半1/4、以下3/4残。 唐津。
183	陶器 尾呂茶碗	+24	口径 (11.4) 底径 5.0 器高 7.5	瀬戸・美濃。内面から高台脇に鉛釉を施し、口縁部にウノフ釉を掛ける。	口縁～体部1/3、底部1/2残。
184	陶器 碗	+22、埋没土	口径 — 底径 5.8 器高 4.8+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に貫入の入り灰釉を施す。	体部下半1/4、底部残。
185	陶器 呉器手碗	+13	口径 — 底径 5.5 器高 4.4+	肥前。高台の挟りは浅い。高台端部摩滅する。細かい貫入の入り透明釉を施す。	体部下半～底部残。
186	陶器 呉器手碗	+25	口径 — 底径 4.6 器高 6.6+	肥前。高台内の挟りは深い。	口縁部欠。
187	陶器 碗	+19	口径 — 底径 (5.2) 器高 4.9+	肥前。京焼風。高台幅は狭く、高台内の挟りは浅い。内面から高台脇に貫入の入り透明釉を施す。高台内不明銘押印。	体部下半～底部1/4残。



## 2. 溝

188	陶器碗	+4	口径 底径 器高	— 4.4 3.0+	唐津。内面白土を皴状に、外面は波状に施す。高台端部を除き透明釉。	体部下半～底部1/2残。
189	陶器皿	+3～26	口径 底径 器高	(13.0) (4.0) 4.5	肥前。内面から高台脇に細かい貫入の入る釉を施す。内面鉄絵具で山水文を描く。高台内不明押印。	3/8残。押印は「新」か。
190	陶器尾呂茶碗	+49、遺構外	口径 底径 器高	(13.0) — 6.6+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に鉛釉を施し、口縁部にウノフ釉を掛ける。貫入入る。	口縁～体部1/4。
191	陶器皿	+32	口径 底径 器高	(12.9) 4.4 4.9	肥前。京焼風。高台幅狭い。内面鉄絵具で樹木を描く。内面から高台脇透明釉。細かい貫入入る。	口縁部1/4、体部下半1/2、底部残。
192	磁器丸碗	埋没土、2井埋没土	口径 底径 器高	(9.2) — 4.9+	肥前。外面に花卉文を描く。内面二重圏線を二ヶ所に巡らす。	口縁～体部3/8残。
193	磁器?	埋没土	口径 底径 器高	— (6.0) 4.3+	肥前。内面施釉。外面染め付け。	体部下半以下1/4残。
194	陶器皿	+32～33	口径 底径 器高	12.4 4.6 3.6	肥前。青緑釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。	口縁部一部欠。内野山。
195	磁器青磁皿	+1	口径 底径 器高	(13.0) (4.4) 3.1	肥前。内面から高台脇青磁釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。釉厚が薄く釉調が青白磁的。	1/4残。波佐見系。
196	陶器皿	+13、A土埋没土	口径 底径 器高	— 4.5 3.2+	肥前。青緑釉。内面二重の蛇の目釉剥ぎ。高台脇以下無釉。	体部下半1/2、底部残。内野山系。
197	陶器碗?	+52	口径 底径 器高	— 3.7 1.5+	京・信楽系。内面から高台脇に細かい貫入の入る灰釉を施す。高台の削り出しはシャープ。見込み円錐ビン痕3ヶ所残る。	体部下半～高台残。
198	磁器青磁皿	+1	口径 底径 器高	(28.5) — 5.8+	肥前。口縁部小さく外反する。体部内面に浅い凹線巡る。外面に轆轤の凹凸顕著。	口縁～体部破片。
199	磁器瓶	埋没土	口径 底径 器高	— (4.6) 4.3+	肥前?。外面染め付け不明瞭。透明釉は濁る。内面無釉。胎土は鈍い橙色を呈する。	体部下半1/4、底部1/2残。焼成不良。
200	陶器三鳥手鉢	埋没土	口径 底径 器高	— — 7.6+	肥前。内面に文様をスタンプし、内面器壁全体に白化粧を施す。	体部破片。
201	陶器皿	+35	口径 底径 器高	(13.2) (7.8) 2.5	瀬戸・美濃?。高台脇稜を為す。全面に施釉するが、釉が白濁し、種類不明。	1/8残。焼成不良。
202	陶器鬘水入れ	埋没土	口径 底径 器高	— — 3.9	瀬戸・美濃。外面鉄絵具を使用した型紙摺りで桜を描く。底部外面を除き灰釉。	口縁～底部外縁破片。
203	陶器徳利	+32～39	口径 底径 器高	— 8.0 14.9+	製作地不詳。胎土はやや緻密。高台は碁笥底状を呈し端部は白土掛けで無釉。高台内と外面は天目釉を施す。頸部から体部上位は禾目となる。	口縁～頸部、胴部の一部欠。
205	陶器花瓶	+36	口径 底径 器高	— (9.8) 14.7+	瀬戸・美濃。内外面に鉄泥を施す。内面の鉄泥は薄い。口縁部にウノフ釉を掛ける。底部外面無釉。	口縁部、胴部1/2欠。口縁部は人為に打ち欠いたか。
206	土器香炉?	+31～35	口径 底径 器高	(13.9) (9.5) 5.9	在地系。底部外面型作り痕。底部に3ヶ所脚を貼り付けると考えられる。見込み菊花状押印2ヶ所。口縁部器表剥離。	脚1ヶ所を含む。1/4残。
207	土器香炉	+10	口径 底径 器高	(13.8) (8.6) 6.7	在地系。底部に3ヶ所脚を貼り付けると考えられる。器表剥離。断面灰黒色。	脚1ヶ所を含む。3/8残。二次被熱か。
208	土器皿	埋没土	口径 底径 器高	(10.0) (6.4) 1.8	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み周縁強い撫でにより凹線状に窪む。口縁部煤附着。	口縁～体部1/4、底部ほぼ残。江戸時代。
209	土器皿	+26	口径 底径 器高	(9.6) (5.4) 2.4	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み螺旋状に浅く凹線状に窪む。	1/4残。
210	土器皿	+9、埋没土	口径 底径 器高	(9.4) 6.0 2.0	在地系。底部回転糸切り無調整。見込み中央窪む。体部外湾した後に内湾して立ち上がる。	3/8残。
211	陶器すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— — 8.6+	瀬戸・美濃。口縁部外反し、外方に折り返す。片口部は内面から小さく押し出すのみで不明瞭。	片口部を含む口縁～体部破片。
212	土器さな	+19	径 厚さ 孔径	(14.0) 1.2 約1.5	在地系。下面に型作り痕残す。	1/4残。

上増田島遺跡A・B区

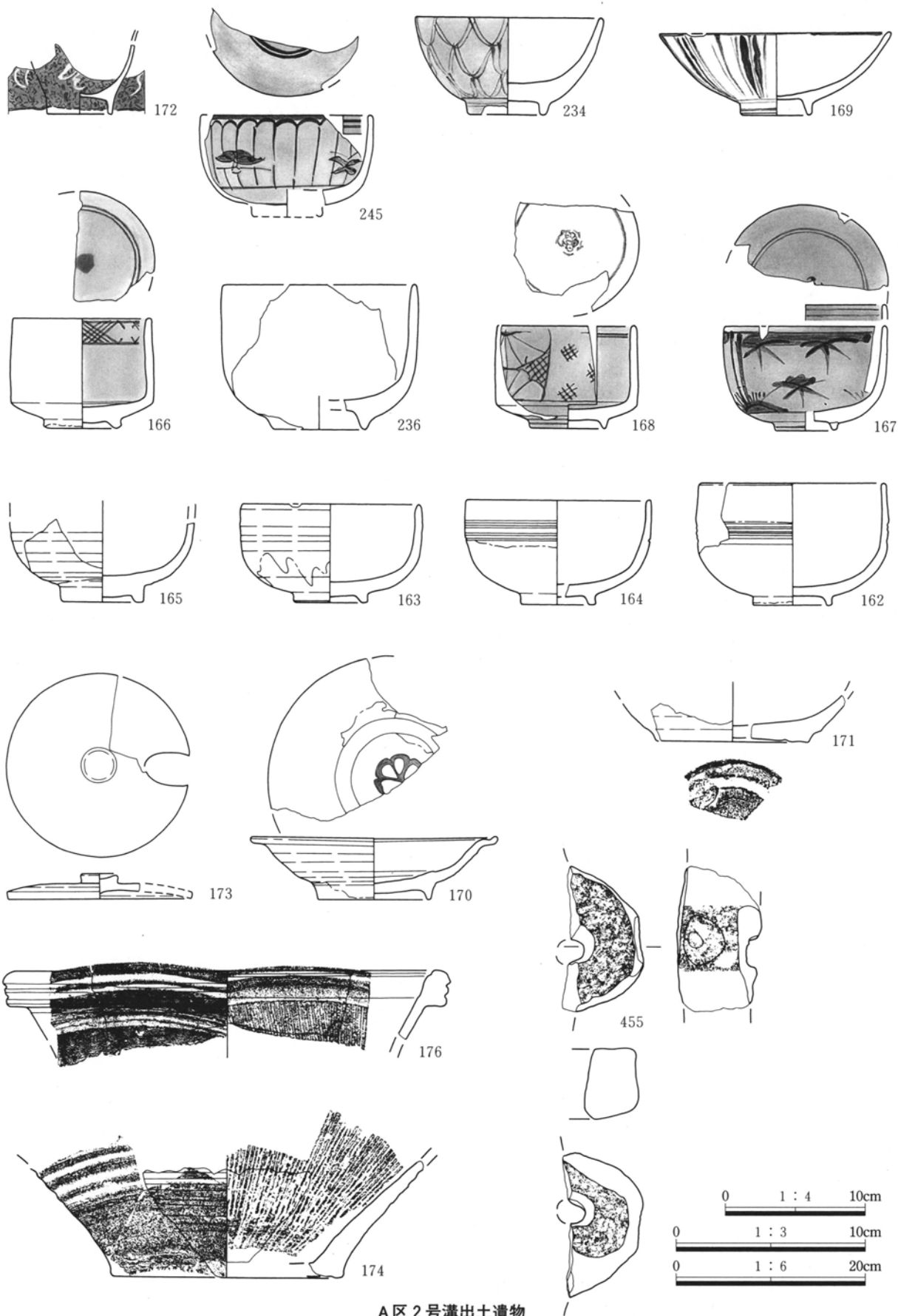
213	土器 さな	+10	径 (13.4) 厚さ 1.3 孔径 1.8	在地系。下面に型作り痕残す。	外縁1/4残。	
215	土器 火鉢?	+8、A区 遺構外	口径 32.4 底径 26.4 器高 8.0	在地系。口縁部内側に張り出す。外面底部から体部下端に型作り痕残る。基本的な成形は焙烙と同じ。底部に3ヶ所の脚貼り付け痕残る。燻し焼成。	口縁～体部一部欠。	
番号	種類 瓦種	出土 位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態 備考
214	瓦 軒丸	+36	瓦当部幅 6.8 長さ 5.1+ 外縁幅 1.7 文様区深さ 0.6	①透明～白色鈹物微量 ②灰 ③還元・硬質 ④並	割れ口に丸瓦接合部あり。燻しかかり二次被熱か。県外産。	瓦当部縁辺を含む破片。13世紀。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴		残存状態 備考
450	石製品	底面直上	長さ 10.8 幅 13.3 高さ 8.6 重量 1008.0 粗粒輝石安山岩	外形と思われる平坦な加工面が一部に残り、方形状の製品か。2側面に円錐形の凹みを設ける。		破片。
451	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.8+ 幅 2.6 厚さ 1.1～ 1.5 重量 68.6 砥沢石	主に1面を使用し、湾曲する。他の3面に製作時の平磨痕が残る。		両端欠。
452	石製品 砥石	埋没土	長さ 7.2+ 幅 2.6 厚さ 0.8～ 1.0 重量 31.0 砥沢石	主に1面を使用し、反対面に製作時の歯磨痕が残る。断面台形を呈す。		両端欠。
453	石製品 砥石	埋没土	長さ 7.6+ 幅 2.7 最大厚さ 1.9 重量 56.3 砥沢石	主に2面を使用し、1面は中央付近で使用により屈曲する。この反対面にも使用の痕跡があり、荒い筋が入る。1面に製作時の歯磨痕が残る。		片端欠。
454	石製品 砥石	埋没土	長さ 6.8+ 幅 4.5～4.9 厚さ 3.4～3.6 重量 234.5 流紋岩	磨面は主に4面で、僅かに湾曲する。		片端欠。
460	石製品 砥石?	+41	長さ 9.4 幅 4.2 最大厚さ 3.2 重量 100.0 ニッ岳軽石	細長い原石を使用し、広狭4面の磨面をもつ。機能・対象物不明。		完形。
461	石製品 砥石	埋没土	長さ 14.3+ 幅 2.1～3.4 厚さ 0.9～2.7 重量 173.3 砥沢石	磨面は主に1面で、使用により中央付近で屈曲する。3面に製作時の歯磨痕が残る。		片端欠。
462	石製品 砥石	+19	長さ 6.1+ 幅 6.1～6.6 厚さ 3.1 重量 207.3 砥沢石	磨面は主に3面で、1面は使用により湾曲する。他の1面にも荒い筋状の使用痕が残る。		両端欠。器表の剥離が顕著。
463	石製品 砥石	埋没土	長さ 10.8+ 幅 3.7～4.1 厚さ 2.5～2.9 重量 187.5 砥沢石	磨面は主に2面で、他の3面に製作時の歯磨痕が残る。断面台形を呈す。		片端欠。大きく割れが入る。
464	石製品 砥石	埋没土	長さ 6.4+ 幅 2.2～2.5 厚さ 2.2～3.1 重量 82.0 砥沢石	磨面は主に1面で、使用により端部が屈曲かつ面全体が湾曲する。他の4面は製作時の歯磨痕が残る。		片端欠。
571	金属製品 煙管吸口	+56	長さ 5.6+ 最大径 1.2 口付け 径 0.5 重量 3.5	肩はなく口付けからなだらかに湾曲し小口側がやや窄まる。外面に緑青付着し内面は黒ずむ。		小口側と口付けの一部欠。
572	鉄製品 釘?	+32	長さ 8.2+ 平坦部幅 2.0 同厚 さ 0.1～0.4 軸部幅・厚さ 0.5～ 0.6 端部径 0.5 重量 12.9	端部は平面三角で扁平な形状をなす。軸部は先端ほど細く断面が四角から扁平な円形へと移行する。頭巻釘の端部が欠けたものか。		軸端欠
573	鉄製品 刀子	+11	長さ 19.6+ 刀身幅 2.2～2.6 刀身厚さ 0.4 茎幅 1.1～2.1 茎厚さ 0.3～0.5 重量 69.7	両区。刀身断面三角形。茎に目釘1ヶ所と僅かに柄の木質が残る。全体に錆の付着が顕著。		鋒欠。

A区2号溝(PL.7・8・49・50)

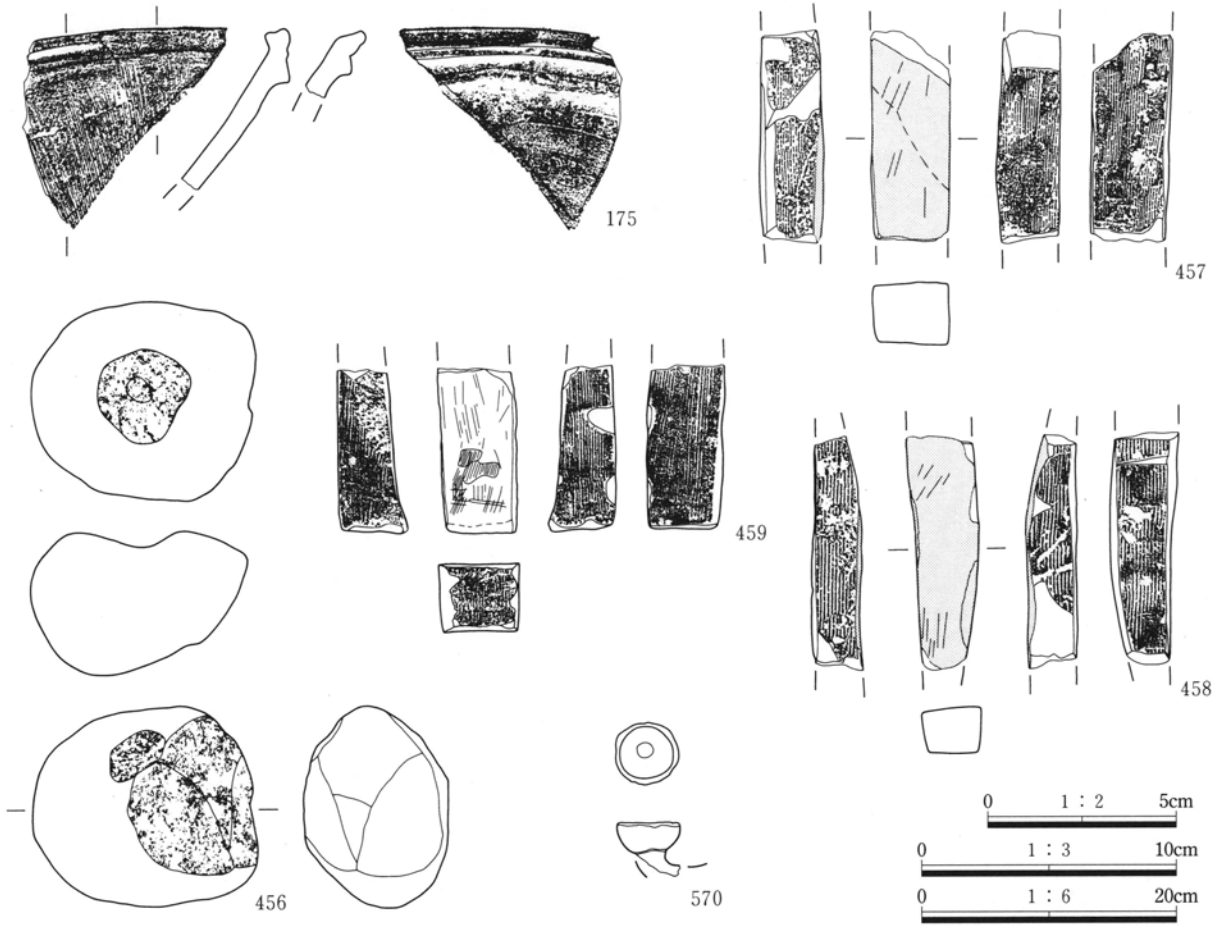
**位置** 785～810-670～700 1号溝に併行し、最短で西側1.65m、南側3.41mの距離にある。**重複** 2号溝→1号集石土坑、プラン確認より2号溝→1号道、6号溝 **形状・規模** 長さ約51.5m 幅 1.11～2.21m 深さ 0.70m 全体に1号溝より規模が大きい。812-677付近を隅部とし、東西及び南北方向にのびる。西は調査区外へ続き、延長上にD区10号溝が位置するが、規模が異なることから同一の溝ではない可能性がある。その場合、1号溝同様に調査区外で止まるか、南へ走向を変えることが予想される。やや湾曲した平底と丸底の部分とがあり、壁面はなだらかに立ち上がる。684ライン付近で西側が約30cm、808ライン付近で南側が約15cm、794ライン付近でピット状に約10cm、790ライン付近で南側が約10

cmの段をもって底面が低くなる。**埋没土** 黒褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。**遺物** 北側中央に集中している。肥前磁器碗、瀬戸・美濃磁器碗、瀬戸・美濃陶器碗・皿・灯明具蓋、粉ひき臼、砥沢砥石などが出土した。170・171が17世紀のものである。295はA区69・70号土坑と接合。**所見** 内側を巡る1号溝と同様、屋敷の外周を巡る区画溝であろう。二重で用いる例は少ないことから新旧関係をもつ可能性があるが、人為による埋め戻しは認められない。出土遺物は1号溝が18世紀代を中心とするのに対し、2号溝は18世紀末から19世紀が中心となり、若干新しい傾向を示す。遺構の時期は17世紀以降と思われる。

2. 溝



A区2号溝出土遺物



A区2号溝出土遺物

A区2号溝遺物観察表

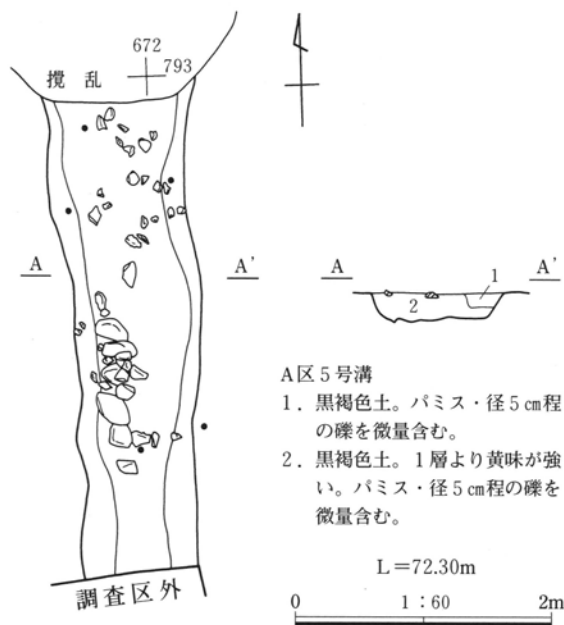
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
162	陶器 腰鏝碗	埋没土	口径 (10.0) 底径 4.2 器高 6.5	瀬戸・美濃。内面から口縁部外面に灰釉を、体部外面から高台内に錆釉を施す。外面釉境に螺旋状凹線を巡らす。	口縁部1/8、以下1/2残。
163	陶器 腰鏝碗	+22、A区埋没土	口径 (9.5) 底径 4.0 器高 5.3	瀬戸・美濃。下は錆釉を施す。高台端部のみ無釉。外面口縁部下に螺旋状凹線を3条巡らす。外面の灰釉は凹線下に達している。	口縁～体部上半3/4欠。
164	陶器 腰鏝碗	埋没土、A区68土埋没土	口径 (9.8) 底径 (4.0) 器高 5.6	瀬戸・美濃。口縁部外面下位に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹線まで鉄釉を、内面から凹線まで灰釉を施す。鉄釉は柿釉に近い発色。高台端部無釉。	1/2残。
165	陶器 碗	+18	口径 - 底径 4.4 器高 4.3+	瀬戸・美濃。高台径小さい。内面から高台脇鉛釉。	体部下半3/8、高台残。
166	磁器 筒形碗	埋没土	口径 (7.4) 底径 (3.7) 器高 5.9	肥前。青磁染め付け。外面青磁釉。内面染め付け。見込み不明文様。胎土青灰色。	口縁～体部1/4、底部1/2残。焼成不良。
167	磁器 丸碗	+21、埋没土	口径 (8.7) 底径 (3.2) 器高 5.5	肥前。外面雪持ち竹文。見込み文様欠損のため不明。	1/2残。
168	磁器 筒形碗	埋没土	口径 (7.5) 底径 4.0 器高 5.5	肥前。外面菊花文。見込み五弁花。	口縁～底部外縁3/4欠。
169	磁器 碗	+38、825-700	口径 (12.3) 底径 3.8 器高 4.3	瀬戸・美濃。飯碗。外面麦藁手状の文様を呉須で描く。口縁端部呉須を施す。	口縁～体部1/4、底部1/2残。近現代。
170	陶器 輪禿皿	+33	口径 (13.1) 底径 (6.0) 器高 3.3	瀬戸・美濃。口縁部は開き、端部を上方に小さく立ち上げる。見込み周縁を土手状に高くして釉を掻き取る。見込みに花卉状のスタンプ文を施す。内面から高台脇灰釉。スタンプ部に僅かに銅緑釉掛かる。	口縁～体部1/4、高台1/2残。17世紀中頃。

2. 溝

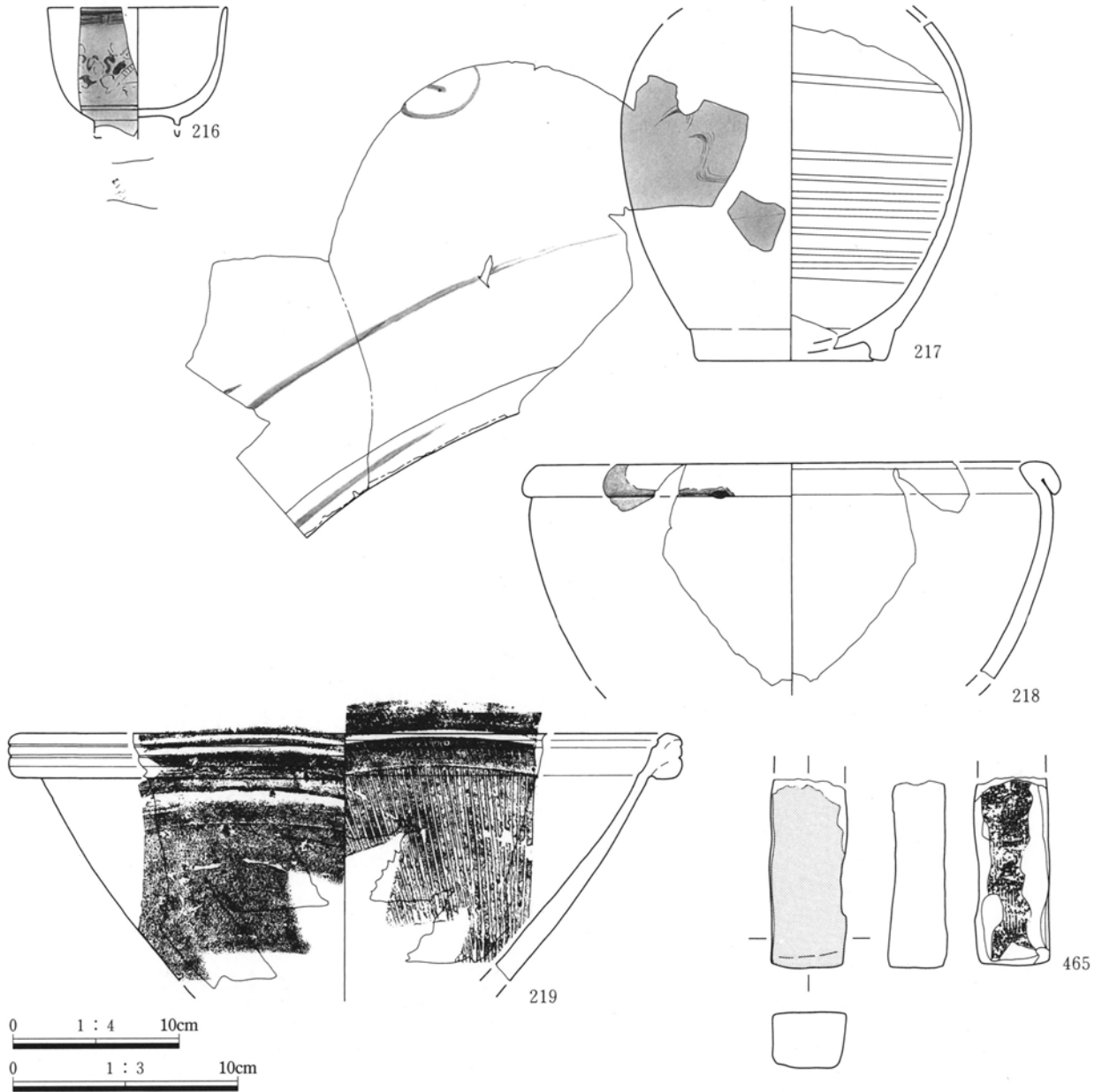
171	陶器 志野丸皿	埋没土	口径 底径 器高	— (8.0) 2.5+	瀬戸・美濃。高台は低く高台内に凹線を巡らす。高台内円錐ピン痕1ヶ所残る。	体部下半～底部1/4残。 17世紀中頃。
172	陶器 小 坏	埋没土	口径 底径 器高	— 3.5 3.7+	製作地不詳。胎土に黒色粒を多く含み灰釉を通して黒斑として見える。高台端部を除き灰釉を施す。高台端部は赤味がかって発色する。外面に白土による筒書き。	口縁～体部上半欠。
173	陶器 灯明具蓋	+17	口径 摘み径 器高	(9.8) 2.0 1.3	瀬戸・美濃。扁平な蓋で、低い摘みを貼り付ける。口縁部の一部を深い「U」字状に抉る。	口縁～天井部1/4欠。
174	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— (16.4) 8.4+	丹波・信楽系。底部外面砂付着。体部外面下位回転斲削り。体部外面轆轤目顕著。底部内面周縁から体部下位使用により摩滅。	体部下位～底部周縁1/4残。
175	陶器 すり鉢	埋没土、1・ 溝埋没土	口径 底径 器高	— — 8.5+	堺・明石。口縁部緑帯外面と内面突帯はシャープ。外面口縁部下斲削り。すり目は細かい。	片口部を含む口縁部破片。
176	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	(31.6) — 4.9+	堺・明石。口縁部緑帯を為し、内面の突帯は丸く僅かに盛り上がる程度となる。口縁端部内面は段を有する。外面口縁部下は斲削り。	口縁部1/8残。
234	磁器 碗	+15	口径 底径 器高	10.0 4.2 5.2	肥前。外面二重網目文。	口縁部・高台1/2欠。 波佐見系。
236	陶器 碗	+31	口径 底径 器高	(10.3) (4.8) 7.8	肥前。外面東屋山水文。陶胎染付。	口縁部一部、以下1/4残。
245	磁器 丸 碗	+18	口径 底径 器高	(9.2) — 4.8+	肥前。外面蓮弁状の文様中に不明文様を描く。内面二重圏線を2ヶ所巡らす。	口縁部1/4、体部1/2残。
455	石製品 粉挽き白 上 白	+37	長さ 15.3 幅 7.9 厚さ 8.8 挽 き手穴径 2.5~4.0 重量 922.1 粗粒輝石安山岩		上面を水平に、下面を本体に向かって斜面に仕上げ、断面台形を呈す。側部を楕円形にやや窪ませる。挽き手穴は両側から穿孔する。	挽き手部残。
456	石製品 ?	+37	長さ 10.4 幅 12.0 厚さ 7.5 重量 415.2 軽石		楕円状の円礫を加工。斜方向に平坦面を設け、反対面を円形に窪ませる。用途不明。	完形？。
457	石製品 砥 石	埋没土	長さ 8.2+ 幅 3.1 厚さ 1.9~ 2.4 重量 112.9 砥沢石		磨面は主に1面で、使用により斜方向に湾曲する。他の3面に製作時の歯齧痕が残る。	両端欠。
458	石製品 砥 石	+20	長さ 9.2+ 幅 1.7~2.6 厚さ1.1 ~1.9 重量 71.0 砥沢石		磨面は主に1面で、使用により湾曲する。他の3面に製作時の歯齧痕が残る。	両端欠。
459	石製品 砥 石	埋没土	長さ 6.5+ 幅 2.7~2.9 厚さ1.9 ~2.4 重量 82.5 流紋岩		磨面は主に1面で、使用によりやや湾曲する。他の4面に製作時の歯齧痕が残る。	片端欠。
570	金属製品 煙管雁首	埋没土	長さ 1.7+ 高さ 0.9+ 補強帯 径 0.8 火皿径 1.7 重量 2.7		火皿の縁に敲打痕。火皿の内面に製作時と思われる横方向の擦痕。首に補強帯。全体に緑青付着。	火皿、脂返しの上 半残。

A区5号溝(PL.8-50)

**位置** 785・790-670 **重複** なし。北側を攪乱で破壊される。**形状・規模** 長さ約4.0m 幅0.85~1.07m 深さ0.26mで、ほぼ南北にのびる。底面は平底で、壁面はなだらかに立ち上がる。**埋没土** 黒褐色土を主体とし、地山の黄色系砂質土が目立たない。**遺物** 肥前磁器碗・徳利、瀬戸・美濃陶器練り鉢、堺・明石すり鉢、砥沢砥石のほか、図示していないが肥前磁器皿、尾呂茶碗、在地系焙烙などが出土した。216が19世紀中～後半、他は18世紀末～19世紀である。また、北側に径10cmほどの礫が散在し、西上端の確認面レベル付近から径20~30cmの扁平な河床礫が並べて据え置かれていた。**所見** 遺物より18世紀末以降のものである。



A区5号溝



A区5号溝出土遺物

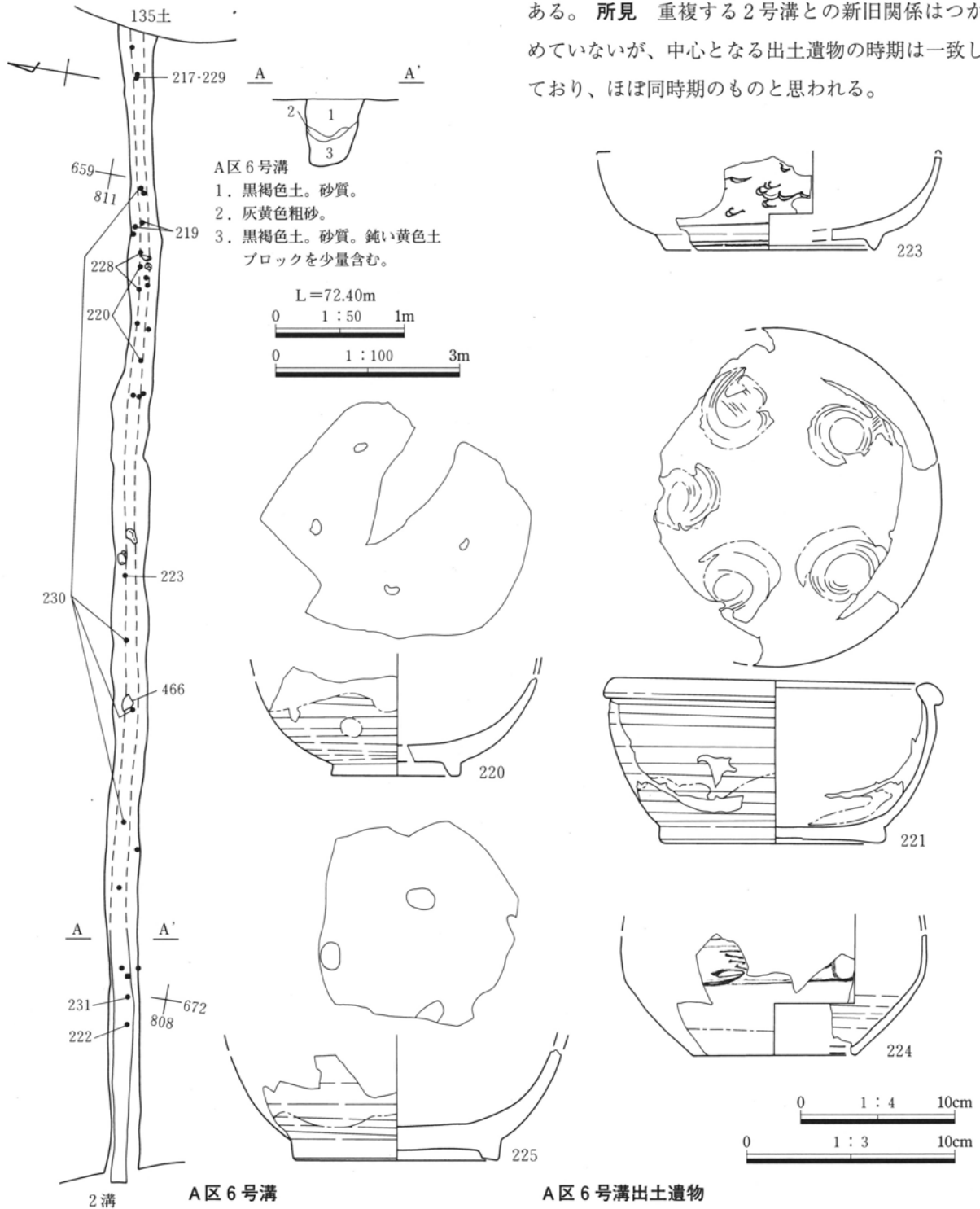
A区5号溝遺物観察表

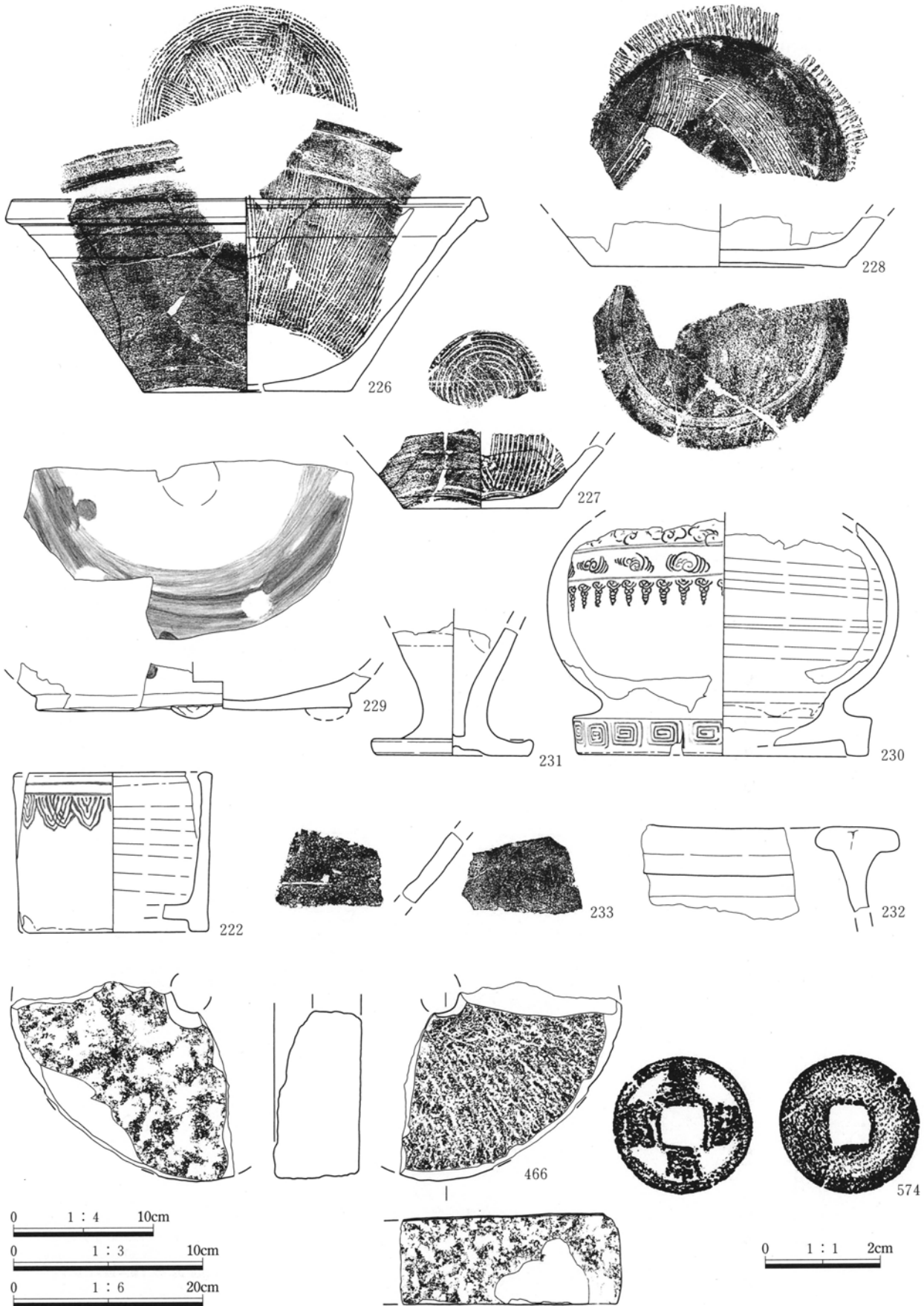
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
216	磁器 赤絵碗	埋没土	口径 (8.0) 底径 — 器高 5.7+	肥前。口縁部外面に染め付けを施し、他は上絵付け。圏線は赤、主文様の輪郭は黒、他は桃色を使用。高台内に焼き継ぎ時に記した数字「213」?が赤で記される。	口縁～体部1/12、底部高台端を除き1/2残。焼き継ぎ。19世紀中～後半。
217	磁器 徳利	埋没土、A区6溝+45、2井+23	口径 — 底径 8.5 器高 15.1+	肥前。外面染め付け。内面と高台端部無釉。	胴部中位～底部外縁1/2残。焼き継ぎ。波佐見系。
218	陶器 練り鉢	埋没土、A区6溝埋没土	口径 (32.0) 底径 — 器高 13.0	瀬戸・美濃。口縁部外方に折り返し、玉縁状にする。内外面に灰釉施し、口縁部外面に銅緑釉を流す。粗い貫入入る。	口縁～体部中位1/4残。
219	陶器 すり鉢	埋没土、A区6溝+53	口径 (40.0) 底径 — 器高 14.8+	堺・明石。口縁部縁帯をなし、内面の突帯は消滅し凹線のみとなる。外面口縁部下篋削り。	口縁～体部中位1/4残。
465	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.5+ 幅 3.3 厚さ 2.2~2.6 重量 127.3 砥沢石	磨面は主に1面で、使用により湾曲し、端部が僅かに屈曲する。他の4面に製作時の櫛歯彫痕が残る。器表の剝離が顕著。	片端欠。

A区6号溝(PL.8・9・51・52)

位置 805・810-655-675 重複 2号溝、135号土坑  
 坑 プラン確認より6号溝→1号道 形状・規模  
 長さ 約18.7m 幅 0.35~0.55m 深さ 0.55mでは  
 ほぼ東西にのびる。やや湾曲した平底で壁面は直に立

ち上がる。埋没土 黒褐色土を主体とし、間層(2層)に粗砂が堆積する。遺物 出土位置は散在するが、東寄りにやや多い。肥前磁器鉢、瀬戸・美濃陶器片口鉢・練り鉢・すり鉢・火入れ・瓶掛け、常滑陶器甕、粉ひき臼などのほか、在地系土器火鉢・焙烙などが出土した。18世紀後半から19世紀が中心である。所見 重複する2号溝との新旧関係はつかめていないが、中心となる出土遺物の時期は一致しており、ほぼ同時期のものと思われる。





A区6号溝出土遺物



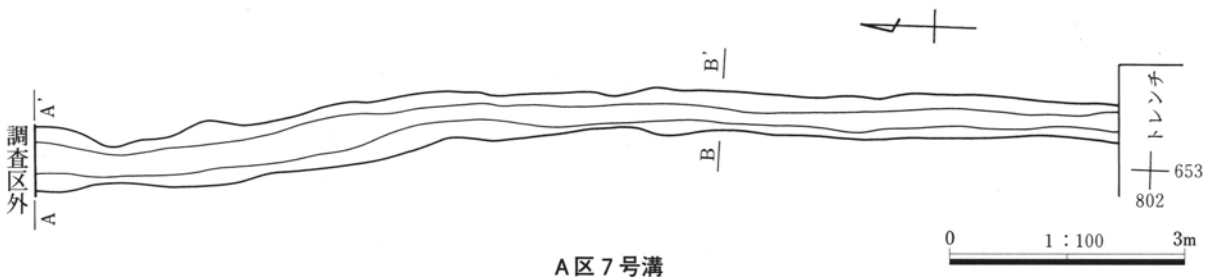
A区6号溝遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
220	陶器 片口鉢?	+21	口径 — 底径 6.2 器高 5.3	瀬戸・美濃。内面から体部外面に灰釉を掛ける。見込み目痕4ヶ所残る。	体部下半以下残。
221	陶器 練り鉢	埋没土	口径 21.8 底径 13.8 器高 10.8	瀬戸・美濃。口縁部を折り返し玉縁状にする。内面から体部外面に灰釉を施す。見込み団子状目痕5ヶ所残る。	口縁～体部5/8欠。
222	陶器 火入れ	+10、 810-670	口径 (10.5) 底径 (10.0) 器高 8.5	瀬戸・美濃。口縁部外面にスタンプで文様を施す。内面口縁端部から外面体部下端に銅緑釉を施す。	口縁部1/4、体～底部外縁1/2残。
223	磁器 鉢	+32	口径 — 底径 (5.0) 器高 4.5+	肥前。外面線描きで飛雲?を描く。主文様は不明。内面無文。	体～底部外縁1/6残。
224	陶器 土瓶	埋没土	口径 — 底径 (7.8) 器高 5.8+	益子・笠間。外面白土掛けの後、鉄絵具で施文する。内面から高台脇に灰釉を施す。底部外面から高台脇無釉。無釉部分に煤付着。	体部下半～底部外縁1/4残。
225	陶器 片口鉢	埋没土	口径 — 底径 9.8 器高 5.4+	瀬戸・美濃。体部は丸みを帯びて立ち上がる。内面から高台脇に灰釉を施す。釉調は黄瀬戸風。見込み目痕3ヶ所残る。	体部下半1/4、底部3/4残。
226	陶器 すり鉢	埋没土	口径 (32.6) 底径 (14.6) 器高 13.7	瀬戸・美濃。口縁部は断面三角形を呈する。内面使用により摩滅する。全面錆釉施釉後底部外面の釉を拭う。	口縁～体部中位1/4、体部下位～底部1/2残。
227	陶器 すり鉢	埋没土	口径 — 底径 (11.0) 器高 4.1+	瀬戸・美濃。底部回転糸切り無調整。錆釉を施す。内面及び底部外面使用により摩滅する。	体部下位～底部3/8残。
228	陶器 すり鉢	+33～44、 2井+30	口径 — 底径 (18.0) 器高 3.6+	堺・明石。底部外面砂付着。	体部下位～底部1/2残。
229	陶器 瓶掛?	+56、 800-665	口径 — 底径 16.6 器高 3.0+	瀬戸・美濃。見込みを除き錆釉を施す。底部外面に低い貼り付け脚が1ヶ所残る。銅緑釉が一部流れる。	体部下位～底部1/2残。
230	陶器 瓶掛	+36～44、 埋没土、2井+53	口径 — 底径 20.7 器高 16.7+	瀬戸・美濃。高台内と底部外面に錆釉を刷毛塗りする。外面銅緑釉を施す。	体部中位1/4、以下高台内中央を欠いて3/4残。
231	陶器 花瓶	+30	口径 — 底径 (8.6) 器高 7.1+	瀬戸・美濃。脚部外面回転笠削り。内面右回転の絞りが残る。体部外面下位から脚部外面に錆釉、体部下位以上に灰釉を掛け分ける。底部外面の釉は拭う。	体部下位以下1/2残。
232	陶器 甕	埋没土	口径 — 底径 — 器高 6.1+	常滑。口縁部「T」字状を呈する。	口縁部破片。
233	陶器 甕?	埋没土	口径 — 底径 — 器高 5.3+	常滑。内面に自然釉が付着し、体部下位の破片であろう。内面使用により平滑となる。	体部下位破片。中世。
466	石製品 粉挽き臼 下臼	埋没土	径 約18 芯穴径 約4 高さ 9.5 含み 0.3 挟り高 3.5 重量 5469 粗粒輝石安山岩	含みは浅く、目は摩滅が顕著だが6分割か。側面及び底面は粗く仕上げる。	1/4残。
574	銅銭 皇宋通寶	埋没土	銭径 2.48～2.50 内径 2.08～2.02 孔径 0.69 ～0.70 厚さ 0.12～0.13 重量 2.2	北宋。初鑄1038年。篆書。	ほぼ完形。

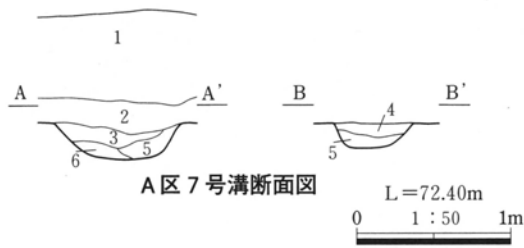
A区7号溝(PL.9)

位置 800～815-650 北は調査区外へのびるがB区では検出されていない。重複 なし。形状・規模 長さ約14.1m 幅 0.3～0.84m 深さ 0.25mでほぼ南北にのびる。平底で壁面はなだらかに立ち上

がる。埋没土 黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。遺物 出土しなかった。所見 区画溝であろう。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と考えられる。



上増田島遺跡A・B区



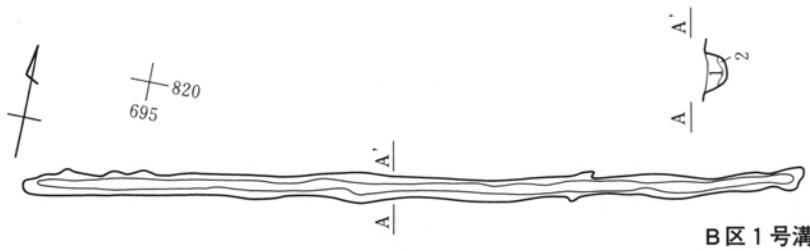
A区7号溝

1. 表土。
2. 黒褐色土。しまりが強い。パミスを微量含む。
3. 黒褐色土。しまりが強い。パミス・径3mm程の礫を微量含む。
4. 黒褐色土。3層より黄味が強い。パミスを微量含む。
5. 黒褐色土。川砂状の粗砂ブロック・径5cm程の礫を少量、パミスを微量含む。
6. 黒褐色土。鈍い黄褐色土ブロックを少量、パミスを微量含む。

B区1号溝(PL.9)

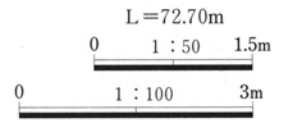
**位置** 815・820-685~695 **重複** なし。 **形状・規模** 長さ約10.2m 幅0.17~0.38m 深さ0.18mでほぼ東西にのびる。やや湾曲した底面から壁面へなだらかに立ち上がる。島遺跡の他の溝に比して幅が狭

い。 **埋没土** 黒色土を主体とする。 **遺物** 図示していないが、磁器形紙染付碗が出土した。 **所見** 区画溝であろう。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と考えられる。



B区1号溝

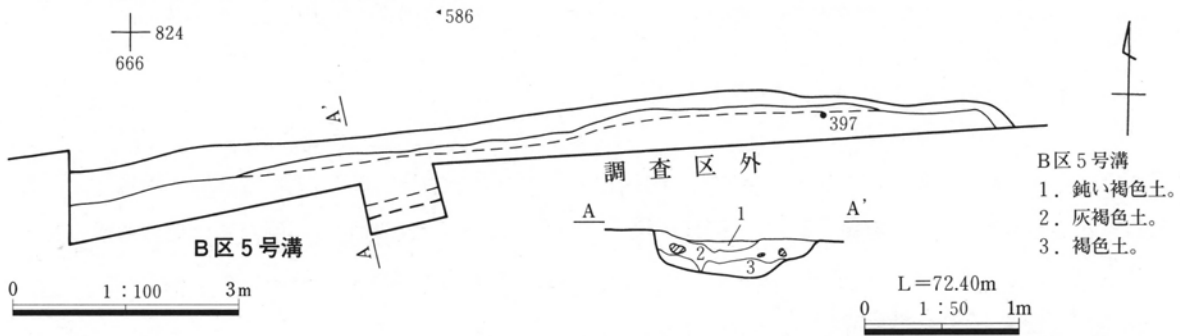
1. 黒色土。しまりが弱い。
2. 黒色土。しまりが弱い。地山の褐色細砂ブロックを少量含む。



B区5号溝(PL.9・52)

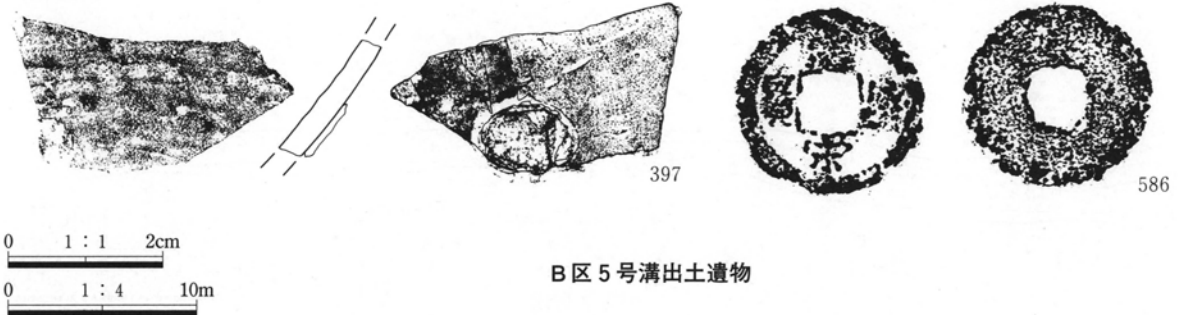
**位置** 820-650~665 **重複** なし。 **形状・規模** 長さ約12.4m 幅約1.1m 深さ0.32mでほぼ東西にのびる。やや湾曲した平底で、壁面はなだらかに立ち上がる。南側の上端・下端は調査区外のために

セクションからの確認である。 **埋没土** 他の溝が黒褐色土を主体とするのに対し、本遺構は褐色土を主体とする。 **遺物** 中世常滑の甕?破片などが出土した。 **所見** 区画溝であろう。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



B区5号溝

1. 鈍い褐色土。
2. 灰褐色土。
3. 褐色土。



B区5号溝出土遺物

B区5号溝遺物観察表

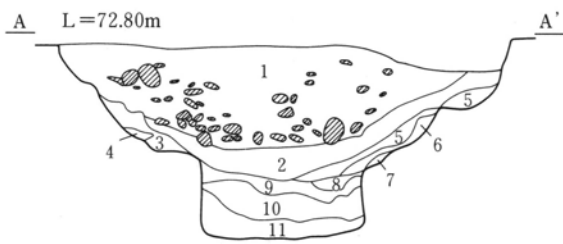
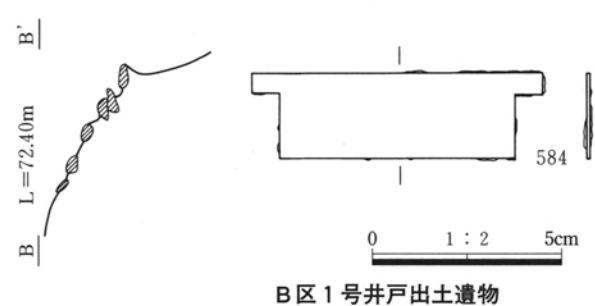
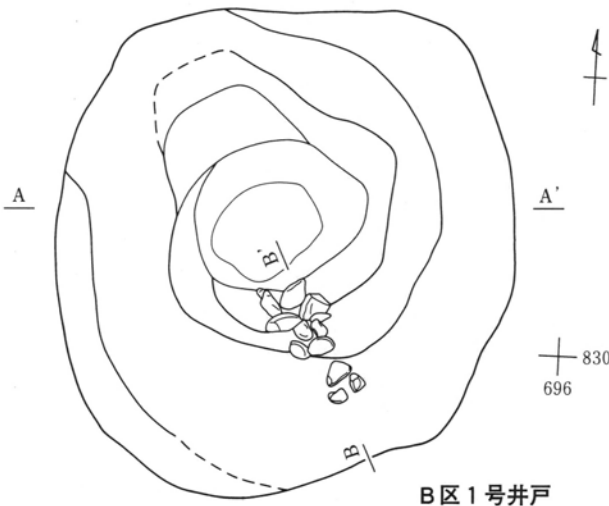
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
397	陶器 甕?	+16	口径 — 底径 — 器高 5.2+	常滑。外面に自然釉が流下し、焼台?とした破片と貼り付く。また、内面には斑状に自然釉が付着することから体部下位破片であろう。内面は使用により平滑となる。	体部破片。 中世。
586	銅銭 皇宋通寶	周辺	銭径 2.44~2.49 内径 1.95~2.01 孔径 0.81 ~0.83 厚さ 0.13~0.14 重量 2.4	鑄付着で判読困難。北宋。初鑄1038年。真書。	外縁・孔縁欠。

### 3. 井戸

#### B区1号井戸(PL.10・52)

**位置** 825・830-695・700 **重複** なし。 **規模**  
 上端 3.85×3.63m 筒部上端 1.39×1.13m 下端  
 0.90×0.78m 深さ 1.58m 筒部深さ 0.64m **構造**  
 平面は上端・筒部上端・下端とも不整形円形。底面は平坦で、壁面は中端まで直に立ち上がって筒部をなし、中端から上端にかけては全体がすり鉢状に内湾しながら立ち上がる。アグリは観察できない。すり鉢状の部分は、底面が平坦で外側の壁面が直に立ち上がる通路状になっており、北から右回りの螺旋で中端に達する。螺旋1段目底面の南西から傾斜に沿って筒部上端まで扁平な河床礫が階段状に据え置かれている。螺旋底面に踏み固めた様子はなく、階段

状の部分を使って筒部上端まで降り、水を汲み上げていたものであろう。特に作業を行うためのスペースは設けられていない。筒部には木製の杵が施されていたと思われるが遺存しておらず、セクションでもその痕跡、または掘り方部分の土層が観察できなかった。 **埋没土** 灰色・黄色系砂質土で埋没しており、地山由来の自然堆積である。1層下半に堆積する河床礫は、処理のために埋没過程の本遺構に捨てられた可能性が高い。 **遺物** 用途不明鉄製品のほか、図示していないが肥前陶胎染付碗、砥石などが出土した。 **所見** 螺旋構造をもつ井戸である。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降であろう。



#### B区1号井戸

1. 鈍い黄褐色土。しまりが弱い。礫・粗砂・細砂を多量含む。
2. 褐色土。しまりが弱い。暗褐色砂質土粒を多量、径3cm程の礫を少量含む。
3. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。暗褐色砂質土粒を多量含む。
4. 灰黄褐色細砂。黄褐色細砂を均一に少量含む。
5. 鈍い黄褐色細砂。しまりが弱い。径3cm程の礫を少量含む。
6. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。
7. 鈍い黄褐色細砂。しまりが弱い。
8. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。細砂を少量含む。
9. 灰黄褐色細砂。しまりが弱い。
10. 灰黄褐色細砂。しまりが弱い。黒褐色土(8層)ブロックをラミナ状に少量含む。
11. 灰オリブ砂。褐色粘質土粒を少量含む。

B区1号井戸遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴	残存状態 備考
584	鉄製品 ?	埋没土	長さ 2.4 幅 7.65・6.25 厚さ 0.1 重量 15.7	均一な厚さの板状品。鑄造。	完形。

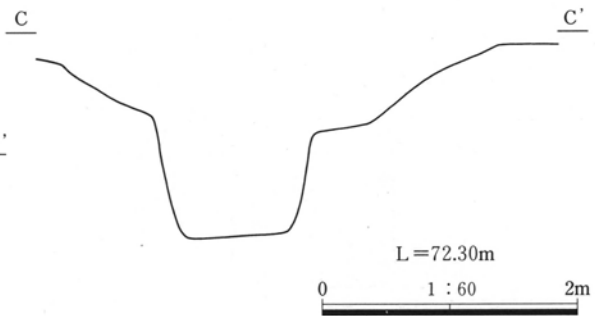
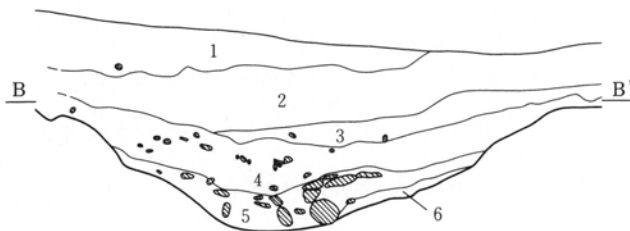
A区2号井戸(PL.11・52~55)

**位置** 785・790-665・670 **重複** なし。 **規模**  
 上端 3.03×3.73m 筒部上端 1.23×1.36m 下端  
 0.64×0.82m 深さ 1.52m 筒部深さ 0.81~0.95m  
**構造** 南半が調査区外のため詳細不明だが、平面は  
 上端・筒部上端・下端とも不整形円形を予想する。平坦な底面から壁面が直に立ち上がって筒部をなし、筒部上端から上端にかけては全体がすり鉢状に緩やかに立ち上がる。アグリは観察できない。筒部は地山の礫層に達し、また井戸全体の西寄りに位置するため、すり鉢状部の西壁は傾斜が他よりややきつい。  
**埋没土** 下半は粘度のある土が堆積する。北側を中心に5層付近から河床礫が出土したが、壁面に据え

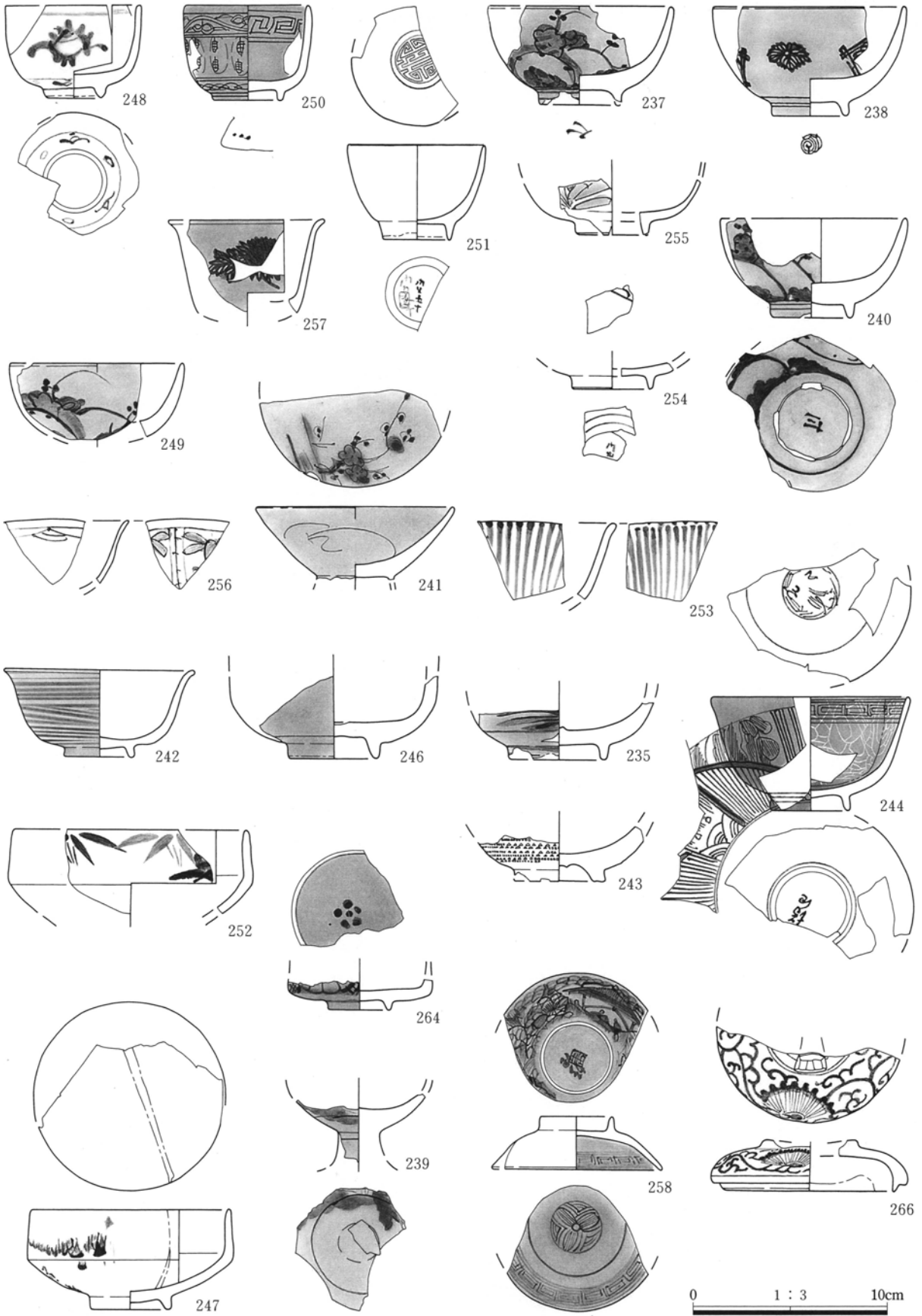
置かれた様子は見られず、処理のために捨てられたものと思われる。筒部上層は河床礫が密に堆積し、これより下層から木製品が出土した。**遺物** 礫と共に肥前磁器・陶器碗、瀬戸・美濃陶器碗・皿、堺・明石すり鉢、中世常滑甕などが出土した。筒部出土の木製品は幹を円筒状に切断し、中を剝り抜いたものである。底面を囲むような位置で一部内側に倒れ込むような出土状態から井戸枠に使用されていた可能性がある。その場合、表面の炭化は加工を容易にし、耐水性を高める目的が考えられる。217はA区5号溝、228・230はA区6号溝と接合。**所見** 詳細な時期は不明だが、出土遺物は18世紀後半から幕末が中心である。

A区2号井戸

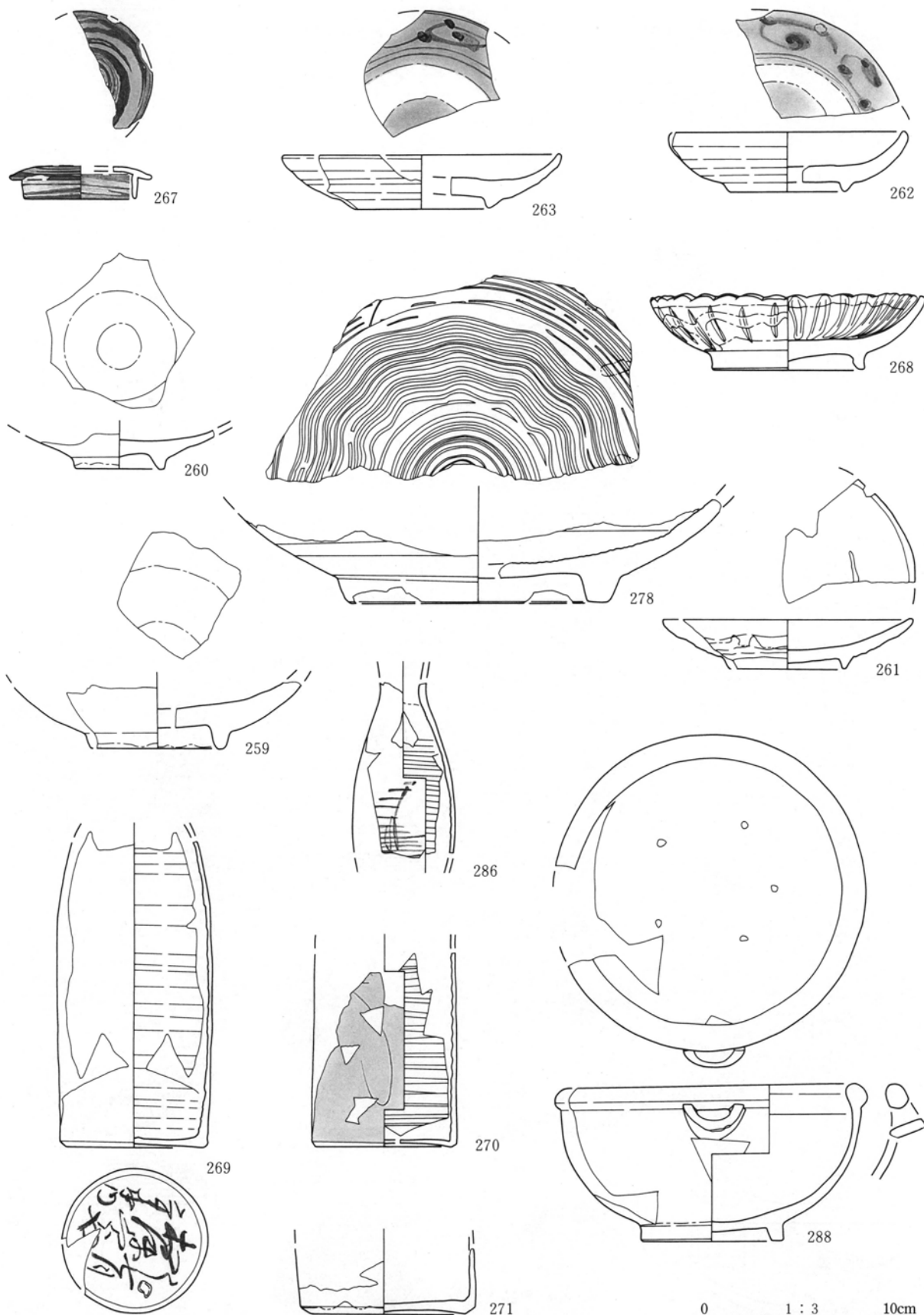
1. 黒褐色土。表土。
2. 極暗褐色土。パミス・炭化物を微量含む。
3. 極暗褐色土。明黄褐色土ブロックをやや多量、パミス・炭化物を微量含む。
4. オリーブ黒色土。やや粘質。しまりが強い。暗褐色土ブロックをやや多量、パミス・炭化物・径5cm程の礫を少量含む。
5. オリーブ黒色土。やや粘質。しまりが強い。径5~30cm程の礫を多量、暗褐色土ブロックをやや多量、パミス・炭化物を少量含む。
6. オリーブ黒色土。やや粘質。しまりが強い。炭化物を少量含む。



3. 井戸

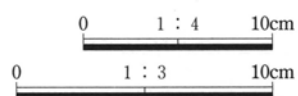
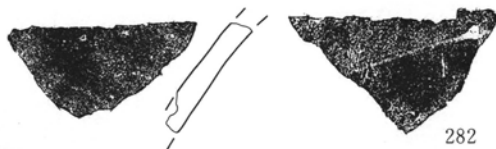
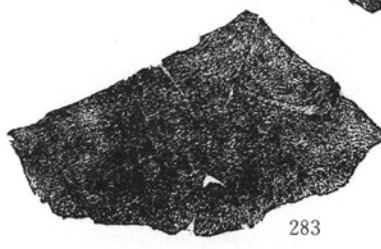
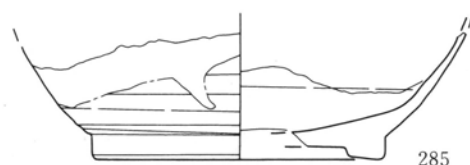
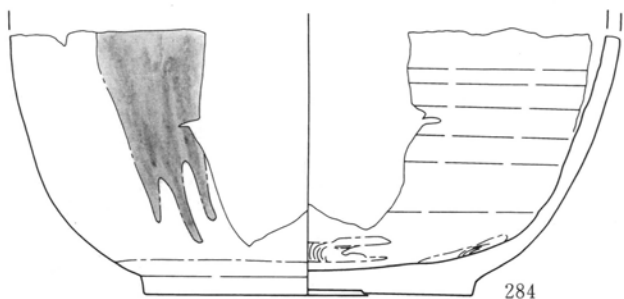
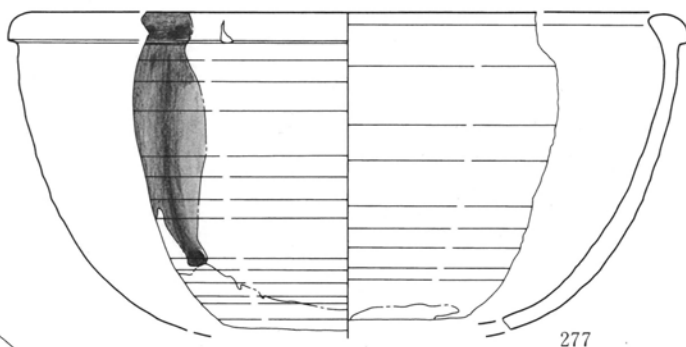
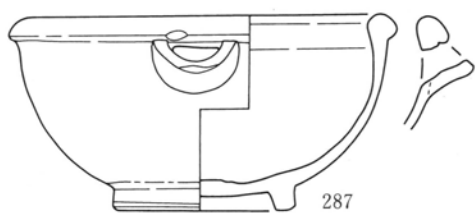
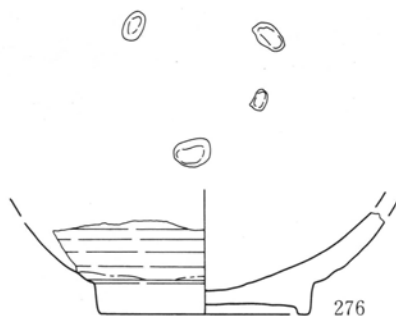
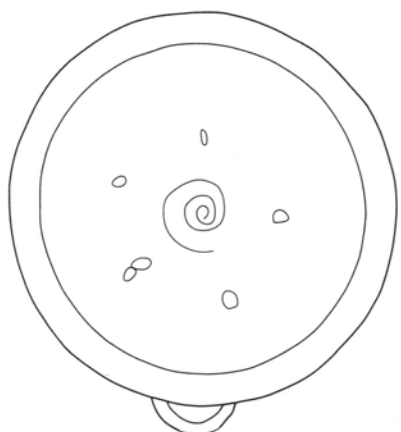


A区2号井戸出土遺物

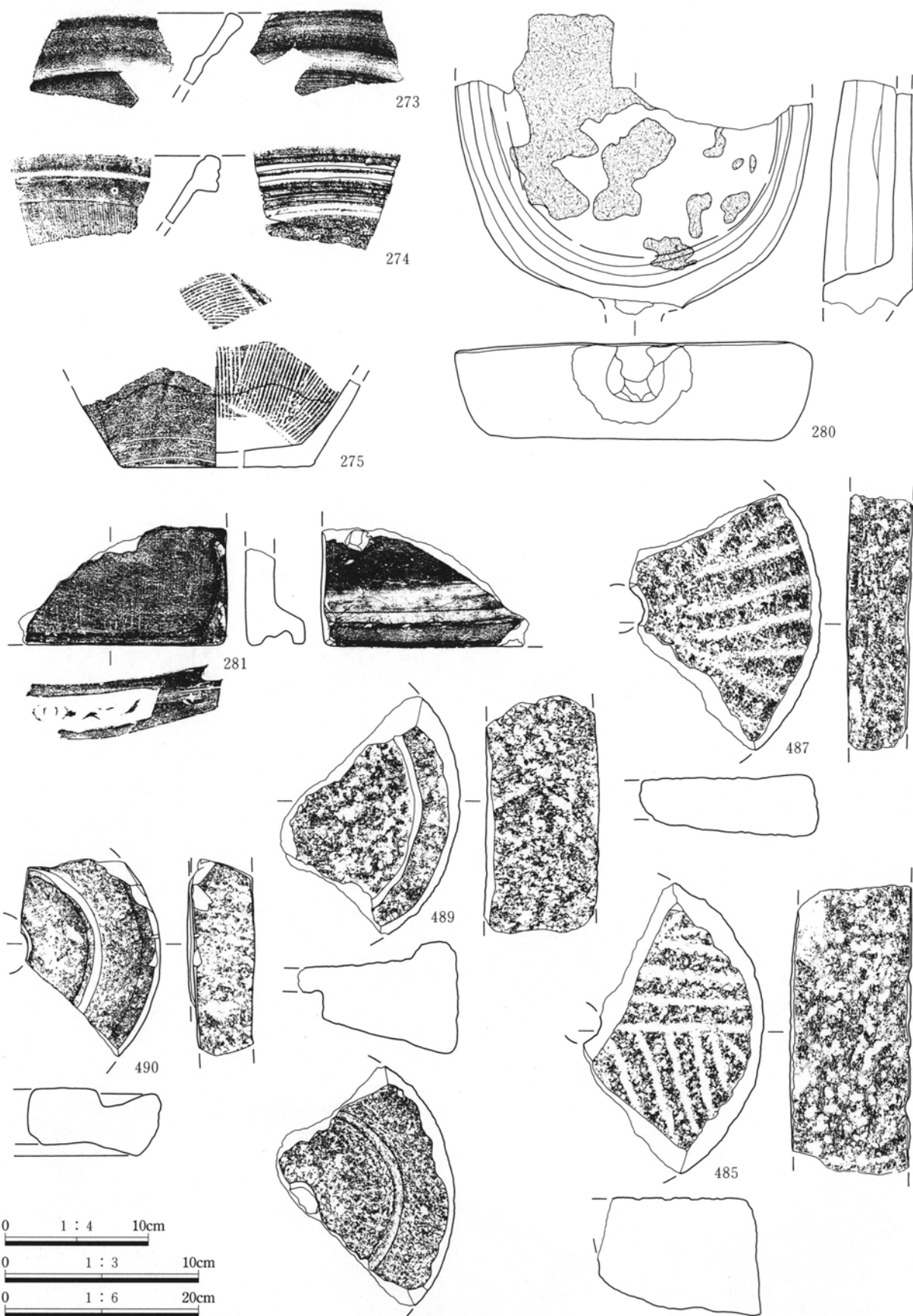


A区2号井戸出土遺物

3. 井戸

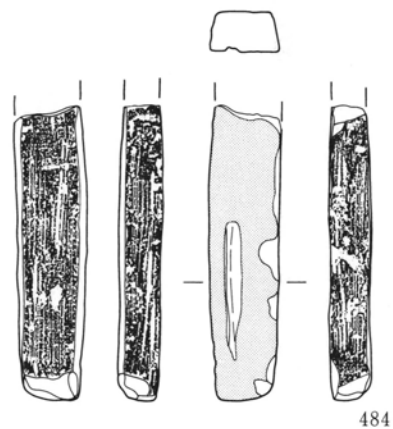
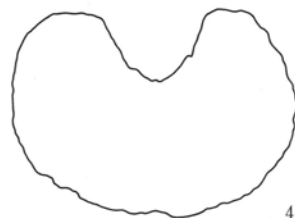
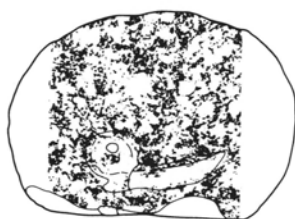
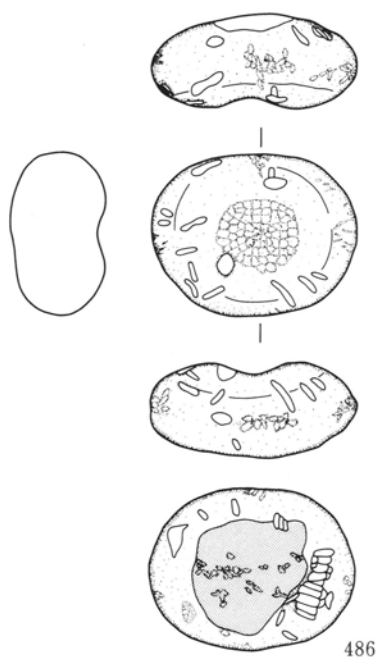
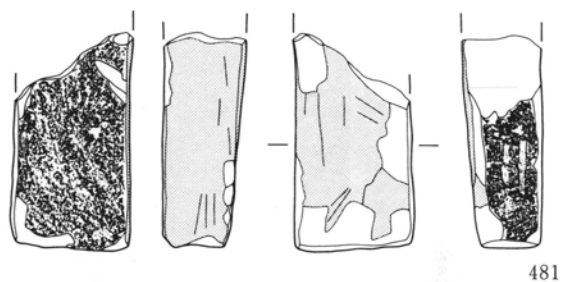
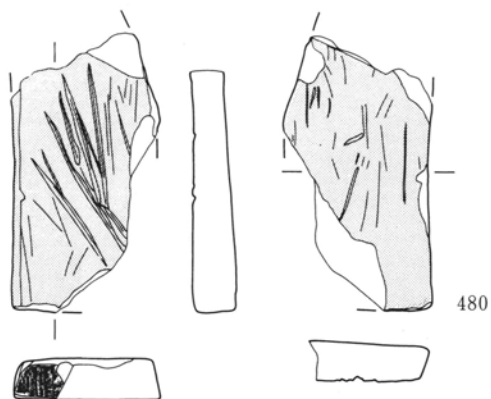
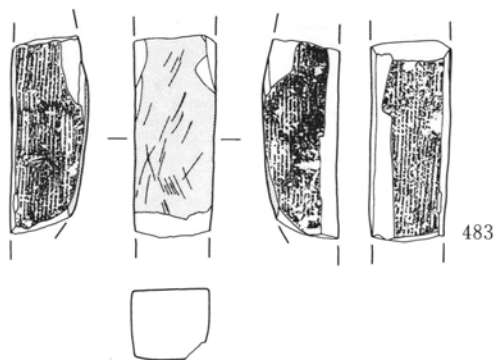
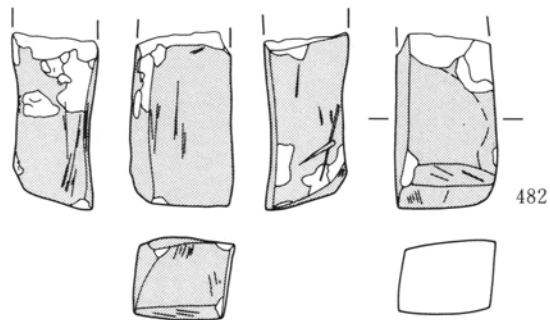


A区2号井戸出土遺物



A区2号井戸出土遺物





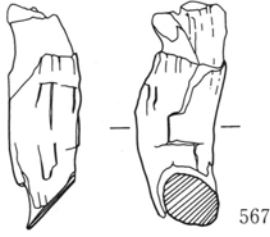
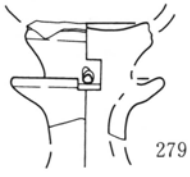
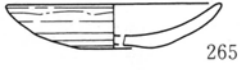
0 1 : 4 10cm

0 1 : 3 10cm

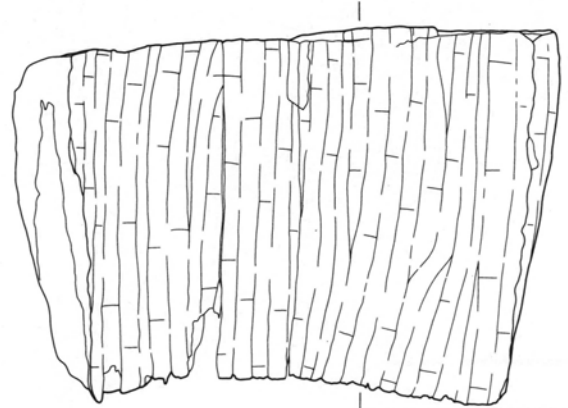
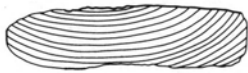
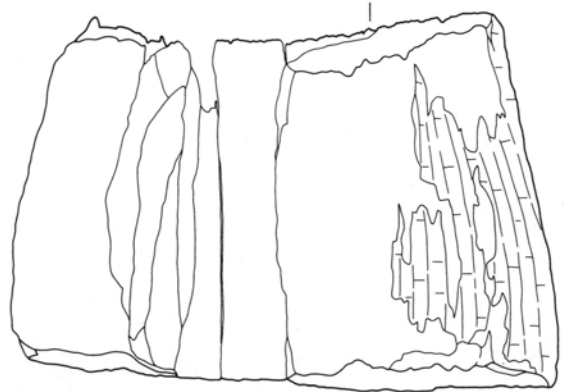
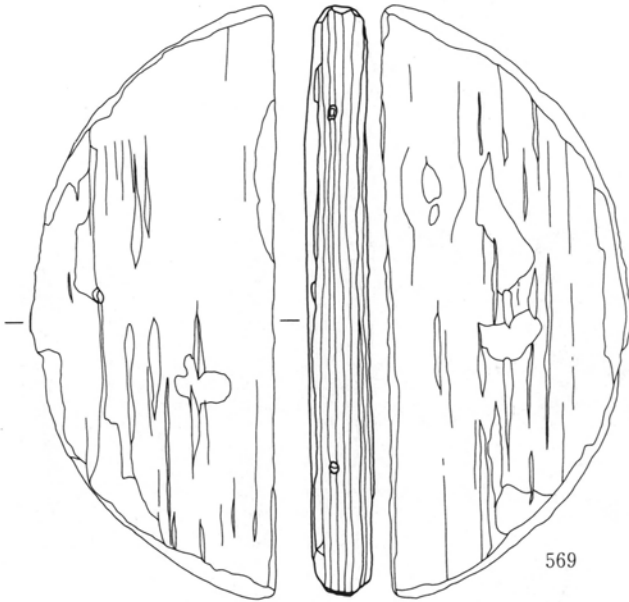
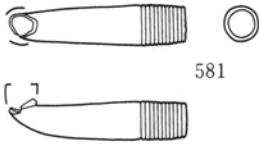
0 1 : 6 20cm

A区2号井戸出土遺物

上増田島遺跡A・B区

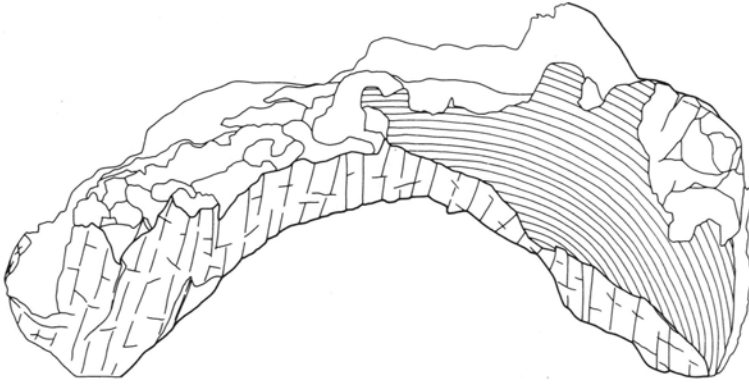
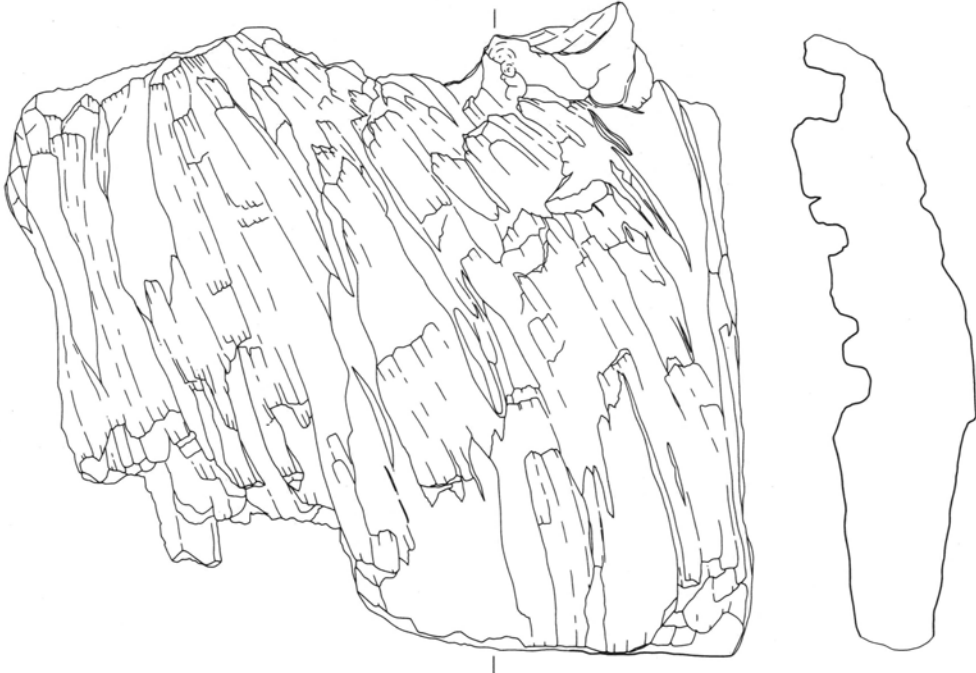


0 1:1 2cm



0 1:2 5cm  
 0 1:4 10cm  
 0 1:3 10cm  
 0 1:6 20cm

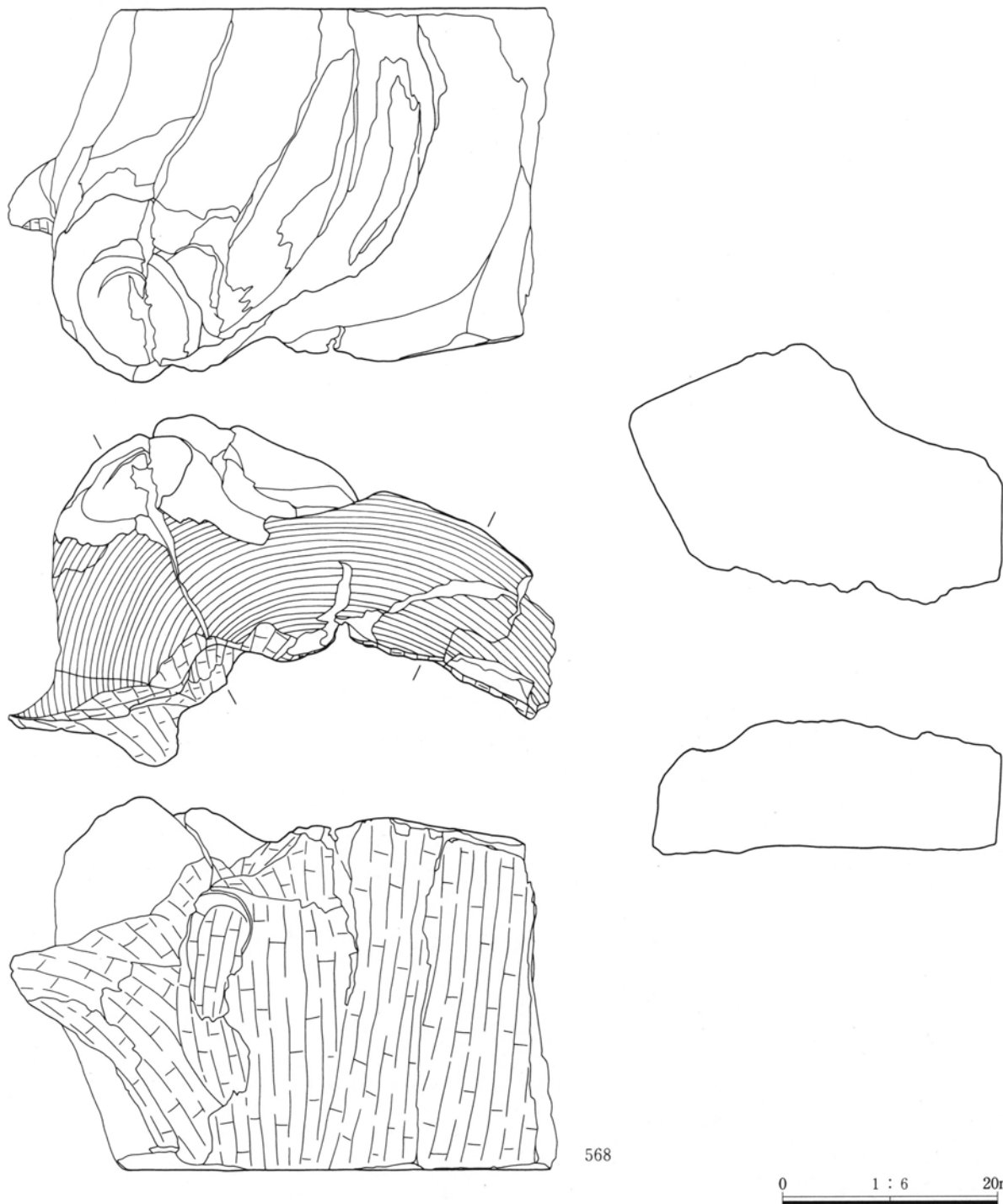
A区2号井戸出土遺物



566-2

0 1 : 6 20cm

A区2号井戸出土遺物



A区2号井戸出土遺物

A区2号井戸遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
235	陶器 碗	+109、埋没 土、B区1 井埋没土	口径 — 底径 5.1 器高 3.0+	肥前。外面東屋山水文か。陶胎染付。	高台端部を欠いて 体部下位以下残。 焼成不良。
237	磁器 碗	埋没土	口径 (9.7) 底径 4.2 器高 5.1	肥前。外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	体部3/4、高台端部 の一部欠。 波佐見系。

## 3. 井戸

238	磁器碗	+95	口径 底径 器高	(10.5) 3.9 5.7	肥前。外面コンニャク判による施文。高台内「渦福」字銘。	体部3/4、高台端部1/4欠。
239	磁器仏飯器	+136	口径 底径 器高	— — 3.8+	肥前。外面染め付け。	体部下位～脚部上半残。 波佐見系。
240	磁器碗	+112	口径 底径 器高	(9.6) (4.1) 5.2	肥前。外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	口縁～体部上半、高台端部一部残。 波佐見系。
241	磁器碗	+38	口径 底径 器高	(10.3) — 3.8+	肥前。口縁部と体部が直線的に開く。外面に松葉状の文様を、内面に梅樹文を描く。口縁部と高台の胎土は赤味を帯びる。体部下位に非常に粗い貫入入る。	口縁～底部1/2残。 焼成不良。 波佐見系。
242	陶器刷毛碗	+104、埋没土	口径 底径 器高	9.8 3.7 4.6	瀬戸・美濃。口縁部は端反り。内面は白土掛け、外面は刷毛で白土掛けする。高台端部を除き透明釉を掛ける。	口縁部～高台上半1/4欠。
243	陶器鎧手碗	埋没土	口径 底径 器高	— 4.8 2.8+	瀬戸・美濃。器壁厚い。高台内雑に抉る。高台端部を除き灰釉を施すが、内外面で発色が異なる。	高台端部を一部欠いて、体部下位以下残。
244	磁器端反碗	+95～125、埋没土、A土埋没土	口径 底径 器高	(10.4) 4.0 5.9	肥前？。見込み三友、口縁部内面雷文帯。口縁部から高台脇に焼き継ぎ。高台内に焼き継ぎ時の赤文字「増田」。	体部上半以上1/4、以下1/2残。 焼き継ぎ。
246	陶器碗	埋没土	口径 底径 器高	— (4.6) 4.3+	肥前。高台内僅かに抉る。残存部の染め付けは外面の圏線のみ。陶胎染付。	体部下半以下1/2残。
247	陶器碗	+123、埋没土	口径 底径 器高	(10.3) 4.1 5.2	瀬戸・美濃。ほぼ中央から灰釉と柿釉を掛け分ける。高台端部のみ無釉。	口縁～体部中位1/2残。
248	磁器小碗	埋没土	口径 底径 器高	(7.0) 2.8 4.8	瀬戸・美濃。外面の文様は宝珠か。	口縁～体部3/4欠。 19世紀中～後半。
249	磁器碗	埋没土	口径 底径 器高	(8.9) — 4.0+	肥前。外面雪輪梅樹文。	口縁～体部中位1/4残。 波佐見系。
250	磁器小碗	+104、埋没土	口径 底径 器高	6.6 (3.6) 4.9	製作地不詳。体部外面を面取りする。染め付けは素描き高台内に焼き継ぎ時に記した赤色の符丁あり。	1/2残。 焼き継ぎ。
251	磁器小碗	+123	口径 底径 器高	(7.2) (3.6) 5.0	瀬戸・美濃。口鏝。見込み「寿」字の押印文。高台内焼き継ぎ時の透明と青の文字。透明文字「内□五？十」、青文字「内□五十」。高台内長方形区画内に「天？山」押印。焼き継ぎ時によるか、二次的被熱あり。	口縁部1/4、以下1/2残。 焼き継ぎ。
252	陶器上絵碗	+130、埋没土	口径 底径 器高	(11.9) — 4.4+	京・信楽系。口縁部は屈曲して立ち上がる。口縁部外面に赤と緑で笹文を上絵付けする。黒の笹文は鉄絵具による下絵付け。	口縁～体部上半1/4残。
253	磁器碗	+125	口径 底径 器高	— — 4.0+	瀬戸・美濃。内外面に麦藁手状の文様を呉須で描く。	口縁～体部中位破片。 19世紀中～後半。
254	磁器上絵碗	埋没土	口径 底径 器高	— (4.2) 1.4+	肥前。内外面の文様は赤色。高台内に焼き継ぎ時と思われる赤と緑の文字「内□」。	体部下位～底部1/4残。 焼き継ぎ。
255	磁器碗	埋没土	口径 底径 器高	— (3.6) 2.9+	肥前。外面に赤で圏線、黒で輪郭、青で輪郭内を上絵付けする。	体部下位～高台1/4残。
256	磁器上絵碗	+105	口径 底径 器高	— — 3.3+	肥前。内外面の圏線を赤、植物？文内を緑、植物？文の輪郭と他を黒で上絵付けする。	口縁～体部中位破片。
257	磁器小碗	埋没土	口径 底径 器高	(8.0) — 4.8+	肥前。外面にコンニャク判による染め付け。	口縁～体部1/4残。
258	磁器端反碗蓋	+116、埋没土	口径 摘み径 器高	(8.8) 3.7 2.7	肥前。焼き継ぎ部で割れる。摘み内に赤色ガラスで焼き継ぎ時の赤文字「増田」。	体部以下1/2欠。 焼き継ぎ。
259	陶器皿？	埋没土	口径 底径 器高	— (6.8) 3.2+	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。高台内抉る。残存部に染め付けは認められない。陶胎染付？。	口縁部を欠いて1/4残。
260	磁器青磁皿	埋没土	口径 底径 器高	— 4.5 2.0+	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。内面から高台外面に青磁釉を施す。釉は一部高台内に達する。釉厚が薄く、釉調は精白磁。	体部下半以下残。 波佐見系。
261	陶器皿	埋没土	口径 底径 器高	(12.9) (6.0) 2.6	瀬戸・美濃。高台断面三角形。高台断面基部は「V」字状に削る。口縁端部を面取りする。内面から体部外面に灰釉を薄く施す。見込みに高台端部の重ね焼き痕が残る。	1/4残。
262	磁器皿	埋没土	口径 底径 器高	(12.4) (6.0) 3.1	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。口縁部内面簡略化した唐草文。	1/4残。 波佐見系。

上増田島遺跡A・B区

263	磁器皿	埋没土	口径 底径 器高	(14.2) (7.0) 2.8	肥前。見込み蛇の目軸剥ぎ。高台基筒底状に近い。	口縁部の一部、以下1/4残。
264	陶器筒形碗	+117	口径 底径 器高	— 3.1 1.6+	瀬戸・美濃。見込み梅花状文様。外面は菊花文。高台脇に圏線を1条巡らす。	高台を含んで体部最下位～底部1/3残。
265	陶器灯明皿	埋没土	口径 底径 器高	(8.5) (2.8) 1.7	京・信楽系。外面丁寧な回転篋削り。内面から口縁端部外面に細かい貫入の入る透明釉を施す。	1/4残。
266	磁器蓋	+110	最大径 摘み長 器高	(10.2) 1.1+ 2.6+	肥前。染め付けの蓋。身受け部分無釉。天井部染め付け。リボン状の摘み貼り付け。	1/2残。
267	陶器蓋	埋没土	最大径 摘み径 器高	(7.3) — 1.8+	製作地不詳。胎土は白色と灰黒色の練り込み。天井部外面に透明釉。急須の蓋か。	摘みを欠いて1/2残。
268	陶器菊皿	+111	口径 底径 器高	(14.1) (7.8) 3.9	瀬戸・美濃。外面の花弁は簡略化される。内面から高台脇に灰釉を施す。口縁部に銅緑釉を施した為か、口縁部のみ釉が厚い。他の部分は釉が薄く、白濁する。	1/2残。 17世紀か。
269	陶器爛徳利	埋没土、A区2溝埋没土	口径 底径 器高	— 7.6 15.9+	製作地不詳。体部外面灰釉を施す。釉に細かい貫入。底部外面丁寧な回転篋削り。底部周縁は斜めに削る。底部外面墨書「う七月 お保□や 三十本内」。	口縁部、体部1/4欠。墨書。幕末～明治。
270	陶器爛徳利	+126、A区2溝埋没土	口径 底径 器高	— (7.4) 9.9+	瀬戸・美濃。残存部はやや窄まる円筒形を呈する。底部外面丁寧な回転篋削り。底部周縁は斜めに削る。体部外面灰釉を施す。体部外面鉄絵。	胴部下半以下残。
271	陶器爛徳利	埋没土	口径 底径 器高	— 8.0 3.4+	京・信楽系。外面底部と底部周縁回転篋削り。内面から体部外面下端に透明釉を施す。細かい貫入。入る。	体部下位以下残。
273	陶器すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— — 5.0+	瀬戸・美濃。錆釉を施す。	口縁部破片。
274	陶器すり鉢	+110	口径 底径 器高	— — 4.7+	堺・明石。口縁部厚みのある縁帯をなす。内面の突帯は丸みを帯び、上部は凹線状に窪む。	口縁部破片。
275	陶器すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— (13.0) 6.0+	瀬戸・美濃。錆釉を施す。	体部下位～底部1/4残。
276	陶器片口鉢	+83	口径 底径 器高	— 8.0 4.1+	瀬戸・美濃。見込み径は小さく、体部は直線的に開く。内面から高台脇に灰釉を施す。見込み目痕3ヶ所残る。	体部下位以下残。 石器質に近い焼き締まり。
277	陶器練り鉢	+39	口径 底径 器高	(35.8) — 16.9+	瀬戸・美濃。口縁部内湾し、端部は外方に折り返す。内面から高台脇に灰釉を施し、口縁部外面から銅緑釉を流し掛ける。見込み団子状の目痕1ヶ所残存。	口縁部1/6、体部1/4残。
278	陶器皿	+130	口径 底径 器高	— (13.2) 5.3+	肥前。内面白土を波状に施す。内面の透明釉は薄く白濁する。二彩と思われ、他の釉が一部流れる。	口縁部を欠いて1/2残。 唐津。
279	陶器灯明具	埋没土	最大径 底径 器高	6.1 — 4.9+	製作地不詳。灯明台と皿が結合した器形。胎土は紫がかる。受け部に2ヶ所流入穴を設ける。鉄錆を施す。	皿部口縁部、受け部口縁部1/4、脚部欠。
280	土器十能	埋没土	長さ 幅 器高	15.5+ 18.5+ 5.1+	在地系。外面型作り痕残る。燻し焼成。	柄部、先端部欠。
282	陶器鉢?	+63	口径 底径 器高	— — 6.7+	常滑。断面と外面下半器表鈍い橙色を呈する。内面は使用により器表が平滑となる。	胴部破片。 中世。283・402と同一個体か。
283	陶器鉢	埋没土	口径 底径 器高	— — 11.1+	常滑。282と胎土・焼成・器厚が近似しており、同一個体の可能性がある。	胴部破片。 中世。282・402と同一個体か。
284	陶器練り鉢	+95～121、埋没土	口径 底径 器高	— 17.3 13.6+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に灰釉、口縁部から体部外面に銅緑釉を流す。銅緑釉の流し掛けは、残存部の状態から4ヶ所と考えられる。見込み団子状の目痕5ヶ所残る。	口縁部、体部5/6欠。
285	陶器練り鉢	+126～130、埋没土、805～655	口径 底径 器高	— (15.5) 6.7+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に灰釉を施す。見込み団子状の目痕5ヶ所。	底部中央を欠いて体部下位以下残。
286	陶器爛徳利	埋没土	口径 底径 器高	— — 8.8+	京・信楽系。外面に鉄絵具で文様を描く。口縁部内面から外面に灰釉を施す。細かい貫入。入る。	体部1/5残。 幕末以降。
287	陶器片口鉢	+87～95	口径 底径 器高	15.3 6.8 7.8	益子・笠間?。片口部を口縁部下に設ける。内面から高台脇に灰釉を施す。内面に目痕6ヶ所残る。	体部一部欠。 近現代。
288	陶器片口鉢	+91～110、埋没土	口径 底径 器高	16.1 7.3 8.1	益子・笠間?。片口部を口縁部下に設ける。内面から高台脇に灰釉を施す。内面に目痕5ヶ所残る。	口縁～体部一部欠。 近現代。

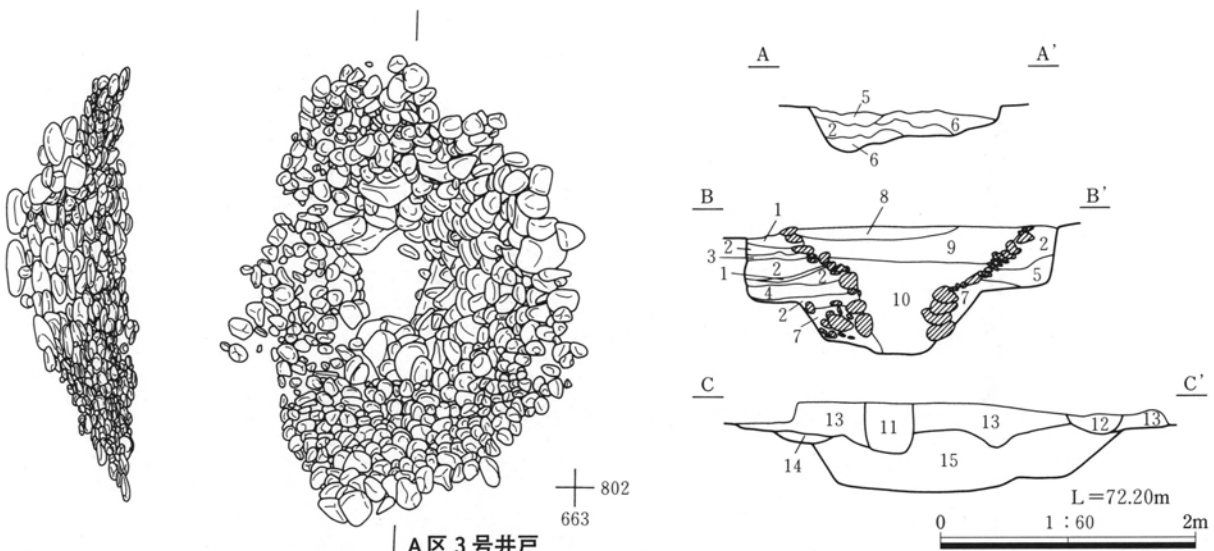
## 3. 井戸

番号	種類 瓦種	出土 位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ ①透明～白色鉱物 ・雲母粒 ②灰・燻 ③還元・並 ④軽	形状等の特徴	残存状態 備考
281	瓦 軒平(棧)	+91	長さ 8.2+ 幅 14.3+ 厚さ 2.0 瓦当部厚さ 3.7～4.1		表面無文。瓦当部対称唐草と印銘あり。側部 面取回数2。深谷産か。	瓦当部1/2を含む破 片。 19～20世紀。
480	石製品 砥石	埋没土	長さ 11.1+ 幅 5.7 厚さ 1.2～ 1.7 重量 136.9 珪質粘板岩		長側面に自然礫面があり、板状の自然礫を適度な長 さに加工か。2面を使用し、溝状の使用痕が残る。 他の1面に製作時の櫛歯鑿痕を残す。	両端欠。
481	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.6+ 幅 4.7 厚さ 2.5～3.2 重量 193.7 砥沢石		磨面は主に2面で使用により湾曲する。他の2面に 製作時の平鑿痕を残す。	片端欠。
482	石製品 砥石	+122	長さ 6.9+ 幅 3.6～4.0 厚さ 2.8 ～3.3 重量 125.3 砥沢石		磨面は全面に及び、使用により湾曲・屈曲する。	片端欠。
483	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.0+ 幅 2.9～3.2 厚さ 2.5 ～2.9 重量 129.0 砥沢石		磨面は1面で使用により湾曲する。他の3面に製作 時の櫛歯鑿痕を残す。	両端欠。
484	石製品 砥石	埋没土	長さ 11.7+ 幅 2.7 厚さ 1.7 重量 84.7 砥沢石		1面を使用し、他の3面に製作時の櫛歯鑿痕を残す。	片端欠。
485	石製品 粉挽き白 下白	埋没土	上面径 約18 高さ 12.5 含み 0.5 挟り高 3.6 芯穴径 約4 重量 8460 粗粒輝石安山岩		目は粗い6分割で、含みはあまりない。側面及び底 面は粗く仕上げる。すり合わせ部の摩滅が少ない。	1/3残。
486	石製品 凹み石	埋没土	長さ 10.7 幅 8.6 厚さ 5.1 重量 574.4 粗粒輝石安山岩		扁平な自然礫を用いる。叩打痕は平面及び各頂部の 6ヶ所にあるが、内1面に集中し、その周囲に溝状 の擦痕が残る。反対面は磨面で、その外側に鑿等 によるとみられる長方形の加工痕が集中する。	完形。
487	石製品 粉挽き白 下白	埋没土	上面径 約20 高さ 6.6 挟り高 1.9 芯穴径 約5 重量 4125 粗粒輝石安山岩		目は粗い6分割で、すり面はほぼ平坦。側面及び底 面はやや平滑に仕上げる。すり面周縁は摩滅する。	1/5残。
488	石製品 五輪塔 火輪	埋没土	底面幅 17.5+ 最大幅 19.2 高さ 14.2 穴径 9.2 同深さ 4.0 重量 5683 粗粒輝石安山岩		器表の剥離が顕著だが、残存する面は平坦な仕上 がり。上面中央に穴を有する。割れ面を含めて一部 が赤化及び煤の付着。	1/3残。 二次的被熱。
489	石製品 粉挽き白 上白	埋没土	上面径 約17 高さ 11.6 上縁幅 約4.5 同高 約2 含み 3.5 芯穴 径 約4 重量 4640 粗粒輝石安山 岩		上面及び側面はやや粗く仕上げる。目は全体に摩滅 するが6分割か。ものくばりは浅い溝状に僅かに残 る。	1/4残。
490	石製品 茶白 下白	+62	最大径 約15 上面径 約9 高さ 約7 周縁高 約6 挟り 1.2 芯穴 径 約4 重量 2008 粗粒輝石安山 岩		上面及び受け皿部はやや粗く仕上げる。底面は平滑 化。受け皿縁部がなく、後に打ち欠いたか。底面を 利用した石皿への転用品の可能性あり。	1/4残。
491	石製品 ?	+128	長さ 15.9 幅 15.0 高さ 11.0 重量 1372 ニッ岳軽石		扁平な球形を呈し、一部を平坦に仕上げた中央に円 錐形の穴を有する。この面を下端とし、突起部に載 せる為の造作であろう。最大径やや下寄りに溝状の 加工痕を残す。	一部器表が剥離。
581	金属製品 煙管雁首	+124	長さ 4.6+ 高さ 1.1+ 首最大径 1.05 小口径 0.9 重量 8.1		火皿と首の角度が直角に近い。首は中心やや羅字寄 りに最大径をもち、羅字側に筋彫りを重ねる。首上 面が二次的にやや潰れる。	火皿欠。
582	銅銭 寛永通寶	+132	銭径 2.82～2.83 孔径 0.64 厚さ 0.10～0.11 重量 3.0		1769年初鑄。11波。	ほぼ完形。一部亀 裂で歪む。
566-1	木製品 井戸杵?	+118	幅 43.4 高さ 29.9 厚さ 10.8 樹種 マツ族		上下面は鋸等の工具で幹を切断した平坦面をもつが 腐食が進む。平坦面の一部に段差があり、工具痕と 思われる。外面の一部に樹皮が残り、全て炭化して いる。内面は中心を削り抜き、表面が全て炭化。上 下面は炭化せず、被熱後に切断か?。	一部欠。 用途不明。
566-2	木製品 井戸杵?	+46	幅 59.1 高さ 51.9 厚さ 19.3 樹種 マツ族		上下面は鋸等の工具で幹を切断した平坦面をもつが 腐食が進む。外面には樹皮が残り、一部が炭化する。 内面は中心を削り抜き、腐食による剥離を除いて全 て炭化。上下面は炭化せず、被熱後に切断か?。	一部欠。 用途不明。
567	木製品 井戸杵?	埋没土	長さ 11.8 幅 4.9 樹種 ムクノキ		樹皮の付いた幹を鋸で斜めに切断する。切断面に連 続した僅かな段差が認められ、工具痕であろう。他 の一端は腐食が進む。	片端欠か?。 用途不明。
568	木製品 井戸杵?	+60	幅 51.3 高さ 35.4 厚さ 21.7 樹種 マツ族		上下面は鋸等の工具で幹の枝分かれ部分を切断した 平坦面を持つが腐食が進む。外面は腐食による剥離 を除いて樹皮が残る。内面は中心を削り抜き、表面 が全て炭化。内面以外は炭化せず、被熱後に切断か?。	一部欠。 用途不明。
569	木製品 底板?	埋没土	直径 (31.6) 厚さ 3.2 樹種 スギ		平面扇形を呈し、上下面を平坦に仕上げる。外側 面は腐食が進んで丸くなっているが、一部に平坦面 が残り、本来は円盤状で直に立ち上がるものと思わ れる。内側面は平坦で、2ヶ所に長方形の納穴をも つ。3枚で構成されるか。	1/2残。 桶等の底板か。

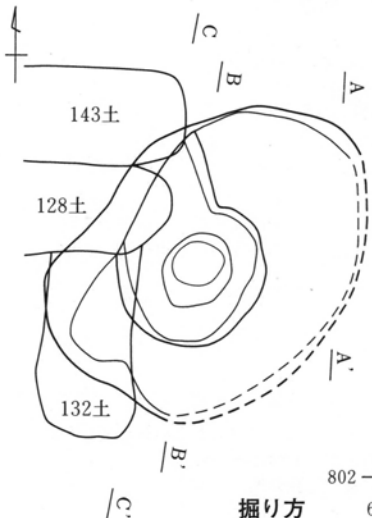
A区3号井戸(PL.12・口絵)

**位置** 800・805-660・665 **重複** 3号井戸→128・132・143号土坑 **規模** 上端 3.68×2.58m 筒部 約0.80×0.60m 深さ 1.00m 筒部深さ 0.54~0.68m **構造** 全体に河床礫を積み上げて裏込めの壁面を押さえる。筒部は長さ40~50cm、幅20cmほどの大振りな礫を底面より10cmほど上位から3・4段積み上げて基礎とし、すり鉢状の部分は主に10~20cm大の礫を用いる。上端平面は西辺がやや膨らむ隅丸三角形で、筒部は平面五角形をなす。水平に揃えた最下段の礫から筒部壁面が直に立ち上がったのち、上端までおよそ40~50°の角度をもってすり鉢状の斜面をなす。西側中央付近の上端は他より30~50cmほど低く、平坦面となるように礫が敷かれている。一

段降りたこの場所が、水汲み等作業を行うためのスペースとして用いられたと推測する。**掘り方** 平面は北北東から南南西にのびる楕円形で、作業スペースと考えられる平坦面部分が西へ張り出す。50cmほど直に掘り込んだ後、底面に向かってすり鉢状に掘り込む。底面中央が周囲より5cmほど低くなっている。裏込めはセクション北側において黒褐色土と黄褐色土が互層をなす。筒部に相当する部分に砂礫を用いるのは湧水のための造作であろう。**埋没土礫**が多量に埋没しており(10層)、人為的に埋め戻されたと考えられる。**遺物** 龍泉系青磁碗が出土した。**所見** 詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



A区3号井戸



A区3号井戸

1. 鈍い黄褐色土。しまりが強い。粘質。径3cm程の2層土ブロックを少量、パミスを微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。1層土粒をやや多量、パミスを微量含む。
3. 鈍い黄褐色土。しまりが強い。粘質。
4. 鈍い黄褐色土。しまりが強い。粘質。径5cm前後の灰色粘質土ブロックを少量含む。
5. 黒褐色土。しまりが強い。1層土粒を少量、パミスを微量含む。
6. 黒褐色土。1層土粒を少量、パミスを微量含む。
7. 砂礫。
8. 黒褐色土。鈍い黄褐色土ブロック・粒をやや多量含む。
9. 鈍い黄褐色土。黒褐色土ブロック・粒を少量含む。
10. 径30cm以下の円礫を灰黄褐色土で充填。
11. 128号土坑埋没土。
12. 132号土坑埋没土。
13. 上面が128・132号土坑確認面。  
下面が3号井戸・143号土坑確認面。
14. 143号土坑埋没土。
15. 3号井戸埋没土。



A区3号井戸出土遺物



A区3号井戸遺物観察表

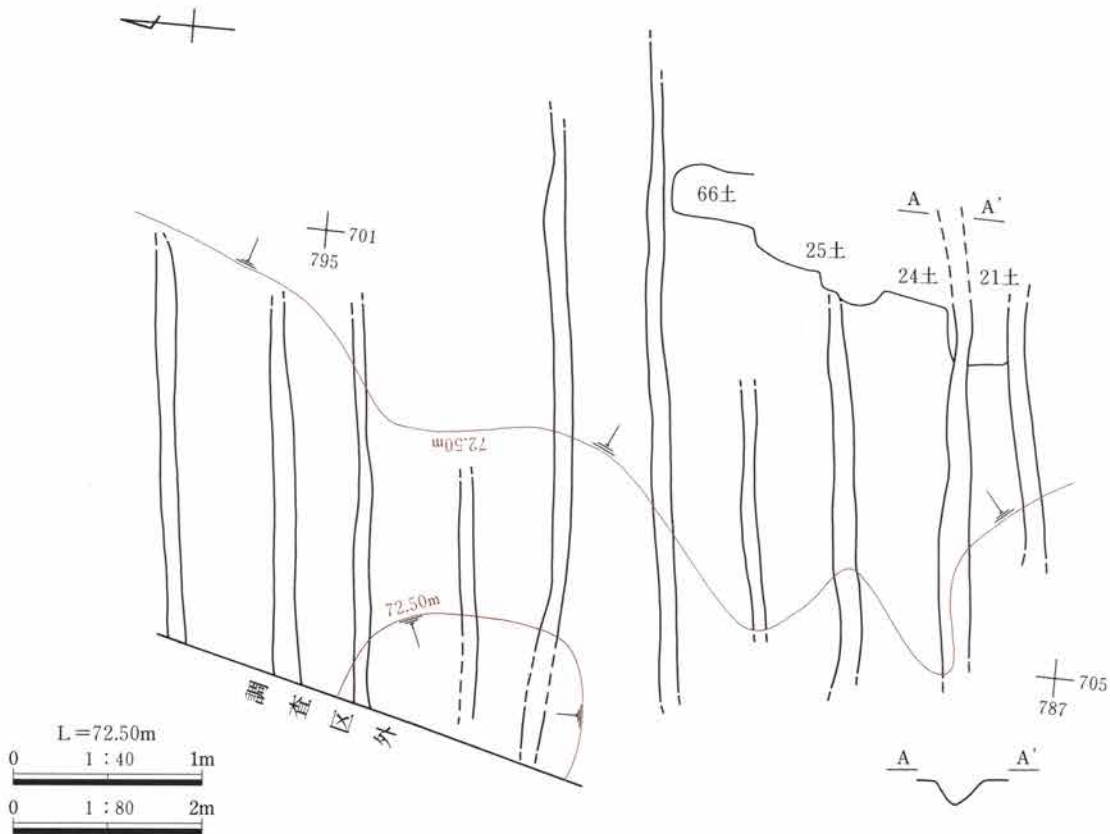
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
301	磁器 青磁碗	埋没土	口径 — 底径 — 器高 2.2+	龍泉窯系青磁。釉はやや厚く、蓮弁幅は狭い。	体部～高台脇破片。 中世。

## 4. 畠、道

## A区1号畠(PL.13)

**位置** 785～795-695～705 **重複** セクションより  
21号土坑→1号畠 **形状・規模** 幅8～31cmのサク  
を10条検出した。いずれも東西にのびる。サク間は  
35～101cm、サクの深さは残りの良いところで10cm前

後である。**埋没土** 黄褐色系の地山に対し、やや黒  
味の強い灰黄褐色土で埋没する。確認面が低く大部  
分が平面のみの検出である。**遺物** 出土しなかつ  
た。**所見** A区21号土坑より新しく、近世以降の可  
能性が高い。

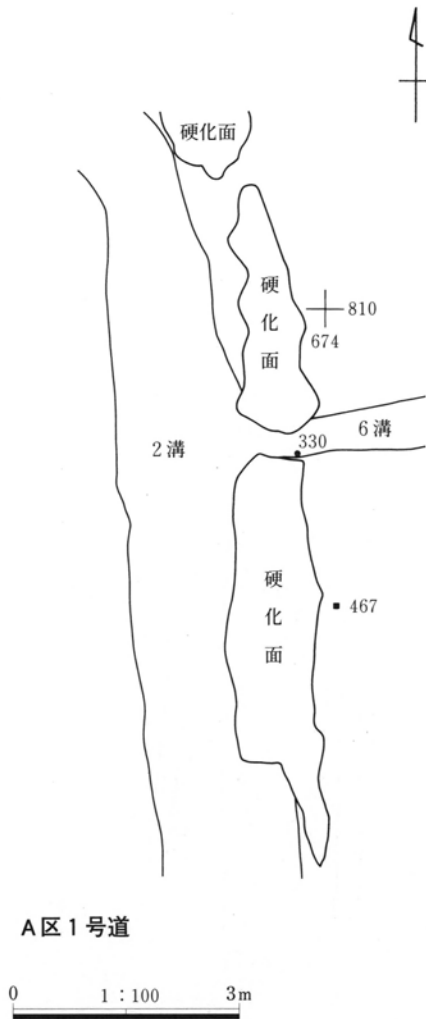


A区1号畠

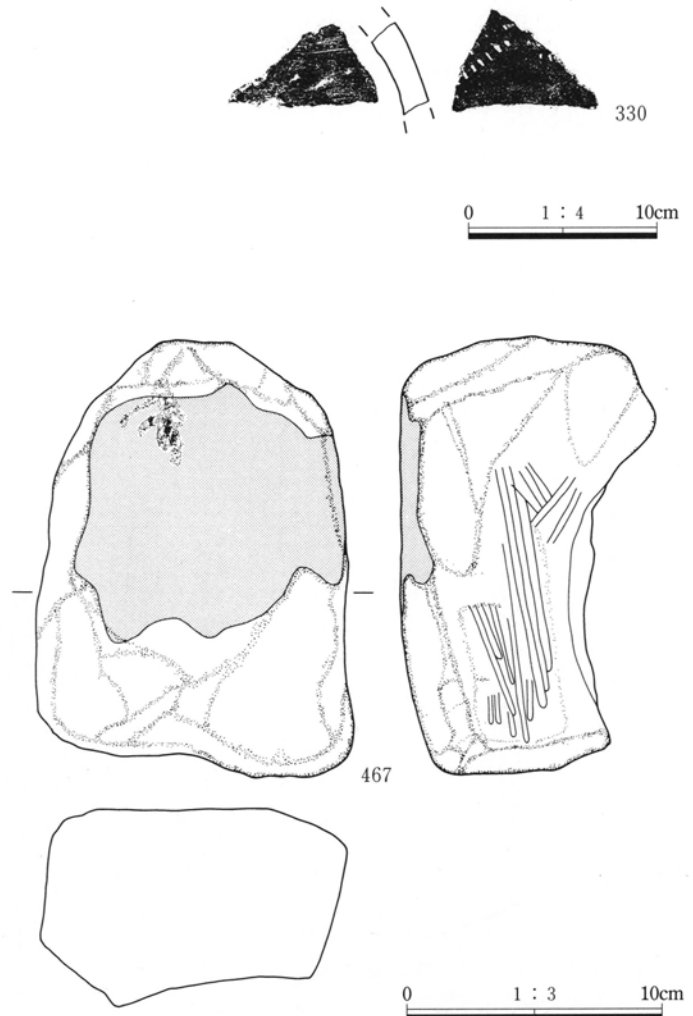
A区1号道(PL.13・55)

**位置** 800~810-670・675 **重複** プラン確認より2・6号溝→1号道、溝確認面より3cm前後上層での検出である。**形状・規模** 長さ 約6.0m 最大幅 1.15m。平坦な硬化面として検出。**埋没土** 硬化面上または同レベルにおいて河床礫がまとまって分

布するが、本遺構との関係は不明である。**遺物** 硬化面上ではないが、周辺の同レベルにおいて中世常滑甕、砥石が出土した。**所見** 重複する遺構より近世以降のものと思われる。2号溝と走向が一致し、位置も近いことから前代の地割りを利用して道としたものと考えられる。



A区1号道



A区1号道出土遺物

A区1号道遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
330	陶器 甕?	埋没土	口径 - 底径 - 器高 4.9+	常滑系。胎土灰白色。外面に叩きあり。	胴部破片。 中世。
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
467	石製品 砥石	埋没土	長さ 17.1 幅 12.3 厚さ 6.5~10.0 重量 2979 粗粒輝石安山岩	自然礫を用い、据え置いた状態で比較的平坦な面を磨面とする。1側面にも筋状の擦痕あり。	完形。

## 5. 土坑

A区で129基、B区で52基検出した。分布には疎密が見られる。1号溝に囲まれた部分では東寄りに径1mを越える大型の円形土坑が集まり、調査区南寄りには溝状の土坑が分布する。畠部分と中央付近では疎らである。1号溝・2号溝間及び溝と重複するものもそれぞれ2基・4基と少ない。2号溝・7号溝間では、北東から南西に掛けて分布し、特に6号溝寄りには2mを越える大型の円形土坑、長方形土坑が集中する。B区では現道を挟んだ位置と、655ライン付近に南北に連なるように分布する。溝状の土坑が円形土坑より多い傾向がある。遺物は18世紀から明治時代の土器・陶磁器が主で、古代以前のは数点である。B区50号土坑からは中世陶磁器が2点出土した。遺構の時期は、出土遺物や他の遺構の状況より江戸後期から近現代を主体とし、中世も存在する可能性があるが、詳細は不明である。

### A区1号集石土坑(遺構P.67・68遺物P.85・86 PL.13・14・55・56)

**位置** 810-675・680 **重複** 2号溝→1号集石土坑 **形状** 長辺が蛇行する長方形。 **規模** 2.49×1.52×0.51m **埋没土** 人為埋没である。中層以下は河床礫が主体で、上層は中層以下と同じ土だが礫を含まない。 **遺物** 礫と共に瀬戸・美濃陶器皿・碗、在地系焙烙、中世瓦、砥沢砥石のほか、図示していないが2号集石土坑と接合する在地系鍋などが出土した。 **所見** 2・3号集石土坑と共に、礫を処分するための土坑と思われる。遺物は瓦と石製品を除けば、324が17世紀のほかは18世紀に入り、遺構の時期を表している可能性が高い。

### A区2号集石土坑(遺構P.67・68遺物P.86・87 PL.13・14・56)

**位置** 810-675・680 **重複** なし。 **形状** 東辺が長い台形状で、西辺は外方に膨らむ。 **規模** 2.62×1.15×0.30m **埋没土** 人為埋没である。河床礫が主体だが、1号集石土坑と同様に礫を含まない上層が10cm程確認できた。 **遺物** 18世紀以降の在地系

焙烙、用途不明の石製品のほか、底面北東隅付近から径5mm前後の骨片が数十個出土した。人骨か否かは不明である。297はA区74号土坑と接合。 **所見** 礫主体の堆積状況や遺物の種類などから墓の可能性は低い。1・3号集石土坑と共に、礫を処分するための土坑かと思われる。北辺を除く縁辺に大型の礫を配している。北辺が2号溝との重複を避けるように位置し、埋没過程にある2号溝のプランが意識されている可能性がある。

### A区3号集石土坑(遺構P.68遺物P.88・89 PL.14・56)

**位置** 795・800-675 **重複** 1号溝→3号集石土坑 **形状** 西辺が短い台形状。 **規模** 約0.80×約0.70×0.21+m **埋没土** 河床礫主体の下層に、礫を含まない上層があったことが写真で確認できる。1・2号集石土坑と同様の堆積状況であったと思われる。 **遺物** 砥沢砥石のほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器菊皿、在地系土器香炉・焙烙などが出土した。 **所見** 1・2号集石土坑とは位置が離れ、規模も小さいが、下層が礫主体の堆積であることや特殊な遺物も出土しないことから、本遺構も礫を処分するための土坑と思われる。

### A区A号土坑(遺構P.68遺物P.88・89 PL.15・56~58)

**位置** 800・805-675~685 **重複** 1号溝→A号土坑 **形状** 1号溝の南側に沿って東西に長い不整楕円形。下端は上端に対して南東方向に寄る。681ライン付近で括れ、これより東側の下端は円形で、西側より15cmほど高い。 **規模** (9.9)×1.51~3.59×0.27~0.50m **埋没土** 中層にAs-A軽石が堆積。1次堆積か人為によるものかは不明。 **遺物** 肥前磁器碗、瀬戸・美濃陶器碗・香炉・半胴甕・灯明皿、丹波及び堺・明石すり鉢、在地系鍋・焙烙・皿、砥沢砥石などが出土した。そのほか、南西斜面に捨てられた様な状況で河床礫がまとまって出土した。293はA区48号土坑、294はA区57号土坑と接合。 **所見** As-Aの堆積は最下層でないことから復旧土坑とは考えにくい、不純物の混入が殆ど無く、降下

## 上増田島遺跡A・B区

からさほど時間をおかずに堆積したと思われる。遺物は確実に天明前といえるものはないものの、18世紀後半が主体で矛盾しない。なお、遺跡内で他にAs-Aが確認できるのはA区115号・B区27号土坑のみである。セクションより重複する1号溝がある程度埋没してから掘削されたことが窺える。

### B区1号集石土坑(遺構P.69遺物P.91・92 PL.15・58・59)

**位置** 830・835-685・690 **重複** 攪乱(現代の家の土台)に切られるが、その範囲は不明である。**形状** 東西にのびる不整楕円形で南辺が突出する。突出部付近の底面が15cmほど低くなる。**規模** 5.78×4.40×0.37m **埋没土** 河床礫を主体とした人為堆積。**遺物** 肥前磁器碗・猪口、瀬戸・美濃徳利・すり鉢、常滑陶器甕、製作地不詳行平・急須などのほか、図示していないがA区126号土坑と接合する瀬戸・美濃天目碗、動物(種類・部位不明)の焼骨2片が出土した。**所見** 礫を処分するための土坑と思われる。底面が1段低い箇所は平面プランの突出部と重なり、後からの掘り込みとも考えられるが、セクションからは把握できない。遺物は礫に混ざって出土し、18世紀中頃から近現代まで幅がある。遺構の時期は不明である。

### A区14号土坑(遺構P.69 PL.17)

**位置** 800-700 **重複** なし。**形状** 隅丸長方形で底面は平坦である。中央やや南寄りにピットをもつ。**規模** 2.39×1.12×0.29m P1 36×30×5cm **埋没土** 黒褐色土を主体とする自然堆積。ピット内の堆積状況は不明である。**遺物** 図示していないが尾呂茶碗、在地系焙烙などのほか、ピット周辺から河床礫がまとまって出土した。**所見** ピットはプラン確認により土坑に伴うもの、もしくは先行するものである。遺構の用途・機能は不明である。

### A区19号土坑(遺構P.69遺物P.96・97 PL.18・60・61)

**位置** 800-685 **重複** なし。**形状** 円形で壁面は外反しながら直に立ち上がる。底面は平坦である。

**規模** 1.32×1.19×0.55m **埋没土** 下層に粘度のある暗灰黄色土が堆積する。**遺物** 瀬戸・美濃陶器皿、金属製煙管などのほか、図示していないが堺・明石すり鉢などが出土した。**所見** 20号土坑と平面・断面形態が似ており、隣接した位置にあることから、同じ機能をもって近い時期に掘削されたと推測する。

### A区20号土坑(遺構P.69 PL.18)

**位置** 795・800-680・685 **重複** プラン確認よりA区2号掘立柱建物→20号土坑 **形状** 円形で壁面は外反しながら直に立ち上がる。南側壁面上半は稜をもって強く外反する。底面は平坦だが、中央が周辺より5cmほど高い。**規模** 1.92×1.72×0.53m **埋没土** 下層に粘度のある黒褐色土が堆積する。**遺物** 図示していないが肥前陶胎染付碗が出土した。**所見** 19号土坑と平面・断面形態が似ており、隣接した位置にあることから、同じ機能をもって近い時期に掘削されたと推測する。

### A区57号土坑(遺構P.69遺物P.96 PL.20・60)

**位置** 800-675 **重複** プラン確認より1号溝→57号土坑 **形状** 西辺が短い台形状で、東辺が膨らむ。底面は平坦だが、中央が南北方向に20cmほど低くなる。**規模** 1.49×0.66~0.90×0.46m **遺物** 肥前陶器碗のほか、図示していないが腰鏝碗などが出土した。**所見** 埋没土2層上面と遺構中段底面のレベルが近く、遺構が重複している可能性がある。

### A区129号土坑(遺構P.70遺物P.96 PL.25・60)

**位置** 795・800-655 **重複** なし。**形状** 円形で東側がやや潰れる。壁面は緩やかに立ち上がり、中位で強く外反する。**規模** 3.23×3.02×0.87m **埋没土** 3~5層付近から河床礫が集中して出土する。**遺物** 在地系土器皿などが出土した。**所見** 上記の礫は、遺構埋没過程で人為的に廃棄されたものと思われる。

5. 土坑

**A区135号土坑(遺構 P.70遺物 P.94 PL.25・59)**

**位置** 805・810-650・655 **重複** 6号溝と重複するが新旧関係は不明である。**形状** 円形で底部は平坦である。壁面は直に立ち上がる。**規模** 径約2.5m 深さ 約0.6m **埋没土** 上層に粘度のある土が堆積する。**遺物** 肥前陶器碗、堺・明石すり鉢、陶器德利、寛永通宝などのほか、図示していないが肥前磁器染付碗、土器竈などが出土した。18世紀後半～近代までの遺物が層位にかかわらず認められる。**備考** セクション図及び写真のみの記録であり、用途・時期等詳細は不明である。

**B区11号土坑(遺構 P.70 遺物 P.95 PL.27・59・60)**

**位置** 835-680 **重複** なし。**形状** 調査区内では楕円状で、底部は平坦である。**規模** 1.0+×0.71+×0.69m **埋没土** 1層からなり、人為的に埋め戻される。**遺物** 肥前磁器碗・皿、瀬戸・美濃磁器

碗、肥前陶器碗、丹波すり鉢などのほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器菊皿、志野皿、腰鍔碗、近現代磁器德利、ガラス瓶などが出土した。333・335は幕末以降、331は18世紀、他は18世紀末～幕末のものである。**所見** 埋没土の堆積状況から一括廃棄されたものとする。遺構の時期は333により明治以降である。

**B区12号土坑(遺構 P.70遺物 P.96・97 PL.27・60・61)**

**位置** 820-695・700 **重複** なし。**形状** 不整楕円形で底部からなだらかに立ち上がる。**規模** 0.86×0.75×0.18m **埋没土** 不明である。**遺物** 河床礫が密に埋められ、それと共に瀬戸・美濃磁器端反碗、砥石などが出土した。**所見** 礫が人為的に配列された様子は見られず、柱痕も観察できないことから、礫を廃棄するための土坑と推測する。

A・B区土坑一覧表

番号	位置	平面形	規模 (m)	重複	遺構図	遺物図	PL. No	備考
A区1	795-700	不整形	1.25×1.05×0.25		P70		16	
A区2	790-695	不整形	1.68×1.40×0.45	2土→3土	P71		16	瀬戸・美濃陶器皿・鉢などが出土
A区3	790-695	不整形	1.10×0.80+×0.12	2土→3土→4土、29土	P71		16	瀬戸・美濃腰鍔碗などが出土
A区4	790-695	不整形	0.75×0.50×0.45	3・13・29土→4土	P71		16	
A区5	795-695	楕円形	1.10×0.95×0.28		P70	P97	16・61	
A区6	795-695	不整形	0.68×0.62×0.15		P71		16	
A区7	795-695	楕円形	0.76×0.58×0.16		P71		16・61	肥前陶胎染付碗などが出土
A区8	795・800-695	不整形	1.00×0.85×0.24		P71		16	肥前磁器碗、尾呂茶碗、在地系焙烙などが出土
A区9	795-690	不整形	0.98×0.92×0.38		P71		16	ピット状に10cm程窪む
A区10	785・790-690	楕円形	1.55×1.25×0.38	11土→10土	P71		17	10土又は11土より在地系土器竈などが出土
A区11	785・790-690	不整形	1.38×1.35×0.40	11土→10土、12土	P71		17	
A区12	785-690	(長方形)	1.62+×0.56×0.20	11土	P71		17	
A区13	790・795-695・700	不整形	1.75×1.35×0.25	44土→13土→4土	P71		17	
A区14	800-700	隅丸長方形	2.39×1.12×0.29		P69		17	

上増田島遺跡A・B区

A区15	790-690	隅丸長方形	0.58×0.32×0.20		P 72	P 96	17・60	
A区16	795-690-695	長楕円形・隅丸方形	2.25×0.70×0.30		P 72		17	2基の土坑より成るか
A区17	790-695	不整形円形	1.00×0.80×0.50	18土	P 72		17	
A区18	790-690-695	不整形楕円形	1.58×0.78×0.35	17土	P 72		17	
A区19	800-685	円形	1.32×1.19×0.55		P 69	P 96・97	18・60・61	
A区20	795-800-680-685	円形	1.92×1.72×0.53	2掘→20土	P 69		18	
A区21	785-695-700	長方形	4.60×0.56×0.14	22・23・52土 →21土 →1畠、24土	P 73			在地系焙烙などが出土
A区22	785-695	(隅丸方形)	1.00×0.75×0.45	22土→21土、52土、53土	P 73		20	
A区23	785-700	(隅丸長方形)	1.18×0.56×0.28	26土→23土→21・24土・1畠、25土	P 73			
A区24	785-790-695-700	(不整形楕円形)	2.20×1.05×0.06	26土→23土→24土→1畠 25土→24土、21・66・67土	P 73			
A区25	785-790-700	不明	0.75×0.62×0.05	25土→24・66土、23・67土	P 73			
A区26	785-695-700	不整形楕円形	0.48×0.35×0.35	26土→23土→24土	P 73			
A区28	795-695	円形	0.50×0.46×0.22		P 72			
A区29	790-695	楕円形	0.52×0.38×0.46	29土→4土、3土	P 71	P 96	18・60	
A区31	790-700	不整形円形	0.65×0.58×0.12		P 72		18	
A区32	790-700	円形	0.55×0.50×0.50		P 72		18	
A区33	800-695-700	隅丸長方形	1.24×0.75×0.16		P 72	P 96	18・60	1層に河床礫が集中
A区35	795-695	楕円形	0.40×0.32×0.29		P 72		18	在地系焙烙などが出土
A区36	795-690-695	円形	0.50×0.48×0.16		P 72		19	礎石状の河床礫出土
A区37	795-690	円形	0.36×0.32×0.12		P 72		19	
A区38	795-690	円形	0.28×0.27×0.30		P 72			
A区39	795-695	楕円形・円形	0.65×0.26×0.35		P 72		19	
A区41	795-685-690	円形	0.68×0.52×0.20		P 73		19	
A区42	795-685	隅丸方形	0.45×0.35×0.20	42土→43土	P 73		19	
A区43	795-685	楕円形	0.48×0.35×0.08	42土→43土	P 73		19	
A区44	795-695	円形	0.32×0.30×0.26	44土→13土	P 71		19	
A区46	795-685	円形	0.65×0.63×0.38		P 73		19	
A区47	800-680-685	隅丸長方形	2.92×0.48×0.05		P 74		19	48土に併行し、形状が似る
A区48	800-680	隅丸長方形	1.88×0.52×0.06		P 74	P 96	19・60	47土に併行し、形状が似る
A区49	790-795-680	円形	0.70×0.56×0.20	72土→49土	P 74		20	

## 5. 土坑

A区50	785-690・695	隅丸長方形	1.88×0.56×0.34		P74			
A区51	785-695	不整円形	0.42×0.40×0.26	52土→51土	P73		20	
A区52	785-695	(隅丸長方形)	0.78×0.80×0.48	52土→21・51土、22土	P73		20	
A区53	785-695	(隅丸方形)	0.50×0.45×0.15	22土	P73		20	
A区54	805-675	隅丸長方形	1.80×0.80×0.18		P74		20	
A区55	790-690	不整円形	0.52×0.45×0.32		P74		20	底面付近より河床礫出土
A区56	800-675	隅丸長方形	2.56×0.96×0.48	1溝→56土	P74		20	
A区57	800-675	台形	1.49×0.90×0.46	1溝→57土	P69	P96	20・60	
A区58	785・790-685・690	長楕円形	3.00×0.38×0.14	154土	P74		20	
A区63	790-685	楕円形	1.15×0.62×0.16	64土→63土、82土	P74		22	
A区64	790-685	不明	0.50×0.48×0.15	64土→63・65土	P74		22	在地系土器鍋などが出土
A区65	790-680	隅丸長方形	1.30×0.48×0.17	64土→65土	P74		21	
A区66	785・790-695・700	隅丸長方形	1.50×0.52×0.22	25・67土→66土、24土	P73		21	
A区67	790-695・700	長方形	1.45×0.50×0.30	67土→66土、24・25土	P73		21	
A区68	790-680・685	隅丸長方形	2.22×0.72×0.34	83土→68土	P75			中段をもつ
A区69	790-680	円形	0.34×0.32×0.38	70土→69土	P75	P96	21・60	69土又は70土より堺・明石すり鉢などが出土
A区70	790-680	隅丸長方形	1.46×0.42×0.22	70土→69土	P75	P96	21・60	69土又は70土より堺・明石すり鉢などが出土
A区71	790-680	円形	1.85×1.52×0.14		P75	P96	21・60・61	確認面より10cm下で中段をもつ、瀬戸・美濃陶器鉢・皿、在地系焙烙などが出土
A区72	790・795-680	円形	2.40×2.30×0.52	72土→49土	P75		21	
A区73	790-680	円形	1.62×1.38×0.38		P75		21	肥前陶胎染付碗、在地系焙烙などが出土
A区76	785・790-680	不整円形	0.60×0.52×0.36		P75		21	
A区77	790-680	円形	0.48×0.42×0.60		P75		21	尾呂茶碗などが出土
A区78	790-680	円形	0.35×0.28×0.16		P76		22	底面直上に礎石状の河床礫が出土、志野皿などが出土
A区80	795-690	円形	0.48×0.42×0.42		P76			
A区81	790-690	楕円形	0.62×0.45×0.46		P76			
A区82	790-685	不整円形	0.85×0.80×0.18	63土	P74		22	
A区83	790-680	円形	0.50×0.42×0.20	83土→68土	P75		21	
A区84	790-675	楕円形	0.78×0.63×0.30		P76	P96・97	20・60・61	在地系焙烙などが出土
A区85	795-665	隅丸長方形	3.25×0.88×0.40		P76		20	

上増田島遺跡A・B区

A区86	795-660	楕円形	1.40×0.44×0.18	88土→86土	P76		22	
A区87	800-655-660	(隅丸長方形)	1.18×0.45×0.18	88土→87土	P76		22	
A区88	795-800-660	円形	1.25×1.18×0.25	88土→86・87土	P76		22	
A区89	795-665	楕円形	1.08×0.70×0.15		P76		22	
A区91	795-690	楕円形	0.62×0.42×0.30		P76		23	
A区92	795-660	隅丸長方形	1.36×0.50×0.18		P76		23	2基の土坑より成るか
A区93	795-660	隅丸長方形	1.02×0.53×0.22		P76		23	
A区94	795-665	隅丸長方形	2.04×0.78×0.38	117土→94土→95土	P77		23	瀬戸・美濃陶器碗、肥前陶胎染付碗などが出土
A区95	795-665	(楕円形)	(1.16)×0.72×0.25	94土→95土	P77		23	
A区97	790-795-670	不整形円形	1.12×0.78×0.18		P77		23	
A区101	800-665-670	隅丸方形	0.42×0.39×0.28		P77		23	
A区102	800-665	隅丸方形	0.55×0.54×0.28		P77		23	
A区104	800-805-665	円形	0.47×0.42×0.34	143土→104土	P77		23	柱穴の可能性
A区105	800-665	楕円形	0.68×0.45×0.62		P77		23	北壁が2段、肥前磁器碗などが出土
A区107	795-665	円形	0.36×0.35×0.15	108土→107土	P77			
A区108	795-665	楕円形	0.50×0.30×0.17	108土→107土	P77			
A区109	790-795-660	楕円形	0.78×0.36×0.12		P77			
A区111	805-655	楕円形	0.68×0.47×0.48		P78		23	
A区113	795-800-660-665	隅丸方形	0.98×0.72×0.25		P78		24	
A区114	795-655-660	円形	1.12×1.02×0.18		P78		24	中段をもち、2基の土坑より成る可能性
A区115	790-650	(円形)	1.08×(1.08)×0.25		P78		24	埋没土にAs-Aを含む、陶器すり鉢などが出土
A区116	790-645	(円形)	1.20×1.08×0.24		P78		24	
A区117	795-665-670	隅丸長方形	1.20×0.62×0.26	117土→94土	P77	P96	23-60	
A区118	795-800-665	楕円形	(0.75)×0.32×0.48		P78		24	確認面より40cm下で中段をもつ
A区120	790-665	楕円形	1.10×0.80×0.20	121土	P78			
A区121	790-660-665	楕円形	1.12×0.72×0.25	120土	P78			
A区122	790-660	円形	0.74×0.60×0.22		P77		24	
A区123	800-655-660	隅丸長方形	2.10×1.12×0.58	131土→123土	P78		25	
A区124	800-660	隅丸方形	(0.95)×0.86×0.26		P79		24	
A区125	805-655	楕円形	0.68×0.49×0.64		P80			



## 5. 土坑

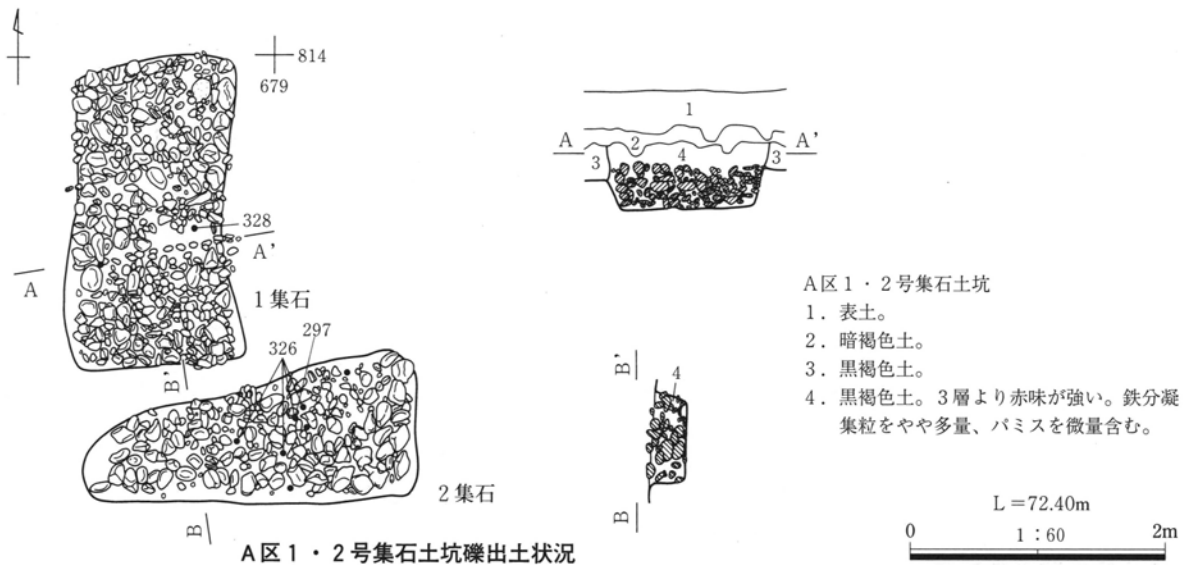
A区126	790-640~650	長楕円形	9.70×0.85×0.62		P79	61	肥前陶胎染付碗、尾呂茶碗、1集石と接合する瀬戸・美濃天目碗などが出土
A区127	805-660	隅丸長方形	2.52×0.86×0.60	127土→2柱列、139・141土	P79		肥前陶器青緑釉皿などが出土
A区128	800-660-665	(楕円形)	(2.50)×0.72×0.46	3井・132・143土→128土、142土	P79	24	
A区129	795・800-655	円形	3.23×3.02×0.87		P70	25・60	
A区130	800-665	円形	0.60×0.46×0.20	142土→130土	P79	25	扁平な河床礫が出土
A区131	800-655-660	隅丸長方形	3.12×1.18×0.22	136土→131土→123土	P78	25	
A区132	800-660-665	(隅丸長方形)	1.46×(0.70)×0.10	3井→132土→128土	P79	24	
A区134	805-660	円形	1.00×0.85×0.45		P80	25	
A区135	805・810-650・655	円形	径(2.5)×0.56	6溝	P70	25・59	
A区136	800・805-655・660	(円形)	1.02×0.50×0.18	136土→131土	P78	25	
A区139	805-655-660	隅丸長方形	(1.86)×0.72×0.25	139土→2柱列、127・141土	P79		
A区141	805-655-660	隅丸長方形	2.76×1.20×0.52	127・139土	P79	25	
A区142	800-665	隅丸長方形	1.64×0.72×1.30	142土→130土、128・143土	P79	25	
A区143	800・805-660・665	隅丸長方形	3.92×0.78×0.42	3井→143土→104・128・144土、142土	P79	24	
A区144	805-665	(隅丸長方形)	(2.00)×1.05×0.25	143土→144土、148土	P80		
A区146	805-655	楕円形	1.34×0.95×0.48		P80	26	
A区147	805-660	(楕円形)	2.54×0.93×0.34	147土→153土	P80	26	
A区148	805-660-665	楕円形	(2.00)×1.20×0.25	144土、153土	P80	26	
A区149	805-655	不整形円形	0.44×0.37×0.23	149土→150土	P80	26	
A区150	805・810-655	円形	0.68×0.60×0.20	149土→150土	P80	26	
A区153	805-660-665	円形	1.72×1.52×0.48	147土→153土、148土	P80	26	
A区154	785・790-690	長楕円形	2.68×0.58×0.30	58土	P74		中段をもつ
B区1	815・820-695	楕円形	0.95×0.75×0.18		P80		
B区2	820-695	楕円形	0.72×0.62×0.20		P80		陶器火鉢などが出土
B区3	820-685	楕円形	0.96×0.63×0.13		P81		陶器碗などが出土
B区4	820-685	楕円形	0.70×0.42×0.16		P81	26	在地系土器火鉢などが出土
B区5	825-685	隅丸方形	1.00×0.95×0.25		P81		
B区6	820-685	楕円形	0.96×0.55×0.08	B7土→B6土	P81	26	
B区7	820-685	隅丸長方形	1.12×0.58×0.20	B7土→B6土	P81	26	在地系焙烙などが出土

上増田島遺跡A・B区

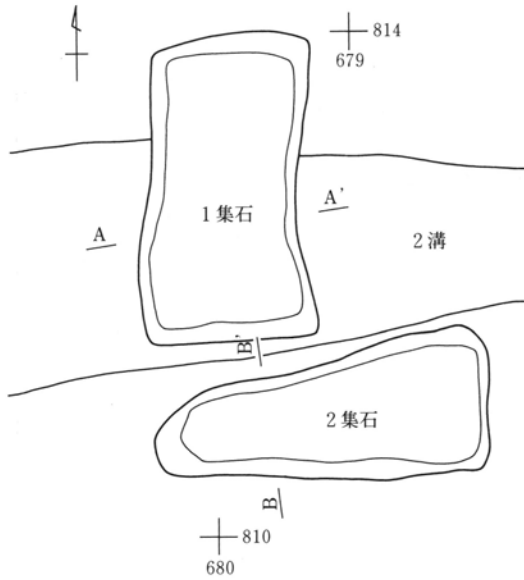
B区8	820-825-685	隅丸長方形	1.78×0.40×0.10	B9土→B8土	P81		27	瀬戸・美濃陶器菊皿などが出土
B区9	820-680-685	隅丸長方形	1.36×0.80×0.25	B9土→B8土	P81		27	
B区10	830-685	不整円形	0.85×0.64×0.24		P81		27	陶器碗などが出土
B区11	835-680	不明	1.00×0.71×0.69		P70	P95	27・59・60	
B区12	820-695・700	不整楕円形	0.86×0.75×0.18		P70	P96・97	27・60・61	
B区14	830-690	隅丸長方形	2.20×0.85×0.45	B15土→B14土	P81		27	
B区15	830-835-690	隅丸方形	1.92×1.58×0.50	B15土→B14土	P81		27	
B区16	(820-685)	(円形)	(0.60)×(0.52)×0.23		P81			遺構の正確な位置が不明
B区18	830-685	楕円形	0.67×0.40×0.22		P81		27	
B区19	825-685	(隅丸長方形)	2.92×1.03×0.18	B25・58土	P82		28	
B区20	830-680-685	隅丸方形	1.13×1.12×0.28		P82		28	
B区22	830-700	隅丸長方形	3.15×0.70×0.52		P82		28	
B区23	835-690	円形	0.54×0.44×?		P82	P96・97	28・60・61	陶器すり鉢などが出土
B区24	835-695	(隅丸方形)	1.40×0.58×0.25	B29土→B24土	P82		28	南端のピットは24土又は29土に伴う
B区25	825-685-690	長楕円形	(3.82)×0.78×0.48	B19土	P82		28	
B区26	835-690	円形	0.50×0.42×0.35		P82		28	
B区27	835-690	円形	1.18×1.02×0.12		P82			埋没土にAs-Aを含む
B区28	835・840-690～700	長楕円形	9.62×1.25×0.56	B28土→B29土	P83	P97	28-60	東側底面が西側より10cmほど低い、2基の土坑より成るか、在地系焙烙などが出土
B区29	835-695	楕円形	1.55×(0.90)×0.45	B28土→B29土→B24土	P82	P97	28-61	南端のピットは24土又は29土に伴う、在地系焙烙などが出土
B区32	825-670	円形	1.38×1.20×0.16		P83		29	
B区33	825-670	円形	0.58×0.52×0.26		P83		29	
B区34	825-670	円形	0.72×0.68×0.10		P83		29	
B区35	820-670	楕円形	0.98×0.75×0.08		P83		29	
B区36	820-670	円形	0.50×0.42×0.45		P83			
B区37	830-670	円形	0.62×0.62×0.25		P83		29	
B区38	830-670	円形	1.20×1.18×0.18		P83		29	確認面より15cm程下に中段をもつ
B区39	830-665～675	隅丸長方形	5.83×0.95×0.33		P84		29	東端寄りの底面が15cmほど高い
B区41	835-650	隅丸長方形	2.72×0.58×0.35		P84	P96	29-61	
B区42	835-650-655	円形	0.62×0.55×0.34		P83		30	

5. 土坑

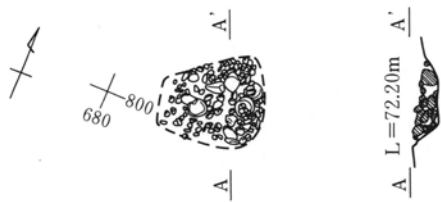
B区43	830・835-650・655	楕円形	0.46×0.36×0.26		P84		30	
B区44	830-650	楕円形	0.38×0.28×0.18		P84		30	
B区45	830-655	楕円形	0.35×0.28×0.15		P84		30	
B区46	830-655	楕円形	0.45×0.34×0.15		P84		30	底面より地山の礫が露出
B区47	825-655	円形	0.32×0.32×0.10		P84			
B区48	825-655	円形	0.68×0.68×0.09		P84			
B区49	830-655	円形	0.60×0.46×0.10	B49土→B51土	P84			
B区50	825・830-655	隅丸長方形	2.18+×1.18×0.22	B51土	P84	P96・97	60・口絵	ガラスおはじきなどが出土
B区51	830-655	(隅丸長方形)	2.25+×0.62×0.14	B49土→B51土、B50・53土	P84			
B区52	830-650	隅丸長方形	2.58×1.45×0.40		P85		30	
B区53	830-650-655	不整円形	0.60×0.48×0.46	B54土→B53土、B50・51土	P84		30	
B区54	830-650	楕円形	0.52×0.32×0.10	B54土→B53土	P84		30	
B区57	825-655	隅丸長方形	2.35×1.02×0.30		P85		30	
B区58	820・825-685	隅丸長方形	4.46×0.65×0.25	B19土	P85		30	底面に5cmほどの段差が2ヶ所
B区59	830-680・685	(長楕円形)	3.96+×0.50×0.15		P85		30	
A区A	800・805-675～685	不整楕円形	(9.9)×3.59×0.50	1溝→A土	P68	P88・89	15・56～58	
A区1集石	810-675-680	長方形	2.49×1.52×0.51	2溝→1集石	P67・68	P85・86	13・14・55・56	
A区2集石	810-675-680	台形	2.62×1.15×0.30		P67・68	P86・87	13・14・56	
A区3集石	795-800-675	台形	0.80×0.70×0.21+	1溝→3集石	P68	P86	14・56	
B区1集石	830・835-685・690	不整楕円形	5.78×4.40×0.37		P69	P91・92	15・58・59	



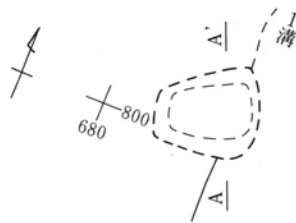
上増田島遺跡A・B区



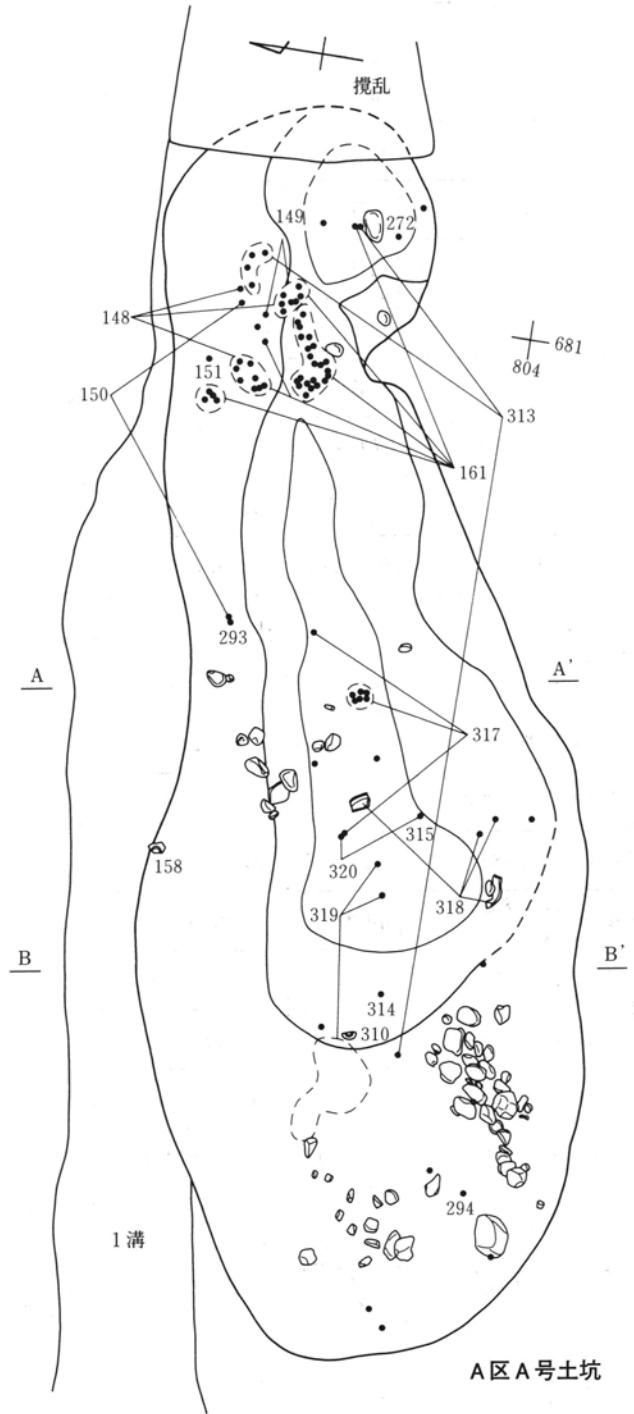
A区1・2号集石土坑



A区3号集石土坑礫出土状況



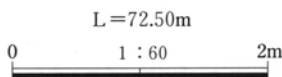
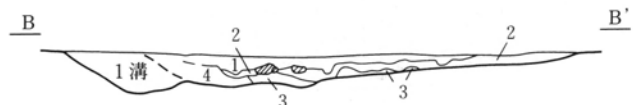
A区3号集石土坑

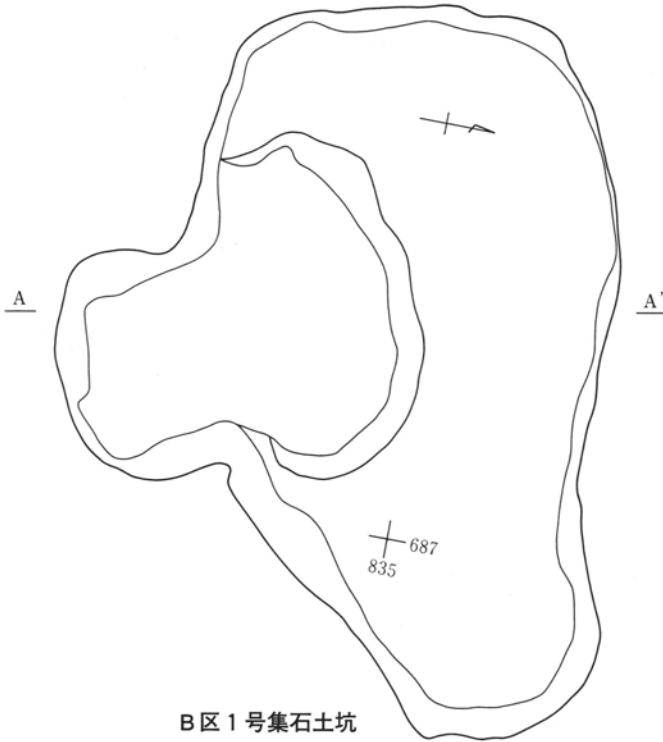


A区A号土坑

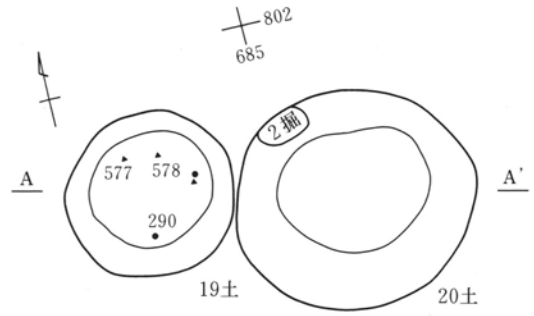
A区A号土坑

1. 灰黄褐色土。しまりが強い。
2. As-A層。1層のブロックを微量含む。
3. 黄灰色土。しまりがやや強い。鈍い黄褐色土ブロックをやや多量含む。
4. 褐灰色土。鉄分凝集粒・径1cm程の礫を少量含む。
5. 鈍い黄褐色土。しまりが弱い。

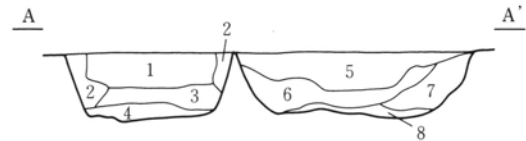




B区1号集石土坑

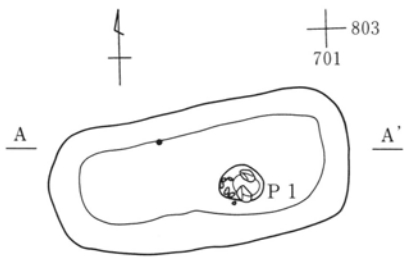


A区19・20号土坑

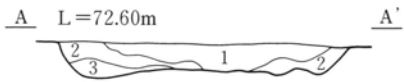


A区19・20号土坑

1. 灰黄褐色土。砂質。粗砂・炭粒を不均等に少量含む。
2. 暗灰黄色土。粒子が細かい。しまりが強い。黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
3. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色砂質土・灰色砂を少量含む。
4. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色砂質土を少量含む。
5. 灰黄褐色土。しまりが強い。鉄分凝集粒・灰色弱粘質土ブロックを少量含む。
6. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。鉄分凝集粒・灰色弱粘質土ブロックを少量含む。
7. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色砂質土ブロックをやや多量、鉄分凝集粒・灰色弱粘質土ブロックを少量含む。
8. 6層と黄褐色砂質土の混土。

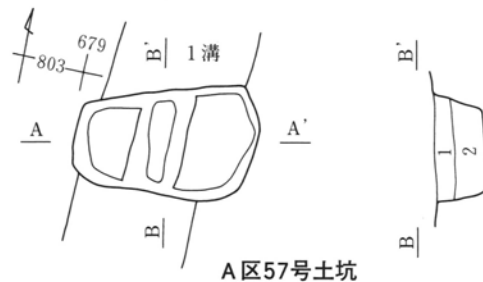


A区14号土坑



A区14号土坑

1. 黒褐色土。地山の明黄褐色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。地山の明黄褐色土ブロックを少量含む。
3. 褐灰色土。しまりが弱い。

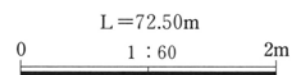


A区57号土坑

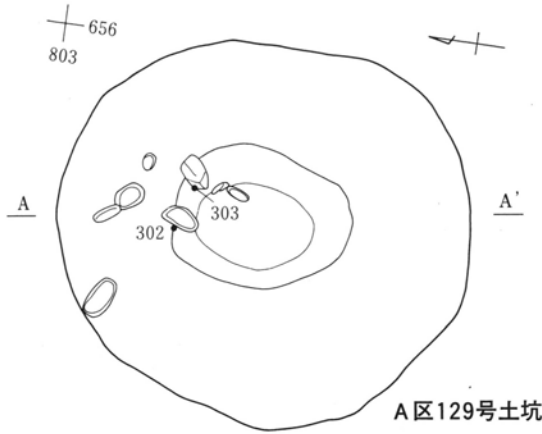


A区57号土坑

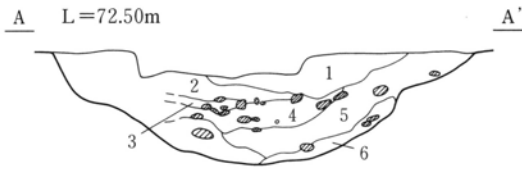
1. 黒褐色土。粒子が細かい。黄色味の強い粘質土粒を少量含む。
2. 灰黄褐色土。粒子が細かい。黄色味の強い粘質土粒を少量含む。



上増田島遺跡A・B区

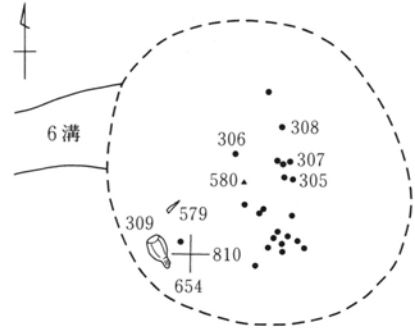


A区129号土坑

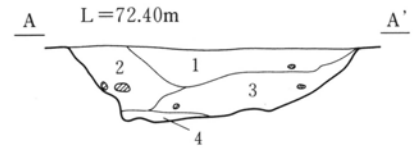


A区129号土坑

1. 暗灰黄色土。粘質。粗砂を多量、黄褐色シルト質ブロックをやや多量含む。
2. 灰黄褐色土。川砂・暗灰黄色土(1層)・パミスをやや多量含む。
3. 暗灰黄色土。1層より黄色味が強い。地山の砂をラミナ状に多量含む。
4. 暗灰黄色土。粘質。3層土ブロックを不均等に少量含む。
5. 暗灰黄色土。粘質。粗砂を少量含む。
6. 黄褐色土。シルト質。炭粒・鉄分凝集粒を少量含む。

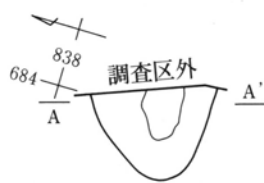


A区135号土坑

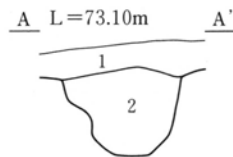


A区135号土坑

1. 暗褐色土。粘質。粒子が細かい。径3mm程の礫・パミス・炭粒を霜降り状に含む。
2. 1層と2層の漸位層。1層と同じ混入物を含むが、1層より少ない。
3. 黒褐色土。粒子が細かい。しまりが強い。炭粒を微量、下層に鉄分凝集粒を微量含む。
4. 暗オリーブ褐色土。3層と地山の砂の混土。

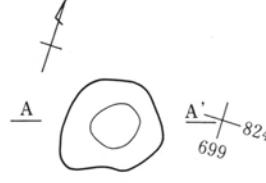


B区11号土坑

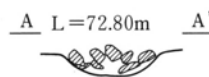


B区11号土坑

1. 表土。
2. 暗褐色土。しまりが強い。鈍い黄橙色土ブロックを少量含む。

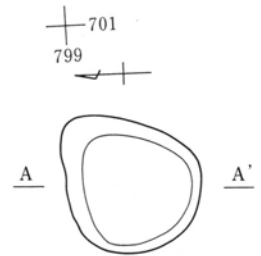


B区12号土坑

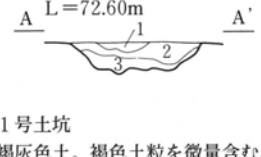


A区5号土坑

1. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。灰黄色土粒・炭素粒を微量含む。
2. 黒褐色土。粒子が細かい。砂質。褐色砂粒を少量含む。
3. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。灰黄色土粒・炭素粒を少量含む。

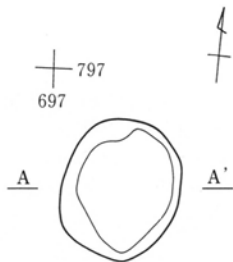


A区1号土坑

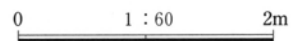
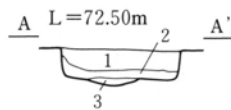


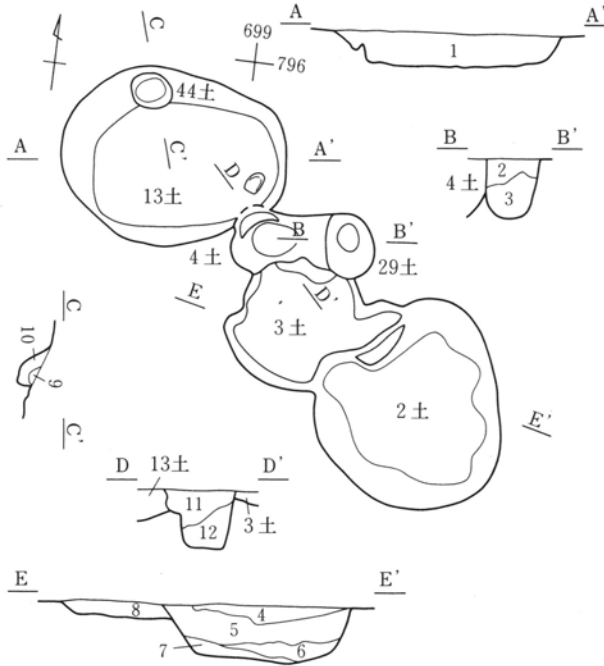
A区1号土坑

1. 褐灰色土。褐色土粒を微量含む。
2. 褐灰色土。褐色土・明黄褐色土ブロックを多量含む。
3. 褐灰色土。褐色土粒を少量含む。



A区5号土坑

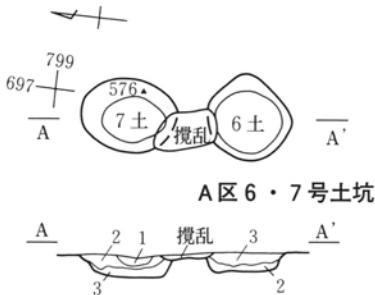




A区2~4・13・29・44号土坑

1. 灰黄褐色土。粒子が細かい。やや粘性。地山の黄色砂質土ブロックを微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色細砂を均一に少量、パミス・炭粒を微量含む。
3. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色細砂を均一にやや多量含む。2・3層は29号土坑埋没土。
4. 灰黄褐色土。やや粘質。地山の黄色砂質土ブロックを少量、パミスを微量含む。
5. 灰黄褐色土。やや粘質で1層より強い。地山の黄色砂質土ブロックを少量、炭粒を微量含む。
6. 灰オリーブ色土。やや砂質。鉄分凝集粒を少量、炭粒を微量含む。
7. 灰オリーブ色土。3層より黒味が強い。鉄分凝集粒を少量、炭粒を微量含む。4~7層まで2号土坑埋没土。
8. 灰黄褐色土。やや粘質だが1層より砂質。地山の黄色砂質土ブロックを少量含む。3号土坑埋没土。
9. 黒褐色土。砂質。炭粒を微量含む。
10. 暗灰黄色土。砂質。黄褐色土ブロックを不均等に少量含む。
11. 灰黄褐色土。やや粘質。地山の黄色砂質土ブロックを少量、炭粒を微量含む。
12. 暗灰黄色土。粘質。鉄分凝集粒・粗砂粒を少量含む。11・12層は4号土坑埋没土。

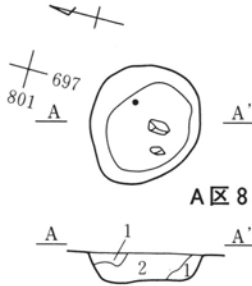
A区2~4・13・29・44号土坑



A区6・7号土坑

A区6・7号土坑

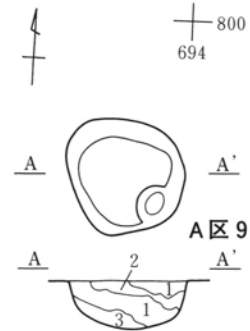
1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黒色砂をやや多量含む。
2. 黄灰色土。粒子が細かい。やや粘質。鉄分凝集粒を少量含む。
3. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。鉄分凝集粒を少量含む。



A区8号土坑

A区8号土坑

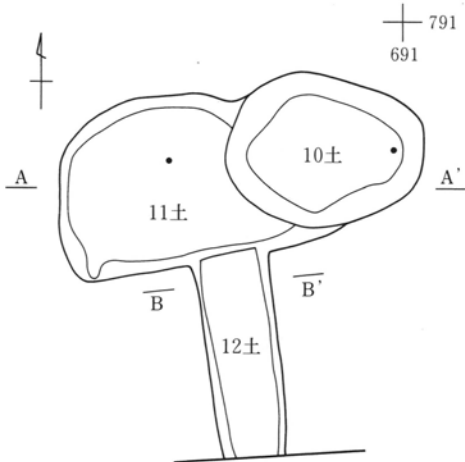
1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。地山の灰黄色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。地山の灰黄色土粒を不均等に微量含む。



A区9号土坑

A区9号土坑

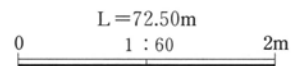
1. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色土粒を不均等に少量含む。
2. 黄褐色土。砂質。1層のブロックを不均等にやや多量含む。
3. 暗灰黄色土。2層のブロックを不均等にやや多量含む。



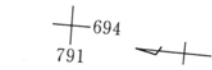
A区10~12号土坑

A区10~12号土坑

1. 灰オリーブ色土。粒子が細かい。やや粘質。パミスを微量含む。10号土坑埋没土。
2. 灰オリーブ色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色砂質土ブロックをやや多量、パミスを微量含む。
3. オリーブ灰色砂。粒子の不均等な川砂。東側がより径が大きい。
4. 黒褐色土。粒子が細かい。黄色砂質土粒を少量含む。
5. 黄褐色土。砂質。地山よりやや黒味が強い。地山の崩落。



上増田島遺跡A・B区

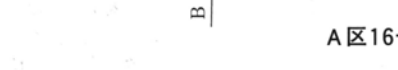


A区15号土坑



A区15号土坑

1. 黒褐色土。
2. 黒褐色土。1層よりしまりが有り、黒味が強い。

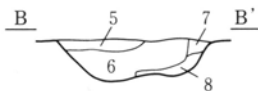
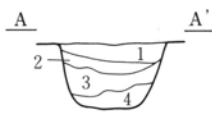
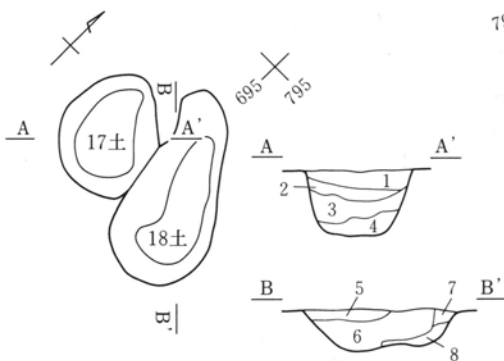


A区16号土坑



A区16号土坑

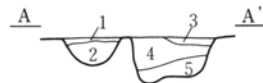
1. 褐灰色土。しまりが強い。褐色土粒・鈍い黄褐色土粒を多量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。褐色土粒・鈍い黄褐色土粒を少量含む。
3. 褐灰色土。しまりが強い。褐色土粒・鈍い黄褐色土粒を少量含む。



A区17・18号土坑

A区17・18号土坑

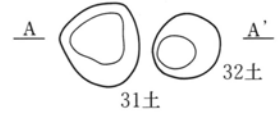
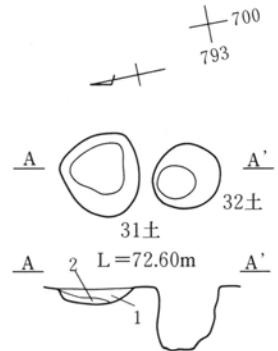
1. 黒褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫を少量含む。
2. 黒褐色土。1層より黒味が強い。しまりが強い。
3. 黒褐色土。しまりが強い。暗褐色細砂を均一に少量含む。
4. 黒褐色土。しまりが強い。暗褐色細砂をやや多量含む。
5. 黒褐色土。褐色土粒を多量含む。
6. 黒褐色土。1層より明るい。暗褐色細砂を少量含む。
7. 黒褐色土。1層より明るい。暗褐色細砂をやや多量含む。
8. 黄褐色細砂。地山の崩落。



A区28・39号土坑

A区28・39号土坑

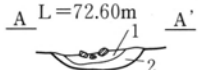
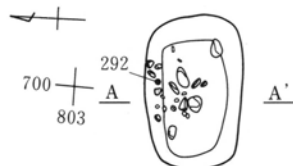
1. 黒褐色土。しまりが強い。パミスを微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色細砂ブロックをやや多量含む。
3. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。
4. 灰黄褐色土。黄色土ブロックを少量含む。
5. 3層と地山の砂質土の混土。しまりが弱い。



A区31・32号土坑

A区31号土坑

1. 黒褐色土。褐色細砂ブロックを少量含む。
2. 黒色土。褐色細砂ブロックをやや多量含む。

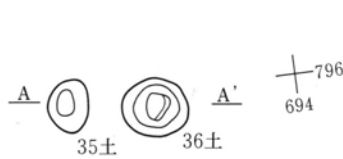
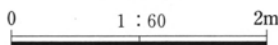


A区33号土坑

A区33号土坑

1. 鈍い黄褐色土。砂質。地山の黄褐色砂質土を均一に少量、パミスを微量含む。
2. 鈍い黄褐色土。砂質。しまりが弱い。地山の黄褐色砂質土を均一に微量、パミスを微量含む。

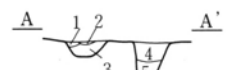
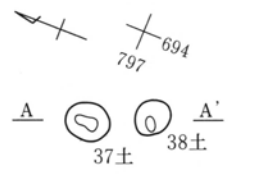
L=72.50m



A区35・36号土坑

A区35・36号土坑

1. 黒褐色土。
2. 灰黄褐色土。褐色細砂ブロックを少量含む。
3. 黒褐色土。
4. 褐色土。砂質。

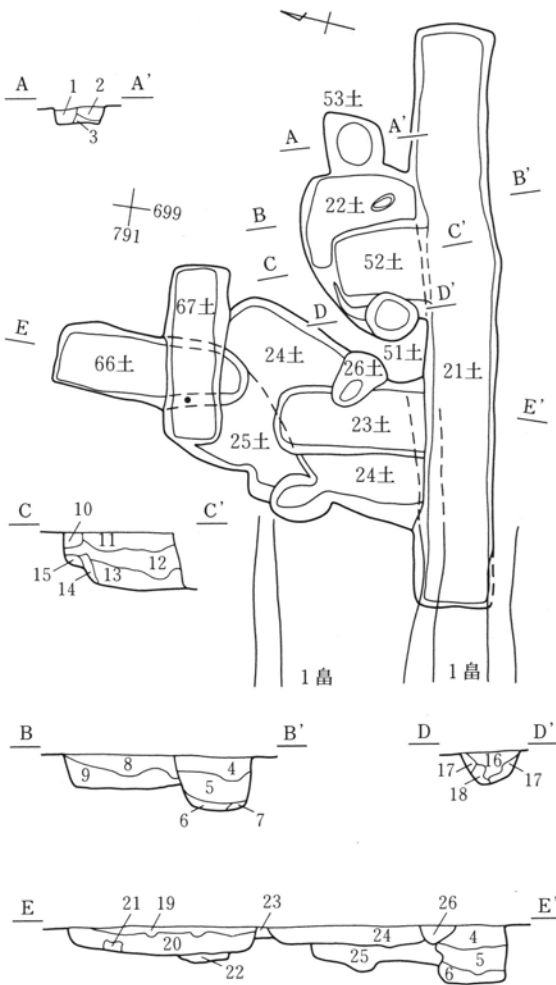


A区37・38号土坑

A区37・38号土坑

1. 黒褐色土。径2mm程の礫・粗砂を少量含む。
2. 鈍い黄褐色細砂。
3. 黒褐色土。粗砂を少量含む。
4. 灰黄褐色土。粒子が細かい。粘質。細砂・黄褐色土ブロックを少量含む。
5. 黒褐色土。砂質。4層と砂質土の混土。

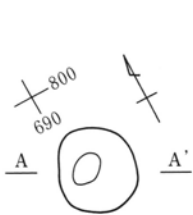




A区21~26・51~53・66・67号土坑

1. 黒褐色土。粒子が細かい。
2. 黒褐色土。砂質。炭粒を微粒含む。
3. 黄褐色土。砂質。地山の崩落ブロック。
4. 鈍い黄褐色土。粒子が細かい。黄色土・灰褐色土ブロックを不均等にやや多量含む。
5. 暗褐色土。粒子が細かい。黄色土・灰褐色土ブロックを不均等に少量含む。
6. 黒褐色土。しまりがやや弱い。
7. 黒褐色土。しまりがやや弱い。地山の黄褐色土粒を少量含む。4~7層は21号土坑埋没土。
8. 黒褐色土。黄褐色土粒を霜降り状に少量含む。
9. 黒褐色土。黄褐色土粒を霜降り状に少量、炭粒を少量含む。8・9層は22号土坑埋没土。
10. 鈍い黄褐色細砂。
11. 灰黄褐色土。
12. 灰黄褐色土。11層より黒味が強い。
13. 黒褐色土。
14. 灰黄褐色土。砂質。
15. 鈍い黄褐色土。砂質。
16. 黒褐色土。炭化物をやや多量、黄色味を帯びる砂を均一に少量、焼土粒を少量含む。
17. 鈍い黄褐色細砂。
18. 黒褐色土。黄色身を帯びる砂をやや多量、炭化物・焼土粒を少量含む。
19. 灰黄褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色土ブロックを不均等に少量含む。
20. 暗灰黄色土。砂を多量含む。
21. 灰黄色砂。19~21層は66号土坑埋没土。
22. 暗灰黄色土。20層よりやや黒味が強い。砂を多量含む。67号土坑埋没土。
23. 鈍い黄褐色土。25号土坑埋没土。
24. 19層に同じ。24号土坑埋没土。
25. 灰黄褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色土ブロック・炭粒を微量含む。23号土坑埋没土。
26. 灰黄褐色土。1号畠のサク。

A区21~26・51~53・66・67号土坑

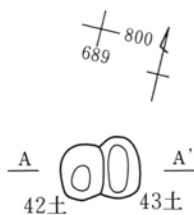


A区41号土坑

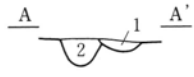


A区41号土坑

1. 黄褐色土。粒子が細かい。パミス・砂を不均等に少量含む。
2. 黄褐色土。粒子が細かい。砂をやや多量、パミスを少量、径1cm程の礫を微量含む。
3. 黒褐色土。やや砂質。径2cmほどの礫を少量含む。

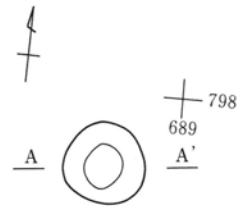


A区42・43号土坑



A区42・43号土坑

1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。炭粒を少量含む。43号土坑埋没土。
2. 暗灰黄色土。砂質。パミスを微量含む。42号土坑埋没土。

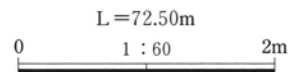


A区46号土坑

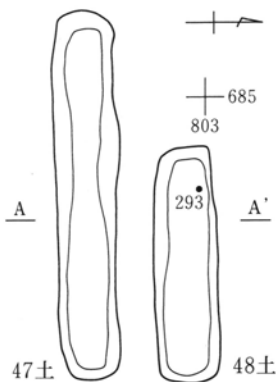


A区46号土坑

1. 黒褐色土。粒子が細かい。黄褐色土ブロックをやや多量含む。
2. 黒褐色土。粒子が細かい。黄褐色土ブロックを微量含む。
3. 暗灰黄色土。砂質。2層と砂の混土。



上増田島遺跡A・B区

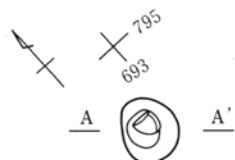


A区47・48号土坑



A区47・48号土坑

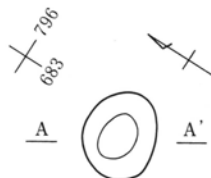
1. 暗灰黄色土。粘質。黄色粘土粒をやや多量含む。



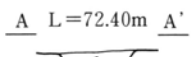
A区55号土坑

A区55号土坑

1. 暗灰黄色土。黄色土粒を少量、砂・炭粒を微量含む。

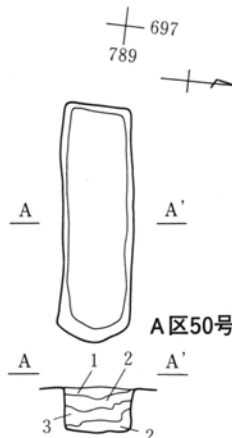


A区49号土坑



A区49号土坑

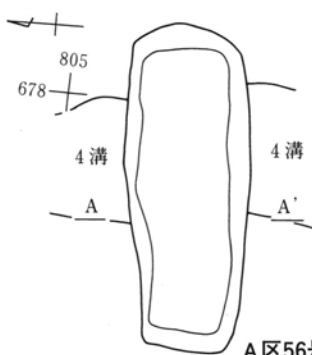
1. 暗灰黄色土。粘質。黄色土ブロックをやや多量、炭粒を微量含む。



A区50号土坑

A区50号土坑

1. 黒褐色粘質土と黄色砂質土の混土。  
2. 黒褐色土。粘質。黄色砂質土粒・ブロックを均一に多量含む。  
3. 黒褐色土。粘質。黄色砂質土ブロックを少量、炭粒を微量含む。



A区56号土坑



A区56号土坑

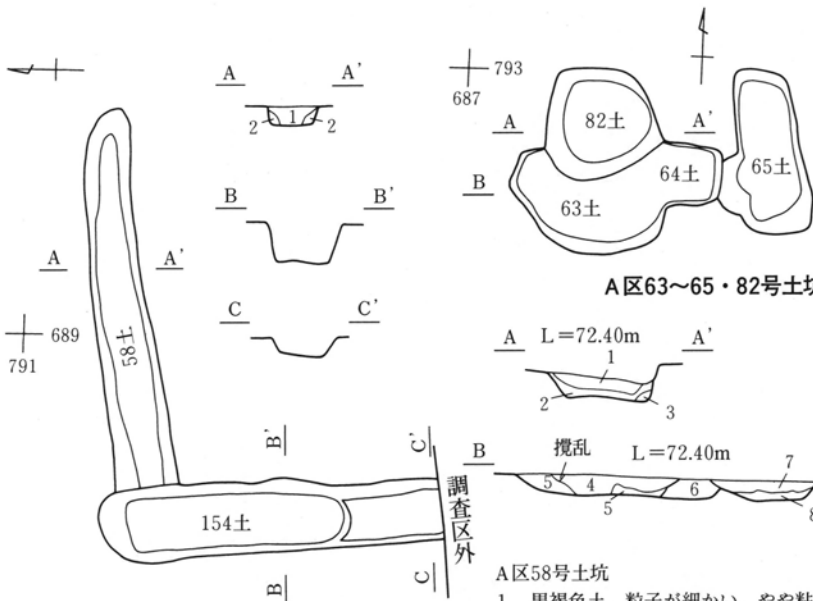
1. 灰黄褐色土。しまりが強い。粘質。黄色土ブロック・礫・炭粒をやや多量含む。  
2. 暗灰黄色土。しまりがやや弱い。灰色味を帯びる粘質土と砂質土の混土。黄色土ブロック・礫・炭粒を少量含む。



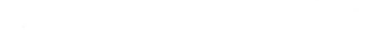
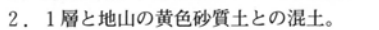
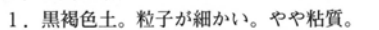
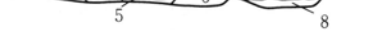
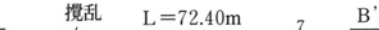
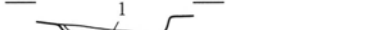
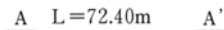
A区54号土坑

A区54号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。パミス・炭粒を微量含む。



A区63～65・82号土坑



A区58号土坑

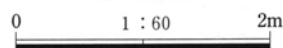
1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。  
2. 1層と地山の黄色砂質土との混土。

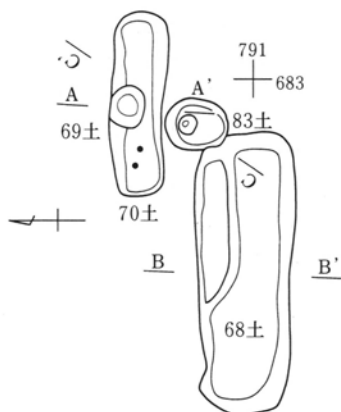
A区58・154号土坑

A区63～65・82号土坑

1. 褐灰色土。しまりが強い。褐色土・黄褐色土ブロックをやや多量、パミス・墨を少量含む。  
2. 褐灰色土。しまりが強い。褐色土をやや多量、パミスを少量含む。  
3. 黄灰色土。  
4. 灰黄褐色土。粘質。砂・黄褐色土粒を少量含む。  
5. 灰黄褐色土。1層より赤味が強い。やや粘質。砂質土粒を少量含む。  
6. 灰黄褐色土。粘質。黄褐色土粒をやや多量、砂を少量含む。  
7. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。  
8. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色土粒を少量含む。  
4・5層は63号土坑、6層は64号土坑、7・8層は65号土坑。

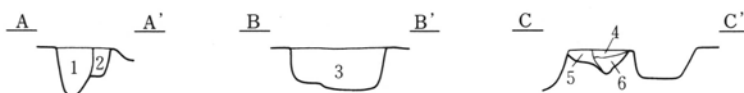
L=72.50m



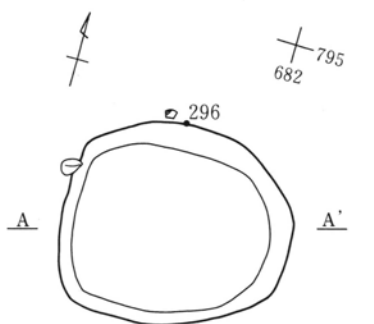


A区68~70・83号土坑

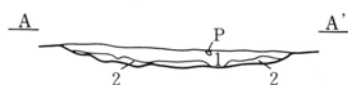
1. 鈍い黄褐色土。しまりが強い。径3cm程の黄褐色土ブロックを少量含む。69号土坑埋没土。
2. 鈍い黄褐色土。1層より赤味が強い。しまりが強い。70号土坑埋没土。
3. 灰黄褐色土。しまりが強い。パミス・黄褐色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。やや粘質。
5. 暗灰黄色土。
6. 黒褐色土。2層のブロックを少量含む。



A区68~70・83号土坑

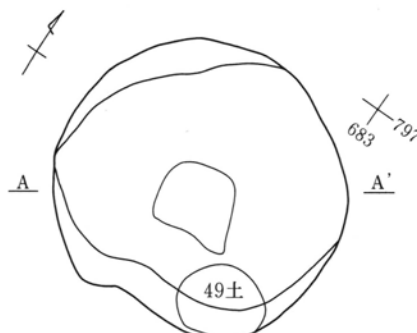


A区71号土坑



A区71号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。暗褐色土粒をやや多量、炭粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を均一に少量含む。

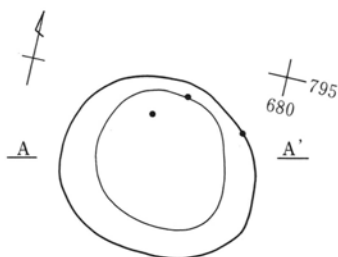


A区72号土坑



A区72号土坑

1. 鈍い黄褐色土。パミス・明黄褐色土粒・径1cm以下の礫を少量含む。
2. 鈍い黄褐色土。1層より赤味が強い。パミス・径1cm以下の礫を微量含む。



A区73号土坑



A区73号土坑

1. 黒褐色土。明黄褐色土ブロックをやや多量、パミス・径1cm程の礫を少量含む。
2. 黒褐色土。明黄褐色土ブロックを微量含む。
3. 鈍い黄褐色土。



A区76号土坑

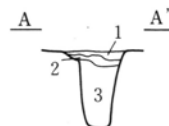


A区76号土坑

1. 灰黄褐色土。褐色土粒・パミス・炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。パミス・径1cm程の礫を微量含む。
3. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを少量、パミス・径1cm程の礫を微量含む。

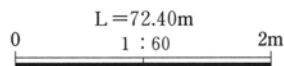


A区77号土坑

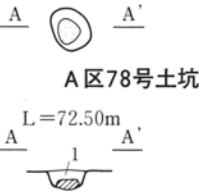


A区77号土坑

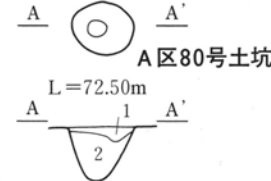
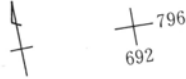
1. 黒褐色土。しまりが強い。
2. 黒褐色土。
3. 黒褐色土。明黄褐色土ブロックを少量含む。



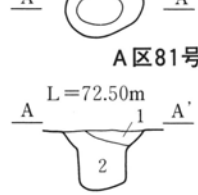
上増田島遺跡A・B区



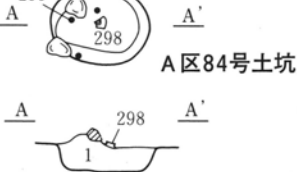
A区78号土坑  
1. 暗褐色土。パミス・径5mm程の礫を微量含む。



A区80号土坑  
1. 暗褐色土。しまりが強い。径2cmほどの礫・粗砂を少量、パミスを微量含む。  
2. 黒褐色土。しまりが強い。パミスを微量含む。



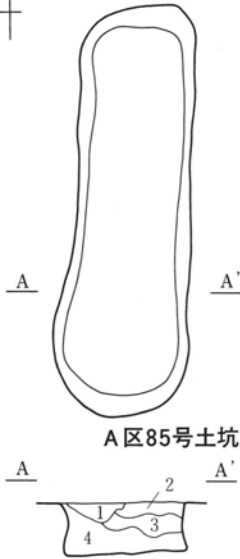
A区81号土坑  
1. 灰黄褐色土。パミスを微量含む。  
2. 褐色土。地山の黄灰色土ブロックをやや多量、パミスを微量含む。



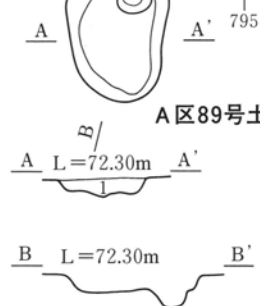
A区84号土坑  
1. 暗褐色土。炭粒・地山の黄褐色砂粒を少量含む。

A区85号土坑

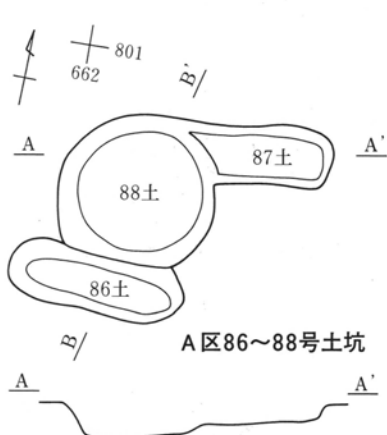
1. 黒褐色土。パミスを少量、墨粒を微量含む。
2. 黒褐色土。黄褐色土粒を均一にやや多量、パミスを少量、墨粒を微量含む。
3. 暗褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を均一にやや多量、パミスを少量、墨粒を微量含む。
4. 暗褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロック・粒をやや多量含む。



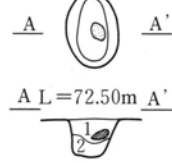
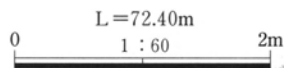
A区85号土坑



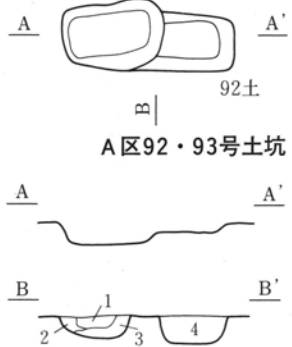
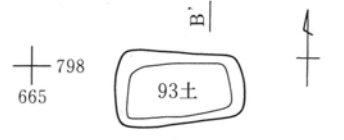
A区89号土坑  
1. 褐灰色土。しまりが強い。パミス・明黄褐色土ブロックを少量、炭粒を微量含む。



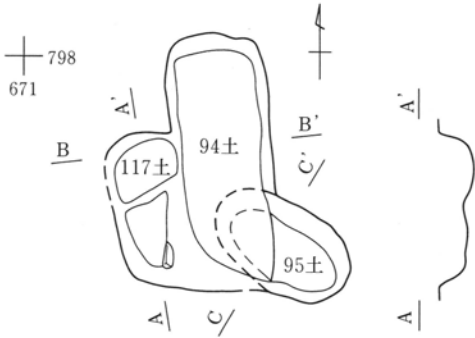
A区86~88号土坑  
1. 黄灰色土。しまりが強い。パミス・炭粒を少量含む。86号土坑埋没土。  
2. 暗褐色土。鈍い黄褐色土ブロックをやや多量、パミスを少量含む。87号土坑埋没土。  
3. 黄灰色土。1層より明るい。しまりが強い。パミス・炭粒を少量含む。88号土坑埋没土。



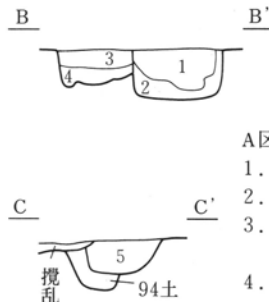
A区91号土坑  
1. 鈍い黄褐色土。黄褐色粗砂と黒褐色土の混土。パミス・礫を少量含む。  
2. 鈍い黄褐色土。黄褐色粗砂と黒褐色土の混土。しまりが弱い。



A区92・93号土坑  
1. 黒褐色土。パミス・炭粒を微量含む。  
2. 黒褐色土。粒子が細かい。  
3. 黒褐色土。鈍い黄褐色土ブロックを少量含む。  
4. 黒褐色土。パミス・鈍い黄褐色土ブロックを少量含む。

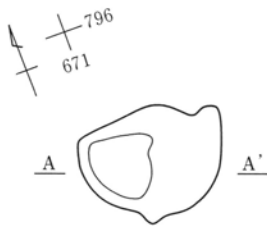


A区94・95・117号土坑

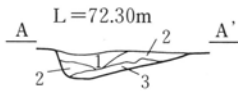


A区94・95・117号土坑

1. 暗灰黄色土。パミス・径5mm程の礫を少量含む。
2. 暗オリーブ褐色土。2層まで94号土坑埋没土。
3. オリーブ褐色土。やや粘質。パミス・炭粒を微量含む。
4. 黒褐色土。しまりが強い。砂質。黄褐色土ブロックを少量含む。3・4層は117号土坑埋没土。
5. 暗灰黄色土。やや粘質。黄褐色土と灰褐色土の混土。95号土坑埋没土。

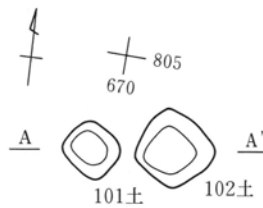


A区97号土坑



A区97号土坑

1. 暗灰黄色土。粘質。暗灰黄色土ブロック・粗砂を少量含む。
2. 黒褐色土。暗灰黄色土と粗砂の混土。
3. 暗灰黄色土。粘質。灰黄色土粒をやや多量含む。

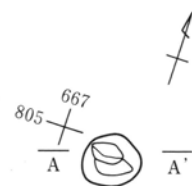


A区101・102号土坑

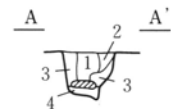


A区101・102号土坑

1. 灰色土。やや粘質。鉄分凝集粒をやや多量、明黄褐色土粒・パミスを少量含む。
2. 灰色土。やや粘質。明黄褐色土粒をやや多量、鉄分凝集粒・パミスを微量含む。
3. 黄灰色土。やや粘質。しまりが強い。鉄分凝集粒・鈍い黄褐色土粒をやや多量、パミスを少量含む。



A区104号土坑

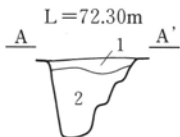


A区104号土坑

1. 黄灰色土。しまりが弱い。柱痕か。
2. 黄灰色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロック・粒を少量含む。
3. オリーブ褐色土。しまりが強い。
4. 黄灰色土。しまりが強い。

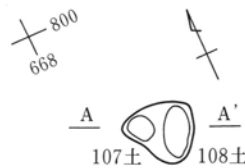


A区105号土坑

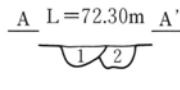


A区105号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。明黄褐色土ブロックを少量含む。
2. 黒褐色土。やや粘質。

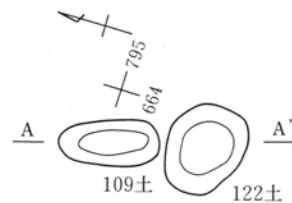


A区107・108号土坑



A区107・108号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。
2. 黒褐色土。やや粘質。明黄褐色土粒をやや多量含む。

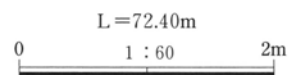


A区109・122号土坑

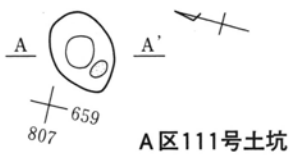


A区109・122号土坑

1. 黒褐色土。パミスを微量含む。
2. 褐灰色土。しまりが弱い。



上増田島遺跡A・B区

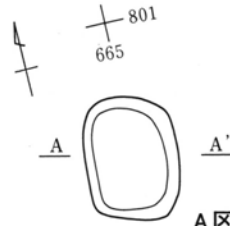


A区111号土坑

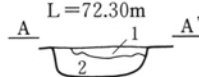


A区111号土坑

1. 灰色土。しまりが弱い。
2. 黄灰色土。明黄褐色粗砂を少量含む。
3. 黒褐色土。

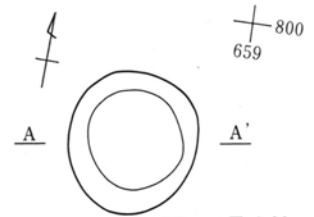


A区113号土坑

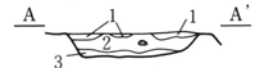


A区113号土坑

1. オリーブ褐色土。しまりが強い。灰色土粒をやや多量、地山の明黄褐色細砂粒を少量含む。
2. オリーブ褐色土。しまりが強い。地山の明黄褐色細砂粒を少量含む。

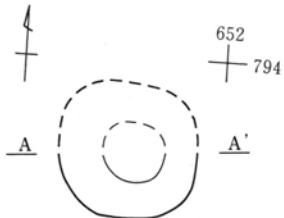


A区114号土坑

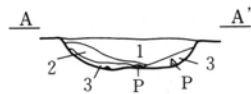


A区114号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。パミスを微量含む。
2. 黒褐色土。1層より黒味が強い。パミスを微量含む。
3. 黄褐色土。しまりが強い。

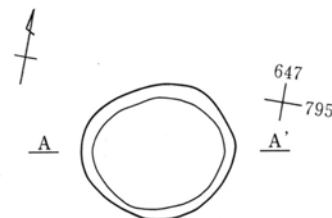


A区115号土坑

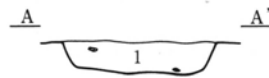


A区115号土坑

1. As-A層。黒褐色土ブロック・粒を少量含む。2次堆積。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。As-Aを多量含む。
3. 黄灰色土。やや粘質。As-Aをやや多量含む。



A区116号土坑

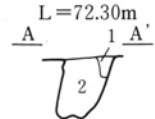


A区116号土坑

1. 灰色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロック・径4cm程の礫を少量含む。

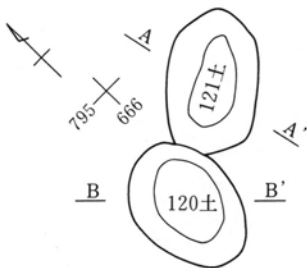


A区118号土坑

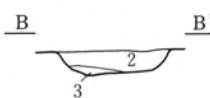


A区118号土坑

1. 黄灰色土。やや粘質。鈍い黄色ブロック・粒をやや多量含む。
2. 黒褐色土。鈍い黄色粒を少量含む。



A区120・121号土坑

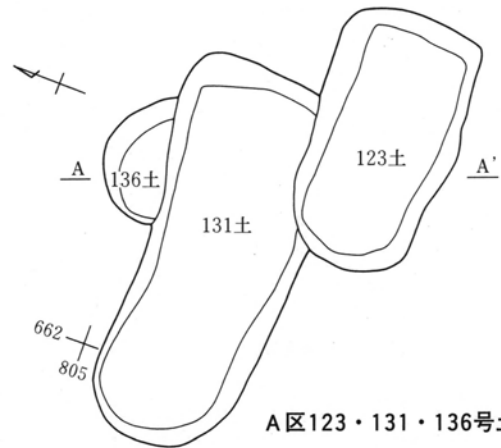


L=72.40m

0 1:60 2m

A区120・121号土坑

1. 明黄褐色土。しまりが弱い。
2. 褐灰色土。しまりがやや弱い。黄色砂質土ブロック・粒を少量含む。
3. 黄褐色土。砂質。褐灰色土ブロックをやや多量含む。



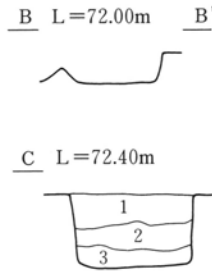
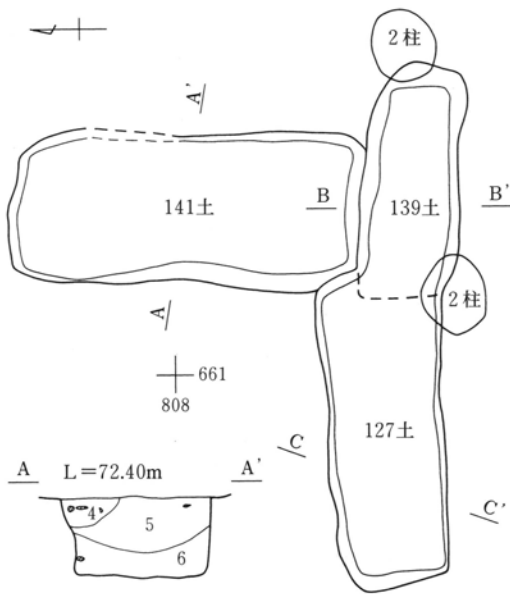
A区123・131・136号土坑



A区123・131・136号土坑

1. 黄褐色土。しまりが強い。径5mm程の礫・パミスを少量含む。
2. 灰色土。径5mm程の礫を少量含む。
3. 灰色土。しまりが弱い。径5mm程の礫を少量含む。3層まで123号土坑埋没土。
4. 暗灰黄色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロックをやや多量含む。131号土坑埋没土。
5. 暗灰黄色土。しまりが強い。灰褐色シルト質土ブロックを含む。136号土坑埋没土。

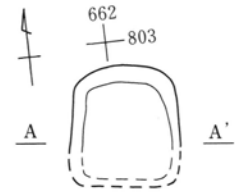
5. 土坑



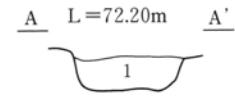
A区127・141号土坑

1. 灰黄褐色土。
2. 鈍い黄褐色土。
3. 褐灰色土。黄色粘質土ブロックをやや多量含む。
4. 黒褐色土。径4cm程の礫を少量含む。
5. 黄灰色土。しまりが強い。径5mm程の礫・パミス・炭粒を少量含む。
6. 黒褐色土。しまりが強い。径5cm以下の明黄褐色土ブロックを少量含む。

A区127・139・141号土坑

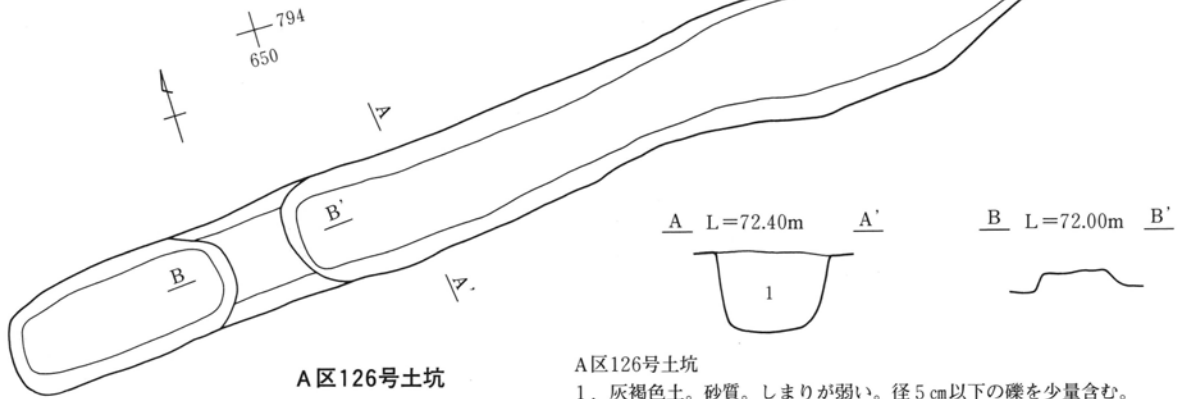


A区124号土坑



A区124号土坑

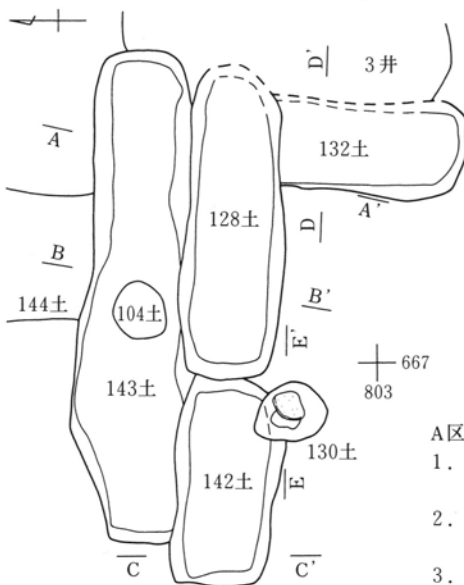
1. 黒褐色土。しまりが弱い。



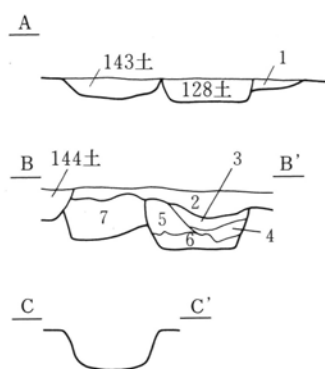
A区126号土坑

A区126号土坑

1. 灰褐色土。砂質。しまりが弱い。径5cm以下の礫を少量含む。

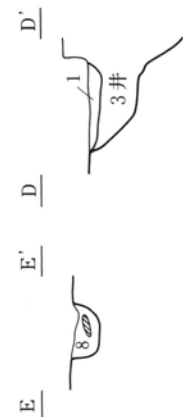


A区128・130・132・142・143号土坑

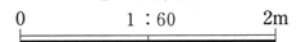


A区128・130・132・143号土坑

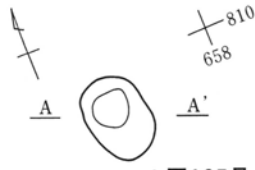
1. 黄灰色土。しまりが弱い。パミスを微量含む。
2. 灰褐色土。しまりが弱い。
3. 鈍い黄橙色土。2層より赤味が強い。しまりが弱い。
4. 褐灰色土。しまりが弱い。
5. 灰黄褐色土。黄色粘質土ブロックをやや多量含む。
6. 褐灰色土。4層より明るい。しまりが弱い。
7. 黒褐色土。パミスを微量含む。
8. 褐灰色土。しまりが強い。鈍い黄橙色粘質土ブロックを多量含む。



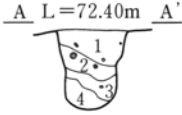
L=72.30m



上増田島遺跡A・B区

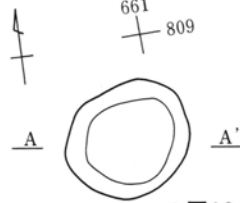


A区125号土坑

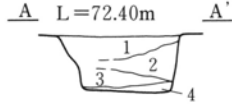


A区125号土坑

1. 褐灰色土。やや粘質。
2. 褐色土。やや粘質。黄色粘質土ブロックを下層を中心に少量含む。
3. 褐灰色土。しまりが弱い。
4. 黒褐色土。粘質。黄色粘質土ブロックを少量含む。

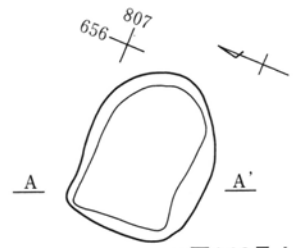


A区134号土坑

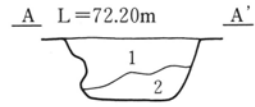


A区134号土坑

1. 黒色土。しまりが強い。径3mm程の礫・パミスを少量含む。
2. 黒褐色土。鈍い黄色土ブロック・パミスを少量含む。
3. 暗灰黄色土。鈍い黄色土ブロックをやや多量、パミスを微量含む。
4. 暗灰黄色土。パミスを微量含む。

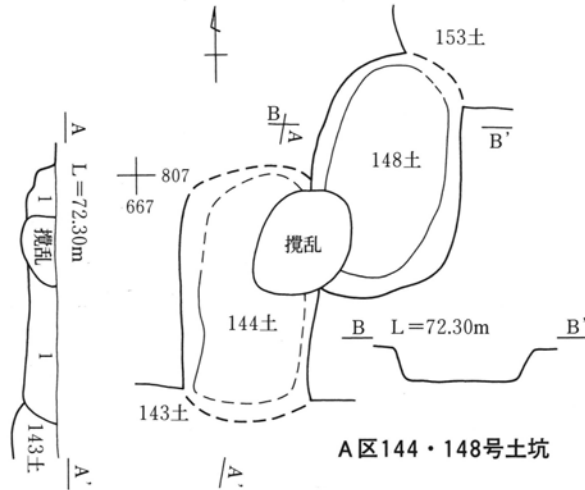


A区146号土坑



A区146号土坑

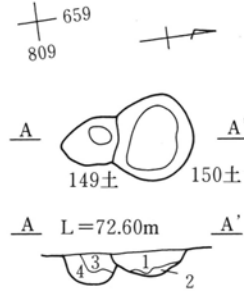
1. 黒褐色土。パミス・炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。灰褐色粗砂・灰褐色粗砂をやや多量、径3cm程の礫・パミス・炭粒を少量含む。



A区144・148号土坑

A区144号土坑

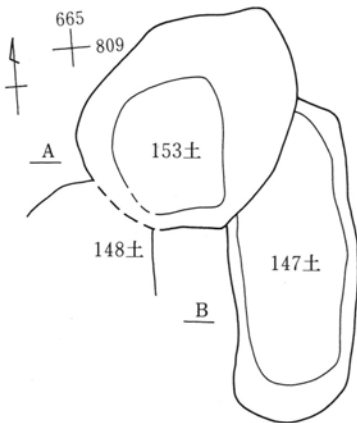
1. 黒褐色土。径5mm程の礫・パミスを微量含む。



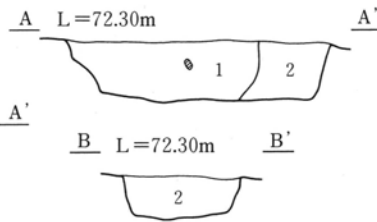
A区149・150号土坑

A区149・150号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。地山の黄褐色土粒・パミスを少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。地山の黄褐色土粒をやや多量、パミスを少量含む。1・2層は150号土坑。
3. 黒褐色土。しまりが強い。明黄褐色土粒・パミスを少量含む。
4. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを少量、パミスを微量含む。3・4層は149号土坑。

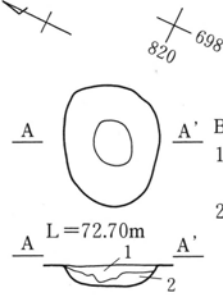


A区147・153号土坑

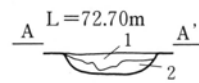


A区147・153号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色土ブロック・パミス・炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。径4mmほどの礫・粗砂・黄褐色土粒・パミスを微量含む。

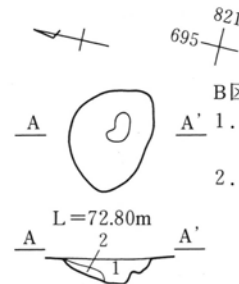


B区1号土坑

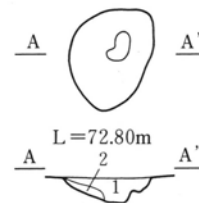


B区1号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。
2. 鈍い黄褐色土。砂質。しまりが弱い。

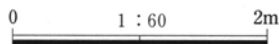


B区2号土坑



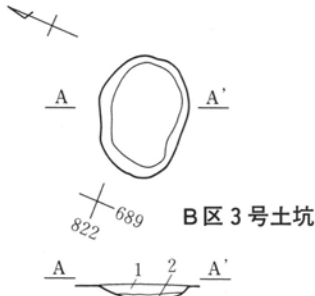
B区2号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。
2. 鈍い黄褐色土。しまりが弱い。黒褐色土(1層)ブロック・粒をやや多量含む。





5. 土坑



B区3号土坑

B区3号土坑

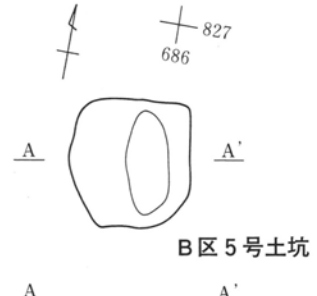
1. 褐灰色土。しまりが弱い。炭粒を微量含む。
2. 褐灰色土。しまりが弱い。黄褐色土ブロックを多量含む。



B区4号土坑

B区4号土坑

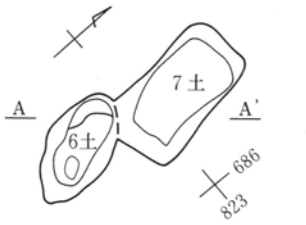
1. 黒褐色土。粒子が細かい。しまりが弱い。



B区5号土坑

B区5号土坑

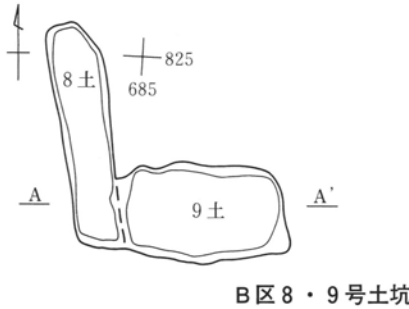
1. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。



B区6・7号土坑

B区6・7号土坑

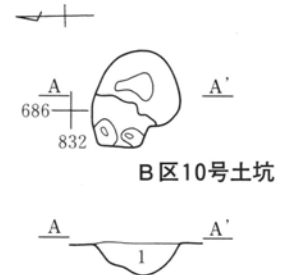
1. 褐灰色土。砂質。しまりが弱い。
2. 褐灰色土。砂質。地山の明黄褐色土粒を少量含む。
3. 褐灰色土。砂質。地山の明黄褐色土粒をやや少量含む。



B区8・9号土坑

B区8・9号土坑

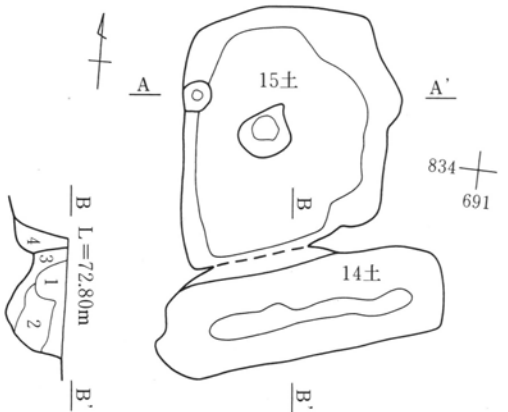
1. 褐灰色土。砂質。しまりが弱い。
2. 褐灰色土。砂質。しまりが弱い。鈍い黄褐色砂質土粒を少量含む。2層まで8号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。鈍い黄褐色砂質土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。鈍い黄褐色砂質土粒をやや多量含む。



B区10号土坑

B区10号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。地山の鈍い黄褐色土ブロック・炭粒を少量含む。



B区14・15号土坑

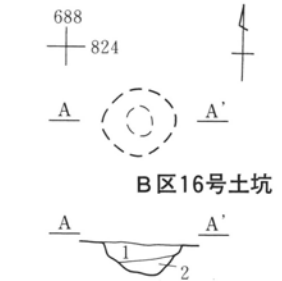
B区14・15号土坑

1. 黒褐色土。砂質。
2. 黒褐色土。砂質。鈍い黄褐色砂質土粒を少量含む。
3. 鈍い黄褐色土。砂質。
4. 15号土坑埋没土。
5. 黒褐色土。砂質。炭粒を少量含む。
6. 黒褐色土。砂質。炭粒・焼土粒をやや多量、暗褐色砂質土ブロックを少量含む。
7. 暗褐色土。砂質。炭粒を微量含む。



B区18号土坑

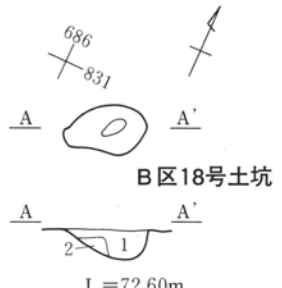
1. 黒褐色土。しまりが弱い。炭粒を少量含む。
2. 褐色土。砂質。褐色土粒を少量含む。



B区16号土坑

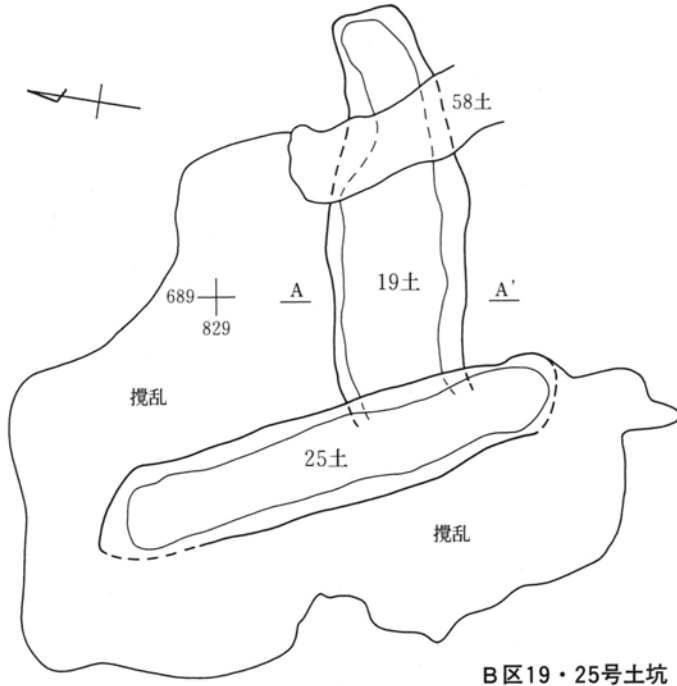
B区16号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。炭粒・地山の黄褐色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。地山の黄褐色土をやや多量、炭粒を少量含む。



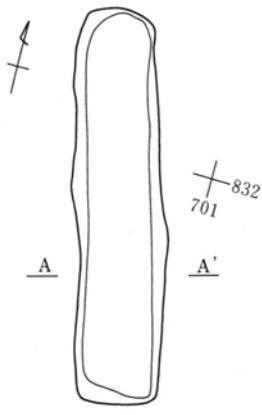
B区18号土坑

0 1 : 60 2m



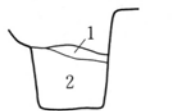
B区19・25号土坑

A L=72.60m A'



B区22号土坑

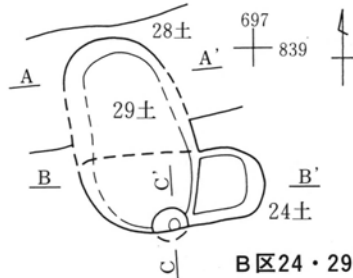
A L=72.80m A'



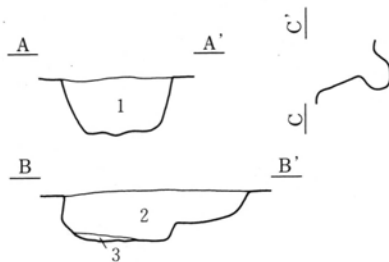
- B区22号土坑
1. 黒褐色土。砂質。
  2. 黒褐色土。1層より黒味が強い。砂質。



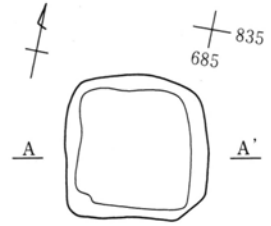
B区23号土坑



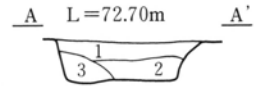
B区24・29号土坑



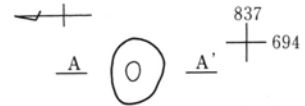
- B区24・29号土坑
1. 灰黄褐色土。径2cm程の礫を少量含む。29号土坑埋没土。
  2. 黒褐色土。径1cm程の礫を少量含む。
  3. 黒褐色土。炭粒を少量含む。下半は地山の黄褐色土との混土。2・3層は24号土坑埋没土。



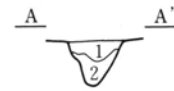
B区20号土坑



- B区20号土坑
1. 黒褐色土。黄褐色細砂粒を少量、炭粒を微量含む。
  2. 黒褐色土。黄褐色細砂粒を多量、炭粒を微量含む。
  3. 黒褐色土。黄褐色細砂粒をやや多量、炭粒を微量含む。



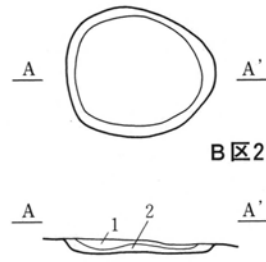
B区26号土坑



- B区26号土坑
1. 黒褐色土。黄褐色砂質土粒を少量含む。
  2. 黒褐色土。やや粘質。黄褐色砂質土粒を微量含む。



B区27号土坑



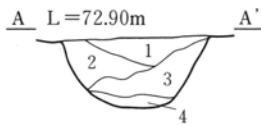
- B区27号土坑
1. 黒褐色土。As-Aを多量に含む。
  2. 黒褐色土。1層より黄色味が強い。径2cm程のオリブ色粘土ブロックをやや多量、小礫・砂を少量含む。

L=73.00m  
0 1:60 2m

5. 土坑

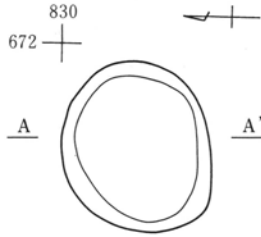


B区28号土坑



B区28号土坑

1. 灰黄褐色土。砂質。黄色土ブロックを含む。
2. 灰黄褐色土。1層より黒味が強い。砂質。
3. 鈍い黄褐色土。砂質。
4. 褐灰色土。キメが粗い。鉄分凝集粒を少量含む。

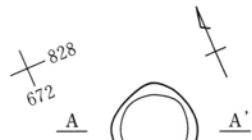


B区32号土坑



B区32号土坑

1. 鈍い黄褐色土。砂質。しまりが弱い。
2. 灰黄褐色土。



B区34号土坑



B区34号土坑

1. 灰黄褐色土。しまりが弱い。

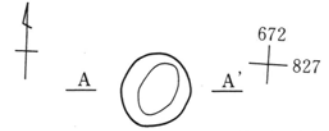


B区37号土坑



B区37号土坑

1. 黒褐色土。
2. 黄褐色土。砂質。
3. 黒褐色土。砂質。

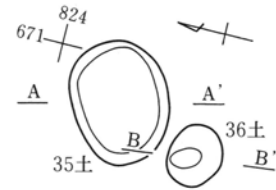


B区33号土坑

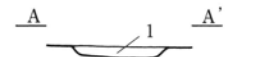


B区33号土坑

1. 褐色土。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。

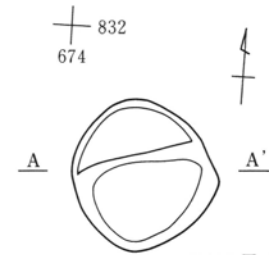


B区35・36号土坑



B区35・36号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。

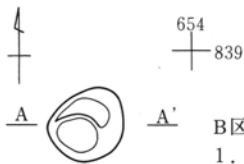


B区38号土坑

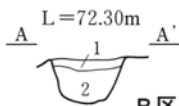


B区38号土坑

1. 褐色土。砂質。黄色土ブロックを少量含む。
2. 褐色土。砂質。



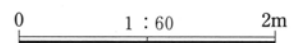
B区42号土坑



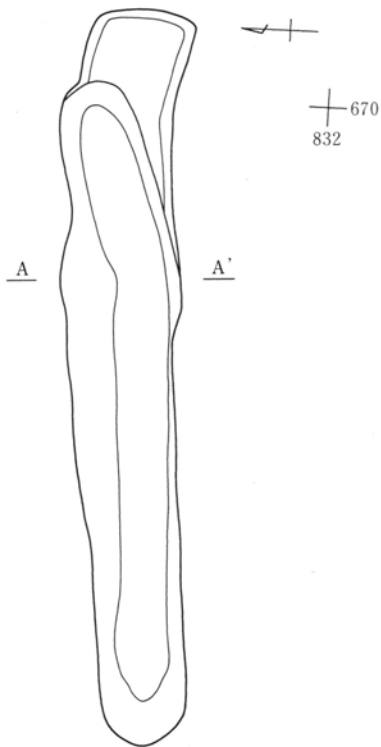
B区42号土坑

1. 黒褐色土。径3cm程の礫を少量含む。
2. 黒褐色土。径3cm程の礫・明黄褐色土ブロックを少量含む。

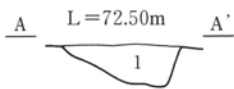
L=72.50m



上増田島遺跡A・B区

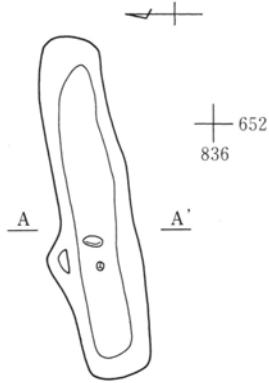


B区39号土坑



B区39号土坑

1. 灰褐色土。砂質。

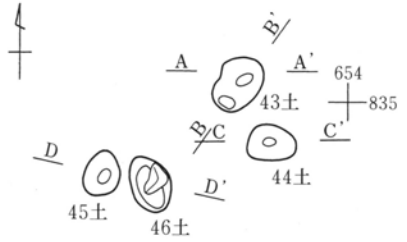


B区41号土坑

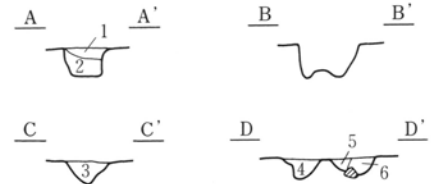


B区41号土坑

1. 黒褐色土。径5mm程の礫・炭粒を微量含む。

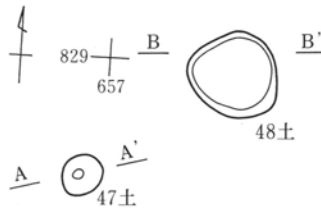


B区43~46号土坑



B区43~46号土坑

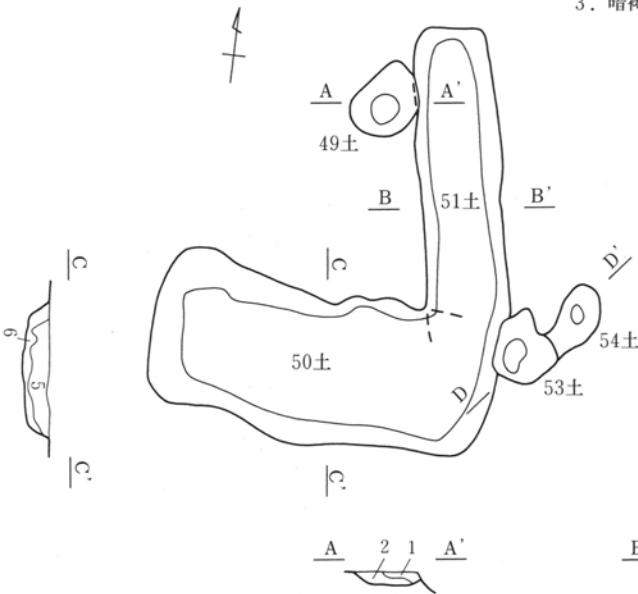
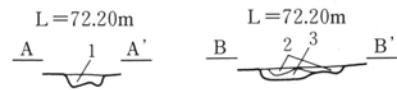
1. 黄灰色土。鈍い黄褐色土ブロックを多量含む。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。明黄褐色土ブロックを少量含む。
3. 黒褐色土。鈍い黄色ブロックを少量含む。
4. 黄灰色土。しまりが強い。浅黄色土ブロックを少量含む。
5. 黄灰色土。しまりが強い。
6. 黒褐色土。浅黄色土ブロックを少量含む。



B区47・48号土坑

B区47・48号土坑

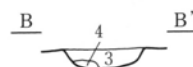
1. 黒褐色土。鈍い黄褐色土ブロック・灰黄色土ブロックをやや多量含む。
2. 黒褐色土。鈍い黄褐色土粒・パミスを微量含む。
3. 暗褐色土。しまりが強い。粗砂を微量含む。



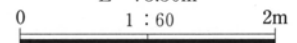
B区49~51・53・54号土坑

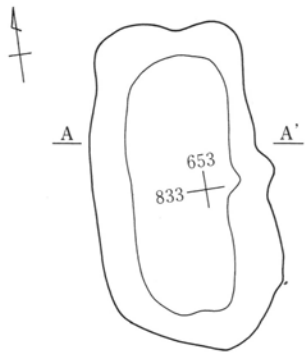
B区49~51・53・54号土坑

1. 褐灰色土。黄褐色土粒を多量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を多量含む。
3. 灰褐色土。砂質。
4. 褐灰色土。
5. 明褐灰色土。しまりが弱い。
6. 褐灰色土。黄色土ブロックをやや多量含む。
7. 灰黄褐色土と黄褐色土の混土。
8. 灰黄褐色土。粘質。しまりが強い。黄褐色土粒・径5cm程の礫を少量含む。7・8層は53号土坑埋没土。
9. 黄褐色土。粘質。しまりが強い。径5cm程の礫をやや多量含む。

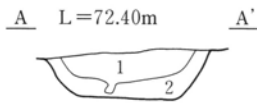


L=73.30m



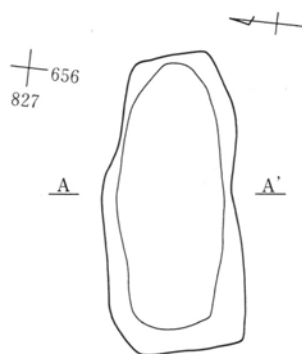


B区52号土坑

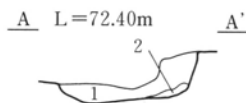


B区52号土坑

1. 鈍い褐色土。砂質。しまりが弱い。
2. 灰褐色土。しまりが弱い。

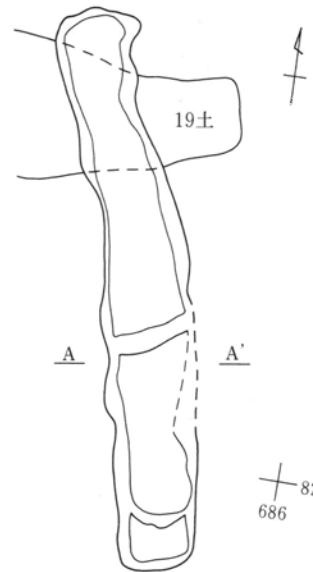


B区57号土坑



B区57号土坑

1. 灰黄褐色土。砂質。
2. 褐灰色土。

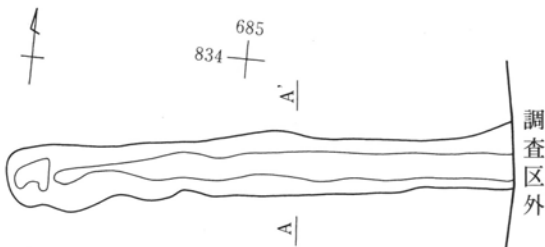


B区58号土坑



B区58号土坑

1. 黒褐色土。炭粒を微量含む。



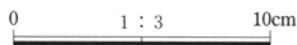
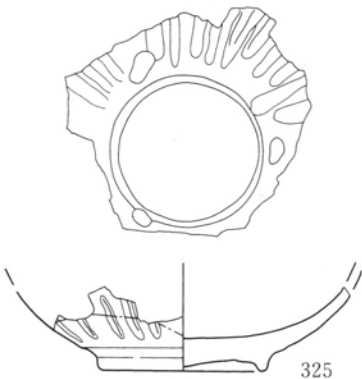
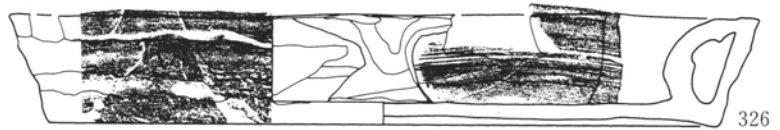
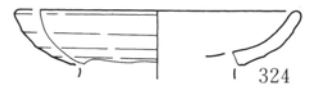
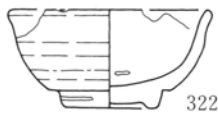
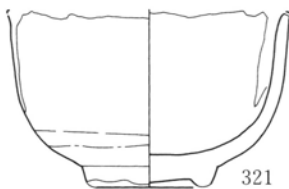
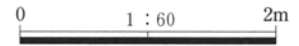
B区59号土坑



B区59号土坑

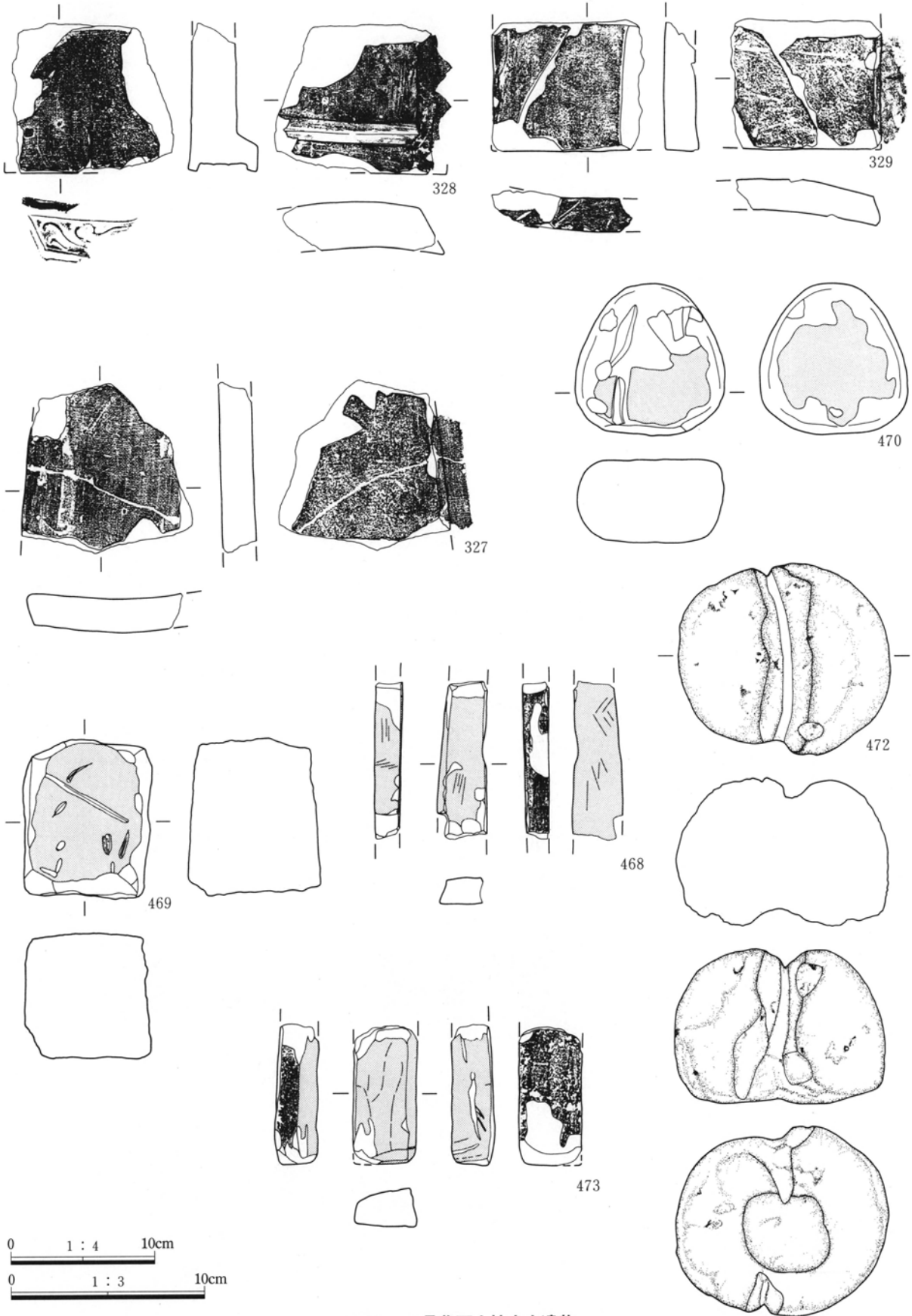
1. 黒褐色土。炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。地山の鈍い黄褐色土ブロックを少量含む。

L=72.60m

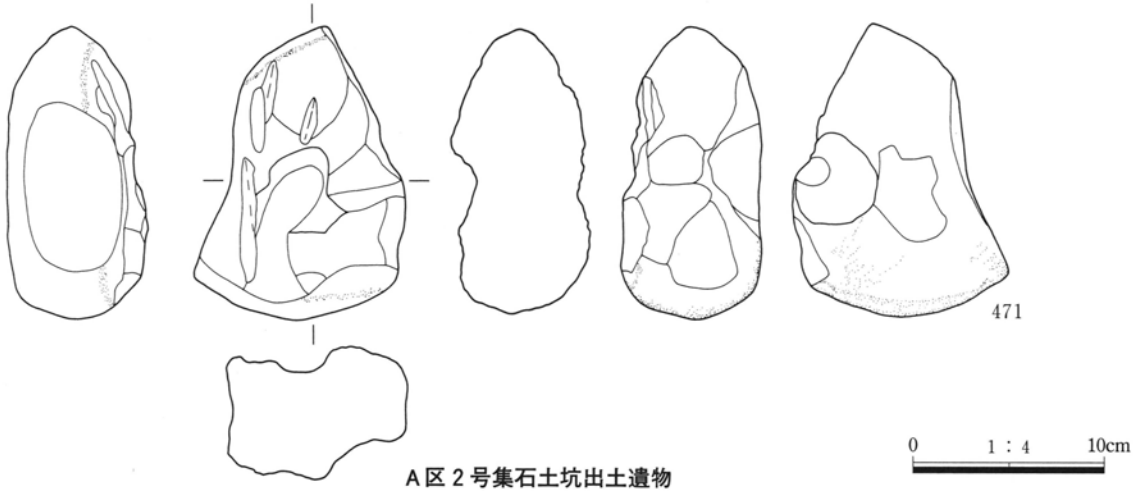


A区1号集石土坑出土遺物





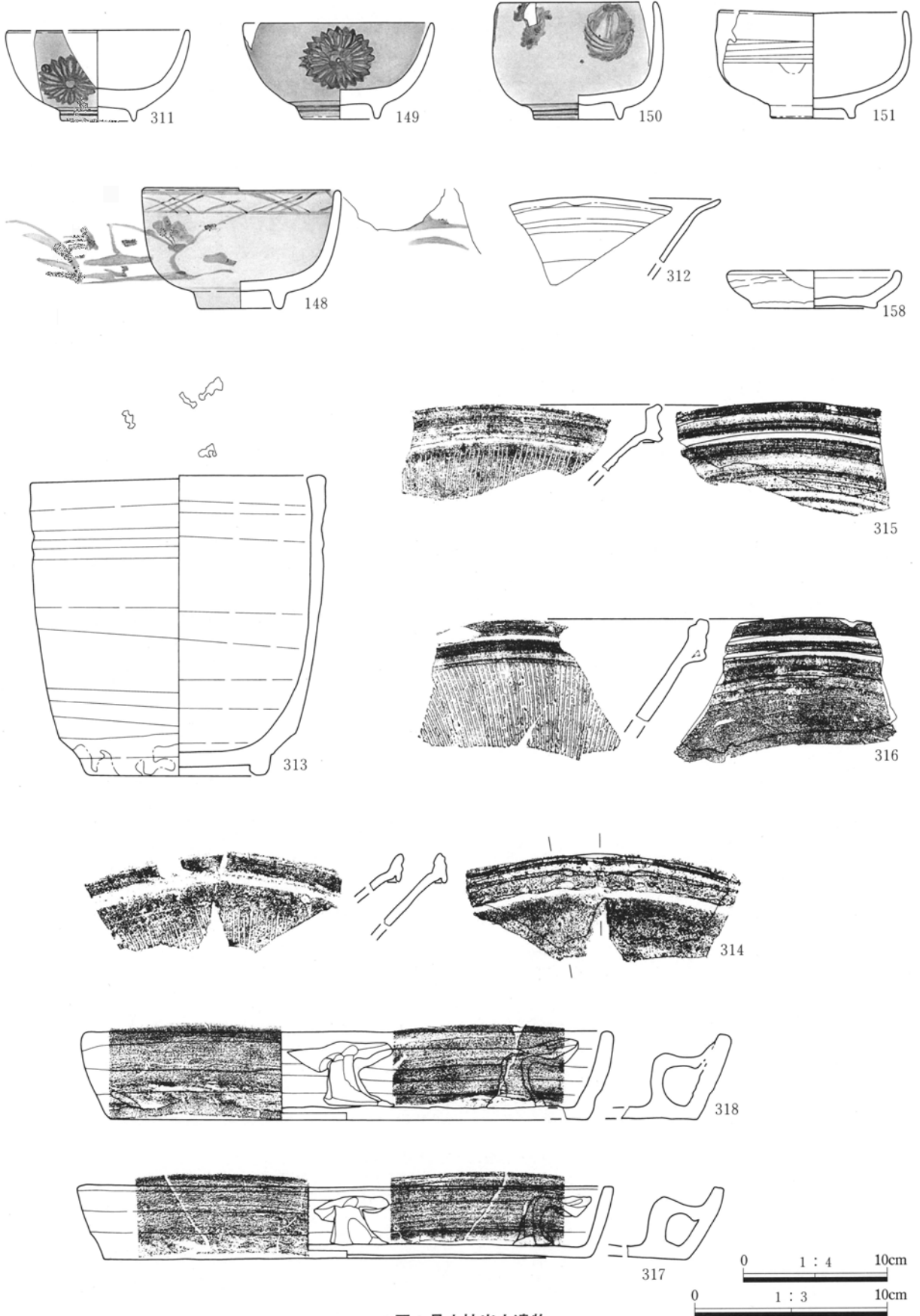
A区1～3号集石土坑出土遺物



A区2号集石土坑出土遺物

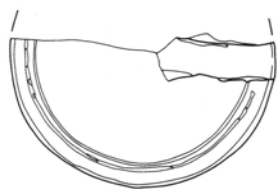
A区1～3号集石土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴		残存状態備考
321	陶器碗	1集石埋没土	口径 (10.9) 底径 4.9 器高 7.0	瀬戸・美濃。内面から高台脇に鉄釉を薄く施す。残存する口縁端部は全て小さく剥離する。露体部は虫食い状に剥離する。		体部下半1/2、以上3/4欠。
322	陶器小碗	1集石埋没土	口径 (8.0) 底径 3.8 器高 3.9	瀬戸・美濃。内面から体部外面下に錆色の鉄釉を施す。		口縁部7/8、体部3/4欠。
323	陶器天目碗	1集石埋没土	口径 — 底径 4.2 器高 1.7+	瀬戸・美濃。高台脇は水平に近く開き、稜を為して体部に至る。内面から体部に天目釉を施す。釉は高台端部まで流れる。		底部残。
324	陶器志野丸皿	1集石埋没土	口径 (11.2) 底径 — 器高 2.1+	瀬戸・美濃。釉に気泡を含んでざらつく。		口縁部～高台脇1/6残。焼成不良。17世紀。
325	陶器菊皿	1集石埋没土	口径 — 底径 6.6 器高 3.3+	瀬戸・美濃。内面から高台脇灰釉。見込み目痕が3ヶ所残る。高台の貼り付けは雑。		体部下半～底部残。
326	土器焙烙	1集石埋没土、2集石+24～30、830-675	口径 (39.2) 底径 (35.1) 器高 5.8	在地系。底部外面から体部中位に型作り痕が残る。体部中位に紐作り痕が残る。底部外面に板状圧痕あり。耳1ヶ所残る。		1/4残。
番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態備考
327	瓦平	1集石埋没土	長さ 11.8+ 幅 11.8+ 厚さ 2.2～2.4	①黒色鉱物 ②灰 ③還元・硬質 ④やや重	布目並。布の隣り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の剥取条痕なし。回転条痕なし。側部面取回数1。裏面砂付着。燻しかり二次被熱か。1枚作りか。県外産。	側部を含む破片。13世紀。
328	瓦軒平	1集石+20	長さ 10.4+ 幅 11.2+ 厚さ 3.0	①透明～白色鉱物微量 ②灰 ③還元・硬質 ④やや重	唐草文。布目が瓦当部に達する。布の隣り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の剥取条痕なし。回転条痕なし。側部面取回数1以上。県外産。	側部・瓦当部を含む破片。13世紀。
329	瓦平	1集石埋没土	長さ 9.0+ 幅 10.3+ 厚さ 2.2～2.4	①透明～白色鉱物微量 ②灰 ③還元・硬質 ④やや重	布目細かい。裏面に砂付着し、2条の沈線あり。布の隣り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の剥取条痕なし。回転条痕なし。側部面取回数1。1枚作りか。県外産。	側部・端部を含む破片。13世紀。
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴		残存状態備考
468	石製品砥石	1集石埋没土	長さ 8.2+ 幅 1.7～2.5 厚さ 1.3 重量 46.3 砥沢石	主に3面を使用し、断面台形を呈する。		両端欠。
469	石製品砥石	1集石埋没土	長さ 8.3 幅 6.5 厚さ 8.2 重量 82.6 馬見岡凝灰岩?	直方体状に加工し、主に1面を使用。短側面が整わず両端欠損の可能性。磨面に煤が付着し、全体が部分的に赤化。		二次的に被熱か。
470	石製品磨石	1集石埋没土	長さ 7.9 幅 7.7 厚さ 4.4 重量 172.4 軽石	平面隅丸三角形を呈する。2面ある磨面はほぼ平坦で、一部に深い筋状の擦痕が残る。		ほぼ完形。
471	石製品?	2集石埋没土	長さ 15.7 幅 11.1 厚さ 6.9 重量 459.1 軽石	2面に1ヶ所ずつ半球状の凹みを、1面に楕円状に湾曲した凹みを設ける。深い筋状の擦痕や面的な加工痕が残る。		未製品か。
472	石製品?	2集石埋没土	長さ 13.3 幅 14.6 厚さ 10.2 重量 1418 ニッ岳軽石	平面が楕円の半球状を呈する。平坦に加工した面に浅い凹みを、球面中央に断面葉研状の筋を設ける。		ほぼ完形。
473	石製品砥石	3集石埋没土	長さ 7.3+ 幅 3.2 厚さ 1.1～2.2 重量 75.3 砥沢石	主に2面を使用し、断面台形を呈する。他の2面に製作時の平擦痕が残る。		片端欠。

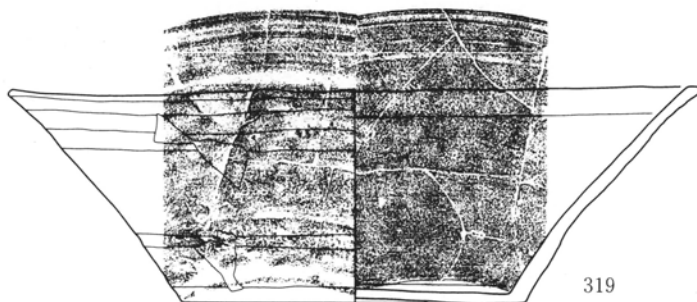


A区A号土坑出土遺物

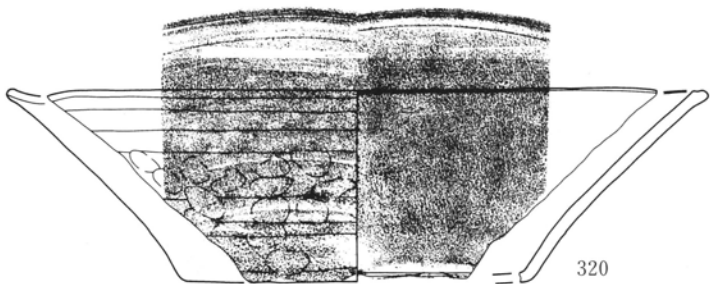




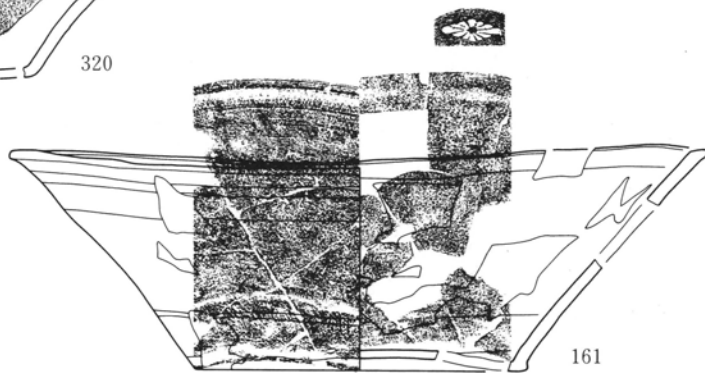
310



319



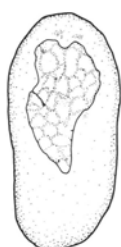
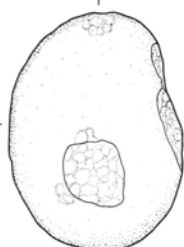
320



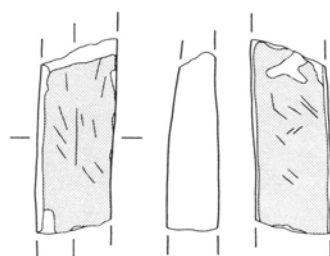
161



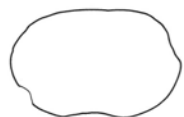
272



478



477



479

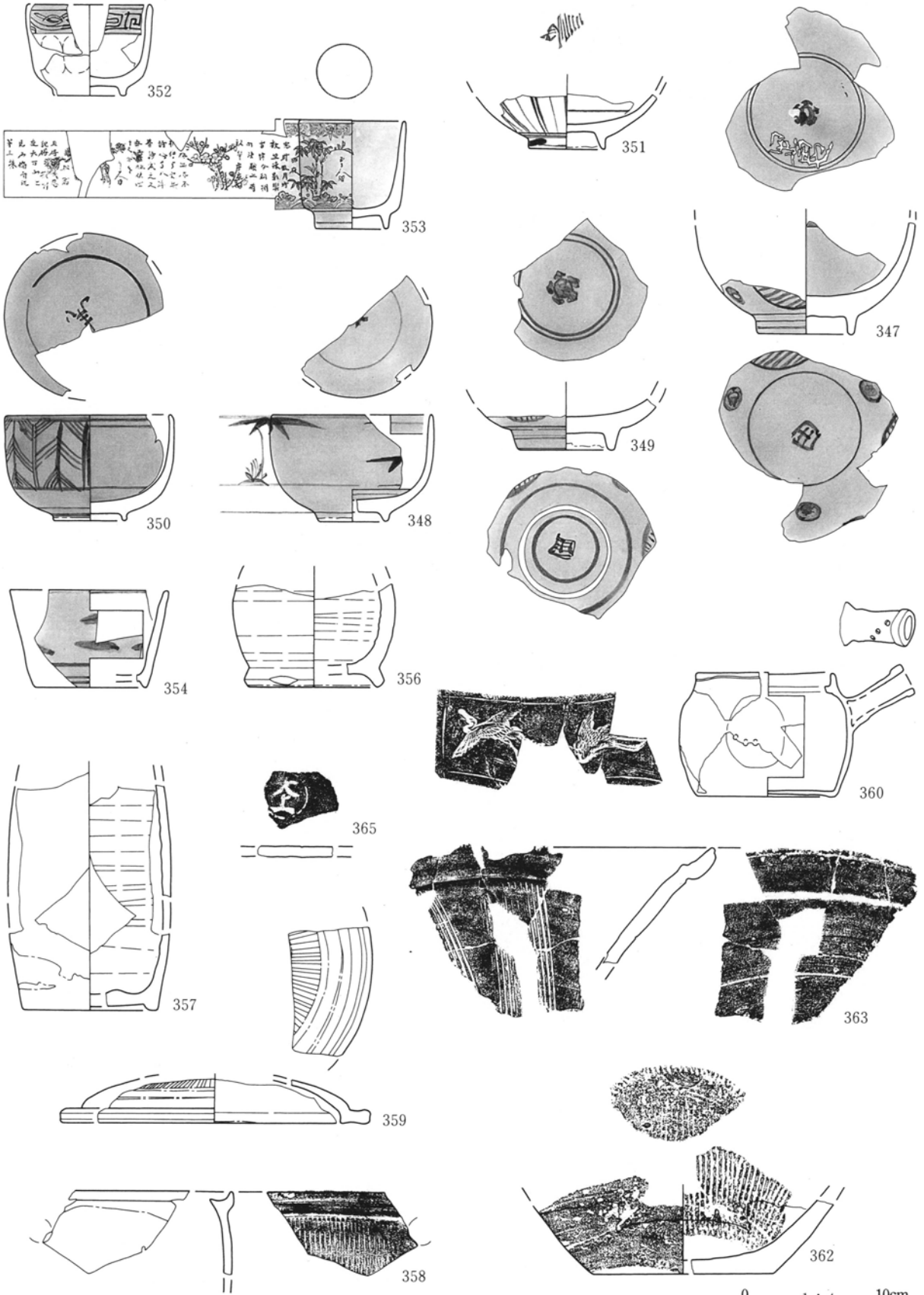
0 1 : 4 10cm

0 1 : 3 10cm

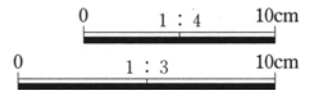
A区A号土坑出土遗物

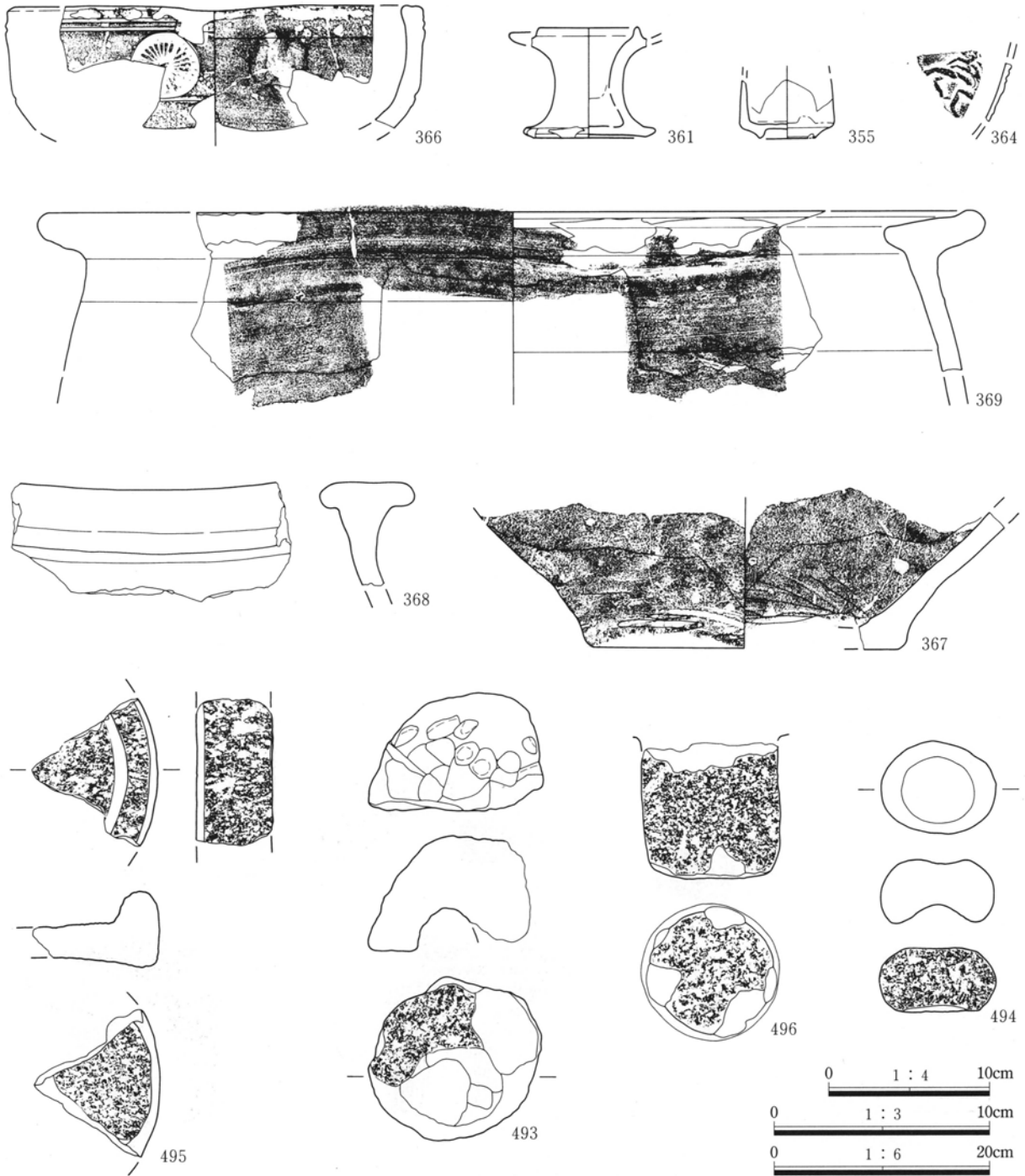
A区A号土坑遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
148	陶器 碗	+8~22	口径 (10.4) 底径 4.4 器高 6.4	肥前。外面東屋山水文。高台径小さく、やや挟り込む。陶胎染付。	口縁~体部1/2欠。
149	磁器 碗	+13~16	口径 9.9 底径 4.0 器高 5.1	肥前。外面コンニャク判による菊花状文を3方に施す。	口縁部1/4欠。
150	磁器 碗	+5~10	口径 (8.2) 底径 4.6 器高 6.1	肥前。口縁部は緩く内湾する。高台内挟り込む。外面コンニャク判による不明文様と鶴?を交互に染め付ける。	1/2残。 波佐見系。
151	陶器 腰鎗碗	+2、A区5溝 埋没土、A 区19土+25	口径 (9.9) 底径 4.4 器高 5.7	瀬戸・美濃。口縁部外面下位に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹線まで鉄釉、内面から凹線まで灰釉を施す。鉄釉は鉛釉に近い発色。高台端部無釉。	口縁~体部5/6欠。
158	土器 皿	+2	口径 (8.8) 底径 (6.4) 器高 2.0	在地系。底部左回転糸切り無調整。	口縁~体部1/4、底 部1/2残。
161	土器 鍋	+8~16、 A区4溝埋 没土	口径 36.0 底径 17.4 器高 12.1	在地系。鉢形を呈した鍋。底部外面から体部下位に型作り痕を残す。内面調整は丁寧で、口縁端部上面は平坦に仕上げる。見込に菱形押印1ヶ所。燻し焼成。	ほぼ完形。
272	陶器 香炉	+27、埋没 土	口径 (5.0) 底径 3.2 器高 4.5	瀬戸・美濃。口縁部内面が内側に突き出す。口縁部内面から体部外面に灰釉を施す。	口縁部一部、体部 1/4、底部残。
310	陶器 灯明皿	+3	口径 10.3 底径 4.8 器高 2.4	瀬戸・美濃。蓋付き灯明皿の身。碁笥底状の皿に棧を貼り付ける。蓋との重ね焼き痕残る。柿釉施釉後底面外面の釉を拭う。	棧を含む1/2残。
311	磁器 碗	埋没土	口径 (9.6) 底径 (3.8) 器高 4.8	肥前。外面コンニャク判による菊花状文。	口縁~体部一部、 底部1/4残。 波佐見系。
312	陶器 青緑釉鉢	埋没土	口径 (21.4) 底径 - 器高 3.4+	肥前。内面に青釉、外面に透明釉を掛け分ける。	破片。 内野山。
313	陶器 半胴甕	+14~33、 埋没土	口径 15.4 底径 9.2 器高 15.8	瀬戸・美濃。内面から外面高台脇に錆釉を施す。外面口縁部下に凹線を2条巡らす。	ほぼ完形。
314	陶器 すり鉢	+26	口径 - 底径 - 器高 5.1+	丹波。口縁端部は「N」字状を呈し、外面は極浅い凹線を巡らす。	片口部を含む口縁 部破片。
315	陶器 すり鉢	+27	口径 - 底径 - 器高 4.6+	丹波。口縁部外反したのち上方に立ち上がり外面に凹線を2条巡らす。口縁部縁帯の上下は外反する。	口縁部破片。
316	陶器 すり鉢	3~5層	口径 - 底径 - 器高 7.3+	堺・明石。口縁部厚みのある縁帯を為し、内面の突帯は丸みを帯び上部は凹線状に窪む。	口縁~体部上位 1/6残。
317	土器 焙烙	+25~31、 埋没土	口径 37.4 底径 34.0 器高 5.3	在地系。底部外面から体部下端まで型作り痕残す。耳2ヶ所残存。	口縁~底部外縁 1/2残。
318	土器 焙烙	底面直上~ 14、3~5 層	口径 37.0 底径 33.0 器高 6.2	在地系。底部外面から体部下端まで型作り痕残す。体部から口縁部外面に紐作り痕残す。耳2ヶ所残存。	口縁~底部外縁 1/2残。
319	土器 鍋	+1~13、 3~5層	口径 36.3 底径 17.8 器高 11.6	在地系。底部外面から体部下端まで紐作り痕残す。体部内面下端から底部内面周縁の撫では強い。口縁端部上面面取りする。	口縁~底部一部 欠。口縁~体部外 面煤付着。
320	土器 鍋	+25~27、 A区4溝埋 没土	口径 (36.6) 底径 (18.0) 器高 10.2	在地系。体部と口縁部は直線的に開く。口縁端部は小さく外反し、端部上面は平坦である。底部外面から体部下端に型作り痕を明瞭に残す。外面紐作り痕残る。	口縁~体部上半 1/4、体部下半~底 部外縁1/8残。
477	石製品 砥石	埋没土	長さ 7.8+ 幅 2.9~3.2 厚さ 0.9~2.0 重量 82.6 砥沢石	上下面を磨面とし、うち片面が使用により湾曲。	両端欠。
478	石製品 凹み石	埋没土	長さ 12.6 幅 9.1 厚さ 5.9 重量 874.1 粗粒輝石安山岩	自然礫を用い、4ヶ所使用。	完形。
479	石製品	埋没土	長さ 11.8 幅 10.1 厚さ 8.1 重量 607.2 二ツ岳軽石	1面に半球状の凹みを平滑に仕上げる。その反対側及び1側面に鑿等による平面的な加工痕。	1/2欠。五輪等の未 製品か。



B区1号集石土坑出土遗物





B区1号集石土坑出土遺物

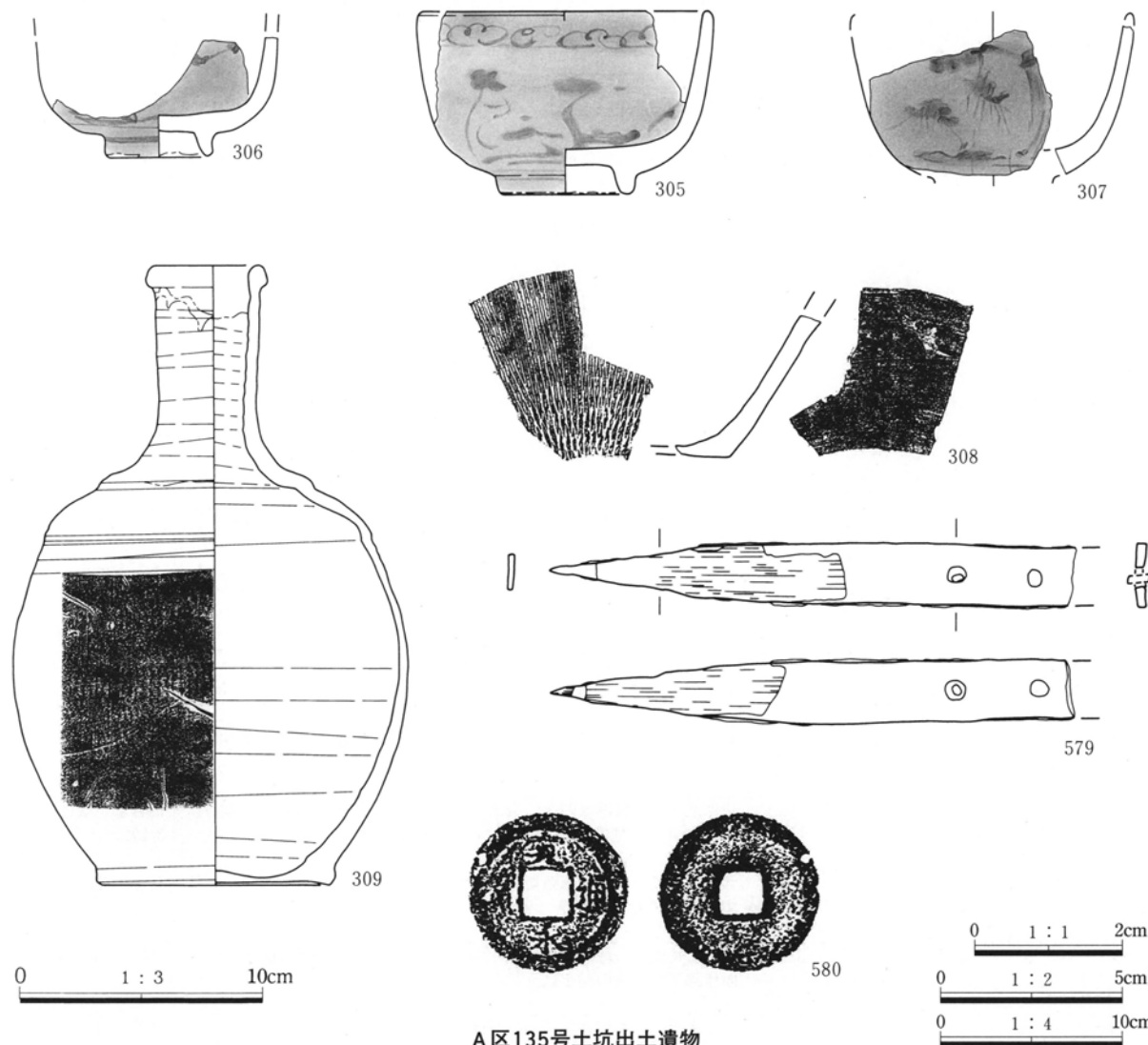
B区1号集石土坑遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
347	磁器 碗	埋没土	口径 — 底径 5.0 器高 5.8+	肥前。外面丸文。見込みコンニャク判による五花弁。高台内不明銘。見込み「岡田也」釘書き。	体部下半以下残。 波佐見系。
348	磁器? 碗	埋没土	口径 (8.4) 底径 (3.7) 器高 5.5	瀬戸・美濃。外面に笹状文を、内面2条の圏線と見込みに不明文様を施す。胎土青灰色。高台はシャープな作りで磁器の焼成不良品か。	1/2残。 19世紀。
349	磁器 碗	埋没土	口径 — 底径 5.0 器高 2.6+	肥前。外面丸文。見込みコンニャク判による五花弁。高台内不明銘。	体部下位以下残。 波佐見系。

## 5. 土坑

350	磁器碗	埋没土	口径 底径 器高	8.7 3.8 5.5	肥前。外面に矢羽根文、内面に圏線、見込みに不明文を施す。	2/3残。 19世紀。
351	磁器碗	埋没土	口径 底径 器高	— 4.0 2.9+	製作地不詳。外面麦藁手風。	体部下位以下残。 近現代。
352	磁器小碗	埋没土	口径 底径 器高	(6.5) (3.6) 4.7	製作地不詳。体部外面を面取りする。染め付けは素描き。	体部上半以上1/6、 以下1/3残。 幕末頃。
353	磁器坏	埋没土・B区11土埋没土	口径 底径 器高	5.5 3.8 5.6	瀬戸・美濃。外面銅板転写による染め付け。高台内圏線1条巡る。	口縁部1/3欠。 近現代。
354	磁器猪口	埋没土	口径 底径 器高	(8.2) (5.8) 5.1	肥前。外面染め付け。口錆。	口縁部1/6、体部～ 底部外縁1/3残。 19世紀。
355	陶器小香炉?	埋没土・B区11土埋没土	口径 底径 器高	— (2.6) 2.8+	瀬戸・美濃。高台内の扱りは深く、基筒底状を為す。体部外面に灰釉を施す。内面と高台脇以下無釉。	体部下半以下1/2残。 19世紀。
356	磁器青磁瓶	埋没土	口径 底径 器高	— (6.6) 5.3+	肥前。外面に青磁釉を施す。胎土青灰色。器壁厚い。	胴部下半～底部外 縁1/4残。 波佐見系。19世紀。
357	陶器德利	埋没土	口径 底径 器高	— (7.0) 11.8+	瀬戸・美濃。外面に灰釉を施し、外面体部下位から高台内の釉を拭う。	体部中位以下1/3残。 高田德利。
358	陶器行平	埋没土	口径 底径 器高	(18.2) — 4.3+	製作地不詳。注口と内面に鉄泥を厚く施す。外面飛び鉋施文後鉄泥を施す。	注口部を含む口縁 部破片。 近現代。
359	陶器行平蓋	埋没土	口径 底径 器高	(16.2) — 2.3+	製作地不詳。天井部内面に鉄釉、天井部外面周縁に鉄泥を施す。天井部外面に飛び鉋を施す。	天井部中央を除い て1/6残。 近現代。
360	陶器急須	埋没土・B区11土埋没土	口径 底径 器高	7.2 7.1 9.3	製作地不詳。万古風の急須。内面に布痕が残る。外面に鶴の飛翔文を押印する。	体部1/3、注口欠。 近現代。
361	陶器灯明受台	埋没土	受部径 底径 器高	(4.6) (5.1) 5.2+	製作地不詳。脚部は開き、端部は上方に反る。脚底部は回転鉋削り。筒部内面から脚端部に灰釉を施す。貫入入る。	口縁部、受け部 3/4欠。
362	陶器すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— (12.5) 5.1+	瀬戸・美濃。底部回転糸切り無調整。錆釉を施す。使用により一部のすり目が消失する。	体部下位以下1/4残。
363	陶器すり鉢	埋没土・B区11土埋没土	口径 底径 器高	(32.0) — 9.1+	瀬戸・美濃。口縁部外方に張り出し、玉縁状を為す。錆釉施釉後、外面体部下半以下の釉を拭う。	体部中位以上1/6残。
364	土器?	埋没土	口径 底径 器高	— — 2.8+	在地系?。外面型押しにより文様を陽刻する。外面赤色塗彩。	体部?破片。
365	土器焙烙?	埋没土	口径 底径 器高	— — —	在地系。内面「○」内に「大上」押印あり。	底部破片。
366	土器火鉢?	埋没土	口径 底径 器高	(26.0) — 7.7+	在地系。外面菊花状の施文。口縁部から体部内面に煤付着。	体部以上1/4残。
367	陶器甕	埋没土	口径 底径 器高	— (19.0) 8.7+	常滑。	体部下位～底部外 縁1/3残。 中世か?。
368	陶器甕	埋没土	口径 底径 器高	— — 6.5+	常滑。口縁部は断面「T」字状を呈する。	口縁部破片。
369	陶器甕	埋没土	口径 底径 器高	(58.9) — 10.6+	常滑。口縁部はほぼ水平に広げ、内外面に突き出る。外面側の端部は丸く肥厚する。	口縁～体部上位 1/6残。
493	石製品?	埋没土	幅 10.8 長さ 10.3 厚さ 7.4 穴径 約5 同深さ 2.7 重量 262.8 軽石	器表の剥離や摩滅が顕著で、歪な半球形を呈す。一部を平坦に仕上げた中央に円錐形の穴を有する。この面を下端とし、突起部に載せる為の造作であろう。	一部欠。	
494	石製品?	埋没土	幅 7.3 長さ 5.8 厚さ 4.0 重量 150.8 粗粒輝石安山岩	端部は丸く膨らむ。上下面を窪ませるが、一方は深い円錐形でもう一方は極浅い。五輪塔水輪に似る。	完形。	
495	石製品粉ひき白上白	埋没土	上面径(29.0) 高さ 7.0 上縁幅 2.4 同高さ 2.9 含み 0.9 重量 749.0 粗粒輝石安山岩	器表が一部剥離する。すり目は摩滅し、殆ど観察できない。	1/8残。	
496	石製品塔	埋没土	径 6.5 高さ 6.3+ 重量 274.5 粗粒輝石安山岩	円柱状を呈し、下方に向けてやや窄まる。器表は丁寧な仕上げ。	上方欠。 塔の杓部。	

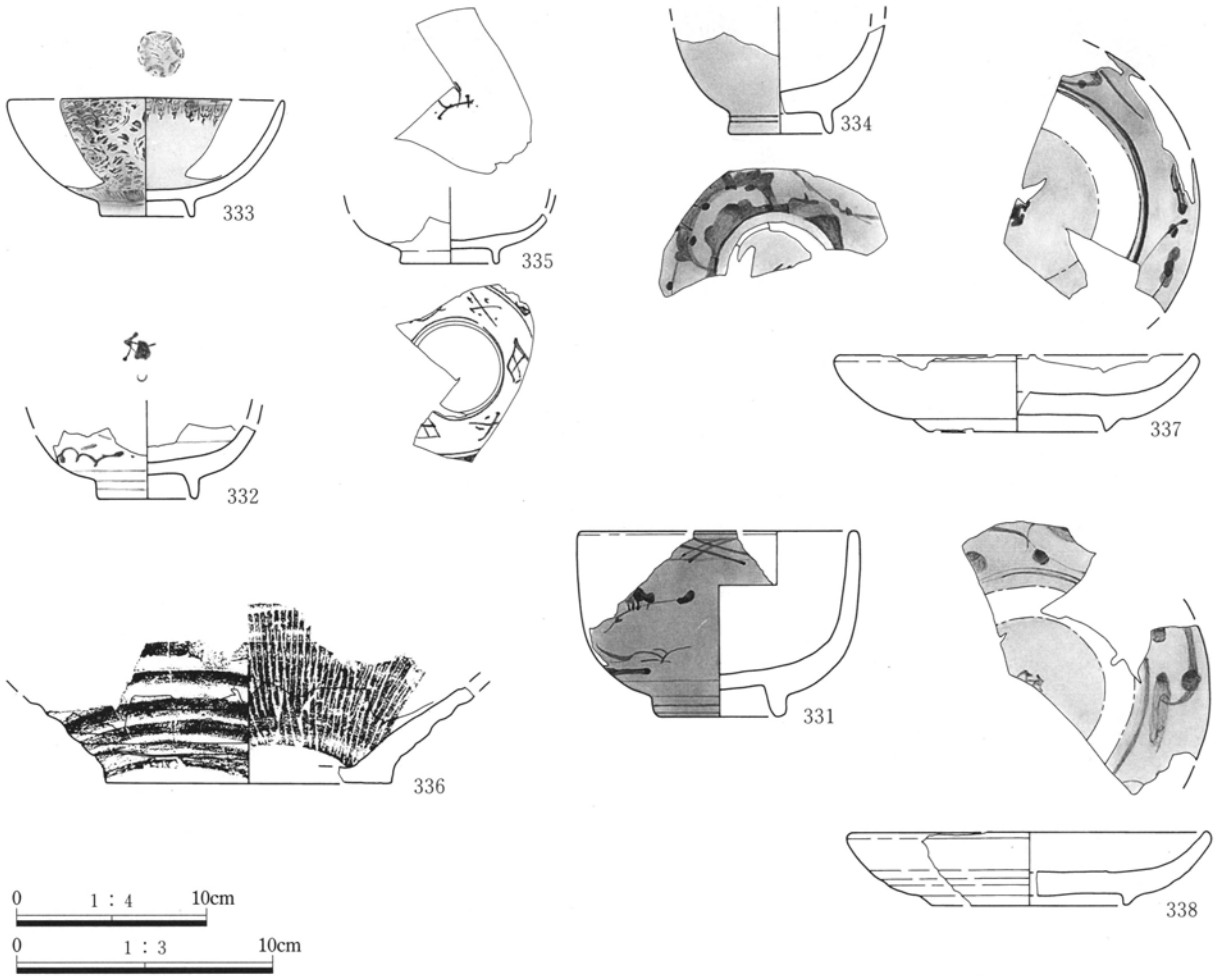
上増田島遺跡A・B区



A区135号土坑出土遺物

A区135号土坑遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
305	陶器 碗	+35	口径 (12.1) 底径 (5.5) 器高 7.6	肥前。外面東屋山水文。	口縁～体部上半 3/4欠。
306	陶器 碗	+7	口径 — 底径 4.0 器高 4.8+	肥前。高台径小さい。外面文様不明。陶胎染付。	体部下半以下残。
307	陶器 碗	+42	口径 — 底径 — 器高 6.1+	肥前。外面の染め付け不鮮明。陶胎染付。	体部1/4残。
308	陶器 すり鉢	+51	口径 — 底径 — 器高 7.9+	堺・明石。内面使用により摩滅。すり目はやや幅広。	体部下位～底部破 片。
309	陶器 徳利	+32	口径 5.1 底径 9.8 器高 25.6	製作地不詳。体部外面飛び甕を巡らす。肩部中央に段を設け、これより上位に飴釉、下位に灰釉を掛け分ける。底部外面と内面無釉。内部より油臭が漂う。	口縁部1/4、体部一 部欠。関東地方製 品か。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
579	鉄製品 ?	+43	長さ 14.4+ 幅 1.8 厚さ 0.2 目釘長 0.6+ 同径 0.3 目釘孔径 0.45 重量 31.7	板状で一端が鋭く尖る。目釘孔と思われる小孔二 ヶ所。一部に木質の痕跡。	一端欠。
580	銅錢 寛永通寶	+32	錢径 2.20~2.23 孔径 0.61~0.62 厚さ 0.09~0.1 重量 1.7	1741年初鑄。背足。	ほぼ完形。十数ヶ 所に小孔状の欠。

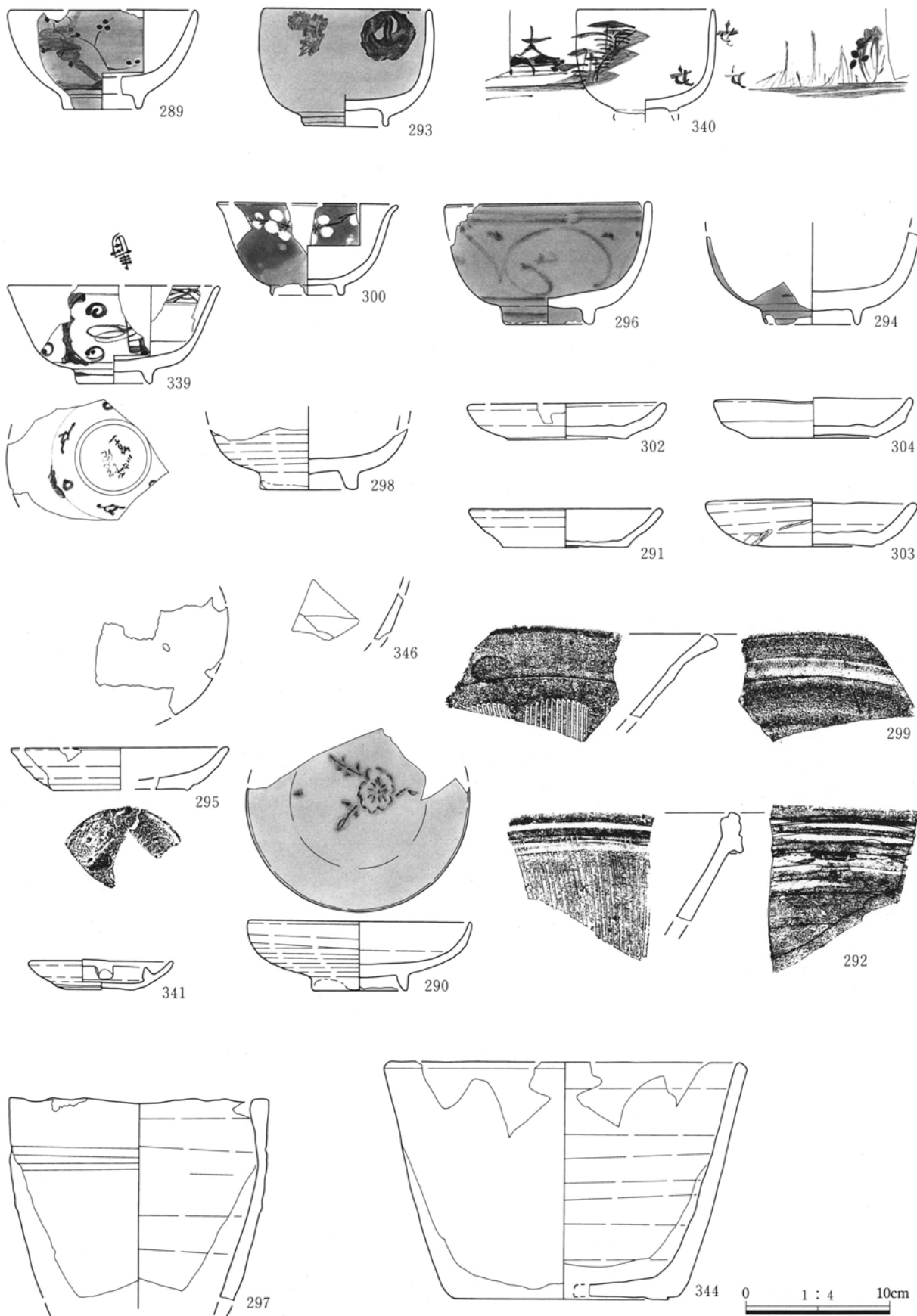


B区11号土坑出土遺物

B区11号土坑遺物観察表

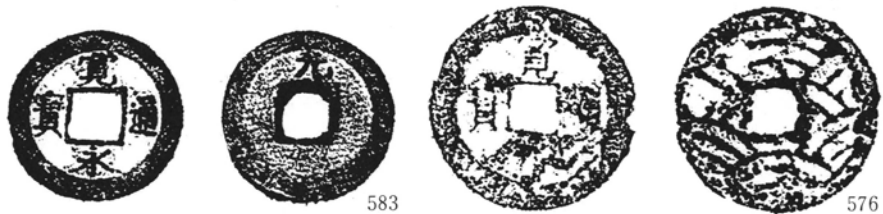
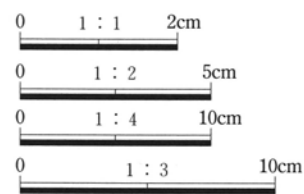
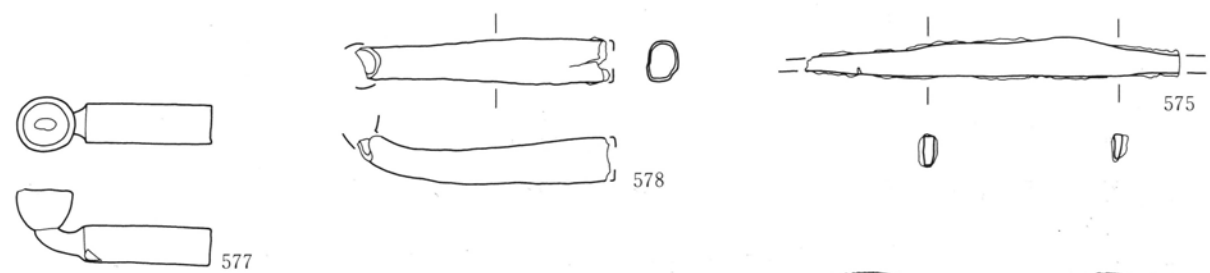
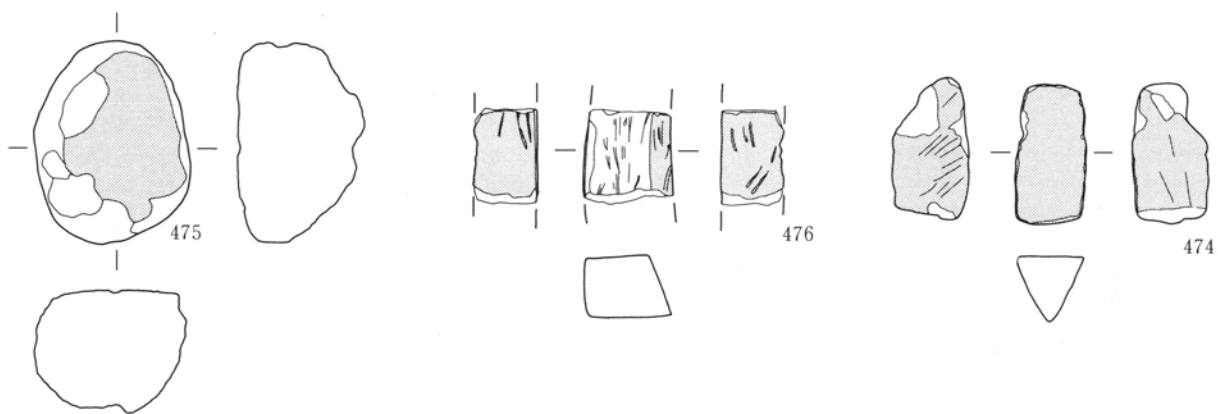
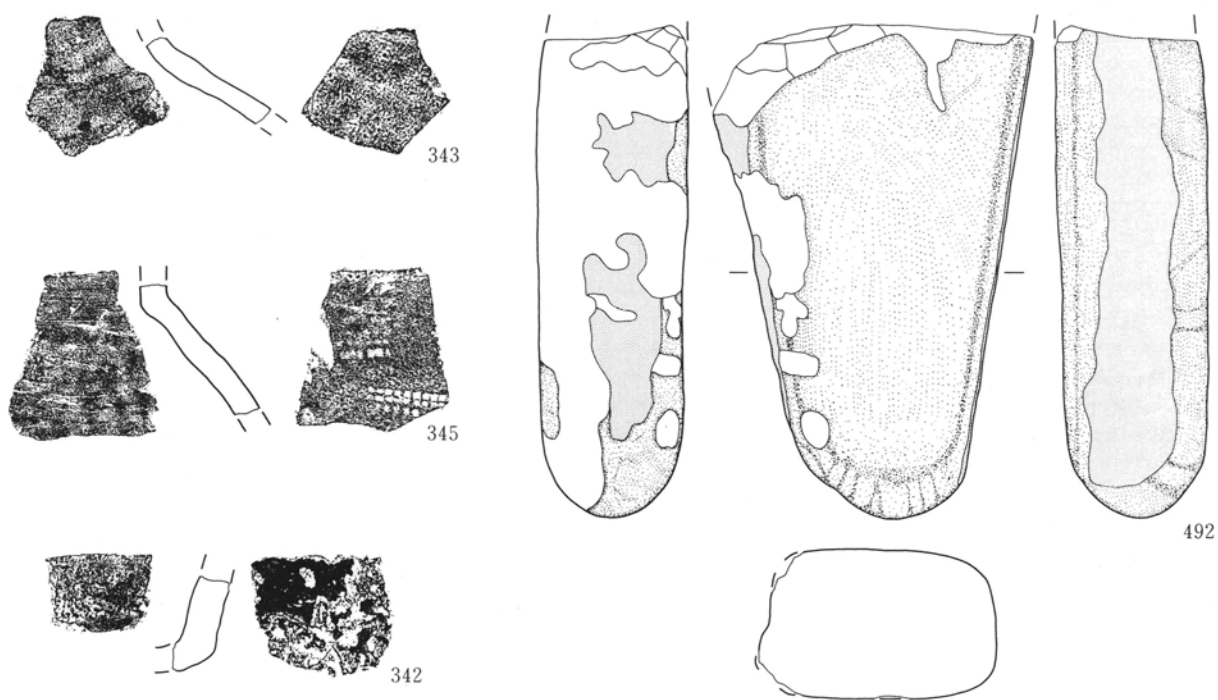
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
331	陶器 碗	埋没土	口径 (11.0) 底径 (4.8) 器高 7.3	肥前。高台内挟り込み、底部の器壁やや厚い。外面東屋山水文。陶胎染付。	口縁部一部、以下1/3残。
332	磁器 端反碗?	埋没土	口径 - 底径 3.8 器高 3.0+	瀬戸・美濃。内外面染め付け。	体部下位5/8、底部残。焼成不良。
333	磁器 碗	埋没土	口径 (10.8) 底径 3.7 器高 4.6	瀬戸・美濃。体部に丸みをもつ飯碗。内外面型紙摺り。	口縁～体部上半1/8、以下1/2残。近現代。
334	磁器 碗	埋没土	口径 - 底径 (4.2) 器高 4.0+	肥前。外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	体部下位以下1/2残。波佐見系。
335	磁器 赤絵碗	埋没土	口径 - 底径 3.9 器高 1.9+	瀬戸・美濃。内外面に赤絵。	体部下位以下3/4残。幕末～近代。
336	陶器 すり鉢	埋没土、B区1集石埋没土	口径 - 底径 (15.0) 器高 5.1+	丹波。体部外面轆轤目顕著。無釉。内面のすり目は使用により摩滅する。	体部下位～底部外面縁1/4残。
337	磁器 皿	埋没土、B区1集石埋没土	口径 (14.3) 底径 (7.0) 器高 3.0	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。口縁部内面簡略化した唐草文。見込みコンニャク判による五花弁。	1/4残。波佐見系。
338	磁器 皿	埋没土	口径 (14.2) 底径 (7.6) 器高 2.9	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。口縁部内面簡略化した唐草文。見込みコンニャク判による五花弁か。	1/3残。波佐見系。

上増田島遺跡A・B区



A・B区土坑出土遺物





A·B区土坑出土遺物

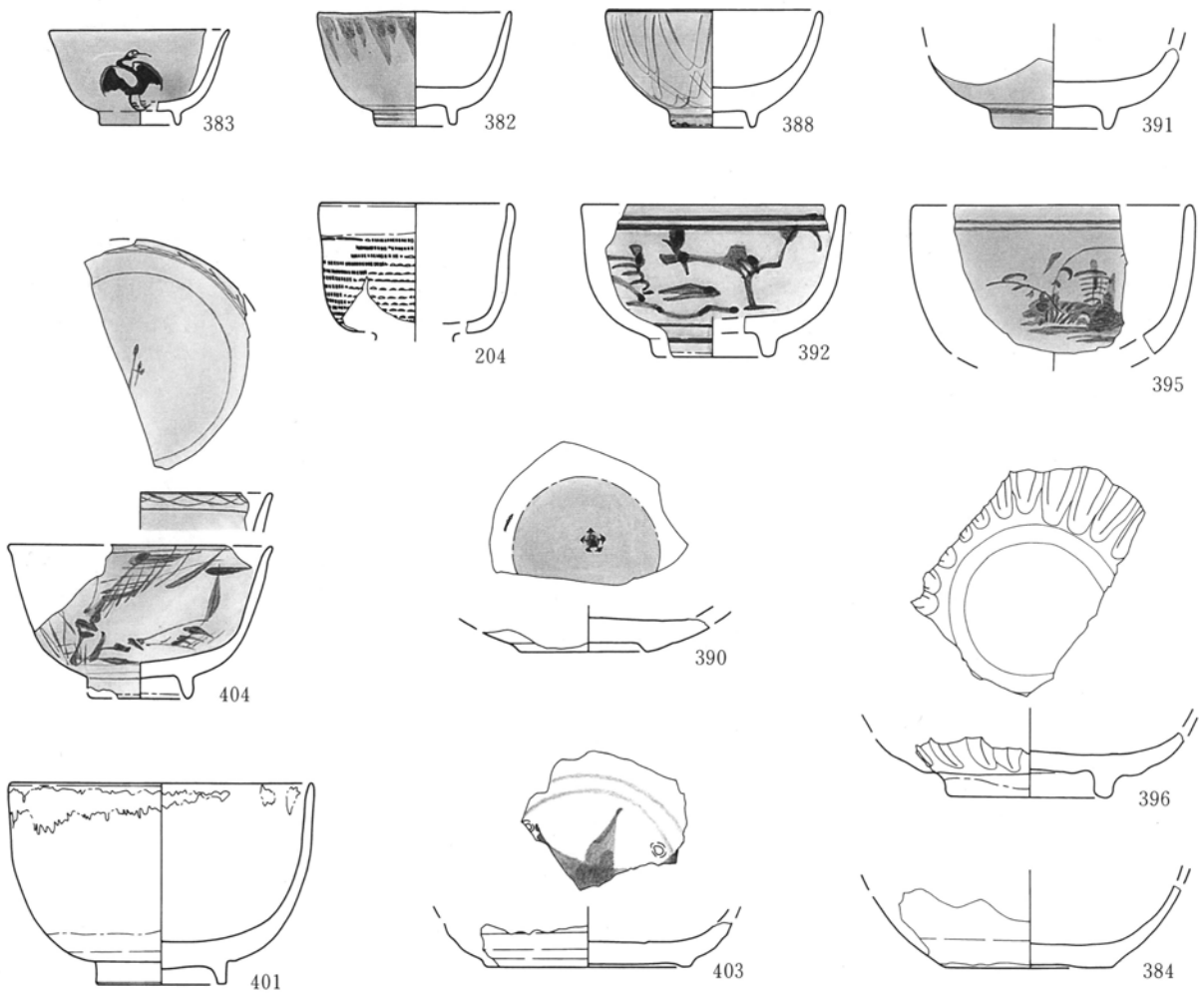
A・B区土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
289	磁器碗	A区15土埋没土、B区1集石埋没土	口径 (9.8) 底径 (4.1) 器高 5.2	肥前。外面雪輪梅樹文。	口縁部1/4、以下1/2残。 波佐見系。
290	陶器皿	A区19土+25	口径 11.6 底径 4.9 器高 3.7	瀬戸・美濃。内面口縁部下に小さい段を有する。見込みに呉須を使用した型紙刷りで桜を描く。高台のみ無釉で内面から高台内まで灰釉を施す。粗い貫入入る。	口縁～体部1/2残。
291	土器皿	A区29土埋没土	口径 (10.0) 底径 (6.5) 器高 2.0	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み螺旋状の轆轤目が残る。	口縁部1/4、以下1/2残。
292	陶器すり鉢	A区33土+25、埋没土	口径 — 底径 — 器高 7.5+	堺・明石。口縁部厚みのある縁帯を為す。内面の突帯は丸みを帯び、上部は凹線状に窪む。	口縁部破片。
293	磁器碗	A区48土+25、A区A土+10	口径 8.6 底径 (4.2) 器高 6.2	肥前。口縁部外面にコンニャク判による不明文様と鶴を各3ヶ所に施す。高台内やや挟り込む。	口縁～体部上半1/4、以下1/2欠。
294	陶器碗	A区57土埋没土、灰かき坑+5	口径 — 底径 (4.8) 器高 4.6+	肥前。文様不明。陶胎染付。	体部下半以下1/4残。
295	陶器志野丸皿	A区69・70土埋没土、2溝+35	口径 (11.2) 底径 (7.0) 器高 2.2	瀬戸・美濃。高台は非常に低く台状を為す。全面長石釉。高台内と内面に円錐ピン痕残る。	1/4残。
296	陶器碗	A区71土+4	口径 (10.7) 底径 4.6 器高 6.4	肥前。外面に簡略化した唐草文を描く。陶胎染付。	口縁～体部上半3/8、以下残。 やや焼成不良。
297	陶器半胴甕	A区74土埋没土、2石敷+24	口径 (13.4) 底径 — 器高 10.5+	瀬戸・美濃。外面口縁部下に2条の凹線を巡らす。内外面錆色の鉄釉を施す。外面降灰による自然釉掛かる。	口縁～胴部上半1/4残。
298	陶器碗	A区84土+16	口径 — 底径 5.1 器高 3.1+	瀬戸・美濃。高台内若干抉る。内面から高台外面に鉛釉を施す。	体部下半1/2、高台残。
299	陶器すり鉢	A区84土+19	口径 — 底径 — 器高 5.8+	瀬戸・美濃。口縁部外形する。錆釉を施す。	口縁部破片。
300	陶器碗	A区117土埋没土、790-700	口径 (9.4) 底径 3.8 器高 4.8	瀬戸・美濃。口縁部端反り。内面白化粧。外面鉄絵具で枝を、白土で梅花を描く。内面から高台内透明釉。高台端部のみ無釉。	口縁部1/4、以下3/4残。
302	土器皿	A区129土+26、埋没土	口径 (10.2) 底径 6.2 器高 1.9	在地系。底部右回転糸切り無調整。見込み周縁凹線状に窪む。	口縁～体部1/2欠。
303	土器皿	A区129土+21、埋没土、790-655	口径 11.0 底径 6.6 器高 2.5	在地系。底部左回転糸切り無調整。体部から口縁部直線的に開く。見込みに螺旋状の轆轤目が残り、周縁は凹線状に窪む。	口縁部一部欠。
304	土器皿	A区129土埋没土、805-660	口径 10.4 底径 6.6 器高 2.0	在地系。底部右回転糸切り無調整。見込み周縁凹線状に窪む。	完形。
339	磁器端反碗	B区12土埋没土、820-700	口径 (11.0) 底径 3.9 器高 5.1	瀬戸・美濃。外面文様不詳。見込み「寿」字文。高台内に焼き継ぎ時の赤文字「増田」「参百廿三」「参百十一」。口縁部付近と高台脇は焼き継ぎ部で欠損。	口縁～体部上半の大部分欠。 焼き継ぎ。
340	磁器筒形碗	B区23土埋没土	口径 7.2 底径 — 器高 5.5+	肥前。外面東屋山水文。	口縁部の一部、高台欠。
341	陶器灯明受皿	B区23土埋没土	口径 7.5 底径 3.4 器高 1.6	瀬戸・美濃。全面錆釉施釉後、底部外面から体部の釉を拭う。体部下位に重ね焼き痕。口縁部が油溝付近で歪む。	完形。
342	陶器甕	B区28土埋没土	口径 — 底径 — 器高 5.1+	常滑。外面及び底部内面に自然釉が掛かる。	体部下端から底部破片。 中世。
343	陶器壺?	B区29土埋没土	口径 — 底径 — 器高 4.5+	常滑。外面に自然釉が掛かる。頸部の径は小さいと推定され、壺の可能性はある。	肩部破片。 中世。
344	土器植木鉢?	B区41土埋没土、835-654	口径 (18.8) 底径 (11.6) 器高 12.4	在地系。平底で体部は直線的に立ち上がる。型作り? 轆轤調整。残存部には水抜き穴が認められない。	口縁部1/6、体部1/3、底部外縁の一部残。
345	陶器甕	B区50土埋没土	口径 — 底径 — 器高 6.4+	外面格子叩き、自然釉が掛かる。	肩部破片。 中世。386と同一個体か?。
346	磁器青磁碗	B区50土埋没土	口径 — 底径 — 器高 2.6+	龍泉窯系青磁。残存部は無文。	体部破片。 中世。

6. 遺構外出土遺物

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
474	石製品 砥石	A区84土埋没土	長さ 5.5 幅 2.6~2.9 重量 17.6 軽石	断面三角形を呈し、3面を使用。端部は整わず、両端が欠けている可能性もある。	器表の一部が剥離。
475	石製品 磨石	A区126土埋没土	長さ 8.0 幅 6.1 厚さ 4.9 重量 104.1 軽石	円礫を用い、使用により平坦な磨面を形成。	完形。
476	石製品 砥石	A区126土埋没土	長さ 3.7+ 幅 2.5~3.2 厚さ 2.3 重量 49.5 流紋岩	磨面は主に2面で、使用により湾曲し、断面台形を呈す。残りの1面は製作時の鑿痕が残るが、使用による擦痕も認められる。	両端欠。
492	石製品 砥石?	B区12土+2	長さ 26.0+ 幅 16.8+ 厚さ 8.0 重量 5618 ひん岩	自然礫を用い、両側面に磨面をもつ。	片端欠。
575	鉄製品 刀子?	A区5土埋没土	長さ 9.8+ 刀身幅 0.3~1.0 同厚さ 0.3 茎幅 0.5~1.0 同厚さ 0.2 重量 11.5	断面は区側が厚く、峰側の片区か。全体に錆が付着。メタルの劣化が顕著で一部で層状に剥離。	茎尻・鋒欠。
577	真鍮製品 煙管雁首	A区19土+21	長さ 5.1 高さ 2.0 火皿径 1.4 小口径 1.0 重量 6.0	緩やかに屈曲する脂返しから肩の稜に至る。火皿に製作時と思われる横方向の擦痕、肩の一部に文様と思われる斜方向格子状の筋彫り。全体に緑青付着。	ほぼ完形。
578	金属製品 煙管雁首	A区19土+22	長さ 6.6+ 高さ 1.3+ 小口径 1.1 重量 6.8	脂返しは緩く湾曲し、肩の意識は少ない。首上面が二次的にやや潰れる。全体に緑青付着。	火皿・小口欠。
576	銅 銭 寛永通寶	A区7土埋没土	銭径 2.75~2.79 孔径 0.59 厚さ 0.12~0.15 重量 3.8	錆付着で判読困難。1768年初鑄。21波。	ほぼ完形。
583	銅 銭 寛永通寶	B区23土埋没土	銭径 2.28~2.30 孔径 0.63 厚さ 0.11~0.12 重量 2.5	1741年初鑄。背元。	完形。

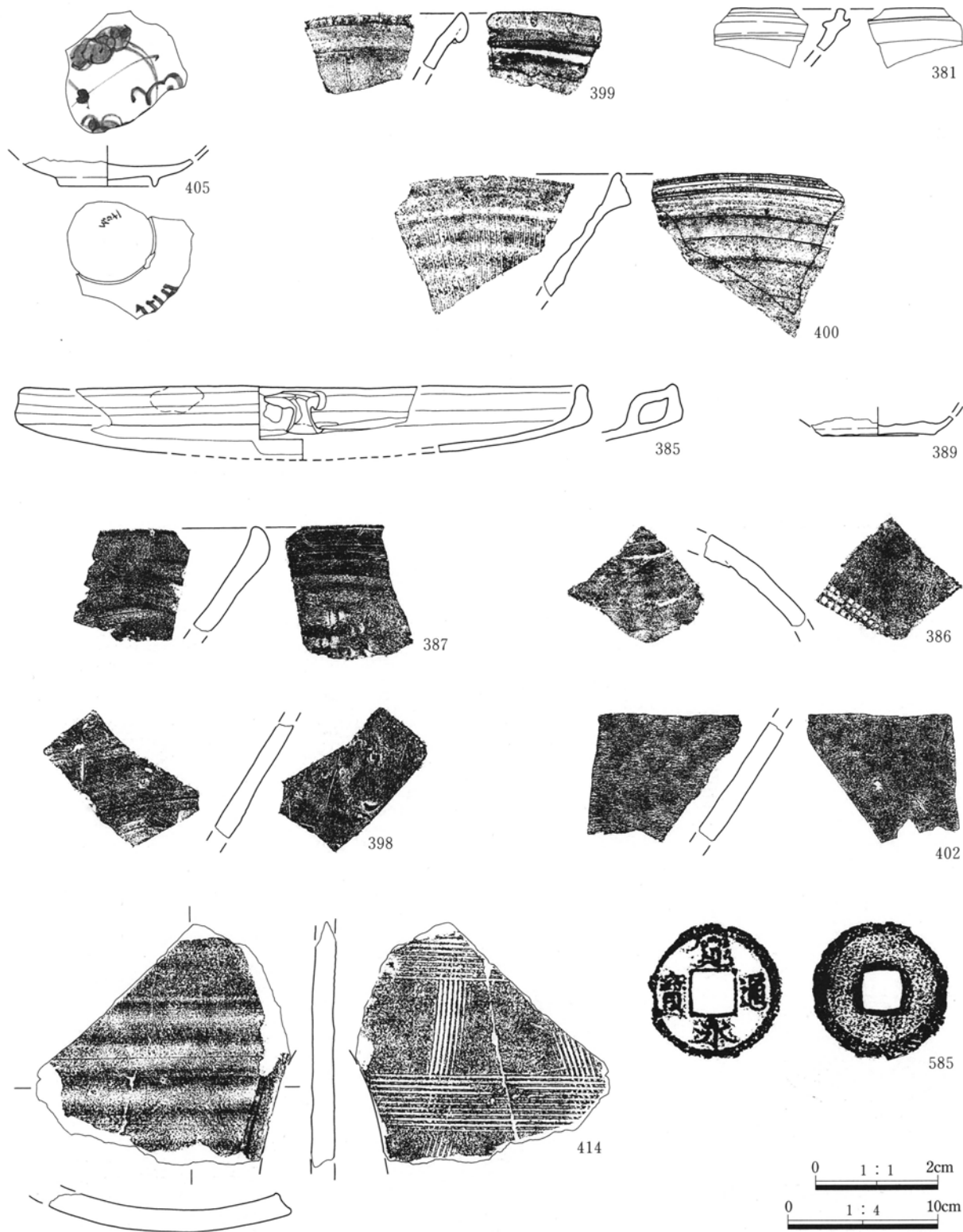
6. 遺構外出土遺物(PL61・62)



0 1 : 3 10cm

A・B区遺構外出土遺物

上増田島遺跡A・B区



A・B区遺構外出土遺物

A・B区遺構外遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
204	陶器 鎧茶碗	A区	口径 (7.6) 底径 - 器高 5.0+	瀬戸・美濃。筒形を呈し、外面口縁部以下に回転施文具で文様を施す。内面から口縁部外面に鉄軸を施し、外面口縁部以下は薄く施す。	口縁～体部1/4残。

## 6. 遺構外出土遺物

381	陶器 すり鉢	790-680	口径 底径 器高	- - 2.3+	瀬戸・美濃。錆釉を施す。	口縁部破片。
382	磁器 碗	800-680	口径 底径 器高	(7.7) 3.3 4.5	肥前。口縁部外面型紙による雨降り文。	口縁部～体部中位 5/8欠。 波佐見系。
383	磁器 坏	805-710・ 715	口径 底径 器高	(7.1) (3.2) 3.7	瀬戸・美濃?。外面に鞆を描く。器表の光沢が強い。	3/8残。
384	土器 皿	805-660	口径 底径 器高	- 6.5 3.2+	底部回転糸切り。回転方向不明。	口縁～体部上半 欠。 中世か。
385	土器 焙烙	810-660	口径 底径 器高	(37.0) (37.4) 4.5+	在地系。丸底。酸化焰焼成。底部外面から体部外面下位に煤付着。耳 1ヶ所残る。	口縁～底部外縁 1/4残。
386	陶器 甕	A区	口径 底径 器高	- - 6.0+	常滑。外面格子叩きで自然釉が薄く掛かる。	肩部付近破片。 中世。345と同一個 体か。
387	軟質陶器 すり鉢	A区	口径 底径 器高	- - 6.9+	口縁部はやや内湾し、玉縁状を為す。焼成はやや硬質で須恵器質。	口縁部破片。 中世。
388	磁器 碗	A区	口径 底径 器高	8.6 3.3 4.6	肥前。外面二重編目文。	口縁部1/2欠。 波佐見系。
389	土器 皿	A区	口径 底径 器高	- 5.5 0.9+	在地系。底部右回転糸切り無調整。見込み周縁凹線状に窪む。	体部中位以上欠。
390	磁器 皿	A区	口径 底径 器高	- 5.1 1.4+	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。高台径は小さく、萁筒底状を呈する。見 込みコンニャク判による五弁花は小さい。	波佐見系。
391	磁器 碗	A区	口径 底径 器高	- 4.5 3.2+	肥前。体部最下位及び高台脇に圈線。陶胎染付。	体部下位～底部 1/2残。
392	陶器 碗	800-675	口径 底径 器高	(10.5) (4.6) 6.0	肥前。器高低い。外面簡略化した東屋山水文。陶胎染付。	3/8残。
395	陶器 碗	A区	口径 底径 器高	(11.0) - 5.8+	肥前。外面山水文。	口縁～体部中位 1/4残。
396	陶器 菊皿	A区	口径 底径 器高	- 6.6 2.6+	瀬戸・美濃。高台は大きく厚みを有する。見込みの釉下に布目痕が残 る。内面から高台外面に灰釉を施す。釉色は黄瀬戸風。貫入入る。	体部下位1/2、底部 3/4残。 17世紀。
398	陶器 甕	820-670	口径 底径 器高	- - 8.5+	常滑系。胎土灰白色。	体部下位破片。 中世。
399	陶器 すり鉢	810-700	口径 底径 器高	- - 3.7+	瀬戸・美濃。口縁部外方に折り返す。錆釉を施す。	口縁部破片。
400	陶器 すり鉢	830-675	口径 底径 器高	- - 8.2+	瀬戸・美濃。口縁部断面三角形を呈する。錆釉を施す。	口縁～体部上半破 片。
401	陶器 尾呂茶碗	830-675	口径 底径 器高	(12.0) 5.2 7.9	瀬戸・美濃。内面から高台脇に鉛釉を施し、口縁部にウノフ釉を流す。 高台脇から高台内は化粧として釉を薄く施す。	口縁～体部上半 3/4残。
402	陶器 鉢?	B区	口径 底径 器高	- - 7.6+	常滑。断面と外面は鈍い橙色を呈する。内面は使用により器表が平滑 となる。	体部破片。 中世。282・283と 同一個体か。
403	陶器 皿	B区	口径 底径 器高	- (8.0) 1.8+	瀬戸・美濃。鉄絵具による見込み二重圈線内に蘭竹文を描く。	体部下位～底部 1/4残。
404	磁器 端反碗	B区	口径 底径 器高	(10.5) (3.9) 6.0	瀬戸・美濃。外面植物文の染め付け。見込み不明。	口縁部3/4、以下 1/2欠。
405	磁器 皿?	B区	口径 底径 器高	- (4.8) 1.3+	肥前。見込み植物状の文様。高台内に焼き継ぎ時の文字を赤色で示す。	体部下位～底部 1/4残。
414	土器 竈	790-695	口径 底径 器高	- - 12.2+	在地系。外面に掻き目を施す。	焼き口破片。
585	銅錢 寛永通寶	B区	錢径 孔徑 厚さ 重量	2.28~2.30 0.66~0.67 0.10 2.1	無背。	外縁一部欠。

### Ⅲ C・D区第2面の遺構と遺物

#### 1. 掘立柱建物、柱列

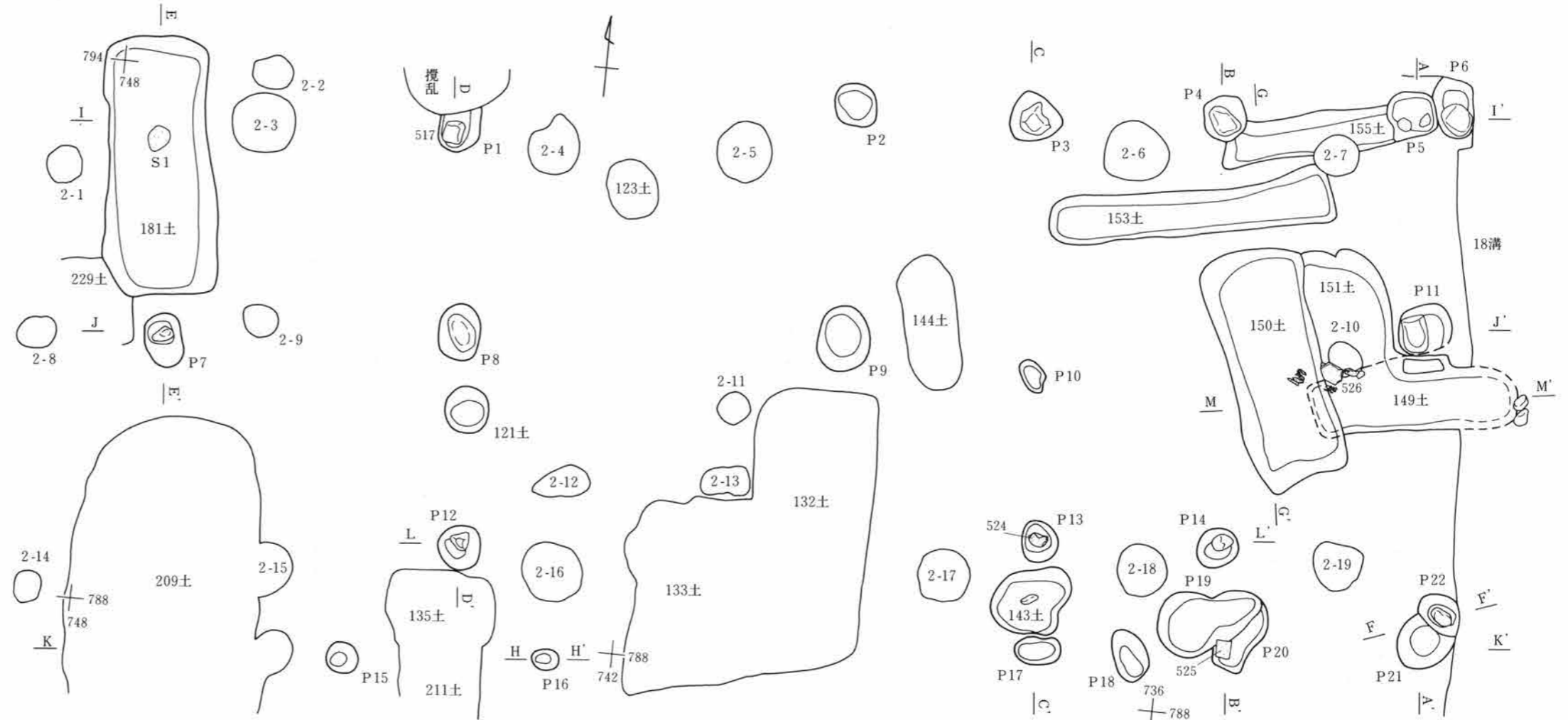
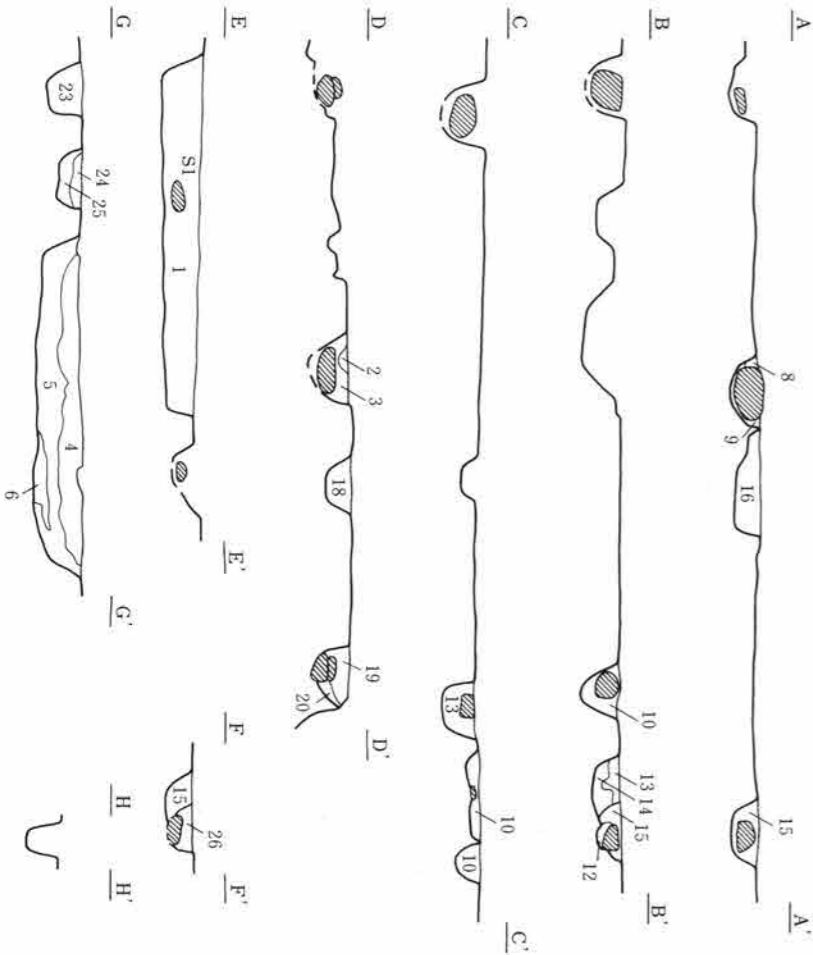
##### D区2面1号掘立柱建物(PL.31・32・62・63)

**位置** 785~795-730~745 **重複** 2号掘立柱建物、121・123・132・133・135・143・144・149~151・153・155・181・209・211号土坑、18号溝 **形状・規模** 重複を含めて22基のピットからなり、5間×2間の長方形を呈す。13.88×5.90m P1 53+×45×19cm P2 53×47×8+cm P3 径55×36cm P4 径52×(32)cm P5 62×60×26cm P6 69×45×17cm P7 59×42×(24)cm P8 61×52×(32)cm P9 73×60×29cm P10 39×25×13cm P11 63×(52)×(28)cm P12 径49×30cm P13 46×40×28cm P14 49×43×32cm P15 径35×11+cm P16 30×24×27cm P17 52×32×24cm P18 59×37×34cm P19 119×73×20cm P20 85×41+×20cm P21 50+×58×26cm P22 56×39×20cm。P12~14の桁とP15~21の桁は半間の距離にあり、南側に庇をもつ構造が考えられる。P2以東と以西で桁方向のピット間距離に開きがあるが、132・133号土坑、209号土坑及び攪乱によって壊されたもの、検出できなかったものがあるとすれば7間×2間が復元できる。P5・6、P19~22は重複し、P19→P20、P21→P22を確認した。建て直しによるものであろう。S1は181号土坑埋没土中にあり、切り合い関係が認められない。礎石はP1・3~8・11~14・20~22に残存している。殆どが河床礫を用いるが、P1は五輪塔火輪(517)の上に扁平な河床礫を重ねて、P13は粉ひき白土白(524)を逆位で、P20は方形の加工石を用いている。P1・3・5・12は礫を2段に重ねて高さを調整している。**方位** 85° **埋没土** ピットごとに異なる様相を示す。柱痕は確認できなかった。**遺物** 上記の礎石のほか、1号または2号掘立柱建物より石鉢が出土した。**所見** 礎石建ちの屋敷である。出土遺物及び他の遺構の状況より中世から近世のものであろう。2号掘立柱建物との新旧関係はつかめていな

いが、規模・方位が似ており、建て直したものと思われる。135号土坑からえな壺と思われる土器鉢・蓋が出土しており、関係が窺われる。1号は東端で時期の近い18号溝と重複し、2号は1号より西に位置することから、18号溝の埋没時間を考慮すると1号→18号溝→2号の可能性が高い。

##### D区2面2号掘立柱建物(PL.31・63)

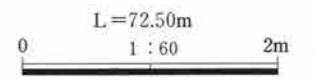
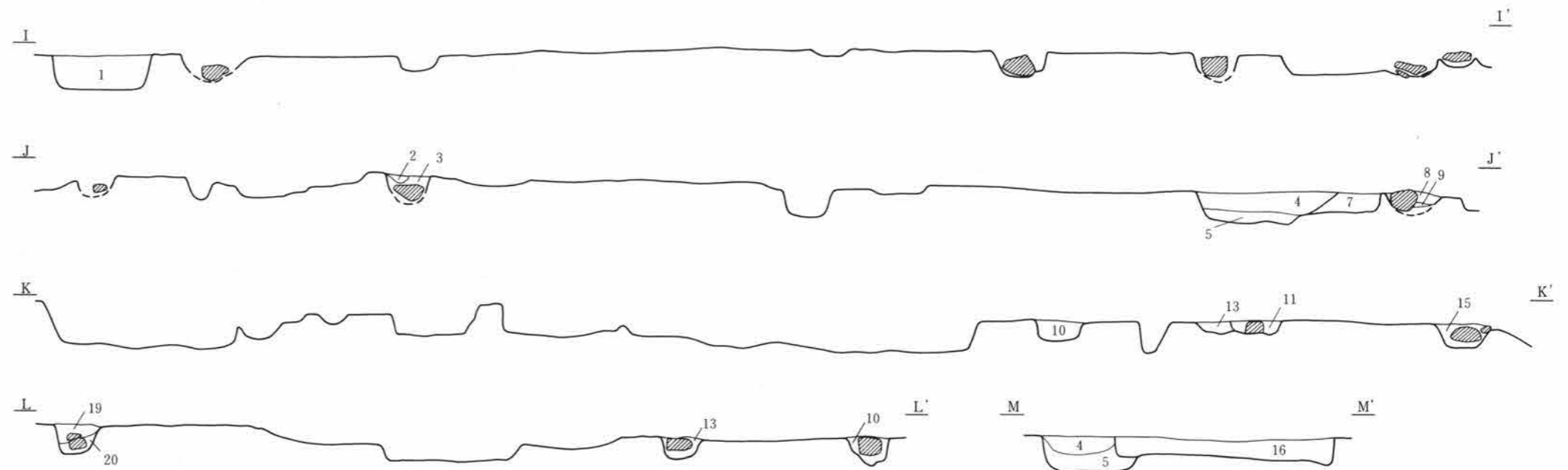
**位置** 785・790-730~745 **重複** 155号土坑→2号掘立柱建物、1号掘立柱建物、121・123・132・133・135・143・144・149~151・153・155・181・209・229号土坑 **形状・規模** 19基のピットからなり、6間×2間の長方形を呈す。14.42×4.52m P1 43×38×28cm P2 45×37×15cm P3 71×66×30cm P4 67×56×31cm P5 66×62×48cm P6 74×70×31cm P7 50×46×34cm P8 45×36×22cm P9 40×36×31cm P10 42×33×25cm P11 径35×21cm P12 62×35×16cm P13 54×33×16cm P14 37×29×19cm P15 61×49×50cm P16 73×67×52cm P17 60×63×40cm P18 60×55×35cm P19 58×55×42cm。P1は東に、P3は北に寄る。P2は本遺構に伴うか不明である。P12・13の桁は南の桁との距離が短い。1号掘立柱建物の構造から庇付きである可能性もあるが、2基のみの検出であり、判断としない。礎石はP1~6・15~17に残存している。全て河床礫を用い、P15・16では礫を2段に重ねて高さを調整している。**方位** 85° **埋没土** ピットごとに異なる様相を示すが、堆積状況のわかるものは少ない。P6・17で柱痕が観察できる。**遺物** 1号または2号掘立柱建物より石鉢が出土した。**所見** 礎石建ちの屋敷である。他の遺構の状況より中世から近世のものであろう。1号掘立柱建物との新旧関係はつかめていないが、規模・方位が似ており、建て直したものと思われる。135号土坑からえな壺と思われる土器鉢・蓋が出土しており、関係が窺われる。



D区2面1号掘立柱建物、121・143・149～151・153・155・181号土坑

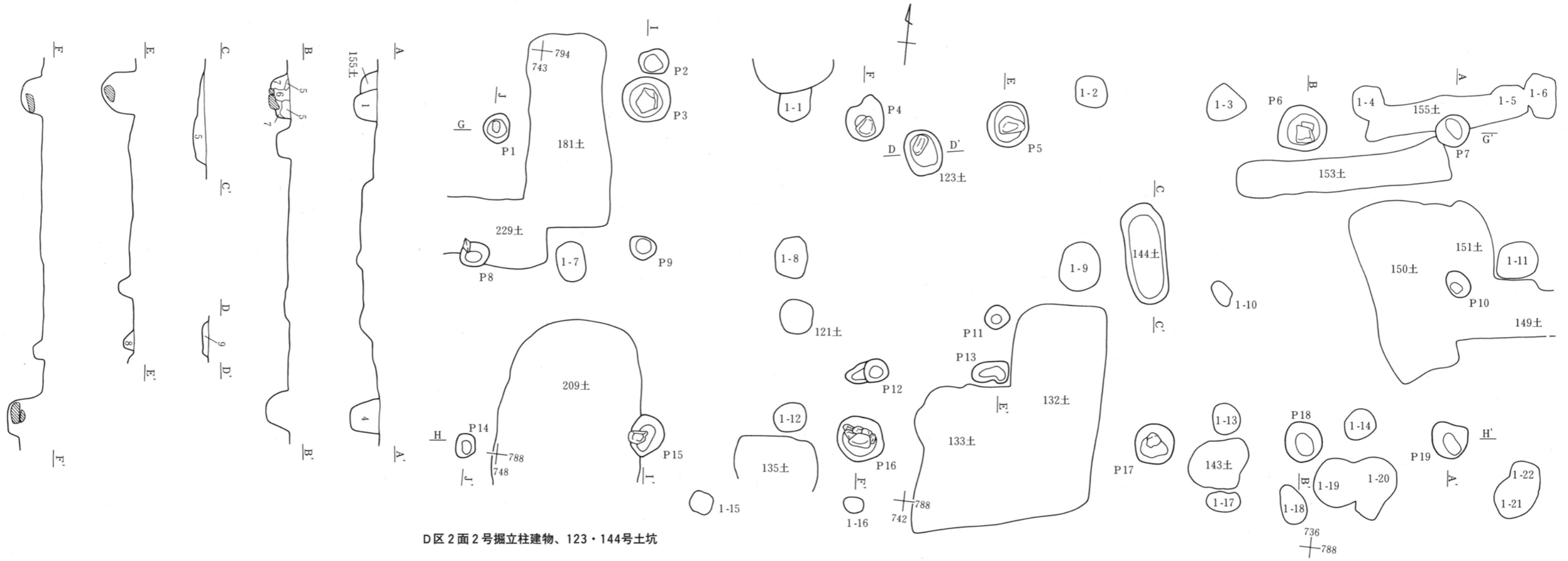
1. 灰褐色土。粘質。灰黄色シルト粒を少量含む。181号土坑埋没土。
2. 灰褐色土。しまりが強い。炭粒を多量含む。
3. 灰褐色土。しまりが強い。炭粒を少量含む。
4. 黒褐色土。褐色・灰色砂粒を少量含む。
5. 黒褐色土。しまりが強い。褐色・灰色砂粒を少量含む。
6. 暗黄褐色土。黄色砂質土を多量含む。4～6層は150号土坑埋没土。
7. 褐色砂。黄色砂質土を少量含む。151号土坑埋没土。
8. 黒褐色土。黄色砂質土を少量含む。
9. 黄色土。砂質。黒褐色土をやや多量含む。
10. 灰褐色土。しまりがやや強い。灰黄褐色砂質土粒・炭粒を少量含む。
11. 暗褐色土。やや粘質。
12. 灰褐色土。灰黄褐色砂質土を多量含む。
13. 暗褐色土。
14. 灰褐色土。灰黄褐色砂質土をやや多量含む。
15. 暗灰褐色土。
16. 暗灰褐色土。しまりが弱い。褐色土粒を均一に少量含む。149号土坑埋没土。
17. 灰褐色土。しまりが弱い。灰黄褐色砂質土粒・炭粒を少量含む。
18. 暗灰褐色土。粘質。灰黄褐色砂質土を多量含む。121号土坑埋没土。
19. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒・炭粒を少量含む。
20. 暗灰褐色土。しまりが強い。
21. 黒褐色土。黒色・灰色砂粒を少量含む。
22. 黒褐色土。黒色・灰色砂粒を多量含む。
23. 暗黒褐色土。砂質。しまりが弱い。灰色砂粒をやや多量、黄色砂質土粒を少量含む。155号土坑埋没土。
24. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
25. 暗黒褐色土。褐色砂粒・炭粒を少量含む。24・25層は153号土坑埋没土。
26. 暗灰褐色土。褐色砂粒を微量含む。

D区2面1号掘立柱建物、121・143・149～151・153・155・181号土坑





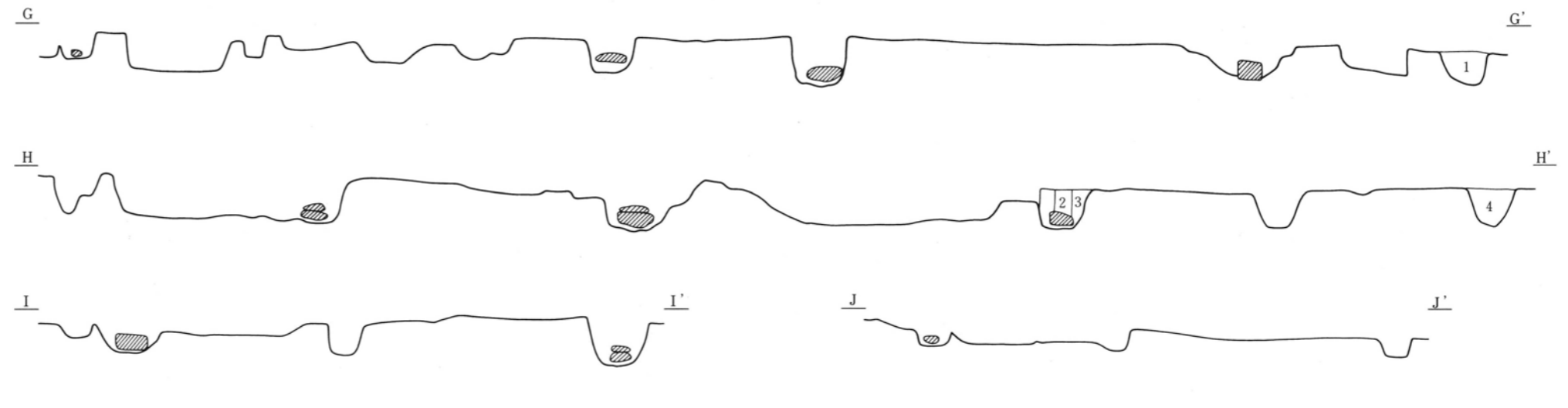




D区2面2号掘立柱建物、123・144号土坑

D区2面2号掘立柱建物、123・144号土坑

1. 黒褐色土。灰色砂粒を均一に少量含む。
2. 黒色土。粘質。炭粒を少量含む。柱痕。
3. 暗褐色土。黄色砂質土をやや多量含む。
4. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色砂質土を少量、炭粒を微量含む。
5. 灰黄褐色土。砂質。地山の灰黄色砂質土を多量含む。
6. 灰褐色土。炭粒を微量含む。柱痕。
7. 灰褐色土。地山の灰黄色砂質土を少量含む。
8. 灰黄褐色土。やや粘質。地山の灰褐色砂粒を少量含む。
9. 褐灰色土。炭粒をやや多量含む。



L=72.50m

0 1:60 2m



1. 掘立柱建物、柱列

D区2面1号柱列(PL.31・32)

位置 785~795-725・730 重複

20号溝・197・198号土坑→1号柱列

形状・規模 長さ 8.54~9.78m

P1 28×32×30cm P2 51×(43)×24cm P3 径36×35cm P4 83

×50×52cm P5 54×29×41cm

P6 径42×39cm P7 32×28×16

+cm P8 43×39×29cm P9 31

×27×37cm P10 径36×11cm

P11 29×19×15cm P12 径36×

30cm P13 81×62×47cm P14

92×81×62+cm P15 32×22×14

cm P16 (56)×49×33cm P17

径33×20cm。P11・12より礎石が

検出された。S1・2も出土位置から

礎石と考えられる。P13の礎石は

根固め石であろう。いずれも河床

礎である。方位 -5~8° 埋

没土 ピットごとに異なる様相を

示すが、堆積状況のわかるものは

少ない。柱痕は確認できなかった。

遺物 図示していないが、

P8より在地系土器皿が出土した。

所見 柱列の東西の位置には建物

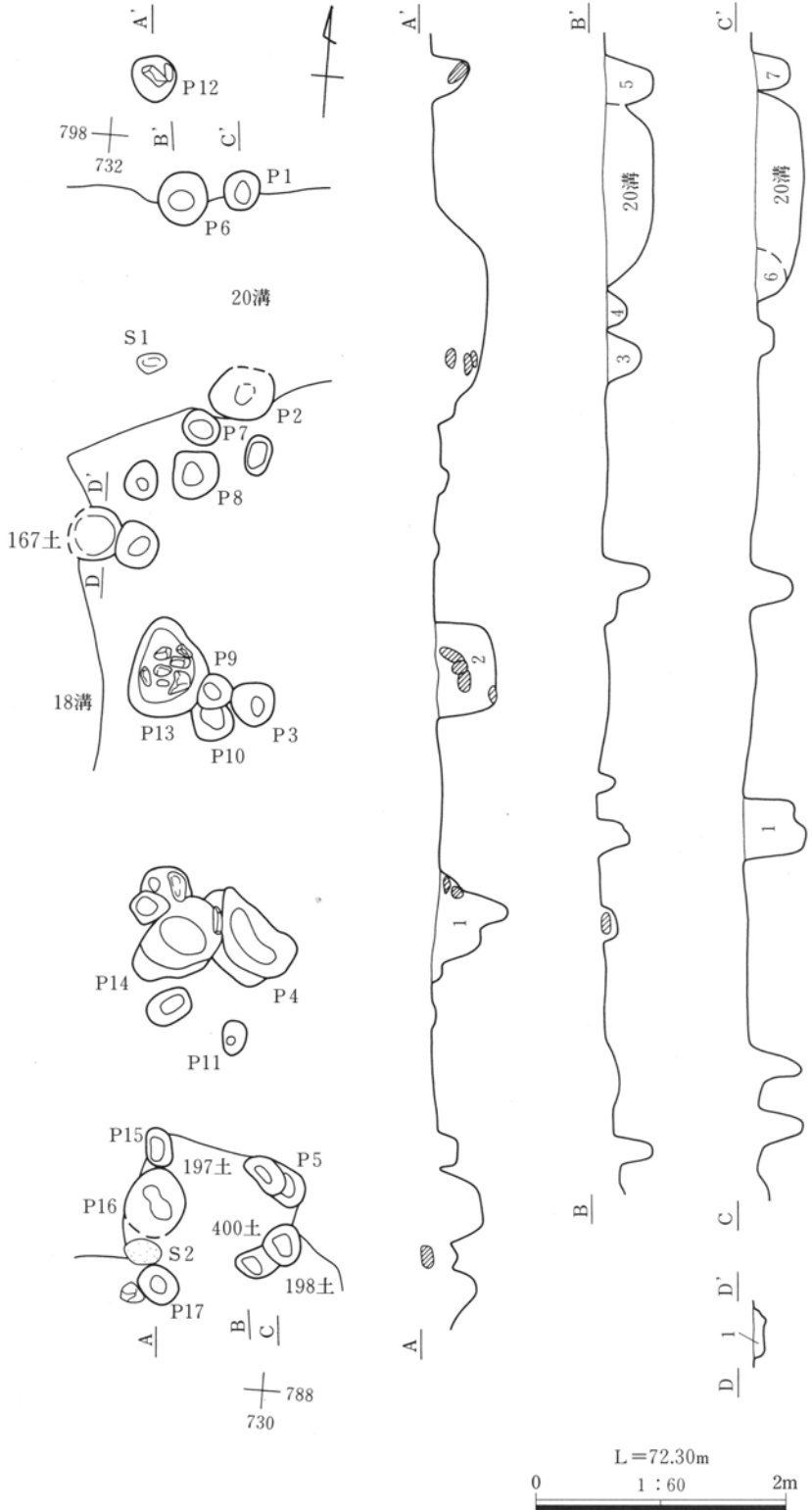
を構成するようなピットが見いだ

せないことから、柵になる可能性

がある。その場合、西に位置する

掘立柱建物との関係が予想され

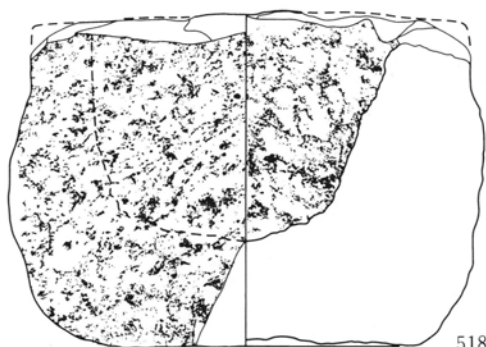
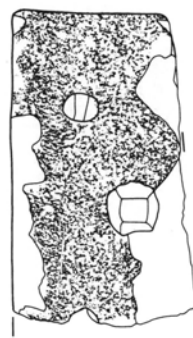
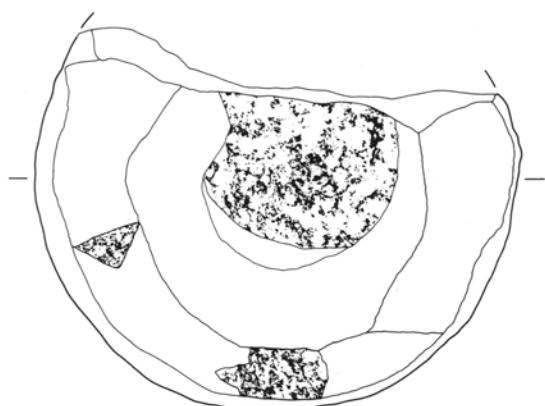
る。



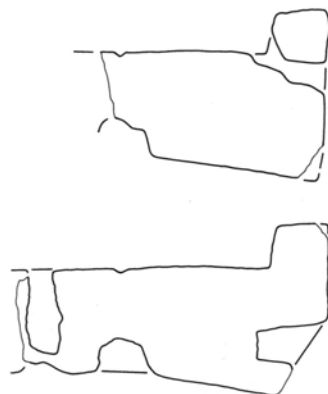
D区2面1号柱列、167号土坑

D区2面1号柱列、167号土坑

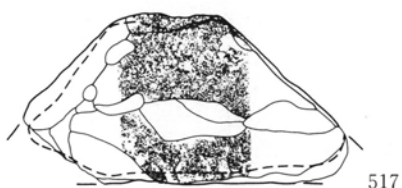
1. 暗灰色土。黄色砂質土を多量含む。
2. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 暗灰褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
4. 暗灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
5. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を微量含む。
6. 黒色土。やや粘質。灰色粘質土粒を少量含む。
7. 黒褐色土。灰色・褐色砂流をやや多量含む。



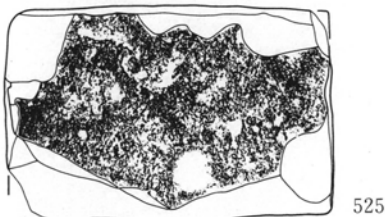
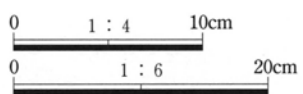
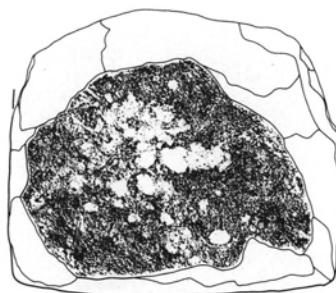
518



524



517



525

D区2面掘立柱建物出土遺物

D区2面掘立柱建物遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴	残存状態 備考
517	石製品 五輪塔 火輪	1掘立P1 埋没土	最大長 21.5 最大幅 25.3 高さ 12.2 重量 6034 馬見岡凝灰岩	器表は剥離し、風化している。摩滅が顕著で、成形面と欠損面の差が不明瞭。上面は欠損がなければ、柄孔でなく、面全体が窪む。側面屈曲部は直線状。	一部欠。 礎石転用。
518	石製品 鉢	1又は2掘 立埋没土	口径 22.5 最大径 25.5 底径 16.2 上縁幅 2.7 内面底径 9.8 重量 6840 粗粒輝石安山岩	器表は凹凸の目立つ粗い仕上げ。外面体部は緩く湾曲しながら直に、内面体部は外反して立ち上がる。内面に使用による摩滅は認められない。	5/8残。 礎石転用。
524	石製品 粉ひき白 上白	1掘立P13 埋没土	上面径 約31 高さ 14.4 上縁 幅 3.6 同高さ 3.4 含み 1.9 芯穴径 4.4 供給口径 3.7 挽手 穴 約3.5四方 同深さ 5.5 重量 9380 粗粒輝石安山岩	器表は磨いた丁寧な仕上げ。底面は使用により摩滅し目は観察できないが、ものくぼりが浅い溝状に残る。側面挽手穴の左右上方から上面に孔が2ヶ所貫通する。平面形は挽き手穴方向に湾曲し、内面がやや摩滅するが用途不明。上面中央に浅い窪みをもつ。	3/8残。 礎石転用。
525	石製品 ?	1掘立P20 埋没土	長さ 21.1 幅 25.7 高さ 17.0 重量 10481 馬見岡凝灰岩	欠損が激しいが、直方体状の製品か。破損後被熱し煤が付着。	一部欠。 礎石転用。

## 2. 溝

全部で16条の溝を検出した。調査区の東半に分布が集中し、東西または南北に走向を揃える傾向がある。微高地上に立地し、走向が揃い、同一調査区内で礎石建ちの建物が検出されていることから、殆どが何らかの区画溝と考えられる。しかし、方形を意識したものはD区10・13号溝と南辺が短いC区1号溝のみであり、A区1・2号溝のように単独で屋敷の外周と想定できるものはない。遺物は古代から近現代までのうち、特に18世紀代に集中し、一部中世が目立つ。埋没土の堆積状況や遺物の出土状況に不明なものが多く、明確な遺構の時期は判然としないが、区画溝と考えられることや出土遺物の様相から中世～近世のものであろう。

### C区2面1号溝(遺構P.111 遺物P.117 PL.32・63)

**位置** 800～815-720・725 **重複** 1号溝→C区13号土坑、D区10号溝→1号溝、C区7・9号土坑、D区224号土坑 **形状・規模** 長さ 約22m 幅 0.42～1.42m 深さ 0.30m。北から南南東にのびた後、802-722付近で西へ走向を変え、13号土坑以西で2条に分岐する。底面は平坦である。 **遺物** 瀬戸・美濃陶器天目碗、志戸呂陶器灯明受皿が出土した。 **所見** 方形を意識した区画溝と思われる。西端の2条は新旧関係が不明だが、掘り直しによるものであろう。延長上にD区19号溝が位置し、関係が推測される。

### D区2面6号溝(遺構P.113遺物P.116・117 PL.32・63)

**位置** 810・815-735～750 **重複** D区5号溝・77号土坑、D区67号土坑→6号溝→D区72・75号土坑 **形状・規模** 長さ 15.7m 幅 0.31～1.17m 深さ 0.23m。ほぼ東西にのび、740ライン付近で東南東に走向を変える。 **遺物** 肥前磁器碗、瀬戸・美濃陶器香炉、D区5号溝・76号土坑と接合する軟質陶器すり鉢、板碑、杭のほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器碗、在地系焙烙などが出土した。 **所見** 区画溝と思われる。同じく区画溝と思われ、北に併行する7号溝は位置が近く、時期が異なると考えられる。東端で走向を変えるのはD区78号土坑をさけるためと考えられ、D区78号土坑→6号溝が想定できる。5号溝との重複部分より東において5号溝をトレースするかは確認できていない。

### D区8・9号溝(遺構P.113遺物P.117 PL.32・63)

**位置** 805～810-725～745 **重複** なし。 **形状・規模** 長さ 約20.0m 幅 0.42～1.39m 深さ 0.45mで、ほぼ東西にのびる。810ライン付近で2条に分岐する。 **埋没土** 分岐した2条において、北側は褐灰色土、南側は黒褐色土主体とし、様相を異にする。 **遺物** 幕末以降の植木鉢が出土した。 **所見** 区画溝と思われる。Aライン以外の埋没土の状況がつかめていないため、東端付近で2条となる理由は不明である。

**D区2面10号溝(遺構P.113遺物P.116 PL.32・33・63)**

**位置** 795～805-705～760 **重複** 10号溝→C区1号溝・C区14号土坑・D区122・124・205・213号土坑、D区116・206・226号土坑→10号溝、13・17号溝 **形状・規模** 長さ約56m 幅 0.53～1.65m 深さ 0.40m。西から東へのび、735ライン付近でやや北寄りに走向を変え、717ラインでクランクする。**遺物** D区78号土坑と接合する肥前陶器碗、C区15号土坑と接合する瀬戸・美濃腰鍔碗、石鉢、粉ひき臼、板碑のほか、図示していないが、軟質陶器すり鉢・内耳鍋、土器火鉢などが出土した。**所見** 直交するD区13号溝を伴う区画溝と思われる。同じく区画溝と思われるC区1号溝とは新旧があり、地割りに変遷があったことが窺われる。東の延長上にA区2号溝が位置するが、規模が異なることから同一の溝である可能性は低い。重複するD区17

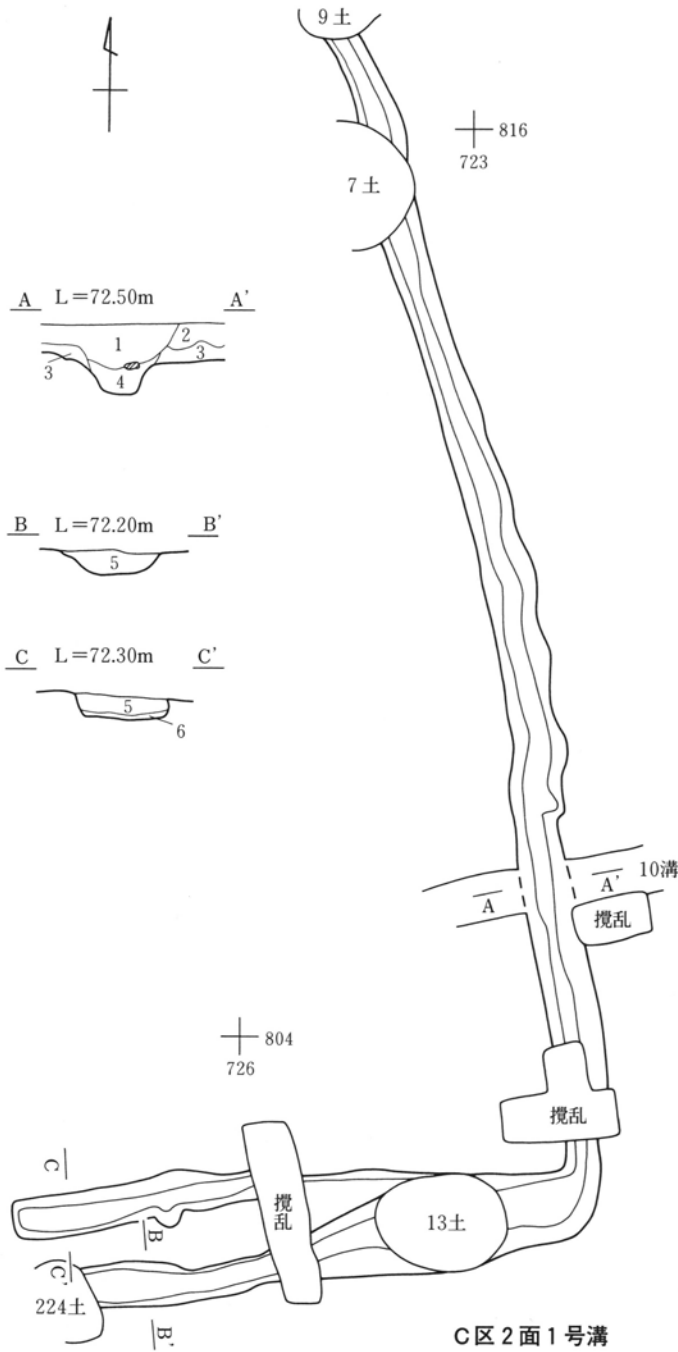
号溝は直交しないため、時期が異なると考えられる。

**D区2面20号溝(遺構P.115遺物P.117 PL.33・63)**

**位置** 790・795-725～745 **重複** 20号溝→D区2面1号柱列・D区221・243号土坑、D区220号土坑→20号溝、D区18号溝、D区180・244号土坑 **形状・規模** 長さ 約22m 幅 0.98～2.29m 深さ 0.25m。ほぼ東西にのびる。平坦な底面をもち、C・D区の他の溝に比して幅が広い。**遺物** 肥前磁器碗・皿のほか、図示していないがD区183号土坑と接合する板碑が出土した。**所見** 直交するD区18号溝を伴う区画溝と思われる。南側下端付近にピット状の落ち込みが2ヶ所あるが、本遺構に伴うものか不明である。同じく区画溝と思われるC区1号溝とD区19号溝とは位置が近く、時期が異なると考えられる。

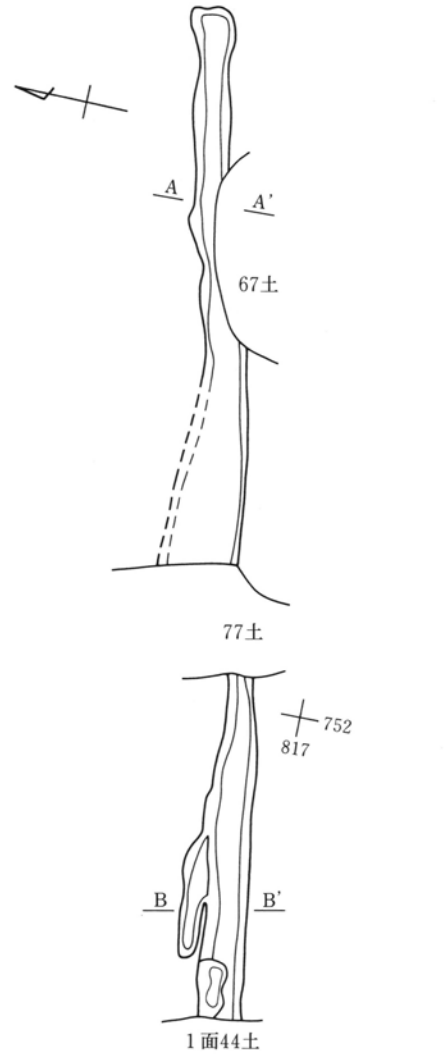
C・D区2面溝一覧表

番号	位置	規模(m)	重複	遺構図	遺物図	PL.No	備考
C区1	800～815-720・725	約22×0.42～1.42×0.30	本文参照	P111	P117	32・63	
D区5	810・815-735～755	約23.6×0.38～1.11×0.28	5溝→6溝・72・75土 76土→5溝、103土	P113		32	陶器碗・すり鉢などが出土
D区6	810・815-735～750	約15.7×0.31～1.17×0.23	本文参照	P113	P116・117	32・63	
D区7	815・820-740～755	13.33×0.30～0.95×0.20	7溝→44・67・77土	P111			Bライン付近で2条となる、44土重複部分でピット状の落ち込みあり、出土遺物は不明
D区8・9	805・810-725～745	約20.0×0.42～1.39×0.45	本文参照	P113	P117	32・63	
D区10	795～805-705～760	約56×0.53～1.65×0.40	本文参照	P113	P116	32・33・63	
D区13	780～800-755・760	約15.9×0.46～0.94×0.19	10溝	P113			遺物は出土しなかった
D区17	795～810-750～760	約13.5×0.7～1.52×0.09	272土→17溝→271土、10溝、113土	P112			遺物は出土しなかった
D区18	785～795-730	約11.2×0.80～1.43×0.78	18溝→149・164・165・167・198・204・241・245土、1掘・20溝	P112		33	出土遺物は不明
D区19	795-735-740	約4.9×0.54～0.75×0.24	19溝→1井戸・241土、180土	P115			出土遺物は不明
D区20	790・795-725～745	約22×0.98～2.29×0.25	本文参照	P115	P117	33・63	
D区23	780-785	5.40×0.42～0.64×0.10	24溝	P112			遺物は出土しなかった
D区24	785・790-780	2.66×0.96×0.27	23溝	P112			遺物は出土しなかった
D区27	825・830-775・780	約7.0×0.26～1.66×0.12	27溝→358・366土	P112			出土遺物は不明
D区28	810・815-765	5.40×0.32～0.48×0.18	なし	P115			河床礫が多数出土
D区29	805～815-765	7.74×0.28～0.68×0.18	29溝→396-2土	P115			813ラインにピット状の落ち込みあり、出土遺物は不明



C区 2面 1号溝

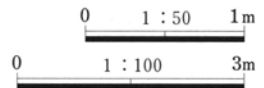
1. 暗褐色土。黒褐色土粒を多量、径2 cm程の礫・パミスを微量含む。攪乱。
2. 鈍い黄褐色土。径2 cm程の礫を多量含む。
3. 暗褐色土。しまりが強い。径1 cm程の礫・パミスを微量含む。2・3層はD区10号溝の埋没土。
4. 暗褐色土。3層より黒味が強い。しまりが強い。径1 cm程の礫・パミスを微量含む。1号溝埋没土。
5. 褐灰色土。褐色・黄色砂粒を少量含む。
6. 黄色土。砂質。褐灰色土粒を少量含む。

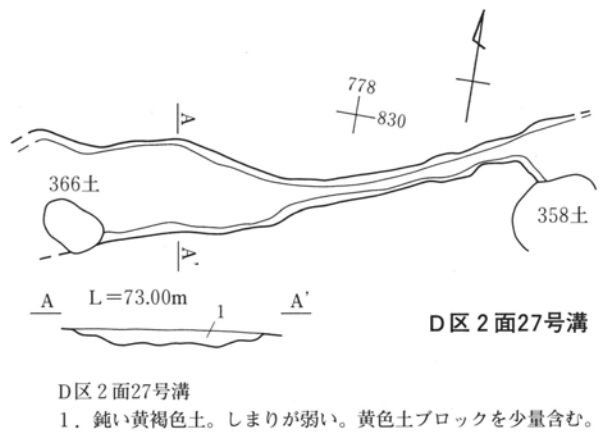
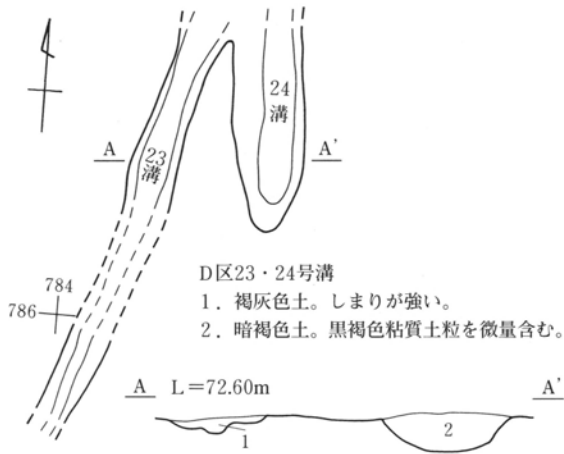
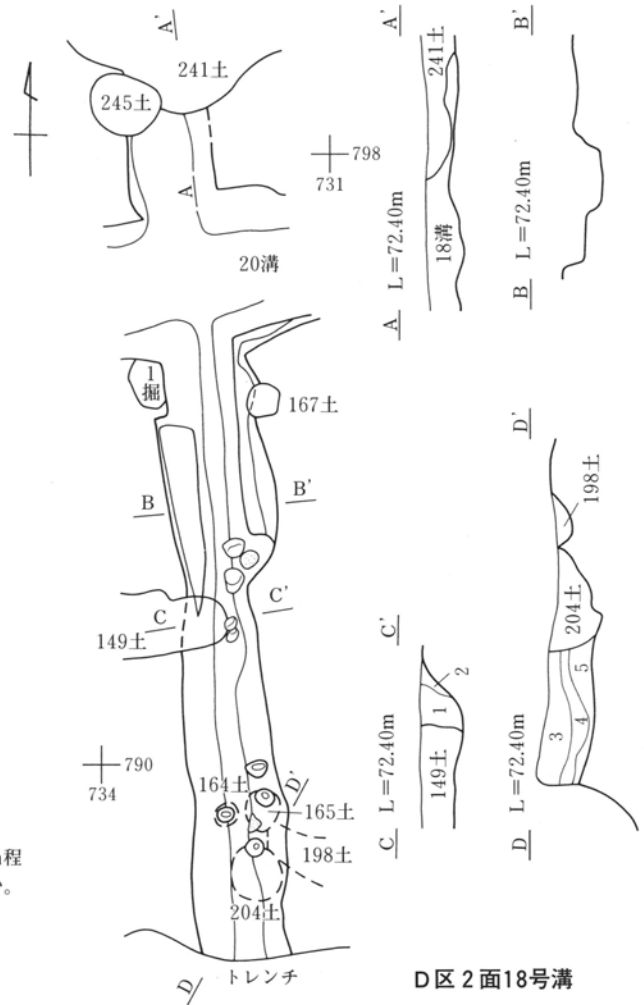
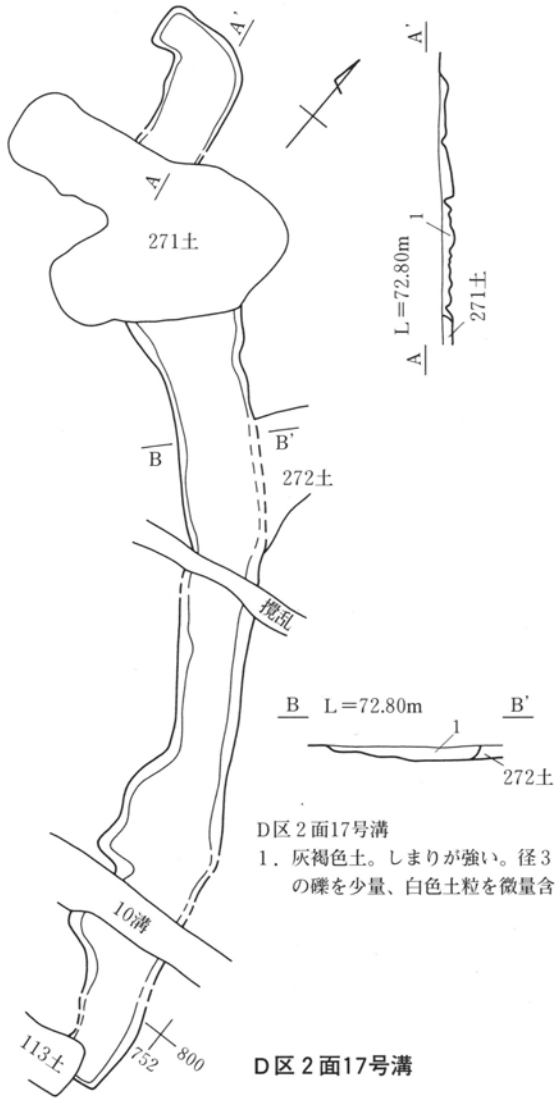


D区 2面 7号溝

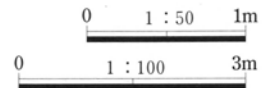
D区 2面 7号溝

1. 暗褐色土。鉄分凝集粒を多量、径5 cm以下の礫・黄褐色土ブロックを少量含む。



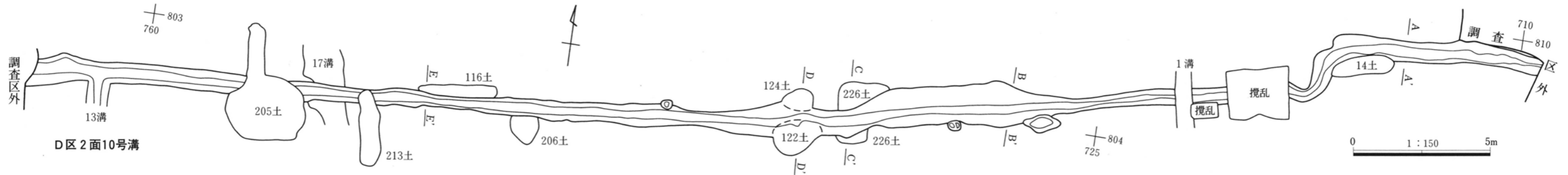


D区2面23・24号溝



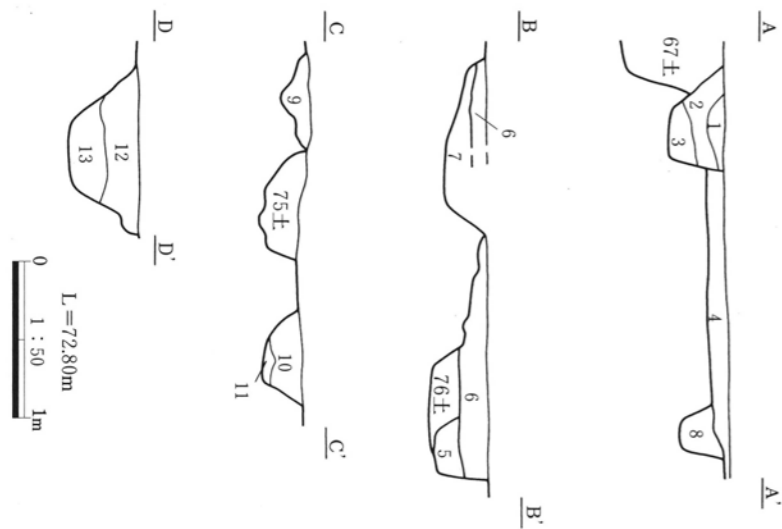
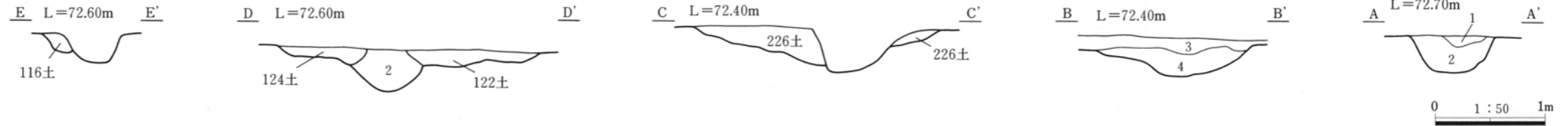


上増田島遺跡C・D区第2面

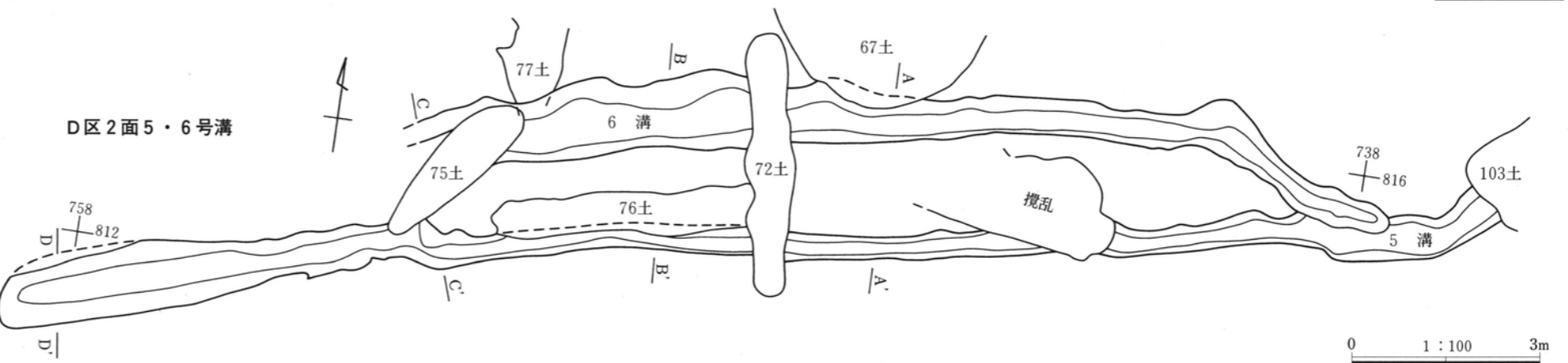


D区2面10号溝

1. 暗灰黄色土。鉄分凝集粒を少量含む。
2. 黒褐色土。粘質土ブロック・砂礫等混入物を多く含む。
3. 褐灰色砂。溝埋没土の上層。
4. 褐灰色土。褐色砂粒をやや多量含む。

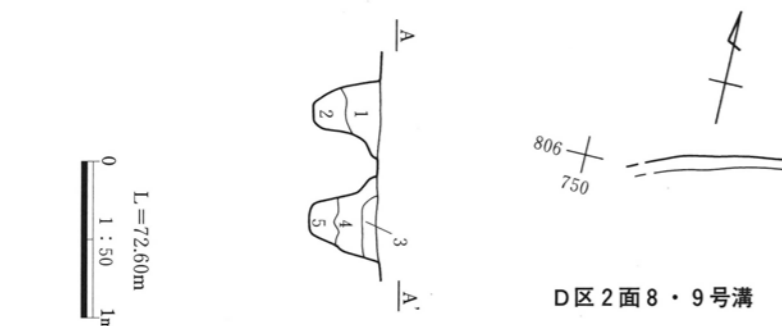


D区2面5・6号溝



D区2面5・6号溝

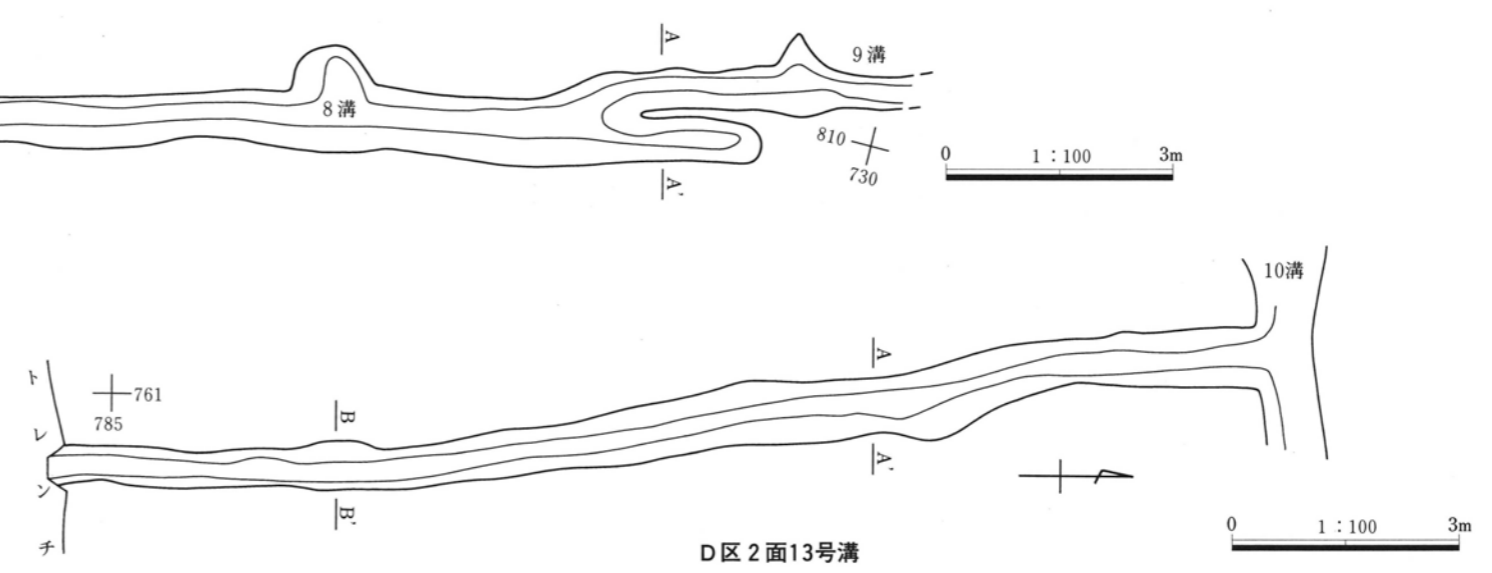
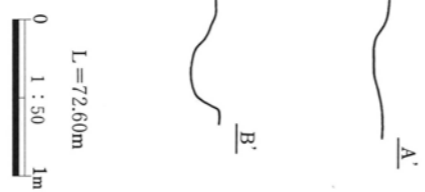
1. 暗黄褐色土。砂粒を多量含む。
2. 暗褐色土。径5cm以下の礫を少量含む。
3. 鈍い黄褐色土。鉄分凝集粒をやや多量含む。
4. 暗褐色土。径1cm程の礫・砂粒を少量含む。攪乱。
5. 暗褐色土。シルト質。砂粒を少量含む。5号溝埋没土。
6. 黒褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。攪乱か。
7. 暗褐色土。黄色・灰色砂粒をやや多量含む。6号溝埋没土。
8. 褐灰色土。鉄分凝集粒を少量含む。
9. 暗褐色土。径1cm程の礫を少量、黄褐色砂質土粒を微量含む。
10. 暗褐色土。砂質。黄色砂質土粒を少量含む。
11. 褐灰色土。砂質。褐色砂粒を少量含む。
12. 暗褐色土。径1cm程の礫をやや多量、炭粒を微量含む。
13. 灰褐色土。しまりが弱い。径2cm程の礫を微量含む。



D区2面8・9号溝

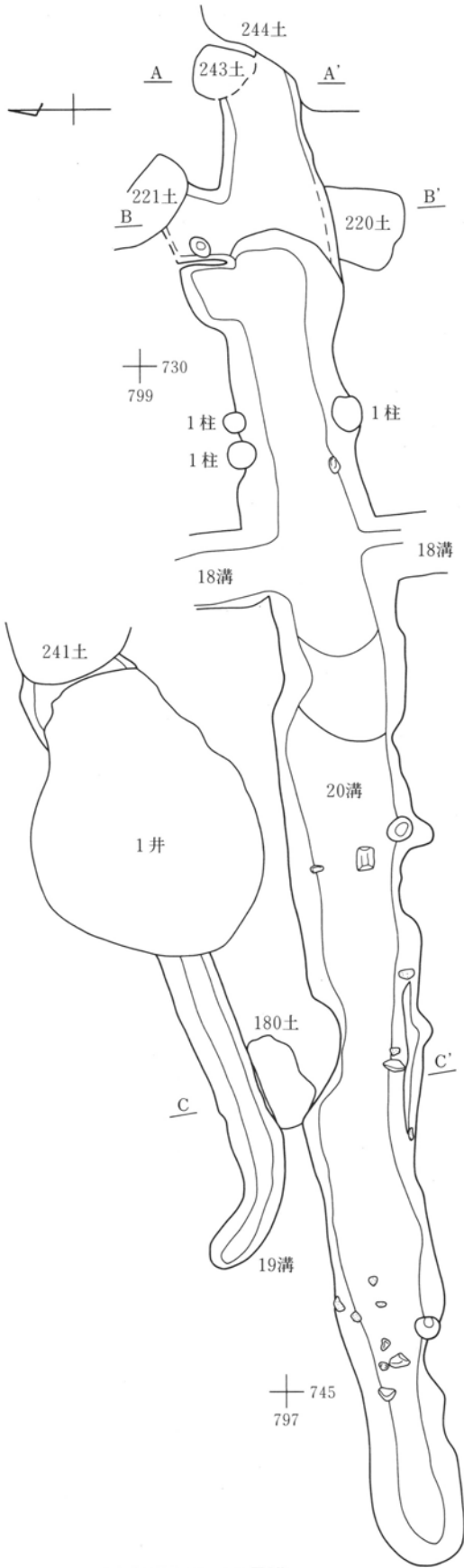
D区2面8・9号溝

1. 褐灰色土。しまりが強い。褐色・黄色砂粒を少量含む。
2. 褐灰色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 黒褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
5. 黒褐色土。しまりが弱い。黄色砂質土粒・灰色砂粒を少量含む。

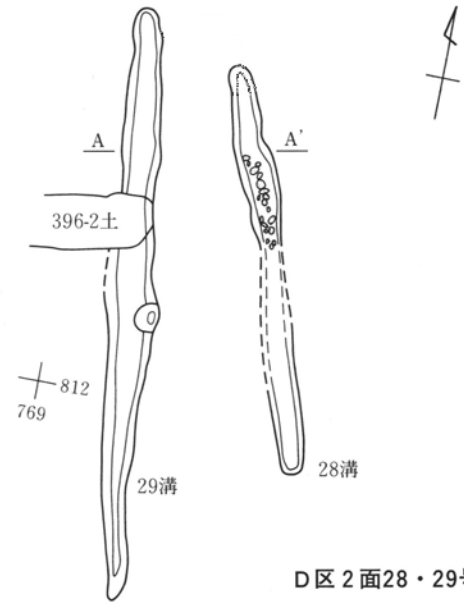


D区2面13号溝

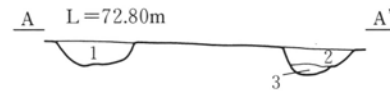




D区2面19・20号溝

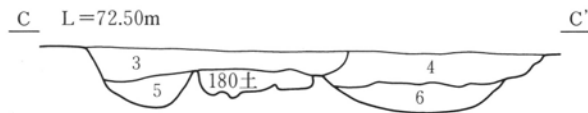
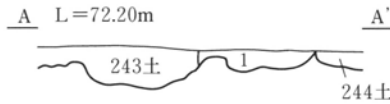


D区2面28・29号溝



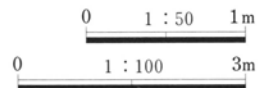
D区2面28・29号溝

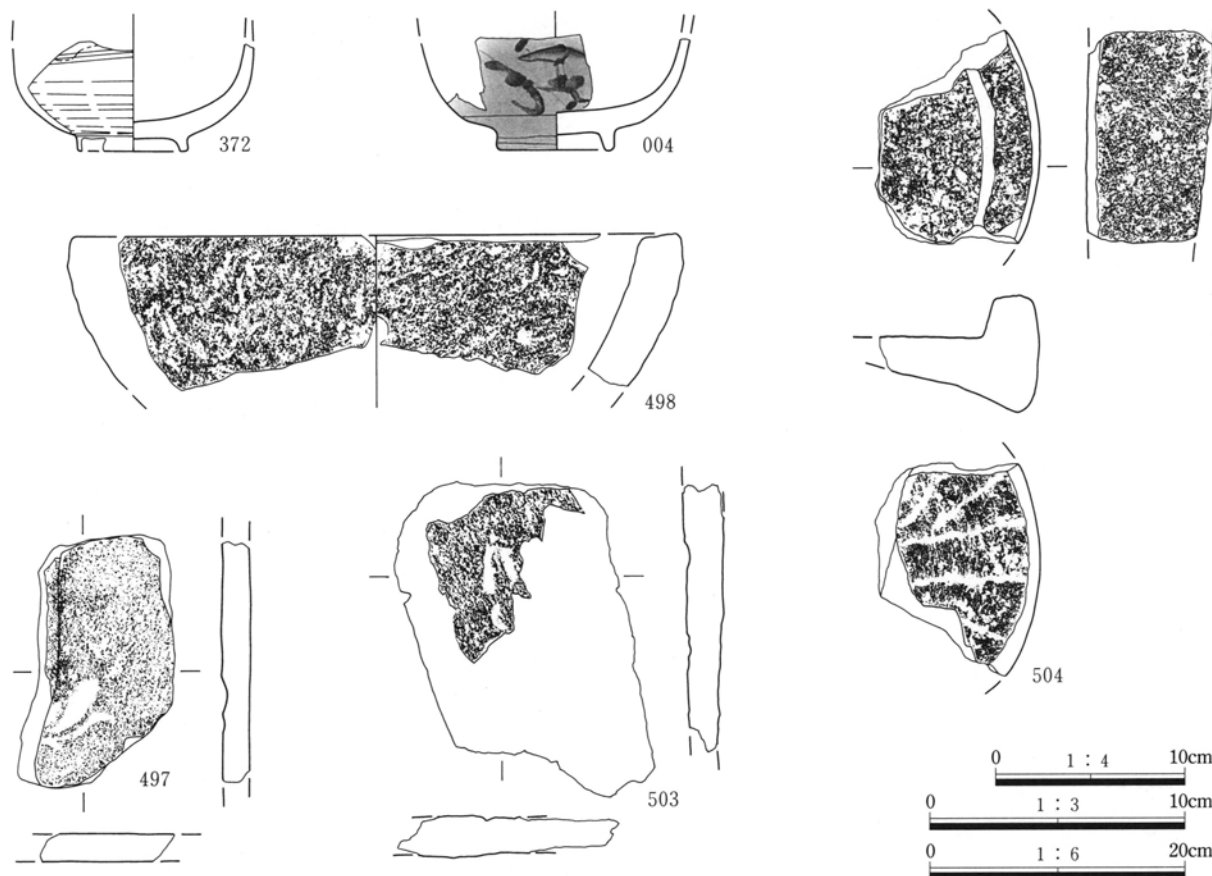
1. 褐灰色土。白色土粒をやや多量、黄色土ブロックを少量含む。
2. 褐灰色土。白色土粒をやや多量、黄色土ブロックを少量、炭粒を微量含む。
3. 褐灰色土。砂質。白色土粒を微量含む。



D区2面19・20号溝

1. 暗褐色砂。
2. 褐灰色土。褐色・灰色砂粒を均一に少量含む。
3. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。攪乱。
4. 灰褐色土。しまりが強い。攪乱。
5. 灰褐色土。白色土粒を少量、径3cm程の礫を微量含む。19号溝埋没土。
6. 黒褐色土。白色土粒を少量含む。しまりがやや弱い。20号溝埋没土。





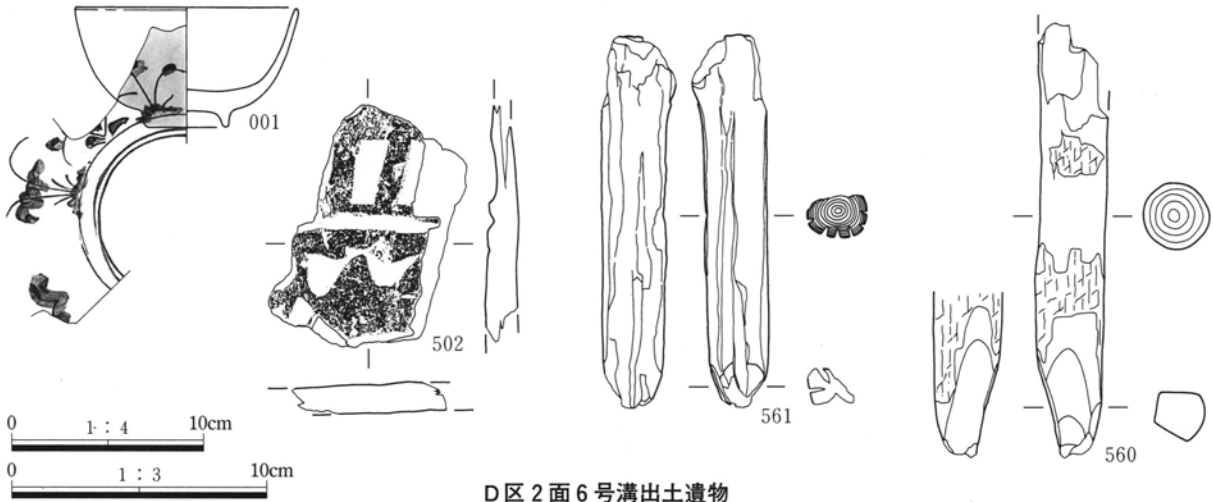
D区2面10号溝出土遺物

D区2面10号溝遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
004	陶器 碗	埋没土・D 区78土埋没 土	口径 — 底径 4.3 器高 4.5+	肥前。外面東屋山水文。	体部下位以下残。
372	陶器 腰鎗碗	埋没土・C 区15土埋没 土	口径 — 底径 4.3 器高 4.2+	瀬戸・美濃。口縁部外面下位に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹線 まで鉄釉を、内面から凹線まで灰釉を施す。	高台端部を一部欠 いて体部下位以下 残。
498	石製品 鉢	埋没土	口径(31.2) 器高 8.0+ 重量 357.6 粗粒輝石安山岩	体部内外面は斜め方向の平行な調整痕が残る。口縁 部上面は平滑。体部内面は使用によりやや平滑化。	口縁～体部上半 1/6残。
497	石製品 板碑	埋没土	長さ 13.4+ 幅 8.2+ 厚さ 1.4 重量 293.8 緑色片岩	主尊は欠損し、蓮座の一部とその上位に「サ」(勢至菩 薩)が残る。阿弥陀三尊種子。浅い薬研彫りを残す。	破片。 14世紀中頃か。
503	石製品 板碑	埋没土	長さ 17.9 幅 11.3 厚さ 2.0 重量 606.4 緑色片岩	紀年銘の一部「月日」の文字が残る。	碑面中央部破片。
504	石製品 粉ひき白 上白	埋没土	上面径 約33 高さ 9.2 上縁 幅 2.8 同高さ 3.1 含み 3.3 重量 1586.6 粗粒輝石安山岩	器表はやや粗い仕上げ。底面は使用により摩滅する ものの6分割のすり目が残る。やや片減りする。	1/6残。



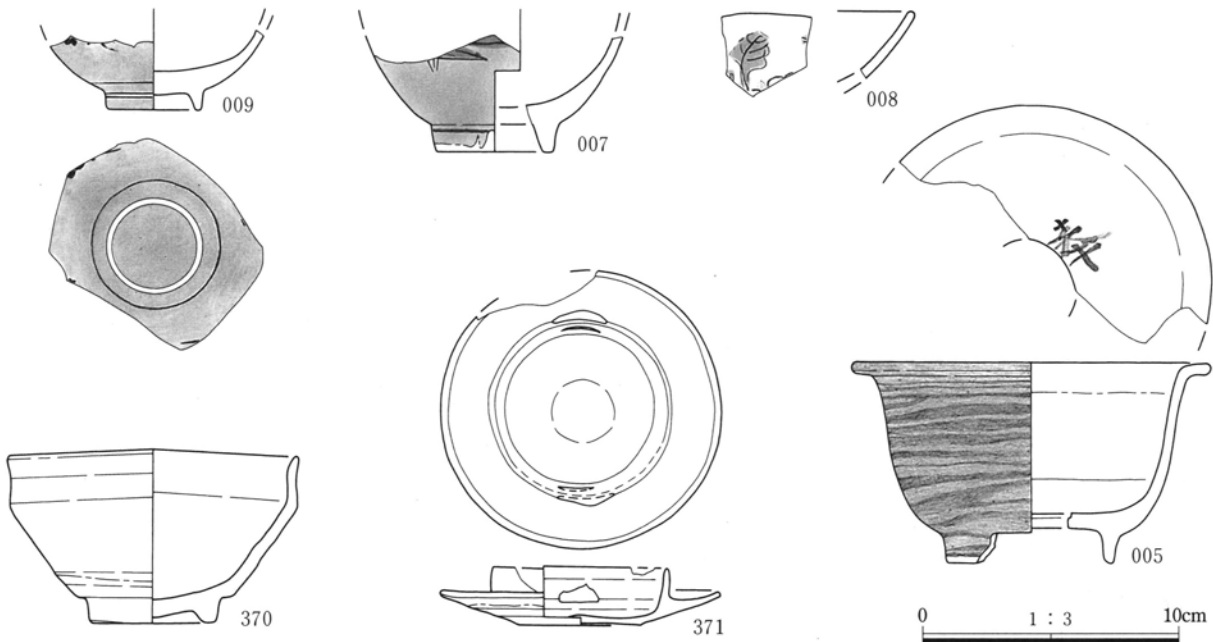
D区2面6号溝出土遺物



D区2面6号溝出土遺物

D区2面6号溝遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
001	磁器 碗	埋没土	口径 (8.7) 底径 3.2 器高 4.7	肥前。外面に花卉文を施す。	口縁～体部上半 1/2欠。
002	陶器 香炉	埋没土	口径 (12.4) 底径 — 器高 5.2+	瀬戸・美濃。口縁部内面から体部外面下端に飴釉を施す。外面に螺旋状凹線を巡らす。口縁端部内傾する。	底部を欠いて1/4残。
003	軟質陶器 すり鉢	埋没土・D 区5溝・76 土埋没土	口径 — 底径 — 器高 6.6+	内面が使用により摩滅。	体部下位破片。
502	石製品 板碑	埋没土	長さ 12.7 幅 9.1 厚さ 1.8 重量 231.8 緑色片岩	大型板碑の主尊蓮座の蓮実部。深くしっかりした薬研彫り。周囲は種子の一部と思われるが不明。	破片。 14世紀初頭頃か。
560	木製品 杭?	埋没土	長さ 22.9+ 径 約3.8 樹種 マツ属複雑管束亜属	直な幹を利用し、一部に樹皮が残る。一端を刃物で四角錐状に仕上げる。	一端欠。
561	木製品 杭?	埋没土	長さ 19.6 径 2.5~3.6 樹種 ヤシバシ亜属	節のある幹を利用。腐食による欠損面以外は全て樹皮が残る。一端に長軸垂直方向の平坦な切断面が一部に残る。もう一端は刃物で四角錐状に仕上げる。	径の1/3欠。

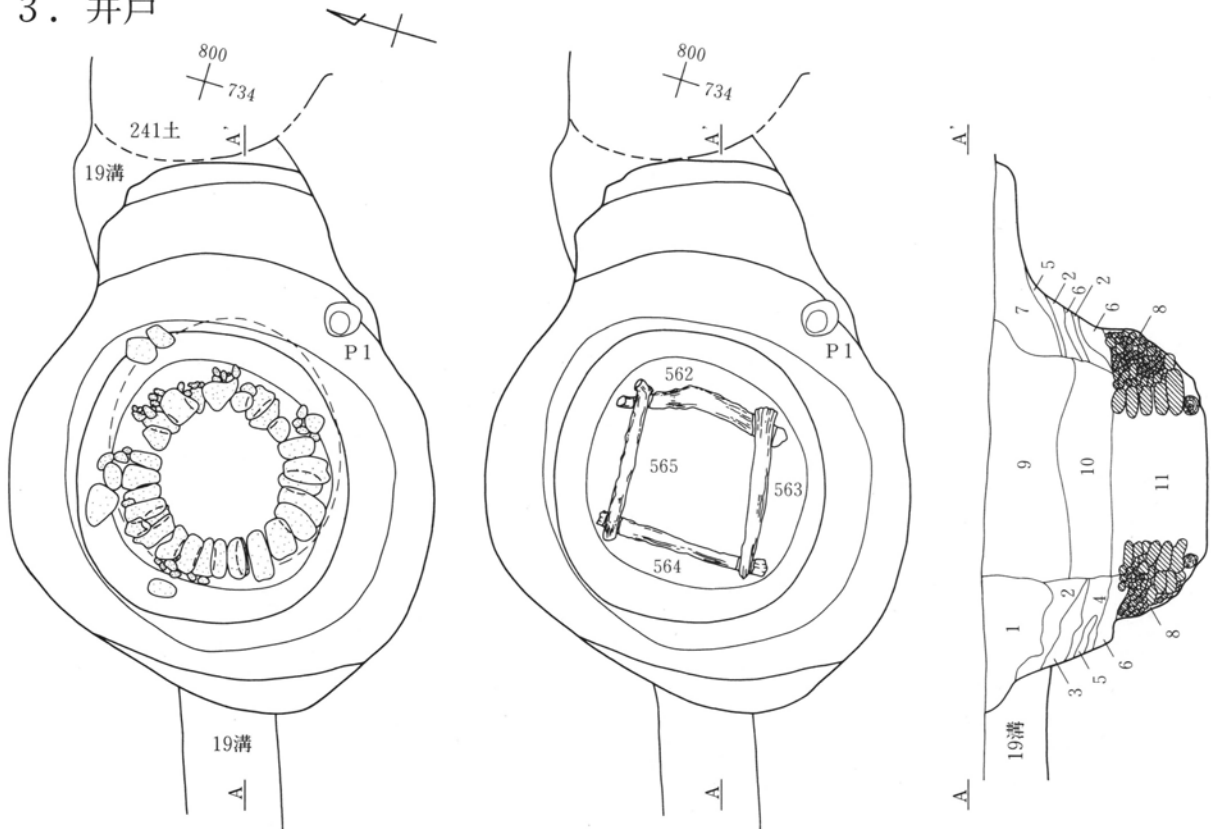


C・D区2面溝出土遺物

C・D区2面溝遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
005	陶器 植木鉢	D区9溝埋 没土	口径 (14.1) 底径 6.6 器高 7.9	製作地不詳。器高が低く、水抜き穴の径が大きい。口縁部内面から脚部外面に青釉を施す。胎土は妬器質に焼き締まる。見込みに「奉」の墨書。	3/8残。 幕末～近代か。
007	磁器 碗	D区20溝埋 没土	口径 — 底径 (4.6) 器高 4.6+	肥前。体部はやや内湾し、きつく立ち上がる。外面染め付け。高台端部外面から高台内無釉。	体部下半以下3/8残。 波佐見系。
008	磁器 赤絵皿	D区20溝埋 没土	口径 — 底径 — 器高 2.7+	肥前。内面に黒で葉の輪郭と葉脈を描き、中を緑で埋める。葉の右下に赤による線描きが認められる。	口縁部破片。
009	磁器 碗	C区1溝埋 没土	口径 — 底径 3.7 器高 3.1+	肥前。一部に染め付けが残るが、文様は不明。	体部下位以下残。 波佐見系。
370	陶器 天目碗	C区1溝埋 没土	口径 (11.4) 底径 5.0 器高 6.9	瀬戸・美濃。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外湾して立ち上がる。釉は全体に薄く、錆色に近い発色。高台内僅かに盛り上がる。	口縁～体部1/2欠。 17世紀か。
371	陶器 灯明受皿	C区1溝埋 没土	口径 10.8 底径 4.8 器高 2.3	志戸呂。受け部は口縁部より高く延びる。アーチ状流入部を2ヶ所に設ける。内面から口縁部外面に鉄泥を施す。	口縁部の一部、受け部1/4欠。 18世紀後半。

### 3. 井戸



D区1号井戸検出状況

D区1号井戸

1. 黒褐色土。灰色砂粒・径15cm前後の礫をやや多量含む。攪乱。
2. 褐灰色土。黄色砂質土粒を少量含む。
3. 褐灰色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
4. 褐灰色土。やや粘質。褐色砂粒を微量含む。
5. 鈍い黄褐色土。褐灰色土粒をやや多量含む。

D区1号井戸掘り方

6. 黄色砂質土。
7. 黒褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
8. 径10cm前後の礫を主とし、暗褐色粘質土粒・褐色砂粒を充填。
9. 褐灰色土。粘質。褐色砂粒を少量含む。
10. 褐灰色土。15cm前後の礫を多量含む。
11. 黒褐色土。径2mm程の礫を少量含む。

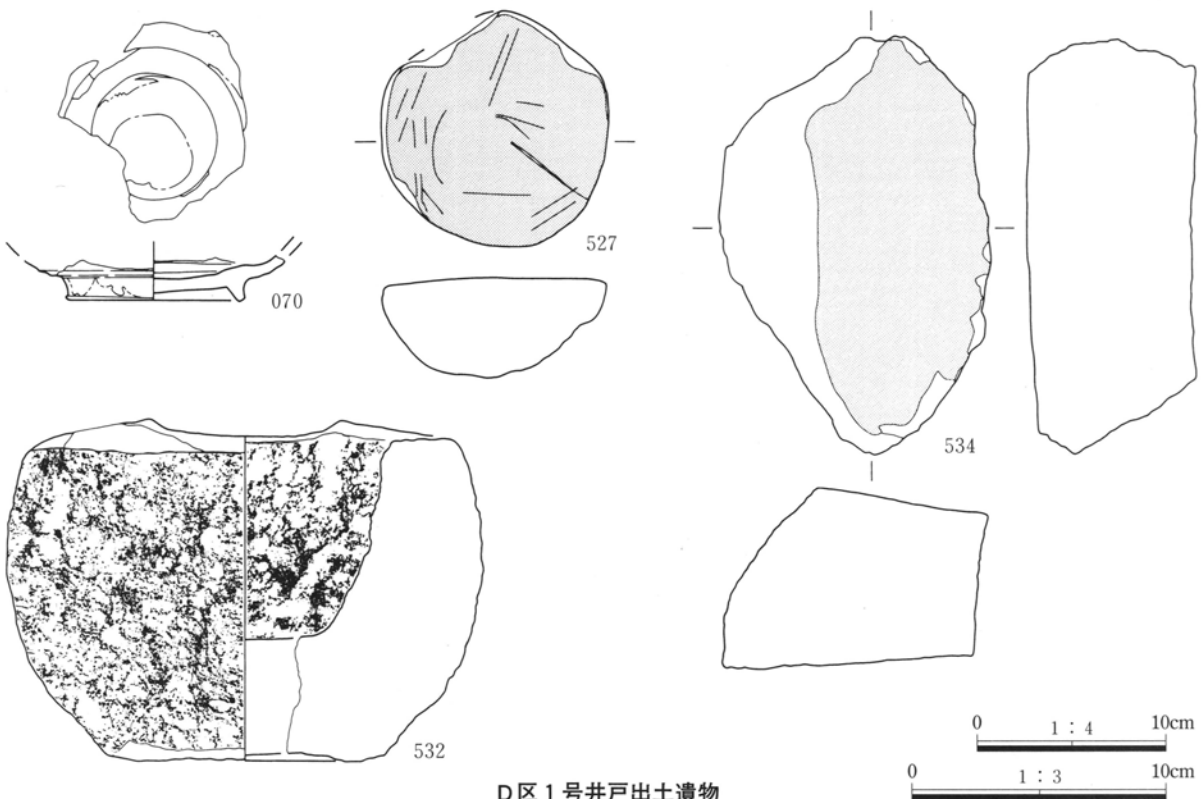
L=72.50m

0 1:60 2m

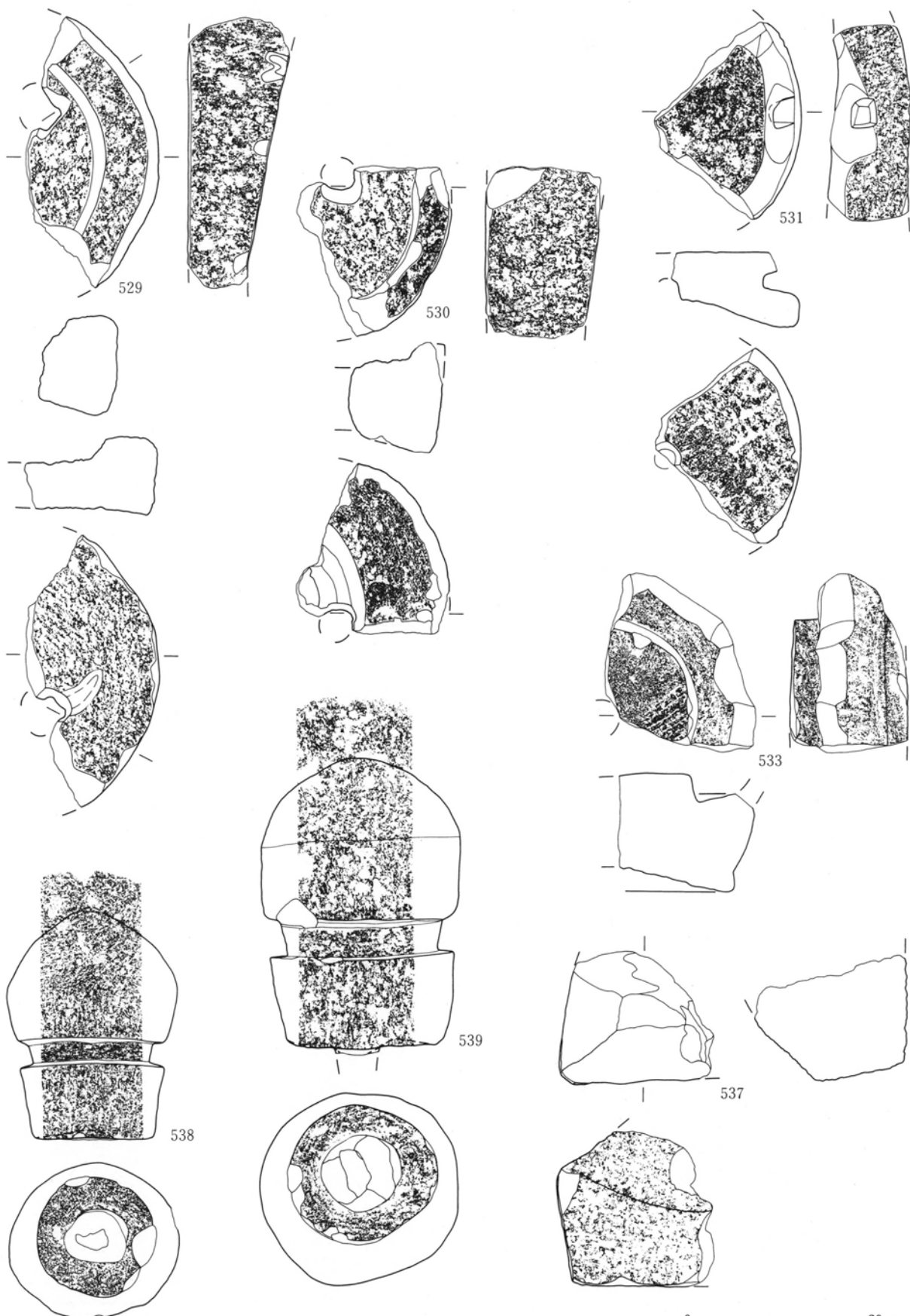
## D区1号井戸(PL.33・34・64・65)

**位置** 795・800—730・735 **重複** 19号溝→1号井戸 **規模** 礫残存部径 約1.6m×深さ0.76m 掘り方4.49×3.35×1.75m **構造** 平坦な底面から掘り方壁面へ移行した位置に、基礎となる木製井桁を方形に組む。この上に径20~30cm程の河床礫を残存部で5~6段小口積みして井筒とする。井桁直上は井桁に合わせて平面方形に積み、隅部の礫のみ平積みにしておよそ45°の角度をもたせる。2段目から隅部の礫を徐々に持ち送り、5段目では平面円形となる。掘り方南東上端付近のP1は、径32×28cm、掘り方上端からの深さ50cm程の規模を有する。埋没土の堆積状況が不明なため、遺構に伴うものか判然としないが、何らかの上屋構造に関係する可能性がある。**掘り方** 上端平面は不整円形で東側に70cmほど張り出す。壁面は底面からやや内湾して立ち上がり、礫の裏込めと土の裏込めの境付近で狭い中段をもつ。中段より上は比較的直に立ち上がる。裏込めは井筒残存部まで径5cm前後の河床礫を主体とし、これより上では土を主体とする。特にセクションの東側で

褐灰色土と黄色砂質土が互層をなす。東張り出し部は黒褐色土で埋め戻し、形状を整える。**埋没土** 人為的に埋め戻されている。中層(10層)に多くの礫を含み、上層(9層)は粘度がある。**遺物** 瀬戸・美濃陶器皿、粉ひき臼、茶臼、15世紀頃の五輪塔・宝篋印塔などのほか、図示していないが陶器碗・すり鉢、用途不明の軽石・粗粒輝石安山岩加工品若しくは加工剥片などが出土した。用途不明加工品と石塔の石材は合致する。陶磁器が少なく、石製品が多い。**所見** 出土遺物より中世から近世のものと思われるが、遺物に陶磁器が少なく、また出土状況が不明なため詳細な時期が押さえられない。確認面まで裏込めがなされていることから、本来は旧地表まで円筒状の井筒が存在し、上部を壊した後に埋め戻したことは確実である。残存部上端で裏込めの材が変わることから、壊した部分は木材など礫以外の材質を用いていた可能性がある。土による裏込めの内壁面に、礫の抜き取り痕はない。これは井筒上部が礫ではなかったか、内壁部分まで壊されたことが理由として考えられる。



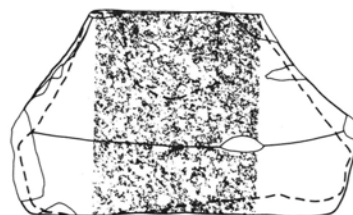
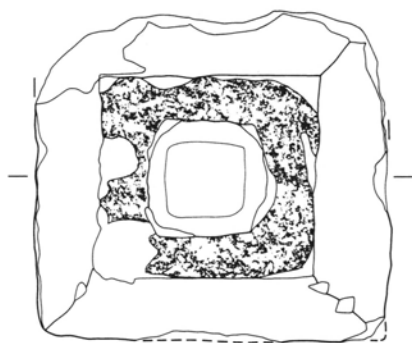
D区1号井戸出土遺物



D区1号井戸出土遺物

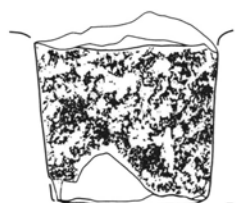
0 1:6 20cm



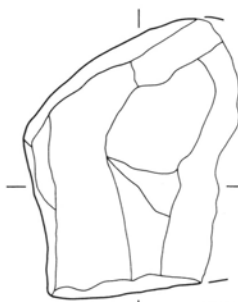
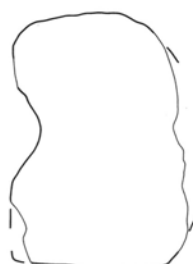
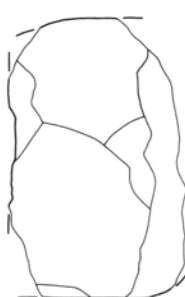


540

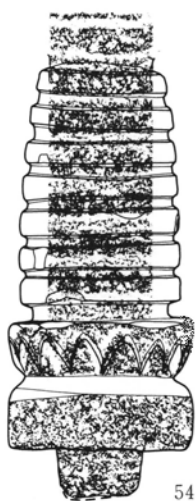
542



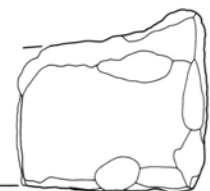
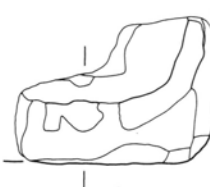
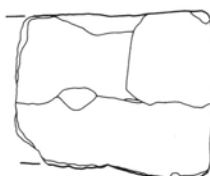
528



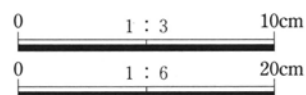
536



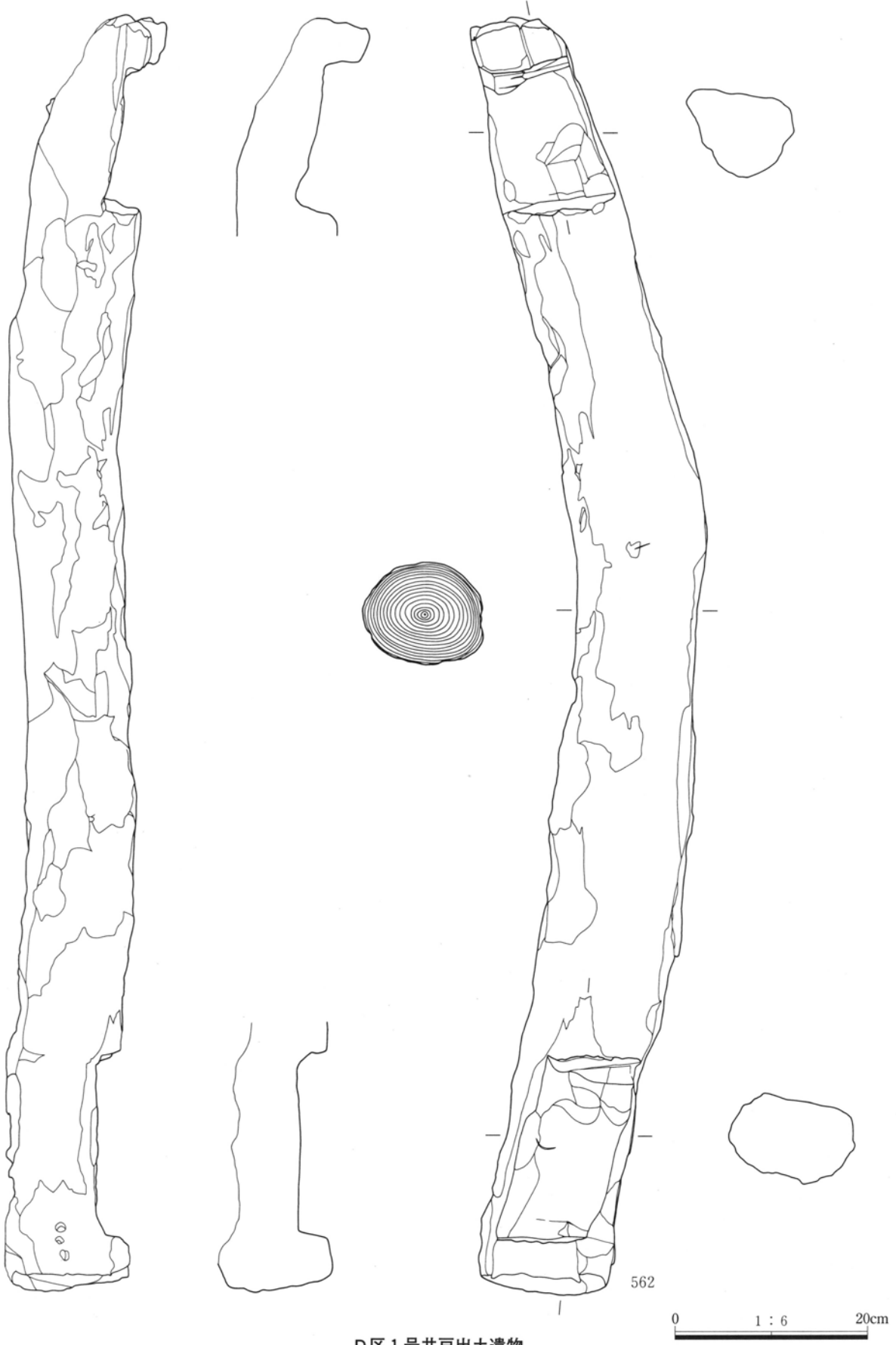
541



535



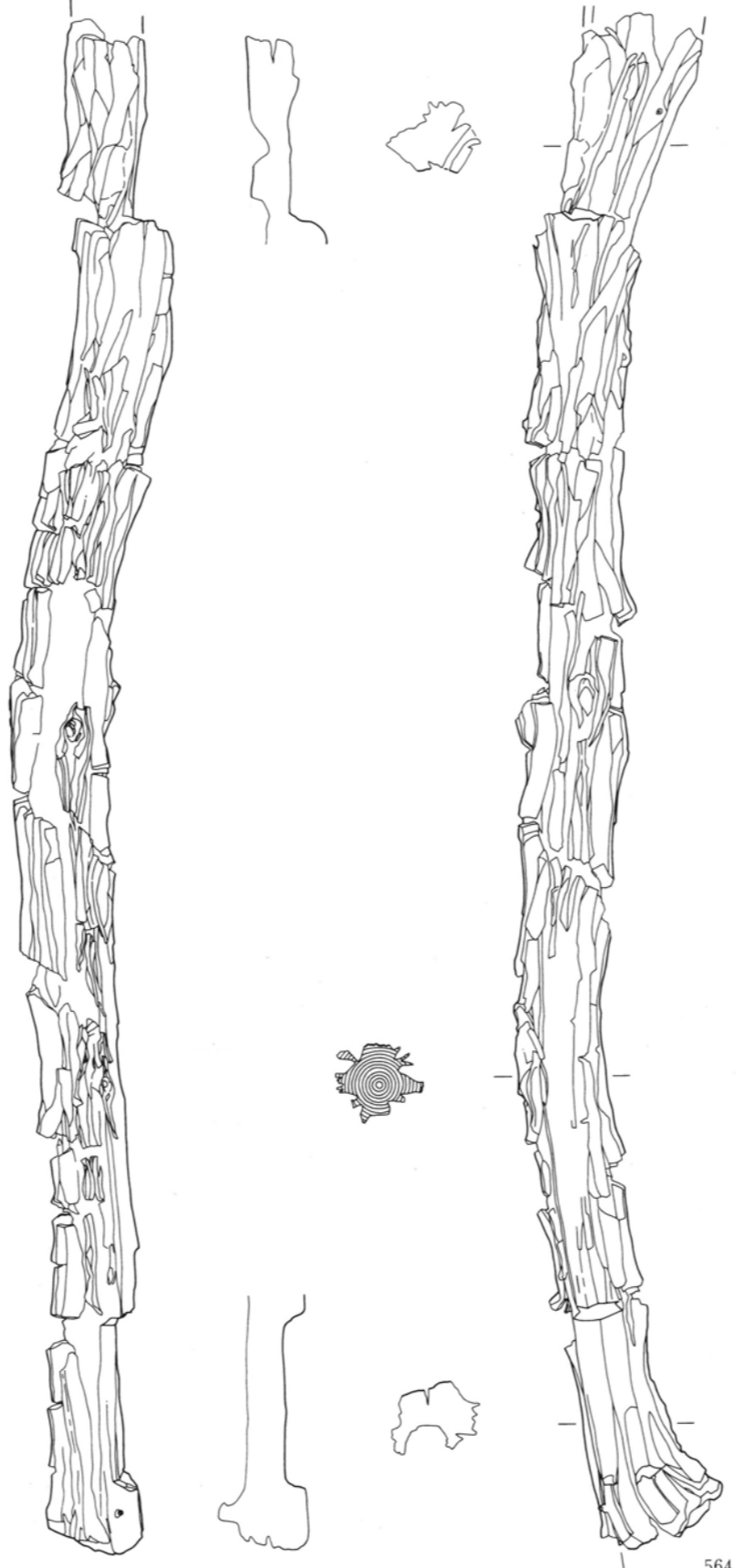
D区1号井戸出土遺物



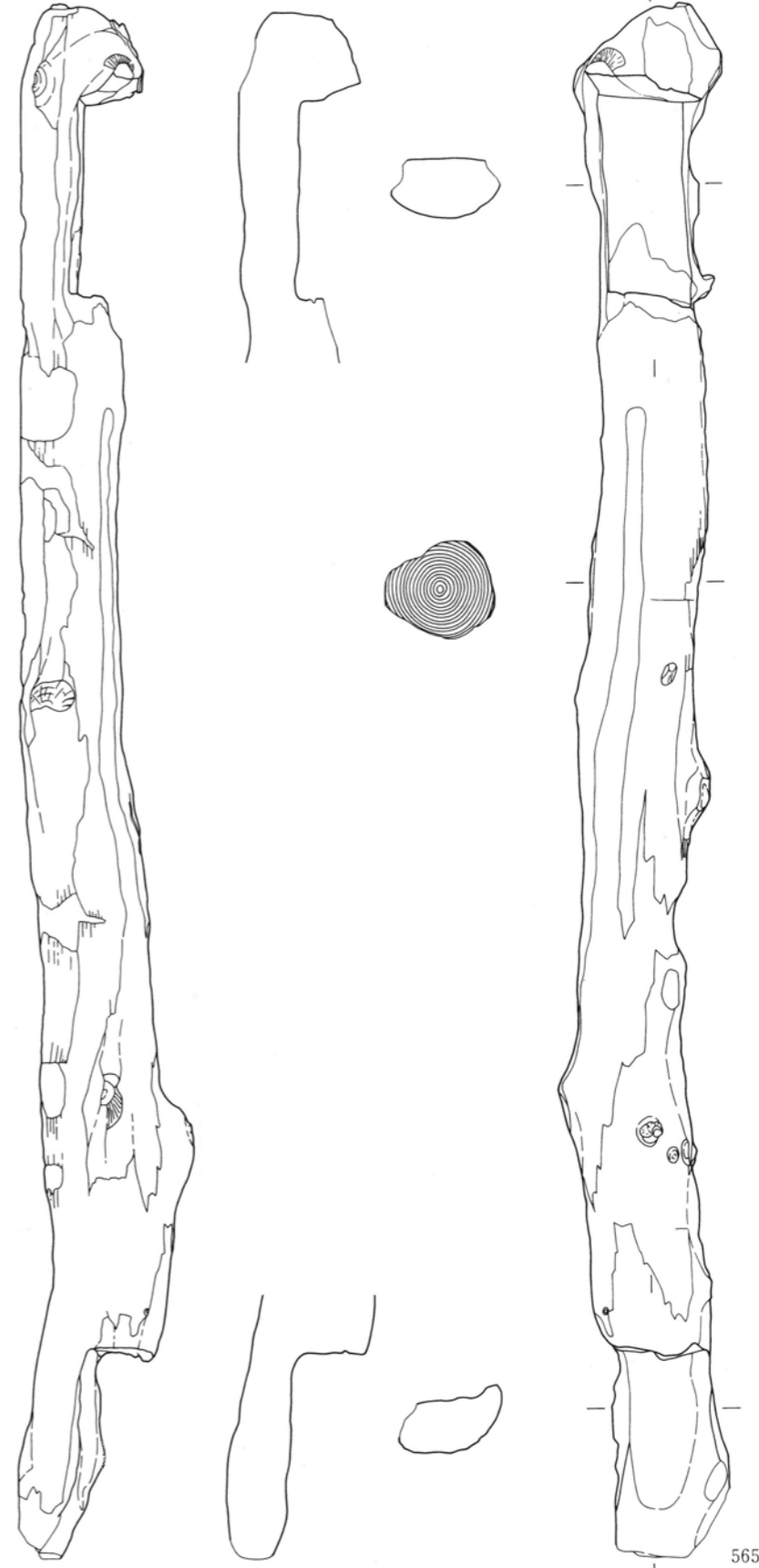
D区1号井戸出土遺物



563

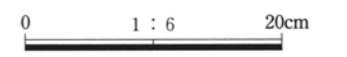


564



565

D区1号井戸出土遺物





D区1号井戸遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
070	陶器 輪禿皿	埋没土	口径 — 底径 7.1 器高 1.9+	瀬戸・美濃。見込み周縁を土手状に高くして軸を掻き取る。内面から高台脇に灰釉を施す。見込みの一部と体部内面の一部に銅緑釉を施す。	体部下位以下3/4残。
527	石製品 磨石	埋没土	長さ 8.9 幅 9.1 厚さ 3.8 重量 133.8 軽石	磨面は極弱く湾曲して中央が膨らみ、細かい擦痕が残る。磨面以外は自然石のまま使用する。	完形。
528	石製品 塔	埋没土	長さ 7.6+ 上端径 7.2 下端径 6.1 重量 282.3 ニッ岳軽石	器表はやや粗く仕上げる。	塔の柄部破片。
529	石製品 粉ひき臼 上白	埋没土	上面径 約34 高さ 5.7~10.4 上縁幅 3.8~4.3 同高さ 2.5 含み 2.7 供給口径 約5 重量 2966 粗粒輝石安山岩	器表は凹凸の目立つ雑な仕上げ。供給口は外方に広がる不正円形で、下面側の径は約4.5cm。下面は使用により摩滅して目は観察できないが、浅い溝状のものくばりが一部に残る。片減りが顕著。	中心を欠いて1/4残。
530	石製品 粉ひき臼 上白	埋没土	上面径 約30 高さ 10.5~11.6 上縁幅 3.1 同高さ 2.3 含み 1.0 供給口径 4.6 重量 2601 粗粒輝石安山岩	器表はやや雑な仕上げで、側面の一部に斜方向に平行する工具痕を残す。底面は使用により平滑化して目は観察できないが、最大深約2cmのものくばりが残る。片減りする。	1/6残。
531	石製品 粉ひき臼 上白	埋没土	上面径 約31 高さ 7.0~8.5 上縁幅 2.8 含み 0.8 芯穴径 3.2 挽手穴幅 3.0 同深さ 2.6 重量 2251 粗粒輝石安山岩	器表はやや丁寧な仕上げ。上面は平滑化し、上縁欠損部もなだらかな曲面となる。下面は使用により摩滅し、一部が平滑化。目は部分的に僅かに残るが分割数は不明。	上縁を欠いて1/4残。
532	石製品 鉢	埋没土	口径 (22.0) 最大径 (25.2) 底径 (14.8) 器高 17.7 重量 3705 粗粒輝石安山岩	器表は雑な仕上げ。外面体部は上位付近で内湾する。内面体部は僅かに内湾して立ち上がり、身は浅い。破損後被熱により赤化。	3/8残。
533	石製品 茶臼 下白	埋没土	上面径 約18 高さ 12.2 底面径 約28 受皿部幅 4.6+ 抉り 2.2 重量 2663 粗粒輝石安山岩	上面への立ち上がり部と受皿部は丁寧に仕上げる。他はやや雑な仕上げで、一部に斜方向の工具痕を残す。上面は使用により平滑化し、一部に浅い筋状の目を残すが分割数は不明。	受皿端部を欠いて1/4残。
534	石製品 砥石	埋没土	長さ 16.2 幅 10.7 高さ 7.0 重量 1787 粗粒輝石安山岩	1面を磨面とし、据え置いて使用。磨面は僅かに湾曲する。	完形。
535	石製品 ?	埋没土	長さ 15.4+ 幅 11.5+ 高さ 14.5 内面高さ 6.0 重量 1868 ニッ岳軽石	外面は平坦で直方体状を呈する。内面はやや外傾して立ち上がる。器表の一部に鑿痕が残る。内面は被熱で煤附着。	破片。 No 543 に似る。
536	石製品	埋没土	長さ 22.1 幅 16.8+ 厚さ 13.7+ 重量 3876 ニッ岳軽石	1面のみ平坦で、他は湾曲した面で構成される。1面に半球状の窪みをもつ。	破片。
537	石製品 ?	埋没土	長さ 14.8+ 幅 15.7+ 高さ 16.3+ 重量 3202 粗粒輝石安山岩	器表はやや丁寧な仕上げで、一部に斜方向に平行する鑿痕が残る。五輪塔火輪に似るが方錘形部以下が高い。	破片。
538	石製品 五輪塔 空風輪	埋没土	長さ 24.0+ 最大径 17.8 底面径 12.2 重量 6382 粗粒輝石安山岩	器表は磨いて丁寧に仕上げるが、一部に細い筋状の工具痕が残る。空輪下半以下は直線的に外傾する。梵字は確認できないが、空輪側面が一部剥離する。	宝珠先端・柄欠。
539	石製品 五輪塔 空風輪	埋没土	長さ 31.1 最大径 20.6 底面径 15.7 柄上端径 8.4 重量 12250 粗粒輝石安山岩	器表は剥離が顕著だが、磨いて丁寧に仕上げる。一部に細い筋状の工具痕を残す。空輪下半以下は直線的に外傾する。空輪下半はやや平坦な面が目立ち、断面不正円形を呈する。同面に梵字の可能性のある線状の凹みが観察できる。空輪先端は凹凸が目立ち、宝珠状の頂部が欠損したか。	柄欠。
540	石製品 五輪塔 火輪	埋没土	上面幅 16.0~17.2 最大幅 27.3 底面幅 20.0~22.2 高さ 17.0 柄孔幅 約9 同深さ 5.7 重量 9190 ニッ岳軽石	器表は丁寧に仕上げるが風化している。最大幅に比して高さと同幅のある器形。柄孔は四角柱状を呈する。	一部欠。
541	石製品 宝篋印塔	埋没土	長さ 34.3 最大径 14.3 軸上端径 6.7 重量 6764 粗粒輝石安山岩	器表は磨いて丁寧に仕上げるが、風化している。	宝珠・請花部、軸下端欠。
542	石製品 五輪塔 火輪	埋没土	上面幅 13.1 最大幅 27.0 底面幅 24.1 高さ 16.0 柄穴径 8.3 同深さ 5.8~6.9 重量 11440 粗粒輝石安山岩	器表は磨いて丁寧に仕上げるが、風化している。下位の外反面は斜方向の工具痕が残る。側面の屈曲部は平面・側面とも四隅に向かって湾曲して開く。	一部欠。
562	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 136.8 幅 15.1 厚さ 12.9 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。鑿と思われる加工痕が残る。	ほぼ完形。
563	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 138.3 幅 13.2 厚さ 10.5 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。乾燥により収縮し、樹皮が捲れる。	ほぼ完形。
564	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 134.7+ 幅 8.1 厚さ 7.8 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。乾燥により収縮し、樹皮が捲れる。	一端欠。
565	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 133.5+ 幅 13.8 厚さ 13.2 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。	一端欠。

## 4. 土坑

全部で266基の土坑を検出した。C区、D区7・8号溝間及び780ライン以西は分布密度が低い。形状は様々であるが、溝状または楕円形状のものは東西または南北に主軸をそろえる傾向がある。遺物の出土状況や埋没土の堆積状況が不明なものが多く、遺構の時期は判然としない。遺物は古代から近現代までのうち、特に18世紀代に集中する。

### C区4号土坑(遺構P.137 PL.35)

**位置** 795・800-710 **重複** なし。 **形状** 溝状の落ち込みが半円に巡る。 **規模** 長さ約3.0m 幅0.45~0.75m 深さ0.18m **埋没土** 暗褐色砂質土を主体とする。 **遺物** 出土しなかった。 **所見** 遺構の半分以上が調査区外にあると思われる。土坑として調査したが、溝状の落ち込みに囲まれた部分には何ら造作が見られず、溝である可能性がある。北側断面の延長上にはA区1号溝が位置し、同一の溝であれば北西コーナー部分と考えることもできるが、規模が異なる。

### C区7号土坑(遺構P.138 遺物P.174 PL.35・36・71)

**位置** 810・815-720・725 **重複** C区1号溝、7号土坑→1面1号柱列2号ピット、確認面レベルでC区8号土坑と接する。 **形状** 平面不整形で、平底から壁面が直に立ち上がる。 **規模** 1.73×1.48×0.56m **埋没土** 上層(1・2層)は暗灰黄色砂質土、下層(4層)は黒褐色砂質土を主体とし、下層上面に河床礫が集中する。 **遺物** 磁器碗などが出土した。 **所見** 河床礫は人為に廃棄されたものである。底面からの出土ではないことから埋没過程で二次的に利用したものと考えられる。隣接する8号土坑と上層の土が異なることから、時期差がある可能性がある。他の遺構の状況と重複する2号ピットから、中世~近世のものであろう。

### C区8号土坑(遺構P.138 遺物P.177 PL.36・73)

**位置** 810・815-725 **重複** 8号土坑→1面1号柱列2号ピット、確認面レベルでC区7号土坑と接する。 **形状** 平面円形で、平底から壁面は直に立ち上がる。底面外縁が深さ5cm程の溝状に落ち込む。 **規模** 1.20×1.08×0.31m **埋没土** 上層は粘度のある暗褐色土、下層は黒褐色砂質土を主体とし、下層上面に河床礫が集中する。 **遺物** 図示していないが磁器皿、肥前陶胎染付碗、在地系焙烙、煙管のほか近現代瓦などが出土した。瀬戸・美濃陶器鉢はD区78号土坑049と接合する。 **所見** 河床礫は人為に廃棄されたものである。底面からの出土ではないことから、埋没過程で二次的に利用したと考えられる。底面外縁の落ち込みは桶等を据えるための造作と思われる。隣接する7号土坑と上層の土が異なることから、時期差がある可能性がある。遺構外の南に並ぶ河床礫の性格は不明であり、本遺構に伴わない可能性もある。他の遺構の状況と重複する2号ピットから、中世~近世のものであろう。

### C区14号土坑(遺構P.138 遺物P.162 PL.36・65)

**位置** 805-710・715 **重複** D区10号溝→14号土坑 **形状** 平面楕円形で、底面から壁面へ湾曲しながら立ち上がる。 **規模** 2.34×0.69×0.33m **埋没土** 河床礫を多量に含む人為堆積。地山由来と思われる黄褐色土と混合しており、礫のみが密集している状況ではない。 **遺物** 肥前陶器碗、瀬戸・美濃陶器皿、粉ひき白などが出土した。 **所見** 堆積土が分層できず、初めから礫を処分するための土坑として掘削されたものであろう。出土遺物も一括廃棄と考えられる。また、遺物の時期が江戸時代に集中し、近現代のものを含まないことから、本遺構も江戸時代のものである可能性が高い。

### D区67号土坑(遺構P.140 遺物P.173・174・176 PL.37・71・72)

**位置** 815-740・745 **重複** 7号溝→67号土坑→

#### 4. 土坑

6号溝 **形状** 平面円形で、平坦な底部から壁が直に立ち上がる。**規模** 径3.51×0.79m **埋没土** 上層(1層)に多量の河床礫を含む。**遺物** 中世常滑陶器甕、在地系土器皿、窪み石のほか、図示していないが須恵器甕などが出土した。**所見** セクションより、自然堆積の2・3層を掘り返して1層の礫を廃棄したと考えられる。

**D区78号土坑(遺構 P.142 遺物 P.163~166 PL.32・38・65~69)**  
**位置** 815-735 **重複** 91号土坑→78号土坑 **形状** 平面円形で平坦な底面から壁が直に立ち上がる。**規模** 径3.12×0.70m **埋没土** 砂質土を主体とする。底面付近の土層堆積が不明で、3層が2層の下位になだらかに堆積する可能性もある。**遺物** 多くの遺物が出土し、D区10号溝、C区8号土坑、D区5号溝、D区1面28号土坑、D区207号土坑と接合する。全体的に18世紀前半から後半が主体である。049は17世紀末頃か。034~036・057は18世紀前半~中頃、021~023は18世紀前半、025は18世紀後半頃と思われる。また、図示していないがD区10号溝と接合する在地系土器鍋が出土した。**所見** 遺物の出土状況が不明であるが、中世以降のものであろう。

#### **D区103号土坑(遺構 P.145 PL.39)**

**位置** 810~820-725~735 **重複** 101・102号土坑→103号土坑 **形状** 平面は不定形で、浅い壁面がなだらかに立ち上がる。底面は僅かに湾曲し、部分的にピット状の落ち込みをもつ。**規模** 8.39×4.36×0.33m **埋没土** 灰褐色土を主体とする。**遺物** 図示していないが101~103号土坑のいずれかから在地系焙烙が出土した。**所見** 底面形状から複数の土坑よりなることが予想されるが、埋没土の堆積状況が不明なために判断できない。

#### **D区112号土坑(遺構 P.144 遺物 P.169 PL.69)**

**位置** 790・795-745 **重複** なし。**形状** 平面円形で平坦な底面をもつ。**規模** 0.61×0.65×0.20m **埋没土** 褐灰色土を主体とし、人為埋没である。**遺**

**物** 177~179号土坑のいずれかと接合する磁器徳利、在地系土器釜輪、硯、砥石のほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器皿、土器鉢などが出土した。**所見** 遺物の出土状況が不明だが、遺物量が多いこと及び土層の堆積状況から、一括廃棄されたものと考えられ、江戸時代の遺構である可能性が高い。

#### **D区122号土坑(遺構 P.146 遺物 P.175・176 PL.39・73)**

**位置** 800-730・735 **重複** 10号溝→122号土坑 **形状** 平面楕円形で平坦な底面をもつ。**規模** (1.70)×(1.30)×0.21m **埋没土** 粘度のある黒褐色土を主体とする。底面付近に河床礫が集中する。**遺物** 河床礫に混じって五輪塔水輪?、石鉢?が出土した。**所見** 礫が底面付近にあり、土層が単層であることから、礫を処分する為に掘削された土坑であらう。礫と共に何らかの有機物が廃棄された結果、上記の埋没土になったと考えられる。

#### **D区135号土坑(遺構 P.147 遺物 P.169・170 PL.39・69・70)**

**位置** 785-740 **重複** 211号土坑→135号土坑、1・2号掘立柱建物 **形状** 隅丸長方形 **規模** 1.24×0.81×0.50m **埋没土** 黒褐色土を主体とする。**遺物** セットになる在地系土器鉢・蓋2組、在地系土器植木鉢、D区287号土坑と接合する肥前磁器皿のほか、図示していないが在地系焙烙・鍋などが出土した。鉢・蓋は、えな壺として使われたと思われる。**所見** セットの鉢・蓋は少なくとも1組が底面直上に据え置かれた状態で出土した。重複する掘立柱建物との関係が考えられる。出土遺物より江戸時代以降のものである可能性が高い。

#### **D区183号土坑(遺構 P.149 遺物 P.171 PL.40・70)**

**位置** 780・785-755 **重複** なし。**形状** 平面楕円形で、湾曲しながら底面から壁面へと続く。**規模** 2.91×1.51×0.52m **埋没土** 暗褐色土を主体とする。**遺物** 瀬戸・美濃陶器皿、中世土器皿、軟質陶器内耳鍋などのほか、図示していないがD区20号溝と接合する板碑、在地系焙烙、土師器高杯が出土し

上増田島遺跡C・D区第2面

た。073・074は17世紀のものである。所見 出土遺物及び他の遺構の状況から中世以降のものであろう。

D区241号土坑(遺構 P.152 遺物 P.172 PL.70・71)

位置 795・800-730 重複 18号溝→245号土坑→241号土坑、19溝→241号土坑 形状 平面は不定形で、底面は比較的平坦だが凹凸が目立つ。東側は攪乱により破壊される。規模 4.90×(2.92)×0.42

m 埋没土 上層(2層)は灰褐色土、下層(3層)は粘度のある暗灰色土を主体とする。遺物 1・2層中間付近から軟質陶器すり鉢、粉ひき臼、茶臼、五輪塔空風輪、多数の河床礫などが出土した。南側下端に沿って河床礫が一行に並ぶような状況が認められるが、意図したものか不明である。所見 遺物の出土位置から、埋没過程で短期間の内に廃棄されたことが考えられる。

C・D区2面土坑一覧表

番号	位置	平面形	規模(m)	重複	遺構図	遺物図	PL.No	備考
C区1	800-715	溝状	2.01×0.43×0.21		P137		35	
C区2	800-715・720	溝状	2.99×0.72×0.21		P137		35	
C区3	815-720	楕円形	1.53×1.25×0.49		P137		35	
C区4	795・800-710	溝状	3.01×0.75×0.18		P137		35	
C区5	795・800-720	溝状	2.30×0.66×0.22		P137		35	
C区6	815・820-720・725	円形	径1.16×0.59	6土→12土	P137	P173	35・71	京・信楽系陶器脚付灯明受皿が出土
C区7	810・815-720・725	円形	1.73×1.48×0.56	1溝、8土	P138	P174	35・36・71	肥前磁器碗、焙烙などが出土
C区8	810・815-725	円形	1.20×1.08×0.31	7土	P138	P177	36・73	磁器皿、肥前陶胎碗、焙烙、煙管、近代瓦などが出土
C区9	815-720・725	楕円形	1.51×1.06×0.46	1溝	P138		36	
C区10	815-725	隅丸長方形	(1.31)×0.83×0.39	11土→10土、12土	P138		36	肥前陶胎碗などが出土
C区11	815-725	?	1.20×0.49×0.24	11土→10土、12土	P138		36	
C区12	815・820-720・725	長方形?	2.96×1.21×0.25	6土→12土、10・11土	P137		36	
C区13	800-720	楕円形	1.72×1.33×0.52	1溝→13土	P138			
C区14	805-710・715	楕円形	2.34×0.69×0.33	10溝→14土	P138	P162	36・65	肥前陶器碗、瀬戸・美濃陶器皿、石臼などが出土
C区15	800・805-710・715	溝状	4.69×1.03×0.19	16土	P138	P174	36・71	肥前磁器皿・陶胎碗などが出土
C区16	795・800-710・715	溝状	7.85×1.03×0.29	15土	P139	P172~174	36・71・72・口絵	天目碗、龍泉窯系青磁碗などが出土
C区18	810-720・725	楕円形	2.27×1.43×0.81		P138			焙烙などが出土
C区20	800-710	楕円形?	1.31×0.81×0.21		P139			
C区B	810-725	円形	(1.17)×(1.06)×0.41		P139			底面より桶底部木製品出土
D区60	825-755	不整形	1.07×0.56×0.15	61土	P139		37	



## 4. 土坑

D区61	820・825-750・755	溝状	3.40×0.83×0.35	60・62土	P 139		37	
D区62	820・825-750・755	L字状	3.41×2.18×0.47	62土→63土、61土	P 139		37	西辺に河床礫が纏まる
D区63	820・825-750	隅丸長方形	1.29×(0.82)×0.34	62土→63土	P 139			
D区64	820-750	不整形	1.10×0.98×0.36		P 140	P 173	37	中世土器皿が出土
D区65	815・820-750・755	不整形	5.50×3.23×0.42		P 139		37	複数の土坑より成るか
D区66	815・820-740・745	溝状	5.04×1.32×0.56	88土	P 140	P 174・ 175	37・39・ 71・73	東端に方形の中段をもつ が遺構に伴うか不明、古 瀬戸壺が出土
D区67	815-740・745	円形	径約3.51×0.79	7溝→67土→6溝	P 140	P 173・ 174・176	37・71・ 72	底面が平坦、中世常滑甕、 土器皿などが出土
D区69	810・815-750・755	不整形	3.64×1.96×0.38		P 141		37	複数の土坑より成るか
D区70	805-745	楕円形	1.43×0.83×0.19		P 141		37	
D区71	810-745・750	溝状	5.57×1.01×0.21		P 141		38	東側が幅広
D区72	810・815-745	溝状	4.19×0.81×0.40	5・6溝→72土、 76土	P 141	P 175	73	陶器すり鉢、砥沢砥石が 出土
D区73	815-740	長方形	0.98×0.82×0.15		P 141			
D区74	815-740	溝状	2.55×0.54×0.37	83土	P 141			
D区75	810・815-750	楕円形	2.85×0.82×0.34	5・6溝→75土	P 141			
D区76	810-745・750	溝状	4.19×0.68×0.21	76土→5溝	P 142	P 174	71	瀬戸・美濃陶器碗が出土
D区77	815・820-750	不整形	5.39×(1.52)×0.30	7溝→77土、6溝	P 142	P 174	71	
D区78	815-735	円形	径3.12×(0.70)	91土→78土	P 142	P 163~ 166	32・38・ 65~69	底面が平坦、遺物多数
D区79	825-740・745	不整形	1.35×1.16×0.58		P 142		38	
D区80	820-740	(長方形)	1.48×1.18×0.21	80土→84土	P 143		38	
D区81	820・825-740	楕円形	1.31×0.56×0.16		P 143		35	在地系土器皿が出土
D区82	820-735・740	隅丸方形	1.29×1.08×0.20		P 143		38	ピットを1基もつ
D区83	815・820-735・740	長方形	6.15×(1.68)×0.58	91土→78・83土、 86土→83土、74土	P 142	P 174	71	南西隅に中段をもつ、在 地系土器皿などが出土
D区84	820-740	不整形	1.98×(1.27)×0.25	80土→84土	P 143		38	
D区85	820-735・740	隅丸長方形	(3.5)×(1.9)×0.86	86土→85土	P 143		38	
D区86	815・820-740	不整形	3.44×1.72×0.82	86土→83・85土	P 143	P 174	38・71	Cラインの張り出し部は 遺構に伴うか不明、中世 常滑甕?が出土
D区87	820-735	隅丸方形	1.50×0.96×0.26		P 143			ピットを2基もつ
D区88	815~825-745	長楕円形	7.43×1.76×0.61	66・94・95土	P 140		39	
D区89	805-730	楕円形	1.59×1.00×0.33		P 144		41	北に中段、2基のピット は遺構に伴うか不明
D区90	820-745	隅丸長方形	1.42×(1.01)×0.42	90土→95土、96土	P 140		39	

上増田島遺跡C・D区第2面

D区91	815-735	長方形	3.89×1.10×0.58	91土→78・83土	P142			83土と同深
D区92	805・810-750	長方形	1.80×1.10×0.30		P144			西辺に中段
D区93	805・810-745	長方形	1.14×0.47×0.26		P143			
D区94	820-745	不整形	?	94土→95土、88土	P140		39	
D区95	820-745・750	不整形	(3.08)×2.04×0.32	90・94土→95土、88土	P140		39	
D区96	820-745・750	隅丸方形	(1.37)×1.18×?	90・95土	P140		39	
D区97	810-730	楕円形	1.50×1.24×0.20		P144			
D区99	810-725	不整形	2.12×1.14×0.30		P144			東側円形部分は同一遺構か不明
D区101	815-730	長方形	4.52×1.40×0.67	101・102土→103土	P145		39	半円形で深さ約45cm 中段3ヶ所
D区102	815-730	長方形	3.65×0.50×0.69	101・102土→103土	P145		39	
D区103	810~820-725~735	不整形	8.08×(5.50)×0.19	101・102土→103土、5溝	P145		39	複数の土坑より成るか
D区104	805-735	不整形	1.68×1.14×0.27		P144			
D区105	805-730	円形	1.22×(1.20)×0.22		P144			
D区110	800・805-750	楕円形	2.24×0.70×0.16		P144			
D区111	790-750	円形	0.84×0.81×0.15		P144	P173	72	114・150・184土と接合する内耳鍋、土器釜輪などが出土
D区112	790・795-745	円形	0.65×0.61×0.22		P144	P169	69	磁器徳利、硯、砥石などが出土
D区113	795-750・755	隅丸長方形	3.54×0.97×0.49	17溝、205土	P144			
D区114	795-745	円形?	0.78×0.50×0.36	127・218土	P145	P173	39・72	111・150・184土と接合する内耳鍋が出土
D区115	800-745・750	長方形	1.92×1.49×0.17	399土→115土、116土	P146	P177	73	尾呂碗、鉄製釜輪などが出土
D区116	800-745	溝状	2.93×0.49×0.20	116土→10溝、115土	P146			
D区119	800-740・745	楕円形	1.68×0.56×0.14		P146			
D区121	790-740	円形	径0.53×0.21	1・2掘立	P103			
D区122	800-730・735	楕円形	(1.70)×(1.30)×0.21	10溝→122土	P146	P175・176	39・73	多量の河床礫などが出土
D区123	790-740	楕円形	0.68×0.54×0.12	1・2掘立	P105			
D区124	800-735	楕円形	1.19×(0.84)×0.16	10溝→124土	P146			
D区125	805-740	不整円形	1.00×0.91×0.19		P146			
D区126	805-740	楕円形	0.82×0.56×0.18		P146			
D区127	795-740~750	溝状	5.76×0.95×0.36	127土→129土、114土	P146			焙烙などが出土
D区128	795-745・750	隅丸長方形	2.63×1.01×0.22		P146			

## 4. 土坑

D区129	795-740・745	不整形	3.26×1.21×0.25	127土→129土	P 146			
D区132	785・790-735・740	隅丸長方形	3.21×(1.40)×0.33	1・2掘立、133土→132土	P 147			
D区133	785-740	隅丸長方形	2.29×1.44+×0.18	1・2掘立、133土→132土	P 147			
D区135	785-740	隅丸長方形	1.23×0.82×0.49	1・2掘立、211土→135土	P 147	P 169・170	39・69・70	土器鉢・蓋などが出土
D区136	785-730	楕円形	0.78×0.56×0.11		P 147			
D区143	785-735	不整形	0.94×0.81×0.13	1・2掘立	P 103			
D区144	790-735	楕円形	1.50×0.60×0.18	1・2掘立	P 105			
D区149	790-730	隅丸長方形	2.34×0.84×0.28	151土→150土→149土、1・2掘立、18溝→149土	P 103	P 177	73	149又は150土から板碑が出土
D区150	790-730・735	隅丸長方形	2.68×1.06×0.36	151土→150土→149土、1・2掘立	P 103	P 173・177	72・73	111・114・150土と接合する内耳鍋が出土
D区151	790-730	?	1.44+×0.90+×0.24	151土→150土→149土、1・2掘立	P 103			
D区153	790-730・735	溝状	3.16×0.66×0.21	1・2掘立	P 103			
D区155	790-730・735	溝状	1.94×0.51×0.22	1・2掘立	P 103			
D区164	785-730	円形	0.33×0.26×0.25	18溝→164土	P 147			
D区165	785-730	円形	(0.54)×(0.46)×0.31	18溝→165土、198土	P 147			
D区169	790-750・755	不整形	1.06×0.88+×0.39	169土→170土	P 148		39	
D区170	790-750	隅丸方形	0.62×0.48×0.32	169土→170土	P 148		39	
D区172	785-755	隅丸長方形	2.21×1.17×0.38		P 148			
D区173	795-755	不整形	3.67×1.49×0.66	182土	P 148	P 173	39・72	東辺に深さ不明のビットをもつ、中世瓦が出土
D区175	795-750・755	隅丸長方形	(3.42)×0.68×0.24	175土→176土、182土	P 148			
D区176	795-750	楕円形	4.14×1.68×0.54	175土→176土→177土	P 148			西・南に中段をもつ
D区177	790・795-750	不整形	(2.45)×2.32×0.47	176・179土→177土→178土	P 148	P 174・176	40・71・73	177～179土で瀬戸・美濃陶器皿などが出土
D区178	790-750	円形	径(0.65)×0.40	177土→178土	P 148	P 174	71	177～179土で瀬戸・美濃陶器皿などが出土
D区179	790-745・750	溝状	3.56×0.74×0.73	179土→177土	P 148	P 174	71	177～179土で瀬戸・美濃陶器皿などが出土
D区180	795-735・740	楕円形	(1.41)×(0.75)×0.32	19溝、20溝	P 149			
D区181	790-745	隅丸長方形	2.86×1.29	1・2掘立、229土	P 103			
D区182	795-750・755	隅丸長方形?	1.50+×(0.89)×0.21	173土、175土	P 148	P 175	40・72	
D区183	780・785-755	楕円形	2.91×1.51×0.52		P 149	P 171	40・70	中世土器皿、瀬戸・美濃陶器皿などが出土
D区184	795-740	不整形	2.32×1.65×0.34		P 149	P 173	72	111・114・150土と接合する内耳鍋が出土
D区185	790-725	溝状	3.55+×0.60×0.25	186土→185土→193土	P 149		40	
D区186	790-725	溝状	3.46+×0.67×0.25	187土→186土→185・193土	P 149		40	

上増田島遺跡C・D区第2面

D区187	790-725	楕円形	1.46×0.60×0.41	187土→186土	P 149		40	
D区188	790-725	溝状	3.47+×0.79×0.24		P 149		40	南側に中段をもつ、西辺の土坑状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区192	790-725	円形	径0.35×0.42		P 149		40	
D区193	785-790-725	不整形	2.64×1.54×0.40	185・186・194土→193土→195土	P 149		40	
D区194	790-725	?	0.47+×0.47+×0.32	194土→193土	P 149		40	
D区195	785-790-725	楕円形	(0.86)×0.57×0.26	193土→195土	P 149		40	
D区196	785-735	隅丸方形?	1.32×0.73+×0.49		P 150			2基のピットをもつ
D区197	785-790-725-730	隅丸台形	1.29×(0.90)×0.10	197土→198土、1柱列、400土	P 150			
D区198	785-725-730	不整形	(2.44)×(1.01)×0.22	18溝・197土・199土→198土、1柱列、165・204・400土	P 150			
D区199	785-725-730	不整形	2.10+×1.10+×0.24+	199土→198・203土、18溝	P 150			
D区200	810-785-790	楕円形	0.83×(0.64)×0.25	201土→200土	P 150	P 172	42・71	肥前磁器碗などが出土
D区201	810-785	隅丸長方形?	1.06+×0.76×0.33	201土→200土	P 150	P 172	42・71	肥前磁器碗などが出土
D区202	810-815-790-795	楕円形	(3.64)×(1.56)×0.46		P 150	P 177	42・73	平坦な底面、焙烙、刀子などが出土
D区203	785-725-730	楕円形?	1.50+×0.30+×0.53+	199土→203土	P 150			
D区204	785-730	円形	(0.76)×(0.56)×0.34	18溝→204土、198土	P 150			
D区205	795-800-750-755	円形	3.01×2.36+×0.32	10溝、113土	P 144			北側に取り付く溝状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区206	800-745	楕円形?	1.06+×1.04×0.11	10溝→206土	P 150			
D区207	785-790-755	隅丸長方形	(2.90)×1.57×0.54		P 150	P 173・175・176	72	中世瓦、石製すり鉢などが出土
D区208	795-800-745	円形	1.38×1.14×0.24		P 150	P 174	71	208又は216土から瀬戸・美濃磁器碗・瓶などが出土
D区209	785-790-745	楕円形	4.18+×2.19×0.51	210土→209土、1・2掘立	P 147	P 173	40・72	平坦な底面、209又は210土から中世瓦、焙烙などが出土
D区210	785-740-750	隅丸長方形	6.32+×1.02+×0.55	210土→209土	P 147	P 173	72	209又は210土から中世瓦が出土
D区211	785-740	?	1.59+×1.19+×0.44+	1掘立、211土→135土	P 147			
D区213	795-800-750	溝状	2.84×0.80×0.46	10溝→213土	P 151	P 173	72	土器皿が出土
D区216	785-790-750	不整形	2.26×1.46×0.46		P 151			
D区217	795-740-745	溝状	2.26×0.86×0.44	218土→217土	P 145			在地系土器皿などが出土
D区218	795-740-745	溝状	4.94×0.72×0.38	218土→217土、114土	P 145	P 174	71	208又は218土から瀬戸・美濃磁器碗・瓶が出土
D区220	795-725	隅丸方形?	1.24+×1.16×0.20	220土→20溝	P 151			
D区221	795-725	楕円形	1.42×(0.74)×0.26	20溝・223土→221土	P 151			

## 4. 土坑

D区223	795-725	隅丸長方形	1.36×0.66×0.16	223土→221・224土	P 151			
D区224	795・800-725	隅丸長方形	(1.20)×0.89×0.25	223土→224土、22溝	P 151			
D区226	800-730	隅丸台形	(2.35)×(1.82)×0.34	226土→10溝	P 151			焙烙などが出土
D区227	805-730・735	円形	径0.48×0.18		P 151		40	中段をもつ
D区228	800-760	隅丸方形?	1.46+×1.64×0.23		P 151			
D区229	790-745・750	長方形	3.48×1.01×0.24	2掘立、181土	P 152			平坦な底面
D区231	800-745	円形	径0.67×0.16		P 151		40	
D区232	800-745	楕円形	0.64×0.42×0.26		P 152			中段をもつ
D区233	800-740	楕円形	1.14×(0.88)×0.48	234土→233土	P 152			
D区234	800-740	隅丸方形	1.27×1.14×0.28	234土→233土	P 152		41	
D区235	800-735	円形	0.72×0.60×0.16		P 152		41	
D区236	800・805-735	楕円形	1.06×0.56×0.22	237土→236土	P 152			
D区237	800-735	不整形	1.04×0.92×0.09+	237土→236土	P 152		41	
D区238	800-735	円形	0.53×0.47×0.19		P 151		41	
D区239	800・805-730・735	楕円形	1.54×0.51×0.11		P 151		40	焙烙などが出土
D区240	800・805-735・740	溝状	3.46×0.94×0.42		P 152		40	ピットを1基もつ、焙烙などが出土
D区241	795・800-730	不整形	4.90+×(2.92)×0.42	18溝→245土→241土、19溝→241土	P 152	P 172	70・71	軟質陶器すり鉢、石臼、五輪塔などが出土
D区242	795-725	不整形	0.84+×0.72×0.13	242土→243土	P 153			
D区243	795-725	円形	0.93×0.81×0.28	20溝・242土→243土	P 153			
D区244	795-720・725	不整形	3.74×2.01×0.38	20溝	P 153		37	
D区245	795-730	円形	0.92×0.74×0.23	18溝→245土→241土	P 152			
D区246	805-730	楕円形	1.76×0.56×0.14		P 153		41	
D区247	805-735	楕円形	0.63×0.42×0.13		P 153	P 172・174	41・71	肥前磁器碗・陶胎碗などが出土
D区250	800-735・740	不整形円形	0.81×0.70×0.22		P 153		41	
D区260	810-760	楕円形	1.12×0.72×0.10		P 153		41	
D区261	810-760	楕円形	1.94×0.86×0.12		P 153		41	
D区262	810-760	楕円形	1.80×0.69×0.08		P 153		41	
D区263	810-760・765	隅丸方形	2.06×0.96×0.16		P 153		43	
D区264	805・810-760	楕円形	1.32×(0.72)×0.16	265土→264土	P 153	P 175	43・72	尾呂瓶などが出土
D区265	805・810-760	楕円形	1.92×0.70×0.36	265土→264土	P 153	P 175	43・72	尾呂瓶などが出土

上増田島遺跡C・D区第2面

D区266	805-760-765	楕円形	1.88×0.72×0.22		P 154		42	
D区267	805-760	楕円形	1.62×0.48×0.06		P 154		42	
D区271	805-755-760	不整形円形	3.88×(2.42)×0.15	17溝→271土	P 154	P 174		中国製青磁碗が出土
D区272	805-750-755	不整形	1.86×1.76×0.14	272土→17溝	P 154			
D区280	805-775-780	楕円形	1.91×1.13×0.16		P 154	P 173	42・71	瀬戸・美濃陶器灯明皿が出土
D区281	805-780	不整形円形	0.84×0.80×0.16		P 154		42	肥前磁器碗などが出土
D区282	805-785	楕円形	1.21×0.81×0.14		P 154			
D区283	810-775	隅丸長方形	2.54×(1.37)×0.46	283土→284土	P 154			北辺に中段をもつ
D区284	805・810-770-775	不整形	2.09×(1.50)×0.38	283土→284土	P 154			
D区285	805-770-775	円形	径0.63×0.16		P 154			
D区287	810-780-785	長方形	3.10×1.26×0.67		P 155	P 174・177	43・71・73	平坦な底面、瀬戸・美濃陶器碗などが出土
D区289	795-780	円形	1.55×1.42×0.36		P 154		43	底面にピット状の掘り込みをもつ、焙烙などが出土
D区290	790-795-770-775	不整形	5.11×1.52×0.25	299土→290土	P 155		43	肥前陶胎碗などが出土
D区291	795-775	円形	1.27×1.19×0.23		P 155		43	
D区292	790-770	楕円形	1.24×0.99×0.14		P 155		43	
D区293	790-775	不整形	2.62×0.94×0.18		P 155			
D区294	790-770	不整形円形	(0.91)×(0.81)×0.31		P 155			
D区296	810-775-780	楕円形?	1.48×0.98×0.72		P 155			西端に中段をもつ
D区298	780-775-780	楕円形	3.68×1.67×0.41		P 155			
D区299	790-770	隅丸長方形	1.81×(1.31)×0.34	299土→290土	P 155		43	
D区300	805-780	円形	0.46×0.32×0.58		P 156			焙烙などが出土
D区301	805-775	不整形円形	1.41×(1.30)×0.48		P 156			北東隅にピット状の落ち込みをもつ
D区302	790-775-780	不整形円形	径0.94×0.16		P 156		43	
D区303	785-770-775	?	2.45×1.39×0.46	305土→304土→303土→307土	P 156			西側に中段をもつか
D区304	785-770-775	?	2.17×2.02×0.24	305土→304土→303土	P 156			
D区305	780-785-775	?	2.17×3.30×0.34	305土→304土→303土、312土	P 156			
D区306	785-765-770	不整形	2.99×1.11×0.39	307土→306土	P 156			焙烙、在地系土器皿が出土
D区307	785-770	不整形	4.81×1.99×0.51	303土→307土→306土	P 156			
D区308	780-785-770	溝状	3.27×0.82×0.60	309土→308土→313土、315・316土	P 157	P 174	43・71	308又は313土から瀬戸・美濃陶器片口が出土

## 4. 土坑

D区309	780-770-775	溝状	1.97×(0.81)×0.47	309土→308土→313土、315土	P157			
D区310	780-770-775	溝状	2.95×0.72×0.47	311土→310土、312土	P156			
D区311	780-775	隅丸方形?	2.27×1.08×0.12	311土→310土	P156			西端にピット状の落ち込みをもつが遺構に伴うか不明
D区312	780-785-775	隅丸長方形	2.01×1.12×0.22	305・310土	P156			
D区313	780-785-770	隅丸長方形?	3.80×(1.58)×0.33	309土→308・315土→313土、314土	P157	P174	43・71	308又は313土から瀬戸・美濃陶器片口が出土
D区314	780-770	隅丸方形?	2.00×0.83×?	313土	P157			
D区315	785-770	?	0.66×0.34×?	315土→313土、309土	P157			
D区316	785-770	?	0.90×0.63×?	308土	P157			
D区325	815-780	円形	(1.90)×1.81×0.34	341土→325土	P157		44	
D区326	830-770-775	不整円形	1.16×1.08×0.25		P157		44	
D区328	810-815-780	不整形	2.52×1.84×0.36		P157	P177	44・74	焙烙、金属製注口が出土
D区331	815-775	隅丸長方形	0.97×0.72×0.08	331土→332土	P157		44	
D区332	815-775	?	径0.54×0.31	331土→332土	P157		44	焙烙が出土
D区333	825-830-775	楕円形	1.26×1.08×0.13		P157			底面外縁がC字状に落ち込む
D区334	830-775	楕円形	1.46×1.20×0.11		P157			中段をもつ
D区335	830-775	楕円形	2.11×0.95×0.12		P157		44	肥前陶胎碗などが出土
D区336	835-775	不整円形	1.26×1.12×0.24		P158	P173	44・71	京・信楽系陶器灯明皿・灯明受皿が出土
D区337	830-790	円形	0.92×0.77×0.13		P158			
D区339	830-790	楕円形	1.24×0.90×0.15		P158			
D区341	815-820-780	?	1.64×1.58×0.33	341土→325・383土	P157	P177	73	不明鉄製品が出土
D区345	830-835-780	隅丸長方形	0.96×0.59×0.22		P158			
D区346	830-775-780	隅丸長方形	1.08×0.72×0.11		P158		44	
D区347	830-775-780	楕円形	0.95×0.42×0.21		P158		44	
D区348	830-785	円形	0.75×0.64×0.26		P158		44	
D区349	825-790	円形	0.65×0.60×0.20		P158		45	
D区350	825-790	?	0.72×0.60×0.17		P158		45	
D区351	825-790	楕円形	1.09×0.37×0.27		P158		45	
D区352	830-775	楕円形	0.93×0.38×0.20		P158			
D区353	830-775	楕円形	0.74×0.31×0.14		P158			
D区356	820-775-780	隅丸長方形	1.14×0.60×0.15		P158		45	

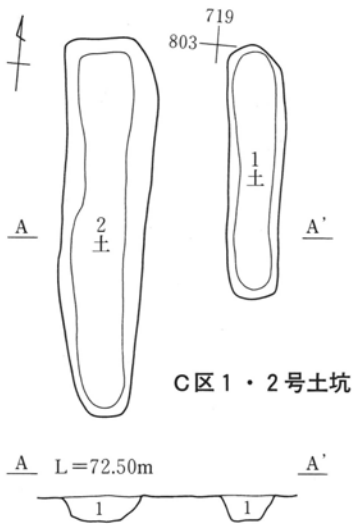
上増田島遺跡C・D区第2面

D区357	820-765	楕円形	2.14×0.60×0.19		P 158		46	
D区358	825-770・775	楕円形	1.25×0.83×0.46	27溝→358土、361土	P 159		45	
D区359	825-770	隅丸長方形	2.81×1.09×0.72		P 158		45	
D区360	825-775	楕円形	0.77×0.58×0.07	361土→360土	P 159			
D区361	820・825-775・780	溝状	7.20×2.11×0.13	361土→360土、358土	P 159			
D区362	820・825-765	楕円形	2.22×0.79×0.45		P 158		45	
D区363	820-765	隅丸長方形	2.00×1.28×0.54		P 159		45	
D区364	820-765	楕円形	1.24×0.90×0.26		P 159	P 176	45・72	石白が出土
D区365	825・830-795・800	楕円形	3.24×1.64×0.27		P 159			
D区366	825-780	楕円形	0.83×0.57×0.12	27溝	P 159			
D区367	815-770・775	不整形	2.43×1.70×0.17		P 159		45	
D区368	815-770	円形	0.87×0.83×0.15		P 159		46	
D区369	815-775	楕円形	0.78×0.36×0.24		P 159		46	北側に中段をもつ
D区373	825-775	不整形	1.83×1.05×0.22		P 159			
D区374	820-765・770	隅丸長方形？	(2.16)×(1.28)×0.76	375土→374土	P 160		46	
D区375	815・820-770	隅丸長方形？	(3.08)×2.51×0.56	376土→375土→374土	P 160		46	東辺のビット状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区376	820・825-770	隅丸長方形？	4.67×1.74×0.80	376土→375土	P 160		46	東辺のビット状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区377	820・825-770	楕円形	1.54×0.64×0.54		P 160		46	
D区378	820・825-770・775	楕円形	1.69×0.57×0.19		P 160		46	
D区379	835-775	不整形	1.64×1.12×0.26		P 160			西側に中段をもつ
D区382	820-775	楕円形	0.64×0.46×0.17		P 160			
D区383	815・820-780	楕円形	1.06×0.76×0.52	341土→383土	P 157			
D区384	820-775	隅丸長方形	3.21×0.84×0.22		P 160	P 177	46・74	寛永通寶が出土
D区385	810-770・775	円形？	1.69×1.47×0.38	386土	P 161		46	
D区386	810-770	隅丸長方形？	2.12×1.42×0.39	387土→391土→386土→392-2土、385土	P 161		46	
D区387	810-770	長方形？	2.06×0.72×0.30	387土→391土→386・388土、395土	P 161	P 175・177	46・73・74	砥石、不明鉄製品が出土
D区388	810-770	長方形？	1.76×1.09×0.32	387土→391土→388土、390土	P 161		46	瀬戸・美濃陶器捏ね鉢などが出土
D区389	810-770	隅丸長方形？	0.79×0.68×？	389土→396-2土、390・392-1土	P 161	P 177	46・73	土器竈、不明鉄製品が出土
D区390	810-770	長方形？	1.15×1.19×0.30	392-1土→390土、388・389・395土	P 161		46	
D区391	810-770	長方形？	1.95×0.78×0.36	387土→391土→386・388土	P 161		46	
D区392-1	810・815-770	隅丸長方形	1.29×0.73×0.40	392-1土→390土、389土	P 161		46	
D区392-2	810-770・775	隅丸長方形	1.17×0.90×？	386土→392-2土	P 161		46	



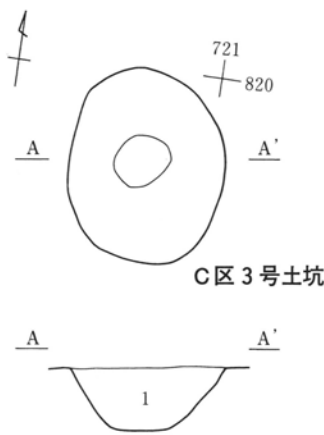
4. 土坑

D区393	810-770	楕円形	1.71×0.90×0.42	393土→394土	P160			
D区394	810-770	隅丸長方形?	3.28×1.95×0.30	393土→394土	P160			南側中段部分は別の土坑か
D区395	810-770	楕円形	1.77×0.97×0.40	387・390・396-1土	P161			
D区396-1	810-770	?	0.83×0.55×?	395土	P161			
D区396-2	810-765-770	隅丸長方形	2.39×0.70×0.31	29溝・389土→396-2	P161			
D区397	780-780-785	隅丸長方形?	2.34×0.61×0.32		P161			
D区398	780-780	隅丸長方形?	1.48×0.92×0.41		P161	43		
D区399	800-745-750	溝状	5.43×0.60×0.24	399土→115土	P146			
D区400	785-725-730	楕円形	0.59×0.42×0.42	197土、198土	P161	P173	72	土器皿が出土



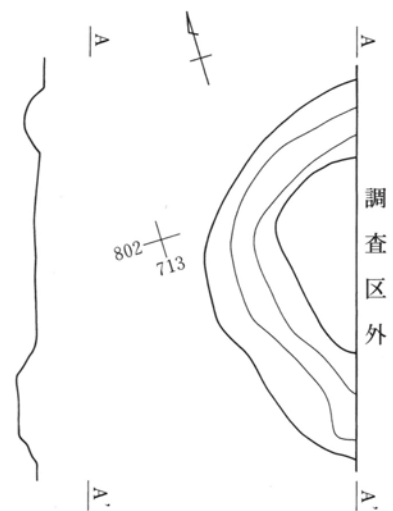
C区1・2号土坑

C区1・2号土坑  
1. 灰オリーブ色土。しまりが強い。砂質。鉄分凝集粒を多量含む。

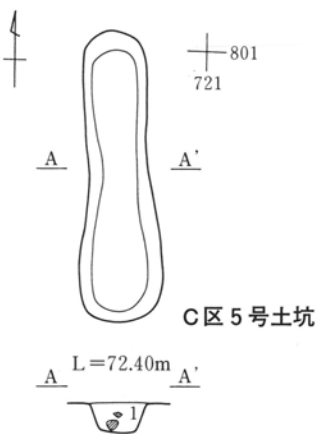


C区3号土坑

C区3号土坑  
1. 暗灰黄色土。やや粘質。径2cm程の礫・灰褐色土ブロックを微量含む。

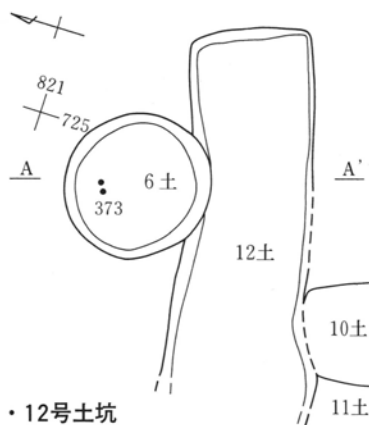


C区4号土坑



C区5号土坑

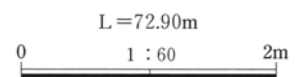
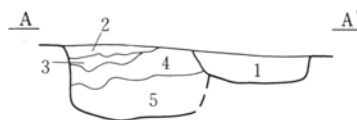
C区5号土坑  
1. 灰オリーブ色土。しまりが強い。砂質。鉄分凝集粒を多量、径2cm程の礫を微量含む。

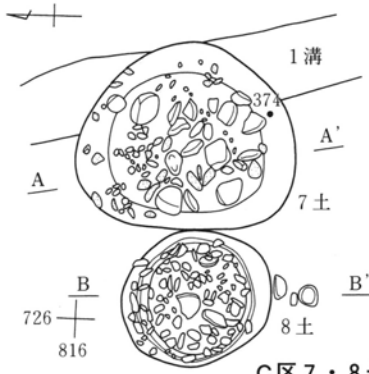


C区6・12号土坑

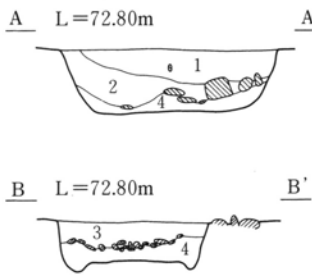
C区6・12号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。径2cm程の礫・黄褐色土粒を微量含む。12号土坑埋没土。  
2. 黒褐色土。やや粘質。径2cm程の礫を少量含む。  
3. 黄褐色砂質土と1層の混土。  
4. 黒褐色土。しまりが弱い。黄褐色土粒を少量含む。  
5. 黄褐色砂質土と暗褐色粘質土の混土。一部でラミナ状を呈する。2～5層は6号土坑埋没土。

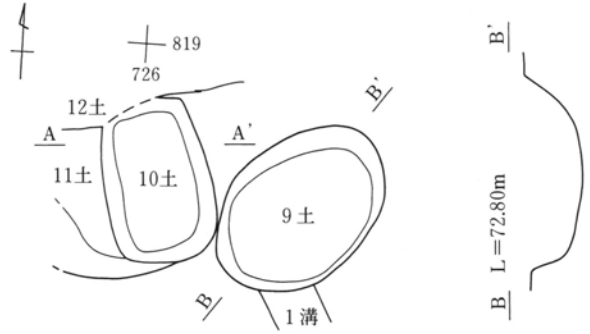




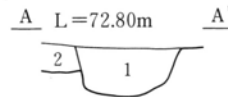
C区7・8号土坑



- C区7・8号土坑
1. 暗灰黄色土。砂質。黄色砂を均一にやや多量含む。
  2. 暗灰黄色土。砂質。黄色砂を均一に、灰色粘質土粒を下層に少量含む。
  3. 暗褐色土。やや粘質。径3cm程の礫を上層に少量含む。
  4. 黒褐色土。砂質。

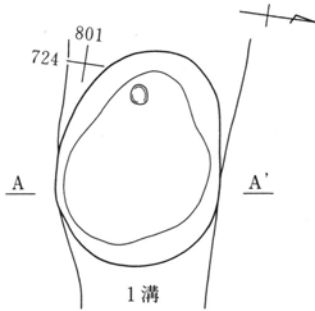


C区9～11号土坑

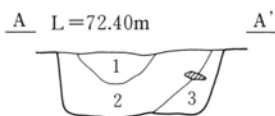


C区10・11号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。粒径が不均一。径2cm程の礫・砂ブロック・炭粒などの雑多な混入物をやや多量含む。10号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。やや粘質。粒径が1層より均一。1層の混入物を少量含む。11号土坑埋没土。

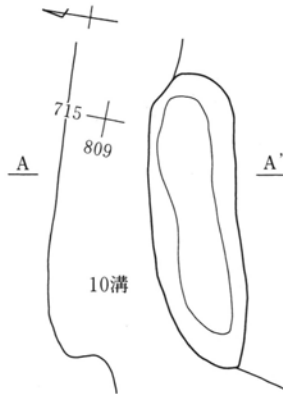


C区13号土坑



C区13号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。粗砂を多量、径2cm程の礫・パミスを少量含む。
2. 黒褐色土。径10cm前後の礫・粗砂を多量含む。
3. 鈍い黄褐色土。粗砂を多量、径3cm前後の礫を少量含む。

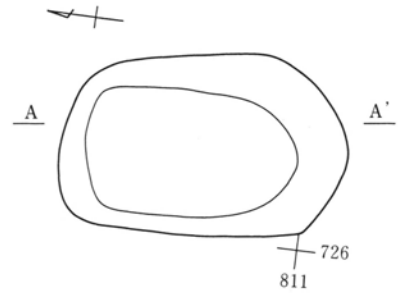


C区14号土坑

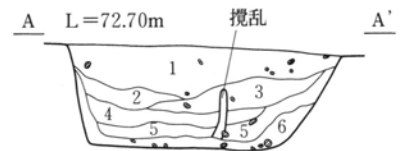


C区14号土坑

1. 径10cm前後の礫を黄褐色土で充填。

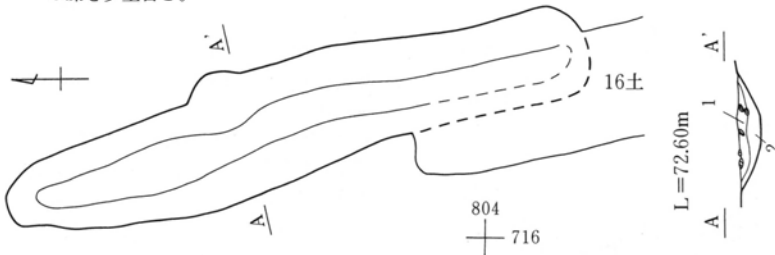


C区18号土坑



C区18号土坑

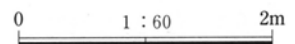
1. 暗灰黄色土。やや粘質。径4cm前後の礫を少量含む。
2. 灰オリーブ砂。一部にラミナ状を呈する。
3. 暗オリーブ砂。
4. 黒褐色土。やや粘質。砂を均一に多量含む。
5. 灰オリーブ色砂。黄色砂・径2cmほどの礫を多量含む。
6. 黒褐色土。やや粘質。砂・径4cm前後の礫を多量含む。



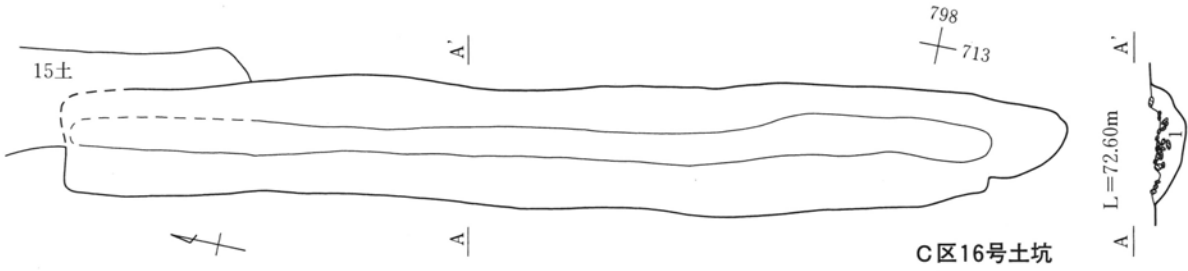
C区15号土坑

C区15号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。径10cm程の礫を上層に多量、地山の黄褐色土を均一にやや多量含む。
2. 黄褐色土。砂質。地山に似るが、地山より黒味が強い。

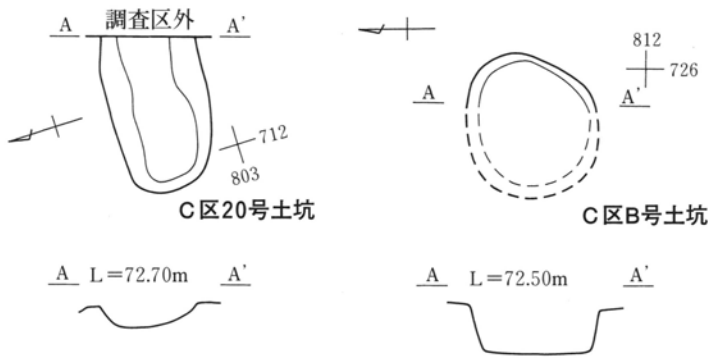


4. 土坑



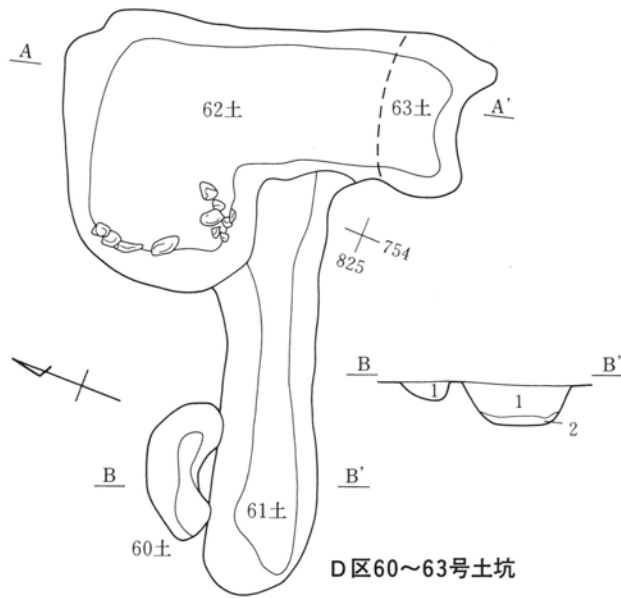
C区16号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。径10cm程の礫を上層に多量含む。地山の黄褐色土を特に下層に均一に含む。

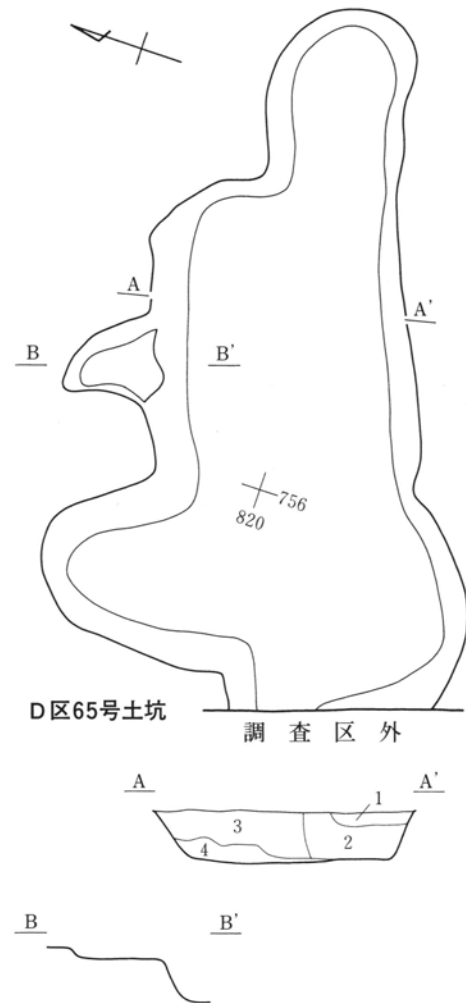


C区20号土坑

C区B号土坑



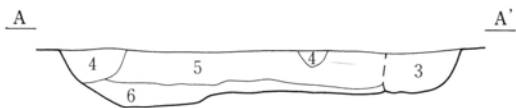
D区60~63号土坑



D区65号土坑

D区65号土坑

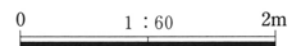
1. 黒褐色土。やや粘質。炭粒を少量含む。
2. 暗褐色土。しまりが強い。暗黄褐色土ブロック・径1cm程の礫を少量含む。
3. 暗褐色土。2層と同一だがやや黒味が強い。
4. 灰褐色土。しまりが弱い。径4cm以下の礫を少量含む。



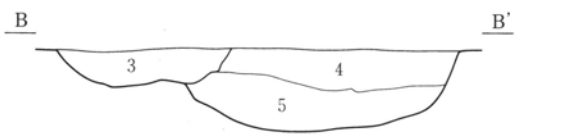
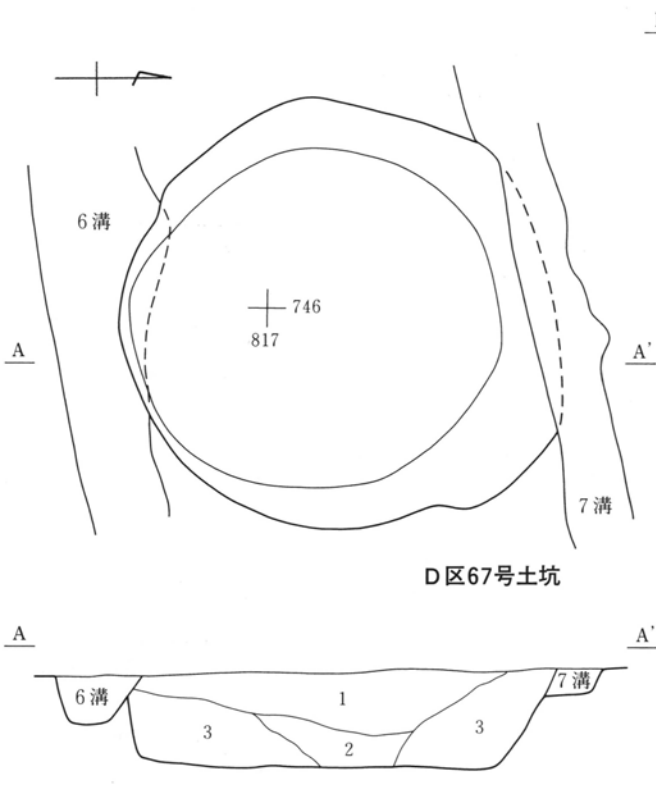
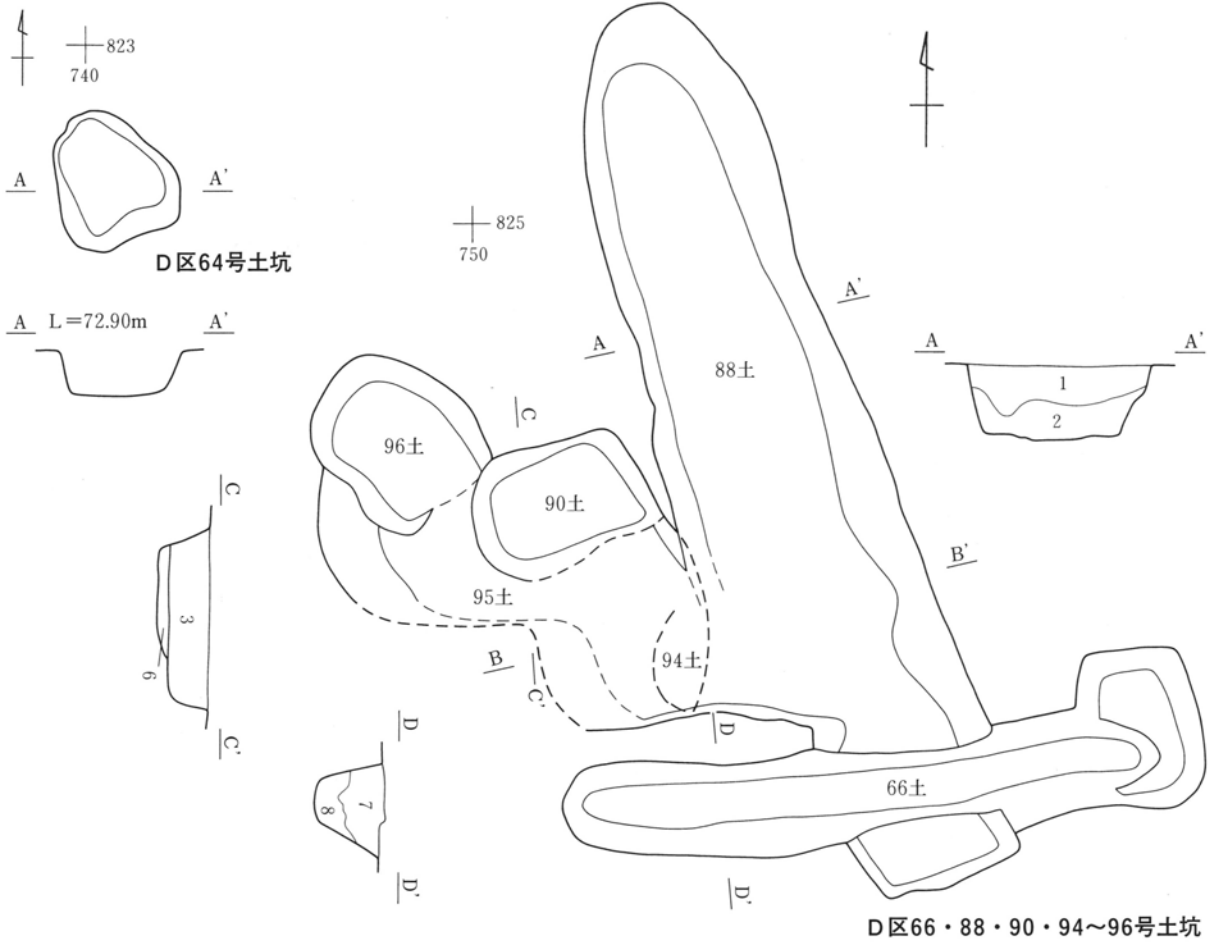
D区60~63号土坑

1. 灰褐色土。鉄分凝集粒をやや多量、暗黄褐色土ブロックを少量含む。
2. 暗黄褐色土。
3. 暗灰褐色土。63号土坑埋没土。
4. 暗褐色土。
5. 暗褐色土。径2mm程の礫を少量含む。
6. 灰褐色土。径5mm程の礫を少量含む。

L=72.90m



上増田島遺跡C・D区第2面

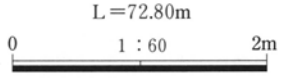


D区66・88・90・94・95号土坑

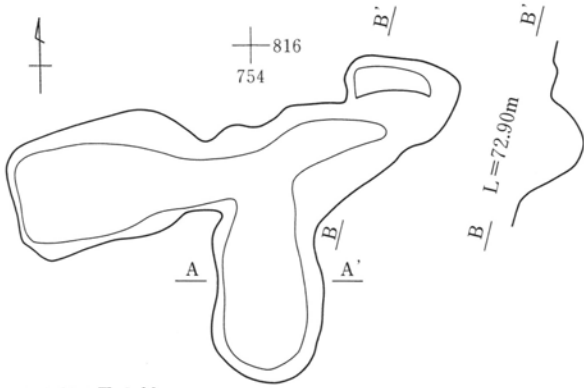
1. 黒褐色土。黄色砂質土を少量含む。
2. 暗褐色土。やや砂質。褐色砂をやや多量含む。1・2層は88号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。しまりがやや強い。褐色砂・黄色砂を少量含む。95号土坑埋没土。
4. 黒褐色土。黄色砂を少量含む。
5. 暗褐色土。砂質。褐色砂をやや多量含む。4・5層は94号土坑埋没土。
6. 暗褐色土。褐色砂をやや多量含む。90号土坑埋没土。
7. 黒褐色土。やや砂質。径10cmほどの礫をやや多量含む。
8. 黒褐色土。砂質。褐色砂を多量含む。7・8層は66号土坑埋没土。

D区67号土坑

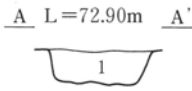
1. 暗褐色土。径10cm程の礫を多量含む。
2. 黒褐色土。径3cmほどの礫をやや多量含む。
3. 暗灰褐色土。鉄分を含む褐色砂質土をやや多量、径2cmほどの礫を少量含む。



4. 土坑

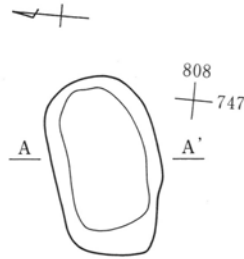


D区69号土坑

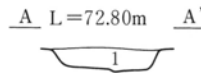


D区69号土坑

1. 暗褐色土。しまりが弱い。径1 cm程の礫を少量、黄褐色土ブロック・炭粒を微量含む。

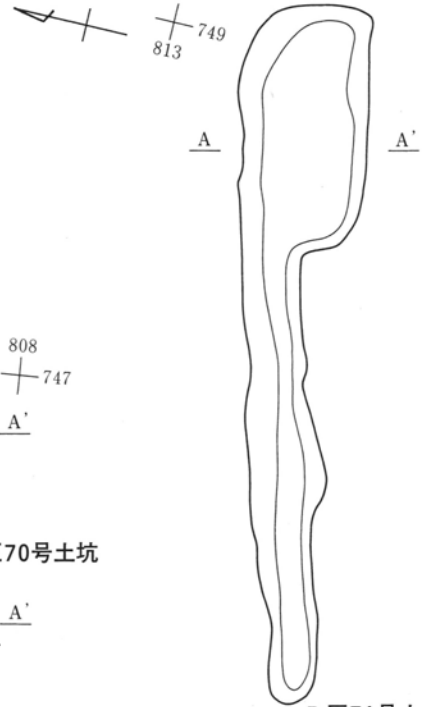


D区70号土坑

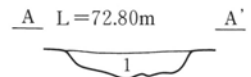


D区70号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。黄色砂質土を少量含む。

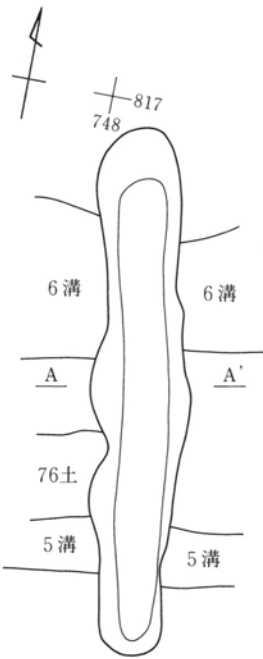


D区71号土坑

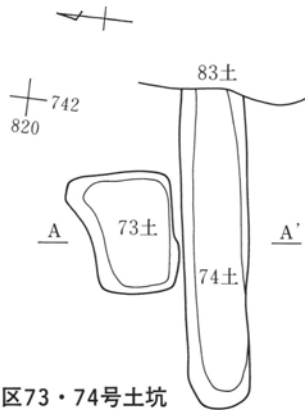
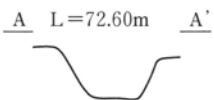


D区71号土坑

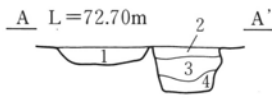
1. 黒褐色土。しまりが強い。黄色砂質土を少量含む。



D区72号土坑



D区73・74号土坑

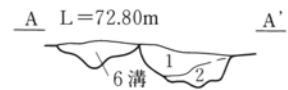


D区73・74号土坑

1. 明黒褐色土。砂質。黄褐色砂をやや多量含む。
2. 暗褐色土。径5 mm程の礫・炭粒を少量含む。
3. 暗褐色土。褐色砂粒を均一に少量含む。
4. 暗褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量含む。

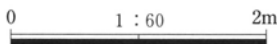


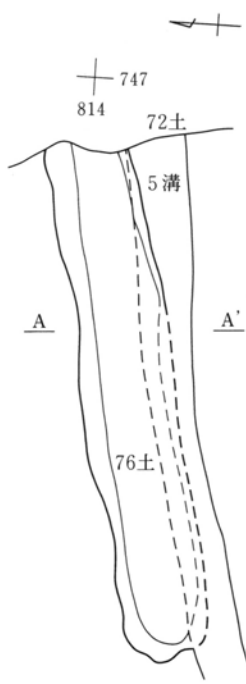
D区75号土坑



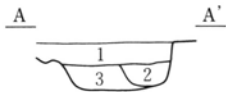
D区75号土坑

1. 黒褐色土。緻密。黄色砂質土を微量含む。
2. 灰褐色土。砂質。褐色砂粒を均一に少量含む。



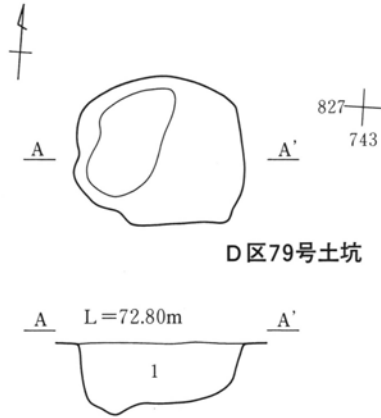


D区76号土坑

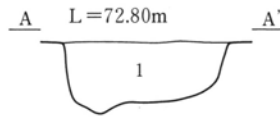


D区76号土坑

1. 黒褐色土。砂質。黄色砂質土をやや多量含む。攪乱。
2. 5号溝埋没土。
3. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒をやや多量含む。76号土坑埋没土。

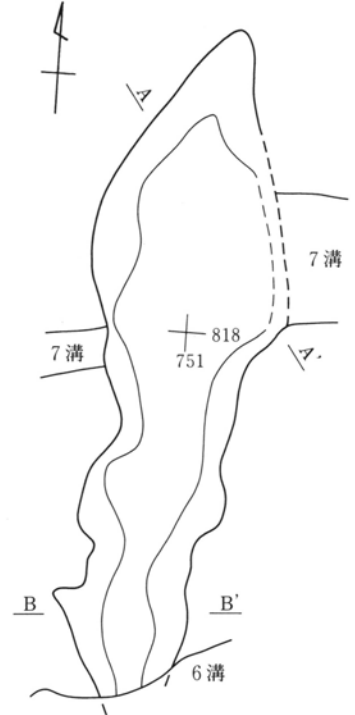


D区79号土坑

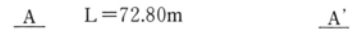


D区79号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。径2cm以下の礫を少量含む。

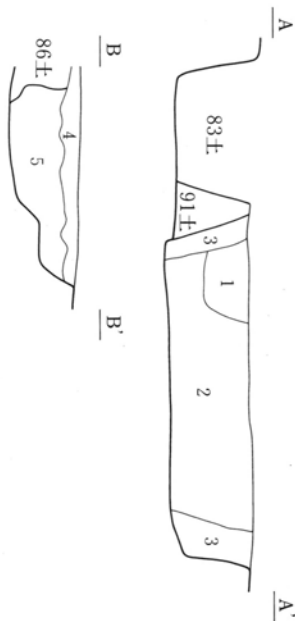
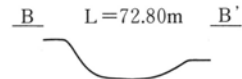


D区77号土坑



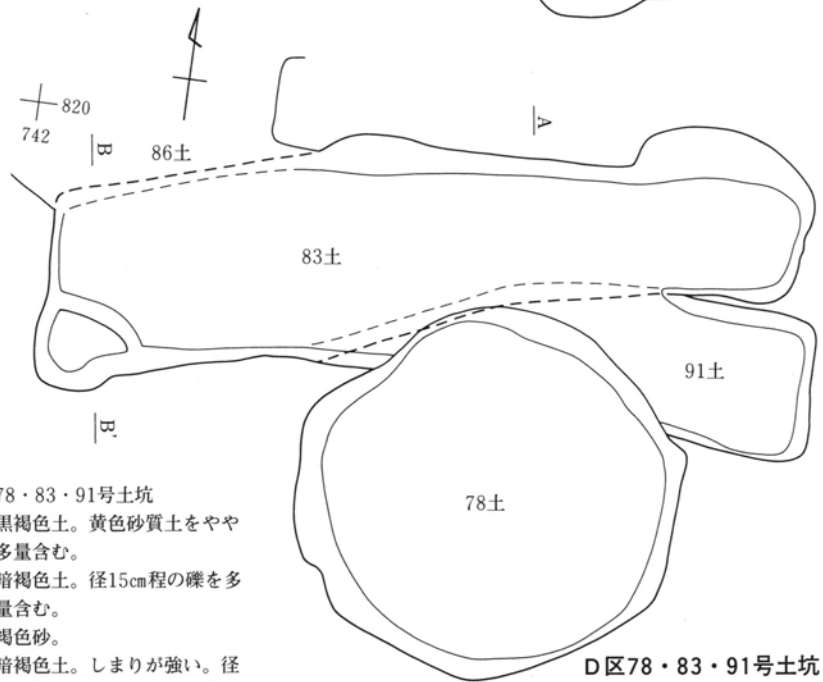
D区77号土坑

1. 暗褐色土。砂質。黄色砂質土を少量含む。

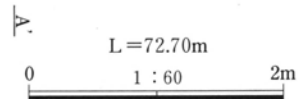


D区78・83・91号土坑

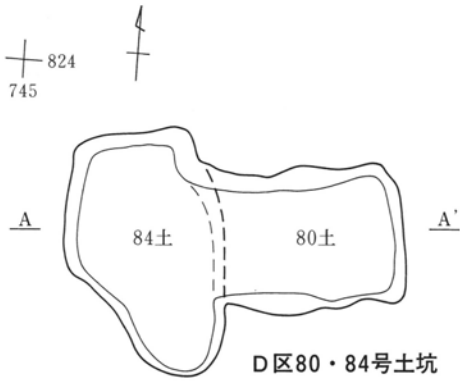
1. 黒褐色土。黄色砂質土をやや多量含む。
2. 暗褐色土。径15cm程の礫を多量含む。
3. 褐色砂。
4. 暗褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫・炭粒を少量含む。85・86号土坑1層に同じ。
5. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒をやや多量含む。



D区78・83・91号土坑



4. 土坑

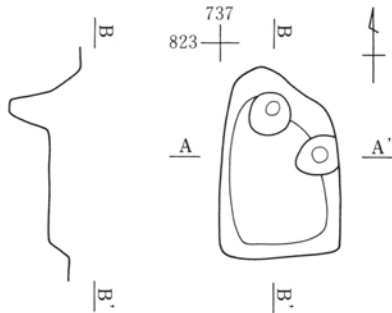


D区80・84号土坑

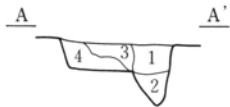


D区80・84号土坑

1. 黒褐色土。径1 cm程の礫をやや多量、黄色砂質土を少量含む。84号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。径1 cm程の礫・黄色砂質土を少量含む。80号土坑埋没土。

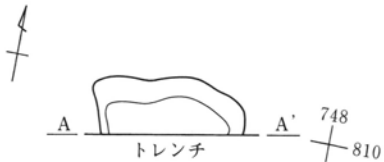


D区87号土坑

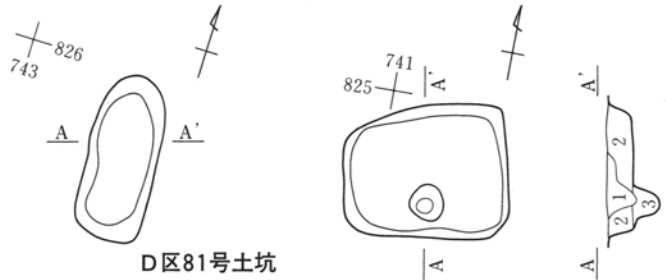
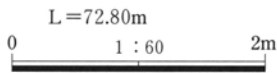


D区87号土坑

1. 黒灰色土。やや粘質。黄色砂質土を少量含む。
2. 黒灰色土。やや粘質。褐色砂・黄色砂を少量含む。
3. 黒褐色土。黄色粘質土を少量含む。
4. 明褐色土。3層に似るが黄色粘質土をやや多量含む。



D区93号土坑



D区81号土坑

D区82号土坑

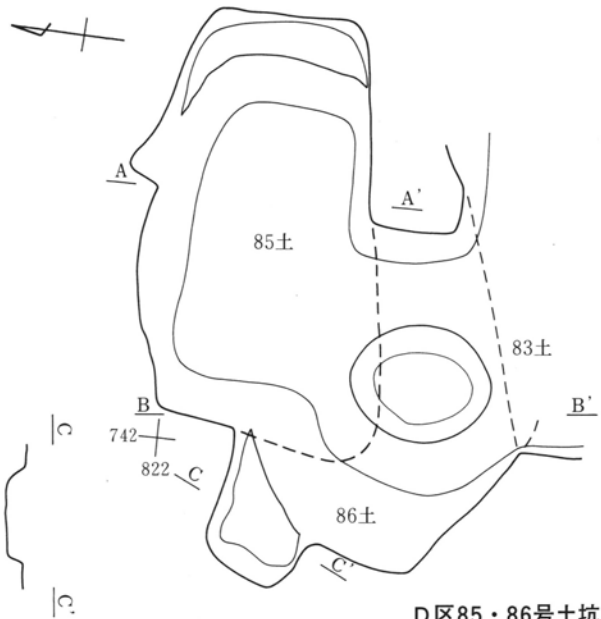


D区81号土坑

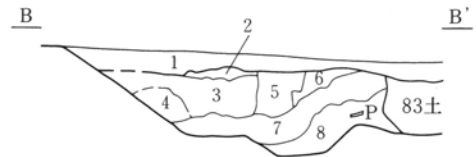
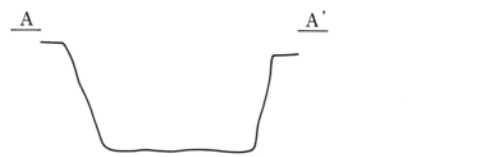
1. 暗褐色土。しまりが強い。径5 mm以下の礫を少量含む。

D区82号土坑

1. 暗灰褐色土。しまりが強い。灰白色土粒を少量、炭粒を微量含む。
2. 暗褐色土。
3. 灰褐色土。粘質。

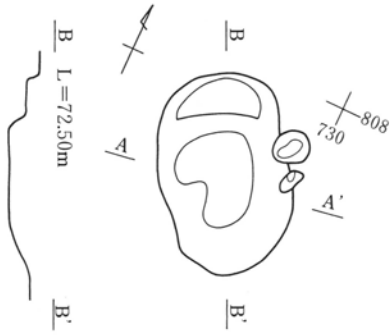


D区85・86号土坑

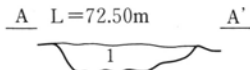


D区85・86号土坑

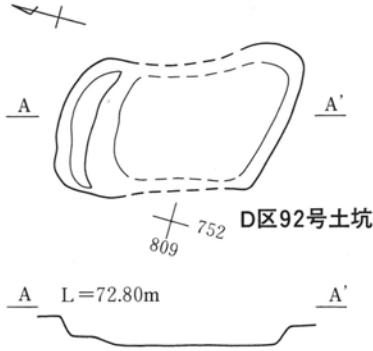
1. 暗褐色土。しまりが強い。径1 cm程の礫・炭粒を少量含む。
2. 暗褐色土。暗灰褐色土粒を少量含む。
3. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂をやや多量含む。
4. 灰褐色土。砂質。褐色砂をやや多量含む。2・3・4層は85号土坑埋没土。
5. 暗灰褐色土。褐色砂をやや多量含む。
6. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
7. 暗褐色砂。径15 mm程の礫をやや多量含む。
8. 暗褐色砂。径15 mm程の礫を微量含む。



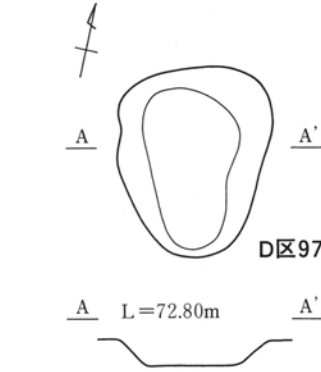
D区89号土坑



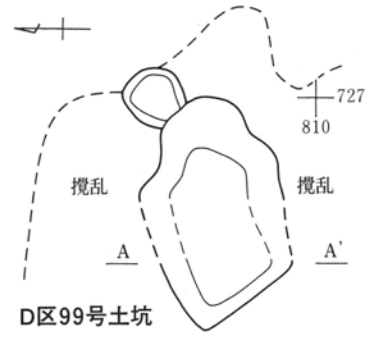
D区89号土坑  
1. 灰白色砂。緻密。



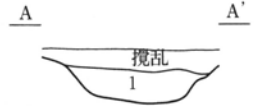
D区92号土坑



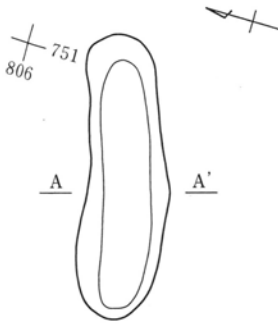
D区97号土坑



D区99号土坑



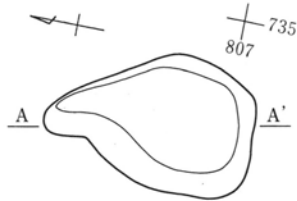
D区99号土坑  
1. 灰褐色砂。褐色砂・灰色砂の混土。



D区110号土坑



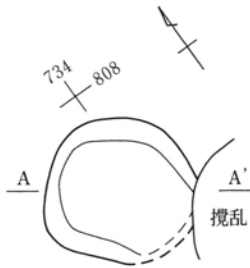
D区110号土坑  
1. 黒褐色土。しまりが強い。  
黄褐色土粒を微量含む。



D区104号土坑



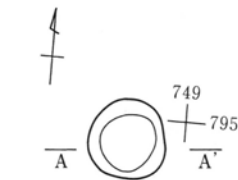
D区104号土坑  
1. 灰褐色土。しまりが強い。  
径2cm程の礫を少量含む。



D区105号土坑



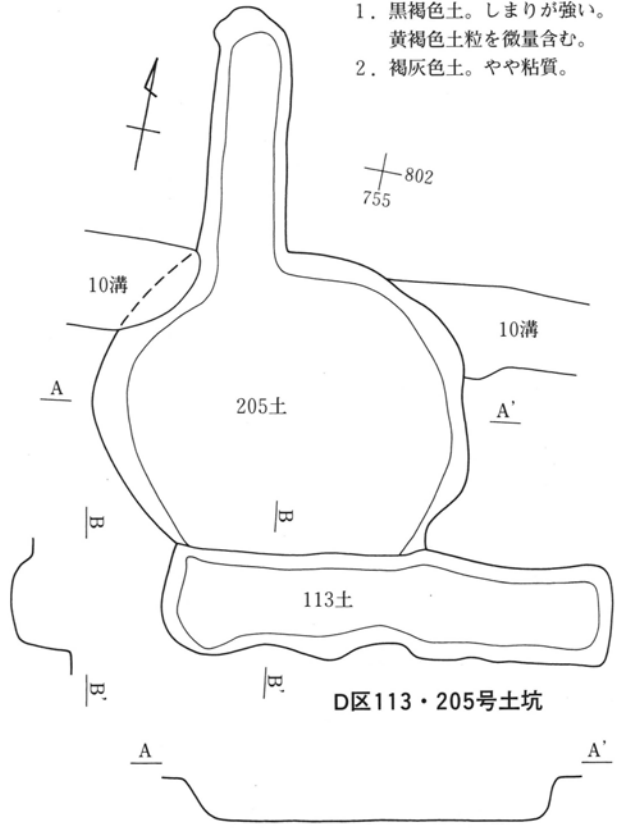
D区105号土坑  
1. 灰褐色土。しまりが強い。  
径2cm程の礫を少量含む。



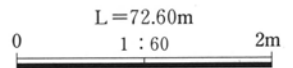
D区112号土坑



D区112号土坑  
1. 褐灰色土。白色粘質土  
粒を微量含む。  
2. 褐灰色土。白色粘質土  
粒を少量含む。

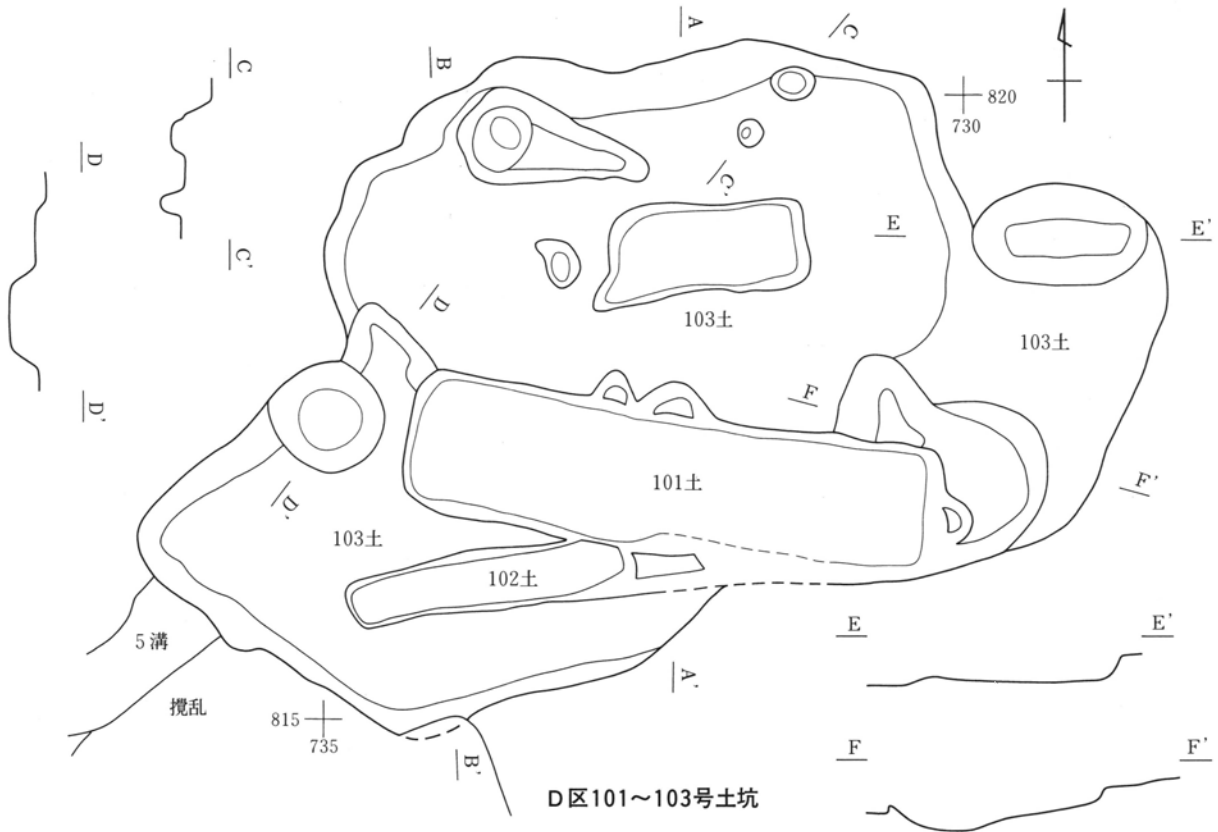


D区113・205号土坑

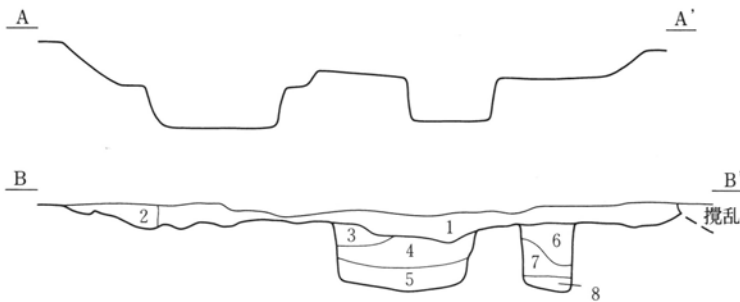




4. 土坑



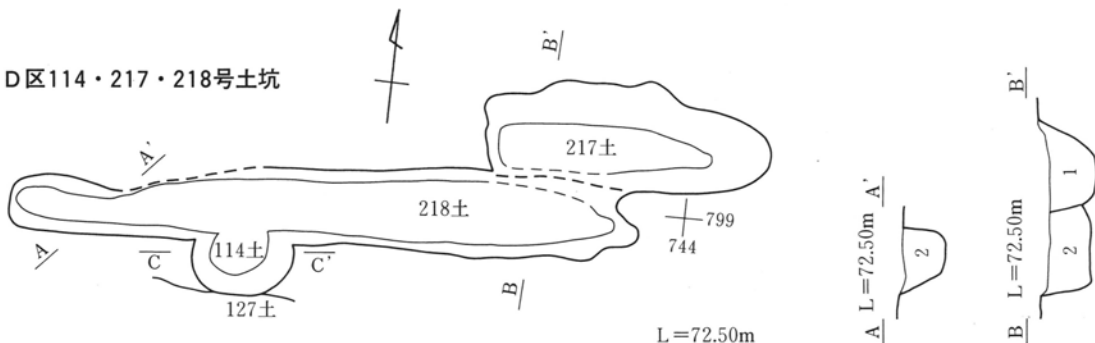
D区101~103号土坑



D区101~103号土坑

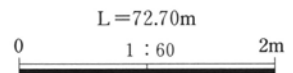
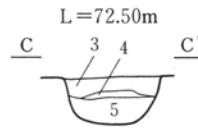
1. 灰褐色土。灰色砂粒を少量含む。
2. 明灰褐色土。シルト質。褐色砂粒を微量含む。  
1・2層は103号土坑埋没土。
3. 灰褐色土。灰色砂粒を少量含むが1層より多い。
4. 暗灰色砂。
5. 暗灰色砂。白色粘質土粒を少量含む。3~5層は101号土坑埋没土。
6. 暗灰褐色土。しまりが強い。褐色砂粒を少量含む。
7. 黒灰色土。白色粘質土を少量含む。
8. 黒灰色土。白色粘質土を少量含むが7層より多い。6~8層は102号土坑埋没土。

D区114・217・218号土坑

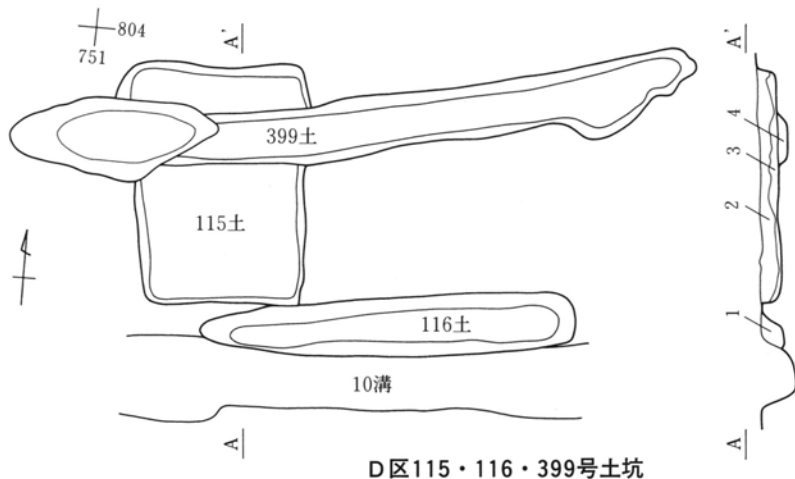


D区114・217・218号土坑

1. 暗灰褐色土。やや粘質。径3cm程の礫を少量含む。217号土坑埋没土。
2. 暗灰褐色土。粘質。地山の黄褐色土粒を多量含む。218号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を微量含む。
4. 灰色土。粘質。暗褐色砂粒を少量含む。
5. 暗褐色砂。灰色粘質土粒を少量含む。3~5層は114号土坑埋没土。



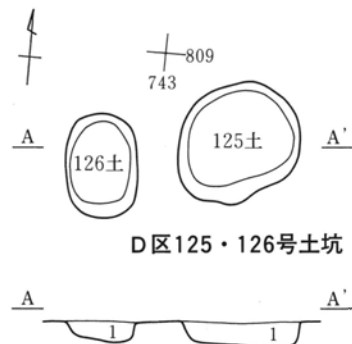
上増田島遺跡C・D区第2面



D区115・116・399号土坑

D区115・116・399号土坑

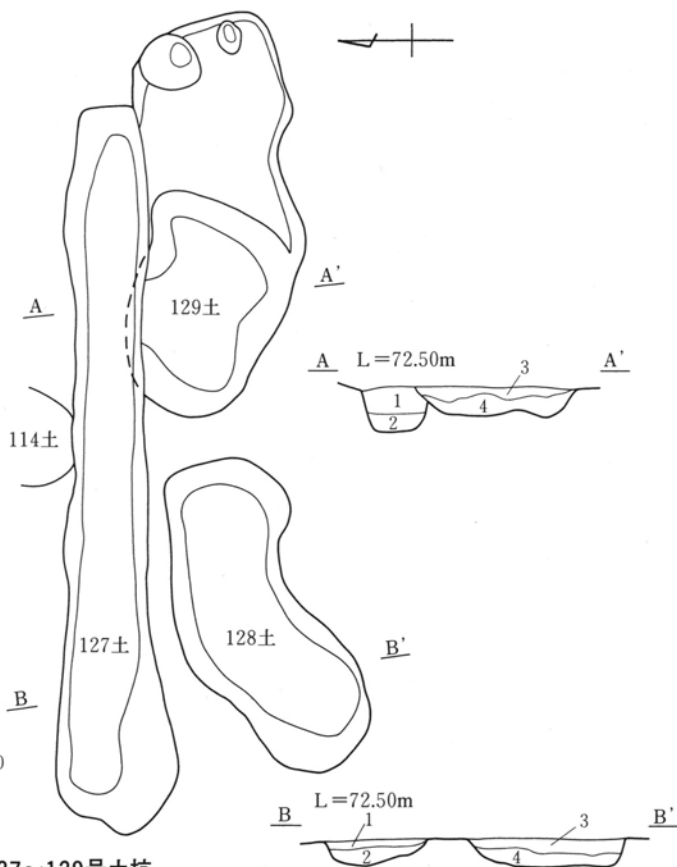
1. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を微量含む。116号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を微量含む。
3. 黒褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。2・3層は115号土坑埋没土。
4. 褐灰色土。砂質。褐色砂粒を少量含む。399号土坑埋没土。



D区125・126号土坑

D区125・126号土坑

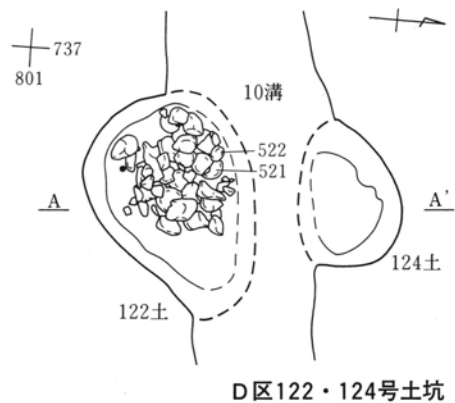
1. 黒褐色土。やや粘質。暗黄褐色土粒をやや多量含む。



D区127～129号土坑

D区127～129号土坑

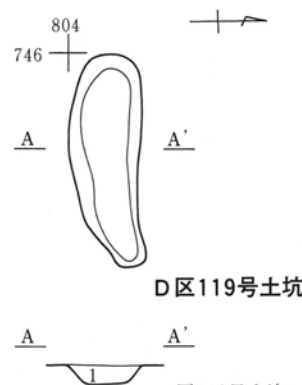
1. 暗灰褐色土。褐色粘土ブロックを微量含む。
2. 暗灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 灰褐色土。灰色粘土ブロックを均一に少量含む。
4. 暗灰褐色土。灰色粘土ブロックを均一に微量含む。



D区122・124号土坑

D区122・124号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。礫を多量、地山の灰黄褐色砂質土を少量含む。122号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。粘質。炭粒を少量含む。124号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。地山の灰黄褐色砂質土ブロックをやや多量含む。10号溝埋没土。



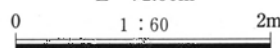
D区119号土坑

D区119号土坑

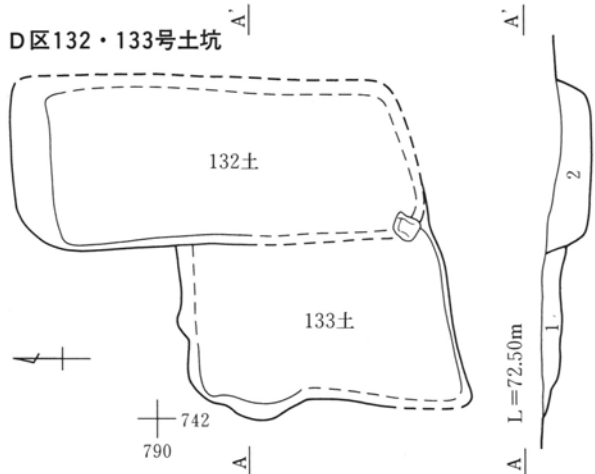
1. 褐灰色土。

L=72.60m

1:60

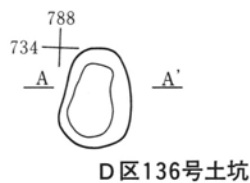


D区132・133号土坑



D区132・133号土坑

1. 暗褐色土。褐色砂を主体に黒褐色土を少量含む。133号土坑埋没土。
2. 暗灰褐色土。灰色粘質土をやや多量、黄色砂質土を少量含む。132号土坑埋没土。

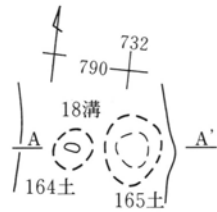


D区136号土坑

D区136号土坑

1. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色砂質土粒を少量、炭粒を微量含む。

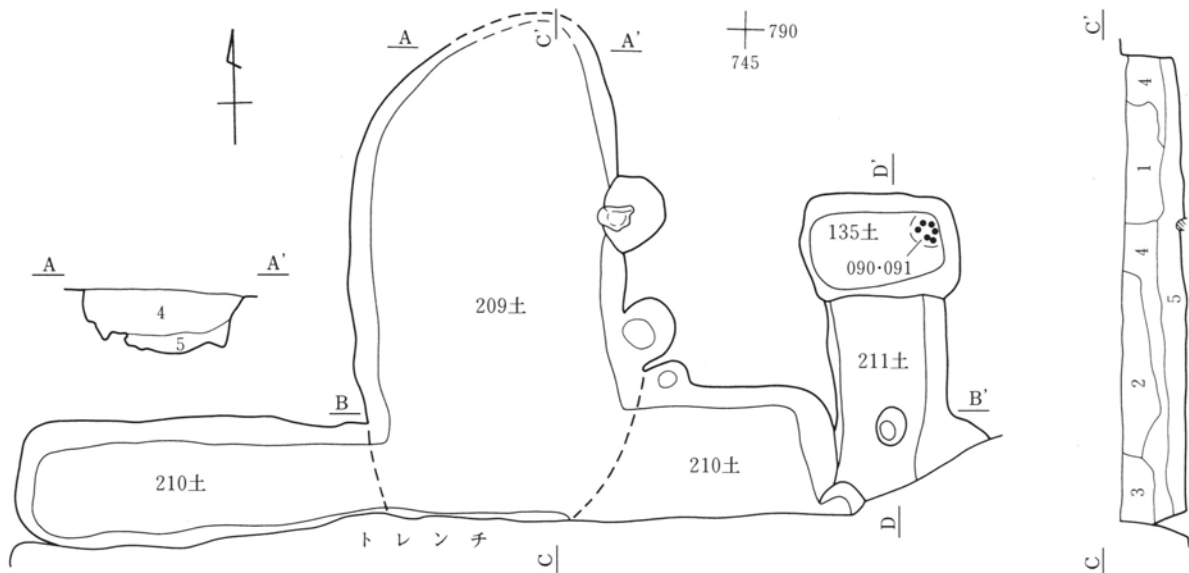
4. 土坑



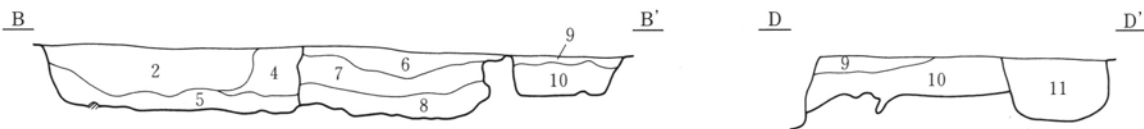
D区164・165号土坑

D区164・165号土坑

1. 黒褐色土。黄色砂質土粒、褐色砂粒を少量含む。
2. 黒褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。

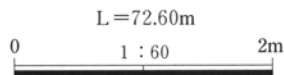


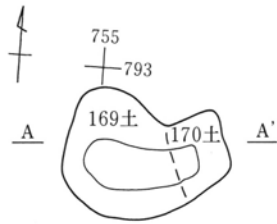
D区135・209~211号土坑



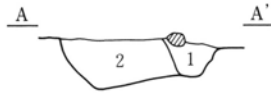
D区135・209~211号土坑

1. 黒褐色土。暗黄褐色粘質土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。1層より明るい。暗黄褐色砂質土を少量含む。
3. 黒褐色土。しまりが弱い。黄色砂質土を少量含む。
4. 暗褐色土。黄褐色粘質土粒をやや多量、灰色粘質土を少量含む。
5. 暗灰褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量、灰色粘質土を少量含む。1~5層は209号土坑埋没土。
6. 黒褐色土。しまりが強い。白色砂粒を微量含む。
7. 暗褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量、白色砂粒・炭粒を微量含む。
8. 暗褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量含む。6~8層は210号土坑埋没土。
9. 黒褐色土。灰色砂粒を少量含む。
10. 暗褐色土。褐色砂粒・黄色砂質土をやや多量含む。9・10層は211号土坑埋没土。
11. 黒褐色土。拳大の礫を少量含む。135号土坑埋没土。



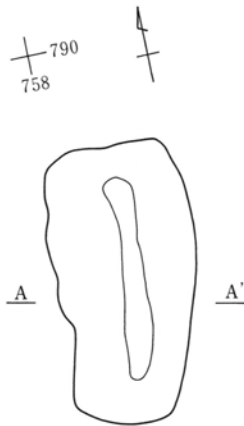


D区169・170号土坑



D区169・170号土坑

1. 灰黄褐色土。径5 cm程の礫を多量含む。170号土坑埋没土。
2. 灰黄褐色土。砂質。白色土粒を微量含む。169号土坑埋没土。

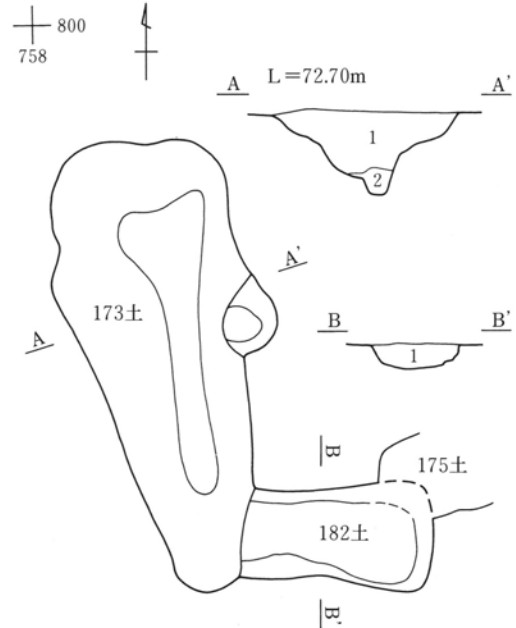


D区172号土坑



D区172号土坑

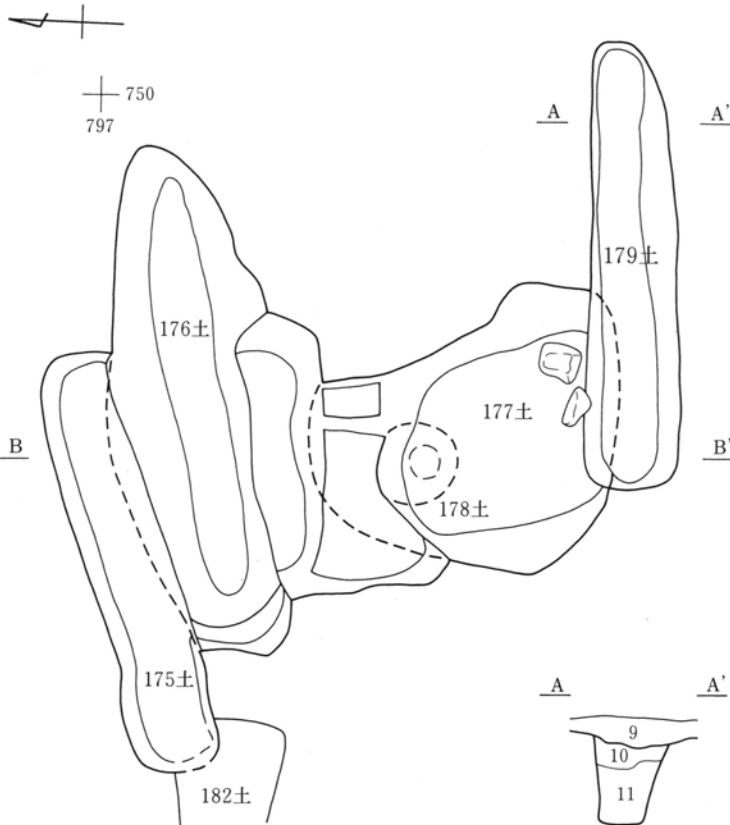
1. 暗褐色土。径1 cm程の礫を少量含む。



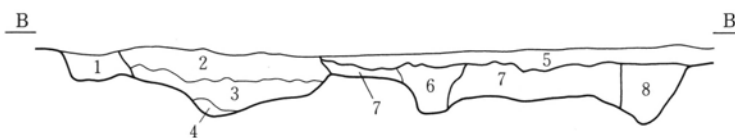
D区173・182号土坑

D区173・182号土坑

1. 灰褐色土。砂質。径1 cm程の礫を多量含む。
2. 灰褐色土。砂質。



D区175～179号土坑



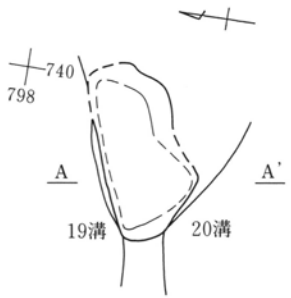
D区175～179号土坑

1. 暗褐色土。径2 cm程の礫を少量含む。175号土坑埋没土。
2. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒・径2 cm以下の礫を少量含む。
3. 灰褐色土。径2 cm以下の礫を少量含む。
4. 暗褐色土。径2 cm以下の礫を少量含む。2～4層は176号土坑埋没土。
5. 暗灰褐色土。しまりが弱い。攪乱。
6. 灰褐色土。白色土粒を微量含む。178号土坑埋没土。
7. 灰褐色土。白色土粒・径2 cm程の礫を少量、炭粒を微量含む。177号土坑埋没土。
8. 灰褐色土。白色土粒を微量含む。6層より黒味が強い。
9. 黒褐色土。黄色砂質土粒・白色砂粒を少量含む。攪乱。
10. 黒褐色土。灰色砂粒・径2 cm程の礫を少量含む。
11. 暗褐色土。灰色砂粒・径2 cm程の礫をやや多量含む。8・10・11層は179号土坑埋没土。

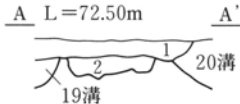
L=72.60m

0 1 : 60 2m

4. 土坑

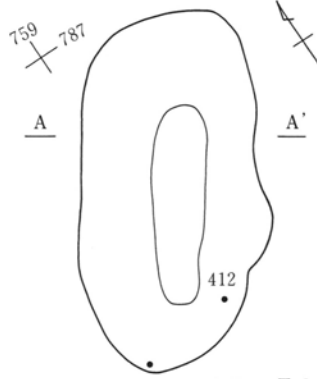


D区180号土坑

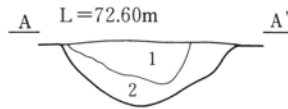


D区180号土坑

1. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。攪乱。
2. 暗灰褐色土。白色土粒・地山の灰黄褐色砂質土を少量含む。

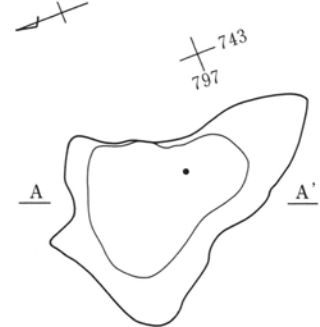


D区183号土坑

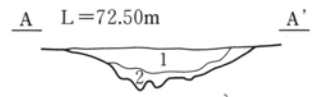


D区183号土坑

1. 暗褐色土。径10cm前後の礫を多量含む。
2. 暗褐色土。しまりが弱い。粗砂・径3cm程の礫を多量含む。

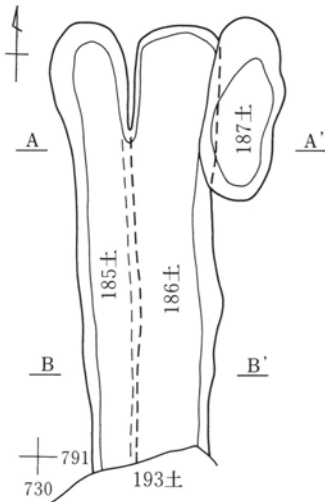


D区184号土坑

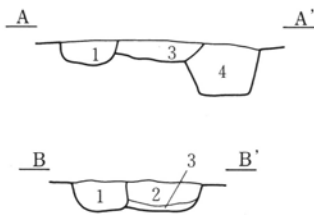


D区184号土坑

1. 灰褐色土。やや粘質。
2. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色砂質土粒を少量含む。

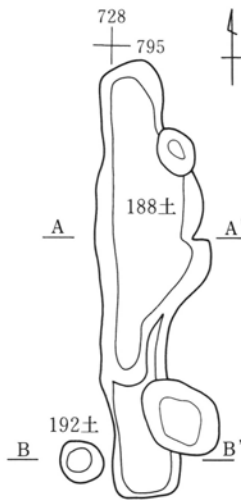


D区185~187号土坑

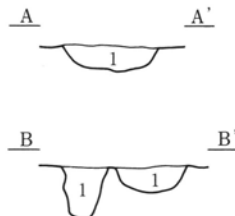


D区185~187号土坑

1. 暗灰色土。砂質。褐色・灰色砂粒を多量含む。185号土坑埋没土。
2. 暗黄褐色土。黄色砂質土を主体に、褐色・灰色砂粒を少量含む。
3. 灰褐色土。やや粘質。黄色砂質土を少量含む。2・3層は186号土坑埋没土。
4. 黒褐色土。褐色・灰色砂粒を少量含む。187号土坑埋没土。

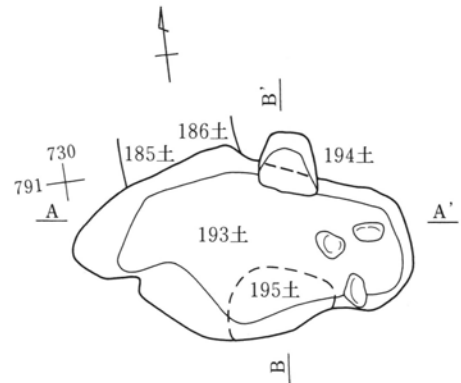


D区188・192号土坑

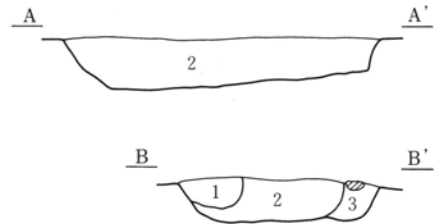


D区188・192号土坑

1. 灰褐色土。褐色砂粒・黄色砂粒・炭粒を少量含む。

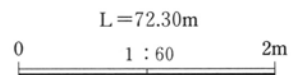


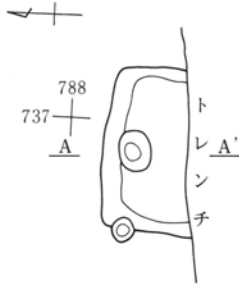
D区193~195号土坑



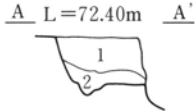
D区193~195号土坑

1. 暗赤褐色土。焼土粒・炭粒を多量含む。195号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。灰色砂粒を均一にやや多量含む。193号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。褐色砂粒を多量含む。194号土坑埋没土。



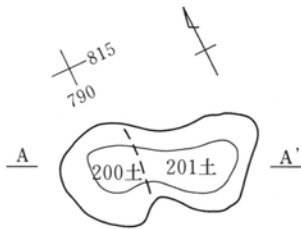


D区196号土坑

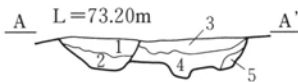


D区196号土坑

1. 暗褐色土。砂質。2層土のブロックを少量、炭粒を微量含む。
2. 灰黄褐色土。径4cm程の礫を少量含む。

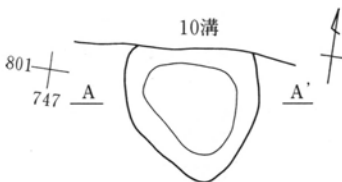


D区200・201号土坑

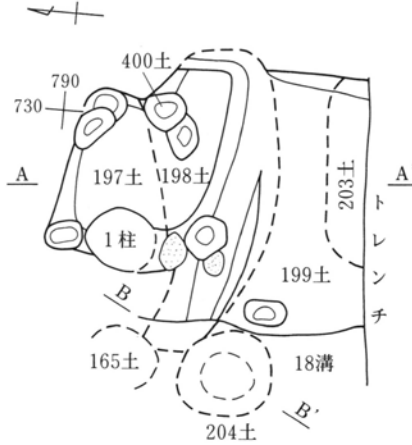


D区200・201号土坑

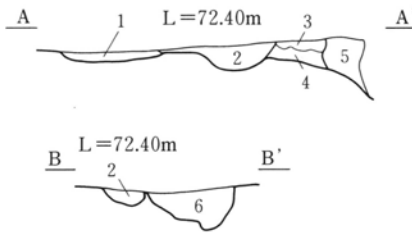
1. 暗褐色土。しまりが強い。白色土粒・炭粒を少量含む。
2. 暗褐色土。炭粒を少量含む。1・2層は200号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒をやや多量含む。
4. 黒褐色土。炭粒を少量含む。
5. 暗褐色土。しまりが弱い。黄褐色砂質土を多量、炭粒を少量含む。3～5層は201号土坑埋没土。



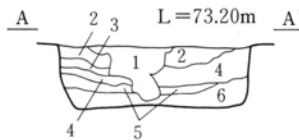
D区206号土坑



D区197～199・203・204号土坑



D区202号土坑

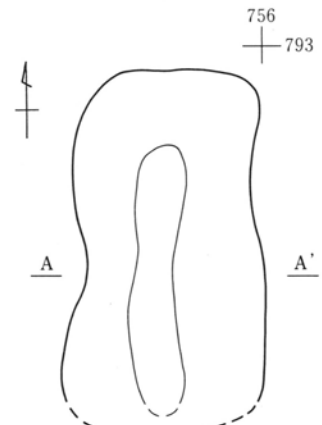


D区202号土坑

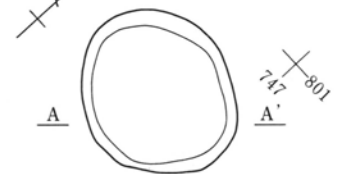
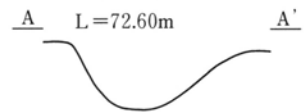
1. 暗灰色土。炭粒をやや多量、暗黄褐色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。焼土・炭粒を微量含む。
3. 黒褐色土。暗黄褐色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。
5. 黒褐色土。灰を均一に少量含む。
6. 暗褐色土。暗黄褐色土を多量、炭粒を少量含む。

D区197～199・203・204号土坑

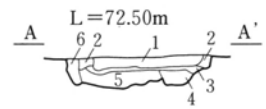
1. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒・黄褐色土ブロックを少量含む。197号土坑埋没土。
2. 灰褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを微量含む。198号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。黄褐色土ブロックを少量含む。
4. 暗褐色土。黄褐色土ブロックをやや多量含む。3・4層は199号土坑埋没土。
5. 黒褐色土。やや粘質。黄褐色土ブロックを少量、径1cm程の礫を微量含む。203号土坑埋没土。
6. 灰褐色土。黄褐色土ブロックを多量含む。



D区207号土坑

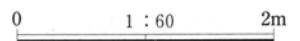


D区208号土坑

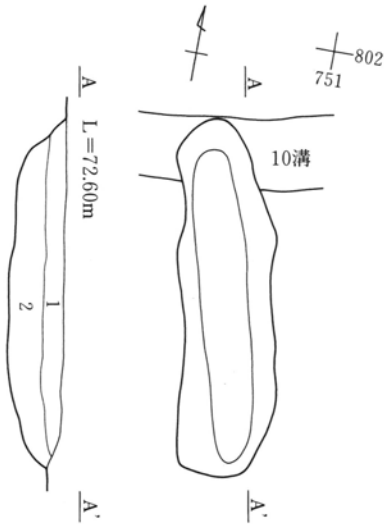


D区208号土坑

1. 暗褐色土。しまりが弱い。砂礫を少量含む。
2. 暗褐色土。黄褐色土粒を多量含む。
3. 黒褐色土。灰白色粘質土粒を少量含む。
4. 灰褐色土。砂礫を多く含む。
5. 灰色土。しまりが強い。砂質。
6. 暗褐色土。白色土粒を少量含む。



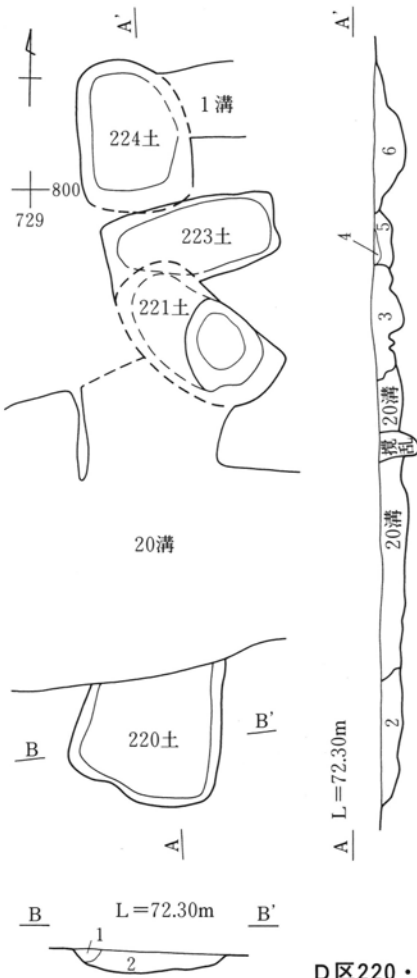
4. 土坑



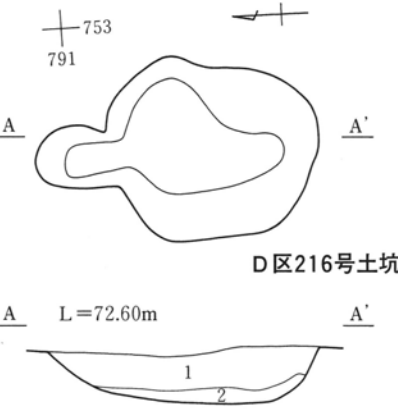
D区213号土坑

D区213号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い。暗黄褐色砂質土ブロック・白色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。白色土粒・径5cm以下の礫を少量含む。



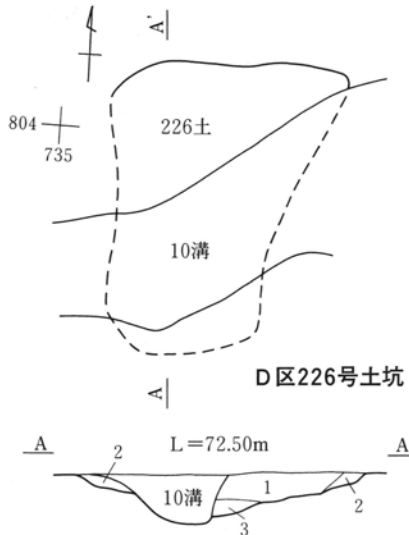
D区220・221・223・224号土坑



D区216号土坑

D区216号土坑

1. 黒褐色土。砂礫を微量含む。
2. 暗褐色土。砂礫を少量含む。



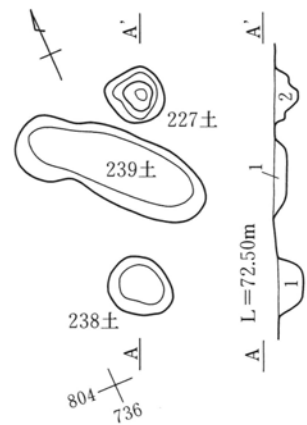
D区226号土坑

D区226号土坑

1. 黒褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。灰黄褐色土粒を多量、白色土粒を少量含む。
3. 灰褐色土。鉄分凝集粒を多量、白色土粒を少量含む。

D区220・221・223・224号土坑

1. 暗黒褐色土。灰色砂粒を少量含む。
2. 暗灰褐色土。砂質。褐色・灰色砂粒を多量含む。1・2層は220号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。やや粘質。炭粒を少量含む。221号土坑埋没土。
4. 黄色土。砂質。5層の土粒を少量含む。
5. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒を少量含む。4・5層は223号土坑埋没土。
6. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒を均一に少量含む。224号土坑埋没土。



D区227・238・239号土坑

D区227・238・239号土坑

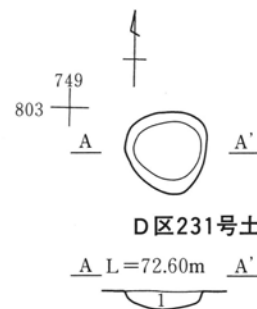
1. 灰褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。灰黄褐色砂質土粒を多量含む。



D区228号土坑

D区228号土坑

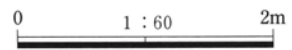
1. 暗灰褐色土。砂礫を多量含む。
2. 暗灰褐色土。砂礫をやや多量含む。

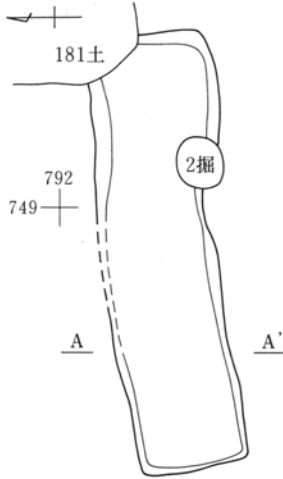


D区231号土坑

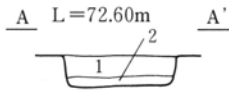
D区231号土坑

1. 灰黄褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。





D区229号土坑



D区229号土坑

1. 暗褐色土。黄色砂質土粒をやや多量、白色砂粒を少量含む。
2. 暗灰色土。白色砂粒を少量含む。

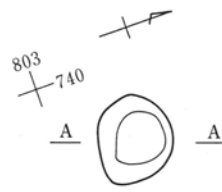


D区232号土坑



D区232号土坑

1. 灰褐色土。
2. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色土粒を少量含む。

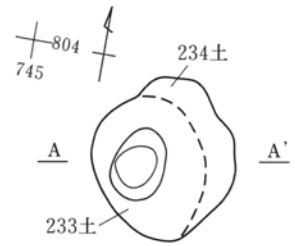


D区235号土坑



D区235号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。灰黄褐色土粒を微量含む。
2. 灰褐色土。砂質。

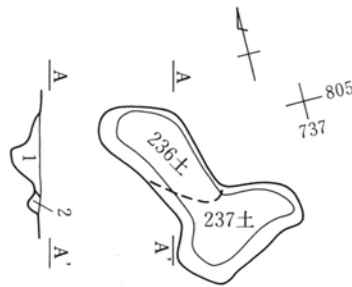


D区233・234号土坑



D区233・234号土坑

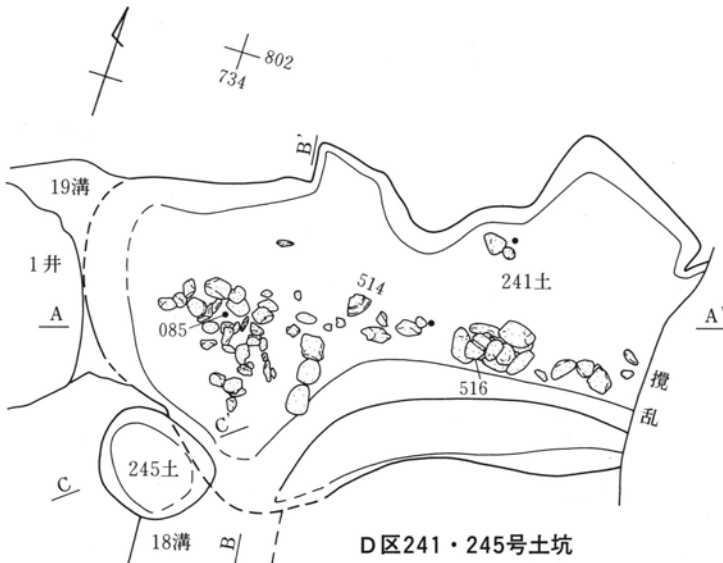
1. 黒褐色土。灰黄褐色砂質土ブロックを少量含む。233号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。灰黄褐色砂質土粒を均一に少量含む。234号土坑埋没土。



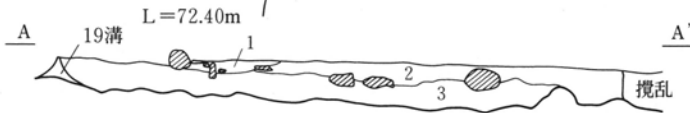
D区236・237号土坑

D区236・237号土坑

1. 灰褐色土。しまりが強い。灰黄褐色砂質土粒・径1cm程の礫を少量含む。236号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。



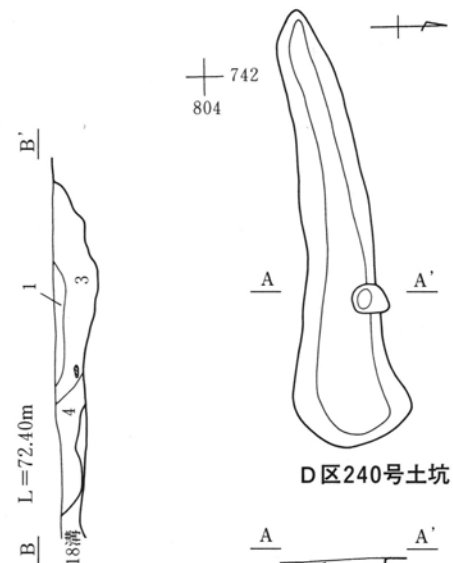
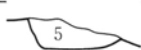
D区241・245号土坑



D区241・245号土坑

1. 明灰色土。灰白色粘質土粒をやや多量含む。
2. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 暗灰色土。しまりが弱い。やや粘質。
4. 灰褐色土。砂質。褐色砂粒・黄色砂質土粒を少量含む。
5. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。

C L=72.40m C'



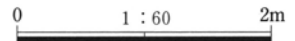
D区240号土坑



D区240号土坑

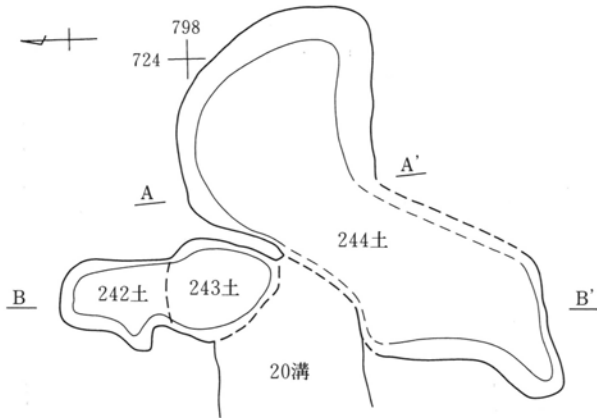
1. 灰褐色土。径1cm以下の礫・白色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色土ブロックを少量含む。
3. 灰褐色土。灰黄褐色土ブロックを微量含む。

L=72.50m

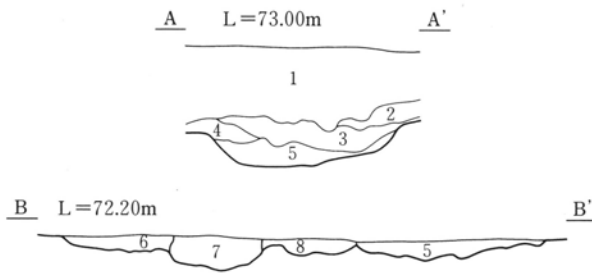




4. 土坑

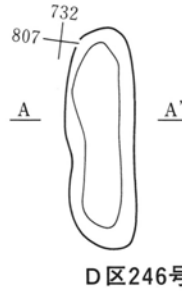


D区242~244号土坑

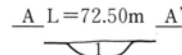


D区242~244号土坑

1. 表土。
2. 暗褐色砂質土。
3. 暗褐色砂質土。2層より黄味が強い。
4. 暗褐色砂質土。3層より黄味が強い。
5. 黄褐色砂質土。244号土坑埋没土。
6. 暗灰色土。しまりが弱い。炭粒をやや多量含む。242号土坑埋没土。
7. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒をやや多量含む。243号土坑埋没土。
8. 褐色砂。20号溝埋没土。

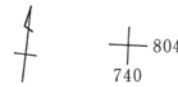


D区246号土坑

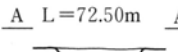


D区246号土坑

1. 暗褐色土。暗灰色砂粒を少量含む。

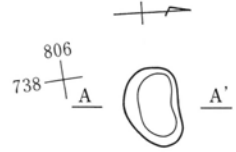


D区250号土坑

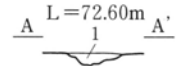


D区250号土坑

1. 暗黒褐色土。黄褐色砂質土粒・灰粘質土粒を少量含む。

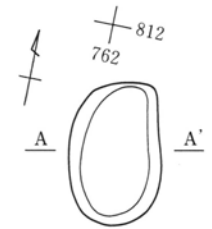


D区247号土坑



D区247号土坑

1. 暗黒褐色土。径3cm以下の礫をやや多量含む。

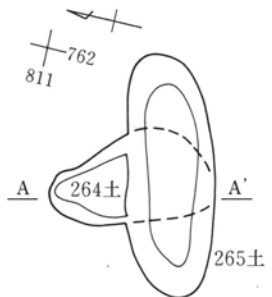


D区260号土坑

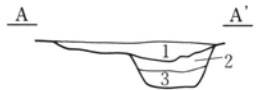


D区260号土坑

1. 黒褐色土。しまりがやや弱い。径1cm程の礫を少量、炭粒を微量含む。



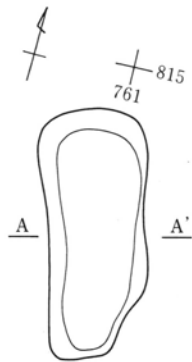
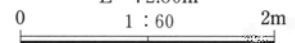
D区264・265号土坑



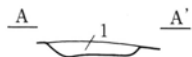
D区264・265号土坑

1. 暗黄褐色土。しまりが強い。径4cm以下の礫を少量、白色土粒を微量含む。264号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。径4cm程の礫をやや多量含む。
3. 暗灰褐色土。しまりが弱い。径4cm程の礫を少量含む。2・3層は265号土坑埋没土。

L=72.80m

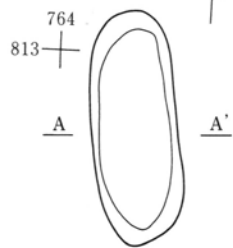


D区261号土坑

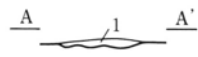


D区261号土坑

1. 黒褐色土。しまりがやや弱い。径1cm程の礫を少量、炭粒を微量含む。

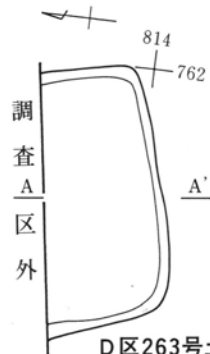


D区262号土坑

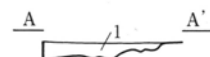


D区262号土坑

1. 暗黄褐色土。しまりが強い。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。



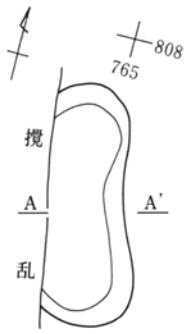
D区263号土坑



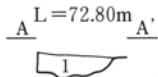
D区263号土坑

1. 暗黄褐色土。しまりが強い。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。

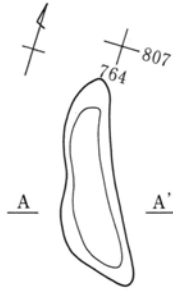
上増田島遺跡C・D区第2面



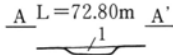
D区266号土坑



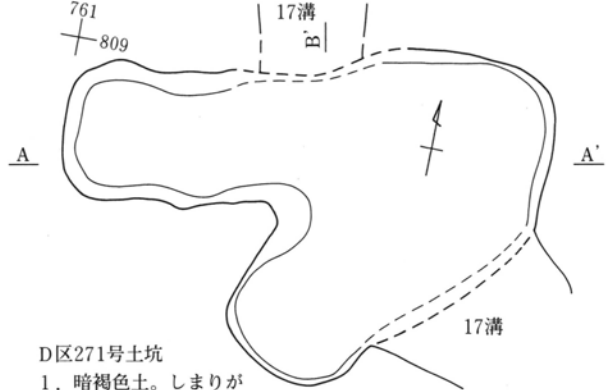
D区266号土坑  
1. 暗黄褐色土。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。



D区267号土坑



D区267号土坑  
1. 暗黄褐色土。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。

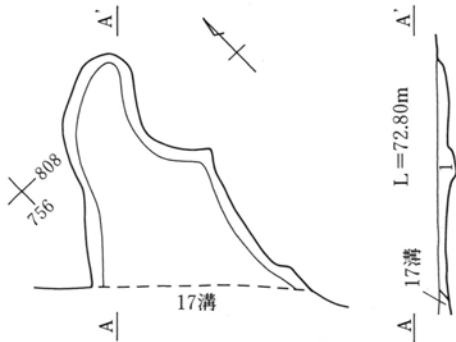


D区271号土坑

1. 暗褐色土。しまりが弱い。径3cm以下の礫を少量含む。

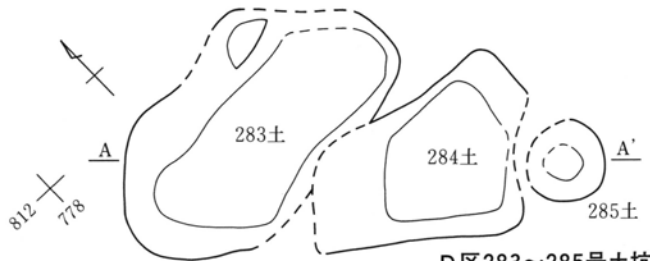


D区271号土坑

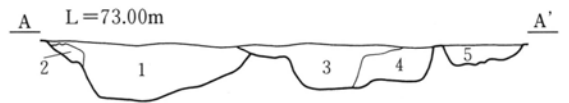


D区272号土坑

D区272号土坑  
1. 暗褐色土。しまりが弱い。径1cm程の礫を少量含む。

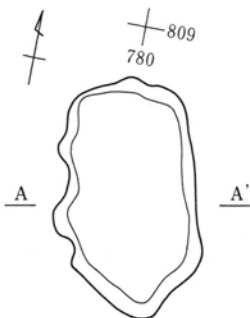


D区283~285号土坑

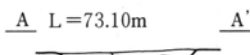


D区283~285号土坑

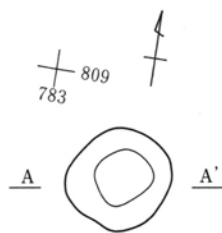
1. 暗褐色土。白色土粒・炭粒を少量、焼土粒・径1cm程の礫を微量含む。  
2. 暗黄褐色土。白色土粒を少量含む。1・2層は283号土坑埋没土。  
3. 暗褐色土。しまりが強い。炭粒を少量含む。  
4. 川砂と黒褐色土の互層。しまりが弱い。3・4層は284号土坑埋没土。  
5. 暗黄褐色土。しまりが弱い。2cm以下の礫を少量、焼土粒・炭粒を微量含む。



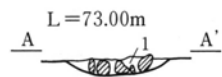
D区280号土坑



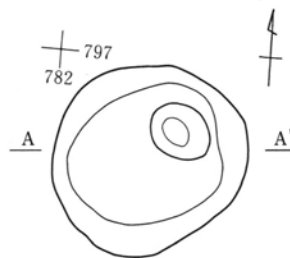
D区280号土坑  
1. 暗褐色土。しまりが弱い。焼土粒・炭粒を少量含む。



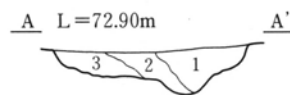
D区281号土坑



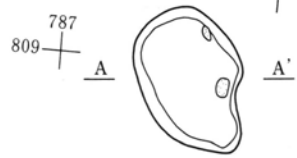
D区281号土坑  
1. 暗褐色土。径15cm程の礫を多量、黄色砂質土を少量含む。



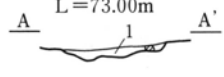
D区289号土坑



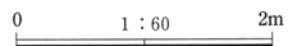
D区289号土坑  
1. 黒褐色土。黄褐色砂質土が均一に少量含む。  
2. 灰褐色土。しまりが悪い。川砂を多量含む。  
3. 灰褐色土。川砂を微量含む。

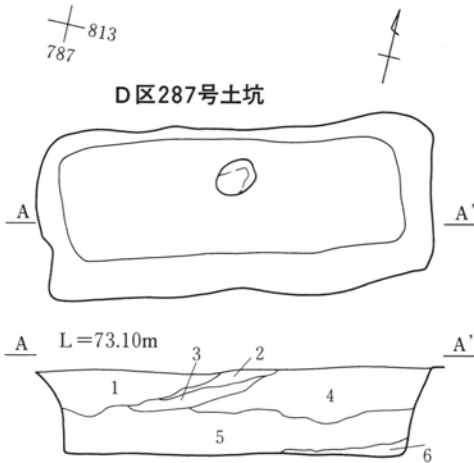


D区282号土坑



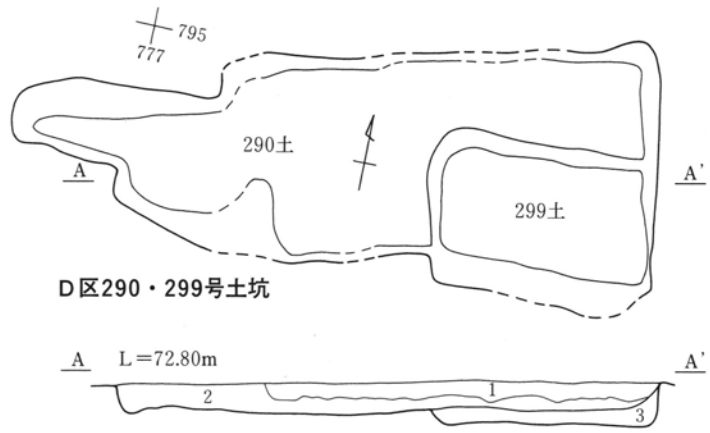
D区282号土坑  
1. 暗黄褐色土。焼土粒・灰を多量、黄色砂質土粒を多量含む。





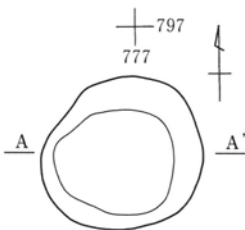
D区287号土坑

1. 灰褐色土。暗黄褐色砂質土粒を多量、白色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。炭粒を少量含む。
3. 灰褐色土。白色土粒・炭粒を微量含む。下層は粘質土から成る。
4. 暗褐色土。白色土粒・暗褐色土粒を少量、炭粒を微量含む。
5. 灰褐色土。しまりが弱い。白色土粒を多量含む。
6. 暗灰褐色土。粘質。



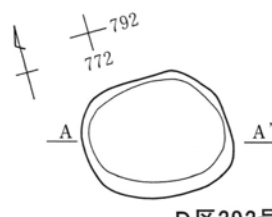
D区290・299号土坑

1. 暗灰褐色土。暗褐色土粒を均一に少量含む。
2. 暗褐色土。白色土粒を少量含む。1・2層は290号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。しまりが弱い。砂礫を少量含む。299号土坑埋没土。



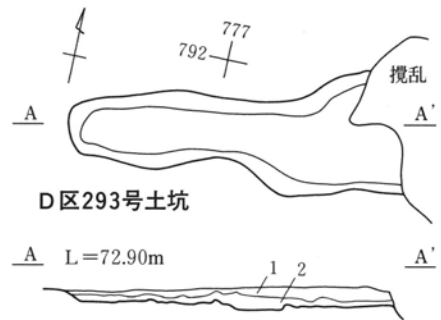
D区291号土坑

1. 灰褐色土。粘質。
2. 暗褐色土。砂質。白色土粒を少量含む。
3. 暗褐色土。灰褐色砂質土ブロックを少量含む。



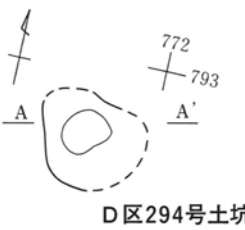
D区292号土坑

1. 黒褐色土。2層の灰褐色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。暗灰褐色土ブロックを少量、径2cm程の礫を微量含む。



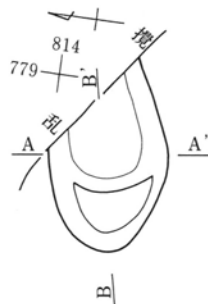
D区293号土坑

1. 暗褐色土。炭粒・白色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。砂礫を多量含む。



D区294号土坑

1. 暗灰褐色土。炭粒・白色土粒を微量含む。
2. 灰褐色土。砂質。



D区296号土坑

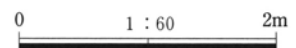
D区296号土坑

1. 暗灰褐色土。しまりが弱い。白色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。やや粘質。1層の暗褐色土粒をやや多量含む。
3. 灰褐色土。やや粘質。炭粒を少量含む。
4. 暗褐色土。粘質。砂礫を少量含む。



D区298号土坑

1. 暗褐色土。やや粘質。白色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。灰色粘質土粒をやや多量含む。



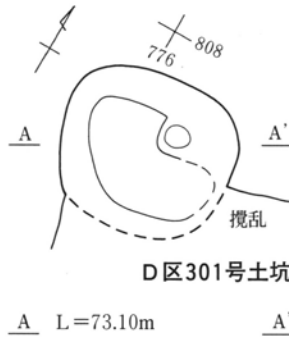


D区300号土坑

D区300号土坑

L=73.20m

1. 黒褐色土。やや粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を微量含む。
2. 黒色土。やや粘質。黄色砂質土粒を微量含む。
3. 黒色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。

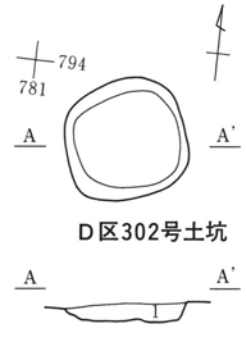


D区301号土坑

L=73.10m

D区301号土坑

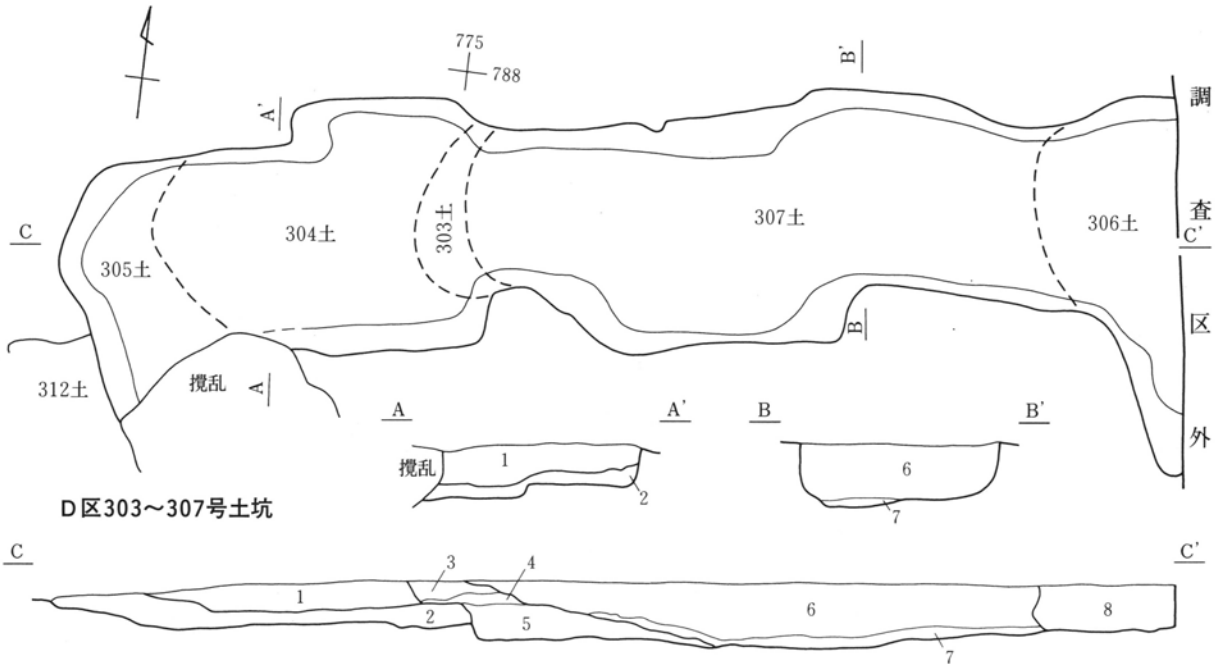
1. 暗褐色土。焼土粒・炭粒を均一に少量含む。



D区302号土坑

D区302号土坑

1. 暗灰褐色土。灰色粘質土粒を少量含む。



D区303~307号土坑

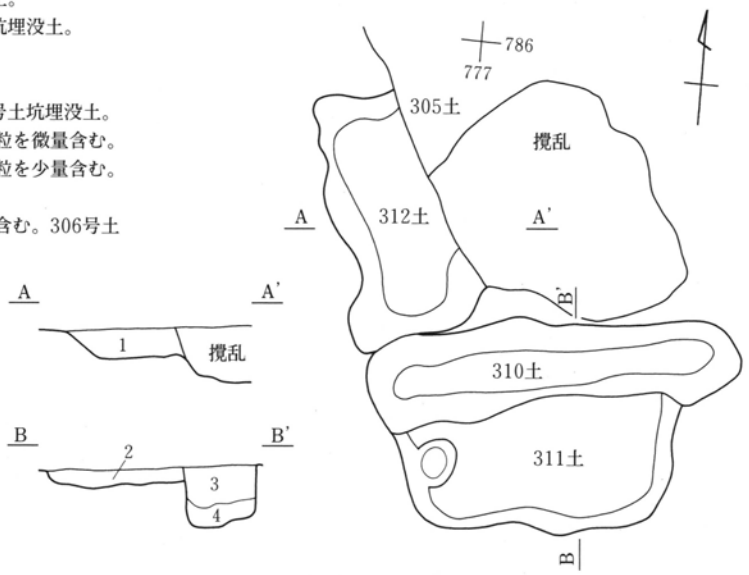
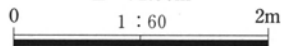
D区303~307号土坑

1. 暗褐色土。褐色砂粒を少量含む。304号土坑埋没土。
2. 暗灰褐色土。褐色砂粒をやや多量含む。305号土坑埋没土。
3. 黄褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。
4. 暗灰褐色土。やや粘質。褐色砂粒を少量含む。
5. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。3~5層は303号土坑埋没土。
6. 黒褐色土。しまりが弱い。白色土粒・黄色砂質土粒を微量含む。
7. 黒褐色土。しまりが弱い。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。6・7層は307号土坑埋没土。
8. 黒褐色土。粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。306号土坑埋没土。

D区310~312号土坑

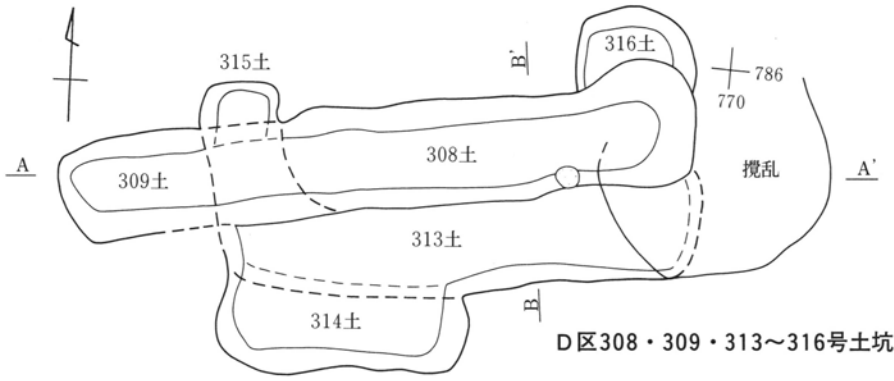
1. 暗褐色土。しまりが弱い。黄色砂粒を多量含む。
2. 黄色砂。黒褐色土粒を少量含む。311号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。黄色砂質土を少量含む。
4. 暗褐色土。黄色砂質土をやや多量含む。3・4層は310号土坑埋没土。

L=72.80m

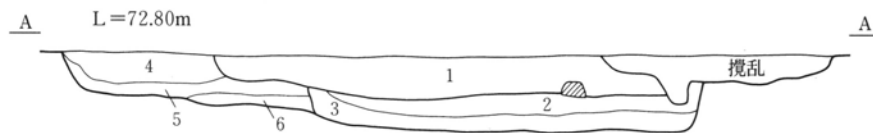


D区310~312号土坑

4. 土坑

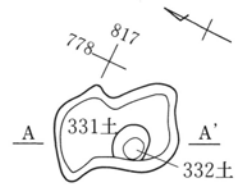
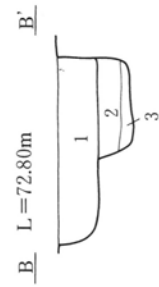


D区308・309・313~316号土坑

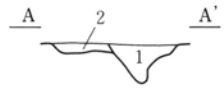


D区308・309・313号土坑

1. 黒褐色土。粘質。白色土粒を少量、黄色砂質土粒を微量含む。313号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。
3. 黒褐色土。粘質。黄色砂質土粒をやや多量、白色土粒を少量含む。2・3層は308号土坑埋没土。
4. 暗褐色土。黒色粘質土粒を少量、白色土粒を微量含む。
5. 暗褐色土。粘質。黄色砂質土粒を少量含む。
6. 暗褐色土。粘質。黄色砂質土粒をやや多量含む。4~6層は309号土坑埋没土。

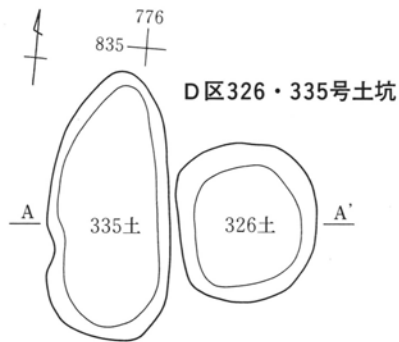


D区331・332号土坑



D区331・332号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。332号土坑埋没土。
2. 暗褐色土。白色土粒を少量含む。331号土坑埋没土。

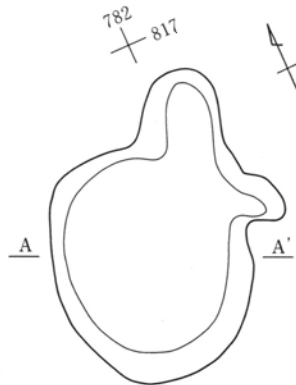


D区326・335号土坑

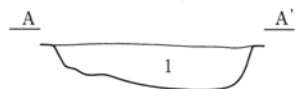


D区326・335号土坑

1. 暗褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
2. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量、炭粒を微量含む。

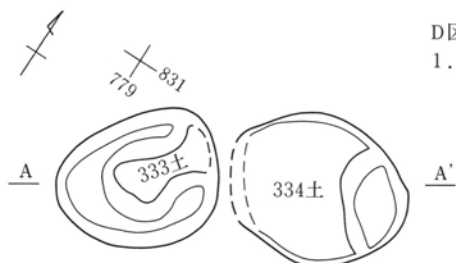


D区328号土坑



D区328号土坑

1. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量、炭粒・灰色粘質土粒を微量含む。

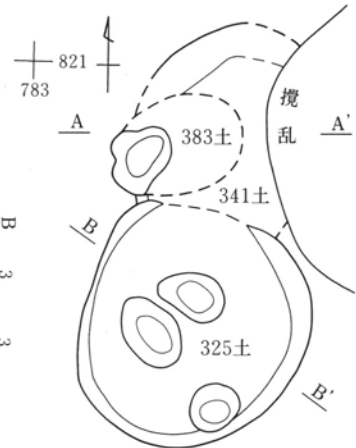


D区333・334号土坑

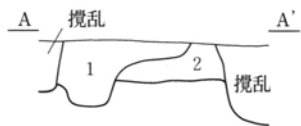


D区333・334号土坑

1. 黒褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒をやや多量含む。
2. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。



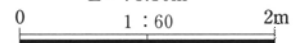
D区325・341・383号土坑



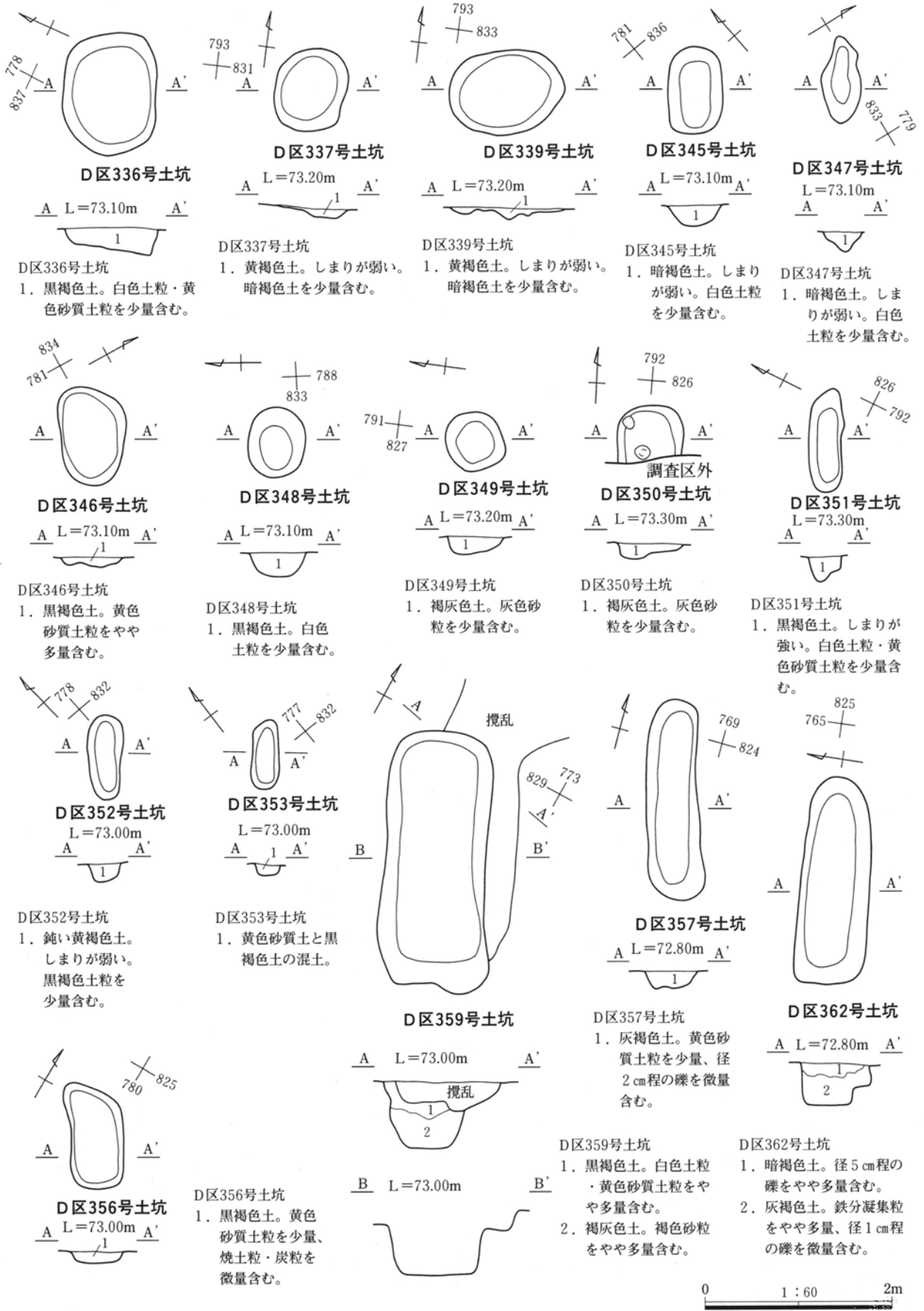
D区325・341・383号土坑

1. 黄褐色土。しまりが弱い。暗褐色土粒を均一に少量含む。383号土坑埋没土。
2. 灰褐色土。黄色砂質土粒・褐色砂質土粒を少量含む。341号土坑埋没土。
3. 黄色砂質土。白色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。黄色砂質土を少量、白色土粒を微量含む。

L=73.10m

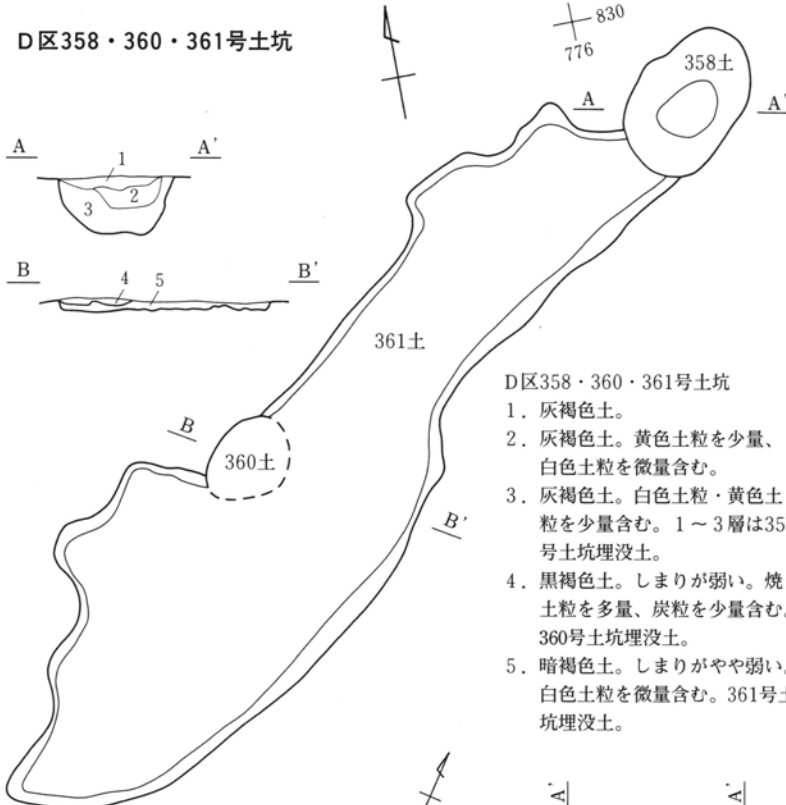


上増田島遺跡C・D区第2面



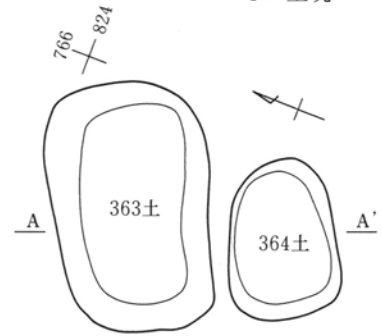
4. 土坑

D区358・360・361号土坑

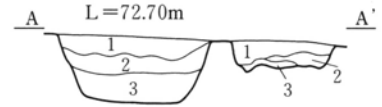


D区358・360・361号土坑

1. 灰褐色土。
2. 灰褐色土。黄色土粒を少量、白色土粒を微量含む。
3. 灰褐色土。白色土粒・黄色土粒を少量含む。1～3層は358号土坑埋没土。
4. 黒褐色土。しまりが弱い。焼土粒を多量、炭粒を少量含む。360号土坑埋没土。
5. 暗褐色土。しまりがやや弱い。白色土粒を微量含む。361号土坑埋没土。

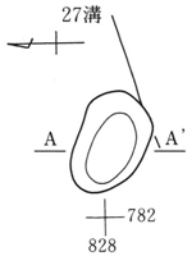


D区363・364号土坑



D区363・364号土坑

1. 灰黄褐色土。黄色砂質土粒を少量、径1cmほどの礫を微量含む。
2. 灰黄褐色土。径10cm程の礫を少量含む。
3. 灰褐色土。鉄分凝集粒をやや多量、径1cm程の礫を微量含む。

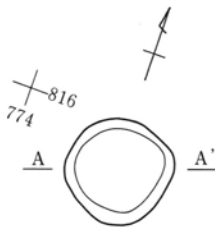


D区366号土坑

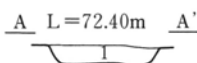


D区366号土坑

1. 黄褐色土。しまりが弱い。黒色土粒を微量含む。



D区368号土坑



D区368号土坑

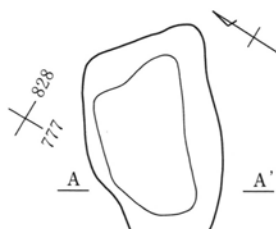
1. 黒褐色土。しまりが弱い。白色土粒を少量含む。



D区367号土坑

D区367号土坑

1. 黄褐色土。白色土粒・黄褐色砂質土粒を少量含む。

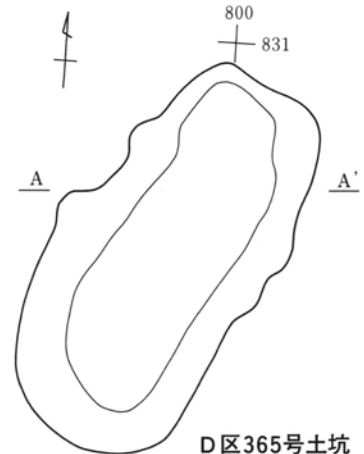


D区373号土坑

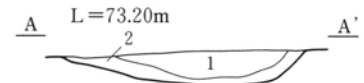


D区373号土坑

1. 暗黄褐色土。黄色土粒をやや多量含む。
2. 灰褐色土。黄色土粒を少量含む。
3. 灰褐色土。

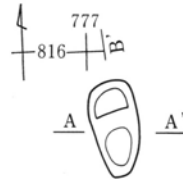


D区365号土坑

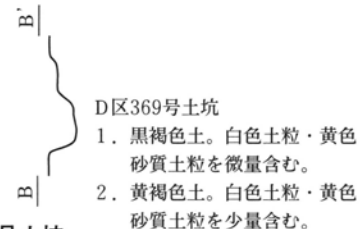


D区365号土坑

1. 黒褐色土。粘質。
2. 黄褐色土。しまりがやや弱い。灰黄褐色土粒をやや多量含む。

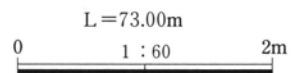


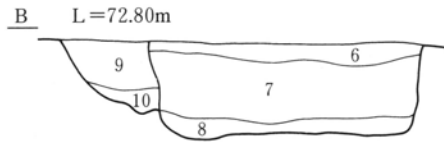
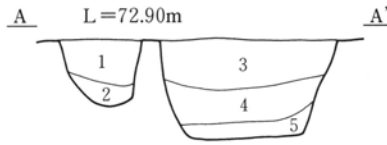
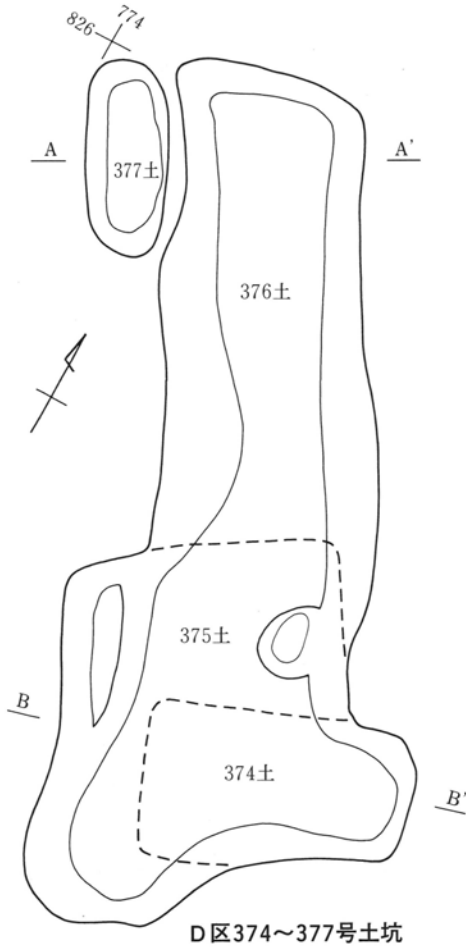
D区369号土坑



D区369号土坑

1. 黒褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を微量含む。
2. 黄褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。

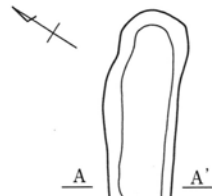




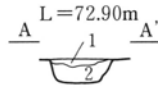
D区374~377号土坑

1. 暗褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。灰色粘質土粒を少量含む。
3. 黒褐色土。しまりが弱い。白色土粒を少量含む。
4. 暗褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。
5. 暗褐色土。やや砂質。灰色粘質土粒を少量含む。
6. 灰褐色土。砂質。褐色砂粒・白色土粒を少量含む。

7. 灰白色土。砂質。褐色砂粒を微量含む。
8. 暗褐色土。砂質。灰色粘質土粒を少量含む。6~8層は374号土坑埋没土。
9. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。
10. 暗褐色土。灰色砂粒を少量含む。9・10層は375号土坑埋没土。

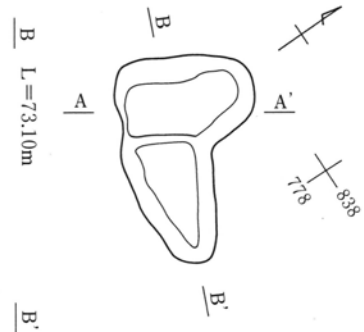


D区378号土坑

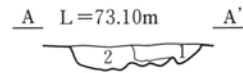


D区378号土坑

1. 灰褐色土。白色土粒・炭粒を微量含む。
2. 灰白色土。白色土粒を少量含む。



D区379号土坑

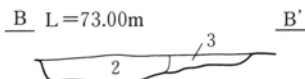
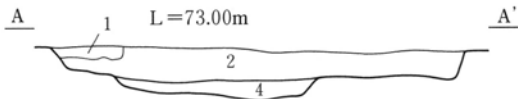


D区379号土坑

1. 暗褐色土。しまりが弱い。黄色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。黄色土粒を微量含む。

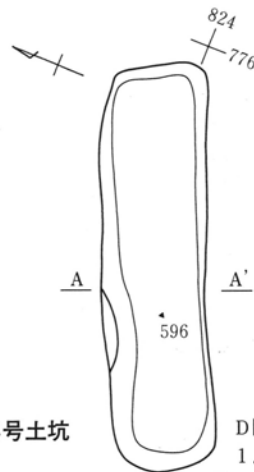


D区393・394号土坑

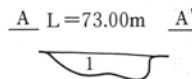


D区393・394号土坑

1. 灰白色土。粘質。
2. 黒褐色土。白色土粒をやや多量、黄色砂質土粒を少量含む。
3. 暗褐色土。砂礫をやや多量含む。1~3層は394号土坑埋没土。
4. 灰褐色土。粘質。砂礫を少量含む。393号土坑埋没土。

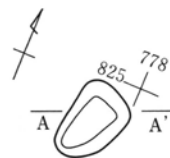


D区384号土坑

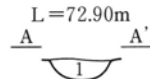


D区384号土坑

1. 暗褐色土。粘質。白色土粒を少量含む。

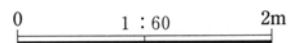


D区382号土坑

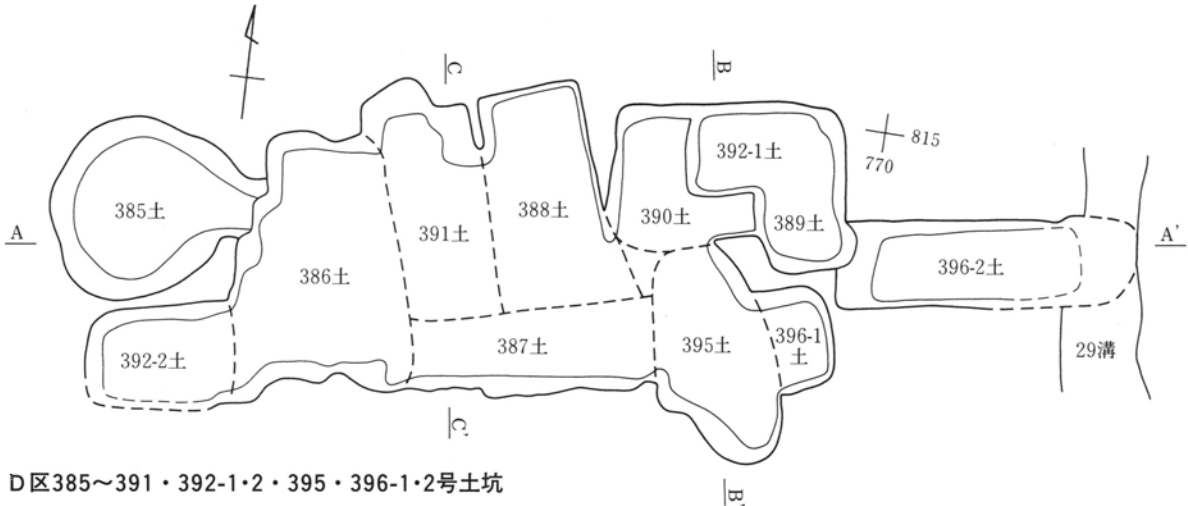


D区382号土坑

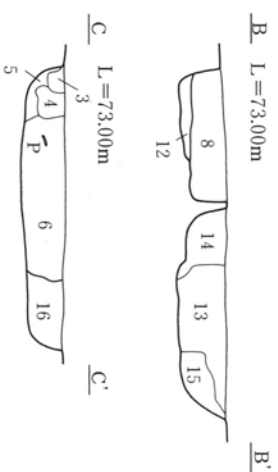
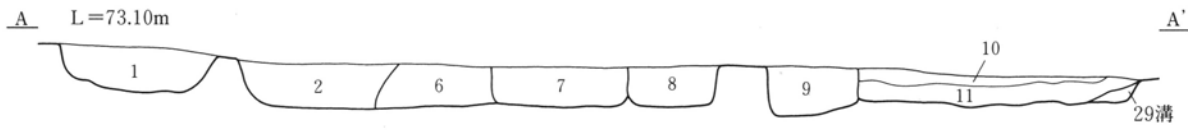
1. 鈍い黄褐色土。白色土粒を少量含む。





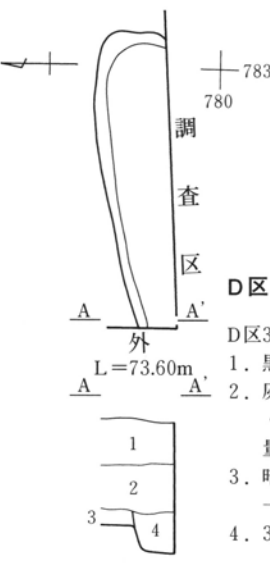


D区385~391・392-1・2・395・396-1・2号土坑



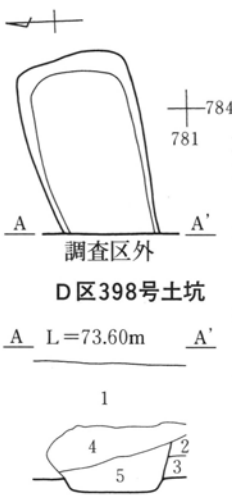
D区385~391・392-1・2・395・396-1・2号土坑

1. 黒褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒をやや多量、径2cm程の礫を少量含む。385号土坑埋没土。
2. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量、褐灰色粘質土粒を均一に少量含む。386号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。黄色砂質土をブロック状にやや多量含む。
4. 黄褐色土。黄色砂質土を主体として、灰色砂粒を多量含む。3・4層は攪乱か。
5. 暗褐色土。灰色砂粒を多量含む。
6. 褐灰色土。やや粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。5・6層は391号土坑埋没土。
7. 黒褐色土。やや粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。388号土坑埋没土。
8. 褐灰色土。白色砂粒・黄色砂質土粒を少量含む。390号土坑埋没土。
9. 黒褐色土。黄色粘質土粒をやや多量含む。389号土坑埋没土。
10. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒をやや多量含む。
11. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。10・11層は396-2号土坑埋没土。
12. 褐灰色土。8層より暗い。灰色砂粒・黄色砂質土粒を少量含む。392-1号土坑埋没土。
13. 黒褐色土。黄色砂質土粒をやや多量、白色土粒を少量含む。
14. 褐灰色土。黄色砂質土粒・灰色粘質土粒をやや多量、白色土粒を少量含む。
15. 暗黒褐色土。黄色粘質土ブロックをやや多量含む。13~15層は395号土坑埋没土。
16. 褐灰色土。白色土粒・褐色砂粒を少量含む。387号土坑埋没土。



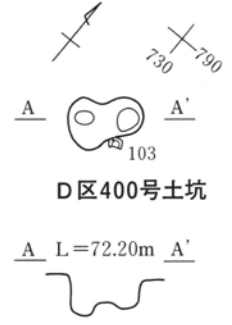
D区397号土坑

- D区397号土坑
1. 黒色土。表土。
  2. 灰褐色土。白色土粒・焼土粒・炭粒を微量含む。
  3. 暗褐色土。砂礫を均一に少量含む。
  4. 397号土坑埋没土。

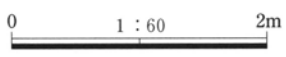


D区398号土坑

- D区398号土坑
1. 黒褐色土。攪乱を伴う表土。
  2. 灰褐色土。白色土粒・焼土粒・炭粒を微量含む。
  3. 暗褐色土。砂礫を均一に少量含む。
  4. 暗黄褐色土。しまりが強い。
  5. 暗褐色土。黄色砂粒を微量含む。4・5層は398号土坑埋没土。



D区400号土坑



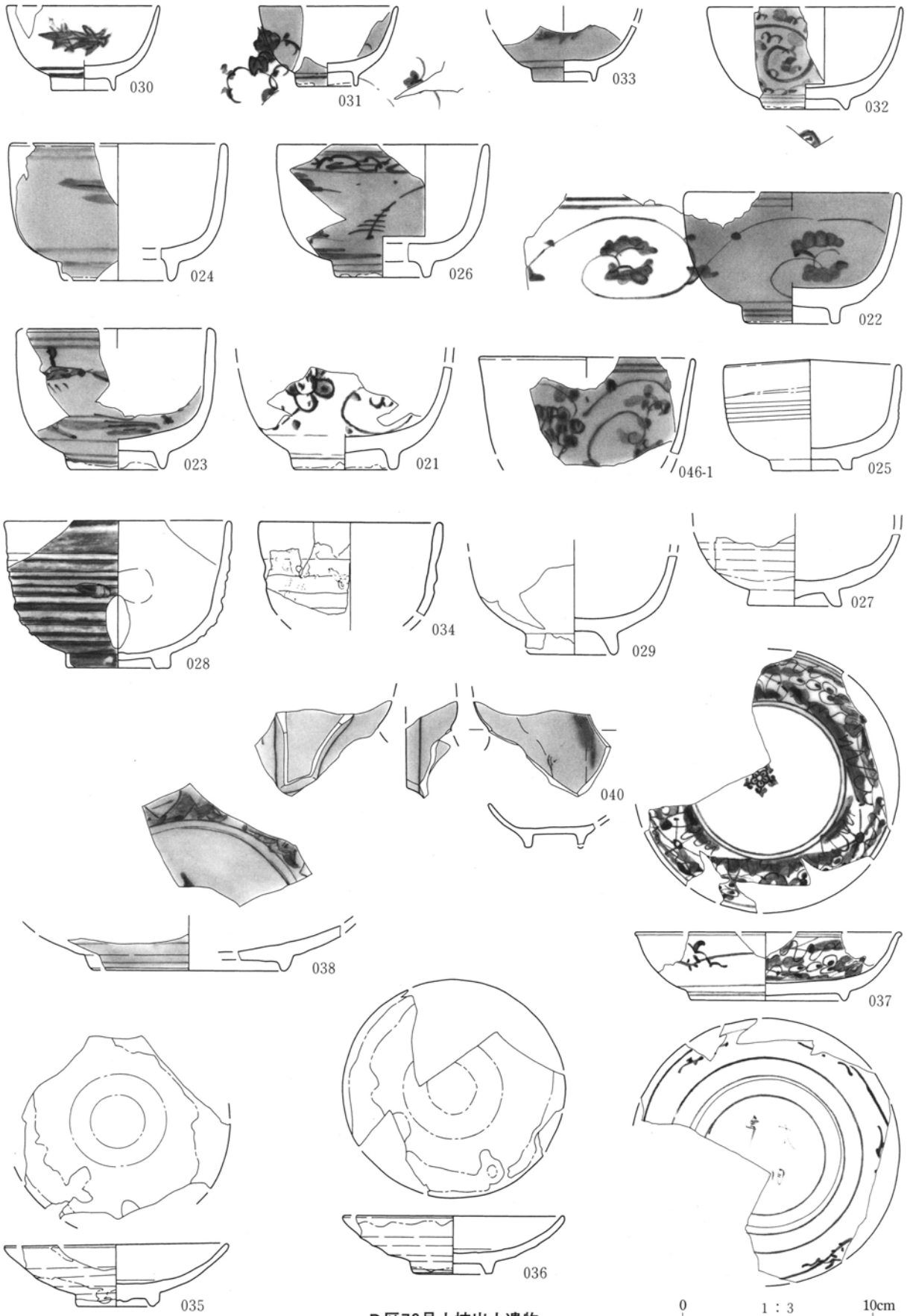


C区14号土坑出土遺物

C区14号土坑遺物観察表

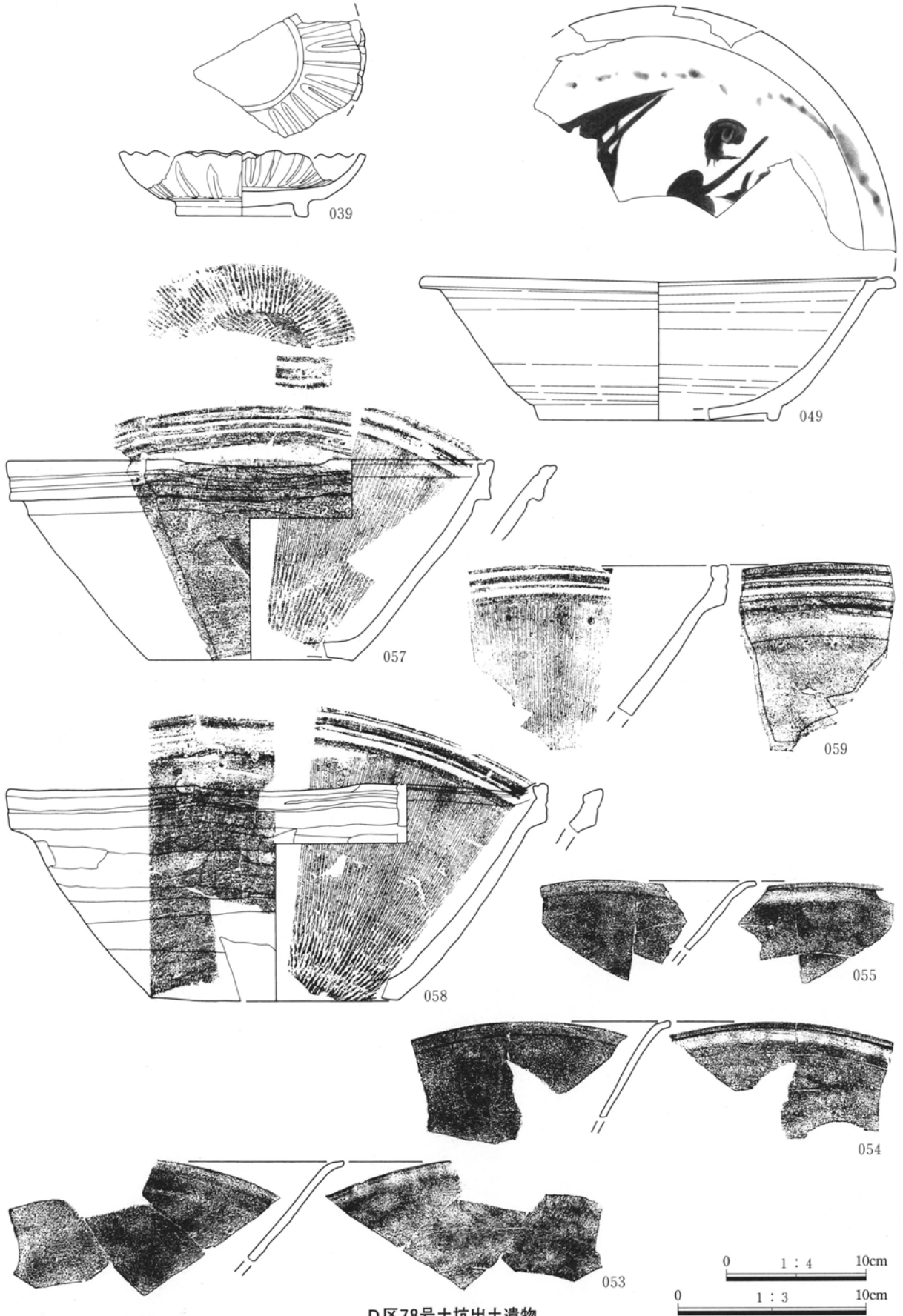
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴		残存状態備考
375	陶器 具器手碗	埋没土	口径 — 底径 (5.1) 器高 4.7+	肥高。高台の扱いは浅い。高台端部摩滅する。細かい貫入の入る透明釉を施す。		体部下位以下3/4残。17世紀。
376	陶器 菊皿	埋没土	口径 — 底径 (6.4) 器高 2.2	瀬戸・美濃。内面から高台脇に灰釉を施す。見込みに目痕2ヶ所残る。		体部下位以下1/2残。17世紀~18世紀初頃。
377	磁器 小碗	埋没土・D区10溝埋没土	口径 (6.3) 底径 — 器高 3.6+	製作地不詳。外面不明文様の染め付け。		口縁~体部中位1/3残。
番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形等の特徴	残存状態備考
407	埴輪 円筒	埋没土・16土埋没土	器高 4.2+ 器厚 1.5~3.0	①白色鉱物・石英・粗砂 ②普通 ③外 橙5YR 6/6 内 鈍い赤褐5YR4/4	器表の摩滅が顕著。外面 タテハケ後突帯貼り付け、突帯台形で下稜が突出。内面 ナデ、最下位に指押さえと思われる圧痕が残る。	突帯破片。
408	埴輪 円筒	埋没土	器高 7.3+ 器厚 1.6~2.1	①粗砂・白色鉱物、微量の石英・赤褐色鉱物 ②普通 ③灰白10YR8/2	外面 2cm 9本のタテハケ後突帯貼り付け、突帯M字形で上稜が突出。内面 ナナメ方向ナデ。	突帯を含む胴部破片。
番号	種類	出土位置	計測値	器形等の特徴		残存状態備考
499	石製品 粉ひき白上白	埋没土	上面径 約28 高さ 8.2~12.9 上縁幅 2.4 同高さ 2.5 含み 1.2 重量 1956.6 粗粒輝石安山岩	器表はやや雑な仕上げ。上縁上面は摩滅する。底面は摩滅し、片減りが著しい。		1/8残。
500	石製品 砥石	埋没土	長さ 14.7 幅 7.2 厚さ 4.5~5.0 重量 925.8 砂岩	磨面は主に1面で使用により湾曲するが、他の面にも筋状の擦痕がある。		完形。

4. 土坑



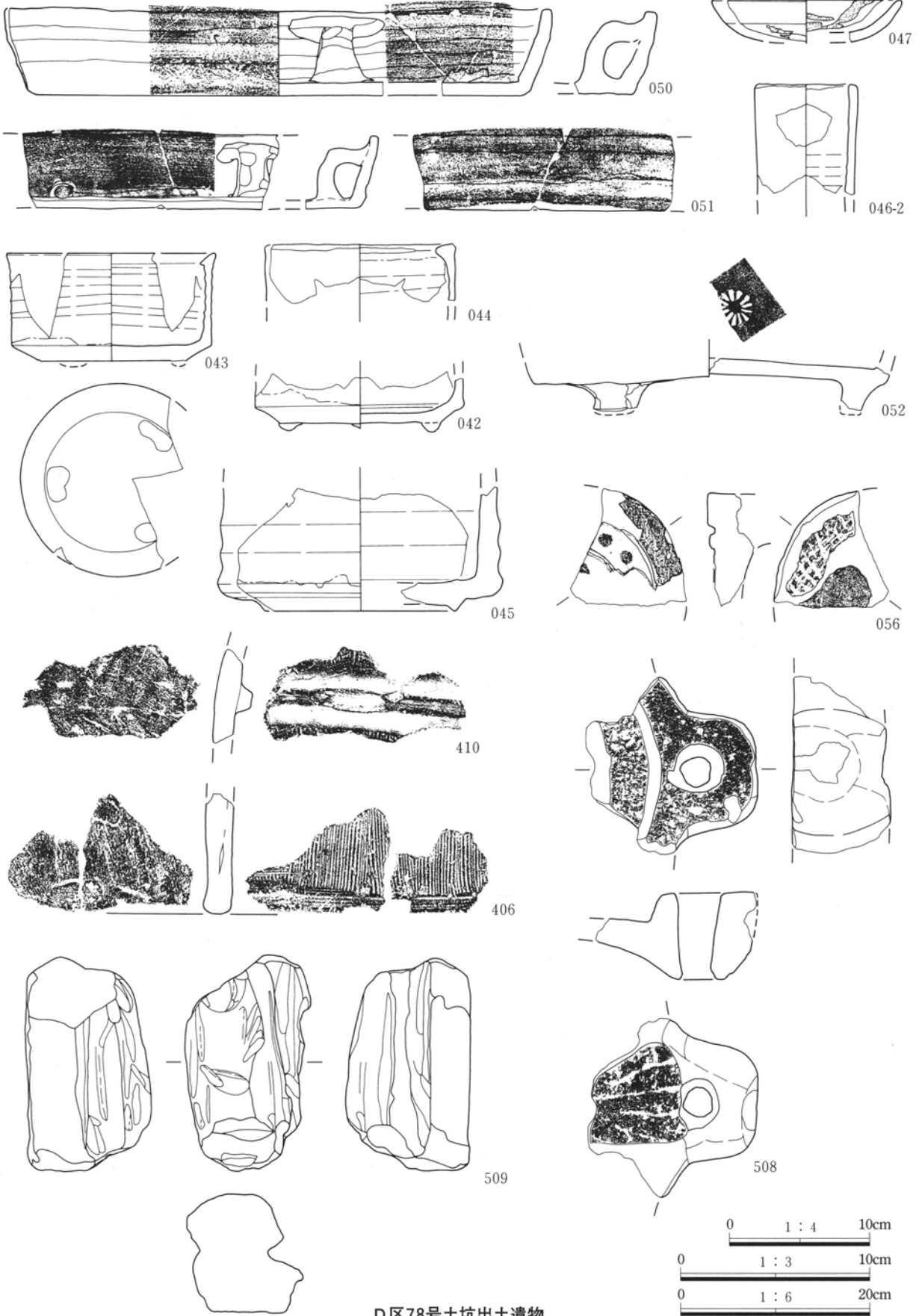
D区78号土坑出土遗物

0 1:3 10cm

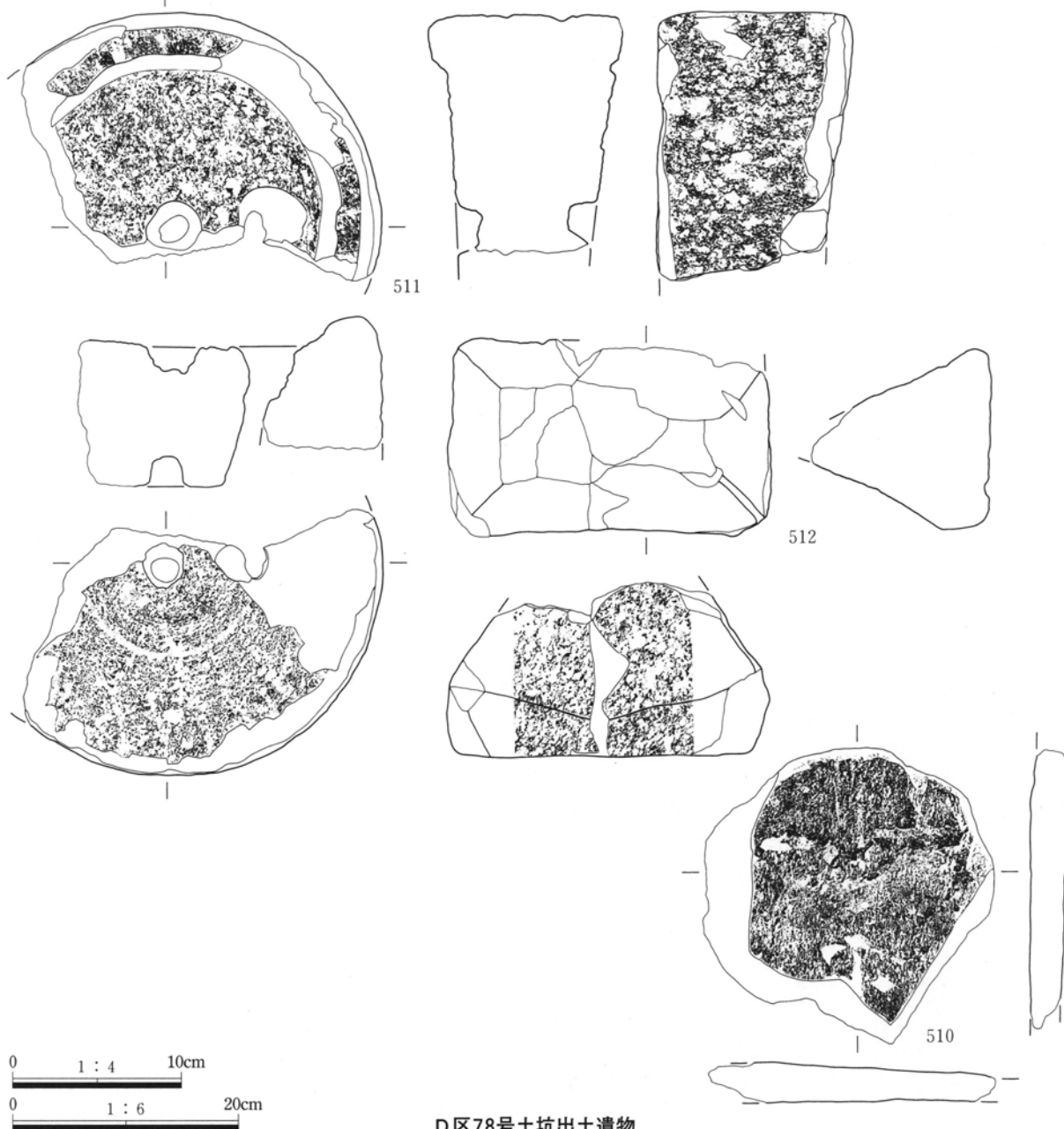


D区78号土坑出土遺物

4. 土坑



D区78号土坑出土遗物



D区78号土坑出土遺物

D区78号土坑遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測 値	器形などの特徴	残存状態 備考
021	陶器 碗	埋没土	口径 — 底径 5.6 器高 5.5+	肥前。外面に唐草文と花卉文を描く。外面の釉は白濁する。陶胎染付。	体部下位以下残。 18世紀前半か。
022	陶器 碗	埋没土	口径 11.4 底径 5.0 器高 6.9	肥前。外面に唐草文を大きく描く。高台径大きい。陶胎染付。	高台1/2、体部1/4 欠。 18世紀前半か。
023	陶器 碗	埋没土	口径 (10.4) 底径 5.0 器高 7.4	肥前。外面東屋山水文。陶胎染付。	体部上半以上7/8 欠。 18世紀前半か。
024	陶器 碗	埋没土	口径 (11.5) 底径 (5.9) 器高 7.3	肥前。文様不明。陶胎染付。	口縁部1/8、体部 1/4残。
025	陶器 腰鏝碗	埋没土	口径 (9.4) 底径 4.2 器高 5.9	瀬戸・美濃。口縁部外面に螺旋状凹線を巡らす。内面から凹線のやや上に灰釉、以下に錆釉を施す。高台端部無釉。灰釉に粗い貫入る。	口縁～体部中位 1/2欠。 18世紀後半。

## 4. 土坑

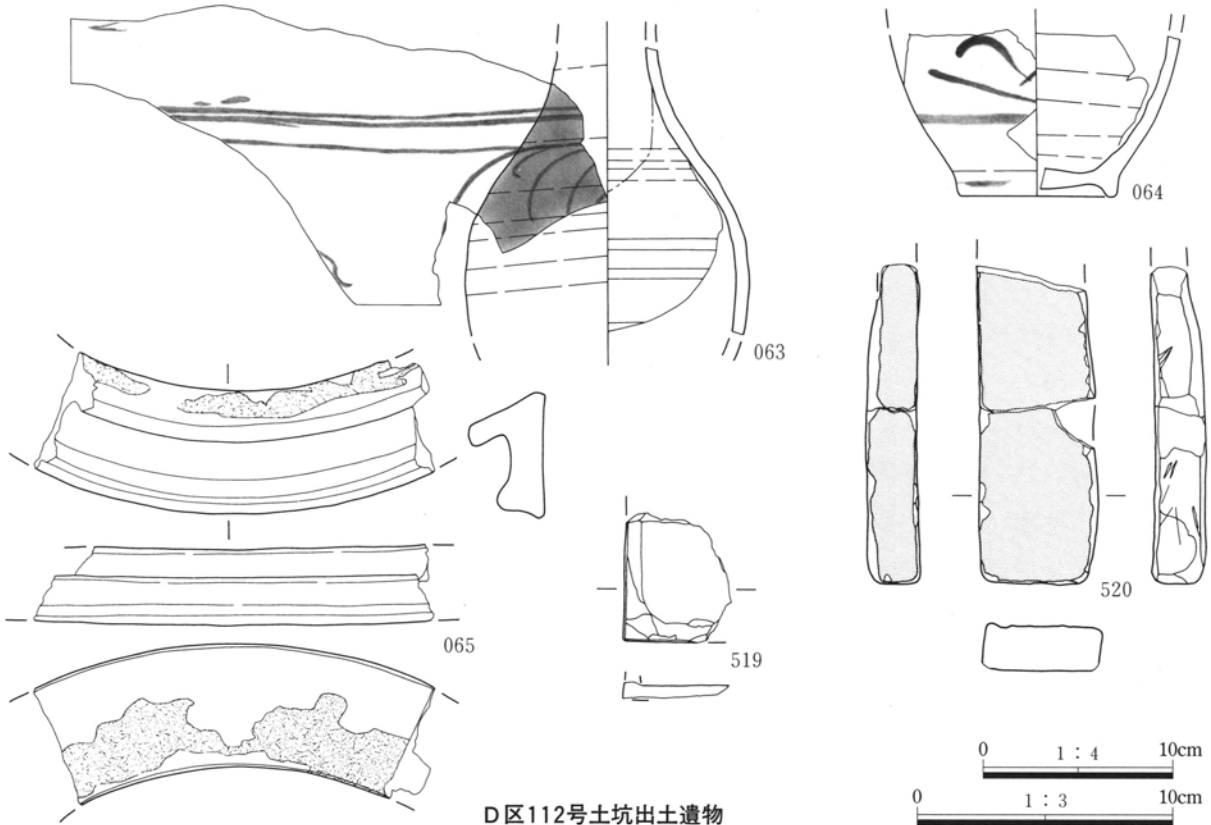
026	陶器碗	埋没土	口径 底径 器高	(11.2) (5.0) 7.1	肥前。外面山水文。陶胎染付。	口縁部の一部、以下1/4残。
027	陶器碗	埋没土	口径 底径 器高	— 4.8 3.8+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に鉛釉を施す。釉に貫入が入る。	体部下位以下残。
028	陶器碗	埋没土	口径 底径 器高	(11.8) 5.5 7.8	瀬戸・美濃。口縁部から体部外面に螺旋状凹線を巡らし、体部の4ヶ所を外方から窪ませる。全面に鉄化粧を施す。口縁部から体部に鉄釉を掛けたとと思われる、白濁している。	口縁部の一部、体部1/4、底部残。
029	陶器 呉器手碗	埋没土・ D区5溝 埋没土	口径 底径 器高	— 4.6 5.8+	肥前。高台の挟りは浅い。高台端部を除き透明釉。	高台端部を1/2欠いて体部下位以下残。
030	磁器碗	埋没土	口径 底径 器高	(8.1) (3.4) 4.5	肥前。体部外面にコンニャク判による染め付け。高台脇に2条の圈線。高台は薄く、やや高い。	口縁～体部中位5/8、高台1/2欠。
031	磁器小碗	埋没土	口径 底径 器高	7.3 3.2 4.3	肥前。外面の一方に朝顔状の文様を施す。	口縁～体部1/4欠。
032	磁器碗	埋没土	口径 底径 器高	(10.1) (4.2) 5.4	肥前。外面唐草文、高台内欠損の為、銘不明。呉須の発色はやや紫がかる。	口縁～体部の一部、底部1/4残。
033	磁器小碗	埋没土	口径 底径 器高	— 3.2 2.8+	肥前。外面不明主文様はコンニャク判。体部下位に2条の圈線。	体部下位1/4、底部1/2残。
034	陶器腰鏝碗	埋没土	口径 底径 器高	(9.6) — 4.9+	瀬戸・美濃。内面から口縁部外面に灰釉を、体部外面に錆釉を施す。体部外面に長石釉を斑状に施す。	口縁部の一部、体部中位以上1/6残。18世紀前半。
035	陶器青緑釉皿	埋没土	口径 底径 器高	(11.8) 4.0 3.3	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。内面から高台脇に施釉。	口縁～体部上半5/6欠。内野山。18世紀前半。
036	陶器青緑釉皿	埋没土	口径 底径 器高	11.7 4.1 3.1	肥前。見込み蛇の目釉剥ぎ。内面から高台脇に施釉。	体部上半以上1/2、以下1/4欠。内野山。18世紀前半。
037	磁器皿	埋没土・ D区5溝 埋没土	口径 底径 器高	(14.1) 8.2 3.7	肥前。口縁部内面不明文様。見込み丁寧な五花卉。外面唐草文。高台内一重圈線内に「大明年製」。呉須の発色は良。やや焼成不良で粗い貫入が入る。	口縁部3/4、以下1/4欠。
038	磁器中皿	埋没土	口径 底径 器高	— 10.0 2.4+	肥前。胎土灰白色。呉須の発色はやや薄い。外面に粗い貫入が入る。	体部下半以下1/4残。
039	陶器菊皿	埋没土	口径 底径 器高	(13.0) 7.0 3.5	瀬戸・美濃。内面から高台脇に灰釉を施す。口縁部に銅緑釉を施した為か、白濁する。	口縁部1/9、以下3/8残。
040	磁器皿	埋没土	長さ 幅 器高	5.0+ 7.3+ 2.7+	肥前。型押し成形の変形皿。内面は山水文か。	口縁～底部破片。
042	陶器香炉	埋没土	口径 底径 器高	— 8.4 3.2+	瀬戸・美濃。底部に3ヶ所脚を貼り付ける。体部外面に鉛釉を施す。	体部最下位以下5/8残。
043	陶器香炉	埋没土	口径 底径 器高	(11.0) 7.6 5.7+	瀬戸・美濃。底部に3ヶ所脚の貼り付け痕が残る。口縁部内面から体部外面に鉛釉を施す。	口縁～体部1/6、底部5/8残。
044	陶器香炉?	埋没土	口径 底径 器高	(10.1) — 3.0+	瀬戸・美濃。口縁部内面から体部外面に鉛釉を施す。口縁端部内外面に小さい剥離があり、灰落としとして使用された可能性がある。	口縁～体部上位1/4残。
045	陶器?	埋没土	口径 底径 器高	— (10.0) 6.6+	瀬戸・美濃。体部外面に幅広の凹線が巡る。体部外面に鉄釉を施す。内面鉄化粧。高台は低い。	体部下位以下1/4残。
046-1	陶器碗	埋没土	口径 底径 器高	(11.4) — 5.7+	肥前。外面に唐草文をやや丁寧を描く。釉葉がやや白濁する。陶胎染付。	口縁部の一部、体部中位以上1/4残。
046-2	陶器灰落とし	埋没土	口径 底径 器高	(5.5) — 5.9+	瀬戸・美濃。口縁部と体部はやや内傾し、直線的に立ち上がる。口縁端部内面から外面に細かい貫入の入る透明釉を施す。口縁端部は叩打により器表が剥離する。	体部上半以上1/4残。
047	陶器灯明皿	埋没土	口径 底径 器高	(10.0) — 2.2+	志戸呂。内面から体部外面に鉄泥を施す。内外面に油煤付着。	口縁～体部中位1/4残。
049	陶器鉢	埋没土・ C区8土 埋没土	口径 底径 器高	(33.8) (17.0) 10.2	瀬戸・美濃。口縁部外反し、口縁端部内面は低い突帯が巡る。見込みを中心に鉄絵を描き、口縁部から体部内面に銅緑釉を散らす。高台端部と高台内の一部を除き灰釉を施す。	3/8残。17世紀末頃か。

上増田島遺跡C・D区第2面

050	土器 焙烙	埋没土・ D区土坑 埋没土	口径 (38.2) 底径 (33.8) 器高 6.1	在地系。外面底部から体部下位に型作り痕が残る。体部から口縁部外面に紐作り痕が残る。燻し焼成。体部外面に煤付着。耳が1ヶ所残存。	1/4残。	
051	土器 焙烙	埋没土	口径 (38.4) 底径 (36.0) 器高 5.2	在地系。外面底部から体部下位に型作り痕が残る。燻し焼成。耳が1ヶ所残存。	口縁～底部外縁 1/4残。	
052	土器 火鉢	埋没土	口径 — 底径 (24.8) 器高 3.7+	在地系。底部外面に型作り痕を残す。方形の脚を貼り付け、1ヶ所残存。見込みに粗い菊花状押印が1ヶ所残存。	底部1/4残。	
053	土器 鍋	埋没土	口径 (32.4) 底径 — 器高 7.1+	在地系。外面に紐作り痕が残る。口縁部は小さく外方に開く。外面に煤が付着。	口縁～体部上半破 片。	
054	土器 鍋	埋没土	口径 (34.4) 底径 — 器高 5.9+	在地系。外面に紐作り痕が残る。口縁部は小さく外方に開く。外面に煤が付着。	口縁～体部上半破 片。	
055	土器 鍋	埋没土	口径 — 底径 — 器高 4.9+	在地系。外面に紐作り痕が残る。口縁部は小さく外方に開く。外面に煤が付着。	口縁～体部上位破 片。	
057	陶器 すり鉢	埋没土・ D区28土 埋没土	口径 (34.3) 底径 (14.6) 器高 14.3	塚。底部外面周縁低い高台状を為す。口縁部内面の突帯はシャープな断面三角形。片口部内面扇形内に「長?上」の押印1ヶ所あり。底部内面は使用により摩滅する。	片口を含む1/3残。 18世紀前半。	
058	陶器 すり鉢	埋没土・ D区28土 埋没土	口径 (38.2) 底径 (17.4) 器高 15.7	塚。口縁部縁帯とし、内面に断面三角形の突帯を巡らす。外面口縁部下鋭削り。口縁部上面を押さえ、片口部を大きく作る。内面体部下位から底部使用により摩滅する。	口縁～体部1/4、 底部欠。	
059	陶器 すり鉢	埋没土	口径 — 底径 — 器高 10.7	塚・明石。口縁部は厚みのない縁帯をなし、内面の突帯は断面三角形を呈する。	口縁～体部中位破 片。	
番号	種類 瓦種	出土 位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態 備考
056	瓦 軒丸	埋没土	瓦当部径 14.2 外縁幅 2.1 文様区深さ 0.5	①透明～白色鉱物 ②灰 ③還元・並 ④やや軽	カキヤブリ刻目あり。県内産か。	瓦当部1/6残。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色 調	器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考
406	埴輪 円筒	埋没土・ D区表採	器高 8.4+ 器厚 2.0～2.2	①白色鉱物・粗砂、微量の赤褐色鉱物・石英 ②普通 ③外 褐灰 7.5YR4/2 内 明赤 褐2.5YR5/6	外面 2cm 9本のタテハケ後底面に接する位置をヨコナデ。 内面 ナナメ方向ナデ、底面付近が歪む。	基底部破片。
410	埴輪 円筒	埋没土	器高 6.8+ 器厚 1.5～2.6	①黒色鉱物・粗砂、白色・赤褐色鉱物微量②普通 ③鈍い黄橙10YR7/4	外面 2cm 9本のタテハケ後突帯貼り付け、突帯M字形で上下の稜の突出が同等。 内面 ナナメヨコ方向ナデ。	突帯を含む胴部破片。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値		器形等の特徴	残存状態 備考
508	石製品 粉ひき臼 上白	埋没土	長さ 17.8 幅 18.7 高さ 10.3 上縁幅 3.2 同高さ 2.7 挽き手 穴径 約3～5 含み 4.1 重量 2363 粗粒輝石安山岩		器表はやや雑な仕上げだが、上面挽き手穴周辺は平滑。側面端部の器表は剥離する。底面は使用により摩滅し、目はやや残存。	挽き手部周辺破片。
509	石製品 ?	埋没土	長さ 15.2 幅 8.1 高さ 8.4 重量 911.6 馬見岡凝灰岩		平坦に仕上げた1面が底部か。この面にやや平行して中段面をもつ。器表全体に平坦な工具痕をもつ。	一部欠。
510	石製品 板碑	埋没土	長さ 17.7 幅 17.4 厚さ 2.2 重量 1060.3 緑色片岩		キリク種子の一部が残る阿弥陀種子。下部欠損の為、尊数不明。二条線・杵線はなし。頂部山形の上端と右側面の2ヶ所に研磨痕が見られ、二次的な使用痕か。種子は彫り込みの浅い薬研彫り。	破片。 14世紀中頃か。
511	石製品 粉ひき臼 上白	埋没土	上面径 約38 高さ 17.1 上縁幅 2.4 同高さ 1.0～2.0 含み 2.1 芯穴 約3.5 供給口径 約6 重量 1221 粗粒輝石安山岩		器表は雑な仕上げだが、上縁上面は平滑。供給口は上面楕円形で、下がるに従って窄まる。上面中央に径約5cmの窪みをもつ。底面はやや平滑で、目は確認できない。極浅い線状のものくばりが残存部全体に認められる。	3/8残。
512	石製品 ?	埋没土	長さ 17.8 幅 28.3 底面幅 25.5 高さ 15.6+ 重量 6967 粗粒輝石安山岩		五輪塔火輪に似るが、平面長方形を呈す。器表はやや雑な仕上げ。全体に被熱し赤化。	上面欠。



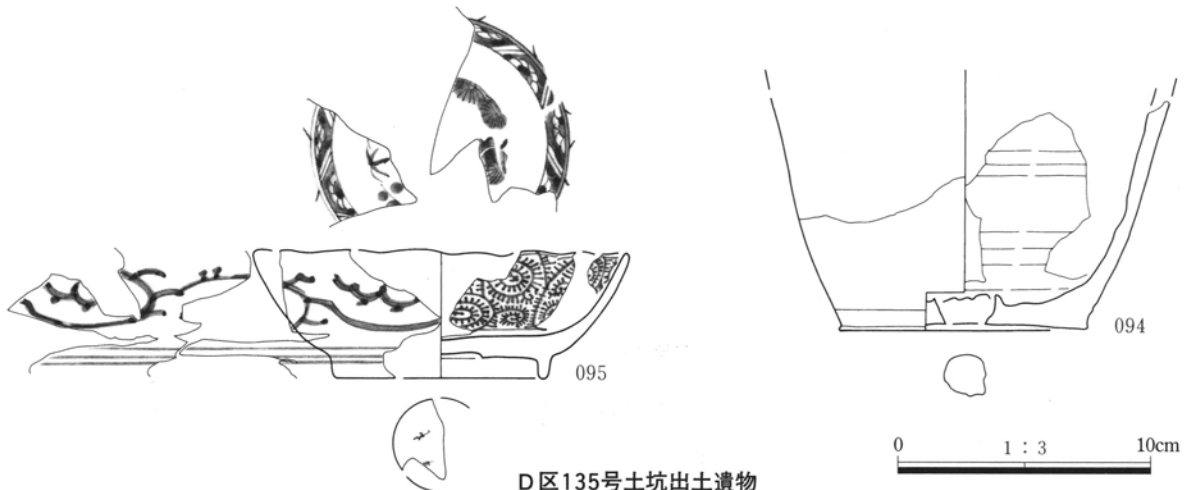
4. 土坑



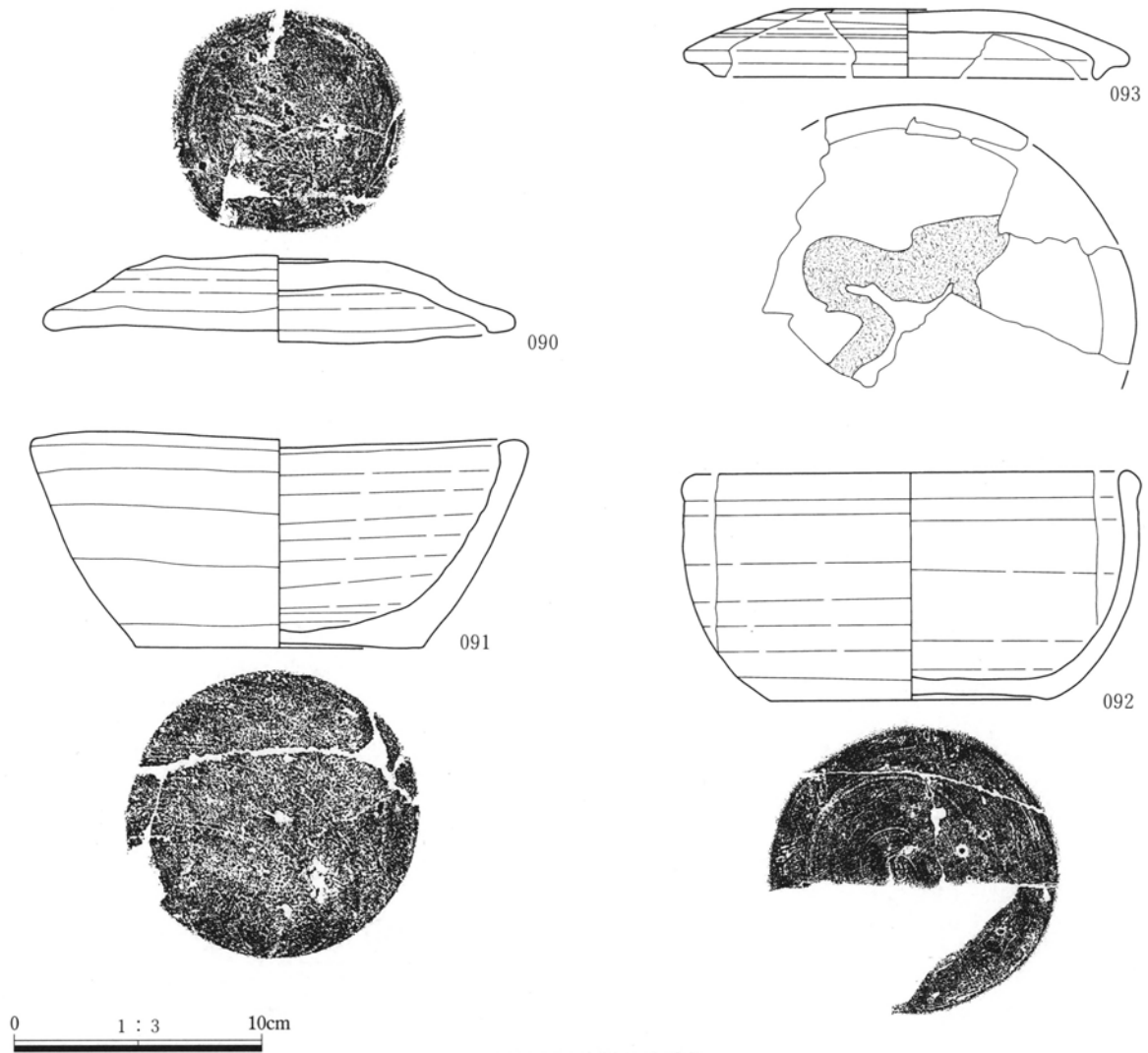
D区112号土坑出土遺物

D区112号土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
063	磁器 德利	埋没土・ 177~179土 埋没土	口径 — 底径 — 器高 11.2+	肥前?。文様不明。	頸~胴部1/2残。 波佐見系。
064	磁器 德利	埋没土・ 177~179土 埋没土	口径 — 底径 (6.1) 器高 6.5+	肥前?。外面に植物文を染め付ける。内面は無釉。外面の釉は白濁する。	胴部下半以下1/2 残。焼成不良。 波佐見系?。
065	土器 釜輪	埋没土	外径 約37 幅 4.8 器高 3.0	在地系。幅は広く、釜を据える部分は外傾する。断面と器表が灰黒色、その間が灰白色を呈する。底部から内面に煤付着。	1/6残。
519	石製品 硯	埋没土	長さ 4.9+ 幅 4.1+ 高さ 0.7+ 重量 18.7 頁岩	器表は磨いて丁寧に仕上げる。陸に細かい擦痕が残る。	陸一隅の破片。
520	石製品 砥石	埋没土・ 177~179土 埋没土	長さ 12.4+ 幅 4.2~4.7 厚さ 1.9 重量 177.4 砂岩	主に2面を磨面とする。幅が広く、据え置いて使用か。	一端欠。



D区135号土坑出土遺物

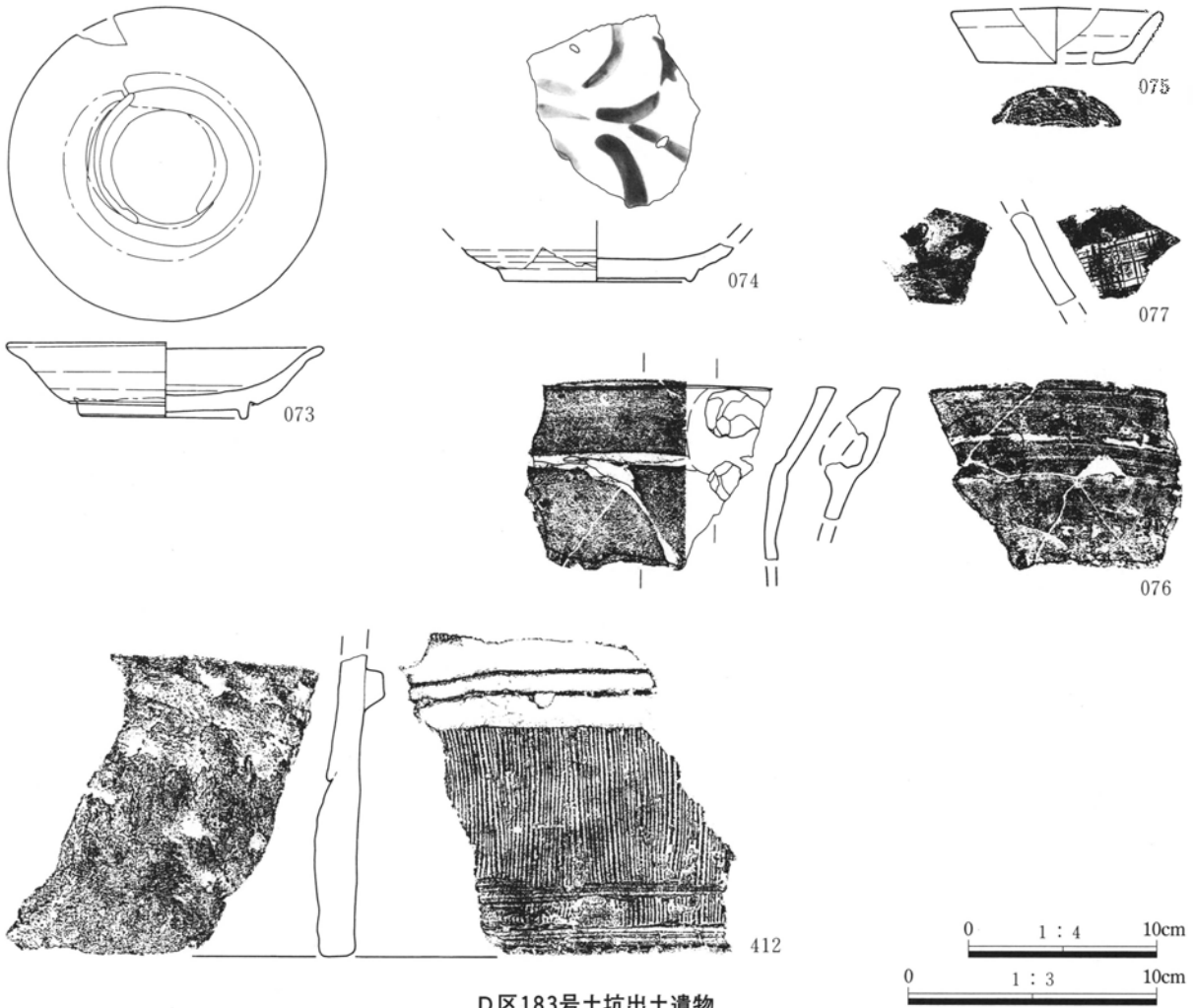


D区135号土坑出土遺物

D区135号土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
090	土器 蓋	底面直上	天井径 8.8 口径 18.8 器高 3.3	在地系。天井部外面周縁鋭削り後回転撫で。轆轤調整。えな壺か。	完形。 091の蓋。
091	土器 鉢	底面直上	口径 19.9 底径 11.5 器高 8.7	在地系。底部外面糸切りか。轆轤調整。えな壺か。	完形。 090の身。
092	土器 鉢	埋没土	口径 (17.2) 底径 11.1 器高 9.1	在地系?。底部外面から体部下端左回転鋭削り。轆轤調整。口縁部玉縁状を為す。えな壺か。	口縁~体部3/4、 底部1/4欠。 093の身。
093	土器 蓋	埋没土	天井径 (8.7) 口径 (17.9) 器高 2.7	在地系?。形状は須恵器蓋と同様。えな壺か。	1/4残。 092の蓋。
094	土器 植木鉢	埋没土	口径 - 底径 9.8 器高 9.1+	在地系。轆轤調整。底部中央に外方から水抜き穴をあける。燻し焼成。	体部下位以下残。
095	磁器 皿	埋没土・D区289土埋没土・表採	口径 (14.8) 底径 (8.5) 器高 5.0	肥前。蛇の目凹型高台。口縁部から底部外面いわゆる蛸唐草。見込み三友。高台内「大明年製」か。	口縁~体部1/4、 底部1/2残。

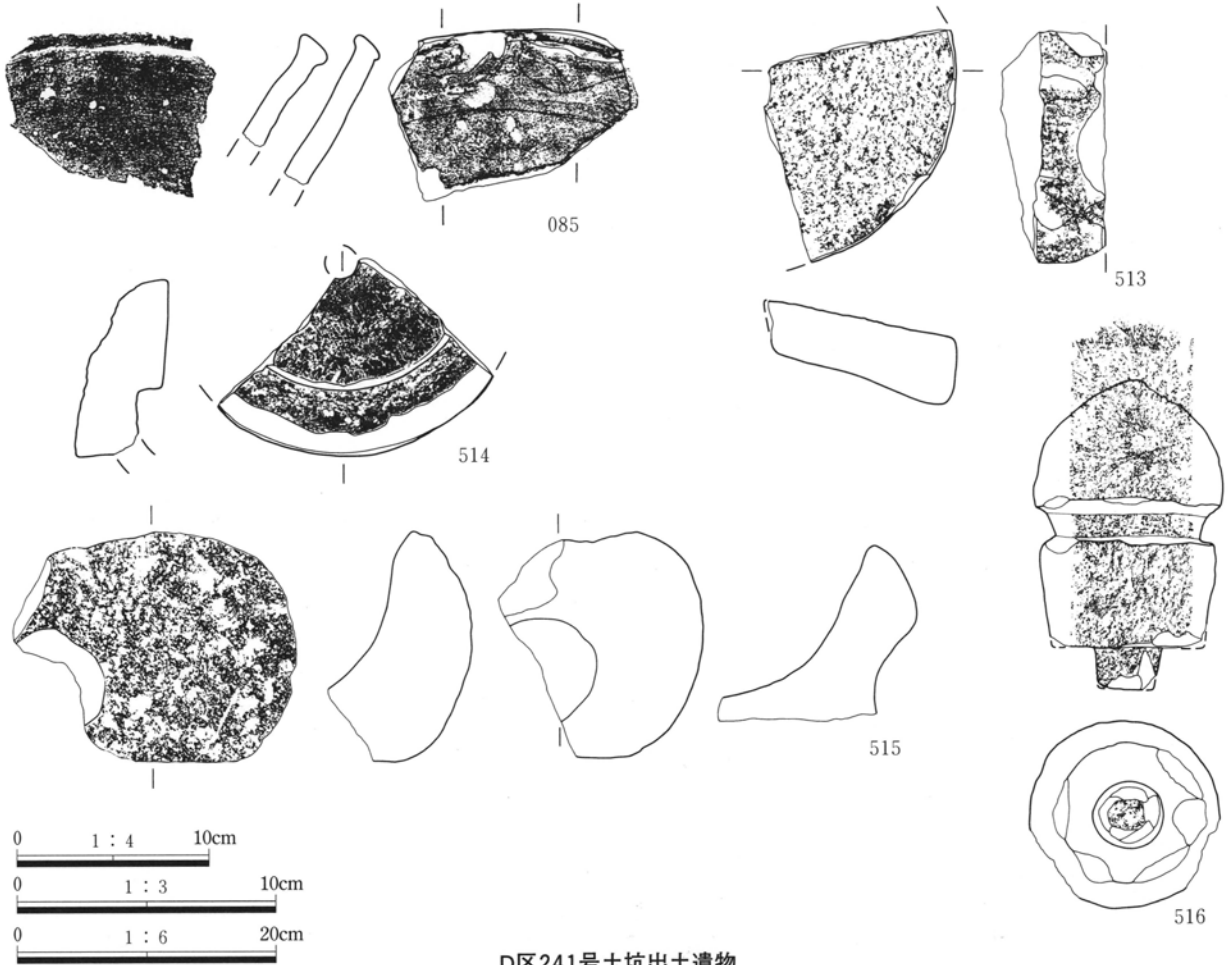
4. 土坑



D区183号土坑出土遺物

D区183号土坑遺物観察表

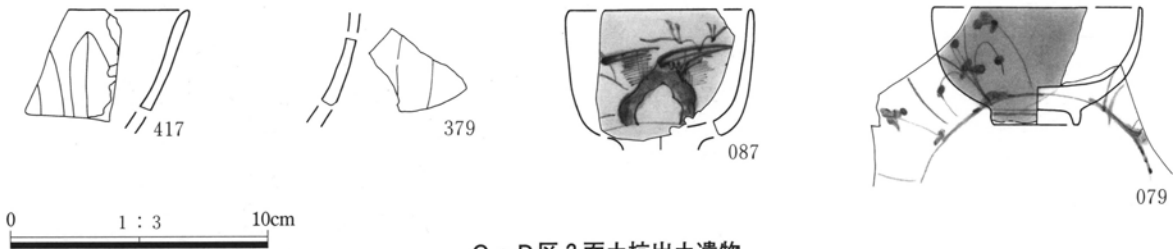
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
073	陶器 輪禿皿	埋没土	口径 12.6 底径 6.6 器高 3.0	瀬戸・美濃。断面方形のシャープな高台を有する。口縁部は外反する。見込み周縁を僅かに高くし、その部分の軸を掻き取る。鉄釉をやや薄く施す。	ほぼ完形。 17世紀。
074	陶器 皿	埋没土	口径 — 底径 7.4 器高 1.6+	瀬戸・美濃。内面に鉄絵具で蘭竹文を描く。見込みと高台内に2ヶ所目痕が残る。内面から高台外面灰釉を施す。	体部下位～底部 1/2残。 17世紀。
075	土器 皿	埋没土	口径 (8.4) 底径 (6.2) 器高 2.1	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み周縁から体部下位内面を回転撫でにより凹線状に窪ませる。	底部中央を欠いて 1/4残。 中世。
076	軟質陶器 内耳鍋	埋没土	口径 — 底径 — 器高 9.6+	口縁部内面下に段を有する。段差部分は強い撫でを巡らす。口縁部中位外面に紐作り痕が残る。耳が1ヶ所残存。	口縁～体部上半破片。 中世。
077	陶器 甕?	埋没土	口径 — 底径 — 器高 5.2+	常滑。外面に叩きあり。	体部破片。 中世。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調 器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考
412	埴輪 埴筒	+37cm	器高 7.3+ 器厚 1.3～ 2.4	①粗砂・軽石・白色鉾物 ②普通 ③外 鈍い赤褐5YR5/4 内 鈍い赤褐2.5YR5/4 外面 2cm 9本のタテハケ後底面に接する位置と下位を籠状工具でヨコナデ・突帯貼り付け、突帯M字形で上下の稜の突出が同等。 内面 最下位に粘土板製作時の工作台の圧痕と指押さえと思われる圧痕が残る。下位ヨコ方向ナデ後タテ方向ナデ後突帯に対応する位置付近をヨコ・ナメヨコ方向ナデ。	基底部～胴部第1 段破片。



D区241号土坑出土遺物

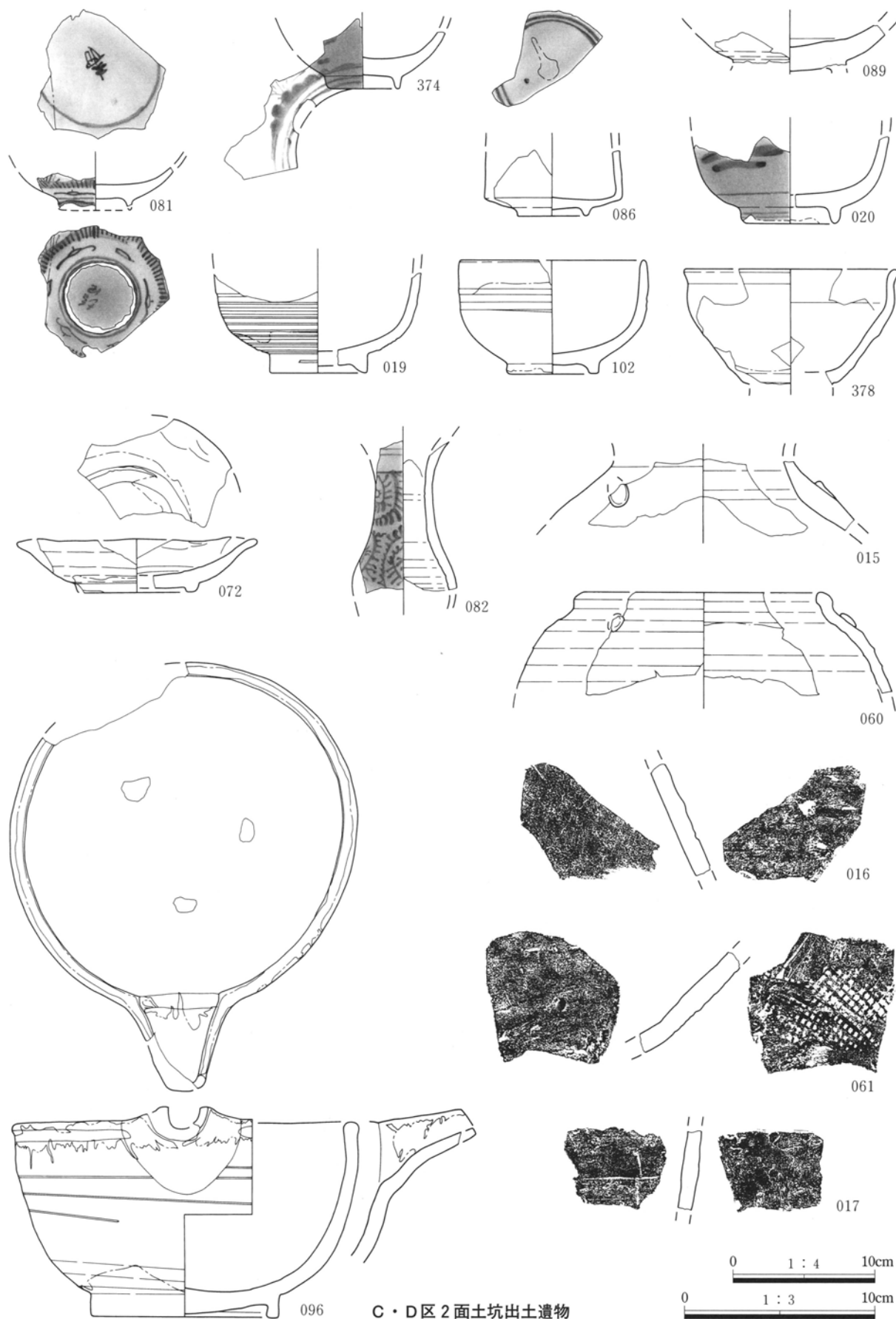
D区241号土坑遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
085	軟質陶器 すり鉢	+9	口径 - 底径 - 器高 7.7+	口縁端部は内外面に張り出す。焼成は酸化焰の須恵器に近いが、器表は燻し仕上げ。体部中位は使用によりやや摩滅する。	片口部を含む口縁～体部中位破片。中世。
513	石製品 粉ひき臼 下白	埋没土	上面径 約29.5 高さ 8.0+ 含み 2.9 挟り 3.9 重量 1758 粗粒輝石安山岩	器表は丁寧に仕上げるが、側面端部に剥離が顕著。上面はやや摩滅し、目は観察できない。	中心を欠いて1/4残。
514	石製品 茶臼 下白	+7	上面径 約19 高台径 約28 受皿部幅 5.1+ 全高 7.1 高台高 2.9 含み 0.5 芯穴径 2.7 重量 1621 粗粒輝石安山岩	底面は工具痕を粗く残す。他の器表は丁寧に仕上げるも、一部鑿痕が浅く残る。上面は使用で摩滅し、目は観察できない。残存部は受け皿を高台へ続く屈曲部から欠く。	受け皿を欠いて1/4残。
515	石製品 鉢 ?	埋没土	長さ 7.7 幅 14.7 高さ 12.0 重量 712 粗粒輝石安山岩	器表はやや丁寧に仕上げる。底面と思われる平坦部の器表は平滑化。外面体部に半球状の凹みを設ける。	底部中心を欠いて1/4残。
516	石製品 五輪塔 空風輪	+17	高さ 24.1 最大径 14.8 底面径 軸長 3.3 軸径 5.3 重量 4617 粗粒輝石安山岩	器表はやや雑な仕上げで、風化する。宝珠頂部はあまり尖らず、空輪から空風間の溝へはなだらかに移行する。	一部欠。



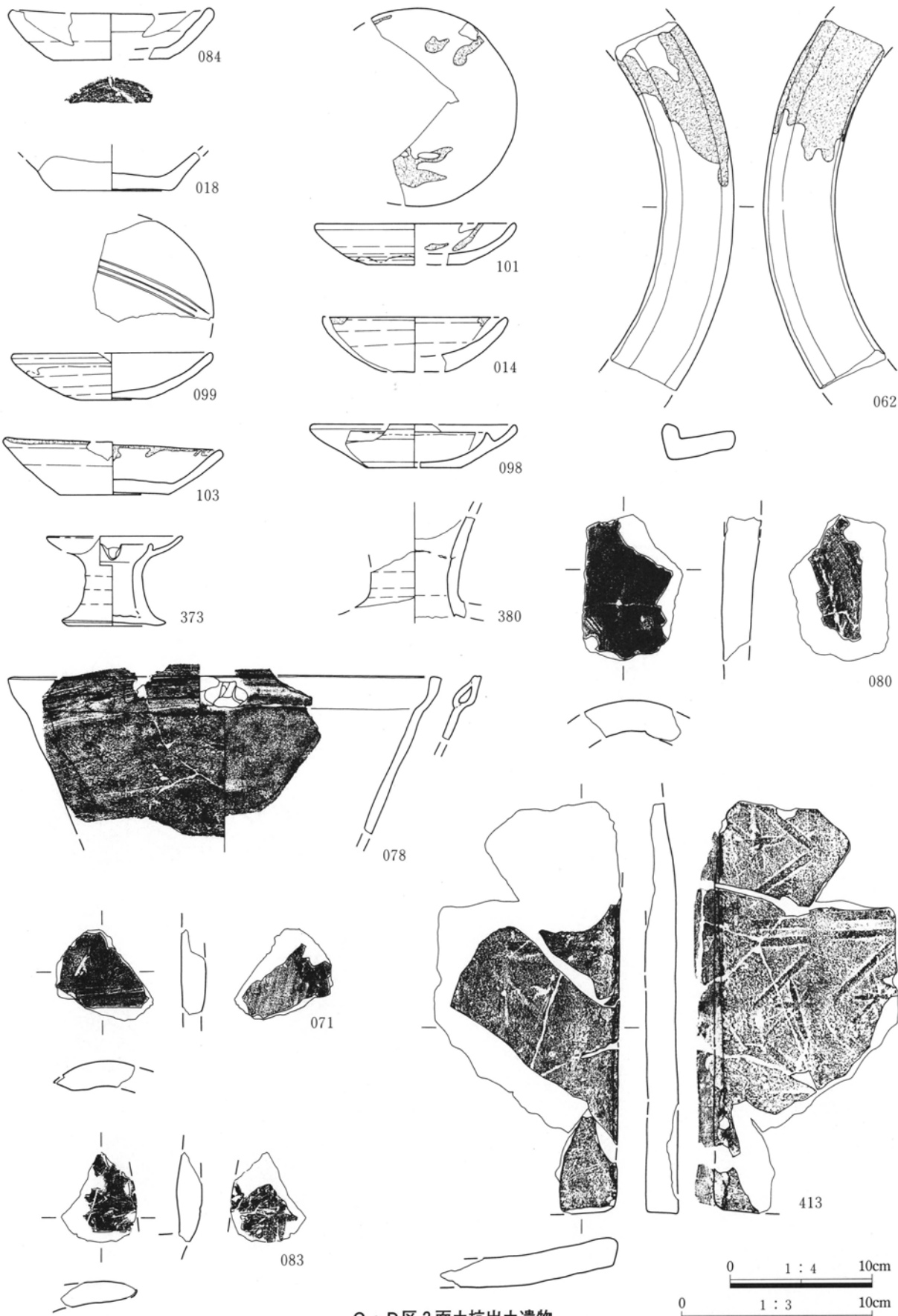
C・D区2面土坑出土遺物

4. 土坑



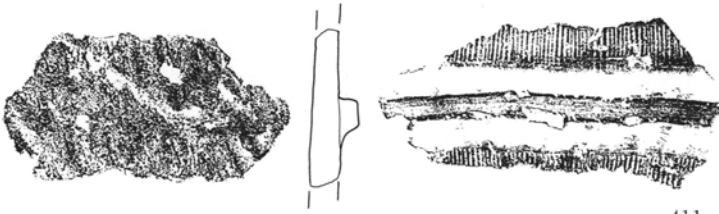
C·D区2面土坑出土遗物

上増田島遺跡C・D区第2面

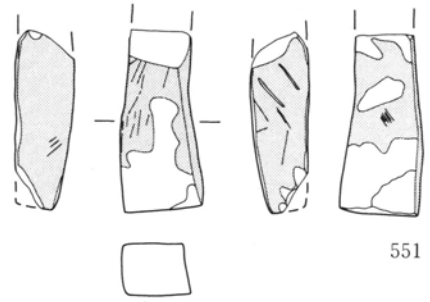


C・D区2面土坑出土遺物

4. 土坑



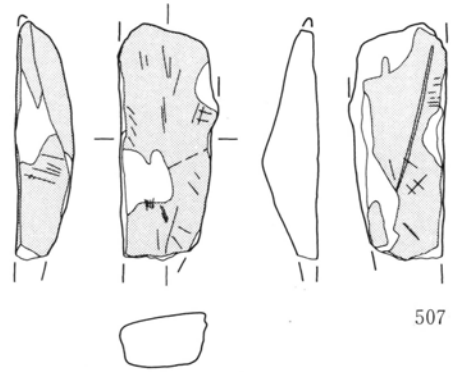
411



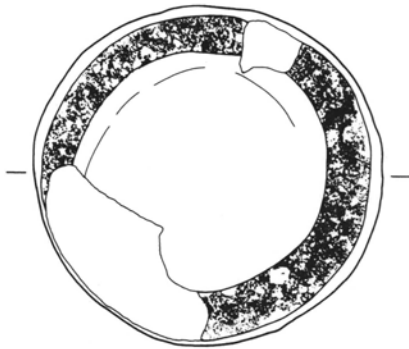
551



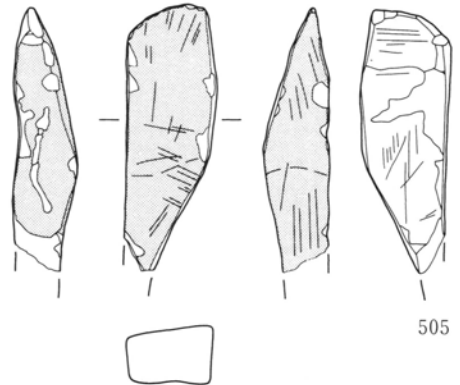
088



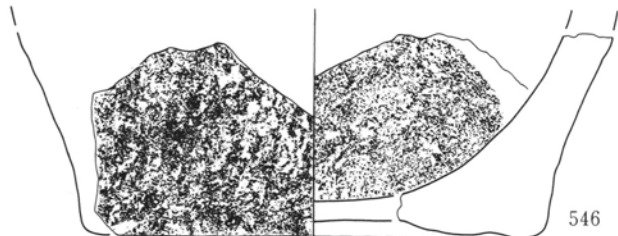
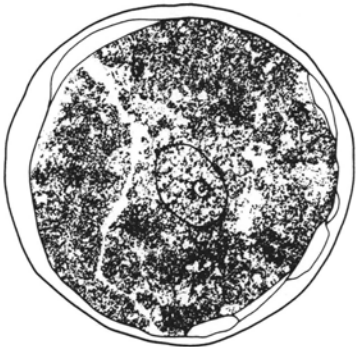
507



521



505

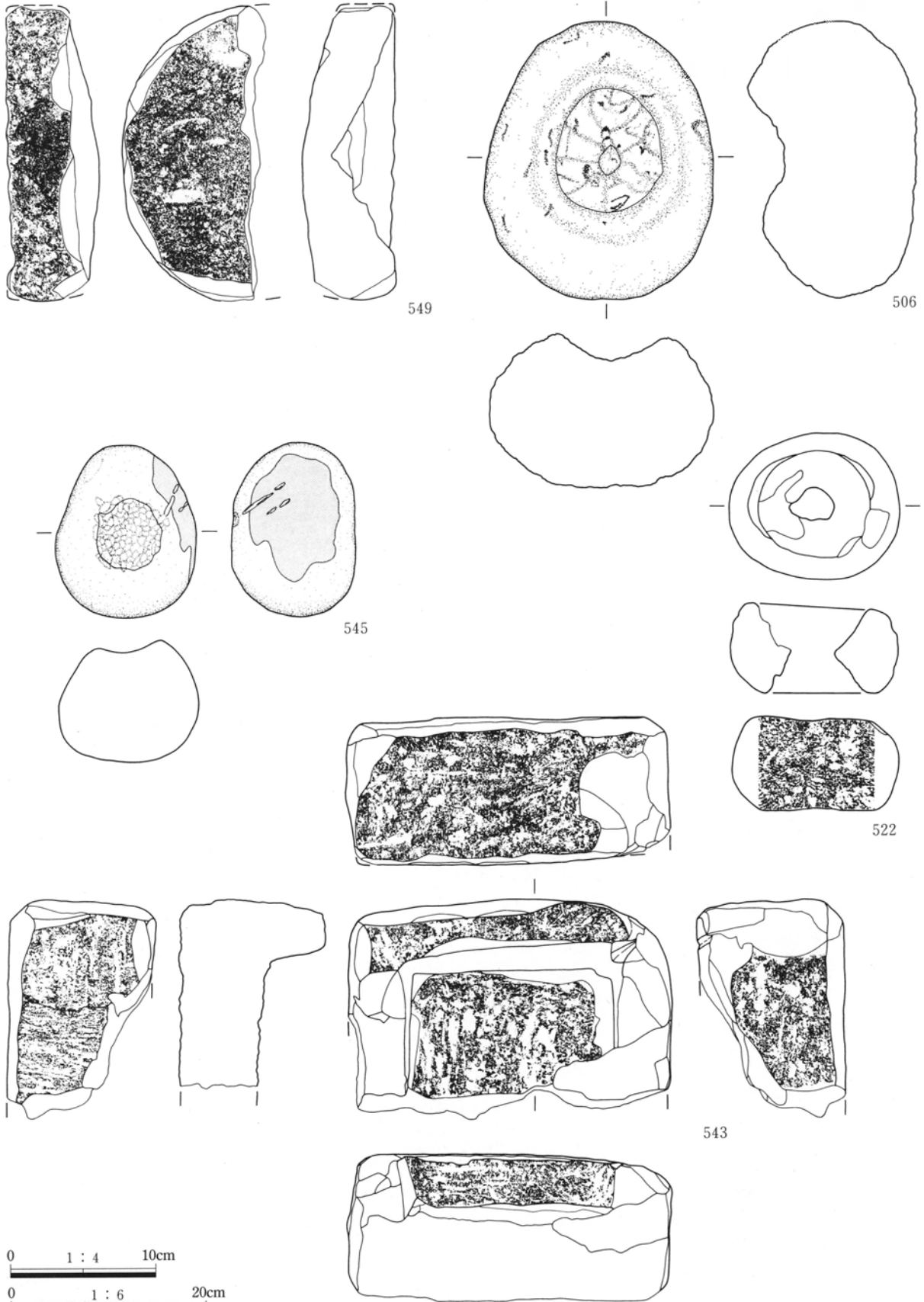


546

0 1 : 4 10cm

0 1 : 3 10cm

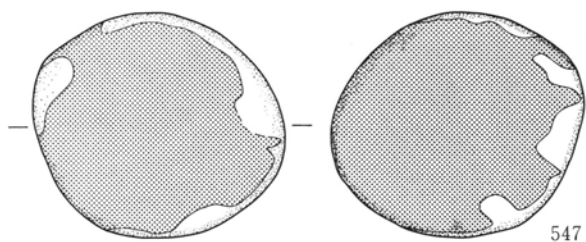
C·D区2面土坑出土遗物



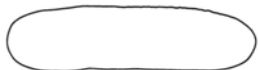
C・D区2面土坑出土遺物



4. 土坑



547



526



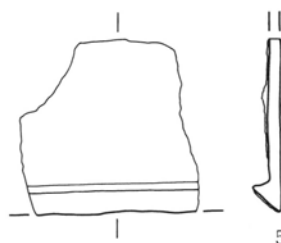
590



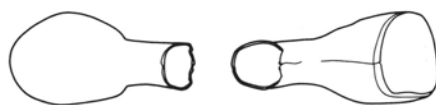
598



595



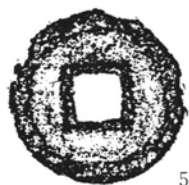
597



592



601



596



588



0 1:1 2cm

0 1:2 5cm

0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

C·D区2面土坑出土遗物

C・D区2面土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
014	土器皿	D区64土埋没土	口径 (9.8) 底径 — 器高 2.9+	在地系。体部から口縁部内湾気味に立ち上がる。口縁部に1ヶ所油煤附着。調整時の轆轤は右回転。	底部を欠いて1/5残。中世。
015	陶器耳壺	D区66土埋没土	口径 — 底径 — 器高 3.8+	瀬戸・美濃。外面に鉛釉を施す。耳が1ヶ所残存。	頸部～肩部破片。古瀬戸。
016	陶器甕	D区67土埋没土	口径 — 底径 — 器高 8.0+	常滑。	体部上位破片。中世。
017	陶器甕	D区67土埋没土	口径 — 底径 — 器高 5.7+	常滑。	体部破片。中世。
018	土器皿	D区67土埋没土	口径 — 底径 (6.2) 器高 2.0+	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み中央が盛り上がり、周縁が低い。内面底部と体部の境はやや不明瞭。	体部下～底部1/2残。
019	陶器碗	D区76土・D区5溝埋没土	口径 — 底径 (5.2) 器高 5.3+	瀬戸・美濃。高台径は小さく、腰部の張りは強い。体部から高台脇の回転篋削りは条線風。内面から高台脇に鉛釉を施す。高台脇から高台内に鉛釉を化粧風に薄く施す。残存部にウノフ釉は認められない。	体部下以下1/4残。
020	陶器碗	D区77土埋没土	口径 — 底径 4.8 器高 4.6+	肥前。外面に染め付け、文様不明。陶胎染付。	体部下以下1/2残。
060	陶器耳壺	D区83土埋没土	口径 (12.6) 底径 — 器高 5.5+	瀬戸・美濃。短頸で口縁短部の釉は薄く、無釉に近い。口縁部内面から外面に鉄釉に近い鉛釉を施す。耳が1ヶ所残存。	口縁部から体部上位1/6残。
061	陶器甕?	D区86土埋没土	口径 — 底径 — 器高 7.0+	常滑系。外面は格子叩き。内面に降灰が認められる。	体部下位破片。中世。
062	土器釜輪	D区111土埋没土	外径 約33 幅 3.8 器高 1.9	製作地不詳。無釉。釜と接する内面上部は小さく面取りする。破損後煤附着。	1/6残。
072	陶器輪壳皿	D区177～179土埋没土	口径 (12.7) 底径 (6.3) 器高 3.0	瀬戸・美濃。口縁部は開く。見込み周縁を土手状に高くして釉を掻き取るが、ずれる部分がある。内面から高台脇に鉄釉を施す。	口縁部1/8、体部以下1/4残。
078	土器内耳鍋	D区111・114・150・184土埋没土	口径 (30.6) 底径 — 器高 11.3+	在地系。口縁部は小さく屈曲する。口縁部内面に退化した耳を貼り付ける。口縁部下と体部外面に紐作り痕が明瞭に残る。燻し焼成。	口縁～体部中位1/4残。
079	磁器碗	D区200・201土埋没土・800-785	口径 (8.3) 底径 3.4 器高 4.6	肥前。外面花卉文。	口縁～体部上半5/6欠。波佐見系。
081	磁器碗	D区208・218土埋没土	口径 — 底径 — 器高 2.1+	瀬戸・美濃。見込み「寿」字文。体部下位に焼き継ぎ。高台内焼き継ぎ時の文字を透明と赤の2色で書く。赤文字は「増田」。19世紀中頃。	高台端部を欠いて体部下以下残。焼き継ぎ。
082	磁器瓶	D区208・218土埋没土	口径 — 底径 — 器高 8.3+	肥前。外面はいわゆる蛸唐草文。内面は無釉。	頸～肩部3/4残。
084	土器皿	D区213土埋没土	口径 (10.8) 底径 (6.0) 器高 2.2	在地系。底部回転糸切り無調整。	底部中央を欠いて1/4残。中世?。
086	磁器筒形碗	D区247土埋没土	口径 — 底径 3.9 器高 3.5+	肥前。青磁染め付け。外面に青磁釉を施す。内面染め付け。	体部下位1/4、底部1/2残。
087	磁器小碗	D区247土埋没土	口径 (7.2) 底径 — 器高 5.2+	瀬戸・美濃。外面山水文。	口縁～体部下位1/4残。
088	土器?	D区264・265土埋没土	口径 (44.6) 幅 8.1 器高 3.9+	搬入系?。他の製品に比して胎土は緻密で、調整は丁寧。残存部は石臼のはんぎりの様な形状を呈する。酸化焰焼成。一部器表が剥離。	破片。
089	磁器青磁碗	D区271土埋没土	口径 — 底径 — 器高 2.5+	中国製。内面から高台外面に青磁釉を施す。高台内は無釉。	高台を欠いて体部下～底部1/4。焼成不良。
096	陶器片口鉢	D区308・313土埋没土	口径 18.4 底径 10.0 器高 11.2	瀬戸・美濃。口縁部を玉縁状に肥厚させ、片口部は外方に大きく突き出す。高台脇から内面に鉛釉を、口縁部にウノフ釉を施す。見込みに3ヶ所の目痕。	口縁部・片口部一部欠。18世紀前半～中頃。
098	陶器灯明受皿	D区336土埋没土	口径 (11.0) 底径 (5.0) 器高 2.3	京・信楽系。内面から口縁端部外面に細かい貫入の入る透明釉を施す。外面は丁寧な回転篋削り。	口縁部1/8、以下1/4残。幕末～明治。
099	陶器灯明皿	D区336土埋没土	口径 (10.6) 底径 (3.5) 器高 2.5	京・信楽系。底径が小さい。内面に3本1単位の掻き目を入れる。内面から口縁端部外面に細かい貫入の入る透明釉を施す。外面は丁寧な回転篋削り。	1/4残。幕末～明治。

4. 土坑

101	陶器 灯明皿	D区280土 埋没土	口径 底径 器高	10.6 5.1 2.2	瀬戸・美濃。全面錆釉施釉後、底部外面から体部の釉を拭う。	1/2残。	
102	陶器 腰錆碗	D区287土 埋没土 810-785	口径 底径 器高	(9.8) 4.9 6.1	瀬戸・美濃。口縁部外面下位に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹線まで鉄釉を内面から凹線まで灰釉を施す。	口縁～体部5/6欠。	
103	土器 皿	D区400土 周辺	口径 底径 器高	11.6 5.8 3.1	在地系。底部左回転糸切り無調整。体部は直線的に開く。口縁部が一部黒変。	口縁～体部1/2欠。	
373	陶器 脚付灯明 受皿	C区6土 +41	口径 底径 器高	(7.2) 5.5 4.8	京・信楽系。底部右回転糸切り無調整。底部外面を除き灰釉。胎土淡黄色。	口縁部3/4欠。 19世紀中頃～後半。	
374	磁器 碗	C区7土 埋没土	口径 底径 器高	— (3.7) 3.7	肥前。外面に花卉文を描く。	体部下位以下3/4 残。波佐見系。 焼成不良。	
378	陶器 天目碗	C区15・16 土埋没土	口径 底径 器高	(11.2) (4.4) 6.2+	瀬戸・美濃。体部直線的に開き、口縁部は直立した後に外反する。釉は僅かに禾目状となる。	口縁部1/4、体部 1/2残。	
379	磁器 青磁碗	C区16土 埋没土	口径 底径 器高	— — 2.7	龍泉窯系青磁。外面鎊蓮弁文。	体部破片。 中世。	
380	須恵器 長頸壺	C区16土 埋没土	口径 底径 器高	— — 5.3+	外面 轆轤整形。内面 頸部轆轤整形、輪積み痕あり。肩部撫で。肩部を中心に自然釉付着。	頸部下位～肩部 残。	
417	磁器 青磁碗	D区114土 埋没土	口径 底径 器高	— — 3.9+	龍泉窯系青磁。外面鎊蓮弁文。内外面とも使用によると思われる摩滅が顕著。	口縁～体部上半破 片。 中世。	
番号	種類 瓦種	出土 位置	計測値		①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態 備考
071	瓦 丸	D区173土 埋没土	長さ 幅 厚さ	6.4+ 6.9+ 1.4～1.7	①透明～白色鉱物 微量 ②灰 ③還元・硬質 ④並	布目細かい。布の縞り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の剥取条痕なし。回転条痕あり。側面取回数3。芯型2枚割。県外産。	側部を含む尻部破 片。 13世紀。
080	瓦 丸	D区207土 埋没土	長さ 幅 厚さ	10.3+ 7.0+ 1.8～2.4	①透明～白色鉱物 微量 ②灰 ③還元・硬質 ④並	布目細かい。布の縞り合わせ痕あり。粘土板の接合面なし。粘土板の剥離条痕なし。回転条痕あり。芯型2枚割。県外産。	側部を含まない破 片。 13世紀。
083	瓦 丸	D区209・ 210土埋没 土	長さ 幅 厚さ	6.3+ 5.2+ 1.5	①透明～白色鉱物 微量 ②灰 ③還元・硬質 ④並	有段。布目細かい。布の縞り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の剥離条痕なし。回転条痕あり。県外産。	側部を含む尻部破 片。 13世紀。
413	瓦 平	D区207土 埋没土	長さ 幅 厚さ	29.1+ 13.0+ 2.1	①雲母、透明～白色 鉱物微量 ②淡褐 ③弱酸化④やや重	布目見えず。表・裏面砂付着。裏面格子～菱目状圧痕。側面取回数2。1枚作りか。県外産。	側部・端部を含む 破片。 13世紀。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値		①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考
411	埴輪 円筒	D区182土 埋没土	器高 器厚	8.3+ 1.5～ 3.0	①白色鉱物・粗砂、微量の石英 ②普通 ③外 灰褐7.5YR4/2 内 鈍い赤褐5YR5/4	外面 2cm9本のタテハケ後突帯貼り付け、突帯台形で上下の稜の突出が同等。内面 タテ方向ナデ後突帯に対応する位置をヨコ方向ナデ。	突帯を含む胴部破 片。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値		器形などの特徴		残存状態 備考
505	石製品 砥石	D区66土 埋没土	長さ 幅 厚さ	10.5+ 3.5 0.5 ～2.4 重量 111.3 砥沢石	4面を使用し、使用により湾曲・屈曲する。		一端欠。
506	石製品 凹み石	D区67土 埋没土	長さ 幅 厚さ	19.1 15.7 11.6 重量 3327 粗粒輝石安山岩	円礫の平面頂部が叩打により凹む。反対面は置いた為かやや摩滅する。		完形。
507	石製品 砥石	D区72土 埋没土	長さ 幅 厚さ	9.3+ 3.8 0.6～ 2.3 重量 96.4 砥沢石	主に3面を磨面とし、使用により湾曲・屈曲する。器表の剥離が顕著。		両端欠。
521	石製品 鉢?	D区122土 +6～10	外径 内径 深さ	18.2 12.5 5.3 重量 2924 粗粒輝石安山岩	径が小さく、身は浅い。体部は直に立ち上がり、円柱形を呈する。器表はやや丁寧に仕上げ、側面に横方向の工具痕が残る。上縁は平坦な部分と丸みをもつ部分がある。底部は器表が平滑化し、中央に径1cm程の浅い窪みをもつ。		口縁部1/4欠。
522	石製品 五輪塔? 水輪	D区122土 +19	長さ 幅 高さ	10.1 11.7 6.5 重量 296.4 軽石	外面の器表は磨いて丁寧に仕上げ。上下両面より穿孔し貫通させる。		一部欠。
526	石製品 板碑	D区149・ 150土 +22～32	長さ 幅 厚さ	38.4 25.2 2.5 重量 3102 緑色片岩	キリーク種子の一部が残る。阿弥陀種子。下部欠損の為、尊数不明。種子は浅い竹彫りで粗雑。二条線・枠線はなし。		破片。14世紀中頃 ～15世紀初頭か。
543	石製品 ?	D区177土 埋没土	長さ 幅 高さ	33.2 22.7+ 15.0 上縁幅 約4 同高さ 5.5 重量 5367 軽石	直方体状を呈し、面は全て平坦。器表は雑に仕上げ、工具痕を残す。上面?周囲には縁が巡り、隅に断面「V」字状の彫り込み。破損後全体に赤化。		破片。
545	石製品 凹み石	D区207土 埋没土	長さ 幅 厚さ	11.9 9.7 8.6 重量 1196 粗粒輝石安山岩	自然礫を使用し、頂部が叩打により窪む。側面を磨面とし、筋状の擦痕が残る。		完形。

上増田島遺跡C・D区第2面

546	石製品 すり鉢	D区207土 埋没土	底径 24.0 器高 10.8+ 重量 741 粗粒輝石安山岩	器表は雑な仕上げ。内面は使用により摩耗する。被熱により煤が付着するが、割れ口には認められない。	体部中位～底部 1/6残。
547	石製品？ ？	D区287土 埋没土	長さ 10.1 幅 9.0 厚さ 2.6 重量 351.3 石英閃緑岩	両平面がやや摩滅するが、使用によるか不明。全体に被熱により赤化する。	完形。
549	石製品 粉ひき臼 下白	D区364土 埋没土	上面径 約30 高さ 9.5 含み 約3 挟り 6.5 重量 4564 牛伏砂岩	器表は歪で雑な仕上げ。側面の一部に磨いたと思われる平滑面がある。上面はやや平滑だが使用による摩滅か不明。目は観察できない。半製品の可能性。	1/2残。
551	石製品 砥石	D区387土 埋没土	長さ 7.2+ 幅 2.4～3.1 厚さ 1.9～2.3 重量 69.9 流紋岩	4面を磨面とし、使用により湾曲する。	一端欠。
588	鉄製品 輪	D区115土 埋没土	外径 (14.6) 幅 4.2 高さ 1.7 厚さ 0.3 重量 60.2	全体に錆の付着が顕著で、一部層状に剥離。	破片。
590	鉄製品 刀子	D区202土 埋没土	長さ 8.7+ 刀身幅 3.5+ 同棟 厚さ 0.8 茎幅 2.3 重量 50.3	片区二段。刀身断面三角形。鋼を軟鉄で包み込む。	区周辺破片。
592	金属製品 ？ 注口	D区328土 埋没土	長さ 9.1 注口縁部長 2.1+ 同幅 1.7 胴部接合部長 4.7 同幅 3.1+ 重量 32.5	金属板を上面で接合。内外面に緑青付着後煤付着。胴部との接合痕がありこの部分に煤の付着はない。口縁と胴部接合部が一部二次的にやや潰れる。	水注類の注口。
595	鉄製品 ？	D区341土 埋没土	長さ 7.6 幅 1.8 厚さ 0.3～0.4 重量 24.0	板状。全体に錆の付着が顕著。錆上に一部木質が残る。	破片。
597	鉄製品 ？	D区387土 埋没土	長さ 4.6+ 幅 4.6+ 縁部厚さ 0.7 板状部厚さ 0.3 重量 36.2	縁が断面三角の板状。全体に錆付着。	破片。
598	鉄製品 鎌？	D区389土 埋没土	長さ 8.2+ 幅 1.4～3.2 棟厚さ 0.25 重量 21.2	刃部は僅かに、棟は大きく屈曲する。断面三角形。	破片。
601	金属製品 煙管雁首	C区8土埋 没土	長さ 4.7+ 小口径 1.0～1.2 高さ 1.4+ 重量 5.9	側部及び火皿との境に接合痕。上面が二次的にやや潰れる。	火皿欠。
596	銅銭 寛永通寶	D区384土 埋没土	銭径 2.31～2.34 孔径 0.61～0.63 厚さ 0.1 重量 1.9	無背。	外縁一部欠。

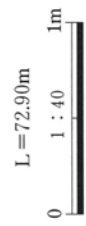
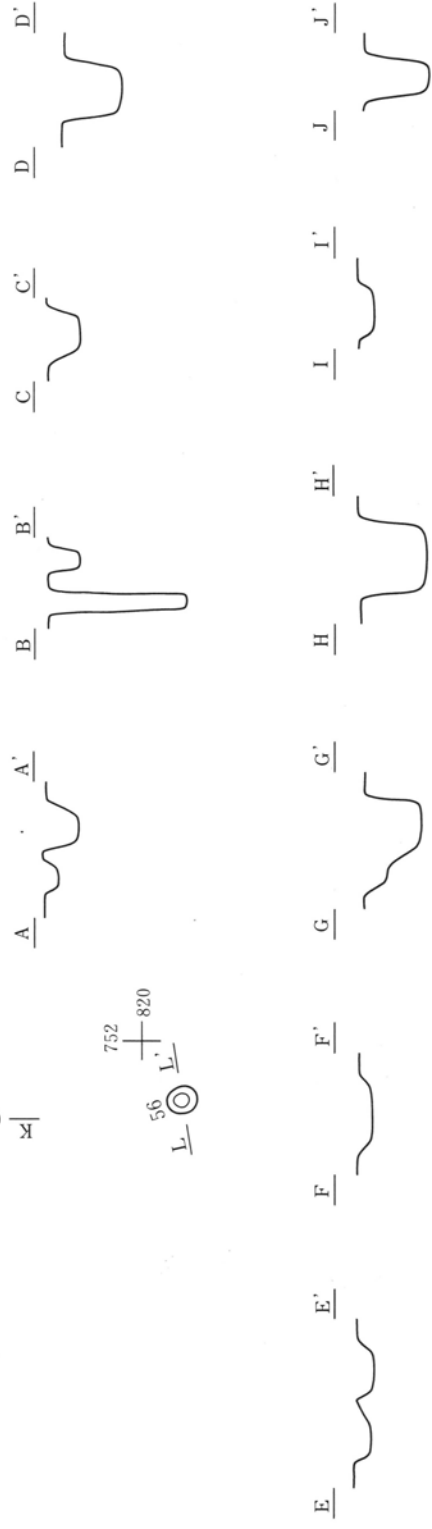
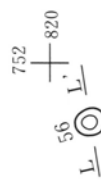
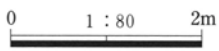
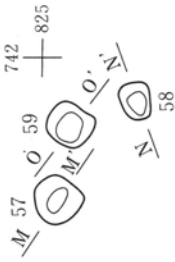
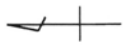
## 5. ピット

D区北東付近でピットを18基検出した。大きく743・753・756ラインの3群にまとまっており、743ラインの群は他の群より離れて位置し、数も少ない。重複しているのはP47・48の2基のみである。平面形は不整形から楕円形で、長軸の向きはいずれの群も不揃いである。規模は長軸が16～57cmの幅があり、深さも7～72cmまで様々である。壁面は46・51・54号ピットのように比較的直に立ち上がるものと、40・45・49号ピットのように緩やかに立ち上がる

ものものとがあり、50号ピットのみ中段をもつ。743ラインの57～59号ピットは形状・規模が似るが、他の2群には特定の傾向が見られない。40・46・55・56号ピットは直交する位置にあり、建物の桁と梁を構成する可能性があるが、全てのピットについて堆積土の状況、柱痕の有無等が確認できておらず、遺構の性格は不明である。時期や性格の異なるものが集中しているのであろう。遺物は出土していないが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。

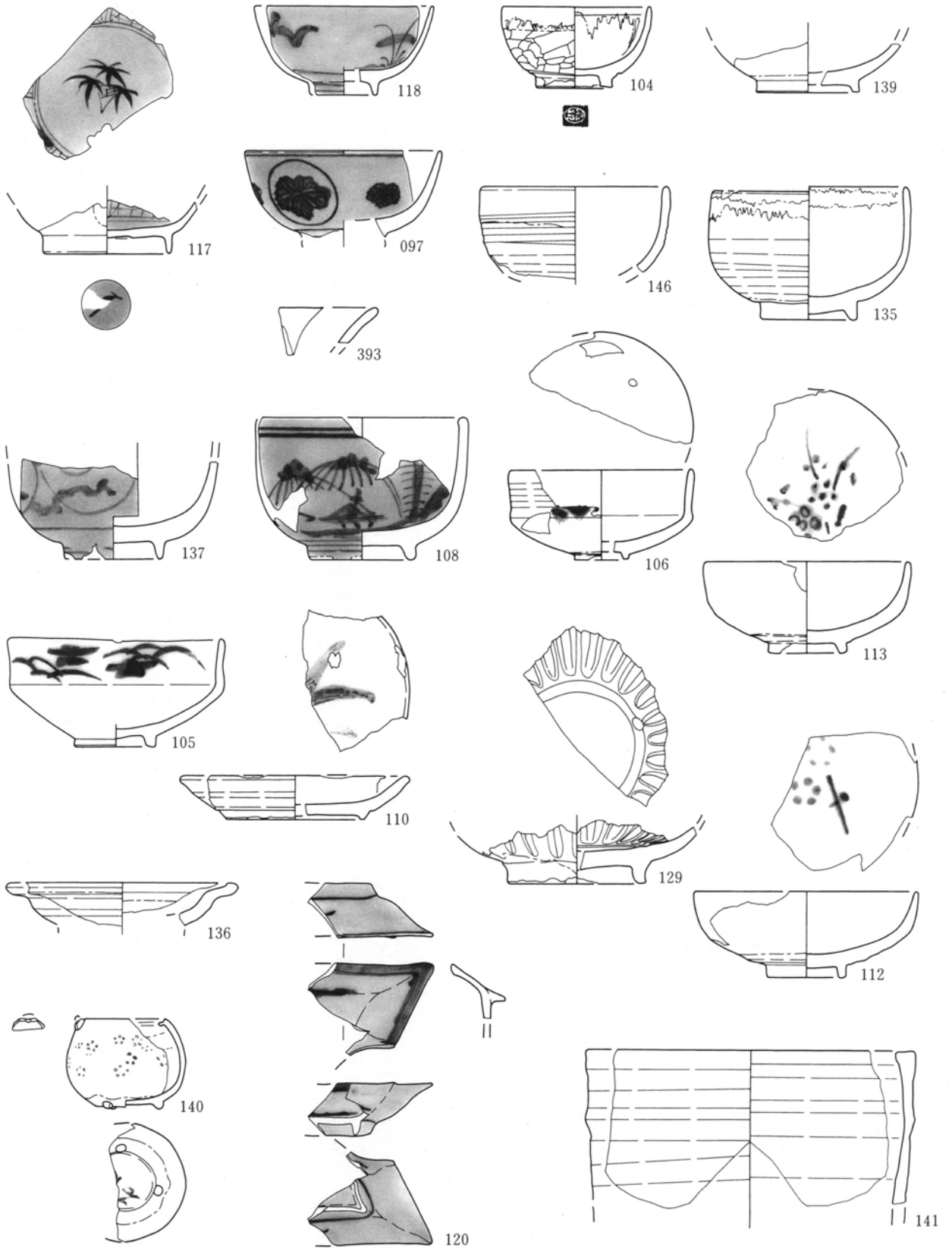
D区2面ピット一覧表

番号	位置	平面形	規模 (cm)	重複	備考	番号	位置	平面形	規模 (cm)	重複	備考
40	820-755	楕円形	31×21×17	なし		50	820-750	不整形	57×35×27	なし	中段をもつ
41	820-755	楕円形	23×20×9	なし		51	820-750	不整形	45×39×34	なし	
43	820-755	不整形	16×13×19	なし		53	820-750	楕円形	32×21×15	なし	
44	820-755	楕円形	19×12×72	なし		54	820-750	不整形	26×22×34	なし	
45	820-755	楕円形	37×27×16	なし		55	820-750	不整形	43×34×8	なし	
46	820-750	不整形	37×32×34	なし		56	815-750	円形	32×29×34	なし	
47	820-755	楕円形	36×21×7	P48		57	820・825 -740	不整形	53×51×15	なし	
48	820-755	不整形	34×26×8	P47		58	820-740	不整形	40×31×11	なし	
49	820-750	不整形	42×30×9	なし		59	820-740	不整形	51×50×17	なし	



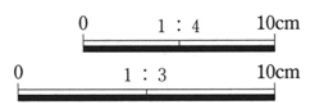
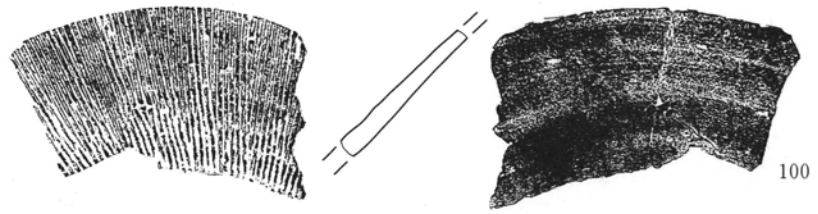
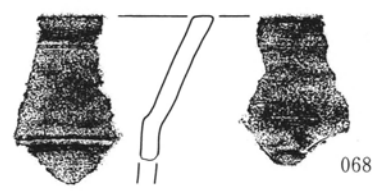
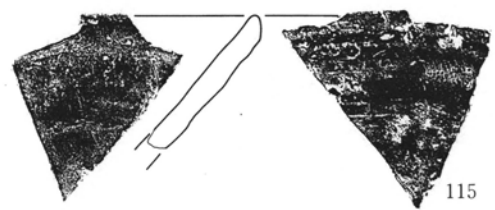
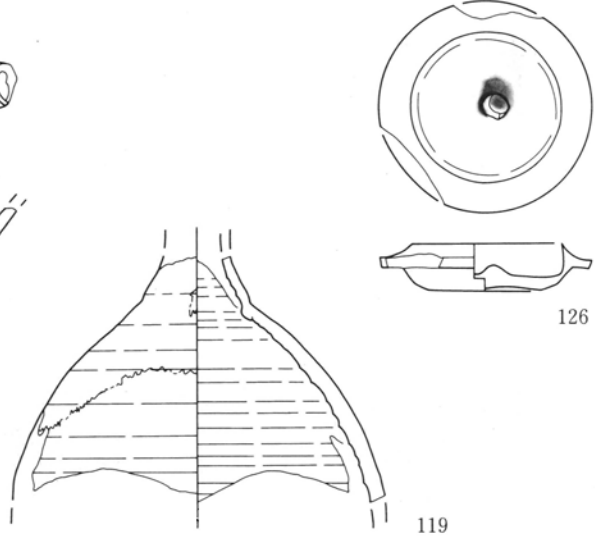
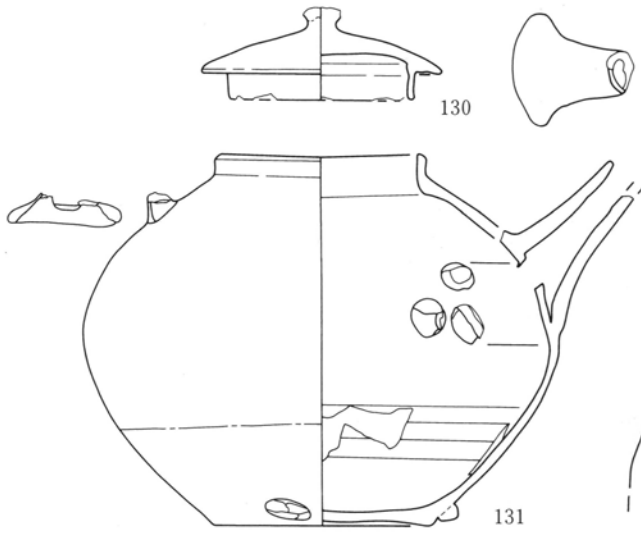
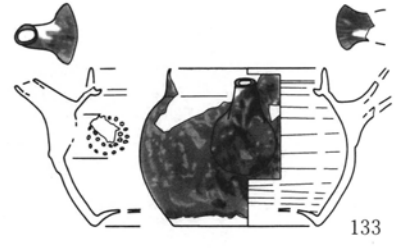
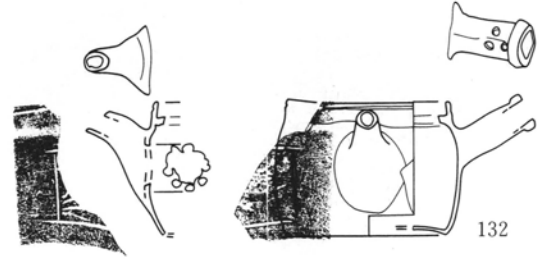
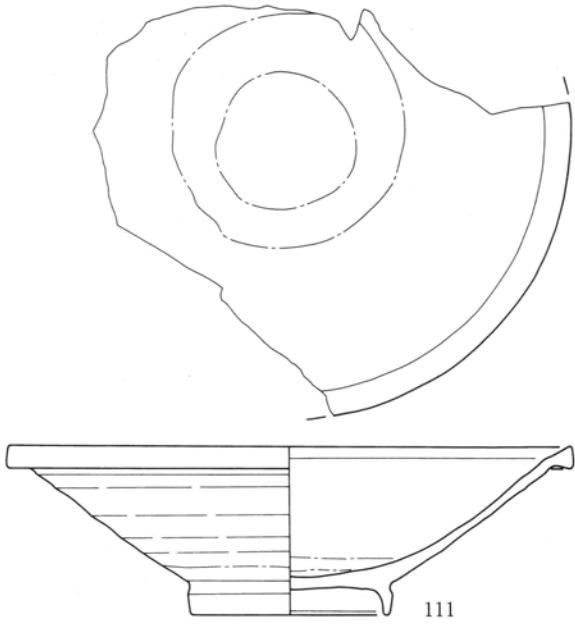
D区2面40・41・43～51・53～59号ピット

6. 遺構外出土遺物(PL74~78)

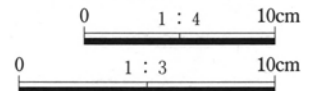
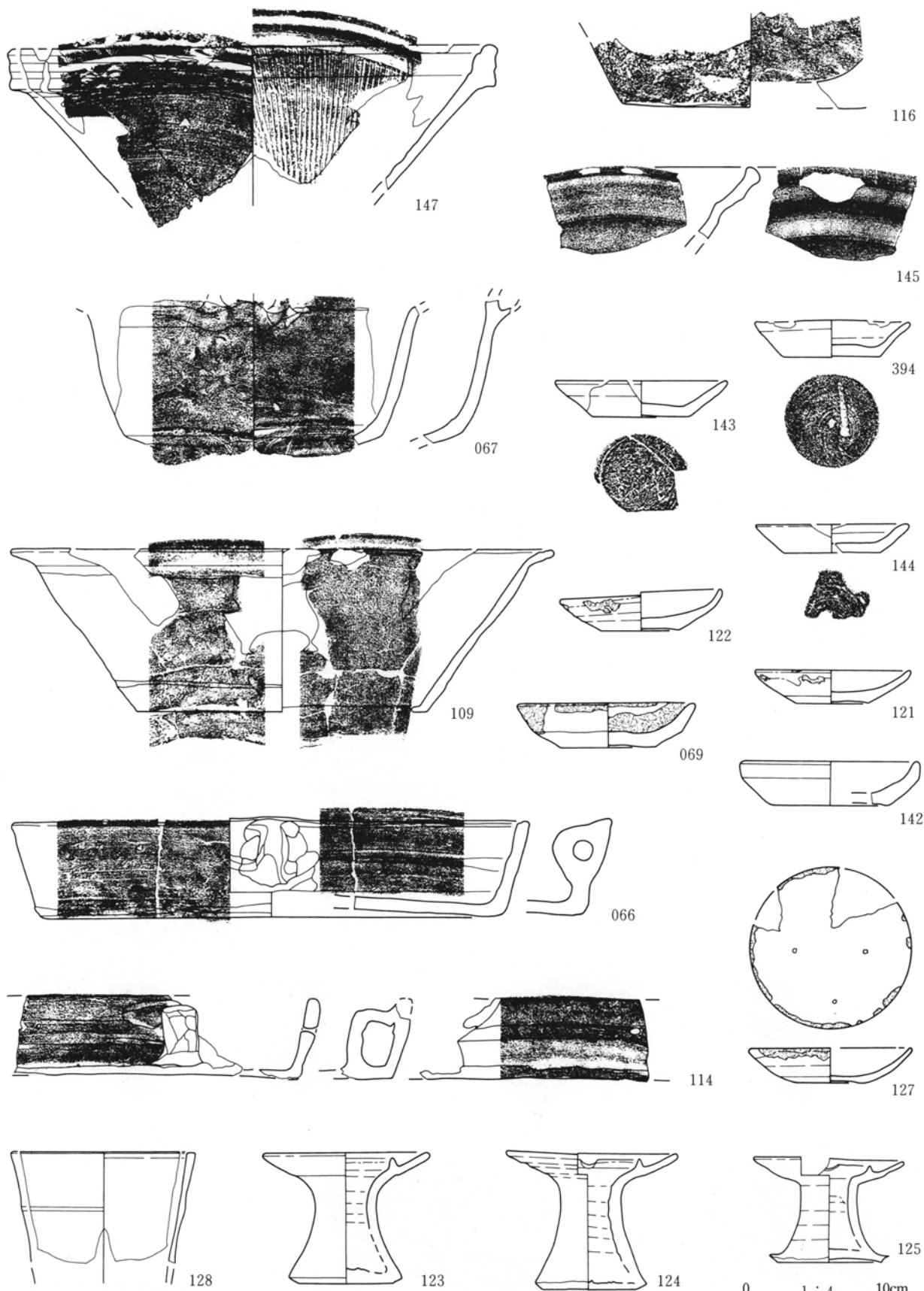


C・D区2面遺構外出土遺物

6. 遺構外出土遺物



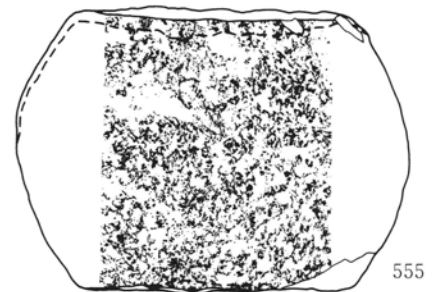
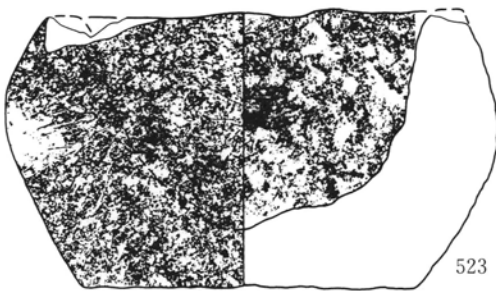
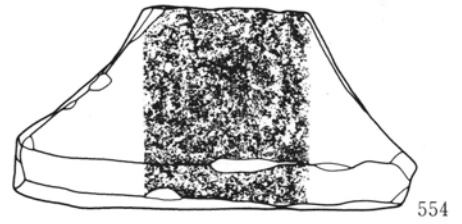
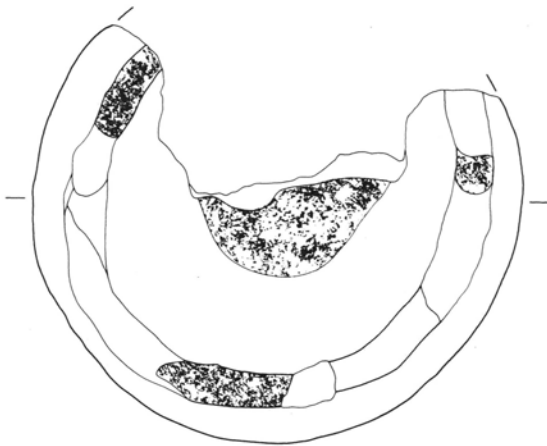
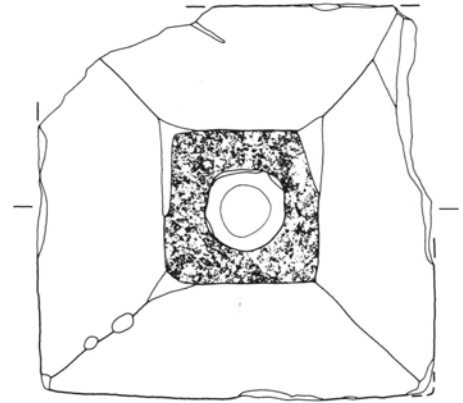
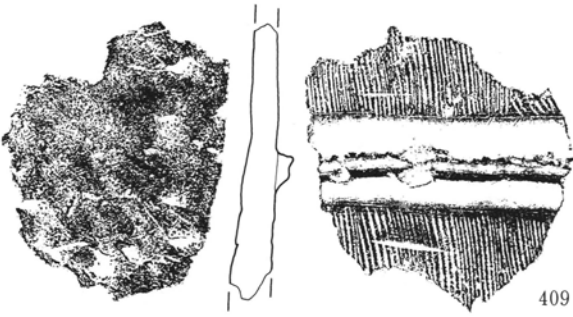
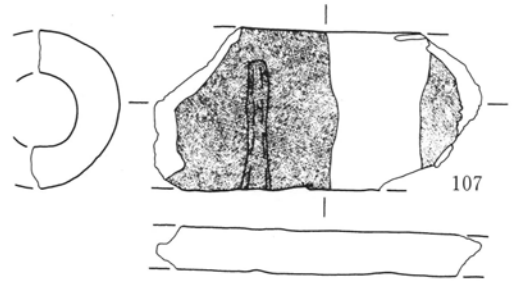
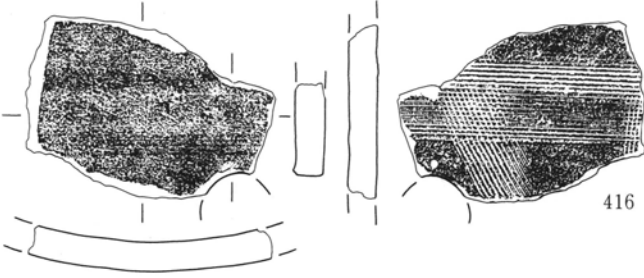
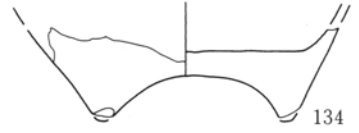
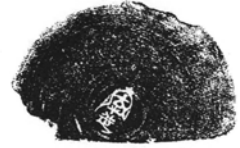
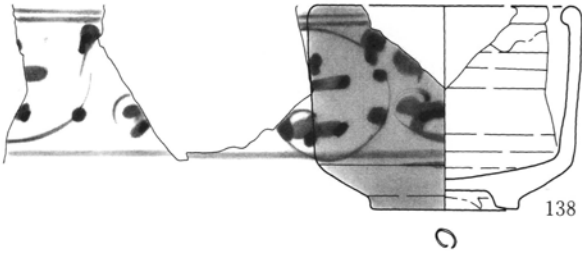
C·D区2面遺構外出土遺物



C・D区2面遺構外出土遺物



6. 遺構外出土遺物

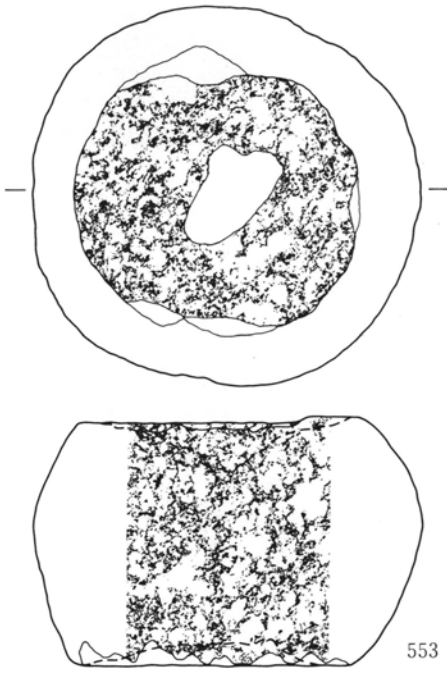


0 1 : 4 10cm

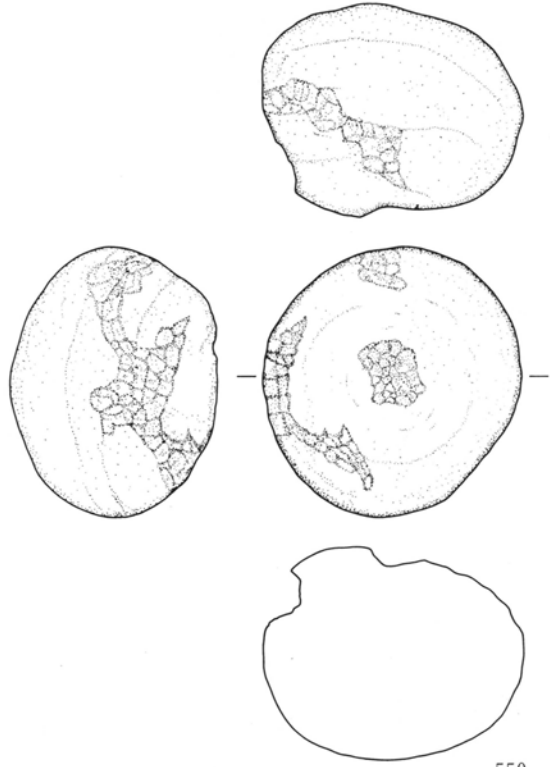
0 1 : 3 10cm

0 1 : 6 20cm

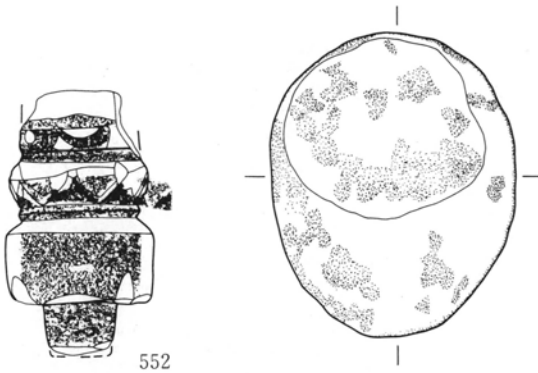
C・D区2面遺構外出土遺物



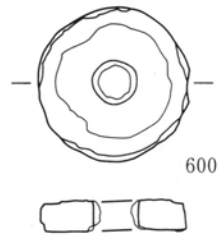
553



550



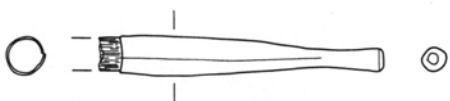
552



600



548



599



593

0 1 : 2 5cm

0 1 : 4 10cm

0 1 : 6 20cm

C・D区2面遺構外出土遺物

C・D区2面遺構外遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状 備考
066	土器 焙烙	790-745	口径 35.9 底径 32.0 器高 6.8	在地系。器高が高い。体部内面に緩い段差をもつ。外面の調整は丁寧。耳は1ヶ所残存し、体部内面に貼り付ける。	1/2残。 17世紀。
067	軟質陶器 内耳鍋	790-745	口径 — 底径 (18.0) 器高 9.6+	丸底。器高は低め。口縁部下の段差部分で欠損。耳の貼り付け部が1ヶ所残存。	体部1/4残。 14世紀後半～15世紀。
068	軟質陶器 内耳鍋	790-745	口径 — 底径 — 器高 5.5+	口縁部内面下位に段差を有し、口縁部は外傾する。	口縁部破片。
069	土器 皿	790-745	口径 (9.2) 底径 5.0 器高 2.3	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み中央と周縁が窪む。	口縁～体部1/2欠。
097	磁器 碗	790-745	口径 (10.2) 底径 — 器高 4.6+	肥前。外面コンニャク判による桐文。円と圏線が手書き。	口縁～体部1/2残。 波佐見系。
100	陶器 すり鉢	835-780	口径 — 底径 — 器高 6.6+	丹波?。外面回転横撫で調整。内面下部は使用により摩滅する。	体部下位破片。
104	陶器 小碗	800-740	口径 7.6 底径 4.0 器高 4.3	製作地不詳。体部から高台内に鉄泥を施し、口縁部から内面に灰釉を施す。内面の釉は白色不透明となる。高台内小判形内に「志御」の押印。	口縁～体部3/4欠。
105	陶器 碗	810-765	口径 11.3 底径 4.1 器高 5.8	肥前。京焼風。口縁部外面に1ヶ所鉄絵具で文様を描く。内面から高台脇に透明釉を施す。細かい貫入が入る。	口縁～体部中位 1/4欠。
106	陶器 碗	810-785	口径 (9.3) 底径 (2.8) 器高 4.7	京・信楽系。体部は直線的に開き、口縁部は直立。口縁部外面に6条の凹線を巡らす。高台径は小さく、シャープに削り出す。口縁部外面に鉄絵が認められる。内面から高台脇に細かい貫入の入る透明釉を施す。	口縁部1/4、以下 1/2残。
107	土製品 羽口	810-785	外径 6.3 内径 2.9 長さ 12.8+	外面主軸に直行して浅い溝状の窪みを有する。部分的に被熱により地の黄橙色が外面青灰色、内面赤褐色に変色。ガラス化は認められない。	破片。
108	陶器 碗	810-785	口径 (11.0) 底径 5.6 器高 7.4	肥前。外面東屋山水文。呉須の発色はよい。陶胎染付。	体部中位以上5/6 欠。
109	土器 鍋	810-785	口径 (37.8) 底径 (20.2) 器高 11.4	在地系。外型成形、轆轤調整。外面紐作り痕が残る。口縁部はほぼ水平に開き、端部は肥厚する。口縁端部上面に凹線が巡る。外面に煤が付着。	体部上位以上1/4、 以下1/2残。
110	陶器 皿	790-780	口径 (11.8) 底径 (7.3) 器高 2.3	瀬戸・美濃。内面に鉄絵具で蘭竹文を描く。内面から高台に薄く灰釉を施す。見込みと高台内に目痕が1ヶ所ずつ残る。	1/6残。 17世紀。
111	陶器 鉢	810-785	口径 (22.2) 底径 7.8 器高 6.6	瀬戸・美濃。見込み蛇の目割剥ぎ。丁寧な高台から体部が直線的に開く。口縁部は外反し、端部は玉縁状にする。内面から高台脇に灰釉を施す。粗い貫入が入る。	口縁～体部1/4底 部残。
112	陶器 皿	810-785	口径 (11.6) 底径 4.0 器高 4.5	瀬戸・美濃。内面鉄絵具?による梅花文と呉須による茎?を描く。内面から高台脇に灰釉を施す。	口縁部の一部、以下 1/2残。
113	陶器 碗	810-785	口径 (10.6) 底径 4.0 器高 4.7	瀬戸・美濃。高台の成形はシャープ。内面に鉄絵具で花卉を、呉須で茎を描く。内面から高台脇に灰釉を施す。細かい貫入が入る。	口縁～体部5/6欠。
114	土器 焙烙	810-785	口径 — 底径 — 器高 5.6	在地系。底部外面から体部中位に型作り痕が残る。外面体部下端と口縁部下に鋭削り痕が残る。耳が1ヶ所残存。口縁部に補修孔が1ヶ所残る。	破片。
115	軟質陶器 すり鉢		口径 — 底径 — 器高 7.0+	口縁部はやや内湾し、端部は尖り気味。体部外面下位は使用により摩滅する。	口縁部破片。
116	軟質陶器 すり鉢		口径 — 底径 (13.4) 器高 4.0+	内面に使用による摩滅有り。	体部下位～底部外 縁1/3残。
117	磁器 鉢		口径 — 底径 6.6 器高 2.7+	肥前。口縁部と体部が八角を呈する鉢であろう。蛇の目凹型高台。見込み笹文。体部下端に焼き継ぎ。高台凹型部に焼き継ぎ時の符丁を赤で書く。	体部下位～底部 5/8残。 焼き継ぎ。
118	磁器 碗		口径 (9.3) 底径 (3.4) 器高 4.6	肥前。外面植物文の染め付け。	3/8残。
119	陶器 尾呂德利		口径 — 底径 — 器高 9.8	瀬戸・美濃。外面にウノフ釉を、内面に鉛釉を薄く施す。	頸～体部上半1/2 残。
120	磁器 皿		長さ 6.5+ 幅 4.8+ 器高 2.9	肥前。打ち型による変形皿。高台貼り付け。	隅を含む破片。

上増田島遺跡C・D区第2面

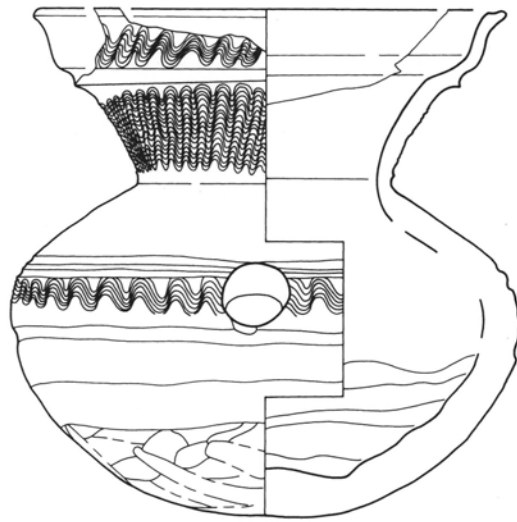
121	陶器 灯明皿	810-730	口径 底径 器高	8.1 3.8 2.1	製作地不詳。底部外面から体部下位丁寧な回転斲削り。内面から口縁端部外面に灰釉を施す。釉に貫入が入る。口縁部無釉部分に油煤が付着。	ほぼ完成。
122	陶器 灯明皿		口径 底径 器高	8.1 3.8 1.7	京・信楽系。器壁がやや厚い。外面は丁寧な回転斲削り。内面から口縁端部外面に細かい貫入の入る透明釉を施す。口縁部一部変形後に施釉。口縁部外面無釉部分に油煤付着。	口縁部1/6欠。
123	陶器 灯明受台		口径 底径 器高	8.7 5.0 6.8	製作地不詳。脚端部の開きは弱い。受け部の切り込みは無い。脚部右回転糸切り無調整。受け部端部を除いて内面から脚部外面に灰釉を施す。貫入が入る。	ほぼ完成。
124	陶器 灯明受台		口径 底径 器高	9.0 4.8 7.3	益子・笠間。脚部は開かず、高く延びる。受け部に「U」字状流入部を1ヶ所設ける。脚部右回転糸切り無調整。受け部端部を除いて内面から脚部外面に灰釉を施す。貫入が入る。	口縁部1/3欠。 近現代。
125	陶器 灯明受台	810・815- 730・735	口径 底径 器高	7.9 5.4 5.5	京・信楽系。脚部外面回転斲削り。受け部に「U」字状の流入部を設ける。脚筒部内面から脚裾部に透明釉を施す。細かい貫入が入る。胎土が緻密。	口縁～受け部3/8欠。
126	陶器 蓋	810・815- 730・735	天井径 摘み径 器高	8.4 1.0 1.8	製作地不詳。落とし蓋。天井部内面右回転糸切り無調整。摘みは粘土粒を貼り付ける。天井部外面白化粧後に灰釉を施す。摘み部のみ銅緑釉を施す。重ね焼きの為に天井部外面上端の釉を削る。汁注ぎの蓋か。	天井部1/3欠。
127	陶器 灯明皿	810・815- 730・735	口径 底径 器高	8.4 3.5 1.8	京・信楽系。外面は丁寧な回転斲削り。内面から口縁端部外面に細かい貫入の入る透明釉を施す。見込み3ヶ所に円錐ピン痕が残る。口縁部に油煤が付着。	口縁～体部1/4欠。
128	陶器 ?	810・815- 730・735	口径 底径 器高	(9.6) — 5.8+	製作地不詳。胎土は緻密。光沢を有し、細かい貫入の入る緑色釉を内外面に施す。外面を竹の節状に盛り上げ、中央に断面三角形の沈線を巡らす。	口縁部1/4を含む破片。眠平焼き又は類似の釜製品。
129	陶器 菊皿	810・815- 730・735	口径 底径 器高	— (7.1) 5.5+	瀬戸・美濃。内型により花卉を成形する。見込み付近に布痕が残る。高台は貼り付け。内面から高台脇に灰釉を施す。釉調は黄瀬戸風。	口縁部を欠いて1/2残。
130	陶器 蓋		天井径 摘み径 器高	9.4 1.8 4.3	製作地不詳。胎土に鉾物?粒を含み、やや粗く重い。外面に透明釉を施す。釉が乳白色を呈するが、方向性が認められる為、焼成時の降灰によるものであろう。土瓶の蓋か。	天井部1/4、摘み上端欠。
131	陶器 土瓶	810・815- 730・735	口径 底径 器高	8.4 8.5 14.7	製作地不詳。胎土はやや白く白色鉾物を含む。高台脇から口縁部外面に白濁した釉を施す。体部下端3ヶ所に退化した脚を貼り付ける。	口縁部3/4、釣り手、体部上位1/2欠。 幕末～近代。
132	陶器 急須	810・815- 730・735	口径 底径 器高	(6.5) 6.2 5.5	製作地不詳。万古風。内面に布痕が残る。外面は細かい地文を有し、体部の2面に文様を施すが、欠損の為不明。口縁部・注口部・取っ手端部のみ薄く施釉する。	口縁～体部1/2、底部中央欠。 近現代。
133	陶器 急須	810・815- 730・735	口径 底径 器高	6.2 5.8 6.3+	製作地不詳。万古風の胎土。白土を打ち刷毛し、灰釉を施す。高台脇以下と内面は無釉。	口縁～体部の一部、取手先端、底部中央欠。近現代。
134	土器 香炉		口径 底径 器高	— (9.0) 3.6+	搬入系。三足。焼成はやや硬質で外面にベンガラを塗布する。見込みに瓢箪形内に「大平造」の押印。「大平造」印は他遺跡に於いて陶器すり鉢が出土しており、陶器産地に於いて生産された製品であろう。	体部最下位～底部残。
135	陶器 尾呂茶碗		口径 底径 器高	10.2 5.0 7.0	高台脇から内面に鉛釉を施し、口縁部にウノフ釉を施す。ウノフ釉の発色は薄い。	口縁部～体部上半1/3欠。
136	陶器 折縁皿		口径 底径 器高	(12.0) — 2.2+	瀬戸・美濃。口縁は折縁をなし、灰釉を口縁部に施す。	底部を欠いて1/6残。 17世紀。
137	陶器 碗		口径 底径 器高	— (5.0) 5.3+	肥前。外面に大きく唐草文を描く。陶胎染付。	口縁部を欠いて1/2残。
138	陶器 香炉		口径 底径 器高	(10.7) 5.8 8.1	肥前。口縁部内面に折り返す。高台は蛇の目状で幅広い。内面口縁部以下と高台端部無釉。外面に唐草文を描く。陶胎染付。	口縁～体部1/4、底部1/2残。
139	陶器 碗		口径 底径 器高	— (5.3) 2.5+	肥前。京焼風。高台の削り出しはシャープで、高台内の挟りは浅い。内面から高台内に透明釉を施す。釉に貫入が入る。	体部下位～底部1/2残。
140	陶器 ?		口径 底径 器高	(4.0) 3.1 4.7+	京・信楽系。器形・施釉範囲は土瓶と同様。底部は基筒底状を為し、小さい脚を3ヶ所貼り付ける。外面体部下位以下と受け部から内面体部上位は無釉。釣り手1ヶ所残存。細かい貫入の入る透明釉を施す。外面に赤と緑で梅花状の文様を上絵付けする。底部外面墨書「石□」。	1/2残。 墨書。
141	陶器 半胴甕		口径 底径 器高	(17.0) — 8.2+	瀬戸・美濃。外面口縁部下に凹線を1条巡らし、上部は突帯状を為す。口縁部は内面側に肥厚する。口縁部上面が僅かに窪む。内外面に錆釉を施す。	口縁～体部上半1/4残。
142	土器 皿		口径 底径 器高	(9.0) (6.0) 2.3	在地系。底部回転糸切り無調整。口縁部外面を直立させる。	底部中央を欠いて1/2残。
143	土器 皿		口径 底径 器高	(8.9) (5.0) 1.9	在地系。底部左回転糸切り無調整。体部から口縁部が直線的に開く。	口縁～体部の一部、底部1/3残。 中世。

6. 遺構外出土遺物

144	土器 皿		口径 (8.0) 底径 (5.0) 器高 1.5	在地系。底部回転糸切り無調整。器壁がやや厚く、器高が低い。	1/6残。 中世。	
145	陶器 すり鉢		口径 - 底径 - 器高 4.9+	瀬戸・美濃。錆釉を施す。	口縁部破片。	
146	陶器 腰錆碗		口径 9.4 底径 - 器高 4.4+	瀬戸・美濃。内面から口縁部外面に灰釉を、体部外面に錆釉を施す。外面袖境に螺旋状凹線を巡らす。	体部中位以上1/2残。	
147	陶器 すり鉢		口径 (33.6) 底径 - 器高 10.0+	堺・明石。口縁部は縁帯をなし、内面の突帯は丸みを帯びて低くなる。口縁部外面下は篋削り。	口縁～体部中位1/4残。	
393	磁器 青磁碗		口径 - 底径 - 器高 1.8+	龍泉窯系青磁。外面に幅の狭い蓮弁文を施し、口縁部は外反する。釉は厚い。	口縁部破片。 中世。	
394	土器 皿		口径 8.1 底径 5.0 器高 1.9	在地系。底部左回転糸切り無調整。口縁部が僅かに外反する。見込み周縁が窪む。	体部中位以上1/2残。 中世。	
416	土器 竈		口径 - 底径 - 器高 6.8+	在地系。外面に掻き目を施す。焚き口反対側の小孔部が認められる。	体部上位破片。	
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考
409	埴輪 円筒	815-835- 775-780	器高 14.6+ 器厚 1.3～ 2.3	①粗砂、白色・赤褐色鉱物 ②普通 ③橙 5YR 6/6	外面 2cm 8本のタテハケ後突帯貼り付け、突帯M字形で上稜が突出、2ヶ所に篋状工具圧痕あり。内面 ナナメ方向ナデ。	突帯を含む胴部破片。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴		残存状態 備考
523	石製品 鉢	790-745	口径 21.5 外径 25.5 内径 18.1 底径 17.2 器高 14.0 重量 5314 粗粒輝石安山岩	外面体部上半が内湾する。外面口縁～体部は磨いて丁寧な仕上げる。内面は一部平滑も、全体に凹凸が顕著。		口縁部3/4、以下1/2残。
548	石製品 凹み石?	815-820- 780	長さ 16.2 幅 12.9 厚さ 12.2 重量 1660 ニッ岳軽石	円盤を使用する。全体に叩打によると思われる凹みがあり、部分的に集中する。		完形。
550	石製品 凹み石	820-780- 785	長さ 14.2 幅 13.6 厚さ 11.2 重量 1692 粗粒輝石安山岩	円盤を使用する。叩打の集中による凹みが円状・帯状を為す。		完形。
552	石製品 宝篋印塔 相輪		長さ 21.0+ 最大径 11.7 柄上 端径 6.2 重量 2771 粗粒輝石安山岩	器表は磨いて丁寧に仕上げる。彫り込みはやや浅め。		下位残。
553	石製品 五輪塔 水輪		上面径 21.9 最大径 30.2 下面 径 21.0 重量 18390 粗粒輝石安山岩	器表は雑な仕上げで、風化する。最大径はやや上位に位置する。上面中央に楕円状の窪みを有する。上下面端部に剥離が目立つ。		ほぼ完形。
554	石製品 五輪塔 火輪		上面幅 12.0 底面幅 31.0 高さ 15.5 柄穴径 6.05 胴深さ 4.5 重量 11930 ニッ岳軽石	器表は磨いて丁寧に仕上げる。各辺は直線的で四隅がやや端反る。柄穴は円錐状を呈する。		一隅欠。
555	石製品 五輪塔 水輪		上面径 20.7 下面径 20.0 高さ 22.1 重量 21000 粗粒輝石安山岩	器表は凹凸が目立つ雑な仕上げで風化する。一部器表が剥離する。上下面とも窪みは浅い。		ほぼ完形。
593	鉄製品	815-820- 775-780	高さ 5.9+ 幅 1.3～1.5 厚さ 0.6～0.7 重量 67.4	板を2ヶ所で屈曲させる。全体に錆が付着し、表面が層状に剥離。		端部欠。
599	金属製品 煙管吸口		長さ 6.9 最小径 0.4 口付け径 0.5 重量 8.1	肩はなく、口付けから一度括れて緩やかに湾曲し小口に至る。小口が二次的に潰れ、接合部が剥がれる。羅宇と思われる木質が一部残る。		ほぼ完形。
600	鉄製品 戸車?		外径 4.0 孔径 1.2 厚さ 0.8 外縁幅 0.4 同厚さ 0.7 重量 53.7	中心に孔をもつ円盤状で、片面は外縁より内側が厚い。		ほぼ完形。



# 下増田常木遺跡

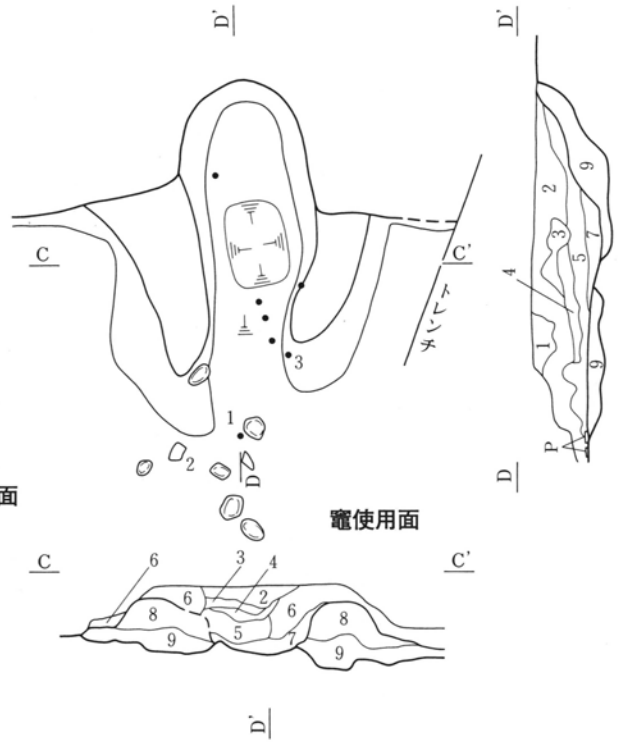
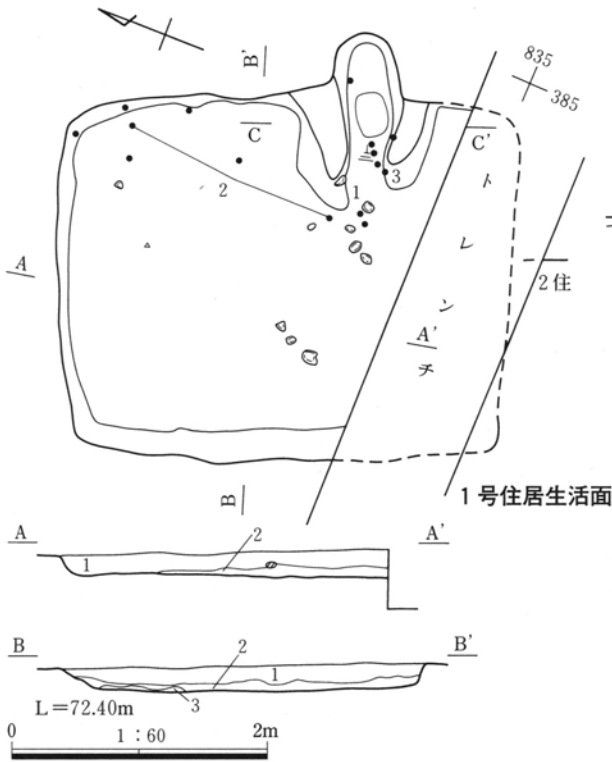


# 1. 住居

## 1号住居(PL. 80-97)

**位置** 830・835-385 **重複** 2号住居→1号住居  
**形状** 長方形 **規模** (3.52)×2.75m **面積** 6.6+m<sup>2</sup>  
**方位** -24° **床面** 確認面から22cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。砂質で、硬化面は確認できない。  
**壁溝** 確認できなかった。 **竈** 東壁南寄りに設置する。焚き口及び火床を楕円状に5~10cmほど掘り窪め、黒褐色土を充填して形状を整える。袖は粒子

の細かい暗灰黄色土を用いて構築し、上端の長さが北73cm、南51cm残存する。燃焼部は長さ50cm、幅35cmで壁内に位置し、約5cmほど窪む。煙道は約35°で2段に立ち上がる。 **貯蔵穴** 確認できなかった。トレンチにより破壊された可能性がある。 **柱穴** 確認できなかった。 **遺物** 竈周辺と東壁寄りに多く分布する。須恵器杯、土師器小型甕のほか、河床礫、古墳時代前期の台付甕、鉄滓などが出土した。  
**所見** 出土遺物より9世紀中葉と考えられる。

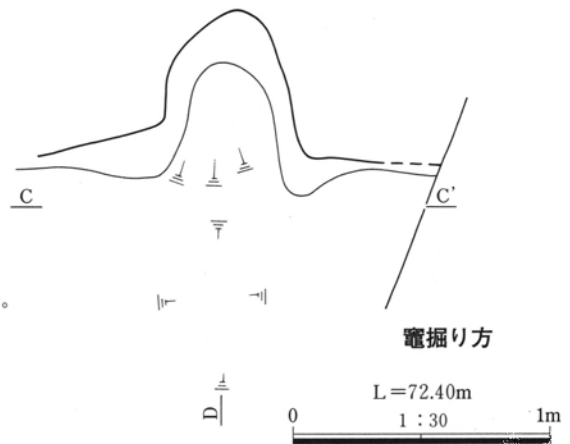


### 1号住居

1. 黒褐色土。灰褐色ブロックを少量、パミスを微量含む。
2. 黒褐色土。パミスを微量含む。
3. 黒褐色土。粗砂を少量含む。

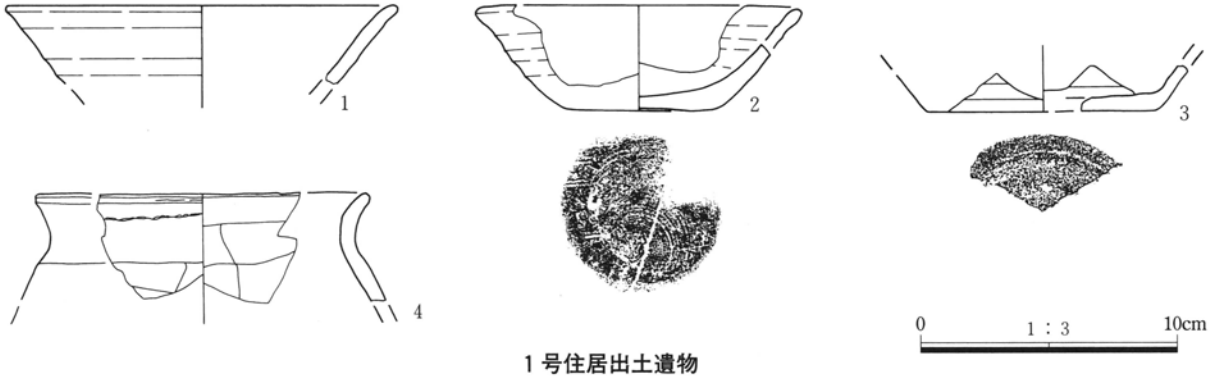
### 1号住居竈

1. 鈍い黄色土。シルト質。しまりが強い。焼土・灰微量含む。
2. 灰黄褐色土。土粒が細かい。炭粒・FPを微量含む。
3. 鈍い黄色土。焼土・灰を微量含む。
4. 黄褐色土。やや粘質。しまりが強い。3層のブロック土をやや多量含む。
5. 黒褐色土。しまりが弱い。黒色の灰を多量、焼土粒を少量含む。
6. 暗灰黄色土。土粒が細かい。崩落した竈構築土。
7. 黒褐色土。黒色の灰・炭粒をやや多量含む。
8. 暗灰黄色土。土粒が細かい。しまりがやや強い。袖部。
9. 暗褐色土。しまりが強い。





1. 住居



1号住居出土遺物

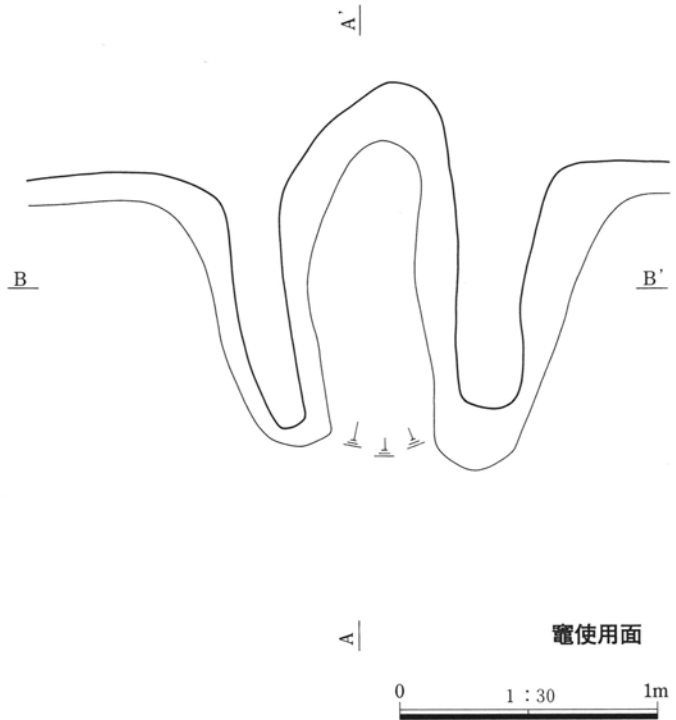
1号住居遺物観察表

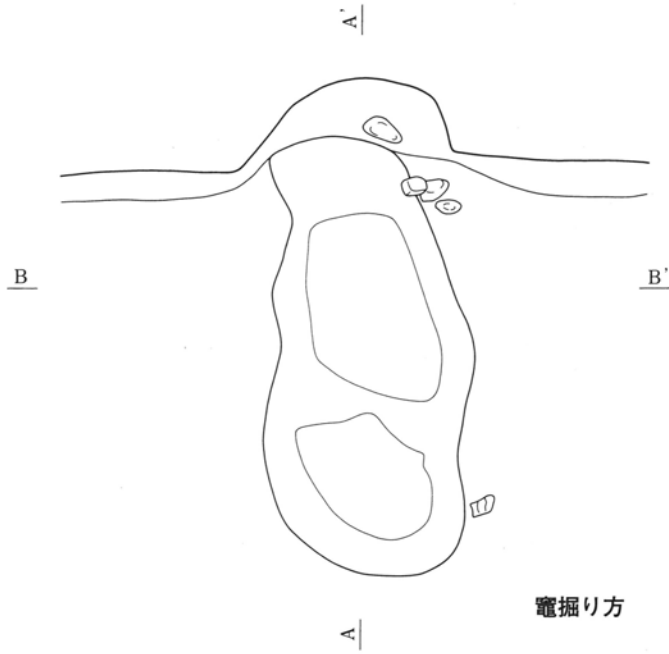
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	須恵器 杯	竈+4	口径 (15.2) 底径 - 器高 3.1+	①礫、粗砂、白色鈺物 ②還元焰 ③灰白2.5Y7/1	摩滅が顕著。口縁端部僅かに外反。 外面 轆轤成形後撫で。 内面 轆轤整形。	口縁～体部 1/4残。
2	須恵器 杯	+12、 竈+11、 埋没土	口径 (12.8) 底径 5.6 器高 4.2+	①粗砂、石英、白色鈺物 ②還元焰気味 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部外反。 外面 体部轆轤整形、底部右回転糸切り未調整。 内面 轆轤整形。	口縁～体部 7/8欠。
3	須恵器 杯	竈+8	口径 - 底径 (9.0) 器高 1.8+	①白色鈺物 ②還元焰 ③黄灰2.5Y6/1	外面 轆轤整形。 内面 底部右回転糸切り後撫で。	体部下半～底 部1/4残。
4	土師器 小型甕	埋没土	口径 (13.1) 底径 - 器高 4.3+	①粗砂、白色鈺物 ②普通 ③褐7.5YR4/4	口縁弱い「コ」の字状。口唇部に緩やかな面を、口縁端部外面側に弱い沈線をもつ。外面 体部左方向鋭削り後口縁部横撫で。 内面 体部鋭撫で後口縁部横撫で。	口縁～体部上 端1/8残。

2号住居(PL. 80・81・97・98)

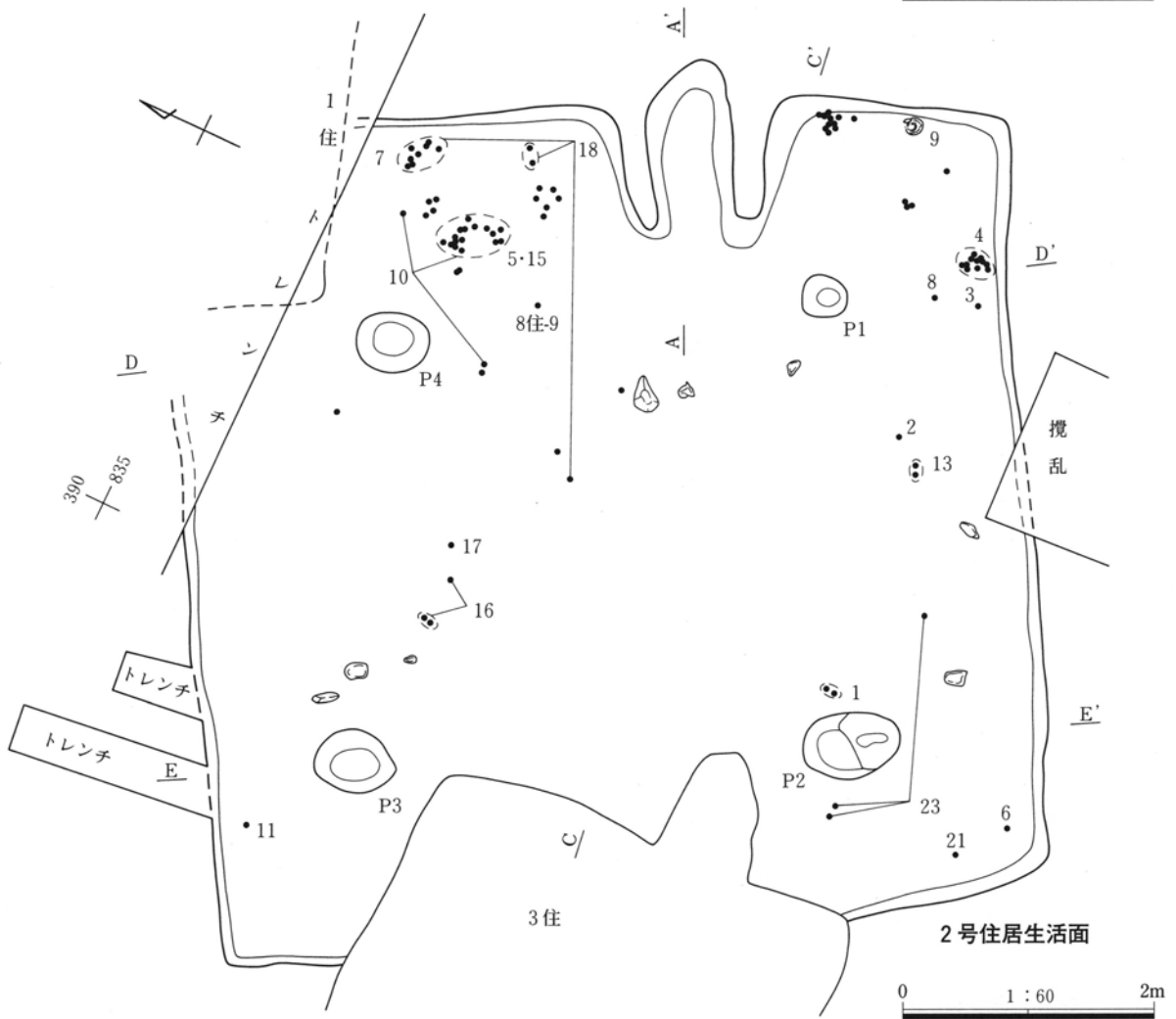
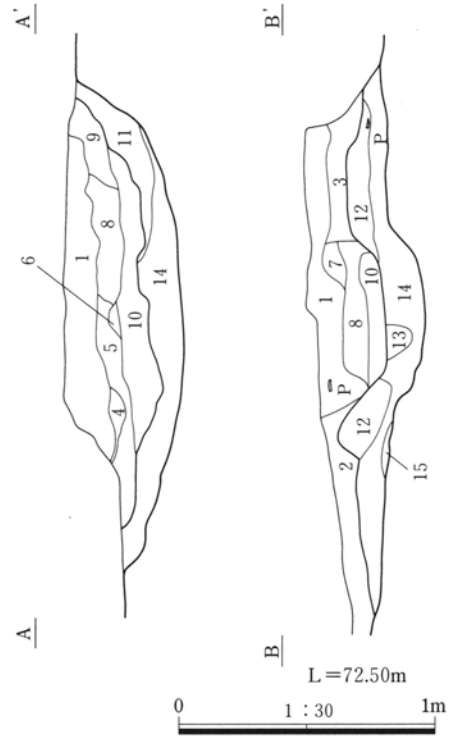
**位置** 825・830-380~390 **重複** 2号住居→1・3号住居 **形状** 方形 **規模** 6.26×6.56m **面積** 40.7+m<sup>2</sup> **方位** -26° **床面** 確認面より29cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。北壁側から南壁側に向かって約10cmほどなだらかに低くなる。 **壁溝** 確認できなかった。 **竈** 東壁南寄りに設置する。細長い長方形の掘り方を黒褐色土で埋め戻して形状を整える。壁付近から芯材にしたと思われる円礫が出土した。袖は焼土粒などを含む黒褐色土で構築し、上端の長さが北100cm、南96cm残存する。燃烧部は長さ103cm、幅42cmで壁内に位置し、焚き口側の火床が約10cm窪む。煙道は約35°で立ち上がる。 **貯蔵穴** 確認できなかった。 **柱穴** 4基検出した。住居プランの対角線上に位置する。規模はP1 39×36×16cm P2 79×54×26cm P3 67×51×23cm P4 58×48×25cmで、P2は北側に浅く平坦な中段をもつ。 **遺物** 東壁寄りに分布する。須恵器甗・杯、

土師器杯・壺・甕、8号住居と接合する土師甕破片、鉄製刀子、河床礫などが出土した。 **所見** 出土遺物より5世紀後半と考えられる。

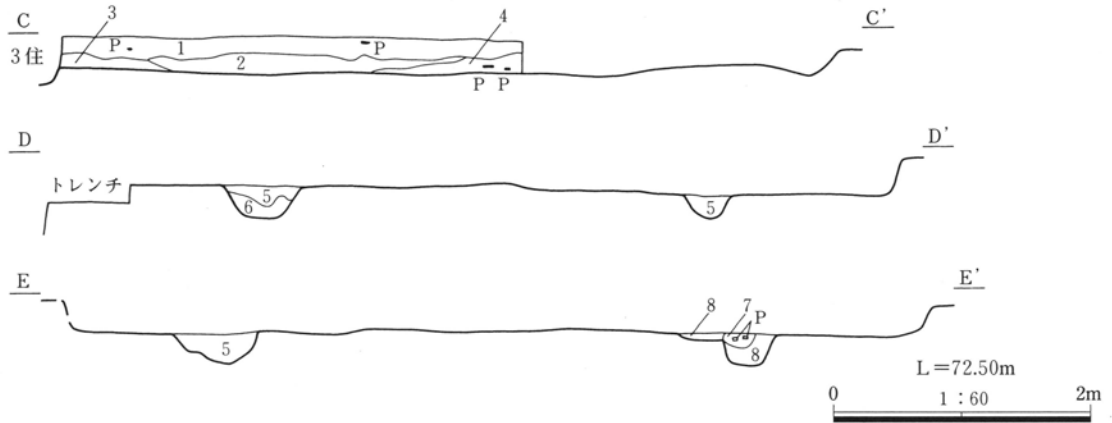




竈掘り方



1. 住居



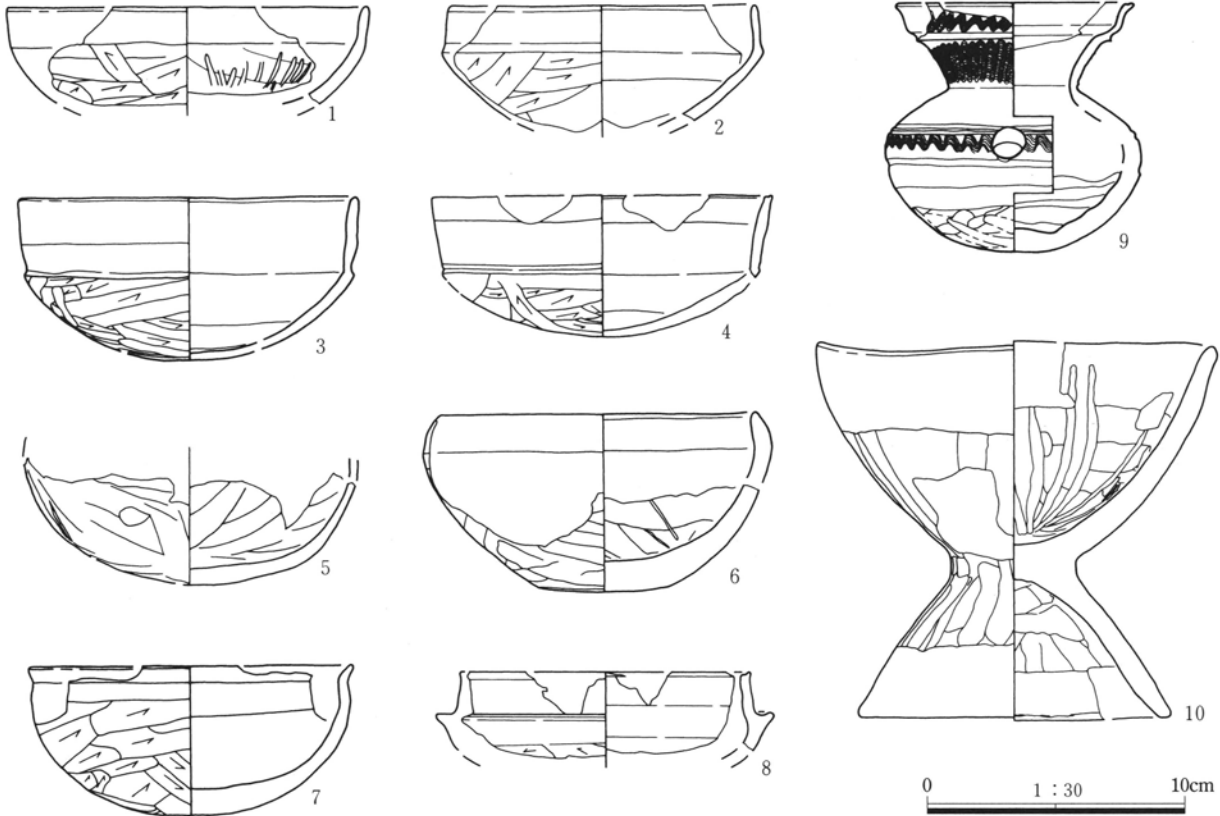
2号住居

1. 暗褐色土。しまりがやや強い。径5mm程のパミスを微量含む。
2. 黒褐色土。径2mm程のパミスを微量含む。
3. 極暗褐色土。径5mm程のパミスを微量含む。
4. 黒褐色土。しまりがやや強い。径2mm程のパミス・5mm前後の赤褐色被熱粘土粒を微量含む。
5. 極暗褐色土。焼土粒・径2mm程のパミスを微量含む。
6. 暗褐色土。
7. 褐灰色土。暗褐色土粒を均一に少量含む。
8. 黒褐色土。暗褐色土粒を均一に少量含む。

4. 黒褐色土。粒子の細かい鈍い黄褐色土ブロックを多量含む。
5. 暗赤褐色土。粘質土。焼土ブロックをやや多量含む。
6. 黒褐色土。しまりが弱い。
7. 暗赤褐色土。粘質土。しまりが強い。焼土ブロックをやや多量含む。
8. 赤褐色土。粘質土。しまりが強い。天井の崩落。
9. 黒褐色土。やや粘質。焼土粒を少量含む。
10. 黒色土。径3mm以下のパミスを少量含む。
11. 黒褐色土。焼土粒を微量含む。
12. 黒褐色土。しまりが強い。褐色土粒・焼土粒・径10mm程のパミスを少量含む。袖部。
13. 暗赤褐色土。粘質土。径1mm程のパミスを少量含む。
14. 黒褐色土。粒子が荒い。径20mm程のパミスを少量含む。
15. 鈍い褐色土。

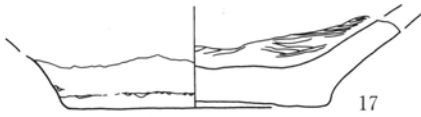
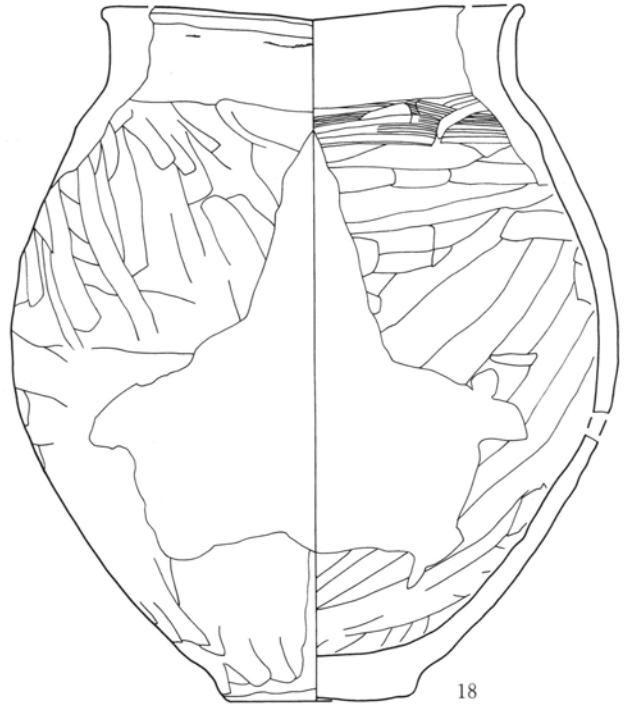
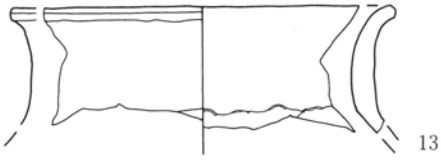
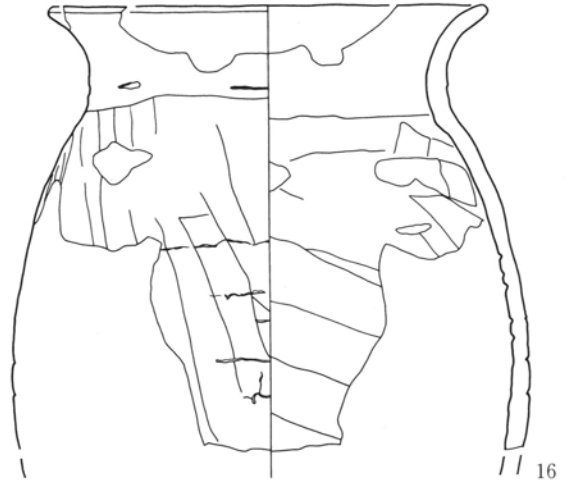
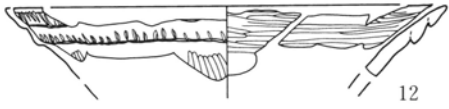
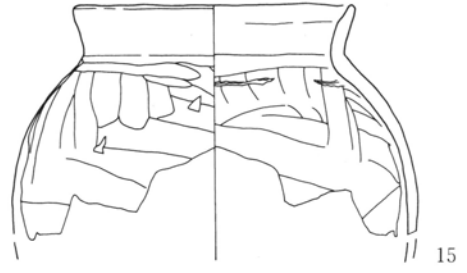
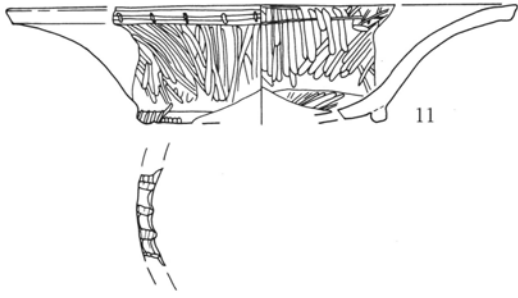
2号住居竈

1. 暗赤褐色土。粘質土。径1mm程のパミス・焼土粒を少量含む。
2. 黒色土。焼土粒をやや多量、炭粒を少量含む。
3. 黒褐色土。径1mm程のパミスを微量含む。



2号住居出土遺物

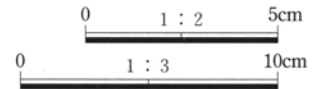
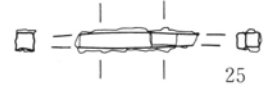
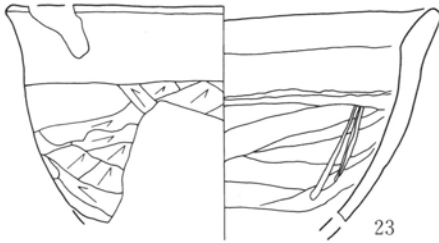
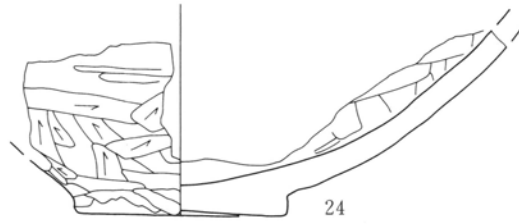
下増田常木遺跡



0 1 : 3 10cm

2号住居出土遺物

1. 住居



2号住居出土遺物

2号住居遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	土師器 杯	+27	口径 (14.0) 底径 - 器高 3.8+	①粗砂、白色・黒色 鉾物 ②普通 ③赤褐5YR4/6	外面 口縁部横撫で、体部斲削り後撫で。 内面 口縁部横撫で、体部撫で後放射状斲磨き。	口縁部1/8、体 部上半1/4残。
2	土師器 杯	+6	口径 (11.9) 底径 - 器高 4.5+	①粗砂、白色鉾物 ②普通 ③鈍い黄橙10YR6/4	外面 口縁部横撫で、体部斲削り後撫で。 内面 口縁部横撫で、体部撫で後上半横撫で。	口縁部～体部 上半1/5残。
3	土師器 杯	床面直上 ～+7	口径 (13.2) 底径 - 器高 6.0+	①粗砂、緻密 ②良好 ③橙7.5YR6/6	口縁上端に外傾する面を、口縁下端にやや浅いが明瞭な 稜をもつ。外面 口縁部横撫で、体部斲削り後撫で。 内面 口縁～体部上半横撫で、体部下半撫で。	3/8残。
4	土師器 杯	床面直上、 竈埋没土、 820-390	口径 13.1 底径 - 器高 5.5	①緻密。細砂、粗砂 ②良好 ③橙5YR6/6	口縁は直線的に立ち上がり、上端に面をもつ。 外面 口縁部横撫で後上半強い横撫で、下端斲状工具に よる稜。体部斲削り後撫で。内面 口縁部横撫で後上 半強い横撫で。体部撫で後上半横撫で。	口縁部1/2、体 部1/8欠。
5	土師器 杯	+2～7、 埋没土	口径 - 底径 - 器高 4.2+	①細砂、粗砂、石英、 白色鉾物 ②普通 ③鈍い赤褐5YR4/4	外面 左・左上方向斲削り後撫で。 内面 右上方向斲削り後撫で。	体部3/4残。
6	土師器 杯	+2	口径 (13.2) 底径 - 器高 6.0+	①粗砂、軽石、石英 ②普通 ③暗褐7.5YR4/4	器肉厚い。口縁部緩やかに内傾し、湾曲する底部をもつ。 外面 口縁～体部最上位横撫で、体部斲削り後撫で。 内面 体部左上方向斲削り後口縁部横撫で。	口縁～体部上 半7/8欠。
7	土師器 杯	+5、 埋没土	口径 (12.6) 底径 - 器高 5.9+	①粗砂、白色鉾物 ②普通 ③明赤褐5YR5/8	口縁内斜。 外面 体部斲削り後口縁部横撫で。 内面 体部撫で後口縁部横撫で。	体部上半～口 縁部3/4欠。
8	須恵器 杯	+13	口径 (11.2) 底径 - 器高 3.1+	①細砂、白色鉾物 ②還元焰、やや硬質 ③灰 N5/	口縁端部を弱く摘み上げ、沈線状の面を成す。 外面 口縁部回転撫で、体部上半回転撫で、下半左方向 斲削り。内面 回転撫で。	口縁～体部上 半1/4残。
9	須恵器 壺	床面直上	口径 (9.2) 底径 2.1 器高 9.9+	①細砂、白色鉾物 緻密 ②還元焰 堅緻 ③暗灰 N3/	外面 口縁端部が外湾し上端に面をもつ、口縁部回転撫 で後波状文、下端に沈線を施し稜を成す。頸部回転撫 で後波状文、胴部上半回転撫で後波状文と上2条下1条の 沈線、胴部下半横方向斲削り後不定方向指撫で。内面 口縁部～胴部上半回転撫で、胴部下半轆轤成形痕を残す。	口縁部7/8、頸 部1/4欠。
10	土師器 高杯	+1～3、 埋没土、 825-400	口径 15.4 脚径 12.1 器高 14.8	①粗砂、白色・黒色 鉾物、石英 ②普通 ③鈍い褐7.5YR5/4	外面 杯部下方向斲削り後口縁部横撫で、脚部上方向斲 削り後下半横撫で。 内面 杯部横方向撫で後口縁部横撫で後放射状の粗い斲 磨き、脚部斲撫で後下半横撫で、端部折り返し。	口縁・脚部下 半各1/4欠。
11	土師器 高杯	+4	口径 (20.1) 底径 - 器高 4.7+	①細砂、石英 ②普通 ③鈍い橙7.5YR6/4	口縁大きく外湾し、杯下部に垂下帯を有する。 外面 口縁部横撫で後櫛状工具の刺突、体部撫で後縦方 向斲磨き、垂下帯横撫でによる貼付後下面に櫛状工具の 刺突。内面 口縁部横撫で後横方向斲磨き、体部横方 向撫で後縦方向斲磨き。	口縁～杯体部 1/4残。遺構外 出土遺物No14 と同一器種 か。
12	弥生土器 壺	埋没土、 820・830- 390・400	口径 (17.2) 底径 - 器高 2.8+	①細砂 ②普通 ③鈍い黄橙10YR6/4	口縁部が大きく外反。外面 口縁部上半に輪積み痕を 2段残り横撫で後刺突、下半横撫で後縦方向斲磨き。 内面 横撫で後横方向斲磨き。	口縁部上半 1/4残。
13	土師器 壺	床面直上、 埋没土	口径 (15.0) 底径 - 器高 5.0+	①細砂、粗砂、白色 鉾物、石英 ②良好 ③橙5YR6/4	外面 口縁部横撫で、胴部斲削り。 内面 口縁部横撫で、胴部右方向斲削り。	口縁～胴部最 上端1/4残。

下増田常木遺跡

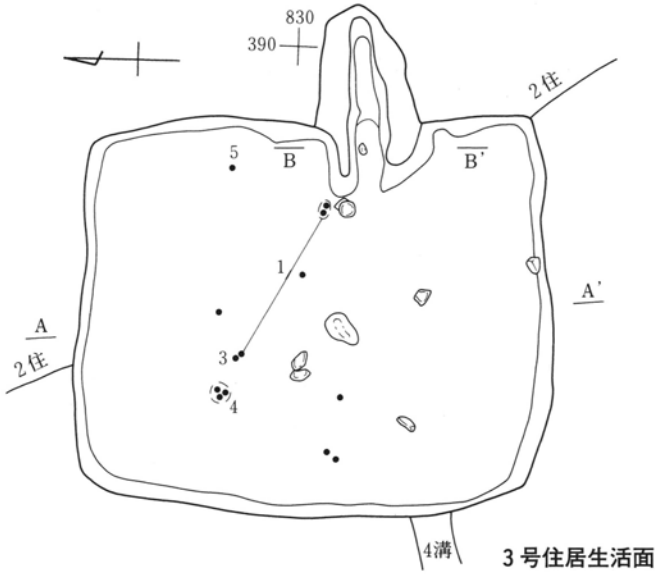
14	土師器壺	床面直上、埋没土、竈埋没土	口径 (18.1) 底径 - 器高 6.5+	①細砂、粗砂、白色鈹物、キメ粗い②普通③明黄褐10YR6/6	口縁端部に面をもつ。外面 口縁部上半強い横撫でによる弱い稜、下半指頭圧痕後横撫で、胴部左上方向筥削り。内面 口縁部横撫で、胴部筥撫で。	口縁部1/2、胴部上端1/8残。
15	土師器甕	+2、埋没土	口径 11.1 底径 - 器高 9.1+	①細砂、白色・黒色鈹物 ②普通③鈍い赤褐5YR4/4	外面 口縁部横撫で、胴部左・左上方向筥削り後撫で。内面 口縁部横撫で、胴部撫で、胴部最上位に輪積み痕。	口縁～胴部上半1/2残。
16	土師器甕	床面直上～+2、埋没土	口径 (17.2) 底径 - 器高 17.5+	①細砂、粗砂、白色鈹物、石英 ②酸化焰③鈍い橙7.5Y5/4	外面に一部輪積み痕を残し、内面筥削りによる径2mm程の砂粒移動痕が顕著。外面 胴部上方向筥削り後口縁部横撫で。内面 口縁部横撫で、胴部左上方向筥削り。	口縁部1/4、胴部上位1/2、胴部中位1/8残。
17	土師器甕	+7	口径 - 底径 10.4 器高 3.4+	①粗砂、礫、石英②普通③橙7.5YR7/6	外面 縦方向筥削り後撫で、底部木葉痕。内面 横方向刷毛目後右上方向粗い筥磨き、底部撫で。	胴部最下位～底部残。
18	土師器甕	床面直上～+3、竈埋没土、埋没土、825-400	口径 16.8 底径 7.2 器高 27.2	①細砂、粗砂、白色・黒色鈹物、石英②普通③明赤褐2.5YR5/6	外面 口縁部横撫で、胴部上半左上方向・下半左方向・最下位上方向筥削り。内面 口縁部横撫で、胴部上位左方向一部刷毛目状の筥削り、中位以下右上方向・底部上方向筥削り。	口縁部一部、胴部1/4、底部残。
19	土師器甕	竈埋没土	口径 - 底径 (9.0) 器高 5.4+	①粗砂、白色鈹物、石英 ②普通 ③外鈍い赤褐5YR4/6内 灰褐7.5YR5/2	外面 筥削り、摩滅が激しく単位不明。内面 筥撫で。	胴部下位～底部1/4残。
20	土師器甕	床面直上	口径 - 底径 (6.4) 器高 3.0+	①細砂、軽石、石英②普通③明赤褐2.5YR5/6	外面 胴部上方向筥削り、底部筥削り。内面 筥撫で。	胴部最下位～底部1/2残。
21	土師器鉢	+4	口径 - 底径 7.0 器高 3.6+	①粗砂、石英②普通③鈍い橙7.5YR7/4	外面 胴～底部筥削り後撫で。内面 横方向筥撫で後粗い放射状筥磨き。	胴部最上位～底部3/4残。
22	土師器甕	床面直上、竈埋没土、埋没土	口径 - 底径 7.6 器高 6.2+	①石英、軽石②普通③明赤褐5YR5/6	器壁の摩滅が顕著。外面 胴部上方向筥削り、底部撫で。内面 右方向筥削り。	胴部下位～底部1/2残。
23	土師器甕	床面直上～+1、埋没土	口径 16.9 底径 - 器高 8.5+	①粗砂、石英、白色鈹物 ②良好③明赤褐5YR5/6	外面 口縁～胴部最上位横撫で、胴部筥削り。内面 口縁～胴部最上位横撫で、胴部筥撫で。	口縁～胴部3/4残。
24	土師器甕	床面直上、竈埋没土、埋没土	口径 - 底径 8.2 器高 7.4+	①細砂、粗砂、軽石②普通③橙2.5YR6/6	器壁の摩滅が顕著。外面 胴部筥削り後横方向粗い筥磨き、底部木葉痕。内面 筥削り。	胴部下半1/2、底部残。
25	鉄製品刀子?	埋没土	長さ 4.8+ 幅 0.5～0.7 厚さ 0.5～0.7 重量 5.2		錆化が顕著。方形状のつくり。一部にはほかの鉄片が付着。	茎一部残。

3号住居(PL. 81・82・98)

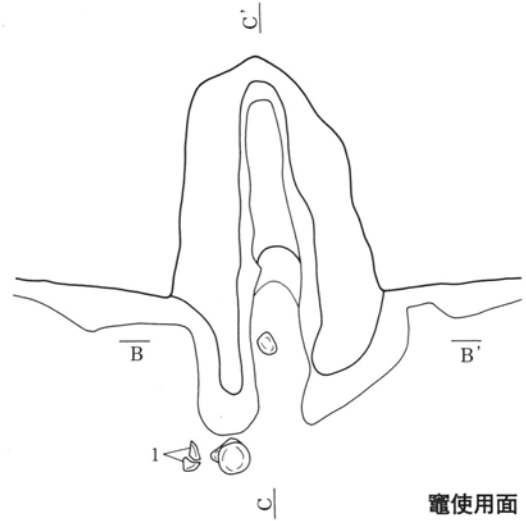
**位置** 825・830-385・390 **重複** 2号住居→3号住居、プラン確認により4号溝→3号住居 **形状** 長方形 **規模** 3.76×3.13m **面積** 9.8m<sup>2</sup> **方位** -5° **埋没土** 北側より流入する。 **床面** 確認面より32cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。 **壁溝** 確認できなかった。 **竈** 東壁南寄りに位置する。壁外に張り出す楕円状の掘り方を埋め戻して形状を整える。掘り方上面は粘質土(11層)を用いる。西の外縁部に薄く焼土が分布し、北・東・南の縁付近に芯材に用いたと思われる河床礫が出土した。袖は上端の長さが北36cm、南34cm残存する。構築土が南袖はし

まりの強い粘質土(9層)であるのに対し、北袖は質の異なる土(8層)からなる。北袖内部出土の杯と外部出土の杯が接合することから、8層は崩落土等の可能性がある。燃烧部は長さ65cm、幅20cmで壁付近に位置する。煙道は55°で立ち上がった後5°で55cm進み、再び55°で立ち上がる。底面は被熱により一部硬化する。天井は崩落していたが(4・6層)、住居の壁外では高さが確認面から約15cm残存する。 **貯蔵穴** 確認できなかった。 **柱穴** 確認できなかった。 **遺物** 中央付近に散在する。土師器杯、須恵器杯、河床礫のほか、古墳時代前期の台付甕などが出土した。 **所見** 出土遺物より8世紀後半と考えられる。

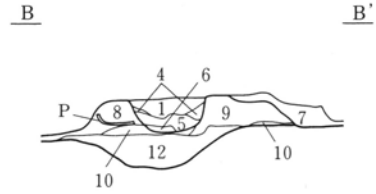
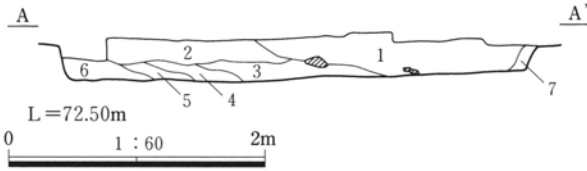
1. 住居



3号住居生活面



竈使用面

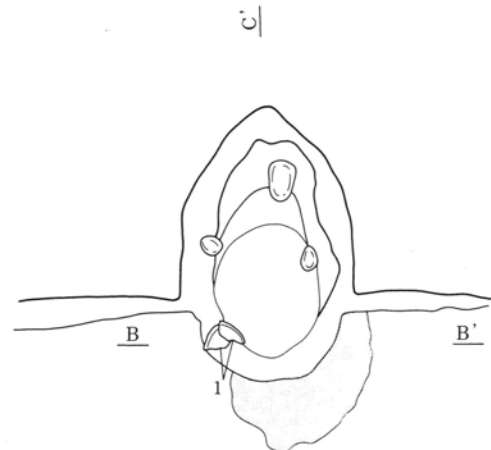
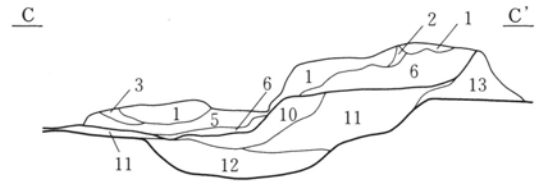


3号住居

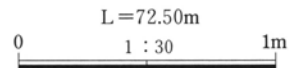
1. 暗褐色土。パミス・炭粒を少量、明褐色土・褐色土を均一に少量、南側を中心に径10cm程の礫を多量含む。
2. 暗褐色土。パミス・炭粒を少量含む。
3. 黒色土。炭粒・褐色土ブロックを少量含む。
4. 黒褐色土。径5mm程のパミスを少量含む。
5. 暗褐色土。径1mm程のパミスを少量含む。
6. 黒褐色土。径1mm程のパミスを少量含む。
7. 暗褐色土。パミスを微量含む。

3号住居竈

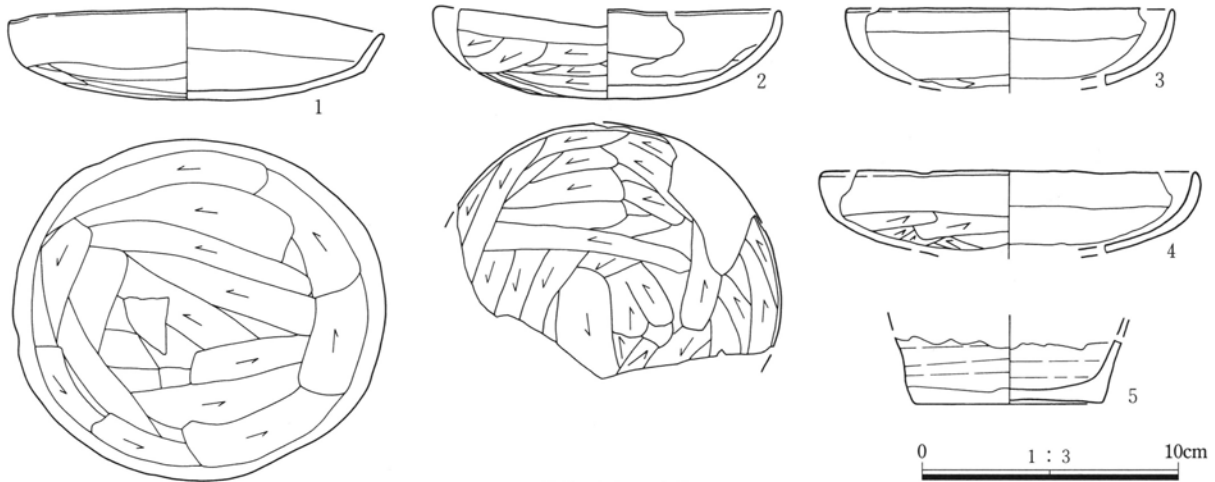
1. 黒褐色土。パミス・焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土。焼土粒をやや多量、パミスを微量含む。
3. 灰褐色土。やや粘質。パミスを少量含む。
4. 鈍い黄褐色土。粘質。粒子が細かい。天井の崩落。
5. 灰褐色土。しまりが強い。焼土粒を少量含む。
6. 鈍い黄褐色土。粘質。焼土ブロックを少量含む。天井の崩落。
7. 黒褐色土。パミス・焼土粒を微量含む。
8. 黒褐色土。しまりがやや弱い。パミス・焼土粒を微量含む。袖部。
9. 灰黄褐色土。粘質。しまりが強い。袖部。
10. 暗褐色土。灰をやや多量含む。
11. 暗褐色土。粘質。上面付近は被熱で硬化。焼土ブロックをやや多量含む。
12. 掘り方埋め土。
13. 2号住居埋没土。



竈掘り方



下増田常木遺跡



3号住居出土遺物

3号住居遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	土師器 杯	+6~10、 竈袖内	口径 14.7 底径 - 器高 3.6	①細砂、粗砂、軽石、 礫 ②良好 ③橙5YR6/8	外面 口縁部横撫で、底部篋削り。 内面 口縁部~底部上半横撫で、底部下半撫で。	ほぼ完形。
2	土師器 杯	埋没土	口径 (13.5) 底径 - 器高 3.5	①粗砂、白色鈹物、 石英 ②普通 ③橙5YR6/6	外面 口縁部横撫で、底部篋削り。 内面 口縁部横撫で、底部撫で。	1/2残。
3	土師器 杯	+6、 埋没土	口径 (12.9) 底径 - 器高 3.0+	①細砂、粗砂 ②普通 ③褐7.5YR4/6	外面 口縁部横撫で、体部篋削り後撫で、底部篋削り。 内面 口縁部横撫で、底部撫で。	口縁~底部上 半1/4残。
4	土師器 杯	+22	口径 (14.6) 底径 - 器高 3.1+	①粗砂、白色鈹物、 石英 ②普通 ③明赤褐5YR4/6	外面 口縁部横撫で、底部篋削り。 内面 口縁部横撫で、底部撫で。	口縁~底部上 半1/4残。
5	須恵器 杯	+32	口径 - 底径 7.3 器高 2.6+	①粗砂、礫、白色鈹物、 石英 ②還元焰 ③灰白2.5Y7/1	外面 体部轆轤整形、体部最下位右方向回転篋削り、底 部左回転篋削り。 内面 轆轤整形。	体部下半~底 部残。

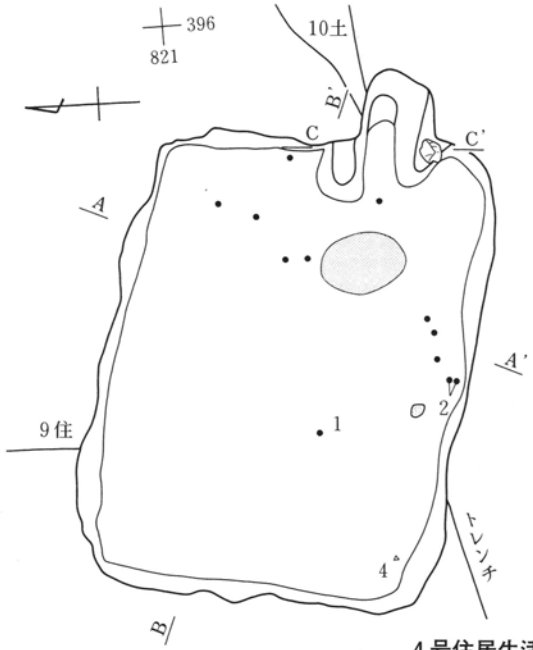
4号住居(PL. 82・83・98)

**位置** 815・820-395・400 **重複** セクションにより9号住居→4号住居、15号土坑→4号住居、プラン確認により4号住居→10号土坑 **形状** 隅丸長方形、東壁は竈の北と南でラインが異なる。南側の上端はトレンチで破壊される。 **規模** 3.76×2.87m **面積** 8.9㎡ **方位** 6° **床面** 確認面より22cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。竈付近に焼土が分布する。 **壁溝** 確認できなかった。 **竈** 壁外に張り出す楕円状の掘り方を、黄褐色土と黒褐色土で埋め戻して

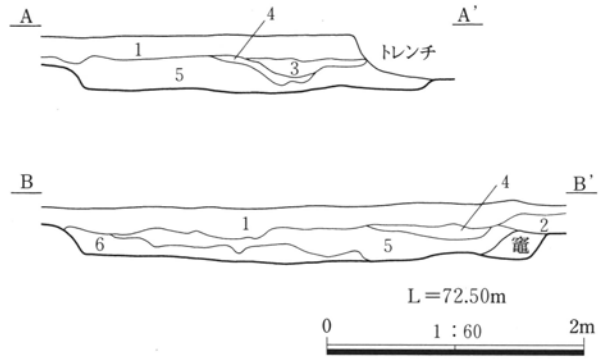
形状を整える。袖は粘質土で構築し、上端の長さが北67cm、南49cm残存する。南袖内ではピット内に河床礫を据えて芯材とする。 焼土部は長さ75cm、幅25cmで壁付近に位置し、外部に向かって約5°の傾斜をもつ。 焚き口付近の底面は灰が確認され、外部寄りの底面は被熱により一部赤化する。 **貯蔵穴** 確認できなかった。 **柱穴** 確認できなかった。 **遺物** 東寄りに散在する。須恵器杯、土師器甕・台付甕、鉄滓が出土した。また、竈掘り方より土師器甕の破片が出土した。 **所見** 出土遺物より9世紀と考えられる。



1. 住居

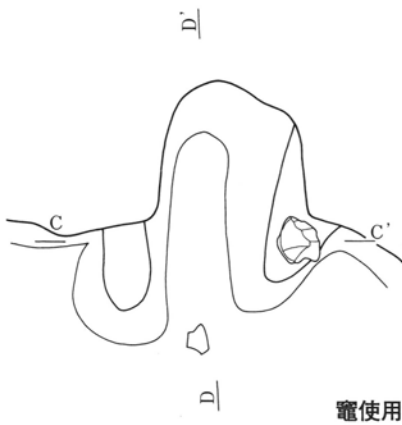


4号住居生活面

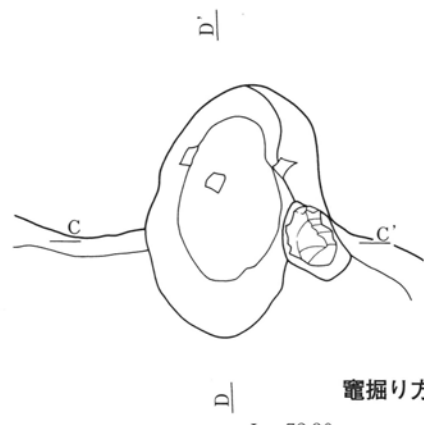
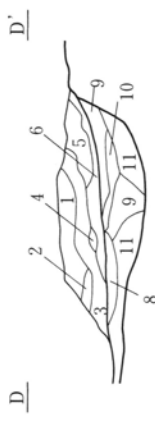


4号住居

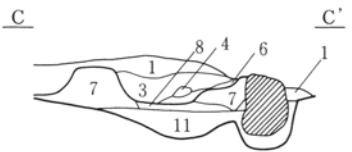
1. 黒褐色土。粒子が細かい。径2mm程のパミスを少量含む。
2. 黒褐色土。粒子が粗い。径2mm程のパミスを少量含む。
3. 黒褐色土。炭粒を微量含む。
4. 黒褐色土。粒子が粗い。炭粒・焼土粒を微量含む。
5. 黒褐色土。褐色砂質土ブロックを少量、径1mm程のパミスを微量含む。
6. 黒褐色土。



竈使用面



竈掘り方

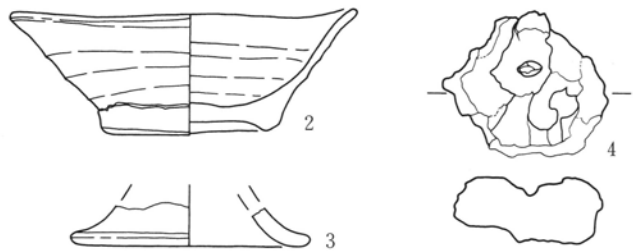
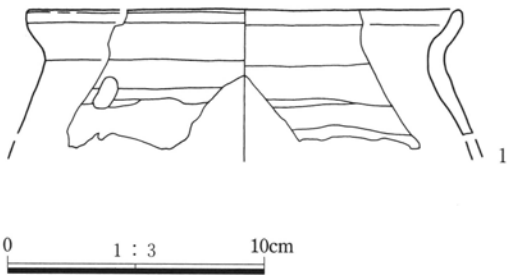


L=72.30m  
0 1:30 1m

4号住居竈

1. 灰黄褐色土。粒子が細かい。焼土ブロック・粒を微量含む。
2. 暗灰黄色土。粘質。
3. 灰黄褐色土。黄褐色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。

5. 暗灰黄色土。粘質。焼土ブロックを少量、径3mm程の炭化材を微量含む。
6. 黄褐色土。粘質。しまりが強い。下面に炭粒・焼土粒を少量含む。崩落した竈構築土。
7. 暗灰黄色土。粘質。しまりが強い。袖部。
8. 黒褐色土。灰・炭化材を少量含む。
9. 赤褐色土。黄色のシルト質土中に被熱で硬化した赤色土ブロックをやや多量含む。
10. 鈍い黄褐色土。焼土ブロックを少量含む。
11. 黒褐色土。灰を少量、焼土粒を微量含む。



4号住居出土遺物

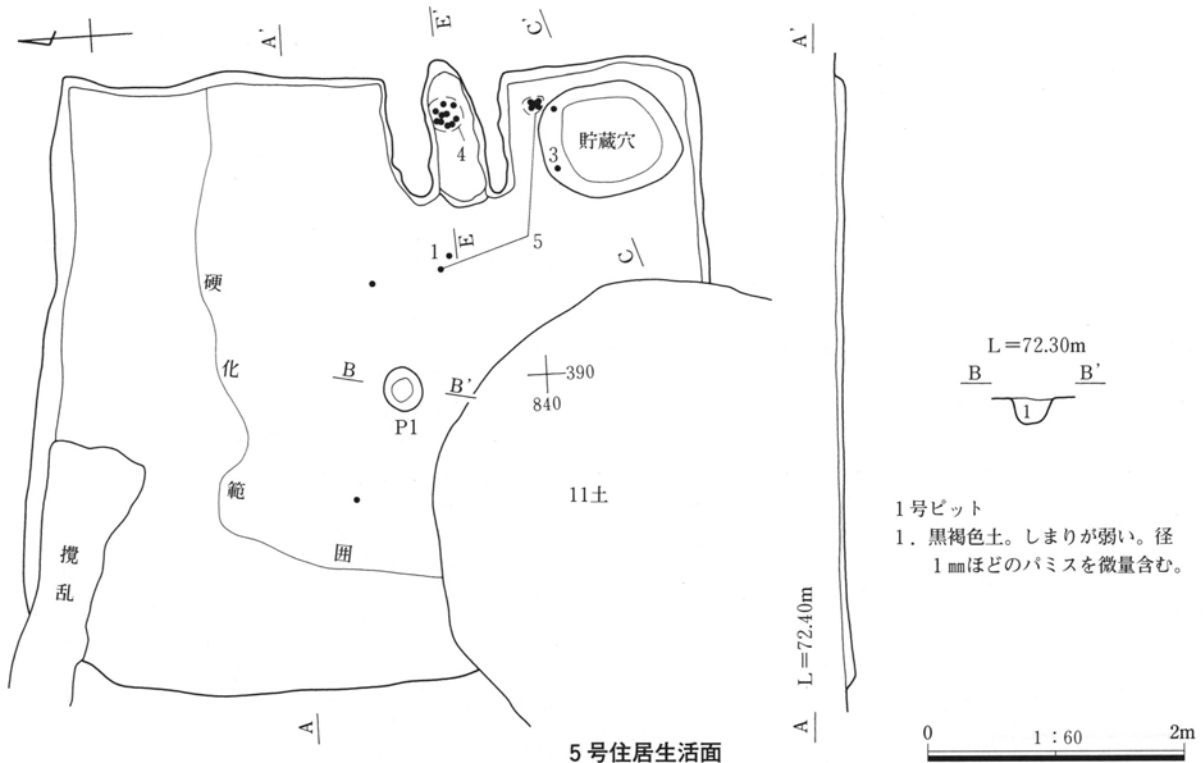
4号住居遺物観察表

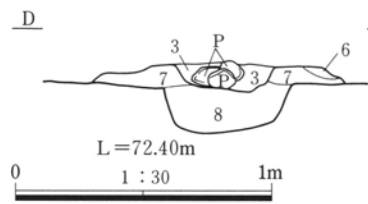
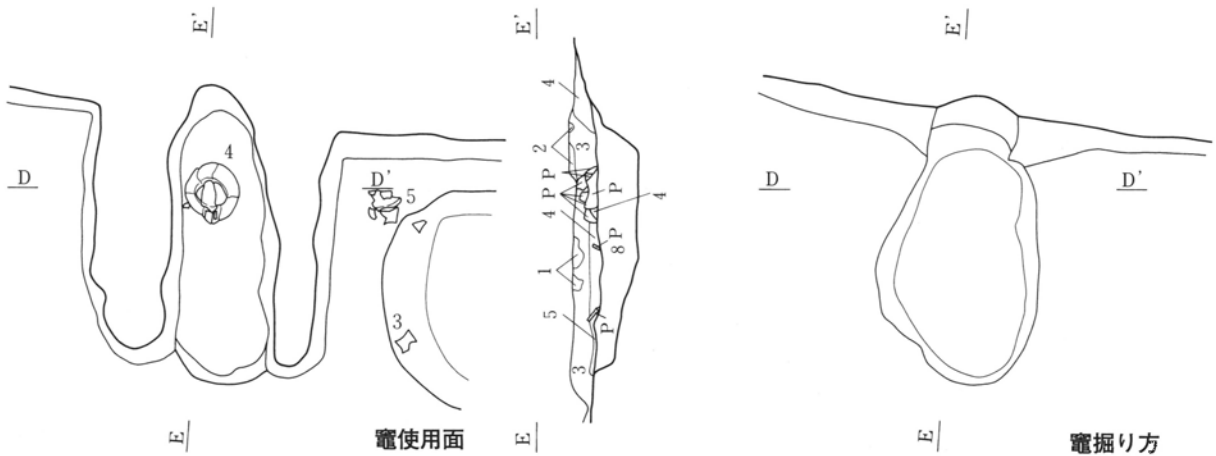
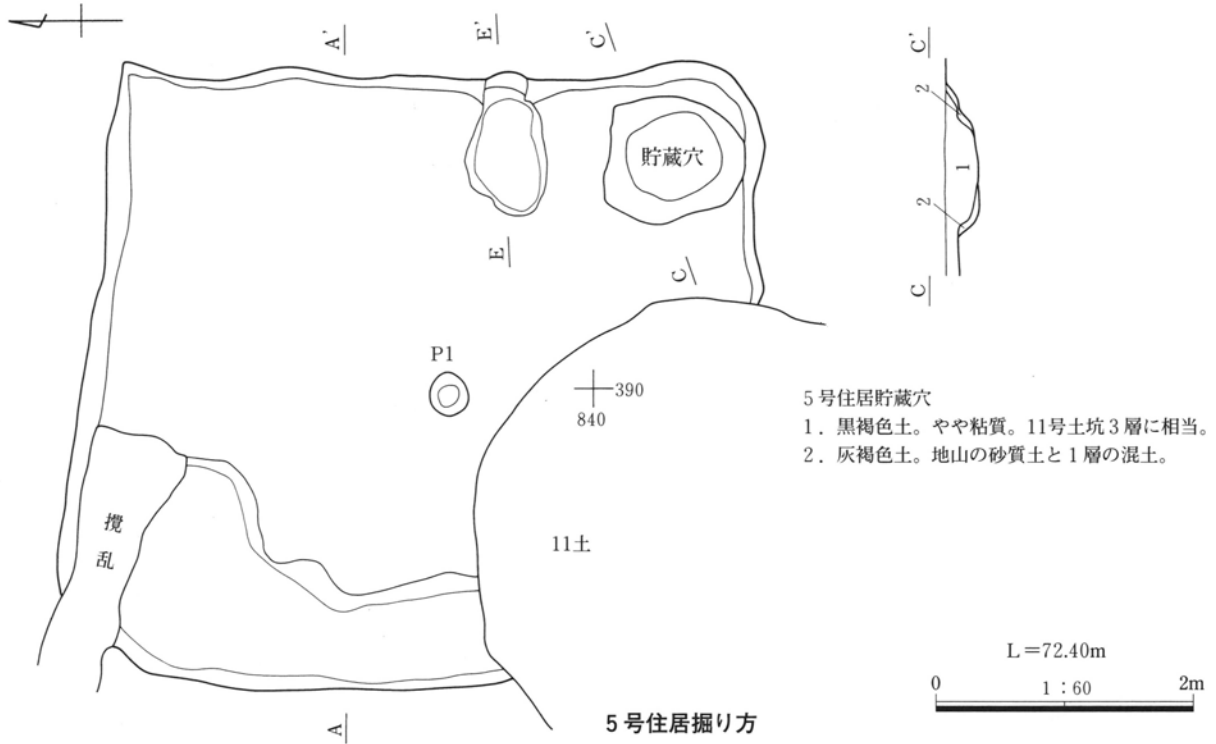
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	土師器 甕	+31	口径 (17.0) 底径 - 器高 5.5+	①粗砂、白色鉱物 ②普通 ③褐7.5YR4/6	口縁が内湾しながら受け口状に立ち上がる。 外面 胴部左方向斡削り後口縁～胴部最上位横撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部横方向撫で。	口縁部～胴部 最上位1/8残。
2	須恵器 椀	+5	口径 (13.6) 底径 7.0 器高 5.1	①粗砂、礫 ②酸化焰気味 ③鈍い黄橙10YR6/4	外面 体部轆轤整形、底部右回転糸切り未調整、高台両 縁貼付時の雑な回転撫で。 内面 轆轤整形。	口縁部～体部 1/2欠。
3	土師器 台付甕	竈埋没土、 9住埋没 土、遺構外	口径 - 底径 (9.4) 器高 1.5+	①粗砂 ②普通 ③橙5YR6/6	外面 横撫で。 内面 横撫で。	台部下半1/2 残。
4	鉄腕形滓	+1	長さ 5.8+ 重量 101.5	幅 6.5 厚さ 2.7	底面・側面に砂付着。	一部欠。

5号住居(PL. 83・95・98)

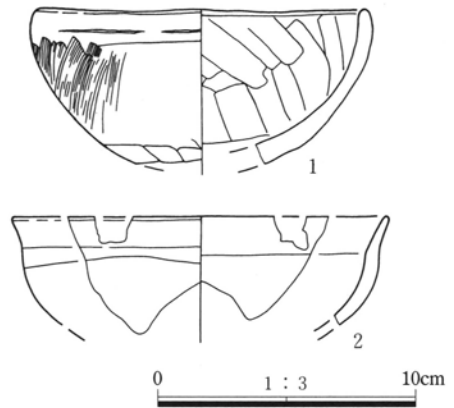
**位置** 835・840-385・390 **重複** セクションにより5号住居→11号土坑 **形状** 方形、南西は11号土坑に切られ、西壁は確認面と床面との差がない。**規模** 4.95×5.13m **面積** 18.0+m<sup>2</sup> **方位** 2° **床面** 確認面より8cm下で床面となる。西壁沿いに深さ約10cm、全体に5cm前後の掘り方を設ける。硬化範囲内は概して掘り方が浅く黄褐色、範囲外は黒褐色を呈す。**壁溝** 確認できなかった。**竈** 東壁南寄りに設置する。上端が一部壁外にのびる楕円状の掘り形を設け、粘質土で形状を整える。袖は粘質土で構築し、上端の長さが北94cm、南93cm残存する。燃焼

部は長さ105cm、幅31cm、深さ3cmで壁内に位置し、内壁は被熱により赤化する。壁寄りに裾部を欠いた高杯が逆位で出土し、支脚として利用されていたと思われる。**貯蔵穴** 南東隅に設ける。110×88×16cmの南北に長い楕円形で、貼り土等を施さず掘り上げたまま使用する。埋没土は11号土坑と共通する。**柱穴** 中央付近に35×29×20cmのピットを1基検出した。1号掘立柱建物に伴う可能性も考えられる。**遺物** 竈の周辺に散在する。土師器高杯・杯・甕のほか、古墳時代前期の台付甕が出土した。**所見** 出土遺物より5世紀後葉～6世紀前葉と考えられる。

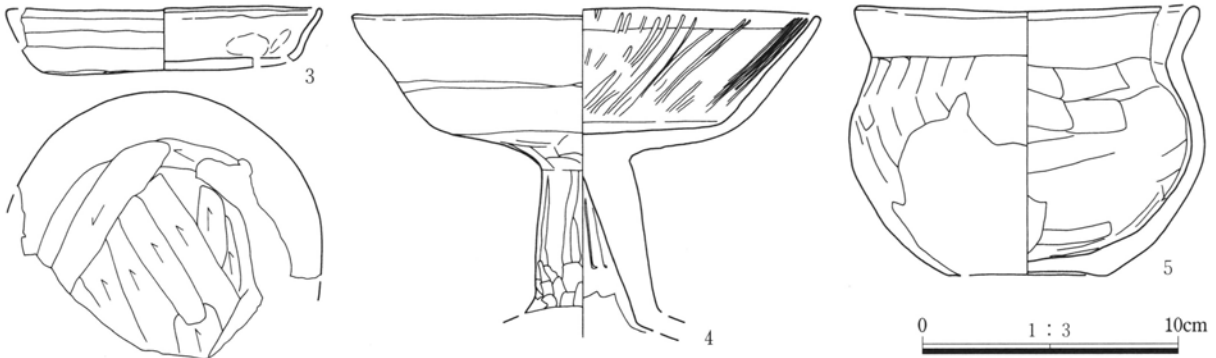




- 5号住居竈
1. 灰黄褐色土。粘質。粒子が細かい。
  2. 鈍い黄褐色土。粘質。焼土粒を少量含む。
  3. 黄褐色土。粘質。シルト質。下面を中心に焼土ブロックを少量含む。
  4. 黄褐色土。粘質。シルト質。焼土粒を少量含む。
  5. 黒褐色土。焼土・灰を少量含む。
  6. 黒褐色土。焼土粒を微量含む。袖部。
  7. 暗灰黄色土。粘質。シルト質。袖部。内面は被熱で焼土化。
  8. 暗オリーブ褐色土。粘質。上面は被熱で焼土化。



5号住居出土遺物



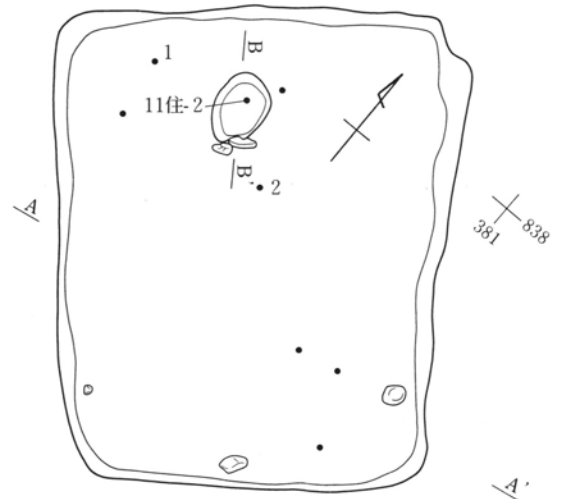
5号住居出土遺物

5号住居遺物観察表

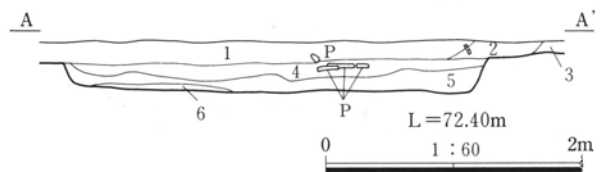
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	土師器 杯	+3	口径 (12.9) 底径 - 器高 6.2+	①細砂、白色・黒色 鈳物 ②普通 ③橙7.5YR6/6	外面 体部撫で後口縁部横撫で後体部刷毛目、底部右方 向斲削り。 内面 左上方向撫で後口縁部横撫で。	1/4残。
2	土師器 杯	床面直上	口径 (14.7) 底径 - 器高 4.3+	①細砂 ②良好 ③明赤褐2.5YR5/6	外面 口縁部横撫で。体部撫で。 内面 口縁部横撫で、体部横方向撫で。	口縁部～体部 上位1/4残。
3	土師器 杯	貯蔵穴一 6、 835-395	口径 (12.4) 底径 (9.8) 器高 2.6+	①細砂、白色鈳物 ②普通 ③鈍い褐7.5YR5/4	口縁端部が強く内湾。 外面 体部撫で後口縁部横撫で、底部斲削り。 内面 口縁～体部横撫で、指頭痕あり。底部撫で。	口縁～体部 1/2、底部1/4 欠。
4	土師器 高杯	竈使用面 直上、竈 埋没土	口径 18.5 底径 - 器高 12.6+	①細砂、粗砂、礫 ②良好 ③橙5YR6/8	外面 口縁部横撫で、杯体部下半横撫で、杯底部不定方 向指撫で、脚部縦方向撫で、脚屈折部付近不定方向撫で。 内面 口縁部横撫で、杯体部横方向撫で後放射状斲磨き、 杯底部撫で、脚部斲による紋り込み。	脚部欠。
5	土師器 甕	床面直上 ～+3、 埋没土	口径 13.6 底径 6.2 器高 10.6	①粗砂、礫、石英、 白色鈳物 ②普通 ③明赤褐5YR5/8	外面 口縁部横撫で、胴部縦方向斲削り後撫で、底部斲 削り後撫で。 内面 口縁部横撫で、胴～底部斲撫で。	1/2欠。

6号住居(PL. 84・98)

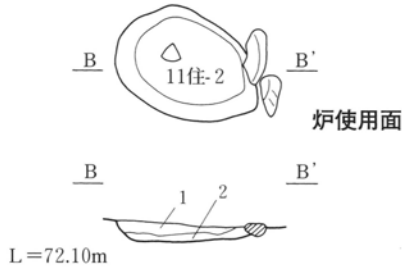
**位置** 830・835-380 **重複** 6号住居→1号土器集積、土器集積は6号住居確認面より上位で検出。  
**形状** 隅丸長方形 **規模** 3.82×3.28m **面積** 9.9m<sup>2</sup> **方位** -36° **埋没土** 住居内堆積(4～6層)が削られて1～3層が堆積。確認面は1層下面。  
**床面** 確認面より34cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。南壁中央と、東壁南東隅付近に扁平な礫を据え置く。  
**壁溝** 確認できなかった。 **炉** 主軸付近の北壁寄りに設置する。60×42×7cmの地床炉で、灰層を検出した。炉石として、南の縁に細長の礫を据える。  
**貯蔵穴** 確認できなかった。 **柱穴** 確認できなかった。 **遺物** 土師器甕、土師器の様相をもつ片口が出土した。炉より出土の土師器壺破片は11号住居出土遺物と接合。 **所見** 出土遺物及び住居形態より弥生時代後期～古墳時代前期前葉と考えられる。



6号住居生活面



1. 住居

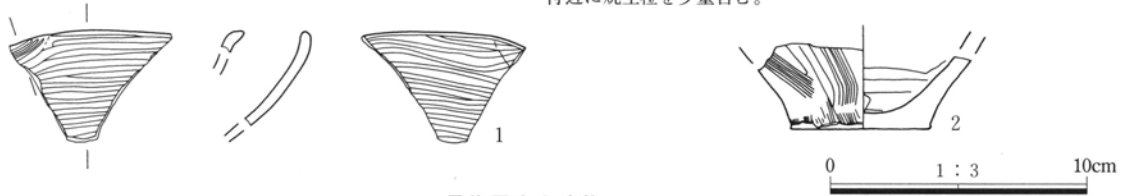


6号住居

1. 黒褐色土。径1mm程のパミスを少量含む。
2. 黒褐色土。
3. 暗褐色土。
4. 暗褐色土。やや粘質。しまりが強い。炭粒を不均等に少量含む。
5. 暗褐色土。やや粘質。しまりが強い。径5~20mmほどの炭粒をやや多量含む。
6. 暗褐色土。地山の砂質土をやや多量、炭粒を少量含む。

6号住居炉

1. 黒褐色土。シルト質。微細な炭粒をやや多量含む。
2. 黒褐色土。砂質土の多いシルト質土。灰・炭化物を多量、上面付近に焼土粒を少量含む。



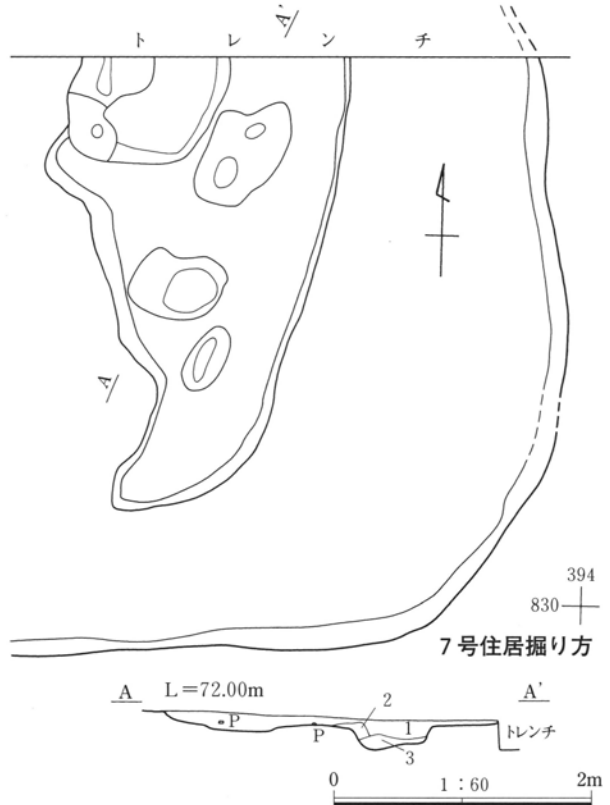
6号住居出土遺物

6号住居遺物観察表

番号	種類 器種	出土位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	弥生土器 片口	+12	口径 — 底径 — 器高 3.7+	①粗砂、白色鉱物、 石英 ②普通 ③褐7.5YR4/4	外面 口縁部横撫で後横方向密な篋磨き。 内面 口縁部横撫で後横方向密な篋磨き、赤採。	口縁~胴部破片。赤採。
2	土師器 甕	+9	口径 — 底径 5.6 器高 3.4+	①礫、粗砂、白色鉱物 ②普通 ③鈍い褐7.5YR5/4	外面 胴部上方向刷毛目、底部篋削り後撫で。 内面 篋撫で。	胴部最下位~ 底部残。

7号住居(PL. 84・85・98~102)

**位置** 825~835・390~400 **重複** なし。**形状** 隅丸方形、東壁が外方に膨らみ、北東隅が弧を描く。  
**規模** 7.66×8.25m **面積** (51.7) m<sup>2</sup> **方位** -9°  
**床面** 確認面より39cm下で床面となる。掘り方に粘質土で貼床を施すほかは、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。砂質で硬化部分はない。西壁から東壁に向かって10cmほど低くなる。**壁溝** 確認できなかった。**炉** 中央やや東寄りに設置する。北半をトレンチで破壊されるが、残存部は長さ67cmで、深さ5cmほどの掘り方に黒色土を充填して炉面とし、炉石として南の縁に細長の礫を2石据える。炉石に被熱痕はなく、焼土や灰は検出されなかった。  
**貯蔵穴** 確認できなかった。**柱穴** 確認できなかった。**掘り方** 中央東寄りの炉を含む位置に、南北に長い掘り方を設ける。深さは10cm前後だが、一部がピット状に深くなる。**遺物** 土師器甕・壺・鉢・高杯・器台、11号住居と接合する弥生土器甕破片、カナグムラ文の壺破片などが出土した。**所見** 出土遺物より古墳時代前期中葉と考えられる。



7号住居掘り方

1. 灰黄褐色土。砂質土と粘質土の混土。パミスを不均等に微量含む。
2. 暗灰黄色土。砂質。パミスを不均等に微量含む。
3. 黒褐色土。やや粘質。パミスを不均等に微量含む。